2025年度
教職・資格（市ヶ谷）
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧 ［発行日：2025/5/1］最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

凡例　その他属性

〈他〉：他学部公開科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目
〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs
〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ
〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル
〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室

教職科目【C6000】教職入門［天野　一哉］春学期授業/Spring …… 1
教職科目【C6001】教職入門［寺崎　里水］春学期授業/Spring …… 3
教職科目【C6002】教職入門［吉田　直子］秋学期授業/Fall …… 4
教職科目【C6003】教職入門［猪股　大輝］秋学期授業/Fall …… 6
教職科目【C6004】教育原理［天野　一哉］秋学期授業/Fall …… 8
教職科目【C6005】教育原理［筒井　美紀］秋学期授業/Fall …… 10
教職科目【C6006】教育原理［飯窪　真也］春学期授業/Spring …… 12
教職科目【C6007】教育原理［澤里　翼］春学期授業/Spring …… 14
教職科目【C6008】教育の制度・経営［植竹　丘］春学期授業/Spring …… 16
教職科目【C6009】教育の制度・経営［仲田　康一］春学期授業/Spring …… 17
教職科目【C6010】教育の制度・経営［小池　由美子］秋学期授業/Fall …… 18
教職科目【C6011】教育の制度・経営［植竹　丘］秋学期授業/Fall …… 19
教職科目【C6012】教育心理学［田澤　実］秋学期授業/Fall …… 20
教職科目【C6013】教育心理学［輕部　雄輝］春学期授業/Spring …… 21
教職科目【C6014】教育心理学［児玉　茉奈美］秋学期授業/Fall …… 22
教職科目【C6015】教育心理学［山上　真貴子］春学期授業/Spring …… 23
教職科目【C6016】教育心理学［遠藤　裕子］春学期授業/Spring …… 24
教職科目【C6017】教育心理学［児玉　茉奈美］秋学期授業/Fall …… 26
教職科目【C6018】教育課程論［飯窪　真也］秋学期授業/Fall …… 27
教職科目【C6019】教育課程論［川津　貴司］春学期授業/Spring …… 28
教職科目【C6020】教育課程論［飯窪　真也］春学期授業/Spring …… 29
教職科目【C6021】教育課程論［黄　郁倫］秋学期授業/Fall …… 30
教職科目【C6022】教育課程論［飯窪　真也］秋学期授業/Fall …… 31
教職科目【C6023】教育方法論（ICT活用を含む）［岩本　俊一］春学期授業/Spring …… 32
教職科目【C6024】教育方法論（ICT活用を含む）［松尾　知明］春学期授業/Spring …… 33
教職科目【C6025】教育方法論（ICT活用を含む）［黄　郁倫］春学期授業/Spring …… 34
教職科目【C6026】教育方法論（ICT活用を含む）［川津　貴司］秋学期授業/Fall …… 35
教職科目【C6027】教育方法論（ICT活用を含む）［黄　郁倫］秋学期授業/Fall …… 36
教職科目【C6028】教育相談［田澤　実］春学期授業/Spring …… 37
教職科目【C6029】教育相談［土屋　弥生］秋学期授業/Fall …… 38
教職科目【C6030】教育相談［児玉　茉奈美］秋学期授業/Fall …… 40
教職科目【C6031】教育相談［山上　真貴子］秋学期授業/Fall …… 41
教職科目【C6032】教育相談［遠藤　裕子］秋学期授業/Fall …… 42
教職科目【C6033】教育相談［土屋　弥生］春学期授業/Spring …… 44
教職科目【C6034】道徳教育指導論［土屋　創］春学期授業/Spring …… 46
教職科目【C6035】道徳教育指導論［田口　賢太郎］春学期授業/Spring …… 48
教職科目【C6036】道徳教育指導論［高原　史朗］秋学期授業/Fall …… 50
教職科目【C6037】道徳教育指導論［田口　賢太郎］秋学期授業/Fall …… 52
教職科目【C6038】特別活動論［中村　岳夫］春学期授業/Spring …… 54
教職科目【C6039】特別活動論［中村　岳夫］春学期授業/Spring …… 55
教職科目【C6040】特別活動論［吉田　直子］春学期授業/Spring …… 56
教職科目【C6041】特別活動論［中村　岳夫］秋学期授業/Fall …… 58
教職科目【C6042】特別活動論［森本　扶］秋学期授業/Fall …… 59
教職科目【C6043】生徒・進路指導論［岩本　俊一］春学期授業/Spring …… 60

教職科目【C6044】生徒・進路指導論［渡部　忠治］春学期授業/Spring 61
教職科目【C6045】生徒・進路指導論［渡部　忠治］秋学期授業/Fall 62
教職科目【C6046】生徒・進路指導論［児美川　孝一郎］秋学期授業/Fall 63
教職科目【C6048】特別な教育的ニーズの理解と支援［遠藤　野ゆり］春学期授業/Spring 64
教職科目【C6049】特別な教育的ニーズの理解と支援［村山 拓］春学期授業/Spring 66
教職科目【C6050】特別な教育的ニーズの理解と支援［村山 拓］秋学期授業/Fall 68
教職科目【C6051】特別な教育的ニーズの理解と支援［村山 拓］秋学期授業/Fall 70
教職科目【C6052】総合的な学習の時間の指導法［窪　和広］春学期授業/Spring 72
教職科目【C6053】総合的な学習の時間の指導法［中澤　純一］春学期授業/Spring 74
教職科目【C6054】総合的な学習の時間の指導法［窪　和広］秋学期授業/Fall 76
教職科目【C6055】総合的な学習の時間の指導法［中澤　純一］秋学期授業/Fall 78
教職科目【C6056】社会・地歴科教育法［宮嶋　祐一］年間授業/Yearly 80
教職科目【C6057】社会・地歴科教育法（1）［宮嶋　祐一］春学期授業/Spring 82
教職科目【C6058】社会・地歴科教育法（2）［宮嶋　祐一］秋学期授業/Fall 83
教職科目【C6059】社会・地歴科教育法［宮嶋　祐一］年間授業/Yearly 84
教職科目【C6060】社会・地歴科教育法（1）［宮嶋　祐一］春学期授業/Spring 86
教職科目【C6061】社会・地歴科教育法（2）［宮嶋　祐一］秋学期授業/Fall 87
教職科目【C6062】社会・地歴科教育法［扶川　聡］年間授業/Yearly 88
教職科目【C6063】社会・地歴科教育法（1）［扶川　聡］春学期授業/Spring 90
教職科目【C6064】社会・地歴科教育法（2）［扶川　聡］秋学期授業/Fall 91
教職科目【C6065】社会・地歴科教育法［扶川　聡］年間授業/Yearly 92
教職科目【C6066】社会・地歴科教育法（1）［扶川　聡］春学期授業/Spring 94
教職科目【C6067】社会・地歴科教育法（2）［扶川　聡］秋学期授業/Fall 95
教職科目【C6068】社会・地歴科教育法［宮嶋　祐一］年間授業/Yearly 96
教職科目【C6069】社会・地歴科教育法（1）［宮嶋　祐一］春学期授業/Spring 98
教職科目【C6070】社会・地歴科教育法（2）［宮嶋　祐一］秋学期授業/Fall 99
教職科目【C6071】社会・地歴科教育法［宮嶋　祐一］年間授業/Yearly 100
教職科目【C6072】社会・地歴科教育法（1）［宮嶋　祐一］春学期授業/Spring 102
教職科目【C6073】社会・地歴科教育法（2）［宮嶋　祐一］秋学期授業/Fall 103
教職科目【C6074】社会・公民科教育法［吉田　俊弘］年間授業/Yearly 104
教職科目【C6075】社会・公民科教育法（1）［吉田　俊弘］春学期授業/Spring 106
教職科目【C6076】社会・公民科教育法（2）［吉田　俊弘］秋学期授業/Fall 107
教職科目【C6077】社会・公民科教育法［吉田　俊弘］年間授業/Yearly 108
教職科目【C6078】社会・公民科教育法（1）［吉田　俊弘］春学期授業/Spring 110
教職科目【C6079】社会・公民科教育法（2）［吉田　俊弘］秋学期授業/Fall 111
教職科目【C6080】社会・公民科教育法［中澤　純一］年間授業/Yearly 112
教職科目【C6081】社会・公民科教育法（1）［中澤　純一］春学期授業/Spring 114
教職科目【C6082】社会・公民科教育法（2）［中澤　純一］秋学期授業/Fall 116
教職科目【C6083】社会・公民科教育法［中澤　純一］年間授業/Yearly 118
教職科目【C6084】社会・公民科教育法（1）［中澤　純一］春学期授業/Spring 120
教職科目【C6085】社会・公民科教育法（2）［中澤　純一］秋学期授業/Fall 122
教職科目【C6086】社会・公民科教育法［糀谷　陽子］年間授業/Yearly 124
教職科目【C6087】社会・公民科教育法（1）［糀谷　陽子］春学期授業/Spring 126
教職科目【C6088】社会・公民科教育法（2）［糀谷　陽子］秋学期授業/Fall 128
教職科目【C6089】社会・公民科教育法［糀谷　陽子］年間授業/Yearly 130
教職科目【C6090】社会・公民科教育法（1）［糀谷　陽子］春学期授業/Spring 132
教職科目【C6091】社会・公民科教育法（2）［糀谷　陽子］秋学期授業/Fall 134
教職科目【C6092】商業科教育法［木村　良成］年間授業/Yearly 136
教職科目【C6093】商業科教育法Ⅰ［木村　良成］春学期授業/Spring 138
教職科目【C6094】商業科教育法Ⅱ［木村　良成］秋学期授業/Fall 139
教職科目【C6095】英語科教育法Ⅰ［望月　尚子］春学期集中/Intensive(Spring) 141
教職科目【C6096】英語科教育法（1）［望月　尚子］春学期授業/Spring 143
教職科目【C6097】英語科教育法（2）［望月　尚子］春学期授業/Spring 145
教職科目【C6098】英語科教育法Ⅰ［望月　尚子］春学期集中/Intensive(Spring) 147
教職科目【C6099】英語科教育法（1）［望月　尚子］春学期授業/Spring 149
教職科目【C6100】英語科教育法（2）［望月　尚子］春学期授業/Spring 151
教職科目【C6101】英語科教育法Ⅱ［飯野　厚］年間授業/Yearly 153

教職科目【C6102】英語科教育法（3）［飯野　厚］春学期授業/Spring 155
教職科目【C6103】英語科教育法（4）［飯野　厚］秋学期授業/Fall 156
教職科目【C6104】英語科教育法Ⅱ［飯野　厚］年間授業/Yearly 157
教職科目【C6105】英語科教育法（3）［飯野　厚］春学期授業/Spring 159
教職科目【C6106】英語科教育法（4）［飯野　厚］秋学期授業/Fall 160
教職科目【C6108】中国語科教育法（1）［渡辺　昭太］春学期授業/Spring 161
教職科目【C6109】中国語科教育法（2）［渡辺　昭太］春学期授業/Spring 163
教職科目【C6111】中国語科教育法（3）［渡辺　昭太］秋学期授業/Fall 165
教職科目【C6112】中国語科教育法（4）［渡辺　昭太］秋学期授業/Fall 167
教職科目【C6115】教育実習（事前指導）［沖濱　真治］春学期授業/Spring 169
教職科目【C6116】教育実習（事前指導）［沖濱　真治］秋学期授業/Fall 171
教職科目【C6117】教育実習（事前指導）［丸山　義昭］秋学期授業/Fall 173
教職科目【C6118】教育実習（事前指導）［松尾　知明］秋学期授業/Fall 175
教職科目【C6119】教育実習（事前指導）［寺崎　里水］秋学期授業/Fall 176
教職科目【C6120】教育実習（事前指導）［仲田　康一］秋学期授業/Fall 177
教職科目【C6121】教育実習（事前指導）［遠藤　野ゆり］秋学期授業/Fall 178
教職科目【C6123】教育実習（事前指導）［宮坂　健介］春学期授業/Spring 180
教職科目【C6124】教職実践演習［沖濱　真治］秋学期授業/Fall 181
教職科目【C6125】教職実践演習［沖濱　真治］秋学期授業/Fall 183
教職科目【C6126】教職実践演習［丸山　義昭］秋学期授業/Fall 185
教職科目【C6127】教職実践演習［松尾　知明］秋学期授業/Fall 187
教職科目【C6128】教職実践演習［寺崎　里水］秋学期授業/Fall 188
教職科目【C6129】教職実践演習［仲田　康一］秋学期授業/Fall 189
教職科目【C6130】教職実践演習［遠藤　野ゆり］秋学期授業/Fall 191
教職科目【C6131】教育実習（高）［教育実習担当教員※］年間授業/Yearly 193
教職科目【C6132】教育実習（中・高）［教育実習担当教員※］年間授業/Yearly 194
教職科目【C6133】人文地理学Ⅰ［佐々木　達］春学期授業/Spring 195
教職科目【C6134】人文地理学Ⅱ［村田　陽平］秋学期授業/Fall 196
教職科目【C6135】自然地理学Ⅰ［狩野　真規］春学期授業/Spring 197
教職科目【C6136】自然地理学Ⅱ［狩野　真規］秋学期授業/Fall 199
教職科目【C6137】地誌Ⅰ［山口　隆子］秋学期授業/Fall 201
教職科目【C6138】地誌Ⅰ［南　春英］春学期授業/Spring 202
教職科目【C6140】地誌Ⅱ［南　春英］秋学期授業/Fall 203
資格関係科目【C6701】図書館サービス概論［栗原　智久］春学期授業/Spring 204
資格関係科目【C6702】情報サービス演習［田中　順子］年間授業/Yearly 205
資格関係科目【C6703】情報サービス演習［田中　順子］年間授業/Yearly 206
資格関係科目【C6704】情報サービス演習［菅原　真悟］年間授業/Yearly 207
資格関係科目【C6705】図書館情報資源概論［小黒　浩司］春学期授業/Spring 208
資格関係科目【C6706】図書館情報資源概論［村上　郷子］春学期授業/Spring 209
資格関係科目【C6707】図書館情報資源概論［村上　郷子］春学期授業/Spring 210
資格関係科目【C6708】図書館情報資源特論［小黒　浩司］秋学期授業/Fall 211
資格関係科目【C6709】図書館情報資源特論［村上　郷子］秋学期授業/Fall 212
資格関係科目【C6710】図書館情報資源特論［村上　郷子］秋学期授業/Fall 214
資格関係科目【C6711】図書館演習［坂本　旬］年間授業/Yearly 216
資格関係科目【C6712】図書館演習［村上　郷子］年間授業/Yearly 218
資格関係科目【C6713】図書館演習［竹之内　禎］年間授業/Yearly 220
資格関係科目【C6714】読書と豊かな人間性［田中　順子］秋学期授業/Fall 222
資格関係科目【C6715】情報メディアの活用［村上　郷子］秋学期授業/Fall 223
資格関係科目【C6716】情報メディアの活用［坂本　旬］秋学期授業/Fall 224
資格関係科目【C6717】社会教育演習［久井　英輔］年間授業/Yearly 225
資格関係科目【C6718】社会教育経営論Ⅰ［久井　英輔］春学期授業/Spring 227
資格関係科目【C6719】社会教育経営論Ⅱ［井上　伸良］秋学期授業/Fall 229
資格関係科目【C6720】生涯学習支援論Ⅰ［松橋　義樹］春学期授業/Spring 231
資格関係科目【C6721】生涯学習支援論Ⅱ［久井　英輔］秋学期授業/Fall 233
資格関係科目【C6722】社会教育特講Ⅰ［上野　昌之］春学期授業/Spring 235
資格関係科目【C6723】社会教育特講Ⅱ［大木　由以］秋学期授業/Fall 237
資格関係科目【C6724】博物館概論［森屋　雅幸］春学期授業/Spring 238

資格関係科目【C6725】博物館経営論［森屋　雅幸］春学期授業/Spring 239
資格関係科目【C6726】博物館経営論［杉長　敬治］秋学期授業/Fall 240
資格関係科目【C6727】博物館資料論［森屋　雅幸］秋学期授業/Fall 242
資格関係科目【C6728】博物館教育論［渡邊　祐子］春学期授業/Spring 243
資格関係科目【C6729】博物館教育論［荒川　裕子］秋学期授業/Fall 245
資格関係科目【C6730】生涯学習概論Ⅰ［久井　英輔］春学期授業/Spring 246
資格関係科目【C6731】生涯学習概論Ⅰ［久井　英輔］春学期授業/Spring 248
資格関係科目【C6732】生涯学習概論Ⅱ［杉山　昂平］秋学期授業/Fall 250
資格関係科目【C6733】生涯学習概論Ⅱ［杉山　昂平］秋学期授業/Fall 251
資格関係科目【C6734】図書館情報学概論Ⅰ［原田　隆史］春学期授業/Spring 252
資格関係科目【C6735】図書館情報学概論Ⅰ［村上　郷子］春学期授業/Spring 254
資格関係科目【C6736】図書館情報学概論Ⅱ［原田　隆史］秋学期授業/Fall 255
資格関係科目【C6737】図書館情報学概論Ⅱ［竹之内　明子］秋学期授業/Fall 257
資格関係科目【C6738】図書館情報学概論Ⅱ［菅原　真悟］秋学期授業/Fall 259
資格関係科目【C6739】図書館情報学概論Ⅱ［竹之内　明子］春学期授業/Spring 260
資格関係科目【C6740】図書館制度・経営論［竹之内　明子］秋学期授業/Fall 262
資格関係科目【C6741】児童サービス論［田中　順子］秋学期授業/Fall 263
資格関係科目【C6742】情報サービス論（2013年度より開設）［田中　順子］春学期授業/Spring 264
資格関係科目【C6743】情報資源組織論［竹之内　明子］春学期授業/Spring 265
資格関係科目【C6744】情報資源組織演習［竹之内　明子］年間授業/Yearly 266
資格関係科目【C6745】情報資源組織演習［村上　郷子］年間授業/Yearly 268
資格関係科目【C6746】情報資源組織演習［竹之内　明子］年間授業/Yearly 270
資格関係科目【C6747】情報資源組織演習［竹之内　明子］年間授業/Yearly 272
資格関係科目【C6748】学校図書館メディアの構成［村上　郷子］秋学期授業/Fall 274
資格関係科目【C6749】学校経営と学校図書館［松田　ユリ子］秋学期授業/Fall 275
資格関係科目【C6750】学習指導と学校図書館［松田　ユリ子］秋学期授業/Fall 276
資格関係科目【C6751】社会教育実習［久井　英輔］年間授業/Yearly 277
資格関係科目【C6752】博物館資料保存論［今野　農］春学期授業/Spring 279
資格関係科目【C6753】博物館資料保存論［清水　玲子］秋学期授業/Fall 280
資格関係科目【C6754】博物館展示論［大山　裕］秋学期授業/Fall 281
資格関係科目【C6755】博物館展示論［松丸　裕之］春学期授業/Spring 282
資格関係科目【C6756】博物館情報・メディア論［柏女　弘道］春学期授業/Spring 283
資格関係科目【C6757】博物館情報・メディア論［石川　貴敏］秋学期授業/Fall 284
資格関係科目【C6758】博物館実習Ⅰ［森屋　雅幸］年間授業/Yearly 286
資格関係科目【C6759】博物館実習Ⅰ［森屋　雅幸］年間授業/Yearly 287
資格関係科目【C6760】博物館実習Ⅱ［小西　雅徳］年間授業/Yearly 288
資格関係科目【C6761】博物館実習Ⅱ［杉山　享司］年間授業/Yearly 290
資格関係科目【C6762】博物館実習Ⅲ［森屋　雅幸］年間授業/Yearly 292
資格関係科目【C6763】ミュージアム資料保存論［今野　農］春学期授業/Spring 293
資格関係科目【C6764】ミュージアム資料保存論［清水　玲子］秋学期授業/Fall 294
資格関係科目【C6765】ミュージアム展示論［大山　裕］秋学期授業/Fall 295
資格関係科目【C6766】ミュージアム展示論［松丸　裕之］春学期授業/Spring 296
資格関係科目【C6767】ミュージアム情報・メディア論［柏女　弘道］春学期授業/Spring 297
資格関係科目【C6768】ミュージアム情報・メディア論［石川　貴敏］秋学期授業/Fall 298

教職入門

天野　一哉

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めること、「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の意義を学び、指導のための資質能力を身につけることを目的としている。

具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に教育するという行為への強い気持ちと生涯にわたって学び続けるという自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状、かれらを取り巻く諸問題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を、対話を通して実践的に深めていく。

また教職課程コアカリキュラムに記載されている「各教科の指導法」の目標、内容、指導法、授業設計を理解し、身につける。

【到達目標】

教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学習指導要領で「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」が1つの柱となることから、グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーションを用い、実践的に進めていく。従って下の【授業計画】は、あくまでもモデルケースであり、学生の理解度、対話の進捗によって柔軟に再構築していく。

リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

新型コロナウィイルスの感染状況による変更も含め、授業の課題等、詳細については、「学習支援システム」を通じて告知する。大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	４年間の学びをイメージする
第2回	教師像の構築	教師という職業世界への接近と大学・教職課程
第3回	職業としての教師へのハードル	教員免許・養成制度、教員採用
第4回	職業としての教師としての成長	研修・服務義務
第5回	教育指導の本質と意義	教育の専門家としての教師
第6回	教職の歴史的特質	教職観の変遷と今日の教員の役割
第7回	教職に関する実務①	学校という組織の運営、公務分掌
第8回	教職に関する実務②	教師としてのキャリア
第9回	教育の方法	学習指導要領の位置づけ、能動的な学習への参加
第10回	教師の職務実態①	学級経営、多様化する子供たち
第11回	教師の職務実態②	生徒指導・進路指導
第12回	教職の課題①	子供の貧困、学力格差、力のある学校
第13回	教職の課題②	「チーム学校」への対応、協働と連携、「共生」社会
第14回	教職の方向性	変わる子供の学び・学び続ける教師

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プレゼンテーション、レポートの作成にあたってはテーマに関連した学術的 専門書(教育史を含む)の引用・参照を必須とするので、その選定をおこなう。方法等については授業内で説明する。その他、授業のテー マに合わせて事前に準備学習を指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

高妻 紳二郎、植上 一希、佐藤 仁、寺崎 里水、伊藤 亜希子、藤田 由美子（2023）『新版　教職概論　先生になるということとその学び』協同出版

【参考書】

手島純、天野一哉ほか（2025）『学校教師のやりがいは何？』小鳥遊書房

中学校学習指導要領（平成29年3月公示）、高等学校学習指導要領（平成30年7月）、

生徒指導提要（令和4年12月）　※いずれもPDFでダウンロード可能

【成績評価の方法と基準】

基本的な知識や考え方を理解できること、４年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを総合的に評価する。具体的には、授業中に提示される課題：40％、レポート：60％で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

コミュニケーション等のスキルは、1回、2回では身につかないので、発展的要素を加えながら、各回に実践の場を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

可能であれば、スマートホン、パソコン等の通信端末。

【その他の重要事項】

春学期（本講）・秋学期（教育原理）合わせての履修の推奨する。

授業形態は、基本的には対面を予定しているが、グループワーク等の対話を実施するので、オンラインとすることもある。

【Outline (in English)】

In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession.

We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

In this class, students will consider teaching as one of their future options, and will gain a basic understanding of the significance of the teaching profession, the role of teachers, their qualifications and abilities, and their duties. They will also consider what it means to be a teacher, what they need to learn and acquire in order to do so, and determine their own aptitude and motivation for the teaching profession.

Learning activities outside of classroom

When creating presentations and reports, it is essential to cite academic technical books (including educational history) related to the theme and fieldwork, so we will select them. The method etc. will be explained in the class. In addition, instruct preparatory learning in advance according to the theme of the lesson. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy
Comprehensively evaluate that you can understand basic knowledge and ideas, and that you are willing to take the initiative in learning the four-year teaching profession. Specifically, the evaluation will be based on the tasks presented during class: 40%and the regular exam: 60%.

教職入門

寺崎　里水

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めることを目的としている。
具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に時代や社会の変化に向き合い、生涯にわたって学び続ける自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状や諸課題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を深めていきたい。

【到達目標】
教職を将来の選択肢のひとつとして考えることを前提に、以下の事柄を到達目標とする。
①教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方が理解できること。
②教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかが理解できること。
③授業を通して、自らの適性を判断して教職への意欲を高めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は対面で行います。
教職課程の入門科目として位置付けられており、指定された教科書をもとに講義を行うほか、個々人やグループでワークをしたり、課題レポートを提出したりしてもらいます。
課題提出やそのフィードバックは、授業内と学習支援システムの両方を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入と教職への条件：4年間の学びのイメージ	職業を選択するということ、教職を選択するということ
第2回	教師像の構築	教師という職業世界への接近と大学における教職課程
第3回	職業としての教師へのハードル	教員免許・養成制度・教員採用
第4回	専門職としての教師の成長・育成	研修・免許更新・服務義務
第5回	教育指導の本質と意義	教育の専門家としての教師
第6回	教職の歴史的特質	教職観の変遷と今日の教員の役割
第7回	教職に関する実務①	学校という組織の運営・校務分掌
第8回	教職に関する実務②	教師としてのキャリア
第9回	教育の方法	学習指導要領の位置づけ、能動的な学習への参加
第10回	教師の職務実態①	学級経営、多様化する子どもたち
第11回	教師の職務実態②	生徒指導・進路指導
第12回	教師の課題①	子どもの貧困、学力格差、力のある学校
第13回	教師の課題②	チーム学校への対応、協働と連携
第14回	試験、振り返り、教職の方向性	試験とその振り返り、変わる子どもの学び、学び続ける教師

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された課題をすることが予習になるように講義内容を考えています。必ず課題を終わらせ、提出したのちに、授業に参加してください。
教科書の内容すべてを授業内で扱えるわけではないので、授業で触れた章はもちろん、関連文献・資料として紹介されたものを各自で読んだり調べたりしてください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
高妻紳二郎・植上一希・佐藤仁・寺崎里水・伊藤亜希子・藤田由美子（2023）『新版教職概論』協同出版

【参考書】
生徒指導提要（平成22年3月、文部科学省）　※PDFでダウンロード可能
植上一希・寺崎里水（2018）『わかる・役立つ教育学入門』大月書店

【成績評価の方法と基準】
基本的な知識や考え方を理解できること、4年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを総合的に評価する。
具体的には、提出課題の内容：40％、試験：60％で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
とくになし

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用する場面があるので、インターネットに接続し、必要な資料をダウンロードしてプリントアウトしたり、重要だと感じた内容を自身でノートにまとめることが必要です。ネットに接続できる環境、パソコン、パソコンが用意できない場合はタブレット（スマホは画面が小さいので推奨しません）が必要です。

【その他の重要事項】
教職課程を履修する学生を対象に開講する科目です。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
In this lecture, students aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession.
We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.
【到達目標（Learning Objectives）】
In this class, students will consider teaching as one of their future options, and will gain a basic understanding of the significance of the teaching profession, the role of teachers, their qualifications and abilities, and their duties. They will also consider what it means to be a teacher, what they need to learn and acquire in order to do so, and determine their own aptitude and motivation for the teaching profession.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students may be required to reflect their learning through the class. Furthermore, it is expected that students will study and research the opinions about teaching professions.
Your required study time is at least four hours.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Grading will be decided based on the following process:
- In-class assignments: 40%
- Final exam: 60%

教職入門

吉田　直子

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めることを目的としている。
具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に時代や社会の変化に向き合い、生涯にわたって学び続ける自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状や諸課題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を深めていきたい。

【到達目標】
教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
対面授業を基本とするが、場合によっては動画配信を併用するなど、状況に応じた形態をとる。また学生同士の学び合いを促進するため、グループワークやグループディスカッション等の活動を重視する。リアクションペーパー等で提出されたコメントのうち、全体に共有することが望ましいと判断したものについては、次回の授業の冒頭でいくつか取り上げ、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入と教職への条件：免許・養成（履修）・採用制度の概要と４年間の学びのイメージ	教職履修の全体イメージ、本授業の構成、進め方と評価
第2回	教師という職業の特徴	教師という職業世界への接近と大学における教職課程
第3回	教職の歴史	教職観の変遷と今日の教員の役割
第4回	専門職としての教師の成長・育成	身分保障・服務義務、教員研修
第5回	現代学校と教職員の権利・職責	学校改革の展開、教職員の種類と職責、教師の権利と「働き方改革」
第6回	教育指導の全体像	教育の専門家としての教師、教師の指導文化、教員評価
第7回	学校組織のなかの教師	教職員の構成、校務分掌とチームワーク（同僚性）、年間指導計画
第8回	職務内容①：教科指導	学習指導要領改訂の概要と教科の変更点
第9回	職務内容②：生徒・生活指導	生徒指導の日本的特質、校則指導、いじめ指導
第10回	職務内容③：総合的な学習の時間と進路指導	総合的な学習の時間の位置づけ、職業・進路指導、キャリア教育
第11回	職務内容④：学級経営	学級の歴史、学級規模、担任教師の役割
第12回	教師の課題①：多様化する子どもの課題	子どもたちの今日的課題（子どもの貧困、学力格差、不登校など）
第13回	教師の課題②：多様な関係者との連携	「チーム学校」への対応、保護者や地域との協働・連携、「共生」社会
第14回	まとめ：変わる学校、学び続ける教師	変わる子どもの学び、学び続ける教師

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後のリアクションペーパーの作成、次回の準備課題への取り組み、学習指導要領の内容に関する小テストの準備、ショートプレゼンテーション、最終レポート作成の関して必要な調査・研究を進めることをふくめ、本授業の準備学習・復習等の時間は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。学習にかかわる資料等は授業の中で教員が適宜準備する。

【参考書】
中学校学習指導要領（平成29年3月公示　文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月公示、文部科学省）
上記は、文部科学省のウェブサイトより、PDFでダウンロード可。
その他の参考文献等は、授業内で適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への主体的な参加状況（学習支援システムを活用し、授業終了後3日以内にコメント、次回の授業開始までに準備課題を提出）に対する評価（40%）、ショートプレゼンテーション（10%）、授業内小テスト（25%）、最終レポートに対する評価（25%）を総合的に見る。定期テストは行わない。

【学生の意見等からの気づき】
・教員に求められるコミュニケーションスキルについて、学生同士で体験・実践する場を丁寧につくる。
・講師自身の民間企業勤務経験および教員経験も共有しつつ、「教育」について、幅広い視点から捉える機会を提供する。

【学生が準備すべき機器他】
講義はPowerPointやビデオ教材などを活用して進めるが、講義資料は基本的にデジタルデータで学習支援システムより提供する。また授業ごとのリアクションペーパーや準備課題、最終レポートの提出も学習支援システムを介して行う形式をとるため、スマホ、PC等、ネット接続が可能な機器を必要とする。

【Outline (in English)】
In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession. We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.
In this class, students will consider teaching as one of their future options, and will gain a basic understanding of the significance of the teaching profession, the role of teachers, their qualifications and abilities, and their duties. They will also consider what it means to be a teacher, what they need to learn and acquire in order to do so, and determine their own aptitude and motivation for the teaching profession.
The standard amount of time for learning activities outside of classroom is four hours each, including writing a reaction paper after class and preparing to submit two scheduled assignments.

Evaluations will be based on a comprehensive assessment of the student's independent participation in the class (submitting comments before/after class) (40%) mini test(20%), short presentation(15%) and final report(25%).

教職入門

猪股　大輝

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、受講生が教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解できること、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めることを目的としている。
具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主に学習する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に教育するという行為への強い気持ちと生涯にわたって学び続けるという自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に組織として諸課題に対応することも期待されている。受講生が本科目を通じ、今日の学校教育や学校教員の現状、教師を取り巻く諸問題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、教職について理解を深めることを目指す。

【到達目標】
本科目は、受講生が、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解できること、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断することで、将来の選択肢の一つとして教職を捉え、教職への意欲を高めることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
レジュメ配布による講義形式を中心とするが、授業中に適宜ペアワークやディスカッションを導入し、学生の教職への理解を深める。また、毎回の授業後にコメントペーパーを作成してもらい、必要に応じて次回の授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入と教職への条件：免許・養成（履修）・採用制度の概要と4年間の学びのイメージ	本講義の概要、方法、評価を説明する。また、開放性を基本とする教員養成制度の仕組みと意義、教師になるために学ぶべき内容を概観する。
第2回	教師という職業の特徴	教師の職業的特徴や地位について、歴史的、国際的、社会的に比較し考える。
第3回	教職の歴史	「近代学校」の成立から新教育期における教職の変遷を検討する。
第4回	専門職としての教師の成長・育成：研修等の制度	戦後日本における教師の専門職性の変遷を、育成・研修制度の変遷とともに検討する。
第5回	現代の学校と教師の資質・役割	近年の教育改革における教師像について理解するとともに、これからの「よい教師」のあり方について考える。
第6回	教師の権利と義務：服務規律や身分保障	教師の権利・身分保障と服務、及び教師を取り巻く行政制度の仕組みを理解する。
第7回	職務の全体像	学校における教職員の職務や構成、校務分掌とチームワーク（同僚性）を理解する。また、部活動問題を中心とした教師の多忙化問題や、教師のメンタルヘルスなど近年の諸問題を知る。
第8回	職務内容①：教科指導	現行学習指導要領の概要を理解するとともに、教育評価・授業計画などの観点から「よい授業」のあり方について検討する。
第9回	職務内容②：生徒・生活指導	生徒・生活指導をめぐる教師の役割の歴史や、多忙化・ブラック校則・いじめ問題など今日的課題を知る。また、生徒・生活指導の基盤として今日ますます重要視される子どもの権利について学ぶ。
第10回	職務内容③：進路指導・キャリア教育	学校教育と労働世界・企業社会との接続について考える。また、特に歴史的観点から検討し、進路指導・キャリア教育の特徴とその展開について理解する。
第11回	職務内容④：学級経営	「学級」の歴史や「学級づくり」を巡る戦後の議論を手がかりに、特に市民性教育の観点から「よい学級」のあり方と教師の役割を考える。
第12回	「チームとしての学校」：学校組織のなかの教師	「チームとしての学校」をめぐる今日的議論の展開を理解する。また、子どもの貧困、学力格差、不登校など今日的課題に向かう教師の役割を考える。
第13回	地域・家庭・多様な専門家との連携	「コミュニティ・スクール」や保護者・地域の学校参加による「開かれた学校」をめぐる今日的議論を理解するとともに、これまでの学習を踏まえた「これからの教師」像について検討する。
第14回	試験・まとめと解説：変わる学校、学び続ける教師	試験を実施し、講評として知識基盤社会において「学び続ける教師」の意義と可能性、教師の公共的使命について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【事前学習】
授業中に提示された参考書等を適宜確認し、授業内容を予習する（各2時間）。
【事後学習】
各回で講義内容を整理しリアクション・ペーパーを作成するとともに、課題として与えられたレポート等に取り組む（各2時間）。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない

【参考書】
・中学校学習指導要領（平成29年3月公示　文部科学省）
・高等学校学習指導要領（平成30年3月公示、文部科学省）
・生徒指導提要（令和4年12月、文部科学省）
※PDFでダウンロード可能
・その他、授業中に適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
基本的な知識や考え方を理解できること、4年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを下記をもとに総合的に評価する。
・毎授業ごとのリアクション・ペーパー：20％
・授業内で指示する課題：20％
・定期試験（授業内試験）：60％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
授業中に適宜指示する

【Outline (in English)】
The purpose of this lecture is to increase students' motivation to become teachers by considering teaching as a future option, understanding basic knowledge and ideas about the significance of teaching, the role, qualifications, and duties of teachers, what it means to be a teacher, and what they need to learn and acquire in order to become a teacher, and determining their own aptitude for the teaching profession.
Specifically, the course will be structured with the significance of the teaching profession, the role of teachers, and the duties of teachers as the main elements. In recent years, the challenges that teachers face have become more diverse and complex, such as dealing with students who have difficulties in their daily lives and learning, and dealing with parents and community issues. The profession of teaching requires more than ever an awareness of the need to face the changing times and society, and to continue learning throughout one's life. In addition, there is an increasing emphasis on cooperation with people inside and outside the school, such as in response to "team schools," and teachers are expected to understand their individual roles and to respond to various issues as an organization. The course aims to deepen each student's understanding of the teaching profession by providing an overview of the current state of school education and school teachers and the various issues they face, and by examining specific aspects of the work of teachers and their way of life.
【Learning activities outside of classroom】
The following is required for each lecture.
* Pre-Class
Preparation for the class by checking the reference books, etc. provided in the class (2 hours).
* Post-class
Work on reaction papers and assigned reports, etc(2 hours).
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Reaction papers：20％
Report：20％
Term-end examination(in class)：60％

教育原理

天野　一哉

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要

教育の諸問題は私たちが生きている今ここで起こっている現実であることから、書籍やネットなど閉じた媒体のみに学ぶのではなく、生身の人間、動いている世の中から発掘すべきである。そこで、授業では学生諸君と担当教員、ゲスト・スピーカーとの対話、そして教育現場へのフィールドワークから「教育とは何か」「問題点は何か」「いかに改革すべきか」などを考察してもらう。また「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の意義を学び、指導のための資質能力を身につけることを目的としている。

ZOOM接続先、課題等はHoppii学習支援システムで告知するので定期的に確認すること。

【到達目標】

教育の基本的諸概念、教育に関する歴史及び思想を踏まえ、教員・同学及び専門家との対話や教育現場への取材を通して、現在の教育を知り、自分自身の“教育原理”を探究する。具体的には教員として、あるいは社会人としての知識のみならず、意識とスキルの向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

実践力育成のため、対話による PBL(Project Based Learning)の手法を用いて、課題設定・調査・分析・考察・発表等の方法を学ぶ。

学習指導要領で「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」が1つの柱となることから、グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテー ションを用い、実践的に進めていく。従って下の【授業計画】は、あくまでもモデルケースであり、学生の理解度、対話の進捗によって柔軟に再構築していく。

リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。 新型コロナウィイルスの感染状況による変更も含め、授業の課題 等、詳細については、「学習支援システム」を通じて告知する。

大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的及び方法、「教育原理」についてディスカッション（ZOOM接続先等はHoppii学習支援システムで告知する）
第2回	「教育」とは何か	解説とグループ・ディスカッション
第3回	「学習」とは何か	解説とグループ・ディスカッション
第4回	「教員」「学校」とは何か	教育制度の成立 解説とグループ・ディスカッション
第5回	教育史①	世界の教育史の概観
第6回	教育史②	日本の教育史の概観
第7回	教育思想①	世界の思想の概観
第8回	教育思想②	日本の思想の概観 家庭/家族
第9回	教育の方法	学習指導要領の位置づけ、能動的な学習への参加
第10回	ゲスト①	現役教員によるキャリア教育等の学校現場報告と対話
第11回	教育評価	自己評価・ルーブリック評価・ゴールフリー評価
第12回	プレゼンテーション①	第１１回までの講義を踏まえた学生によるプレゼン
第13回	プレゼンテーション②	第１１回までの講義を踏まえた学生によるプレゼン
第14回	総まとめ	全授業テーマの総括と学生の省察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プレゼンテーション、レポートの作成にあたってはテーマに関連した学術的専門書（教育史を含む）の引用・参照を必須とするので、その選定をおこなう。方法等については授業内で説明する。その他、授業のテーマに合わせて事前に準備学習を指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

筒井美紀・遠藤野ゆり（2023）『まなぶことの歩みと成り立ち: 公教育の原理的探究』法政大学出版局

【参考書】

手島純、天野一哉ほか（2025）『学校教師のやりがいは何？』小鳥遊書房

天野一哉（2013）『中国はなぜ「学力世界一」になれたのか-格差社会の超エリート教育事情』中央公論新社

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本分、解説、資料）、※いずれも文部科学省HPより最新版をダウンロード可能

【成績評価の方法と基準】

教育学の基本的な諸概念を理解しているか、それを用いて、教育の諸問題について考察する力がついているかを毎回の「100字以上省察」：40％、レポート（またはプレゼンテーション）：60％で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

コミュニケーション等のスキルは、1回、2回では身につかないので、発展的要素を加えながら、各回に実践の場を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

可能であれば、スマートホン、パソコン等の通信端末。

【その他の重要事項】

春学期（教職入門）・秋学期（本講義）合わせての履修を推奨する。

授業形態は、基本的には対面であるが、グループワーク等の対話を実施するので、感染状況によってはオンラインとする場合もある。

生成AIの取り扱い、教育への影響については授業内で伝える。

【Outline (in English)】

The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts.

Active learning; group discussion about today’s educational issues.

Since education is a daily activity, we casually think and talk in the familiar words we use every day. However, there are thinkers and theorists who tried to clarify the essence of education through fundamental consideration of the meaning of such words- "development," "individuality," "education," "school," "teacher," "family," "children," "knowledge," "understanding," etc. What do they say?

Also, we tend to think of existing education as "natural", but it is not "natural:" when we may ask "why?" looking at education in the past time, we usually don’t think it as "natural". What does this mean?

In this class, you will accurately acquire the basic concepts of education and understand the essence and ideals of education in relation to historical, social, and ideological changes. Through this work, you will develop your ability to delve deeply into actual education and school activities.

When creating presentations and reports, it is essential to cite academic technical books (including educational history) and fieldwork related to the theme, so we will select them. The method etc. will be explained in the class. In addition, instruct preparatory learning in advance according to the theme of the lesson. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
Evaluate whether you understand the basic concepts of pedagogy and use them to think about the problems of education.
Evaluate with 40%reflection sheet and 60%report (or presentation).
In order to develop practical skills, learn methods such as task setting, survey, analysis, consideration, and presentation using the method of PBL (Project Based Learning) through dialogue. Since "independent, interactive and deep learning (active learning)" is one of the pillars of the course of study, we will use group work, fieldwork, and presentations to proceed practically. Therefore, the [Class Plan] below is just a model case, and will be flexibly reconstructed according to the degree of understanding of the students and the progress of the dialogue.

教育原理

筒井　美紀

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第1回で教育原理を学ぶことの意義を説明したうえで、序盤・中盤は順に歴史を追って、政治・経済・社会・家族と教育との関係を確認しながら、基礎的概念を修得し、代表的な教育思想について理解します。終盤は現代社会における教育的諸課題を、小グループでの議論を初めとした相互的・双方向的なやりとりをとおして、教育の基礎的概念や思想・理念を応用しつつ考察する力を磨きます。

【到達目標】
教育は日常的な営みであるため、日ごろ用いている卑近な言葉で何気なく考え語ってしまいます。しかし、そうした言葉――「発達」「個性」「教育」「学校」「教師」「家族」「子供」「知識」「わかる」など――が意味するところを根本的に考察し、教育の本質や理念に迫ろうとした人びとがいます。そのような思想家や理論家は何と言っているのでしょうか。
また私たちは、いまある教育を「あたりまえ」と考えがちですが、過去からあるいは未来から見れば、私たちが過去の教育を見て「どうして？」と疑問を抱くことがあるように、必ずしも「あたりまえ」ではないのです。なぜでしょうか。
この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的変化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
最終回をのぞき対面実施します。
授業は予習を大前提に進むので、履修者はテキストブックを読み、毎回の「予習&授業プリント」にある質問（Qや■■や［　　］など）や「～しよう」に対して回答し（ノートに書く、など）授業に臨んでください。
なお、授業終了時に毎回の課題が出されるので、学習支援システムに解・考察を書き込んで提出のこと。課題へのフィードバックは次回授業冒頭で行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義	テキストのまえがきと序章
第2回	近代以前の教育（1）　古代の教育：教育と教育思想の発祥	なぜ教育は支配階級のためにしか存在しなかったのか？（テキスト第1章第1・2節）
第3回	近代以前の教育（2）：中世における「学校」の諸形態	修道院・修道僧が「学校」「教師」のモデルになったのはなぜか？（テキスト第１章第3節）
第4回	近代の教育（1）：近代初期・中期の社会と教育思想	社会階層の形成と教育の関係（テキスト第1章第4節）
第5回	近代の教育（1）：市民社会と教育思想	絶対王政に対抗する市民社会で生まれた教育思想は（ルソーとコメニウス）（テキスト第1章第4節）
第6回	近代の教育（2）：産業革命と教育思想	産業革命による社会変化はもたらした教育観・方法論への影響（助教法）（テキスト第2章第3,4節）
第7回	現代の教育（1）：近代公教育制度の成立と展開、およびその教育思想	帝国主義はなぜ・どのように近代公教育制度の成立を促したか？（テキスト第2章第5節）
第8回	現代の教育（2）：公教育成立完成期、新教育（進歩主義教育）	「児童中心主義」が生まれてきた社会的背景（テキスト第2章第5節）
第9回	近代化以前の日本の教育	近世までの政治・社会と教育（テキスト第3章）
第10回	日本の近代教育システムの誕生とその歩み	支配層の教育と民衆の教育、近代化によるその統合（テキスト第4章第1,2節）
第11回	第二次世界大戦後の教育	揺れ動いてきた教育政策（テキスト第4章第3節）
第12回	現代公教育の課題（1）教育を受けられない世界の子どもたち	（義務）教育の重要性とそこからの排除（テキスト第5章第1節）
第13回	現代公教育の課題（2）多様な子どもがともにまなぶ教育	インクルーシブ教育とは何か（テキスト第5章第2節）
第14回	総まとめ：教育の理念・歴史・思想についてのふりかえり	基礎的諸概念を中心に総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の進め方と方法を参照。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
遠藤野ゆり・筒井美紀（2023）『まなぶことの歩みと成り立ち－－公教育の原理的探究』法政大学出版局

【参考書】
・筒井美紀（2014）『大学選びより100倍大切なこと』ジャパンマシニスト社
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本文、解説、資料）（最新版、文部科学省）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【成績評価の方法と基準】
教育学の基本的諸概念を理解しているか、それを用いて学校・教育の歴史的変遷や現状・その課題を記述し、教育の理念と照らし合わせながら考察する力がついているかを、以下の2つの方法で確認し評価します。
毎回授業終了時提出の課題26%（2×13回）, 期末論述試験74%

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイントのスライドは、図や表によるまとめを多くしています。

【学生が準備すべき機器他】
授業にはパソコンやタブレットを持ってきてください。紙は配りません。また、毎回の課題提出はオンラインです。無い人はスマートフォンでも構いませんが、画面小さくて見えにくかったりします。

【Outline (in English)】
Since education is a daily activity, we casually think and talk in the familiar words we use every day. However, there are thinkers and theorists who tried to clarify the essence of education through fundamental consideration of the meaning of such words- "development," "individuality," "education," "school," "teacher," "family," "children," "knowledge," "understanding," etc. What do they say?
Also, we tend to think of existing education as "natural", but it is not "natural:" when we may ask "why?" looking at education in the past time, we usually don't think it as "natural". What does this mean?

In this class, you will accurately acquire the basic concepts of education and understand the essence and ideals of education in relation to historical, social, and ideological changes. Through this work, you will develop your ability to delve deeply into actual education and school activities.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text and answer some questions of "preparation resume." Your study time will be an hour for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: mini-work after every class 26%and term-end examination 74%.

教育原理

飯窪　真也

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第1回で教育原理を学ぶことの意義を説明したうえで、序盤・中盤は順に歴史を追って、政治・経済・社会・家族と教育との関係を確認しながら、基礎的概念を修得し、代表的な教育思想について理解します。終盤は現代社会における教育的諸課題を、小グループでの議論を初めとした相互的・双方向的なやりとりをとおして、教育の基礎的概念や思想・理念を応用しつつ考察する力を磨きます。

【到達目標】
教育は日常的な営みであるため、日ごろ用いている卑近な言葉で何気なく考え語ってしまいます。しかし、そうした言葉――「発達」「個性」「教育」「学校」「教師」「家族」「子供」「知識」「わかる」など――が意味するところを根本的に考察し、教育の本質や理念に迫ろうとした人びとがいます。そのような思想家や理論家は何と言っているのでしょうか。
また私たちは、いまある教育を「あたりまえ」と考えがちですが、過去からあるいは未来から見れば、私たちが過去の教育を見て「どうして？」と疑問を抱くことがあるように、必ずしも「あたりまえ」ではないのです。なぜでしょうか。
この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的変化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎回、講義とグループワークを交えた形式で行い、リアクションペーパーを提出していただきます。フィードバックは次回の授業時に行います。
大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義	授業で扱う内容を俯瞰します。
第2回	古代の教育、近代以前の教育（1）教育と教育思想の発祥	古代ギリシア・ローマ時代における教育の発祥について、当時の社会背景と結び付けながら考察します。
第3回	中世の教育（1）：近代以前の教育（2）「学校」の諸形態	キリスト教社会の文脈とその文脈における教育の意味を考察します。
第4回	中世の教育（2）：近代以前の教育（3）「こども」とは	時代によって異なる「こども」の捉え方について考察します。
第5回	近代の教育（1）：市民社会と教育思想	ルネッサンス期の社会やものの見方の変化に基づく教育についての考えを考察します。
第6回	近代の教育（2）：産業革命と教育思想	産業革命を背景にした公教育黎明期の教育システムについて考察します。
第7回	現代の教育（1）：近代公教育制度の成立と展開、およびその教育思想	近代的な国家の成立に伴う国家による教育の基本的な枠組みについて考察します。
第8回	現代の教育（2）：現代教育・学校の諸問題と制度・教育改革	現代日本の教育整備の向かう方向について、その背景にある考え方から考察します。
第9回	発達と学習	教育を考える際の基本になる発達と学習の基礎的な考え方を学びます。
第10回	公教育・家庭・地域社会の関係	公教育と家庭、地域社会の関係について、今日的な課題をとりあげ考察します。
第11回	教科指導・生徒指導の諸理論	教科指導・生徒指導の諸理論について学びます。
第12回	個性・能力・学力と教育思想	教育思想の背景にある個性・能力・学力の考え方について掘り下げます。
第13回	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割について、総括的に考察します。
第14回	総まとめ：教育の理念・歴史・思想についてのふりかえり（授業内試験）	授業で扱った内容を振り返り、次の学びへつなぎます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義の内容について復習を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・遠藤野ゆり・筒井美紀『まなぶことの歩みと成り立ち　公教育の原理的探究』法政大学出版局、2300円＋税

【参考書】
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本文、解説、資料）（最新版、文部科学省）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【成績評価の方法と基準】
教育学の基本的諸概念を理解しているか、それを用いて学校・教育の歴史的変遷や現状・その課題を記述し、教育の理念と照らし合わせながら考察する力がついているかを、以下の3つの方法で確認し評価します。
授業への参加姿勢30%，リアクションペーパー30%, 授業内論述試験40%等により総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
活動の時間を十分に確保するようにします。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this lecture, you will learn the history of education, in the relationship of politics, economy, society family and some basic concepts of education, some educational thoughts.
【Learning Objectives】
Students will acquire the basic concepts of education accurately and understand the essence and philosophy of education in relation to historical, social, and ideological changes. Through this work, students will hone their ability to delve deeply into actual education and school activities, taking into account the changes that have taken place.
【Learning activities outside of classroom】
Review the content of each lecture. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】

The following evaluations are conducted to check whether students understand the basic concepts of pedagogy, and whether they have the ability to describe the historical changes, current situation, and issues of schools and education using them, and to examine them in light of educational principles.
Comprehensive judgment will be made based on 30%of participation in class, 30%of reaction papers, 40%of essay test in class.

教育原理

澤里　翼

単位：**2単位**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第1回で教育原理を学ぶことの意義を説明したうえで、序盤・中盤は順に歴史を追って、政治・経済・社会・家族と教育との関係を確認しながら、基礎的概念を修得し、代表的な教育思想について理解します。終盤は現代社会における教育的諸課題を、小グループでの議論を初めとした相互的・双方向的なやりとりをとおして、教育の基礎的概念や思想・理念を応用しつつ考察する力を磨きます。

【到達目標】
教育は日常的な営みであるため、日ごろ用いている卑近な言葉で何気なく考え語ってしまいます。しかし、そうした言葉――「発達」「個性」「教育」「学校」「教師」「家族」「子供」「知識」「わかる」など――が意味するところを根本的に考察し、教育の本質や理念に迫ろうとした人びとがいます。そのような思想家や理論家は何と言っているのでしょうか。
また私たちは、いまある教育を「あたりまえ」と考えがちですが、過去からあるいは未来から見れば、私たちが過去の教育を見て「どうして？」と疑問を抱くことがあるように、必ずしも「あたりまえ」ではないのです。なぜでしょうか。
　この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的変化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
序盤は講義中心ですが、中盤以後は授業前半でグループで調べた内容を発表してもらい後半で解説や不足部分の講義を行います。毎回の授業後に学習支援システムを通して意見や感想を提出してもらい、全体で共有したり、個別にコメントを返したりしています。
授業は原則として対面で行う予定ですが、感染状況等に応じて柔軟に対応できるようにしています。詳細は初回の授業の際に口頭で説明し、学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義	講師の紹介、今後の授業内容、評価の方針等についてもお話しします。
第2回	古代の教育、近代以前の教育（1）教育と教育思想の発祥	教育や教育学に影響を与えた、ギリシャの哲学者や中国の思想家等を紹介します
第3回	中世の教育（1）：近代以前の教育（2）「学校」の諸形態	「学校」の成立とその形態について扱います
第4回	中世の教育（2）：近代以前の教育（3）「こども」とは	子どもを生まれながらに「善」「悪」あるいは「白紙」とみる見方について発表してもらい・解説します。
第5回	近代の教育（1）：市民社会と教育思想	教育における遺伝と環境の役割について過去の思想を追ったうえで、現在の展開について紹介します
第6回	近代の教育（2）：産業革命と教育思想	一斉教授/経験的学習と系統的学習の歴史とそれらのメリットデメリットについて考えます
第7回	現代の教育（1）：近代公教育制度の成立と展開、およびその教育思想	教育費負担のしくみがどうあるべきかについて議論します
第8回	現代の教育（2）：現代教育・学校の諸問題と制度・教育改革	学校に通うことの意義／遠隔授業、不登校、オルタナティブな教育について考えます
第9回	発達と学習	インクルーシブ教育の意義と課題について考えます
第10回	公教育・家庭・地域社会の関係	学校運営への家庭や地域の関わり方について議論します。
第11回	教科指導・生徒指導の諸理論	いじめや体罰などの教育問題について考えます
第12回	個性・能力・学力と教育思想	教育格差、学力格差の問題について扱います。
第13回	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割	学校の運営や教師の働き方について考えます
第14回	総まとめ：教育の理念・歴史・思想についてのふりかえり	小テスト実施予定です

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループの担当箇所について調べ、発表してもらう予定です。最低１回は授業外でグループの打ち合わせが必要になると思います。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません

【参考書】
・筒井美紀・遠藤野ゆり（2013）『教育を原理する――自己にたち返る学び』法政大学出版局・筒井美紀（2014）『大学選びより100倍大切なこと』ジャパンマシニスト社
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本文、解説、資料）（最新版、文部科学省）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献度（各回提出してもらうリアクションペーパー）20％
授業への貢献度（ミニ・グループ・ディスカッション）20％
期末テスト　60％

【学生の意見等からの気づき】
授業支援システムにできるだけ資料をアップするようにしています。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppi上に課題を提出してもらうことが多いので情報機器を適宜使用してください。

【その他の重要事項】
・授業支援システムなどを利用して課題等を提示しますので、体調がすぐれない時などには無理をせずご相談ください。

【Outline (in English)】
This course introduce basic concepts and theories of education by learning about the history of education and the current education system in relation to politics, economics, society and family.
This class includes active learning; group discussion about today's educational issues.
Goals
Since education is a daily activity, we casually think and talk in the familiar words we use every day. However, there are thinkers and theorists who tried to clarify the essence of education through fundamental consideration of the meaning of such words- "development," "individuality," "education," "school," "teacher," "family," "children," "knowledge," "understanding," etc. What do they say?

Also, we tend to think of existing education as "natural", but it is not "natural:" when we may ask "why?" looking at education in the past time, we usually don’t think it as "natural". What does this mean?
In this class, you will accurately acquire the basic concepts of education and understand the essence and ideals of education in relation to historical, social, and ideological changes. Through this work, you will develop your ability to delve deeply into actual education and school activities.
Work to be done outside of class
You will need to have at least one group meeting outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Criteria
attendance 20％
group work　20％
final exam　60％

教育の制度・経営

植竹　丘

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えことであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

【到達目標】
日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必須な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的な内容を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
原則として担当者による講義を行う．毎回講義終了時に疑問点を提出してもらい，発展的な考察がなされているものや全体で共有すべきものについては，続回でリアクションを行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	講義の内容，進め方，評価方法，社会科学的に教育現象を見る
第2回	世界の教育改革	日本の教育制度や教育改革の内容と諸外国における教育制度や教育改革の比較について
第3回	憲法・教育基本法	戦後日本の教育行政の理念である「法律主義」及びその中心に位置づく「憲法・教育基本法体制」について
第4回	教育行政のしくみ	文部科学省及び教育委員会の仕組みと役割，教育政策決定過程について
第5回	学習指導要領と教科書制度	教育課程の基準について
第6回	教育財政制度と無償化	予算中の教育費の使われ方について，義務教育費国庫負担金制度，教員給与制度について
第7回	学校組織の法としくみ	学校組織の特性及び教員の勤務の特徴と課題について
第8回	学級経営	「学級」の特殊性及び教員の業務について
第9回	学校と教員の評価	「PDCAサイクル」下での学校評価及び教員評価
第10回	教員の成長と同僚性	教職の専門職性とラーフコースについて
第11回	子どもの人権と学校	パターナリズムに基づく教員の統治について
第12回	学校の危機管理と安全対策	学校の安全管理が教員に求められるようになった背景及び課題について
第13回	「チームとしての学校」	学校が教員だけで構成されるのではなく，専門職と協働して学校運営を行う際の課題について
第14回	地域・家庭・多様な専門家に開かれた学校づくり	学校外部との連携が求められるようになった背景及び課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の参考文献に記載されている文献を入手し読了すること．大学設置基準第21条第2項の規定に基づく，本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定しない

【参考書】
阿内春生編（2024）『基礎から学ぶ教育行政学・教育制度論』昭和堂.
村上祐介・勝野正章（2024）『［改訂新版］教育行政と学校経営』放送大学教育振興会.
青木栄一・川上泰彦（2023）『［改訂版］教育の行政・政治・経営』放送大学教育振興会.
村上祐介・橋野晶寛（2020）『教育政策・行政の考え方』有斐閣.
小川正人（2019）『日本社会の変動と教育政策』左右社.
小川正人（2010）『教育改革のゆくえ』筑摩書房.
小川正人（2010）『現代の教育改革と教育行政』放送大学教育振興会.
藤田英典・大桃敏行編著（2010）『学校改革』（リーディングス日本の教育と社会11）日本図書センター.
藤田英典（1997）『教育改革』岩波書店.
日本教育経営学会編『日本教育経営学会紀要』各年版.
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】
期末試験70%
疑問点の内容30%

【学生の意見等からの気づき】
毎回コメントシートとして疑問点を提出させ，続回にリアクションを行うことで理解が深まることが確認できたため継続する予定である．

【学生が準備すべき機器他】
レジュメは学習支援システムにアップされるため，プリントアウトして持参されたい（推奨）.
レジュメをプリントアウトしない場合はパソコンやタブレット等電子機器によって閲覧されたい.

【Outline (in English)】
The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management,safety measure and cooperation with local community, It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.
Grade evaluation is based on 70%of the final exam and 30%of questions.
Outside class, read the literature listed in the bibliography for each class. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

教育の制度・経営

仲田　康一

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えことであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

【到達目標】
日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、受講生が、教員として必須な公教育のの法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を得ることを目標とする。なお、学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
原則として講義形式で進めるが、授業内で学生が相互に意見交換する機会を設ける。毎回講義終了時にオンラインでコメントを提出してもらい、疑問や発展的な考察がなされているものや全体で共有すべきものについては、続回でリアクションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	現代社会と学校改革
第2回	世界の教育改革	イギリス・アメリカなどの教育改革
第3回	憲法・教育基本法	教育を受ける権利・教育の目的等
第4回	教育行政のしくみ	教育政策と教育行政、教育委員会と学校
第5回	学習指導要領と教科書制度	学習指導要領準拠の意味、教科書検定と教師の選択権
第6回	教育行財政制度と教育の無償化	国際比較、経済格差と教育格差
第7回	学校組織の法としくみ	学校教育法の理解と学校組織の在り方
第8回	学級経営	生活指導などを踏まえ不登校・いじめ問題を考える
第9回	学校と教員の評価	学校評価制度と教員評価制度に法律と学校の実態
第10回	教員の成長と同僚性	教員に求められる資質・能力と同僚性の構築
第11回	子どもの人権と学校	子どもの権利条約と体罰・校則等について考える
第12回	学校の危機管理と安全対策	パンデミックと学校、自然災害と防災教育など
第13回	チームとしての学校	学校教育活動と教職員の協同
第14回	地域・家庭・多様な専門家に開かれた学校づくり	学習指導要領と「社会に開かれた教育課程」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習は、授業で指定された文献などを読んでおく。新聞等で教育や子どもに関わる記事を読み、コメントをノート等に書いておく。
復習は、授業内容を振り返りノート等に整理しておく。
本授業の準備学習・復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
勝野正章・藤本典裕返書『教育行政学(改訂新版)』学文社
文部科学省「学習指導要領」(最新版)、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）
佐藤学著『第四次産業革命と教育の未来　ポストコロナ時代のICT教育』　岩波ブックレットNo. 1045

【成績評価の方法と基準】
基礎知識の理解度だけでなく、自らの考えを知識やデータで裏付けて論述できるかを評価する。授業内の発表やコメントペーパー等（40％程度）、最終レポート(60％程度)によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
ゲストスピーカーの招聘については、高評価を得た。授業の進行や先方の都合に依存する部分もあるが、引き続き実現できるよう検討する。

【その他の重要事項】
教員をどれだけ活用するかが大学での学びの質を大きく左右します。教員への質問・相談は学生の権利であり、教員にとってもやりがいの源泉ですので、どうぞお気軽に。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management,safety measure and cooperation with local community, It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.
【到達目標（Learning Objectives）】
To understand the basic concepts and legal system of the Japanese school education system and its management. Be able to explain how various educational issues relate to the legal system.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before and/or after each class meeting, students are required to have completed the required assignments such as
- Rereading and summarising the material handed out in class
- Submitting Attendance Check Assignment.
The standard preparation and review time for this class is two hours each.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Grading is determined by the students' understanding of basic knowledge as well as their competence to argue and support their own ideas with knowledge and data. Evaluation will be based on in-class presentations, comment papers, etc. (approx. 40%) and a term end report (approx. 60%).

教育の制度・経営

小池　由美子

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の構成は、大きく二分される。一つは、教育の制度を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えことである。日本の教育制度の成り立ちや法体系、生徒理解、危機管理や安全対策、地域との連携を取り上げる。身近な教育問題から取り上げる。目的は教師として教壇に立つ知識、生徒理解の視座を身に付けることにある。

【到達目標】
日本の学校教育に関する制度的なトピックを学び、教員として必須な公教育の法制度に関わる事柄を理解することができる。学校組織・経営の知識として、教育行政との関係や、生徒理解、地域との連携、安全と危機管理などを理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義を行う。適宜グループディスカッションを行う。毎回講義終了後にレポートを提出する。レポートから、疑問や発展的な考察がなされているものを、続回で全体で共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	現代社会と教育教育
第2回	日本の教育教育制度の成り立ち	平安時代から近代まで
第3回	憲法・教育基本法	教育を受ける権利・教育の目的等
第4回	教育行政のしくみ	教育政策と教育行政、教育委員会と学校
第5回	学習指導要領と教科書制度	学習指導要領準拠の意味、教科書検定と教師の選択権
第6回	教育行財政制度と教育の無償化	国際比較、経済格差と教育格差
第7回	学校組織の法としくみ	学校教育法の理解と学校組織の在り方
第8回	学級経営	生活指導などを踏まえ不登校・いじめ問題を考える
第9回	学校と教員の評価	学校評価制度と教員評価制度に法律と学校の実態
第10回	教員の成長と同僚性	教員に求められる資質・能力と同僚性の構築
第11回	子どもの人権と学校	子どもの権利条約と体罰・校則等について考える
第12回	学校の危機管理と安全対策	パンデミックと学校、自然災害と防災教育など
第13回	社にに原かれた教育課程	地域・家庭・多様な専門家に開かれた学校づくり
第14回	世界の教育改革 まとめの試験	アメリカ・イギリスの現状など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、授業で指定された文献などを読んでおく。新聞等で教育や子どもに関わる記事を読み、コメントをノート等に書いておく。
復習はレポートを作成し、授業内容を振り返りノート等に整理する。
本授業の準備学習・復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし　必要な資料は授業で配布する。

【参考書】
勝野正章・藤本典裕返書『教育行政学(改訂新版)』学文社
文部科学省「学習指導要領」(最新版)、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）
佐藤学著『第四次産業革命と教育の未来　ポストコロナ時代のICT教育』　岩波ブックレットNo. 1045

【成績評価の方法と基準】
基礎知識の理解度だけでなく、自らの考えを知識やデータで裏付けて論述できるかを評価する。授業への参加の仕方やレポート等（４０％程度)、試験(６０％程度)によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回提出するレポートから、出された疑問や深めたい課題等を授業でフィードバックしている。その結果、学生からは自分以外の多様な意見に触れることができ、視野が広がるという声が寄せられている。

【その他の重要事項】
公立高校教諭の経験があり、その視座から教育関連法規や学校経営等に関する知見を活かし、学校の実態を踏まえて講義を行う。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management, safety measure and cooperation with local community, It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.
到達目標（Learning Objectives）
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-Understand matters related to the legal system of public education.
-Understand school organization.
授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）
Students will be expected to spend four hours to understand the course content.
成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policies）
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、Short reports: 40%、in class contribution: 10%

教育の制度・経営

植竹　丘

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えことであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

【到達目標】
日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必須な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的な内容を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
原則として担当者による講義を行う．毎回講義終了時に疑問点を提出してもらい，発展的な考察がなされているものや全体で共有すべきものについては，続回でリアクションを行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	講義の内容，進め方，評価方法，社会科学的に教育現象を見る
第2回	世界の教育改革	日本の教育制度や教育改革の内容と諸外国における教育制度や教育改革の比較について
第3回	憲法・教育基本法	戦後日本の教育行政の理念である「法律主義」及びその中心に位置づく「憲法・教育基本法体制」について
第4回	教育行政のしくみ	文部科学省及び教育委員会の仕組みと役割，教育政策決定過程について
第5回	学習指導要領と教科書制度	教育課程の基準について
第6回	教育財政制度と無償化	予算中の教育費の使われ方について，義務教育費国庫負担金制度，教員給与制度について
第7回	学校組織の法としくみ	学校組織の特性及び教員の勤務の特徴と課題について
第8回	学級経営	「学級」の特殊性及び教員の業務について
第9回	学校と教員の評価	「PDCAサイクル」下での学校評価及び教員評価
第10回	教員の成長と同僚性	教職の専門職性とラーフコースについて
第11回	子どもの人権と学校	パターナリズムに基づく教員の統治について
第12回	学校の危機管理と安全対策	学校の安全管理が教員に求められるようになった背景及び課題について
第13回	「チームとしての学校」	学校が教員だけで構成されるのではなく，専門職と協働して学校運営を行う際の課題について
第14回	地域・家庭・多様な専門家に開かれた学校づくり	学校外部との連携が求められるようになった背景及び課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の参考文献に記載されている文献を入手し読了すること．大学設置基準第21条第2項の規定に基づく，本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
指定しない

【参考書】
阿内春生編（2024）『基礎から学ぶ教育行政学・教育制度論』昭和堂.
村上祐介・勝野正章（2024）『［改訂新版］教育行政と学校経営』放送大学教育振興会.
青木栄一・川上泰彦（2023）『［改訂版］教育の行政・政治・経営』放送大学教育振興会.
村上祐介・橋野晶寛（2020）『教育政策・行政の考え方』有斐閣.
小川正人（2019）『日本社会の変動と教育政策』左右社.
小川正人（2010）『教育改革のゆくえ』筑摩書房.
小川正人（2010）『現代の教育改革と教育行政』放送大学教育振興会.
藤田英典・大桃敏行編著（2010）『学校改革』（リーディングス日本の教育と社会11）日本図書センター.
藤田英典（1997）『教育改革』岩波書店.
日本教育経営学会編『日本教育経営学会紀要』各年版.
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】
期末試験70%
疑問点の内容30%

【学生の意見等からの気づき】
毎回コメントシートとして疑問点を提出させ，続回にリアクションを行うことで理解が深まることが確認できたため継続する予定である．

【学生が準備すべき機器他】
レジュメは学習支援システムにアップされるため，プリントアウトして持参されたい（推奨）.
レジュメをプリントアウトしない場合はパソコンやタブレット等電子機器によって閲覧されたい.

【その他の重要事項】
大学設置基準第21条第2項の規定に基づき，一単位時間あたり最低4.5時間の自主学習が求められる．

【Outline (in English)】
The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management,safety measure and cooperation with local community, It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.
Grade evaluation is based on 70%of the final exam and 30%of questions.
Outside class, read the literature listed in the bibliography for each class. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

教育心理学

田澤　実

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：キャリアデザイン学部生は、配当年次が異なるため（2年次から受講可）、キャリアデザイン学部の履修の手引きを参照してください。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義、リアクションペーパー提出。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の概要および成績評価等を説明する。
第2回	教育における発達理解の意義	発達と教育の関連
第3回	対人関係の発達	幼児、児童及び生徒の対人関係の発達および主体的学習を支える集団づくりの理解
第4回	認知の発達	乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達
第5回	アイデンティティ	心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
第6回	学習の理論	様々な学習の形態や概念
第7回	学習の指導	主体的な学習活動を支える指導の基礎
第8回	動機づけ	主体的学習を支える動機づけ
第9回	学習の評価	主体的学習を支える学習評価の在り方
第10回	記憶	様々な学習の過程を説明する代表的理論
第11回	性格の理解	乳幼児期から青年期の各時期における個人差
第12回	性格の様々な測定方法	個人差の測定方法
第13回	発達障害の理解	３つの発達障害の具体的特徴および歴史的背景
第14回	試験・まとめと解説	試験を行い、今までの授業のまとめをし、解説を加える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前課題を設ける回がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
子安増生ら 2015『教育心理学 第3版 (ベーシック現代心理学6)』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、試験70％にて評価
〔※試験は論述試験を含む（持ち込み不可）〕

【学生の意見等からの気づき】
昨年度の授業の感想や試験結果を踏まえ、授業で扱うテーマについて一部変更を加えた。

【Outline (in English)】
This course introduces the fundamentals of educational psychology to students taking this course.
By the end of the course, students should be able to do the following:
- To understand the process and characteristics of physical and mental development of infants, children, and students,
- To acquire basic knowledge about the learning of infants, children, and students,
- To understand the basic concept of guidance that supports learning based on development.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on the Term-end examination (70%) and in-class contribution(30%).

教育心理学

輕部　雄輝

単位：**2単位**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**キャリアデザイン学部生は、配当年次が異なるため（2年次から受講可）、キャリアデザイン学部の履修の手引きを参照してください。**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では，子どもの健全な成長と発達，および人格形成を援助する教育場面に関わる心理学的理論と方法について学ぶ。具体的には，下記に関するトピックについて扱う。
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価のあり方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式で行い、講義内容に合わせて対面授業とオンライン授業を組み合わせて実施する。対面授業回では、適宜グループディスカッションも取り入れる。
毎回の授業の最後にミニレポート課題を提示する。当該課題はgoogle form等を用いて、授業後すぐに（対面授業回では教場で）回答することを求める。
オンライン授業回では、オンデマンド形式を採用する。出席は、期日までの動画の視聴と提示された課題への回答（google form等を採用する予定）をもってカウントする。対面授業回では、点呼による出席確認を併せて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容、到達目標、授業形式などを紹介する。
第2回	教育心理学の研究法	教育心理学の分野で頻繁に用いられる研究の手法について、理解する。
第3回	発達の過程	乳幼児期から青年期における様々な発達について理解する。
第4回	学習のメカニズム	様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解する。
第5回	記憶の種類と方略	記憶の構造や種類を説明し、認知の特徴と関連づけて理解する。
第6回	問題解決の理論と方法	問題解決についての様々な理論や方法を理解する。
第7回	知能の発達ととらえ方	知的活動を支える知能の発達ととらえ方について理解する。
第8回	動機づけ	主体的学習を支える動機づけを紹介し、やる気のメカニズムについて理解する。
第9回	自己と対人関係	自己の発達とそれに伴う対人関係の展開について、理解する。
第10回	学級集団の特徴と機能	学級集団の特徴と教師が与える影響について、理解する。
第11回	学校不適応の理解	ストレスのメカニズムと学校不適応の状態像について、理解する。
第12回	発達障害の理解	発達障害の定義や種類を理解し、特性を踏まえた学習支援や生活指導についての基礎的な考え方を理解する。
第13回	学習指導と教育評価	学習指導のあり方と教育評価の方法について、理解する。
第14回	まとめ・到達度の確認	これまでの内容のまとめと到達度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、授業で学んだ内容に関するショートレポートが課される。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教員が適宜指定する。

【参考書】
櫻井茂男（監修）黒田祐二（編著）　2012　『実践につながる教育心理学』　北樹出版
櫻井茂男（編）　2017　『改訂版たのしく学べる最新教育学―教職に関わるすべての人に―心理学』　図書文化
吉川成司・関田和彦・鈎治雄（編著）　2010　『はじめて学ぶ教育心理学』　ミネルヴァ書房
子安増生ら 2015『教育心理学 第3版 (ベーシック現代心理学6)』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】
定期試験（60％）、授業への積極的参加（40％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
対面授業回では、授業内でのグループディスカッションや体験学習等を取り入れ、受講生間の意見交換や実践的な疑似演習の機会を設ける予定です。

【学生が準備すべき機器他】
対面授業回では、プロジェクターを利用し、教員はパワーポイントを用いて説明する。授業の最後に提示する課題は、web媒体を通じての回答を求めるため、PC等の電子端末を持参してください。

【その他の重要事項】
担当者は，適応指導教室でのスクールカウンセラーの実務経歴を有する。関連して、本授業では理論のみならず、可能な限り具体的な実践場面への応用についても受講生とともに検討する。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.
The goal of this course is to understand the motivation and cognitive process in learning for children and to study how to integrate this knowledge into teaching practices.
It is also our aim to understand how teacher-student relationships and each child's disposition and developmental rate can affect their learning process and their ability to adapt to their learning environments.
We will also discuss educational psychology for learners with developmental disabilities.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

教育心理学

児玉　茉奈美

単位：**2単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
備考（履修条件等）：**キャリアデザイン学部生は、配当年次が異なるため（2年次から受講可）、キャリアデザイン学部の履修の手引きを参照してください。**
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では教育心理学を学ぶことで，人が学ぶときに心の中で起きていることを学ぶと同時に，その知識をもとに教育に関わる諸問題を考える力を養う。
授業内で扱う主なトピックは以下である。
・乳幼児期から青年期の各時期における認知発達や社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎
・教育場面で直面し得る現代的課題に関する心理学的検討

【到達目標】
・乳幼児や児童，および生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・乳幼児や児童，および生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け，発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。
・現代社会で生じる問題について理解を深め，自分なりに考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は主に対面での講義である。毎回授業の出席及びリアクションペーパーの提出を課題とし，リアクションペーパーについては次週フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 発達や学習を学ぶということ	授業内容，到達目標，授業形式などを紹介したうえで，本授業で発達や学習について学ぶ目的を明確にする
第2回	運動・言語の発達	子どもの身体や，言語の発達過程について説明する
第3回	認知の発達	子どもが物事を覚えたり理解する発達過程について説明する
第4回	自我の発達	「自分とは何か」を獲得する過程について説明する
第5回	社会性の発達	アタッチメントを基盤とした共感性など社会性の発達ついて説明する
第6回	動機づけ	動機づけ理論について説明し，意欲を高めるにはどうすれば良いか考える
第7回	知識の獲得	子どもが知識を獲得するメカニズムについて説明する
第8回	学習の過程	学習のメカニズムについて説明する
第9回	学習指導の形態	教育目的や方法に応じて，どのような学習指導を行うことが適切か説明し，学生自身が受けてきた学習指導を振り返る
第10回	学習活動を支える指導	子どもの学習を促すためには教師がどのような介入をすればよいか考える
第11回	学級集団づくり	学級やそこにいる教師，子どもたちがどのような関係性を形成し，それが子どもにどのような影響を与えるのか説明し，学校における集団の意義について考える
第12回	学習に対する評価	教育目的や方法に応じた学習評価の観点や時期，評価者をどう検討するかを説明する
第13回	子どものニーズに応じた教育	発達障がいの特徴や支援について説明する
第14回	試験・まとめと解説	授業内で期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
［準備学習］次回の授業内容について，教科書・参考書該当箇所を一読し，事前配布資料を精読する。
［復習］レジュメを参照しながら，学んだ概念，それに関連する先行研究を調べてみたりして理解を深める。
本授業の準備学習および復習時間は合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
児玉佳一（編著）（2019）やさしく学ぶ教職課程：教育心理学　学文社（2300円＋税）

【参考書】
鎌原雅彦・竹鋼誠一郎（2019）やさしい教育心理学〔第5版〕　有斐閣　（2090 円）
櫻井茂男（監修）黒田祐二（編）(2018)実践につながる教育心理学　北樹出版　（2200 円）

【成績評価の方法と基準】
期末テスト50％，平常点（リアクションペーパーの提出を含めた授業への参加度）50％

【学生の意見等からの気づき】
資料の掲示は学期終了時まで継続し，いつでも再度ダウンロードして復習可能にしておくこととする。

【Outline (in English)】
Course outline
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children，learning theory and educational evaluation.
Learning Objectives
The goal of this course is to understand the motivation and cognitive process in learning for children and to study how to integrate this knowledge into teaching practices.
It is also our aim to understand how teacher-student relationships and each child's disposition and developmental rate can affect their learning process and their ability to adapt to their learning environments.
We will also discuss educational psychology for learners with developmental disabilities.
Learning activities outside of classroom
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria
Grading will be decided based on term-end test (50%), short reports in every class (50%).

教育心理学

山上　真貴子

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：キャリアデザイン学部生は、配当年次が異なるため（2年次から受講可）、キャリアデザイン学部の履修の手引きを参照してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は原則として、穴埋めプリントを用いた講義形式で行い、適宜視聴覚教材を使用する。また、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。 レポート課題については、フィードバック希望者に対して個別、または、全体講評をフィードバックする予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	教育における発達理解の意義	発達に応じた学びについて考える。
第2回	認知の発達	学びの背後にある認知発達について考える。
第3回	対人関係の発達	学びを支える家族・仲間・教師との人間関係を考える。
第4回	アイデンティティ	学びと深くつながる自己・アイデンティティについて考える。
第5回	学習の理論	学習についてのさまざまな心理学の理論を紹介する。
第6回	記憶の種類	記憶の仕組みについて知り、学びについての理解を深める。
第7回	動機づけ	学びを支える「やる気」について考える。
第8回	性格の理解	学びや生活の場で見られるさまざまな個人差について考える。
第9回	性格の様々な測定方法	学びや生活の場で見られる個人差の把握の仕方について考える。
第10回	発達障害の理解	専門的知識に基づきつつ、教師という立場から発達障害をどうとらえるべきかを考える。
第11回	発達障害の支援・指導	現在提案されている発達障害に関するさまざまな支援法・指導法を紹介する。
第12回	学習の指導	集団での指導と個別指導をどう両立させていくかを考える。
第13回	学習の評価	現在の教育評価、今後の教育評価について考える。
第14回	試験・まとめと解説	後期を振り返りまとめを行う。試験も同日に実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
興味を持ったトピックについて、積極的に文献を参照し、理解を深めてください。また、授業ごとに出題されるまとめの問題について復習しておきましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップします。各自プリントアウトして授業に持参してください。ただし、希望者には、授業当日に同一内容の印刷資料を配布します。

【参考書】
鎌原雅彦ら 2019『やさしい教育心理学 第5版』有斐閣アルマ
子安増生ら 2015『教育心理学 第3版 (ベーシック現代心理学6)』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】
各回のリアクションペーパーの提出および小テストへの解答等をもとにした平常点（40％）、授業に対する理解をもとに関連する文献を読み、考察を行う期末レポート（30％）、および、小テストの問題から出題する期末テスト（30％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回のリアクションペーパーに、その授業での疑問点や感想等を書いていただきます。多かった質問や、授業の進行に関わるコメントについては、極力授業でフィードバックを行います。
何かあった時には、早めの報連相を心がけましょう（学期末に相談されても対応できない場合があります！）。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムに授業資料をアップします。今後学習支援システム経由でお知らせ発信をすることも多いかと思いますので、このシステムの使い方に慣れておくようにして下さい。

【Outline (in English)】
COURSE OUTLINE: The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.
LEARNING OBJECTIVES: The goal of this course is to understand the motivation and cognitive process in learning for children and to study how to integrate this knowledge into teaching practices.
It is also our aim to understand how teacher-student relationships and each child's disposition and developmental rate can affect their learning process and their ability to adapt to their learning environments.
We will also discuss educational psychology for learners with developmental disabilities.
LEARNING ACTIVITIES OUTSIDE OF CLASSROOM: Students will be expected to have completed the required assignments after each class meetings. Your study time will be more than four hours for a class.
GRADING CRITERIA/POLICY: Grading will be decided based on term paper(30%), term-end examination(30%), and usual performance score(40%).

教育心理学

遠藤　裕子

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：**キャリアデザイン学部生は、配当年次が異なるため（2年次から受講可）、キャリアデザイン学部の履修の手引きを参照してください。**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・対面でもオンラインでも、対話や双方向のやり取りを出来る限り大切にした授業を行います。
・オンデマンド教材の提供を行います。
・授業の始めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容、進め方、評価の仕方について説明します。自分自身が14回の授業で学ぶことを確認します。
第2回	教育における発達理解の意義	教育において「発達過程を理解すること」の意義を理解し、発達の基礎概念について学びます。
第3回	対人関係の発達	乳幼児から青年期にかけての子ども・青年を取りまくさまざまな対人関係、社会性の発達について学びます。
第4回	認知の発達	ピアジェの理論を参照しながら、人の認知発達について学びます。認知発達の過程を通して、幼児期から児童・青年期それぞれに対する教育的関わりの違いや、学校教育について考えます。
第5回	アイデンティティ	エリクソンの理論を中心に、生涯発達と発達の危機、特に青年期の発達課題について学びます。
第6回	学習の理論	条件づけなどの学習に関する基礎的な理論について学びます。
第7回	学習の指導	さまざまな教授法や学習方略について学びます。
第8回	動機づけ	主体的な学習を支える動機づけや学習を効果的に進めるための集団づくりについて学びます。
第9回	学習の評価	学習の成果を評価することの意義や役割について学び、特に学校教育の中で「児童・生徒を評価すること」との関連を考えます。
第10回	記憶の種類	記憶についての心理学的な理論を学び、記憶の仕組みを理解します。また、記憶と日常生活の関わりについて考えます。
第11回	性格の理解	「個性」というものをとらえるために、人格・性格や知的な能力についていくつかの心理学的な理論を学びます。
第12回	性格の様々な測定方法	心理学で使われる諸検査を紹介します。さまざまな測定や検査を学ぶことで「人の個性を理解する」ということについて考えます。
第13回	発達障害の理解	発達障害について正しく学び、理解を深めます。
第14回	発達障害の支援・指導	発達障害をかかえる児童・生徒への支援や指導などについて学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題などは授業日に完結することを基本としますが、事前に文献を読むことや授業内で取り組んだワークシートなどを用いての復習が必要になる場合があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
テキストは指定せず、必要に応じて、参考文献の紹介や資料の提供を行います。

【参考書】
・児玉佳一編著 2020 やさしく学ぶ教職課程 教育心理学 学文舎（2300円＋税）
・子安増生ら 2015『教育心理学 第3版 (ベーシック現代心理学6)』有斐閣 2100円＋税
・文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーや課題(60%)、中間・最終レポート(40%)を総合して成績評価を出します。
Your overall grade in the class will be decided based on the following reflective reports and questions: 80%, Term-end report : 20%

【学生の意見等からの気づき】
これまでの授業改善アンケートではすべての項目で概ね良い評価を得ました。継続していくと共に、毎回のリアクションペーパーの記述を大事に扱い、双方向のやり取りが出来るように留意します。

【学生が準備すべき機器他】
教材・資料の提供や課題の提出は学習支援システムを活用しますので、IT機器を準備してください。

【その他の重要事項】
小学校から大学院まですべての校種での教職経験があります。また、心理職の立場での授業や学校運営へのアドバイザーの経験もあり、本授業では関連した事例を取り上げ、具体的な場面から学ぶ機会にもします。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.
The goal of this course is to understand the motivation and cognitive process in learning for children and to study how to integrate this knowledge into teaching practices.
It is also our aim to understand how teacher-student relationships and each child's disposition and developmental rate can affect their learning process and their ability to adapt to their learning environments.

We will also discuss educational psychology for learners with developmental disabilities.
Before each class meeting, students will be expected to have read books or documents. After each class meeting, students will be expected to have review worksheet.It takes 4hours.
Grading will be decided on short reports that students will submit each class meeting(80%)、and term-end report(20%).

教育心理学

児玉　茉奈美

単位：**2単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
備考（履修条件等）：**キャリアデザイン学部生は、配当年次が異なるため（2年次から受講可）、キャリアデザイン学部の履修の手引きを参照してください。**
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では教育心理学を学ぶことで，人が学ぶときに心の中で起きていることを学ぶと同時に，その知識をもとに教育に関わる諸問題を考える力を養う。
授業内で扱う主なトピックは以下である。
・乳幼児期から青年期の各時期における認知発達や社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎
・教育場面で直面し得る現代的課題に関する心理学的検討

【到達目標】
・乳幼児や児童，および生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・乳幼児や児童，および生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け，発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。
・現代社会で生じる問題について理解を深め，自分なりに考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は主に対面での講義である。毎回授業の出席及びリアクションペーパーの提出を課題とし，リアクションペーパーについては次週フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 発達や学習を学ぶということ	授業内容，到達目標，授業形式などを紹介したうえで，本授業で発達や学習について学ぶ目的を明確にする
第2回	運動・言語の発達	子どもの身体や，言語の発達過程について説明する
第3回	認知の発達	子どもが物事を覚えたり理解する発達過程について説明する
第4回	自我の発達	「自分とは何か」を獲得する過程について説明する
第5回	社会性の発達	アタッチメントを基盤とした共感性など社会性の発達ついて説明する
第6回	動機づけ	動機づけ理論について説明し，意欲を高めるにはどうすれば良いか考える
第7回	知識の獲得	子どもが知識を獲得するメカニズムについて説明する
第8回	学習の過程	学習のメカニズムについて説明する
第9回	学習指導の形態	教育目的や方法に応じて，どのような学習指導を行うことが適切か説明し，学生自身が受けてきた学習指導を振り返る
第10回	学習活動を支える指導	子どもの学習を促すためには教師がどのような介入をすればよいか考える
第11回	学級集団づくり	学級やそこにいる教師，子どもたちがどのような関係性を形成し，それが子どもにどのような影響を与えるのか説明し，学校における集団の意義について考える
第12回	学習に対する評価	教育目的や方法に応じた学習評価の観点や時期，評価者をどう検討するかを説明する
第13回	子どものニーズに応じた教育	発達障がいの特徴や支援について説明する
第14回	試験・まとめと解説	授業内で期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
［準備学習］次回の授業内容について，教科書・参考書該当箇所を一読し，事前配布資料を精読する。
［復習］レジュメを参照しながら，学んだ概念，それに関連する先行研究を調べてみたりして理解を深める。
本授業の準備学習および復習時間は合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
児玉佳一（編著）（2019）やさしく学ぶ教職課程：教育心理学　学文社（2300円＋税）

【参考書】
鎌原雅彦・竹鋼誠一郎（2019）やさしい教育心理学〔第5版〕　有斐閣　（2090 円）
櫻井茂男（監修）黒田祐二（編）(2018)実践につながる教育心理学　北樹出版　（2200 円）

【成績評価の方法と基準】
期末テスト50％，平常点（リアクションペーパーの提出を含めた授業への参加度）50％

【学生の意見等からの気づき】
資料の掲示は学期終了時まで継続し，いつでも再度ダウンロードして復習可能にしておくこととする。

【Outline (in English)】
Course outline
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children，learning theory and educational evaluation.
Learning Objectives
The goal of this course is to understand the motivation and cognitive process in learning for children and to study how to integrate this knowledge into teaching practices.
It is also our aim to understand how teacher-student relationships and each child's disposition and developmental rate can affect their learning process and their ability to adapt to their learning environments.
We will also discuss educational psychology for learners with developmental disabilities.
Learning activities outside of classroom
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria
Grading will be decided based on term-end test (50%), short reports in every class (50%).

教育課程論

飯窪　真也

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎回、講義とグループワークを交えた形式で行い、リアクションペーパーを提出していただきます。
講義の後半では、グループで指導計画の作成と発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業で扱う内容の全体像を俯瞰します
第2回	カリキュラムとは	カリキュラムデザインの基本的な考え方について学びます
第3回	学習指導要領とは	教育課程編成の基準となる学習指導要領について学びます
第4回	学習指導要領の変遷	教育課程編成の基準となる学習指導要領の移り変わりについて考察します
第5回	学習指導要領改訂の要点	新学習指導要領改訂の要点について学びます
第6回	教育内容の選択	教育内容選択の原理について学びます
第7回	教育内容の組織化	教育内容を組織化する際の基本的な考え方について学びます
第8回	学力論の系譜	学力についての考え方を学びます
第9回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方について学びます
第10回	社会に開かれた教育課程	社会に開かれた教育課程の考え方について学びます
第11回	教育課程と指導計画－通時性と共時性	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案します
第12回	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案・検討します
第13回	カリキュラム評価	カリキュラムデザインにおける評価の考え方について学びます
第14回	授業のまとめとテスト	授業内容を振り返り、今後につなげます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義内容の復習を行ってください。
指導計画の作成と発表にあたって授業時間外の準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【参考書】
松尾知明『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018年。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（30％）、リアクションペーパー（30％）、授業内試験（40％）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
活動の時間を十分に確保するようにします。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.
【Learning Objectives】
Students are able to understand the significance of school curriculum, methods of their developments, and ideas and implementations of the curriculum management for competency building.
【Learning activities outside of classroom】
Review the content of each lecture. Preparation outside of class time is required for creating and presenting a lesson plan. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Comprehensive judgment will be made based on 30%of participation in class, 30%of reaction papers, 40%of essay test in class.

教育課程論

川津　貴司

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎回の授業は「テキストの講読」という形式で行う。具体的には、学生による「レジュメ発表」（テキストの内容説明）と、グループを作っての「話し合い」の二部構成で進める。また学生には、毎回の授業の前にテキストをあらかじめ読み、「小レポート」を作成してきてもらう。
フィードバックの方法としては、毎回の「小レポート」に対して教員からコメントを付して返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	コンテンツからコンピテンシーへ
第2回	カリキュラムとは	学びの経験のデザイン
第3回	教育内容の選択	教育の目的
第4回	教育内容の組織化	教育内容の選択・配列
第5回	学習指導要領とは	性格及び位置付け
第6回	学習指導要領の変遷	歴史的な展開
第7回	学習指導要領改訂の要点	教育課程編成の目的及び基本原理
第8回	学力論の系譜	学力はどのように問題となってきたか
第9回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方
第10回	社会に開かれた教育課程	教育課程のデザイン
第11回	教育課程と指導計画－通時性と共時性	指導計画のデザイン
第12回	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	学年・学期・単元をまたぐ視点
第13回	カリキュラム評価	ＰＤＣＡサイクルとカリキュラムの改善
第14回	授業のまとめとテスト	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業の前にテキストを読み、「小レポート」を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）は指定なし。プリントを配布する。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
松尾知明『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018年。

【成績評価の方法と基準】
教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解したか、という観点から評価を行う。
毎回の小レポート（５０％）、期末試験（５０％）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生さんどうしの意見交換を大切にし、「話しやすい」環境づくりを心がけています。
「他の学生さんの考え・意見をいろいろ聞いてみたい」という人にも向いている授業です。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
授業の進め方などについては、受講者と相談のうえ最終的に決定します。初回授業には必ず出席してください。
また前述のとおり、「話し合い」を積み重ねていく授業なので、継続的に参加できる人が受講してください。

【Outline (in English)】
This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.
Students are able to understand the significance of school curriculum, methods of their developments, and ideas and implementations of the curriculum management for competency building.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following,
Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

教育課程論

飯窪　真也

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎回、講義とグループワークを交えた形式で行い、リアクションペーパーを提出していただきます。
講義の後半では、グループで指導計画の作成と発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業で扱う内容の全体像を俯瞰します
第2回	カリキュラムとは	カリキュラムデザインの基本的な考え方について学びます
第3回	学習指導要領とは	教育課程編成の基準となる学習指導要領について学びます
第4回	学習指導要領の変遷	教育課程編成の基準となる学習指導要領の移り変わりについて考察します
第5回	学習指導要領改訂の要点	新学習指導要領改訂の要点について学びます
第6回	教育内容の選択	教育内容選択の原理について学びます
第7回	教育内容の組織化	教育内容を組織化する際の基本的な考え方について学びます
第8回	学力論の系譜	学力についての考え方を学びます
第9回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方について学びます
第10回	社会に開かれた教育課程	社会に開かれた教育課程の考え方について学びます
第11回	教育課程と指導計画－通時性と共時性	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案します
第12回	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案・検討します
第13回	カリキュラム評価	カリキュラムデザインにおける評価の考え方について学びます
第14回	授業のまとめとテスト	授業内容を振り返り、今後につなげます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義内容の復習を行ってください。
指導計画の作成と発表にあたって授業時間外の準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【参考書】
松尾知明『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018年。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（30％）、リアクションペーパー（30％）、授業内試験（40％）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
活動の時間を十分に確保するようにします。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.
【Learning Objectives】
Students are able to understand the significance of school curriculum, methods of their developments, and ideas and implementations of the curriculum management for competency building.
【Learning activities outside of classroom】
Review the content of each lecture. Preparation outside of class time is required for creating and presenting a lesson plan. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Comprehensive judgment will be made based on 30%of participation in class, 30%of reaction papers, 40%of essay test in class.

教育課程論

黄　郁倫

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、カリキュラムに関して、その概念の歴史的変遷、近年の改革動向、特徴的な開発事例、という3つの観点から扱うことによって、より多角的に理解することを目指す。また、カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントとカリキュラムに基づいたICTの活用の考え方・進み方について理解する。

【到達目標】
21世紀社会の資質・能力の育成を目指した教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進み方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は、講義とともに主にグループディスカッションを行われる。事例は、VTRなども利用しできるだけ具体的に紹介することを心がける。また、毎回授業の際には、振り返りのコメントペーパーの提出を求める。振り返りのフィードバックは、毎回授業の始めの時間で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	コンテンツからコンピテンシーへ
第2回	カリキュラムとは	学びの経験のデザイン
第3回	教育内容の選択	教育の目的
第4回	教育内容の組織化	教育内容の選択・配列
第5回	学習指導要領とは	性格及び位置付け
第6回	学習指導要領の変遷	歴史的な展開
第7回	学習指導要領改訂なのポイント	教育課程編成の目的及び基本原理
第8回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方・進み方
第9回	社会に開かれた教育課程	教育課程のデザイン
第10回	教育課程と指導計画(1)	指導計画のデザイン
第11回	教育課程と指導計画(2)	学年・学期・単元をまたぐ視点
第12回	教育課程と指導計画(3)	教科・領域の横断およびICT教育の活用
第13回	カリキュラム評価	カリキュラムの改善
第14回	授業のまとめ	日本のおける特徴的なカリキュラム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
扱う概念や理論が多岐に亘るため、受講者には、レジュメや参考文献を活用して毎回の復習を丁寧に行うことが求められる。また、授業の内容により、文献の読みや資料の調査が宿題として出される。本授業の準備・復習時間は、合計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
佐藤学『教育方法学』岩波書店、1996年
佐藤学『教育の方法』左右社、2010年
秋田喜代美／藤江康彦『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会、2010年
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】
コメントペーパー及び授業への参加姿勢40％
ホームワーク20％
期末レポート40％

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの時間と個人の振り返りの時間をバランスを取って保障する。

【Outline (in English)】
Course outline:
This class aims at providing diverse understanding of the concept of curriculum by introducing it from three perspectives: historical changes of the concept, recent reform trends, and characteristic reform cases. In addition, through studying researches on curriculum and the curriculum guidelines, it is hoped to help students to understand the significance of curriculum and the usage of ICT as well as the practical way to organize, design, study, and evaluate it.
Learning objectives:
Students are able to understand the significance of school curriculum, methods of their developments, and ideas and implementations of the curriculum for competency building.
Learning activities outside of classroom:
Since the concepts and theories are diverse, students are required to carefully review resumes and references. In addition, depending on the content of each lecture, reading and investigating information on particular topics may be assigned as homework. The preparation and review time for this class is about 4 hours every week.
Grading criteria/Policy:
Attendance and learning attitude 40%
Homework 20%
Report 40%

教育課程論

飯窪　真也

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎回、講義とグループワークを交えた形式で行い、リアクションペーパーを提出していただきます。
講義の後半では、グループで指導計画の作成と発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業で扱う内容の全体像を俯瞰します
第2回	カリキュラムとは	カリキュラムデザインの基本的な考え方について学びます
第3回	学習指導要領とは	教育課程編成の基準となる学習指導要領について学びます
第4回	学習指導要領の変遷	教育課程編成の基準となる学習指導要領の移り変わりについて考察します
第5回	学習指導要領改訂の要点	新学習指導要領改訂の要点について学びます
第6回	教育内容の選択	教育内容選択の原理について学びます
第7回	教育内容の組織化	教育内容を組織化する際の基本的な考え方について学びます
第8回	学力論の系譜	学力についての考え方を学びます
第9回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方について学びます
第10回	社会に開かれた教育課程	社会に開かれた教育課程の考え方について学びます
第11回	教育課程と指導計画－通時性と共時性	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案します
第12回	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案・検討します
第13回	カリキュラム評価	カリキュラムデザインにおける評価の考え方について学びます
第14回	授業のまとめとテスト	授業内容を振り返り、今後につなげます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義内容の復習を行ってください。
指導計画の作成と発表にあたって授業時間外の準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【参考書】
松尾知明『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018年。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（30％）、リアクションペーパー（30％）、授業内試験（40％）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
活動の時間を十分に確保するようにします。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.
【Learning Objectives】
Students are able to understand the significance of school curriculum, methods of their developments, and ideas and implementations of the curriculum management for competency building.
【Learning activities outside of classroom】
Review the content of each lecture. Preparation outside of class time is required for creating and presenting a lesson plan. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Comprehensive judgment will be made based on 30%of participation in class, 30%of reaction papers, 40%of essay test in class.

教育方法論（ICT活用を含む）

岩本　俊一

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育の方法や技術のなかにICTの活用を位置づけ、基礎的な理論や概念、活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための学習指導案を作成する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざして、教育の方法や技術、ICTの活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、学習指導案を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
まず、教育における方法の問題を、教授技術の学として成立するにいたる道筋をたどる中で論じるとともに日本の学校教育における具体的ありかたをいくつかの実践例を取り上げて分析する。さらに情報通信技術の活用を教師の専門性とかかわらせて考察する。
　課題等を課した場合には、課題締切後の授業冒等、適宜フィードバックの機会を設ける予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ねらいと概要
第2回	教育方法、ICTの活用と教師の専門性	教師の専門性について考える。その際、ICTの活用についても留意する
第3回	教育方法とICTの基礎的理論と実践	児童生徒の学びと学習理論についてICTの活用を含めて考える。
第4回	ICT活用の意義と理論	ICTを用いた教育の在り方について考察する。
第5回	新学習指導要領と教育方法、ICTの活用	新学習指導要領とICTを活かした資質・能力の育成について論じる
第6回	教育方法と情報活用能力（情報モラルを含む）	教育方法と情報活用能力について論じる。
第7回	教育目標とICTを活用した授業のデザイン	単元学習活動における目標及び設定について論じる（ICT活用を含む）
第8回	学力と評価の観点（ICT活用を含む）	ICT活用の観点を含めた評価の考え方・進め方について論じる
第9回	主体的・対話的で深い学びとICTの活用	主体的な学び/対話的な学びについて論じる
第10回	個に応じた指導の工夫とICTの活用	個に応じた指導について考える
第11回	ICT活用を含めた教材の作成・活用	情報機器の基本的な使用方法及び活用方法について
第12回	発問や板書、ICT活用などの指導技術	発問や板書などの指導の基本的技術について論じる
第13回	ICT活用を考慮した学習評価	ICT活用を考慮した評価の考え方・進め方について論じる
第14回	授業のまとめ、テスト	ふりかえりと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の後に内容をまとめるなど、復習を通じて理解を深めること。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に使用しない。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）、松尾知明『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018年。

【成績評価の方法と基準】
期末に行われる試験（授業内試験）100％で評価する。
平常点は加味しない。

【学生の意見等からの気づき】
指摘された点については、予測された点も多々あり、可能な限り真摯に改善に努める予定である。
ただし、正反対の意見があるものも散見されるため、その部分については慎重に検討したいと考えている。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to help students understand basic concepts, ideas and application regarding education methods and techniques, information communication technology (ICT) and teaching materials, and students are further able to design lesson plans effectively for competency building
【Learning objectives】
Students are able to understand basic concepts, ideas and application regarding education methods and techniques, information communication technology (ICT) and teaching materials, and students are further able to design lesson plans effectively for competency building
【Learning activities outside of classroom】
Make an effort to rewiew，such as summarizing the content after the lecture. Time for preparation and rewiew is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Evaluated only by the final exam(１００%).

教育方法論（ICT活用を含む）

松尾　知明

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
資質・能力を育成する教育への転換が求められるなかで、教育の現場では教師一人ひとりに授業デザイン力が求められる時代になっている。本授業は、教育の方法や技術のなかに情報通信技術の活用を位置づけ、基礎的な理論や概念、活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための学習指導案を作成する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報通信技術の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、学習指導案を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
対面で授業を実施し、学習支援システムを活用する。教育の方法及び技術、情報通信技術についての基礎的な概念、考え方や活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。授業のなかで課題についてのフィードバックを行う。授業中・復習に使用するので教科書を必ず購入すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、教育方法と中心的な課題としての情報通信技術の活用	学びのイノベーションの時代
2	教育方法、情報通信技術活用（学習指導と校務）と教師の専門性	学びのデザイン力をつけるには
3	教育方法と情報通信技術の基礎的理論と実践	学びと学習理論
4	情報通信技術の活用の意義と理論	情報通信技術による教育の革新
5	新学習指導要領と教育方法、情報通信技術の活用	資質・能力の育成に向けて
6	教育方法と情報活用能力	学習活動の構想
7	教育目標と情報通信技術を活用した授業のデザイン教育の内容と学習活動	単元設定の理由、単元の目標単元と指導計画、学習活動の構想
8	学力と評価の観点（情報通信技術を含む）	評価規準の設定
9	主体的・対話的で深い学びと情報通信技術の活用	思考力を育む
10	個に応じた指導の工夫と情報通信技術の活用	一斉指導から個に応じた指導へ
11	教材の作成・活用と情報通信技術の活用	学びのツール
12	学習評価と情報通信技術の活用	評価の考え方・進め方
13	発問や板書、情報通信機器などの指導技術	授業を実践する
14	教育方法と情報通信技術の活用に関する授業まとめ	授業の振り返り、テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として、教科書の該当する部分や資料を読んでくるとともに、課された課題を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
松尾知明『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018年。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（30％）、課題（40％）、テスト（30％）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
議論のやり方を工夫をする。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans to enhance competencies and actually design them.
【到達目標（Learning Objectives）】
Students are able to understand basic concepts, ideas and application regarding education methods and techniques, information communication technology (ICT) and teaching materials, and students are further able to design lesson plans effectively for competency building.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students will be expected to read the text and materials, prepare a presentation, research teaching materials and write lesson plans.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Grading will be decided based on in class contribution (30%), assignments and presentations (40%) and term-end examination (30%).

教育方法論（ICT活用を含む）

黄　郁倫

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育の方法や技術のなかにICTの活用を位置づけ、教育方法の基礎的な理論や概念、ICT活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための学習指導案を作成する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざして、教育の方法や技術、ICTの活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、学習指導案を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は、講義とともに主にグループディスカッションを行われる。事例は、VTRなども利用しできるだけ具体的に紹介することを心がける。また、毎回授業の際には、振り返りのコメントペーパーの提出を求める。振り返りのフィードバックは、毎回授業の始めの時間で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	「学び」を問い直す。
第2回	教育方法、情報通信技術活用と教師の専門性	教師の専門性を探りながら教育方法を考える。
第3回	教育方法の基礎的理論と実践	教育方法の理論基礎を遡る。
第4回	情報通信技術の活用の意義と理論	ICT教育の背景を紹介する。
第5回	新学習指導要領と教育方法、情報通信技術の活用	ICT教育の理論を紹介する。
第6回	教育方法と情報活用能力	授業におけるICT教育の実践を紹介する。
第7回	教育目標と授業のデザイン	指導案の作成について考える。
第8回	学力と評価の観点	学力と評価の関係について考える。
第9回	主体的・対話的で深い学び	アクティブ・ラーニングについて考える。
第10回	個に応じた指導の工夫	個別最適化について考える。
第11回	教材の作成・活用と情報通信技術の活用	教材研究とICT機材の活用についてを紹介する。
第12回	発問や板書、情報通信機器などの指導技術	教材研究とICT教育の活用の実践を紹介する。
第13回	学習評価	評価の仕方について考える。
第14回	授業のまとめ、テスト	授業のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
扱う概念や理論が多岐に亘るため、受講者には、レジュメや参考文献を活用して毎回の復習を丁寧に行うことが求められる。また、授業の内容により、文献の読みや資料の調査が宿題として出される。本授業の準備・復習時間は、各４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
佐藤学　『教育の方法』　左右社、2010年
秋田喜代美　『新しい時代の教職入門　改訂版』　有斐閣アルマ、2015年
文部科学省　「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
松尾知明　『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2020年。

【成績評価の方法と基準】
コメントペーパー及び授業への参加姿勢40％
ホームワーク20％
期末レポート40％

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの時間と個人の振り返りの時間をバランスを取って保障する。

【Outline (in English)】
[Course outline]
This course aims at providing the basic theory and concept of pedagogical methods as well as the skills of using ICT technology in class in order to make students have the ability to create lesson plans based on the knowledge and skills listed in National Learning Guidance.
[Learning objects]
Students should be able to have knowledge and skills related to educational methods, use ICT for education, and effectively create lesson plans based on National Learning Guidance.
[Learning activities outside of classroom]
This course requires about 4 hours of reviewing and doing assignments after class.
[Grading criteria/Policy]
Attendance and learning attitudes 40%
Assignments 20%
Final report 40%

教育方法論（ICT活用を含む）

川津　貴司

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育の方法や技術のなかにICTの活用を位置づけ、基礎的な理論や概念、ICTの活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための学習指導案を作成する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざして、教育の方法や技術、ICTの活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、学習指導案を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎回の授業は「テキストの講読」という形式で行う。具体的には、学生による「レジュメ発表」（テキストの内容説明）と、グループを作っての「話し合い」の二部構成で進める。また学生には、毎回の授業の前にテキストをあらかじめ読み、「小レポート」を作成してきてもらう。
フィードバックの方法としては、毎回の「小レポート」に対して教員からコメントを付して返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	教育方法の中心的課題としてのICTの活用
第2回	教育方法と教師の専門性	ICT活用（学習指導と校務）と教師の専門性
第3回	教育方法の基礎的理論と実践	ICTを活用した児童生徒の学びと学習理論
第4回	ICT活用の意義と理論	ICTを活用した学習指導と校務（統合型校務支援システムを含む）の意義と理論
第5回	新学習指導要領と教育方法、ICTの活用	情報モラルを含む各教科等での横断的活用
第6回	教育方法と情報活用能力	活動的な学びの組織化（情報モラルを含む）
第7回	教育目標と授業のデザイン	単元設定の目標（ICT活用を含む）
第8回	学力の観点	ICTを活用した学力の観点
第9回	主体的・対話的で深い学び	対話的学びとICTの活用
第10回	個に応じた指導の工夫	ICTを活用した個性を生かす方法
第11回	教材の作成・活用	各教科等の特性に応じたICT（情報モラルを含む）の活用
第12回	発問や板書などの指導技術	ICTを活用した指導技術を事例から学ぶ
第13回	学習評価	評価におけるICTの活用
第14回	教育方法とICT活用に関する授業のまとめ、テスト	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業の前にテキストを読み、「小レポート」を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）は指定しない。プリントを配布する。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」「教育の情報化に関する手引き」（最新版）
松尾知明『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018年。

【成績評価の方法と基準】
教育の方法及び技術、ICT及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付け、単元指導計画を効果的に作成することができるか、という観点から評価を行う。
毎回の小レポート（５０％）、期末試験（５０％）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生さんどうしの意見交換を大切にし、「話しやすい」環境づくりを心がけています。
「他の学生さんの考え・意見をいろいろ聞いてみたい」という人にも向いている授業です。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
授業の進め方などについては、受講者と相談のうえ最終的に決定します。初回授業には必ず出席してください。
また前述のとおり、「話し合い」を積み重ねていく授業なので、継続的に参加できる人が受講してください。

【Outline (in English)】
This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans to enhance competencies and actually design them.
Students are able to understand basic concepts, ideas and application regarding education methods and techniques, information communication technology (ICT) and teaching materials, and students are further able to design lesson plans effectively for competency building.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four
hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following,
Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

教育方法論（ICT活用を含む）

黄　郁倫

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育の方法や技術のなかにICTの活用を位置づけ、教育方法の基礎的な理論や概念、ICT活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための学習指導案を作成する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざして、教育の方法や技術、ICTの活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、学習指導案を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は、講義とともに主にグループディスカッションを行われる。事例は、VTRなども利用しできるだけ具体的に紹介することを心がける。また、毎回授業の際には、振り返りのコメントペーパーの提出を求める。振り返りのフィードバックは、毎回授業の始めの時間で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	「学び」を問い直す。
第2回	教育方法、情報通信技術活用と教師の専門性	教師の専門性を探りながら教育方法を考える。
第3回	教育方法の基礎的理論と実践	教育方法の理論基礎を遡る。
第4回	情報通信技術の活用の意義と理論	ICT教育の背景を紹介する。
第5回	新学習指導要領と教育方法、情報通信技術の活用	ICT教育の理論を紹介する。
第6回	教育方法と情報活用能力	授業におけるICT教育の実践を紹介する。
第7回	教育目標と授業のデザイン	指導案の作成について考える。
第8回	学力と評価の観点	学力と評価の関係について考える。
第9回	主体的・対話的で深い学び	アクティブ・ラーニングについて考える。
第10回	個に応じた指導の工夫	個別最適化について考える。
第11回	教材の作成・活用と情報通信技術の活用	教材研究とICT機材の活用についてを紹介する。
第12回	発問や板書、情報通信機器などの指導技術	教材研究とICT教育の活用の実践を紹介する。
第13回	学習評価	評価の仕方について考える。
第14回	授業のまとめ、テスト	授業のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
扱う概念や理論が多岐に亘るため、受講者には、レジュメや参考文献を活用して毎回の復習を丁寧に行うことが求められる。また、授業の内容により、文献の読みや資料の調査が宿題として出される。本授業の準備・復習時間は、各４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
佐藤学　『教育の方法』　左右社、2010年
秋田喜代美　『新しい時代の教職入門　改訂版』　有斐閣アルマ、2015年
文部科学省　「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
松尾知明　『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2020年。

【成績評価の方法と基準】
コメントペーパー及び授業への参加姿勢40％
ホームワーク20％
期末レポート40％

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの時間と個人の振り返りの時間をバランスを取って保障する。

【Outline (in English)】
[Course outline]
This course aims at providing the basic theory and concept of pedagogical methods as well as the skills of using ICT technology in class in order to make students have the ability to create lesson plans based on the knowledge and skills listed in National Learning Guidance.
[Learning objects]
Students should be able to have knowledge and skills related to educational methods, use ICT for education, and effectively create lesson plans based on National Learning Guidance.
[Learning activities outside of classroom]
This course requires about 4 hours of reviewing and doing assignments after class.
[Grading criteria/Policy]
Attendance and learning attitudes 40%
Assignments 20%
Final report 40%

教育相談

田澤　実

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：2024年度以前キャリアデザイン学部入学生はC7161を受講してください。配当年次が異なります。（2年次から受講可）
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・学校における教育相談の意義と理論
・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）
・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携

【到達目標】
・幼児・児童・生徒の心理的特性や教育的課題を適切に理解する
・幼児・児童・生徒の発達の状況を把握しながら教育相談を進めるための基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義とリアクションペーパー提出。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	学校における教育相談の意義
第2回	幼児期、児童期の発達	幼児、児童の心理的特質や教育的課題
第3回	青年期の発達	生徒の心理的特質や教育的課題
第4回	成人期の発達	保護者の心理的特質
第5回	カウンセリングの基礎	カウンセリングにおける基本的態度
第6回	カウンセリングの技法	カウンセリングにおける傾聴、質問技法
第7回	教育相談の進め方	教育相談を進める際に必要な基礎的知識
第8回	非行に関する相談	非行に関連した教育相談の具体的な進め方やポイント
第9回	いじめに関する相談	いじめに関連した教育相談の具体的な進め方やポイント
第10回	不登校に関する相談	不登校に関連した教育相談の具体的な進め方やそのポイント
第11回	虐待に関する相談	虐待に関連した教育相談の具体的な進め方やそのポイント
第12回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりに関連した教育相談の具体的な進め方やそのポイント
第13回	発達障害に関する相談	発達障害に関連した教育相談の具体的な進め方やそのポイント
第14回	外部機関との連携	組織的な取組みや連携

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題を設ける回がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
渡部昌平（編著）柴田健・田澤実 2018「実践 教育相談～個人と集団を伸ばす「最強のクラス作り」～」川島書店

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、試験70％にて評価。
〔※試験は論述試験を含む（持ち込み不可）〕

【学生の意見等からの気づき】
昨年度の授業の感想や定期試験の回答傾向を総合的に判断して調整する

【Outline (in English)】
This course is designed to provide students with foundational knowledge in educational counseling and organizational strategies. By the end of this course, students will be able to:
Understand the psychological characteristics and educational challenges infants, toddlers, children, and older students face.
Develop critical skills necessary for conducting educational consultations, considering the developmental stages of infants, toddlers, children, and older students.
Regular attendance and completion of tasks assigned after each class session are compulsory. Students should plan to allocate more than four hours of study time per class. The final grade for the course will be based on an examination (70%) and in-class participation (30%).

教育相談

土屋　弥生

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：2024年度以前キャリアデザイン学部入学生はC7163を受講してください。配当年次が異なります。（2年次から受講可）
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・学校における教育相談の意義と理論
・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）
・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携

【到達目標】
教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でおこないます。小テストや課題等の提出は「学習支援システム」を通じておこなう予定です。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った小テスト、課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	科目の概要（授業の進め方、目標、授業時間内の学習など）、学校における教育相談の意義と課題を知る。
第2回	幼児期、児童期の発達	幼児期、児童期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第3回	青年期の発達	青年期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第4回	成人期の発達	成人期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第5回	カウンセリングの基礎	学校における教育相談に必要な心理学の基礎的な理論・概念、カウンセリングの基礎について学ぶ。
第6回	カウンセリングの技法	教育相談をおこなう上で必要な、受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法について学ぶ。
第7回	教育相談の進め方	教育現場における教育相談の進め方について学び、学校教育におけるカウンセリングマインドや組織的対応の必要性を理解する。
第8回	非行に関する相談	非行の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第9回	いじめに関する相談	いじめの現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第10回	不登校に関する相談	不登校の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第11回	発達障害に関する相談	発達障害のあり方と課題について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第12回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりの現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第13回	虐待に関する相談	虐待の現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第14回	外部機関との連携	医療・福祉・心理等の専門機関について学び、教育相談における外部機関との連携の意義や必要性について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・第1回「ガイダンス」
事前学習（2時間）シラバスに書かれた内容を理解し、科目の概要をおおよそ把握しておく。
事後学習（2時間）授業内容を振り返り、学校における教育相談の意義と課題についてまとめておく。
・第2回「幼児期、児童期の発達」
事前学習（2時間）児童期の心理、発達について参考書、関連書籍等で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、児童期における問題と教育相談についてまとめておく。
・第3回「青年期の発達」
事前学習（2時間）青年期の心理、発達について参考書、関連書籍等で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、青年期における問題と教育相談についてまとめておく。
・第4回「成人期の発達」
事前学習（2時間）成人期の心理、発達について参考書、関連書籍等で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、成人期における問題と教育相談についてまとめておく。
・第5回「カウンセリングの基礎」
事前学習（2時間）カウンセリングについて参考書、関連書籍で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、カウンセリングの基礎となる理論についてまとめておく。
・第6回「カウンセリングの技法」
事前学習（2時間）カウンセリングの技法について参考書、関連書籍等で調べておく。
事後学習（2時間）教育相談の際に必要なカウンセリングの技法についてまとめておく。
・第7回「教育相談の進め方」
事前学習（2時間）教育相談の進め方について参考書、関連書籍等で調べておく。
事後学習（2時間）学校において必要となるカウンセリングマインドについてまとめておく。
・第8回「非行に関する相談」
事前学習（2時間）非行の現状について、
事後学習（2時間）授業を振り返り、非行の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第9回「いじめに関する相談」
事前学習（2時間）いじめの現状について参考書、文部科学省のHP等で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、いじめの問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第10回「不登校に関する相談」
事前学習（2時間）不登校の現状について参考書、文部科学省のHP等で調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、不登校の問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第11回「発達障害に関する相談」
事前学習（2時間）発達障害について参考書、関連書籍等で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、発達障害の問題や課題に対応する教育相談のあり方についてまとめておく。
・第12回「ひきこもりに関する相談」
事前学習（2時間）ひきこもりの現状について教科書、関連書籍等で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、ひきこもりの問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第13回「虐待に関する相談」
事前学習（2時間）虐待の現状について参考書、関連書籍等で調べておく。これまでの授業を振り返り、復習しておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、虐待の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第14回「外部機関との連携」
事前学習（2時間）学校以外の諸機関の子供・若者支援について、参考書、関連図書等で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、教育相談における外部機関との連携の意義やあり方についてまとめておく。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しませんが、適宜参考書等を参照してください。

【参考書】
『教師と保護者のための子ども理解の現象学』土屋弥生著（八千代出版）
『教師を目指す人たちのための生徒指導・教育相談』望月由起、劉麗鳳編著（学事出版）
文部科学省HP https://www.mext.go.jp/

【成績評価の方法と基準】
小テスト（40％）、期末レポート（40％）、平常点（20％）とする。
小テスト、期末レポートは「学習支援システム」上でおこなう。

【学生の意見等からの気づき】
授業アンケートにおける意見・要望を踏まえ、授業で使用するプリントについて、学生の皆さんの学習がより進めやすいように工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
授業で使用する資料、プリント等はPDFで学習支援システムに掲載する予定ですので、各回とも授業前に各自入手するようにしてください。また、小テスト・課題提出についても学習支援システムを利用しますので、必要な機器等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】
担当者は学校心理士スーパーバイザー資格を持つ教員であり、学校教育現場で心理教育的支援をおこなった実務経験をもつ。この経験を基に、実際の教育相談のあり方や進め方についてできる限り具体的に講義をおこなう。

【Outline (in English)】
【Course outline】The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.
【Learning Objectives】The goals of this course are to acquire the basic knowledge necessary to appropriately understand and support individual psychological characteristics and educational issues of infants, children, and students while responding to their developmental situations.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Lecture/Exercise（two-credits）
【Grading Criteria /Policies】Your overall grade in the class will be decided based on the following
Mini tests: 40%, Term-end report : 40%, in class contribution: 20%

教育相談

児玉　茉奈美

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：2024年度以前キャリアデザイン学部入学生はC7162を受講してください。配当年次が異なります。（2年次から受講可）
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では，学校における教育相談の意義と理論を学ぶ。具体的には，子どもの理解とかかわりの基本的な視点，子どもが現実にかかえる不適応の問題，そのアセスメントやカウンセリングの方法を理解することを目指す。

【到達目標】
・乳幼児や児童，および生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・乳幼児や児童，および生徒とのかかわりの基本的な視点を身につける。
・現代社会で子どもがかかえる問題について理解を深め，そのアセスメントやカウンセリングの方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は主に対面での講義である。毎回授業の出席及びリアクションペーパーの提出を課題とし，リアクションペーパーについては次週フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方を説明する。教育相談の定義を説明し，学校場面における教育相談の意義及び課題を理解する
第2回	子どもの発達	古典的な発達理論を学んだ上で，子どもの対人関係の発達について説明する
第3回	不適応の子どもの理解とかかわり	発達段階ごとの不適応とつまずきを理解し，子どもとのかかわりを考える
第4回	ストレス	ストレス理論やそのコーピングストラテジー（対処方略）について説明する
第5回	精神障害	不安障害やうつ病，統合失調症，摂食障害について説明する
第6回	発達障がい	自閉症スペクトラムやADHD，LDについて説明する
第7回	不登校	不登校の子どもを理解するため，その背景や支援について考える
第8回	いじめ	いじめをする／される子どもを理解するため，その背景や支援について考える
第9回	暴力行為	暴力行為をする／される子どもを理解するため，その背景や支援について考える
第10回	心理教育的アセスメント	見る・聴く・測るという３つのアセスメント方法について説明する
第11回	カウンセリングの理論と実践	精神分析療法や行動療法，クライエント中心療法といった，カウンセリングの基本的な理論について説明したうえで，教育機関におけるカウセリングの方法について理解する
第12回	予防的・開発的な援助	予防をするための取り組みについて説明する
第13回	外部機関との連携	教員同士だけではない，学内外での連携について学ぶ
第14回	試験・まとめと解説	授業内で期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
［準備学習］次回の授業内容について，テキスト該当箇所を一読し，配布資料の穴埋めをする。
［復習］レジュメを参照しながら，学んだ概念，それに関連する先行研究を調べてみたりして理解を深める。
本授業の準備学習および復習時間は合計４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
黒田祐二（編著）（2018）実践につながる教育相談　北樹出版　（2100円＋税）

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト50％，平常点（リアクションペーパーの提出とその質を含む）50％

【学生の意見等からの気づき】
資料の掲示は学期終了時まで継続し，いつでも再度ダウンロードして復習可能にしておくこととする。

【Outline (in English)】
Course outline
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.
Learning Objectives
The goal of this course is to understand the development of children to learn how to deal with their problems.
Learning activities outside of classroom
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria
Grading will be decided based on term-end test (50%), short reports in every class (50%).

教育相談

山上　真貴子

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：2024年度以前キャリアデザイン学部入学生はC7164を受講してください。配当年次が異なります。（2年次から受講可）
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・学校における教育相談の意義と理論
・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）
・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携

【到達目標】
教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は原則として、穴埋めプリントを用いた講義形式で行い、適宜視聴覚教材を使用する。また、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。 レポート課題については、フィードバック希望者に対して、個別、または、全体講評をフィードバックする予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	教育相談の進め方	一般的な教育相談の進め方について概説する。
第2回	幼児期、児童期の発達	この時期の発達について知るとともに、この時期に生じやすい教育相談の案件について考える。
第3回	青年期の発達	この時期の発達について知るとともに、この時期に生じやすい教育相談の案件について考える。
第4回	成人期の発達	小中高を過ぎれば教育相談の範囲外？ ―人はある日突然大人になるわけではない
第5回	不登校に関する相談	不登校の現状について解説し、事例を用いて不登校に関する相談について考える。
第6回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりの現状について解説し、事例を用いて引きこもりに関する相談について考える。
第7回	いじめに関する相談	いじめの現状について解説し、事例を用いていじめに関する相談について考える。
第8回	非行に関する相談	非行の現状について解説し、事例を用いて非行に関する相談について考える。
第9回	虐待に関する相談	虐待の現状について解説し、事例を用いて虐待に関する相談について考える。
第10回	発達障害に関する相談	発達障害の現状について解説し、事例を用いて発達障害に関する相談について考える。
第11回	カウンセリングの基礎	スクールカウンセラーが行うカウンセリングに関して基礎知識を得る。
第12回	カウンセリングの技法	教師が活用しやすいカウンセリングの技法を紹介する。
第13回	外部機関との連携	学校内での連携およびさまざまな外部機関との連携について考える。
第14回	試験・まとめと解説	後期を振り返りまとめを行う。試験も同日に実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
興味を持ったトピックについて、授業内で紹介する文献を含めた関連書を積極的に参照すること。授業で紹介する各事例については、授業後に再度熟読すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
大家・稲垣（編）2024『グローバル時代の教育相談―多様性の中で生きる子どもと教師』ナカニシヤ出版
その他、事前に授業資料をアップします。希望者には、授業当日に同一内容の印刷資料を配布します。

【参考書】
春日井敏之ら (編) 2011『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
授業に対する理解をもとに関連する文献を読み、考察を行う期末レポート（30％）、授業に関する基礎的な知識を確認する期末テスト（30％）、および、各回のリアクションペーパーの提出および小テストへの解答等をもとにした平常点（40％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回のリアクションペーパーに、その授業での疑問点や感想等を書いていただきます。多かった質問や、授業の進行に関わるコメントについては、極力授業でフィードバックを行います。
何かあった時には、早目の報連相を心がけましょう（学期末に相談されても対応できない場合があります！）。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムに授業資料をアップします。今後学習支援システム経由でお知らせ発信をすることも多いかと思いますので、このシステムの使い方に慣れておくようにして下さい。

【Outline (in English)】
COURSE OUTLINE: The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.
LEARNING OBJECTIVES:
1. Acquiring an understanding of the significance of educational consultation in schools and the knowledge necessary to proceed with school counseling.
2. Cultivating basic attitudes as a teacher based on understanding psychosocial developmental tasks of today's pupils and students.
3. Learning to work with students with developmental disorders as well as special need education, and work in collaboration with medical and social welfare staff.
LEARNING ACTIVITIES OUTSIDE OF CLASSROOM: Students will be expected to have completed the required assignments after each class meetings. Your study time will be more than four hours for a class.
GRADING CRITERIA/POLICY: Grading will be decided based on term paper(30%), term-end examination(30%), and usual performance score(40%).

教育相談

遠藤　裕子

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：2024年度以前キャリアデザイン学部入学生はC7165を受講してください。配当年次が異なります。（2年次から受講可）
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学校における教育相談の意義と理論を学ぶ。具体的には、教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）を身につけ、教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携における基本的な考え方を理解することを目指す。

【到達目標】
教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・対面でもオンラインでも、対話や双方向のやり取りを出来る限り大切にした授業を行います。
・オンデマンド教材の提供を行います。
・授業の始めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
1.【教育相談の意義及び理論】(第1回～第4回)
・学校における教育相談の意義及び課題、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論及び概念
2.【教育相談の方法】（第5回～第6回）
・学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性、教育相談を進める際に必要な基礎的知識
3.【教育相談の展開】（第7回～第14回）
・幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動の意味
・教育相談の具体的な進め方やそのポイント及び組織的な取り組み並びに連携

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方を説明する。教育相談の定義を説明し、学校場面における教育相談の意義及び課題を理解する。
第2回	幼児期、児童期の発達	幼児期及び児童期における身体、思考、対人関係の発達などを扱う。
第3回	青年期の発達	青年期における身体、思考、対人関係の発達などを扱う。
第4回	成人期の発達	成人期における発達課題、心身の変化、親子関係の変化を扱う。
第5回	カウンセリングの基礎	相談場面における受容、傾聴及び共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢並びに技法を紹介する。
第6回	カウンセリングの技法	児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を扱う。進路選択に資する各種の機会の提供のあり方について考える。
第7回	教育相談の進め方	様々な問題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を紹介し、理解する。
第8回	非行に関する相談	非行が見られ学校が荒れる過程とその収束過程を、事例も見ながら理解する。教育相談の計画の作成及び必要な校内体制の整備等、組織的な取り組みの必要性を理解する。
第9回	いじめに関する相談	いじめの発生・継続の要因について、事例も交え紹介する。
第10回	不登校に関する相談	不登校の発生・継続の要因について、事例も交え紹介する。
第11回	虐待に関する相談	虐待を扱った調査や事例などを紹介し、背景や実態について理解する。
第12回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりについて、どのような相談希求があり、どのような支援体制があるのか理解する。
第13回	発達障害に関する相談	自閉スペクトラム症、限局性学習症、注意欠如・多動症について説明する。
第14回	外部機関との連携	地域の医療、福祉及び心理等の専門機関と学校との連携の例を紹介し、その意義並びに必要性を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に文献を読む、また授業中に取り組んだワークシートを用いて復習する必要が生じる場合があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定せず、必要に応じて、文献の紹介や資料の提供を行います。

【参考書】
・角南なおみ編著 2020 やさしく学ぶ教職課程「教育相談」
・「教育相談の理論と方法」　会沢信彦編著　北樹出版
・文部科学省　『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーや課題(70%)、最終レポート(30%)を総合して成績評価を出します。

【学生の意見等からの気づき】
これまでの授業改善アンケートではすべての項目で概ね良い評価を得ました。継続していくと共に、毎回のリアクションペーパーの記述を大事に扱い、双方向のやり取りが出来るように留意します。

【学生が準備すべき機器他】
教材・資料の提供や課題の提出は学習支援システムを活用しますので、IT機器を準備してください。

【その他の重要事項】
小学校から大学院まですべての校種での教職経験があります。また、心理職の立場での授業や学校運営へのアドバイザーの経験もあり、本授業では関連した事例を取り上げ、具体的な場面から学ぶ機会にもします。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.
Acquiring an understanding of the significance of educational consultation in schools and the knowledge necessary to proceed with school counseling
Cultivating basic attitudes as a teacher based on understanding psychosocial developmental tasks of today's pupils and students.
Learning to work with students with developmental disorders as well as special need education, and work in collaboration with medical and social welfare staff.

Your overall grade in the class will be decided based on the following reflective papers and questions: 70%, Term-end report : 30%
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

教育相談

土屋　弥生

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：2024年度以前キャリアデザイン学部入学生はC7166を受講してください。配当年次が異なります。（2年次から受講可）
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・学校における教育相談の意義と理論
・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）
・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携

【到達目標】
教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でおこないます。小テストや課題等の提出は「学習支援システム」を通じておこなう予定です。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った小テスト、課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	科目の概要（授業の進め方、目標、授業時間内の学習など）、学校における教育相談の意義と課題を知る。
第2回	幼児期、児童期の発達	幼児期、児童期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第3回	青年期の発達	青年期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第4回	成人期の発達	成人期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第5回	カウンセリングの基礎	学校における教育相談に必要な心理学の基礎的な理論・概念、カウンセリングの基礎について学ぶ。
第6回	カウンセリングの技法	教育相談をおこなう上で必要な、受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法について学ぶ。
第7回	教育相談の進め方	教育現場における教育相談の進め方について学び、学校教育におけるカウンセリングマインドや組織的対応の必要性を理解する。
第8回	非行に関する相談	非行の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第9回	いじめに関する相談	いじめの現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第10回	不登校に関する相談	不登校の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第11回	発達障害に関する相談	発達障害のあり方と課題について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第12回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりの現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第13回	虐待に関する相談	虐待の現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第14回	外部機関との連携	医療・福祉・心理等の専門機関について学び、教育相談における外部機関との連携の意義や必要性について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・第1回「ガイダンス」
事前学習（2時間）シラバスに書かれた内容を理解し、科目の概要をおおよそ把握しておく。
事後学習（2時間）授業内容を振り返り、学校における教育相談の意義と課題についてまとめておく。
・第2回「幼児期、児童期の発達」
事前学習（2時間）児童期の心理、発達について参考書、関連書籍等で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、児童期における問題と教育相談についてまとめておく。
・第3回「青年期の発達」
事前学習（2時間）青年期の心理、発達について参考書、関連書籍等で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、青年期における問題と教育相談についてまとめておく。
・第4回「成人期の発達」
事前学習（2時間）成人期の心理、発達について参考書、関連書籍等で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、成人期における問題と教育相談についてまとめておく。
・第5回「カウンセリングの基礎」
事前学習（2時間）カウンセリングについて参考書、関連書籍で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、カウンセリングの基礎となる理論についてまとめておく。
・第6回「カウンセリングの技法」
事前学習（2時間）カウンセリングの技法について参考書、関連書籍等で調べておく。
事後学習（2時間）教育相談の際に必要なカウンセリングの技法についてまとめておく。
・第7回「教育相談の進め方」
事前学習（2時間）教育相談の進め方について参考書、関連書籍等で調べておく。
事後学習（2時間）学校において必要となるカウンセリングマインドについてまとめておく。
・第8回「非行に関する相談」
事前学習（2時間）非行の現状について、
事後学習（2時間）授業を振り返り、非行の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第9回「いじめに関する相談」
事前学習（2時間）いじめの現状について参考書、文部科学省のHP等で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、いじめの問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第10回「不登校に関する相談」
事前学習（2時間）不登校の現状について参考書、文部科学省のHP等で調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、不登校の問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第11回「発達障害に関する相談」
事前学習（2時間）発達障害について参考書、関連書籍等で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、発達障害の問題や課題に対応する教育相談のあり方についてまとめておく。
・第12回「ひきこもりに関する相談」
事前学習（2時間）ひきこもりの現状について教科書、関連書籍等で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、ひきこもりの問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第13回「虐待に関する相談」
事前学習（2時間）虐待の現状について参考書、関連書籍等で調べておく。これまでの授業を振り返り、復習しておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、虐待の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第14回「外部機関との連携」
事前学習（2時間）学校以外の諸機関の子供・若者支援について、参考書、関連図書等で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、教育相談における外部機関との連携の意義やあり方についてまとめておく。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しませんが、適宜参考書等を参照してください。

【参考書】
『教師と保護者のための子ども理解の現象学』土屋弥生著（八千代出版）
『教師を目指す人たちのための生徒指導・教育相談』望月由起、劉麗鳳編著（学事出版）
文部科学省HP https://www.mext.go.jp/

【成績評価の方法と基準】
小テスト（40％）、期末レポート（40％）、平常点（20％）とする。
小テスト、期末レポートは「学習支援システム」上でおこなう。

【学生の意見等からの気づき】
授業アンケートにおける意見・要望を踏まえ、授業で使用するプリントについて、学生の皆さんの学習がより進めやすいように工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
授業で使用する資料、プリント等はPDFで学習支援システムに掲載する予定ですので、各回とも授業前に各自入手するようにしてください。また、小テスト・課題提出についても学習支援システムを利用しますので、必要な機器等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】
担当者は学校心理士スーパーバイザー資格を持つ教員であり、学校教育現場で心理教育的支援をおこなった実務経験をもつ。この経験を基に、実際の教育相談のあり方や進め方についてできる限り具体的に講義をおこなう。

【Outline (in English)】
【Course outline】The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.
【Learning Objectives】The goals of this course are to acquire the basic knowledge necessary to appropriately understand and support individual psychological characteristics and educational issues of infants, children, and students while responding to their developmental situations.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Lecture/Exercise（two-credits）
【Grading Criteria /Policies】Your overall grade in the class will be decided based on the following
Mini tests: 40%, Term-end report : 40%, in class contribution: 20%

道徳教育指導論

土屋　創

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は道徳の本質を問い直し、そのうえで今後の道徳教育のあり方についての展望を与えることを目指すものである。道徳教育をめぐっては、道徳が「特別の教科」に変更されたことに伴い、そのあり方をめぐって議論が進められているが、そうした転換期にあって、「そもそも道徳とは何か？」「道徳教育は可能なのか？」「道徳教育はいかになされるべきか？」といった根本的な問いに向き合うことは不可欠であろう。本講義ではそうした原理的な問いに立ち返りつつ、今後の道徳教育のあり方を問うべく、道徳教育の歴史、現状、課題について概説する。そしてそのうえで優れた道徳教育の実践を紹介し、履修者自らが授業を構成していくための知識の修得を目指す。

【到達目標】
道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。
学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。
①道徳教育の現状と課題について把握する。
②道徳の本質を説明できる。
③道徳教育の歴史について理解する。
④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。
⑤自ら「道徳」の授業を組み立てることができる。
⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式を中心として授業を進める。適宜視聴覚資料等（ICTを含む）を用いるとともに、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを行う。
授業の初めに、前週の授業で提出されたコメントシート等の内容を紹介し、全体に対してフィードバックを行う。
また、初回の授業はリアルタイム型オンライン授業にて実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	道徳教育を学ぶ意義について	授業の進め方に関するガイダンスを行うとともに、道徳教育を学ぶ意義について考察する。
第2回	道徳教育の現状と課題―「道徳の教科化」とその学習評価	学習指導要領における道徳教育の位置づけ、「道徳の教科化」をめぐる議論、「評価」のあり方について検討する。
第3回	道徳教育の歴史	戦前および戦後の道徳教育について検討する。
第4回	心の教育について―学習指導要領における「心の教育」	「心の教育」をめぐる議論について検討する。
第5回	いのちの教育について―学習指導要領における「いのちの教育」	「いのちの教育」、「死の教育」について検討する。
第6回	人権教育について―学習指導要領における「人権教育」	「人権教育」の視点から道徳教育のあり方を検討する。
第7回	道徳性の発達理論	道徳性の発達理論について検討する。
第8回	悪の体験と子どもの発達	悪の体験と自己の変容、教育の限界点について考察する。
第9回	情報モラル	情報モラルおよび情報モラルに関する実践について検討する。
第10回	シティズンシップ教育について	シティズンシップ教育としての道徳教育について検討する。
第11回	モラルジレンマ型の道徳教育	モラルジレンマ型授業の意義と、モラルジレンマ資料を用いた実践について検討する。
第12回	「道徳」における指導案の書き方および発問の仕方について	指導案の書き方、発問の分類等、指導案作成に関する諸事項について検討する。
第13回	模擬授業の実施および「道徳」の実践例の紹介	模擬授業を実施するとともに、「道徳」の実践例を紹介する。
第14回	全体のふりかえりとまとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に提示された資料や参考文献を読み理解を深める。また、指定された課題・ワーク（学習指導案の作成等）への取り組み等が授業時間外の学習に含まれる。（本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。）

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。授業内にて資料を配付し、参考文献を紹介する。

【参考書】
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）
井藤元編著『ワークで学ぶ道徳教育 増補改訂版』（ナカニシヤ出版、2020年）
松下良平『道徳教育はホントに道徳的か？ ―「生きづらさ」の背景を探る』（日本図書センター、2011年）
このほか、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業におけるコメントシート（40％）と各自作成する学習指導案および学期末の論文課題（60％）の点数を合わせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度の授業改善アンケートおよびコメントシートの内容に基づき、授業方法や資料提示の方法、ディスカッションの方法、フィードバック等に関して、履修者一人ひとりが講義を通じての学びや考察をより一層深められるよう工夫する。

【その他の重要事項】
授業の進め方は、履修者と相談したうえで、必要に応じて変更する場合がある。（その際は事前に告知・共有する。）
初回のオンライン授業の実施方法については、学習支援システムを通じて共有・掲示する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class aims to rethink the essence of moral education and further to get a perspective on the future of moral education. With the change of turning to a "special subject," fundamental questions such as“What is moral education? Is moral education possible? How should moral education be done?" are examined. In this class, the history, current state and issues of moral education are explored in order to articulate the future of moral education. On top of that, this class aims to acquire knowledge regarding how to design moral education lessens through getting to know excellent practices of moral education.
【Learning Objectives】

Students are able to understand the goals and contents of moral education at a school, moral education through whole school educational activities, and curriculum and instruction of moral education. Specifically students are able to ① grasp the current situation and issues of moral education, ② explain the essence of morality, ③ understand the history of moral education, ④ know the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ design lesson plans of moral education, and ⑥ develop perspectives of how to improve lessons through the simulated lessons and their reflection.

【Learning activities outside of classroom】

Before or after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on reflection papers(40%) and the final paper(60%).

道徳教育指導論

田口　賢太郎

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は道徳の本質を問い直し、そのうえで今後の道徳教育のあり方についての展望を与えることを目指すものである。道徳教育をめぐっては、道徳が「特別の教科」に変更されたことに伴い、そのあり方をめぐって議論が進められているが、そうした転換期にあって、「そもそも道徳とは何か？」「道徳教育は可能なのか？」「道徳教育はいかになされるべきか？」といった根本的な問いに向き合うことは不可欠であろう。本講義ではそうした原理的な問いに立ち返りつつ、今後の道徳教育のあり方を問うべく、道徳教育の歴史、現状、課題について概説する。そしてそのうえで優れた道徳教育の実践を紹介し、履修者自らが授業を構成していくための知識の修得を目指す。

【到達目標】
道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。
①道徳教育の現状と課題について把握する。
②道徳の本質を説明できる。
③道徳教育の歴史について理解する。
④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。
⑤自ら「道徳」の授業を組み立てることができる。
⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式で、必要に応じてICTも活用しつつ授業を進める。授業の中で適宜グループワーク（ペアワーク）やディスカッション、プレゼンテーション等を課す。
また、前回授業にて課されたリアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	道徳教育を学ぶ意義について	道徳、倫理、マナー、ルールから「道徳教育の指導」を検討し、現代社会と学校の役割を考える。
第2回	道徳教育の現状と課題－「道徳の教科化」とその学習評価	「資質・能力」から道徳教育を検討する。 「道徳の時間」と「道徳科」を巡る議論を検討する。 「学習評価方法の課題」を考える。
第3回	道徳教育の歴史	修身科と教育勅語を中心に戦前の道徳教育を検討する。 道徳教育の戦後の推移を検討する。
第4回	心の教育について―学習指導要領における「心の教育」	教育の諸言説にみる「心」について検討する。
第5回	いのちの教育について―学習指導要領における「いのちの教育」	「生命の尊さ」「崇高なもの」を通じた道徳教育指導を検討する。
第6回	人権教育について―学習指導要領における「人権教育」	人権の基本を踏まえ、差別、いじめについて考える。
第7回	道徳性の発達理論	発達論から道徳の指導を検討する。
第8回	悪の体験と子どもの発達	道徳の指導における「道徳を超える体験」について検討する。
第9回	情報モラル	情報化社会の進展と情報モラルについて検討する。
第10回	シティズンシップ教育について	市民としての道徳教育について検討する。
第11回	モラルジレンマ型の道徳教育	モラルジレンマ型授業の基本とモラルジレンマ型授業展開上の注意について検討する。
第12回	「道徳」における指導案の書き方および発問の仕方について	「道徳科」指導案の書き方を（本時の展開・発問の工夫を中心に）検討する。
第13回	模擬授業の実施および「道徳」の実践例の紹介	指導案を踏まえた実践について（導入の工夫・展開の構想・終末の注意点を中心に）検討する。 授業でのICT利活用について検討する。
第14回	全体のふりかえりとまとめ	まとめとして道徳教育と学校教育の課題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業各回にのぞんでは、前回までの学習内容の復習をし、指示された課題については必ず取り組む。
授業後は、授業中に提示された資料や参考文献を熟読し、各回のテーマの理解を深める。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
文部科学省「中学校学習指導要領」
文部科学省『中学校学習指導要領　解説　特別の教科　道徳編』2017年

【参考書】
「小学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版　文部科学省）
井藤元編著『ワークで学ぶ道徳教育』（ナカニシヤ出版、2016年）
松下良平『道徳教育はホントに道徳的か？ ―「生きづらさ」の背景を探る』（日本図書センター、2011年）
このほか、毎回の授業において、資料を配布し、また次回授業に関連する参考文献も提示する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業における課題（60％）と14回目に行う達成度を確認するレポート（40％）の点数を合わせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進度については、学生から得た意見・要望をその都度伺いつつ、反映する。

【その他の重要事項】
授業の進め方は、履修者と相談したうえで、必要に応じて変更する場合がある。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This class aims to rethink the essence of moral education and further to get a perspective on the future of moral education. With the change of turning to a "special subject," fundamental questions such as“What is moral education? Is moral education possible? How should moral education be done?" are examined. In this class, the history, current state and issues of moral education are explored in order to articulate the future of moral education. On top of that, this class aims to acquire knowledge regarding how to design moral education lessens through getting to know excellent practices of moral education.
(Learning Objectives)

Students are able to understand the goals and contents of moral education at a school, moral education through whole school educational activities, and curriculum and instruction of moral education. Specifically students are able to ① grasp the current situation and issues of moral education, ② explain the essence of morality, ③ understand the history of moral education, ④ know the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ design lesson plans of moral education, and ⑥ develop perspectives of how to improve lessons through the simulated lessons and their reflection.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content
(Grading Criteria /Policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 40%、Short reports : 60%

道徳教育指導論

高原　史朗

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の概要
本講義は道徳の本質を問い直し、そのうえで今後の道徳教育のあり方についての展望を与えることを目指すものである。道徳教育をめぐっては、道徳が「特別の教科」に変更されたことに伴い、そのあり方をめぐって議論が進められているが、そうした転換期にあって、「そもそも道徳とは何か？」「道徳教育は可能なのか？」「道徳教育はいかになされるべきか？」といった根本的な問いに向き合うことは不可欠であろう。本講義ではそうした原理的な問いに立ち返りつつ、今後の道徳教育のあり方を問うべく、道徳教育の歴史、現状、課題について概説する。そしてそのうえで優れた道徳教育の実践を紹介し、履修者自らが授業を構成していくための知識の修得を目指す。

【到達目標】
道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。
学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。
①道徳教育の現状と課題について把握する。
②道教育活動全体を通じて行う道徳教育について理解し、道徳の本質について考える。
③道徳教育の歴史について理解する。
④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。
⑤「道徳」の授業の組み立てについて考え、授業改善の視点を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式で進めるが、必要に応じてICTも活用しつつ、授業の中で適宜グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	道徳教育を学ぶために	オリエンテーション　この授業の進め方を体感し解説する
第2回	道徳教育の現状と課題－「道徳の教科化」とその学習評価	具体的な教材を元に「道徳の教科化」の課題を検討する
第3回	道徳教育の歴史	具体的な教材を元に、「道徳教育の歴史」を理解する
第4回	心の教育について―学習指導要領における「心の教育」	学習指導要領を踏まえ、心の教育について検討する。道教育活動全体を通じて行う道徳教育1
第5回	いのちの教育について―学習指導要領における「いのちの教育」	学指導要領を踏まえ、いのちの教育について検討する。道教育活動全体を通じて行う道徳教育2
第6回	人権教育について―学習指導要領における「人権教育」	学習指導要領を踏まえ、人権教育について検討する。道教育活動全体を通じて行う道徳教育3
第7回	道徳性の発達理論	道徳性の発達理論とそれへの批判を踏まえ、道徳性の発達について検討する。
第8回	モラルジレンマ型の道徳教育	モラルジレンマ型の授業の意義を踏まえ、モラルジレンマ資料を用いた実践について検討する。
第9回	「道徳」における指導案と導かれる実践を検討	指導案の意図、発問の仕方など、指導案と授業の関係を検討する。
第10回	悪の体験と子どもの発達	悪の体験から子どもの発達、教育の限界点について検討する。
第11回	情報モラルについて	情報モラルについて確認したうえで、情報モラル教育の事例について検討する。
第12回	シティズンシップ教育について	シティズンシップ教育としての道徳教育について検討する。
第13回	道徳授業の実践例の紹介とその検討	「道徳」の実践例を紹介し、実際に授業を行う前提で、それらについて検討する。
第14回	全体のふりかえりとまとめ・筆記試験	本講義のふりかえりとまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを読み進めてもらいます。中間レポートを提出して頂きます。進め方の詳細を講義中に説明します。各講義で1時間程度、それ以外にレポートにまとめる時間が必要となります。

【テキスト（教科書）】
「中学生を担任するということ（ゆめのたねをあなたに　生徒指導・特別活動・道徳教育の現場）」高文研　2017　高原史朗著　1900円

【参考書】
「15歳まだ道の途中」岩波ジュニア新書
「みんなで考える国語の授業」高文研　免許が国語の方はぜひお読みください
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）
このほか、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業におけるコメントシート（60％）と14回目に行う達成度テスト（40％）の点数を合わせて総合的に評価する。詳細は講義で説明します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
テキストを早めにご準備ください

【その他の重要事項】
グループワークを行いますが、特にグループワークが得意である必要はありません。また講義には連続性がありますので、出席が重要です。

【Outline (in English)】
This class aims to rethink the essence of moral education and further to get a perspective on the future of moral education. With the change of turning to a "special subject," fundamental questions such as“What is moral education? Is moral education possible? How should moral education be done?" are examined. In this class, the history, current state and issues of moral education are explored in order to articulate the future of moral education. On top of that, this class aims to acquire knowledge regarding how to design moral education lessens through getting to know excellent practices of moral education. Students are able to understand the goals and contents of moral education at a school, moral education through whole school educational activities, and curriculum and instruction of moral education. Specifically students are able to ① grasp the current situation and issues of moral education, ② explain the essence of morality, ③ understand the history of moral education, ④ know the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ design lesson plans of moral education, and ⑥ develop perspectives of how to improve lessons through the simulated lessons and their reflection.
Grading is based on reflection papers (60%) and term exam in the 14th class (40%)

the required study time outside of class: Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

道徳教育指導論

田口　賢太郎

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は道徳の本質を問い直し、そのうえで今後の道徳教育のあり方についての展望を与えることを目指すものである。道徳教育をめぐっては、道徳が「特別の教科」に変更されたことに伴い、そのあり方をめぐって議論が進められているが、そうした転換期にあって、「そもそも道徳とは何か？」「道徳教育は可能なのか？」「道徳教育はいかになされるべきか？」といった根本的な問いに向き合うことは不可欠であろう。本講義ではそうした原理的な問いに立ち返りつつ、今後の道徳教育のあり方を問うべく、道徳教育の歴史、現状、課題について概説する。そしてそのうえで優れた道徳教育の実践を紹介し、履修者自らが授業を構成していくための知識の修得を目指す。

【到達目標】
道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。
①道徳教育の現状と課題について把握する。
②道徳の本質を説明できる。
③道徳教育の歴史について理解する。
④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。
⑤自ら「道徳」の授業を組み立てることができる。
⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式で進める。必要に応じてICTも活用しつつ、授業の中で適宜グループワーク（ペアワーク）やディスカッション、プレゼンテーション等を課す。
また、前回授業にて課されたリアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	道徳教育を学ぶ意義について	道徳、倫理、マナー、ルールから「道徳教育の指導」を検討し、現代社会と学校の役割を考える。
第2回	道徳教育の現状と課題－「道徳の教科化」とその学習評価	「資質・能力」から道徳教育を検討する。 「道徳の時間」と「道徳科」を巡る議論を検討する。 「学習評価方法の課題」を考える。
第3回	道徳教育の歴史	修身科と教育勅語を中心に戦前の道徳教育を検討する。 道徳教育の戦後の推移を検討する。
第4回	心の教育について―学習指導要領における「心の教育」	教育の諸言説にみる「心」について検討する。
第5回	いのちの教育について―学習指導要領における「いのちの教育」	「生命の尊さ」「崇高なもの」を通じた道徳教育指導を検討する。
第6回	人権教育について―学習指導要領における「人権教育」	人権の基本を踏まえ、差別、いじめについて考える。
第7回	道徳性の発達理論	発達論から道徳の指導を検討する。
第8回	悪の体験と子どもの発達	道徳の指導における「道徳を超える体験」について検討する。
第9回	情報モラル	情報化社会の進展と情報モラルについて検討する。
第10回	シティズンシップ教育について	市民としての道徳教育について検討する。
第11回	モラルジレンマ型の道徳教育	モラルジレンマ型授業の基本とモラルジレンマ型授業展開上の注意について検討する。
第12回	「道徳」における指導案の書き方および発問の仕方について	「道徳科」指導案の書き方を（本時の展開・発問の工夫を中心に）検討する。
第13回	模擬授業の実施および「道徳」の実践例の紹介	指導案を踏まえた実践について（導入の工夫・展開の構想・終末の注意点を中心に）検討する。 授業でのICT利活用について検討する。
第14回	全体のふりかえりとまとめ	まとめとして道徳教育と学校教育の課題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業各回にのぞんでは、前回までの学習内容の復習をし、指示された課題については必ず取り組む。
授業後は、授業中に提示された資料や参考文献を熟読し、各回のテーマの理解を深める。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
文部科学省「中学校学習指導要領」
文部科学省『中学校学習指導要領　解説　特別の教科　道徳編』2017年

【参考書】
「小学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版　文部科学省）
井藤元編著『ワークで学ぶ道徳教育』（ナカニシヤ出版、2016年）
松下良平『道徳教育はホントに道徳的か？ ―「生きづらさ」の背景を探る』（日本図書センター、2011年）
このほか、毎回の授業において、資料を配布し、また次回授業に関連する参考文献も提示する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業における課題（60％）と14回目に行う達成度を確認するレポート（40％）の点数を合わせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進度については、学生から得た意見・要望をその都度伺いつつ、反映する。

【その他の重要事項】
授業の進め方は、履修者と相談したうえで、必要に応じて変更する場合がある。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This class aims to rethink the essence of moral education and further to get a perspective on the future of moral education. With the change of turning to a "special subject," fundamental questions such as“What is moral education? Is moral education possible? How should moral education be done?" are examined. In this class, the history, current state and issues of moral education are explored in order to articulate the future of moral education. On top of that, this class aims to acquire knowledge regarding how to design moral education lessens through getting to know excellent practices of moral education.
(Learning Objectives)

Students are able to understand the goals and contents of moral education at a school, moral education through whole school educational activities, and curriculum and instruction of moral education. Specifically students are able to ① grasp the current situation and issues of moral education, ② explain the essence of morality, ③ understand the history of moral education, ④ know the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ design lesson plans of moral education, and ⑥ develop perspectives of how to improve lessons through the simulated lessons and their reflection.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content
(Grading Criteria /Policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 40%、Short reports : 60%

特別活動論

中村　岳夫

単位：**2単位**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点と実践力、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための企画・指導の見識と能力を講義・グループワーク等を通して高める。

【到達目標】
特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、よりよい集団や学校生活を目指す活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養、実践力を身に付けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学生自身がこれまで特別活動において経験し、見聞きしたことも互いに交流し合いながら、またその時々の特別活動に関わる時事的な問題も意識しつつ、グループワーク、プレゼンテーション及び毎回のリアクションペーパーなどを組み入れて授業を進めていく。授業で提出されたリアクションペーパーをまとめたものを次回までに講義通信として事前に配信し、次の授業ではいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
対面授業を基本とするが、状況によってZOOMによるオンライン授業となる場合もある。その場合には、「学習支援システム」を通じて指示・連絡を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の方針・流れ、評価の仕方、教師のありかた
第2回	教育課程の中の特別活動	学校生活（1日、1年）の中の特別活動
第3回	特別活動の歴史	戦前から戦後の変遷を見すえて
第4回	学習指導要領と特別活動	学習指導要領における位置づけと方向性
第5回	特別活動の目標と展開	目標設定から展開・指導の方法
第6回	特別活動の評価と改善	評価と改善への視点と方法 ～指導案プレゼン前討議
第7回	話合い活動とその指導	民主的集団形成における話し合い活動の視点と展開 ～指導案プレゼン①
第8回	学級・ホームルーム活動	発達課題に迫る学級・ホームルーム活動 ～指導案プレゼン②
第9回	児童会・生徒会活動	異年齢集団を意識した活動の視点と方法～参加・参画・自治
第10回	学校行事	協同的創造の実践 ～学校行事・学年行事
第11回	部活動	民主的運営の視点と実践
第12回	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（キャリ教育）	「学ぶ」「働く」「生きる」を貫くキャリア教育の実践と課題
第13回	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	シティズンシップ教育・主権者教育の実践と課題
第14回	まとめ：特別活動の課題と可能性 授業内試験	これからの特別活動を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業のテーマ・内容に応じた準備学習や課題へのプレゼン等を適宜組み入れる。
参考文献は随時紹介をするので学習を深めてもらいたい。
本授業の準備学習・復習等の時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。
必要に応じ適宜指定、紹介する。

【参考書】
中学校学習指導要領/特別活動編、高等学校学習指導要領/特別活動編（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー・平常点（60％）、課題（指導案）プレゼン（20％）、授業内試験（20％）

【学生の意見等からの気づき】
今日の学校現場の状況への質問も多く、それを踏まえた新聞やビデオ等の教材なども使いながら学校現場からの視点を意識して授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の資料配布やリアクションペーパー、課題等提出については学習支援システムを利用する。
オンライン学習にも備え、パソコン、タブレット、スマホなどネット環境を整えておいてください。

【その他の重要事項】
都内公立中学校教員（社会科、学級担任、学年主任等）として長年勤務していたことを活かして、できるだけ教育現場の実態を踏まえた授業を展開していきたい。

【Outline (in English)】
This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.
（Learningactivities outside of classroom）
Incorporate preparatory learning and presentations on assignments according to the theme and content of the lesson as appropriate. References will be introduced from time to time, so I would like you to deepen your learning. The standard time for preparation and review of this class is 2 hours each.
（Grading Criteria /Policy）
Reaction paper・Normal score(60%),assignment presentation(20%),in-class exam(20%)

特別活動論

中村　岳夫

単位：**2単位**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点と実践力、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための企画・指導の見識と能力を講義・グループワーク等を通して高める。

【到達目標】
特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、よりよい集団や学校生活を目指す活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養、実践力を身に付けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学生自身がこれまで特別活動において経験し、見聞きしたことも互いに交流し合いながら、またその時々の特別活動に関わる時事的な問題も意識しつつ、グループワーク、プレゼンテーション及び毎回のリアクションペーパーなどを組み入れて授業を進めていく。授業で提出されたリアクションペーパーをまとめたものを次回までに講義通信として事前に配信し、次の授業ではいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
対面授業を基本とするが、状況によってZOOMによるオンライン授業となる場合もある。その場合には、「学習支援システム」を通じて指示・連絡を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の方針・流れ、評価の仕方、教師のありかた
第2回	教育課程の中の特別活動	学校生活（1日、1年）の中の特別活動
第3回	特別活動の歴史	戦前から戦後の変遷を見すえて
第4回	学習指導要領と特別活動	学習指導要領における位置づけと方向性
第5回	特別活動の目標と展開	目標設定から展開・指導の方法
第6回	特別活動の評価と改善	評価と改善への視点と方法 ～指導案プレゼン前討議
第7回	話合い活動とその指導	民主的集団形成における話し合い活動の視点と展開 ～指導案プレゼン①
第8回	学級・ホームルーム活動	発達課題に迫る学級・ホームルーム活動 ～指導案プレゼン②
第9回	児童会・生徒会活動	異年齢集団を意識した活動の視点と方法～参加・参画・自治
第10回	学校行事	協同的創造の実践 ～学校行事・学年行事
第11回	部活動	民主的運営の視点と実践
第12回	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（キャリ教育）	「学ぶ」「働く」「生きる」を貫くキャリア教育の実践と課題
第13回	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	シティズンシップ教育・主権者教育の実践と課題
第14回	まとめ：特別活動の課題と可能性 授業内試験	これからの特別活動を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業のテーマ・内容に応じた準備学習や課題へのプレゼン等を適宜組み入れる。
参考文献は随時紹介をするので学習を深めてもらいたい。
本授業の準備学習・復習等の時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。
必要に応じ適宜指定、紹介する。

【参考書】
中学校学習指導要領/特別活動編、高等学校学習指導要領/特別活動編（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー・平常点（60％）、課題（指導案）プレゼン（20％）、授業内試験（20％）

【学生の意見等からの気づき】
今日の学校現場の状況への質問も多く、それを踏まえた新聞やビデオ等の教材なども使いながら学校現場からの視点を意識して授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の資料配布やリアクションペーパー、課題等提出については学習支援システムを利用する。
オンライン学習にも備え、パソコン、タブレット、スマホなどネット環境を整えておいてください。

【その他の重要事項】
都内公立中学校教員（社会科、学級担任、学年主任等）として長年勤務していたことを活かして、できるだけ教育現場の実態を踏まえた授業を展開していきたい。

【Outline (in English)】
This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.
（Learningactivities outside of classroom）
Incorporate preparatory learning and presentations on assignments according to the theme and content of the lesson as appropriate. References will be introduced from time to time, so I would like you to deepen your learning. The standard time for preparation and review of this class is 2 hours each.
（Grading Criteria /Policy）
Reaction paper・Normal score(60%),assignment presentation(20%),in-class exam(20%)

特別活動論

吉田　直子

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、さらには、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、討議、グループワーク等を通して高める。

【到達目標】
特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
対面授業を基本とするが、場合によっては動画配信を併用するなど、状況に応じた形態をとる。また学生同士の学び合いを促進するため、グループワークやグループディスカッション等の活動を重視する。リアクションペーパー等で提出されたコメントのうち、全体に共有することが望ましいと判断したものについては、次回の授業の冒頭でいくつか取り上げ、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本講座の授業計画の概要、授業のねらい、進め方、評価の仕方等について
第2回	教育課程の中の特別活動	学校生活（一日／一年間）における特別活動の位置づけ
第3回	特別活動の歴史	日本の学校における教科外教育の歴史、及び各活動・学校行事の成立と役割
第4回	学習指導要領と特別活動	学習指導要領の変遷と特別活動の位置づけの変化
第5回	特別活動の目標と展開	特別活動の目標、基本的な性格と教育活動全体における意義
第6回	特別活動の評価と改善	生徒による自己評価や相互評価の方法と、それに基づく教員の指導改善
第7回	話合い活動とその指導	合意形成・意思決定に向けた話合い活動のあり方と方法
第8回	学級・ホームルーム活動	学級活動・ホームルーム活動とその指導
第9回	児童会・生徒会活動	生徒の自治活動と担任・担当教員・学校の指導のあり方
第10回	学校行事・部活動	学校行事の種類と、その意義及び特質、部活動の位置づけと部活動の今日的課題および展望
第11回	各教科・道徳科・総合的な学習の時間等との関連	「主体的・対話的で深い学び」に基づく各教育活動と特別活動とのかかわり
第12回	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	参加型民主主義の理解と、市民性を育む特別活動の実際
第13回	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	地域の教育力や社会教育施設等を活用した勤労生産活動や奉仕的活動の実際
第14回	まとめ：特別活動の課題と可能性	「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせる」ことの意義と可能性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後のリアクションペーパーの作成、次回の準備課題への取り組み、学習指導要領の内容に関する小テストの準備、最終レポート作成の関して必要な調査・研究を進めることをふくめ、本授業の準備学習・復習等の時間は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。学習にかかわる資料等は授業の中で教員が適宜準備する。

【参考書】
『中学校学習指導要領解説　特別活動編』（平成29年7月告示　文部科学省）
『高等学校学習指導要領解説　特別活動編』（平成30年7月告示　文部科学省）
上記は、文部科学省のウェブサイトより、PDFでダウンロード可。その他の参考文献等は、授業内で適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への主体的な参加状況（学習支援システムを活用し、授業終了後3日以内にコメント、次回の授業開始までに準備課題を提出）に対する評価（35%）、小テスト（20%）、グループプレゼンテーション（20%）、最終レポートに対する評価（25%）を総合的に見る。受講生の人数によっては、グループプレゼンテーションではない取り組みを実施し、それを評価対象とする可能性がある。定期テストは行わない。

【学生の意見等からの気づき】
特別活動の指導を行ううえで基本となるコミュニケーションスキル（とりわけ学級活動指導につながるグループディスカッション）について、学生同士で体験・実践する場を丁寧につくる。

【学生が準備すべき機器他】
講義はPowerPointやビデオ教材などを活用して進めるが、講義資料は基本的にデジタルデータで学習支援システムより提供する。また授業ごとのリアクションペーパーや準備課題、最終レポートの提出も学習支援システムを介して行う形式をとるため、スマホ、PC等、ネット接続が可能な機器を必要とする。

【Outline (in English)】
This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.
Extra-curricular activities are carried out in various groups, to discover and solve problems, and to build a better group and school life. The aim of this class is to understand the significance of extra-curricular activities in school education, and to acquire the knowledge and background necessary for guiding such activities. For that purpose students have to learn the perspectives of "human relations" "social participation" and "self-realization" in pupils' developmental process, and also the perspective of "school staff as a team" in teachers' systematic and collaborative guidance process.
The standard amount of time for learning activities outside of classroom is four hours each, including writing a reaction paper after class, preparing for quiz and the final report.

Evaluations will be based on comprehensive assessments of the student's independent participation in the class (submitting comments before/after class) (35%), mini test(20%), group presentation(20%) and final report(25%).

特別活動論

中村　岳夫

単位：**2単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点と実践力、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための企画・指導の見識と能力を講義・グループワーク等を通して高める。

【到達目標】
特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、よりよい集団や学校生活を目指す活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養、実践力を身に付けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学生自身がこれまで特別活動において経験し、見聞きしたことも互いに交流し合いながら、またその時々の特別活動に関わる時事的な問題も意識しつつ、グループワーク、プレゼンテーション及び毎回のリアクションペーパーなどを組み入れて授業を進めていく。授業で提出されたリアクションペーパーをまとめたものを次回までに講義通信として事前に配信し、次の授業ではいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
対面授業を基本とするが、状況によってZOOMによるオンライン授業となる場合もある。その場合には、「学習支援システム」を通じて指示・連絡を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の方針・流れ、評価の仕方、教師のありかた
第2回	教育課程の中の特別活動	学校生活（1日、1年）の中の特別活動
第3回	特別活動の歴史	戦前から戦後の変遷を見すえて
第4回	学習指導要領と特別活動	学習指導要領における位置づけと方向性
第5回	特別活動の目標と展開	目標設定から展開・指導の方法
第6回	特別活動の評価と改善	評価と改善への視点と方法 ～指導案プレゼン前討議
第7回	話合い活動とその指導	民主的集団形成における話し合い活動の視点と展開 ～指導案プレゼン①
第8回	学級・ホームルーム活動	発達課題に迫る学級・ホームルーム活動 ～指導案プレゼン②
第9回	児童会・生徒会活動	異年齢集団を意識した活動の視点と方法～参加・参画・自治
第10回	学校行事	協同的創造の実践 ～学校行事・学年行事
第11回	部活動	民主的運営の視点と実践
第12回	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（キャリ教育）	「学ぶ」「働く」「生きる」を貫くキャリア教育の実践と課題
第13回	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	シティズンシップ教育・主権者教育の実践と課題
第14回	まとめ：特別活動の課題と可能性 授業内試験	これからの特別活動を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業のテーマ・内容に応じた準備学習や課題へのプレゼン等を適宜組み入れる。
参考文献は随時紹介をするので学習を深めてもらいたい。
本授業の準備学習・復習等の時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。
必要に応じ適宜指定、紹介する。

【参考書】
中学校学習指導要領/特別活動編、高等学校学習指導要領/特別活動編（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー・平常点（60％）、課題（指導案）プレゼン（20％）、授業内試験（20％）

【学生の意見等からの気づき】
今日の学校現場の状況への質問も多く、それを踏まえた新聞やビデオ等の教材なども使いながら学校現場からの視点を意識して授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の資料配布やリアクションペーパー、課題等提出については学習支援システムを利用する。
オンライン学習にも備え、パソコン、タブレット、スマホなどネット環境を整えておいてください。

【その他の重要事項】
・都内公立中学校教員（社会科、学級担任、学年主任等）として長年勤務していたことを活かして、できるだけ教育現場の実態を踏まえた授業を展開していきたい。
・講師（弁護士および過労死遺族）との都合がつけば厚生労働省委託事業「過労死防止・労働条件に関する啓発授業」を組み込む予定です。

【Outline (in English)】
This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.
（Learningactivities outside of classroom）
Incorporate preparatory learning and presentations on assignments according to the theme and content of the lesson as appropriate. References will be introduced from time to time, so I would like you to deepen your learning. The standard time for preparation and review of this class is 2 hours each.
（Grading Criteria /Policy）
Reaction paper・Normal score(60%),assignment presentation(20%),in-class exam(20%)

特別活動論

森本　扶

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、講義・ディスカッション・グループワーク等を通して高める。

【到達目標】
特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学生自身がこれまで特別活動において経験し、見聞きしたことも互いに交流し合いながら、またその時々の特別活動に関わる時事的な問題も意識しつつ、グループワーク、ディスカッション、リアクションペーパーなどを組み入れて授業を進めていく。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の流れ、評価の仕方
第2回	教育課程の中の特別活動	学校生活（1日、1年）の中の特別活動
第3回	特別活動の歴史	戦前から戦後の変遷を見すえて
第4回	学習指導要領と特別活動	学習指導要領における位置づけと方向性
第5回	特別活動の目標と展開	目標設定から展開・指導の方法
第6回	特別活動の評価と改善	評価と改善への視点と方法
第7回	話合い活動とその指導	民主的集団形成における話し合い活動の視点と展開
第8回	学級・ホームルーム活動	発達課題に迫る学級・ホームルーム活動
第9回	児童会・生徒会活動	異年齢集団を意識した活動の視点と方法～参加・参画・自治
第10回	学校行事	学校行事の歴史を踏まえた協同的創造の実践
第11回	部活動	指導と体罰、民主的運営の視点と実践
第12回	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	シティズンシップ教育・主権者教育の理論と実践
第13回	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	「学ぶ」「働く」「生きる」を貫くキャリア教育の理論と実践
第14回	まとめ：特別活動の課題と可能性	これからの特別活動を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回のテーマに関わって自らの意見を明確にしておき、グループワークに備え、最終的に期末レポートに反映させる。グループワークの際は、メンバーと共同して授業外でも適宜作業を進める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
小学校学習指導要領/特別活動編（最新版　文部科学省）
中学校学習指導要領/特別活動編（最新版　文部科学省）
高等学校学習指導要領/特別活動編（最新版　文部科学省）
関川悦雄（2010）『最新特別活動の研究』啓明出版
日本特別活動学会監修（2010）『新訂キーワードで拓く新しい特別活動』東洋館出版社
犬塚文雄編著（2013）『特別活動論』一藝社
山田浩之編（2014）『特別活動論』協同出版
吉田武男・京免徹雄編著（2020）『特別活動』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパー）（15％）　映像学習レポート（10％）
グループ発表（30％）　期末レポート（45％）

【学生の意見等からの気づき】
今日の学校現場の状況への質問も多く、それを踏まえた新聞やビデオ等の教材なども使いながら授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】
紙プリントは基本的に配布しないので、学習支援システムでレジュメや資料を確認するためにPC・タブレットなどの端末が必要。準備できない場合は教官に相談する。

【Outline (in English)】
[Course outline]
This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.
[Learning Objectives]
Extra-curricular activities are a collection of activities that are carried out in various groups, such as groups, to discover and solve problems, and to aim for a better group and school life. Understand the significance of extracurricular activities in school education as a whole, and have the perspectives of "human relations formation," "social participation," "self-realization," and "school as a team." Acquire the knowledge and background necessary for guidance based on the characteristics of special activities such as the reciprocal relationship with each subject and the systematic response in collaboration with local residents and faculty members of other schools.
[Learning activities outside of classroom]
Incorporate preparatory learning and report assignments according to the theme and content of the lesson as appropriate. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
Reaction paper /normal points (15%), Video learning report (10%), Group presentation (30%), term-end reports (45%)

生徒・進路指導論

岩本　俊一

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生徒指導の意義と原理を理解し，生徒集団全体に対する指導，個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また，進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し，生徒集団全体に対するガイダンス，個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】
生徒指導の理論と方法，進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。さらに、教育における理論と実践との関係から生徒指導に関する理解をさらに深めることを目標とする。 課題等を課した場合には、その提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
現代日本の子どもの生活現実とそのよって来る背景をふまえつつ、学校教育における生徒指導および進路指導（(それを包括するキャリア教育）のありかたについて多角的に考察する。 課題等を課した場合にはその提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の概要とガイダンス	本講義の到達目標や概要ならびに評価基準について説明する。
第2回	生徒指導の意義と役割	・学校教育における生徒指導の位置づけ、基本的な考え方について論じる
第3回	生徒指導の方法	・生徒指導の方法について論じる。
第4回	生徒指導における集団指導	・生徒指導における集団指導についてさまざまな指導場面を通して考える。
第5回	集団指導の組織的な推進体制	・集団指導の組織的な推進体制について論じる
第6回	生徒指導における個別指導（暴力行為，いじめ等への対処）	・暴力行為、いじめにどう対応するか
第7回	生徒指導における個別指導（不登校等への対処）	・不登校にどう対応するかについて考える
第8回	生徒指導における個別指導（今日的な生徒指導の課題）	・今日的な生徒指導の課題への対応について考える
第9回	進路指導の意義と役割	・教育課程上の位置づけ、基本的な考えかた
第10回	進路指導の歴史と方法	・ガイダンスの歴史とその理論及び方法について論じる
第11回	キャリア教育の意義と役割	・学校教育におけるキャリア教育の位置づけと基本的な考え方
第12回	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	・進路指導とガイダンスの役割と方法について論じる
第13回	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法	・進路指導・キャリア・カウンセリングの役割と方法について論じる
第14回	進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用 試験	・進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用について論じる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の後に講義内容をまとめるなど、復習をしておくこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に使用しないが、講義内容に応じて参考文献は適宜指示する。

【参考書】
吉田辰雄『最新生徒指導・進路指導論』図書文化社，2009年
藤田晃之『キャリア教育基礎論』実業之日本社，2014年
『生徒指導提要』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
期末に行われる試験（授業内試験）100％で評価する。
平常点は加味しない。

【学生の意見等からの気づき】
指摘された点については、予測された点も多々あり、可能な限り真摯に改善に努める予定である。
ただし、正反対の意見があるものも散見されるため、その部分については慎重に検討したいと考えている。

【Outline (in English)】
Outline:
This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance &education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance &education for the whole student group, and career counseling for individual students.
Goal:The purpose of this class is to understand the theory and method of student
guidance and career guidance including basic matters of career education.
Learning activities outside of classroom:
After the lecture, try to understand the contents.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy:
Grade only in the final exam.
Emphasis is placed on whether the lecture content is understood accurately.

生徒・進路指導論

渡部　忠治

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生徒指導の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対する指導、個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対するガイダンス、個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】
生徒指導の理論と方法、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
次に、その日のテーマについての資料や実践例などを説明・紹介する。
続いて、その話題について感想・意見の交換を行う。
そして最後に、リアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の概要とガイダンス	生徒・進路指導の意味や意義について アンケート（各自の学校体験を振り返る）
第2回	生徒指導の意義と役割	教育課程上の位置づけ、指導上の基本的な考え方について
第3回	生徒指導の方法	子どもの権利と校則、懲戒、体罰問題について
第4回	生徒指導における集団指導	学びの共同性の視点からの集団指導の意義について
第5回	集団指導の組織的な推進体制	家庭・地域と連携した生徒指導の重要性について
第6回	生徒指導における個別指導（いじめ問題への対処）	今必要な「いじめ」対策及び教育実践上の課題（個別的/集団的）について
第7回	生徒指導における個別指導（生徒の問題行動への対処）	暴力行為、少年事件を通して生徒理解の難しさと必要な対応について
第8回	生徒指導における個別指導（部活動をめぐる諸問題とその対処）	部活動を通じた生徒指導のあり方について
第9回	生徒指導における個別指導（ジェンダー、性的マイノリティの理解）	学校文化におけるジェンダー問題と性的マイノリティに関する指導上の課題について
第10回	進路指導の意義と役割	進路指導の歴史と方法を踏まえた、今日的な進路指導の意義と役割について
第11回	キャリア教育の意義と役割	生徒の日常的生活の中から将来の人生観、職業観をどのように育むかについて
第12回	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	生徒を取り巻く社会や将来に対する不安への理解に基づいたガイダンスについて
第13回	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法	体験的な学びの事前・事後指導の重要性とキャリア・パスポートの活用
第14回	全体のまとめ・試験（小論文）	本講義全体のふりかえりとまとめ（これからの生徒・進路指導に求められる課題について）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の後に講義内容をまとめるなど、復習をしておくこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教員が適宜指定する。

【参考書】
折出健二編『教師教育テキストシリーズ 13 生活指導』学文社,2014年
高橋陽一・伊東毅編『これからの生活指導と進路指導』武蔵野美術大学出版局,2020年
教育科学研究会編『いじめと向きあう』旬報社,2013年
土井隆義『つながりを煽られる子どもたち』岩波書店,2014年
青柳健隆・岡部祐介『部活動の論点』旬報社,2019年
『生徒指導提要』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業参加の姿勢、リアクションペーパー等）40％、授業内試験（小論文）60％で、総合的に判断し、成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
例年、学生のリアクションペーパーでは意見交換を望む声が多い。通常授業では、意見交換できる時間を可能な限り設けていきたい。

【Outline (in English)】
This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance &education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance &education for the whole student group, and career counseling for individual students.
The goal of this course is to understand the theory and practical method of student guidance and career guidance &education.
Before or after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on in-class contribution (40%) and in-class exam(60%).

生徒・進路指導論

渡部　忠治

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生徒指導の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対する指導、個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対するガイダンス、個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】
生徒指導の理論と方法、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
次に、その日のテーマについての資料や実践例などを説明･紹介する。
続いて、その話題について感想・意見の交換を行う。
そして最後に、リアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の概要とガイダンス	生徒・進路指導の意味や意義について アンケート（各自の学校体験を振り返る）
第2回	生徒指導の意義と役割	教育課程上の位置づけ、指導上の基本的な考え方について
第3回	生徒指導の方法	子どもの権利と校則、懲戒、体罰問題について
第4回	生徒指導における集団指導	学びの共同性の視点からの集団指導の意義について
第5回	集団指導の組織的な推進体制	家庭・地域と連携した生徒指導の重要性について
第6回	生徒指導における個別指導（いじめ問題への対処）	今必要な「いじめ」対策及び教育実践上の課題（個別的/集団的）について
第7回	生徒指導における個別指導（生徒の問題行動への対処）	暴力行為、少年事件を通して生徒理解の難しさと必要な対応について
第8回	生徒指導における個別指導（部活動をめぐる諸問題とその対処）	部活動を通じた生徒指導のあり方について
第9回	生徒指導における個別指導（ジェンダー、性的マイノリティの理解）	学校文化におけるジェンダー問題と性的マイノリティに関する指導上の課題について
第10回	進路指導の意義と役割	進路指導の歴史と方法を踏まえた、今日的な進路指導の意義と役割について
第11回	キャリア教育の意義と役割	生徒の日常的生活の中から将来の人生観、職業観をどのように育むかについて
第12回	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	生徒を取り巻く社会や将来に対する不安への理解に基づいたガイダンスについて
第13回	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法	体験的な学びの事前・事後指導の重要性とキャリア・パスポートの活用
第14回	全体のまとめ・試験（小論文）	本講義全体のふりかえりとまとめ（これからの生徒・進路指導に求められる課題について）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の後に講義内容をまとめるなど、復習をしておくこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教員が適宜指定する。

【参考書】
折出健二編『教師教育テキストシリーズ 13 生活指導』学文社,2014年
高橋陽一・伊東毅編『これからの生活指導と進路指導』武蔵野美術大学出版局,2020年
教育科学研究会編『いじめと向きあう』旬報社,2013年
土井隆義『つながりを煽られる子どもたち』岩波書店,2014年
青柳健隆・岡部祐介『部活動の論点』旬報社,2019年
『生徒指導提要』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業参加の姿勢、リアクションペーパー等）40％、授業内試験（小論文）60％で、総合的に判断し、成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
例年、学生のリアクションペーパーでは意見交換を望む声が多い。通常授業では、意見交換できる時間を可能な限り設けていきたい。

【Outline (in English)】
This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance &education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance &education for the whole student group, and career counseling for individual students.
The goal of this course is to understand the theory and practical method of student guidance and career guidance &education.
Before or after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on in-class contribution (40%) and in-class exam(60%).

生徒・進路指導論

児美川　孝一郎

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生徒指導の意義と原理を理解し，生徒集団全体に対する指導，個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また，進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し，生徒集団全体に対するガイダンス，個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】
生徒指導の理論と方法，進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。さらに、教育における理論と実践との関係から生徒指導に関する理解をさらに深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
現代日本の子どもの生活現実とそのよって来る背景をふまえつつ、学校教育における生徒指導および進路指導（(それを包括するキャリア教育）のありかたについて多角的に考察する。
講義を軸にしつつも、参加者全員によるディスカッションやグループディスカッションを適宜交える。
提出されたリアクションペーパーや課題等へのフィードバックは，次回の授業の最初にまとめて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の概要とガイダンス	本講義の到達目標や概要ならびに評価基準について説明する。
第2回	生徒指導の意義と役割	・学校教育における生徒指導の位置づけ、基本的な考え方について論じる
第3回	生徒指導の方法	・生徒指導の方法について論じる。
第4回	生徒指導における集団指導	・生徒指導における集団指導についてさまざまな指導場面を通して考える。
第5回	集団指導の組織的な推進体制	・集団指導の組織的な推進体制について論じる
第6回	生徒指導における個別指導（暴力行為，いじめ等への対処）	・暴力行為、いじめにどう対応するか
第7回	生徒指導における個別指導（不登校等への対処）	・不登校にどう対応するかについて考える
第8回	生徒指導における個別指導（今日的な生徒指導の課題）	・今日的な生徒指導の課題への対応について考える
第9回	進路指導の意義と役割	・教育課程上の位置づけ、基本的な考えかた
第10回	進路指導の歴史と方法	・ガイダンスの歴史とその理論及び方法について論じる
第11回	キャリア教育の意義と役割	・学校教育におけるキャリア教育の位置づけと基本的な考え方
第12回	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	・進路指導とガイダンスの役割と方法について論じる
第13回	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法	・進路指導・キャリア・カウンセリングの役割と方法について論じる
第14回	進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用	・進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用について論じる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の後に講義内容をまとめるなど、復習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に使用しないが、講義内容に応じて参考文献は適宜指示する。

【参考書】
吉田辰雄『最新生徒指導・進路指導論』図書文化社，2009年
藤田晃之『キャリア教育基礎論』実業之日本社，2014年
『生徒指導提要』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
平常点40％
授業内レポート60％

【学生の意見等からの気づき】
指摘された点については、予測された点も多々あり、可能な限り真摯に改善に努める予定である。

【Outline (in English)】
This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance &education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance &education for the whole student group, and career counseling for individual students.
The goal of this course is to understand the theory and practical method of student guidance and career guidance &education.
Students will be expected to work on the indicated task after each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on in-class contribution (40%) and mid-term report (60%).

特別な教育的ニーズの理解と支援

遠藤　野ゆり

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害、外国籍や家庭養育基盤が弱いといったハンディキャップ、これらにより特別の支援を必要としている幼児、児童、生徒が、通常の学級に在籍し、授業活動にも参加している実感を持ちながら、すべての子どもたちが生きる力を身に着けていくための、現状の把握、支援の方法を学ぶ。

【到達目標】
特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、心身の発達を理解する。特に、様々な障害の学習上および生活上の困難に関する基礎的な知識を身に着け、当該の子どもの心身の発達、心理的特性、学習の過程を理解し、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度の理念や仕組みを理解する。
特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。特に、支援方法の具体例を理解し、通級指導と自立活動のカリキュラム上の位置づけを理解し、個別の指導計画や教育支援計画を作成する意義と方法を理解し、コーディネーターや関係機関、家庭と連携した支援体制の構築の意義を理解している。
障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を理解する。特に、母国語や貧困の問題等により本件に該当する子どもたちの学習上、生活上の困難とその対応方法を理解し、組織的な対応の必要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義科目であるが、授業は、講義部分と、グループワークとで構成される。
グループワークでは、資料の読み込み、ディスカッションを行う。最終的にグループワークでの成果を発表する。毎回授業後に、Hoppiiにて、授業を通して学んだことを整理し提出する。授業のこうした成果は次回授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション・介護等体験について	本授業の目的と進め方について説明。特に文部科学省が新規科目を設定した目的と、本学の教職課程との関連とを説明。また介護等体験に関するオリエンテーションをおこなう。
第2回	特別な支援を必要とする子どもたち	本講義でとりあげる子どもたちは幅広い。具体的に講義の対象となる子どもの状況を理解する。
第3回	認知特性とはなにか	発達障害の子どもは認知特性に偏りがあるといわれる。そもそも認知特性とは何を指すのかを実践的に理解する。
第4回	学習障害とその支援	発達障害は主に「学習障害」「自閉スペクトラム症(自閉症スペクトラム障害)」「注意欠陥多動症（AD/HD,　ADD）」の3つがある。そのうちの1つ、学習障害とはどのような状態なのか、何が困るのか、どのような支援が必要なのかを具体的に理解する。
第5回	AD/HD,　ADDとその支援	発達障害は主に「学習障害」「自閉スペクトラム症（自閉症スペクトラム障害)」「注意欠陥多動症（AD/HD,　ADD）」の3つがある。そのうちの1つ、注意欠陥多動症とはどのような状態なのか、何が困るのか、どのような支援が必要なのかを具体的に理解する。
第6回	自閉症スペクトラム障害とその支援	発達障害は主に「学習障害」「自閉スペクトラム症（自閉症スペクトラム障害)」「注意欠陥多動症（AD/HD,　ADD）」の3つがある。そのうちの1つ、自閉スペクトラム症とはどのような状態なのか、何が困るのか、どのような支援が必要なのかを具体的に理解する。
第7回	軽度知的障害とその支援	通常学級、もしくは一般校の特別支援学級に在籍する、軽度の知的障害のある子どもについて、どのような状態なのか、何が困るのか、どのような支援が必要なのかを具体的に理解する。
第8回	肢体不自由・病弱な子どもとその支援	肢体不自由・病弱な状態で、一般校に在籍、もしくは特別支援学校に在籍の子どもについて、どのような状態なのか、何が困るのか、どのような支援が必要なのかを具体的に理解する。
第9回	家庭基盤の弱い子どもとその支援	家庭教育はどのような機能をもっているのか、養育基盤の弱い家庭で育つことはどのような問題を生むのか、どのような支援が必要なのかを具体的に理解する。
第10回	多様性とインクルーシブ教育	本講義で取り上げるような多様な子どもたちを包括的（インクルーシブ）に教育していくことの理念と具体的課題とを理解する。
第11回	個別の指導計画、教育支援計画	各特性をもつ子どもたちについて、指導と教育支援の計画をどのように立てるのか、留意点を理解し、具体的に計画を立ててみる。
第12回	多様な関係・連携と支援	多様な子どもたちの支援には各種関連機関との連携が不可欠である。関係機関を知りどのように連携体制をつくっていくのかを理解する。
第13回	介護等体験の意義と留意点	教職課程における介護等体験の意義と目的、留意点とを理解する。
第14回	まとめ：特別支援教育の今後の展望	特別支援教育と広く共生社会との関係を理解し本講義の総括をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間程度の学習を必要とします。予習の内容は必要に応じて適宜指示します。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて講義内で指示します。

【参考書】
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）
・東京都日野市 公立小中学校全教師・教育委員会（2010）『通常学級での特別支援教育のスタンダード』東京書籍
・宮崎 英憲（監修）2017『『特別支援教育の実践情報』PLUS 平成29年版 学習指導要領改訂のポイント 特別支援学校』明治図書出版
・岡南2010『天才と発達障害』講談社参考書・参考資料等

【成績評価の方法と基準】
平常点（ディスカッションやグループワークへの貢献度）36％＋授業後課題26％＋期末試験38％

【学生の意見等からの気づき】
個別支援計画の立て方の練習方法について、健常者を例にするのは難しい指摘があったので、別のケースを示すようにします。

【学生が準備すべき機器他】
原則としてパソコンあるいはタブレットなどを使用します。大学のアカウントでGoogleにログインできるように準備してください。

【その他の重要事項】
教職に関する科目です。

【Outline (in English)】
Course outline ： We learn how to understand and support Special Educational Needs through inclusive provision. Special Educational Needs includes developmental disorders, mild mental retardation,students with ethnic
background, poverty, abused child and so on.
Learning Objectives ： Understand the characteristics of disabilities and the mental and physical development of infants, children, and students with special needs.In particular, acquire basic knowledge about the learning and daily life difficulties of various disabilities, and The goal is to understand children's physical and mental development, psychological characteristics, and learning processes, as well as the philosophy and structure of special needs education systems, including inclusive education.
In addition, it is necessary to understand the educational curriculum and support methods for infants, children, and students who require special support, in particular, to understand specific examples of support methods, and to understand the position of classroom guidance and independent activities in the curriculum. The goal is for students to understand the significance and methods of creating individual instruction plans and educational support plans, and to understand the significance of building a support system in collaboration with coordinators, related organizations, and families.
Understand how to identify and support young children, children, and students who do not have disabilities but have special educational needs, especially the learning and living difficulties of these children due to issues such as their native language or poverty. The goal is to understand how to respond and understand the need for an organizational response.
Learning activities outside of classroom ： Preparation and review time for this class requires approximately 2 hours of study each. The contents of the preparation will be instructed as necessary.
Grading Criteria /Policy ： Normal score (contribution to discussion and group work) 36%+ Post-class assignments 26% + Final exam 38%.

特別な教育的ニーズの理解と支援

村山 拓

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害、外国籍や家庭養育基盤が弱いといったハンディキャップ、これらにより特別の支援を必要としている幼児、児童、生徒が、通常の学級に在籍し、授業活動にも参加している実感を持ちながら、子どもたちが生きる力を身に付けるけていくための、現状の把握、支援の方法を学ぶ。加えて、教師として「自由を生き抜く実践知」の土台を形成することとも関連付けた学習を行う。

【到達目標】

特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、心身の発達を理解する。特に、様々な障害の学習上および生活上の困難に関する基礎的な知識を身に着け、当該の子どもの心身の発達、心理的特性、学習の過程を理解し、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度の理念や仕組みを理解する。
特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。特に、支援方法の具体例を理解し、通級指導と自立活動のカリキュラム上の位置づけを理解し、個別の指導計画や教育支援計画を作成する意義と方法を理解し、コーディネーターや関係機関、家庭と連携した支援体制の構築の意義を理解している。

障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を理解する。特に、母国語や貧困の問題等により本件に該当する子どもたちの学習上、生活上の困難とその対応方法を理解し、組織的な対応の必要性を理解する。
・教師として「自由を生き抜く実践知」の土台を形成する。
・教職の課題解決につながる「実践知」をもった教師の在り方を考える。
・社会の課題解決につながる「実践知」をもった教師の在り方を考える。
・To understand the characteristics of disabilities and the mental and physical development of infants, children and students who require special support. In particular, to acquire basic knowledge regarding the learning and daily life difficulties of various disabilities, to understand the mental and physical development, psychological characteristics and learning process of the children in question, and to understand the principles and mechanisms of the special needs education system, including inclusive education.
・To understand the educational curriculum and support methods for infants, children and students who require special support. In particular, to understand specific examples of support methods, understand the position of resource room instruction and independent activities in the curriculum, to understand the significance and methods of creating individual teaching plans and educational support plans, and to understand the significance of building a support system in collaboration with coordinators, related institutions and families.
・To understand how to identify and support infants, children and students who do not have disabilities but have special educational needs. In particular, to understand the learning and daily life difficulties of children who fall into this category due to issues such as native language and poverty, and how to deal with them, and understand the need for organized responses.
・To form a foundation for "practical wisdom for surviving freedom" as a teacher.
・To　aim to be teachers with "practical wisdom" that leads to solving problems in the teaching profession.
・To aim to explore teachers with "practical wisdom" that leads to solving problems in society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

まず、特別支援教育に関連する制度や仕組みについて概観した上で、代表的な障害等について、精神発達等の理論もふまえて基礎的な知識を持ってもらい、ついで支援の考え方、困難さについて事例の検討も交えながら進める。

特別な教育的ニーズは、障害や疾患が代表的とされているが、障害そのものも単なる医学的、生理学的事象としてだけでなく、生活環境、養育環境、教育の環境、社会環境、制度等、さまざまな視点からとらえることが必要となる。インクルーシブ教育のように、さまざまなニーズを持つ子どもが、同じ教室で協同的に学習することと、教師、学校が個々のニーズを把握し、保障することが強く求められるようになっていることからも、教育（学）における特別ニーズの論点を把握することは重要な課題と考えられ、各回の講義の中ではそれらのトピックについて個々に取り上げながら進めたい。
First, an overview of the systems and mechanisms related to special needs education will be provided, and then basic knowledge about typical disabilities is provided, based on theories such as mental development. And then the course will proceed to the concept of support and the difficulties involved, with case studies included.
Special educational needs are typically disabilities and illnesses, but disabilities themselves are not simply medical or physiological phenomena; they need to be viewed from a variety of perspectives, including the living environment, upbringing environment, educational environment, social environment, and systems. In inclusive education, children with various needs are expected to learn collaboratively in the same classroom, and teachers and schools are expected to understand and guarantee individual needs. Therefore, understanding the issues surrounding special needs in education is considered an important task, and the course would expected to be taking up these topics individually in each lecture.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション／イントロダクション	授業の進め方を確認する。あわせて、講義の前提となる基本的な知識を確認する。
第2回	特別な教育的支援の基本的枠組み	特別支援教育の理念、システム等について講義する。
第3回	視覚・聴覚に関連する障害とその支援	視覚障害、聴覚障害の特性と教育支援について講義する。
第4回	知的障害とその支援	認知発達に関する障害の特性と教育支援について講義する。
第5回	肢体不自由とその支援	運動機能に関する障害特性と教育支援について講義する。
第6回	病弱（健康障害）とその支援	健康上の制約のある生徒の身体面、心理面の課題と教育支援について講義する。
第7回	ASDとその支援	自閉症スペクトラム障害（ASD）の特性と教育的支援について講義する。
第8回	LD・ADHDとその支援	学習障害、注意欠陥多動性障害の特性と教育支援について講義する。
第9回	言語障害、情緒障害とその支援	言語障害、情緒障害の特性と教育支援について講義する。

第10回	重複障害とその支援／多様性とインクルーシブ教育①	重複障害の特性や生徒のニーズ、教育支援について講義する。多様性とインクルーシブ教育として校内支援体制について講義する。
第11回	多様性とインクルーシブ教育②（通常の学校における支援の課題）	個別の指導計画や個別の教育支援計画についての活用等について講義する。あわせて、通級による指導の仕組みを講義する。
第12回	多様なニーズへの対応	障害、疾患等によらないニーズを含めた多様なニーズの特徴や、期待される教育支援について講義する。
第13回	介護等体験の意義と留意点	介護等体験の位置づけや、実施上での意義を確認し、留意点について講義する。
第14回	本講義のまとめ、試験	本講義のまとめ、ふりかえりと試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適宜小課題等を課す予定である。授業の中でその都度指示する。
Small assignments will be assigned as appropriate. Instructions will be given during class.

【テキスト（教科書）】
濵田豊彦（監修）（2022）『特別支援教育のための障害理解: 未来に開かれた教育へ』、金子書房
Both are Japanese books (without English translation), so explanation in English is omitted in this part. Please contact the instructor if you need one.

【参考書】
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
・東京都日野市 公立小中学校全教師・教育委員会（2010）『通常学級での特別支援教育のスタンダード』東京書籍
・宮﨑 英憲（監修）（2017）『『特別支援教育の実践情報』PLUS 平成29年版 学習指導要領改訂のポイント 特別支援学校』明治図書出版
・岡南（2010）『天才と発達障害』講談社
・文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 （2022）『障害のある子供の教育支援の手引 子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて』ジアース教育新社
Both are Japanese books (without English translation), so explanation in English is omitted in this part. Please contact the lecturer if you need one.

【成績評価の方法と基準】
平常点（小課題の成績、ディスカッションやグループワークへの貢献度）30％
期末試験70％
Regular grades (performance on short assignments, contribution to discussions and group work) 30%
Final exam (scheduled to be held in class) 70%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックは予定していないが、授業内でのリアクションを適宜反映するよう努める。
Due to a change in the instructor this year, the feedback do not plan to be provided, but the lecturer will endeavor to reflect reactions in class as appropriate.

【学生が準備すべき機器他】
授業中に特定の機器を使用する予定はないが、2回目以降の資料は、印刷配布せず、学習支援システムを利用pdfで配布する予定である。
No plans are prepared to use any specific equipment during classes, but from the second lesson onwards, materials will not be distributed in print, but rather in PDF format using a learning support system.

【その他の重要事項】
あらかじめ予告の上、対面授業のうち数回をオンラインで実施する可能性がある。
There is a possibility that some in-person sessions will be held online with prior notice.

【Outline (in English)】
【Course Outline】
We learn how to support and empower the educationally needy pupils and students such as the developmental and slight intellectual disabled, students with ethnic background, and with resourceless family through inclusive proposition. In addition, as a teacher, the participant will conduct learning that is linked to forming a foundation of "practical knowledge for surviving freedom.
【Learning Objectives】
The goal is to understand (or acquire):
· the characteristics of disabilities and mental and physical development of infants, children and students with special needs, in particular, basic knowledge about learning and living difficulties of various disabilities.
· the mental and physical development, psychological characteristics, and learning process of such child, and the philosophy and mechanism of system of special support education including inclusive education.
· the curriculum and support methods for infants, children and students who require special support through case studies of support methods, the position of class guidance and independence activities in the curriculum,
· the significance and methods of creating individual guidance plans and educational support plans.
· the significance of building a support system in collaboration with coordinators, related organizations, and families.
· infants, children and students who have no disabilities but have special educational needs. In particular, those who fall under this case due to problems such as their mother tongue and poverty, and how to deal with them, and the need for systematic measures.

特別な教育的ニーズの理解と支援

村山 拓

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害、外国籍や家庭養育基盤が弱いといったハンディキャップ、これらにより特別の支援を必要としている幼児、児童、生徒が、通常の学級に在籍し、授業活動にも参加している実感を持ちながら、子どもたちが生きる力を身に付けるけていくための、現状の把握、支援の方法を学ぶ。加えて、教師として「自由を生き抜く実践知」の土台を形成することとも関連付けた学習を行う。

【到達目標】

特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、心身の発達を理解する。特に、様々な障害の学習上および生活上の困難に関する基礎的な知識を身に着け、当該の子どもの心身の発達、心理的特性、学習の過程を理解し、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度の理念や仕組みを理解する。
特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。特に、支援方法の具体例を理解し、通級指導と自立活動のカリキュラム上の位置づけを理解し、個別の指導計画や教育支援計画を作成する意義と方法を理解し、コーディネーターや関係機関、家庭と連携した支援体制の構築の意義を理解している。

障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を理解する。特に、母国語や貧困の問題等により本件に該当する子どもたちの学習上、生活上の困難とその対応方法を理解し、組織的な対応の必要性を理解する。
・教師として「自由を生き抜く実践知」の土台を形成する。
・教職の課題解決につながる「実践知」をもった教師の在り方を考える。
・社会の課題解決につながる「実践知」をもった教師の在り方を考える。
・To understand the characteristics of disabilities and the mental and physical development of infants, children and students who require special support. In particular, to acquire basic knowledge regarding the learning and daily life difficulties of various disabilities, to understand the mental and physical development, psychological characteristics and learning process of the children in question, and to understand the principles and mechanisms of the special needs education system, including inclusive education.
・To understand the educational curriculum and support methods for infants, children and students who require special support. In particular, to understand specific examples of support methods, understand the position of resource room instruction and independent activities in the curriculum, to understand the significance and methods of creating individual teaching plans and educational support plans, and to understand the significance of building a support system in collaboration with coordinators, related institutions and families.
・To understand how to identify and support infants, children and students who do not have disabilities but have special educational needs. In particular, to understand the learning and daily life difficulties of children who fall into this category due to issues such as native language and poverty, and how to deal with them, and understand the need for organized responses.
・To form a foundation for "practical wisdom for surviving freedom" as a teacher.
・To　aim to be teachers with "practical wisdom" that leads to solving problems in the teaching profession.
・To aim to explore teachers with "practical wisdom" that leads to solving problems in society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

まず、特別支援教育に関連する制度や仕組みについて概観した上で、代表的な障害等について、精神発達等の理論もふまえて基礎的な知識を持ってもらい、ついで支援の考え方、困難さについて事例の検討も交えながら進める。

特別な教育的ニーズは、障害や疾患が代表的とされているが、障害そのものも単なる医学的、生理学的事象としてだけでなく、生活環境、養育環境、教育の環境、社会環境、制度等、さまざまな視点からとらえることが必要となる。インクルーシブ教育のように、さまざまなニーズを持つ子どもが、同じ教室で協同的に学習することと、教師、学校が個々のニーズを把握し、保障することが強く求められるようになっていることからも、教育（学）における特別ニーズの論点を把握することは重要な課題と考えられ、各回の講義の中ではそれらのトピックについて個々に取り上げながら進めたい。
First, an overview of the systems and mechanisms related to special needs education will be provided, and then basic knowledge about typical disabilities is provided, based on theories such as mental development. And then the course will proceed to the concept of support and the difficulties involved, with case studies included.
Special educational needs are typically disabilities and illnesses, but disabilities themselves are not simply medical or physiological phenomena; they need to be viewed from a variety of perspectives, including the living environment, upbringing environment, educational environment, social environment, and systems. In inclusive education, children with various needs are expected to learn collaboratively in the same classroom, and teachers and schools are expected to understand and guarantee individual needs. Therefore, understanding the issues surrounding special needs in education is considered an important task, and the course would expected to be taking up these topics individually in each lecture.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション／イントロダクション	授業の進め方を確認する。あわせて、講義の前提となる基本的な知識を確認する。
第2回	特別な教育的支援の基本的枠組み	特別支援教育の理念、システム等について講義する。
第3回	視覚・聴覚に関連する障害とその支援	視覚障害、聴覚障害の特性と教育支援について講義する。
第4回	知的障害とその支援	認知発達に関する障害の特性と教育支援について講義する。
第5回	肢体不自由とその支援	運動機能に関する障害特性と教育支援について講義する。
第6回	病弱（健康障害）とその支援	健康上の制約のある生徒の身体面、心理面の課題と教育支援について講義する。
第7回	ASDとその支援	自閉症スペクトラム障害（ASD）の特性と教育的支援について講義する。
第8回	LD・ADHDとその支援	学習障害、注意欠陥多動性障害の特性と教育支援について講義する。
第9回	言語障害、情緒障害とその支援	言語障害、情緒障害の特性と教育支援について講義する。

第10回	重複障害とその支援／多様性とインクルーシブ教育①	重複障害の特性や生徒のニーズ、教育支援について講義する。多様性とインクルーシブ教育として校内支援体制について講義する。
第11回	多様性とインクルーシブ教育②（通常の学校における支援の課題）	個別の指導計画や個別の教育支援計画についての活用等について講義する。あわせて、通級による指導の仕組みを講義する。
第12回	多様なニーズへの対応	障害、疾患等によらないニーズを含めた多様なニーズの特徴や、期待される教育支援について講義する。
第13回	介護等体験の意義と留意点	介護等体験の位置づけや、実施上での意義を確認し、留意点について講義する。
第14回	本講義のまとめ、試験	本講義のまとめ、ふりかえりと試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適宜小課題等を課す予定である。授業の中でその都度指示する。
Small assignments will be assigned as appropriate. Instructions will be given during class.

【テキスト（教科書）】
濵田豊彦（監修）（2022）『特別支援教育のための障害理解: 未来に開かれた教育へ』、金子書房
Both are Japanese books (without English translation), so explanation in English is omitted in this part. Please contact the instructor if you need one.

【参考書】
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
・東京都日野市 公立小中学校全教師・教育委員会（2010）『通常学級での特別支援教育のスタンダード』東京書籍
・宮﨑 英憲（監修）（2017）『『特別支援教育の実践情報』PLUS 平成29年版 学習指導要領改訂のポイント 特別支援学校』明治図書出版
・岡南（2010）『天才と発達障害』講談社
・文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 （2022）『障害のある子供の教育支援の手引 子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて』ジアース教育新社
Both are Japanese books (without English translation), so explanation in English is omitted in this part. Please contact the lecturer if you need one.

【成績評価の方法と基準】
平常点（小課題の成績、ディスカッションやグループワークへの貢献度）30％
期末試験70％
Regular grades (performance on short assignments, contribution to discussions and group work) 30%
Final exam (scheduled to be held in class) 70%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックは予定していないが、授業内でのリアクションを適宜反映するよう努める。
Due to a change in the instructor this year, the feedback do not plan to be provided, but the lecturer will endeavor to reflect reactions in class as appropriate.

【学生が準備すべき機器他】
授業中に特定の機器を使用する予定はないが、2回目以降の資料は、印刷配布せず、学習支援システムを利用pdfで配布する予定である。
No plans are prepared to use any specific equipment during classes, but from the second lesson onwards, materials will not be distributed in print, but rather in PDF format using a learning support system.

【その他の重要事項】
あらかじめ予告の上、対面授業のうち数回をオンラインで実施する可能性がある。
There is a possibility that some in-person sessions will be held online with prior notice.

【Outline (in English)】
【Course Outline】
We learn how to support and empower the educationally needy pupils and students such as the developmental and slight intellectual disabled, students with ethnic background, and with resourceless family through inclusive proposition. In addition, as a teacher, the participant will conduct learning that is linked to forming a foundation of "practical knowledge for surviving freedom.
【Learning Objectives】
The goal is to understand (or acquire):
· the characteristics of disabilities and mental and physical development of infants, children and students with special needs, in particular, basic knowledge about learning and living difficulties of various disabilities.
· the mental and physical development, psychological characteristics, and learning process of such child, and the philosophy and mechanism of system of special support education including inclusive education.
· the curriculum and support methods for infants, children and students who require special support through case studies of support methods, the position of class guidance and independence activities in the curriculum,
· the significance and methods of creating individual guidance plans and educational support plans.
· the significance of building a support system in collaboration with coordinators, related organizations, and families.
· infants, children and students who have no disabilities but have special educational needs. In particular, those who fall under this case due to problems such as their mother tongue and poverty, and how to deal with them, and the need for systematic measures.

特別な教育的ニーズの理解と支援

村山 拓

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害、外国籍や家庭養育基盤が弱いといったハンディキャップ、これらにより特別の支援を必要としている幼児、児童、生徒が、通常の学級に在籍し、授業活動にも参加している実感を持ちながら、子どもたちが生きる力を身に付けるけていくための、現状の把握、支援の方法を学ぶ。加えて、教師として「自由を生き抜く実践知」の土台を形成することとも関連付けた学習を行う。

【到達目標】

特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、心身の発達を理解する。特に、様々な障害の学習上および生活上の困難に関する基礎的な知識を身に着け、当該の子どもの心身の発達、心理的特性、学習の過程を理解し、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度の理念や仕組みを理解する。
特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。特に、支援方法の具体例を理解し、通級指導と自立活動のカリキュラム上の位置づけを理解し、個別の指導計画や教育支援計画を作成する意義と方法を理解し、コーディネーターや関係機関、家庭と連携した支援体制の構築の意義を理解している。

障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を理解する。特に、母国語や貧困の問題等により本件に該当する子どもたちの学習上、生活上の困難とその対応方法を理解し、組織的な対応の必要性を理解する。
・教師として「自由を生き抜く実践知」の土台を形成する。
・教職の課題解決につながる「実践知」をもった教師の在り方を考える。
・社会の課題解決につながる「実践知」をもった教師の在り方を考える。
・To understand the characteristics of disabilities and the mental and physical development of infants, children and students who require special support. In particular, to acquire basic knowledge regarding the learning and daily life difficulties of various disabilities, to understand the mental and physical development, psychological characteristics and learning process of the children in question, and to understand the principles and mechanisms of the special needs education system, including inclusive education.
・To understand the educational curriculum and support methods for infants, children and students who require special support. In particular, to understand specific examples of support methods, understand the position of resource room instruction and independent activities in the curriculum, to understand the significance and methods of creating individual teaching plans and educational support plans, and to understand the significance of building a support system in collaboration with coordinators, related institutions and families.
・To understand how to identify and support infants, children and students who do not have disabilities but have special educational needs. In particular, to understand the learning and daily life difficulties of children who fall into this category due to issues such as native language and poverty, and how to deal with them, and understand the need for organized responses.
・To form a foundation for "practical wisdom for surviving freedom" as a teacher.
・To　aim to be teachers with "practical wisdom" that leads to solving problems in the teaching profession.
・To aim to explore teachers with "practical wisdom" that leads to solving problems in society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

まず、特別支援教育に関連する制度や仕組みについて概観した上で、代表的な障害等について、精神発達等の理論もふまえて基礎的な知識を持ってもらい、ついで支援の考え方、困難さについて事例の検討も交えながら進める。

特別な教育的ニーズは、障害や疾患が代表的とされているが、障害そのものも単なる医学的、生理学的事象としてだけでなく、生活環境、養育環境、教育の環境、社会環境、制度等、さまざまな視点からとらえることが必要となる。インクルーシブ教育のように、さまざまなニーズを持つ子どもが、同じ教室で協同的に学習することと、教師、学校が個々のニーズを把握し、保障することが強く求められるようになっていることからも、教育（学）における特別ニーズの論点を把握することは重要な課題と考えられ、各回の講義の中ではそれらのトピックについて個々に取り上げながら進めたい。
First, an overview of the systems and mechanisms related to special needs education will be provided, and then basic knowledge about typical disabilities is provided, based on theories such as mental development. And then the course will proceed to the concept of support and the difficulties involved, with case studies included.
Special educational needs are typically disabilities and illnesses, but disabilities themselves are not simply medical or physiological phenomena; they need to be viewed from a variety of perspectives, including the living environment, upbringing environment, educational environment, social environment, and systems. In inclusive education, children with various needs are expected to learn collaboratively in the same classroom, and teachers and schools are expected to understand and guarantee individual needs. Therefore, understanding the issues surrounding special needs in education is considered an important task, and the course would expected to be taking up these topics individually in each lecture.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション／イントロダクション	授業の進め方を確認する。あわせて、講義の前提となる基本的な知識を確認する。
第2回	特別な教育的支援の基本的枠組み	特別支援教育の理念、システム等について講義する。
第3回	視覚・聴覚に関連する障害とその支援	視覚障害、聴覚障害の特性と教育支援について講義する。
第4回	知的障害とその支援	認知発達に関する障害の特性と教育支援について講義する。
第5回	肢体不自由とその支援	運動機能に関する障害特性と教育支援について講義する。
第6回	病弱（健康障害）とその支援	健康上の制約のある生徒の身体面、心理面の課題と教育支援について講義する。
第7回	ASDとその支援	自閉症スペクトラム障害（ASD）の特性と教育的支援について講義する。
第8回	LD・ADHDとその支援	学習障害、注意欠陥多動性障害の特性と教育支援について講義する。
第9回	言語障害、情緒障害とその支援	言語障害、情緒障害の特性と教育支援について講義する。

第10回	重複障害とその支援／多様性とインクルーシブ教育①	重複障害の特性や生徒のニーズ、教育支援について講義する。多様性とインクルーシブ教育として校内支援体制について講義する。
第11回	多様性とインクルーシブ教育②（通常の学校における支援の課題）	個別の指導計画や個別の教育支援計画についての活用等について講義する。あわせて、通級による指導の仕組みを講義する。
第12回	多様なニーズへの対応	障害、疾患等によらないニーズを含めた多様なニーズの特徴や、期待される教育支援について講義する。
第13回	介護等体験の意義と留意点	介護等体験の位置づけや、実施上での意義を確認し、留意点について講義する。
第14回	本講義のまとめ、試験	本講義のまとめ、ふりかえりと試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適宜小課題等を課す予定である。授業の中でその都度指示する。
Small assignments will be assigned as appropriate. Instructions will be given during class.

【テキスト（教科書）】
濵田豊彦（監修）（2022）『特別支援教育のための障害理解: 未来に開かれた教育へ』、金子書房
Both are Japanese books (without English translation), so explanation in English is omitted in this part. Please contact the instructor if you need one.

【参考書】
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
・東京都日野市 公立小中学校全教師・教育委員会（2010）『通常学級での特別支援教育のスタンダード』東京書籍
・宮﨑 英憲（監修）（2017）『『特別支援教育の実践情報』PLUS 平成29年版 学習指導要領改訂のポイント 特別支援学校』明治図書出版
・岡南（2010）『天才と発達障害』講談社
・文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 （2022）『障害のある子供の教育支援の手引 子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて』ジアース教育新社
Both are Japanese books (without English translation), so explanation in English is omitted in this part. Please contact the lecturer if you need one.

【成績評価の方法と基準】
平常点（小課題の成績、ディスカッションやグループワークへの貢献度）30％
期末試験70％
Regular grades (performance on short assignments, contribution to discussions and group work) 30%
Final exam (scheduled to be held in class) 70%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックは予定していないが、授業内でのリアクションを適宜反映するよう努める。
Due to a change in the instructor this year, the feedback do not plan to be provided, but the lecturer will endeavor to reflect reactions in class as appropriate.

【学生が準備すべき機器他】
授業中に特定の機器を使用する予定はないが、2回目以降の資料は、印刷配布せず、学習支援システムを利用pdfで配布する予定である。
No plans are prepared to use any specific equipment during classes, but from the second lesson onwards, materials will not be distributed in print, but rather in PDF format using a learning support system.

【その他の重要事項】
あらかじめ予告の上、対面授業のうち数回をオンラインで実施する可能性がある。
There is a possibility that some in-person sessions will be held online with prior notice.

【Outline (in English)】
【Course Outline】
We learn how to support and empower the educationally needy pupils and students such as the developmental and slight intellectual disabled, students with ethnic background, and with resourceless family through inclusive proposition. In addition, as a teacher, the participant will conduct learning that is linked to forming a foundation of "practical knowledge for surviving freedom.
【Learning Objectives】
The goal is to understand (or acquire):
· the characteristics of disabilities and mental and physical development of infants, children and students with special needs, in particular, basic knowledge about learning and living difficulties of various disabilities.
· the mental and physical development, psychological characteristics, and learning process of such child, and the philosophy and mechanism of system of special support education including inclusive education.
· the curriculum and support methods for infants, children and students who require special support through case studies of support methods, the position of class guidance and independence activities in the curriculum,
· the significance and methods of creating individual guidance plans and educational support plans.
· the significance of building a support system in collaboration with coordinators, related organizations, and families.
· infants, children and students who have no disabilities but have special educational needs. In particular, those who fall under this case due to problems such as their mother tongue and poverty, and how to deal with them, and the need for systematic measures.

総合的な学習の時間の指導法

窪　和広

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

総合的な学習の時間の意義と原理、特に学校ごとに目標や内を定める際の考え方を理解する。総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方、特に探求的な学習の基礎的な理論や対話を中心とした学習の具体的方法、および他教科との連携の方法を理解し、実際に指導計画が立てられるようになる。総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解できる。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。指導案の作成は授業時間外で行う。

【到達目標】

探求的な見方・考え方をし、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育む「総合的な学習の時間」の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。特に、教科ごとに育まれる見方・考え方を活用し、広範な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、実社会・実生活の課題を探求する学びを実現する授業づくりに必要な基礎的力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義を中心とするが、授業内の質疑応答も行いながら、実際に「総合的な学習の時間」の指導案をPCで作成してもらう。作成した指導案を教材としてフィードバックを行い、学生同士で議論を行う。修正した指導案を最終指導案として提出する。
毎回講義後にリアクションペーペーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（ねらいと目標、授業進め方、成績評価の方法）	本講義のねらいと目標、授業の進め方、成績評価の方法
第2回	「総合的な学習の時間」の位置づけ（創設と経緯、ねらい、目標、授業時数、他教科との関連）	創設と経緯、教育目標、教育課程上の位置付け、授業時間数、他の教科との関連
第3回	カリキュラム上の特徴（問題解決型学習や探求的な学習）	総合的な目指す資質・能力が定める「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力、人間性等」について学ぶ。
第4回	各学校ごとの指導計画（目標と内容）	総合的な学習の時間は学校ごとに課題と目標とを定める。その意義、目的、具体的な立て方について学ぶ。
第5回	指導案作成の理解（年間計画）	総合的な学習の時間は長期的な視野に基づき年間計画を立てて実施することが必要である。その理念及び実践上の必要性について学び、その長期的視野のもとで、個別の指導案を作成する方法を学ぶ。
第6回	アクティブ・ラーニングの技法	総合的な学習の時間において求められるアクティヴ・ラーニングの具体的手法を学ぶ。
第7回	指導案作成の理解（単元計画・評価方法）	総合的な学習の時間は長期計画に基づいて単元計画の指導案を作成する。その作成する内容について学ぶ。総合的な学習の時間における学習の評価の方法を学ぶ。特に問題の発見の仕方や、生徒に実践させるうえでの診断的評価との兼ね合いについて学ぶ。
第8回	具体的な実践例①（国際理解教育）	総合的な学習の時間と他の授業への展開、連携について、実践例をもとに、授業の構想の仕方を具体的に学ぶ。特に、社会科との連携の強い授業案作りを学ぶ（国際理解教育）。
第9回	指導案作成の理解（1単位時間）	総合的な学習の時間は長期計画に基づいて単元計画の指導案を作成する。その作成する内容について学ぶ。前時までの学習を下に実際に1単位時間の指導案を作成する。
第10回	具体的な実践例②（環境教育）	総合的な学習の時間と他の授業への展開、連携について、実践例をもとに、授業の構想の仕方を具体的に学ぶ。理科との連携の強い授業案作りを学ぶ（環境問題への技術的アプローチ）。
第11回	具体的な実践例③（地域学習）	総合的な学習の時間と他の授業への展開、連携について、実践例をもとに、授業の構想の仕方を具体的に学ぶ。特に、社会科・公共との連携の強い授業案作りを学ぶ（地域学習）。
第12回	指導案の発表と講評、指導案改善の観点と方法①	授業で指導案を題材にし、相互評価と教員からの講評を行う。漸時・今時の講評を下に作成した指導案を改善する際の観点を学ぶ。具体的には、①時間配分、②活動における生徒の主体性の育成、③対話的な学習、④他の教科との関連、の観点を学び、自分の作成した指導案を改良する。
第13回	指導案の発表と講評、指導案改善の観点と方法②	授業で指導案を題材にし、相互評価と教員からの講評を行う。漸時・今時の講評を下に作成した指導案を改善する際の観点を学ぶ。具体的には、①時間配分、②活動における生徒の主体性の育成、③対話的な学習、④他の教科との関連、の観点を学び、自分の作成した指導案を改良する。
第14回	具体的な実践例④（シティズンシップ教育）とまとめ	総合的な学習の時間と他の授業への展開、連携について、実践例をもとに、授業の構想の仕方を具体的に学ぶ。特に、社会科・公共との連携の強い授業案作りを学ぶ（シティズンシップ教育）。全13回のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
指導案の作成は授業時間外で行ってもらいます。

【テキスト（教科書）】

適宜指示します。

【参考書】

文部科学省（2017）『中学校学習指導要領（平成29年告示）』
文部科学省（2017）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』
文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』
文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総合的な探究の時間編』

文部科学省のHPで見れます
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm
文部科学省（2022）『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（中学校編）』
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/20220426-mxt_kouhou02-2.pdf
文部科学省（2023）『今、求めらる力を高める総合的な学習の時間の展開（高等学校編）
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/20230531-mxt_kyouiku_soutantebiki03_2.pdf

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーペー、）10％、授業指導案の発表10％、授業計画案以外の課題30％、1回目の授業計画案（授業指導案）20％、最終の授業計画案（最終授業指導案）30％

【学生の意見等からの気づき】
この講義の最終目的が「1単位時間（1授業分）の指導案」を作成できるようになることであり、作成した年間計画、単元計画、指導案等についてフィードバックを積極的に行っていく。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出の際は、学習支援システムを利用する。
指導案の作成時はPC（パソコン）を用意してください。

【その他の重要事項】
教職科目の「道徳の指導法」、「特別活動」「教育相談等に関する科目」等、各教科の「教科指導法」に該当する科目を履修することにより、この科目の理解が深まることになります。
シラバスの内容は受講生の興味関心に応じて若干の変更をする場合があります。

【Outline (in English)】
Method for the Period for Integrated Studies. The significance of this subject, flame of purpose and contents in each school, how to make taching plans, the way of evaluation of students grades.
To acquire knowledge and skills related to the preparation of instructional plans, specific teaching methods, and evaluation of learning activities in relation to "the Period for Integrated Study."
In particular, students will acquire the basic skills necessary to create classes that achieve the following three points. (1) to utilize the perspectives and ideas nurtured in each subject, (2) to view a wide range of events from a variety of angles, and (3) to realize learning that explores issues in real society and real life.
Normal points (reaction paper,) 10%, presentation of lesson plan 10%, assignments other than lesson plan 30%, first lesson plan (lesson plan) 20%, final submitted lesson plan (lesson plan) 30%.
The standard time for preparation and review for this class is two hours each. Lesson plans will be created outside of class hours.

総合的な学習の時間の指導法

中澤　純一

単位：**2単位**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
総合的な学習の時間の意義と原理、特に学校ごとに目標や内を定める際の考え方を理解する。総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方、特に探求的な学習の基礎的な理論や対話を中心とした学習の具体的方法、および他教科との連携の方法を理解し、実際に指導計画が立てられるようになる。総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解できる。

【到達目標】
探求的な見方・考え方をし、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育む「総合的な学習の時間」の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。特に、教科ごとに育まれる見方・考え方を活用し、広範な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、実社会・実生活の課題を探求する学びを実現する授業づくりに必要な基礎的力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
各回の講義の特徴にあわせ、グループによる単元構想の作成及び発表、対話・議論型授業、反転授業、参加型学習、プレゼンテーション等を効果的に組み合わせて実施する。授業冒頭で、前回の授業で提出されたリフレクションシートからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	総合的な学習の時間の創設	・総合的な学習の創設からの経緯　・学習指導要領と総合的な学習の時間
第2回	総合的な学習（探究）の時間の意義	・総合的な時間の背景　・総合的な学習の時間の目標及と内容　・目指す資質・能力
第3回	総合的な学習（探究）の時間の教育課程	・教育課程における総合的な学習の時間の位置づけ　・総合的な学習の時間とカリキュラム・マネジメント
第4回	総合的な学習（探究）の時間の目標及び内容	・総合的な学習（探究）の時間の目標　・三つの資質・能力に対応した目標　・総合的な学習（探究）の時間の内容
第5回	総合的な学習（探究）の時間の単元計画	・総合的な学習（探究）の時間の単元　・単元計画　・単元構想
第6回	総合的な学習（探究）の時間の学習指導と評価	・探究的な学習　・総合的な学習（探究）の時間の学習指導　・評価のポイント
第7回	総合的な学習（探究）の時間の学校体制	・校内組織　・学習環境の整備　・外部人材・組織との連携
第8回	総合的な学習（探究）の時間における国際理解教育の授業づくり	・総合的な学習（探究）の時間における国際理解教育の理論と実践　・外部リソースの活用　・授業分析の視点
第9回	総合的な学習（探究）の時間における多文化教育の授業づくり	・総合的な学習（探究）の時間における多文化教育の理論と実践　・授業分析の視点
第10回	総合的な学習（探究）の時間における移民学習の授業づくり	・総合的な学習（探究）の時間における移民学習の教育的意義　・移民学習を題材とした授業事例　・博学連携の視点
第11回	総合的な学習（探究）の時間の単元構想・学習指導案の作成	・総合的な学習（探究）の時間の授業をつくるために　・単元構想・学習指導案を作成するための具体的手順
第12回	総合的な学習（探究）の時間の単元構想の開発	・現代社会の諸課題をテーマにした単元構想づくり
第13回	総合的な学習の時間の単元構想の発表と相互評価	・グループで単元構想の発表及び相互評価
第14回	総合的な探究の時間の単元構想の発表と相互評価	・グループで単元構想の発表及び相互評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習（準備学習）・事後学習（復習・宿題）として、次の５つに留意すること。１．事前学習として、教科書の指定箇所を熟読しワークシートの予習部分を解いたり、単元構想の作成及び準備に熱心に取り組むこと。２．事後学習として、各回の課題に取り組み、次の授業までに課題レポートを提出したり、期末課題（各自による単元構想の開発）を着実に提出すること。３．日頃から、中等学校の総合的な学習（探究）の時間の授業実践に関心をもって先行研究や先行実践を調べて理解しておくこと。４．中学校及び高等学校の総合的な学習（探究）の時間の学習指導要領を読んでおくこと。５．事前学習２時間、事後学習２時間30分を目標として学習に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】
・釜田聡、松井千鶴子、梅野正信編著（2023）『ミネルヴァ教職専門シリーズ11 総合的な学習の時間の新展開』ミネルヴァ書房

【参考書】
・文部科学省（2018）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』東山書房
・文部科学省（2019）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総合的な探究の時間編』東京書籍
・文部科学省編（2022）『「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」（中学校編）』アイフィス
・文部科学省編（2023）『「今、求められる力を高める総合的な探究の時間の展開」（高等学校編）』アイフィス
・日本国際理解教育学会編著（2015）『国際理解教育ハンドブック- グローバル・シティズンシップを育む- 』明石書店
・中澤純一（2023）『多文化教育の授業開発と実践- 多様性の尊重と社会正義の実現をめざして- 』明石書店
・森茂岳雄、中山京子編著『日系移民学習の理論と実践』明石書店

【成績評価の方法と基準】
授業への参加及び貢献（15％）第２回～第11回における事前・事後学習課題（リフレクションシートも含む）（20％）、グループによる単元構想の開発と発表（30％）、期末課題（各自による単元構想の開発）（35％）等に基づいて総合的に評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
提出されたリフレクションシートやレポートにコメントをつけて返却する。また、事前課題の内容について、授業内に解説を行う。

【学生が準備すべき機器他】
総合的な学習（探究）の時間の単元構想の開発・発表において、PC等の持参が必要な場合がある。

【その他の重要事項】
授業の進行状況や社会情勢によって、適宜変更する場合がある。

【Outline (in English)】
【Course outline】
To acquire knowledge and skills related to the preparation of instructional plans, specific teaching methods, and evaluation of learning activities in relation to "the Period for Integrated Study."

In particular, students will acquire the basic skills necessary to create classes that achieve the following three points. (1) to utilize the perspectives and ideas nurtured in each subject, (2) to view a wide range of events from a variety of angles, and (3) to realize learning that explores issues in real society and real life.

【Learning Objectives】

To acquire knowledge and skills in the preparation of teaching plans and specific teaching methods and evaluation of learning activities for the 'integrated learning time', which fosters the qualities and abilities to better solve problems and think about one's own way of life through an enquiring way of seeing and thinking and through cross-cutting and integrated learning. In particular, acquire the basic skills needed to create classes that realise learning that utilises the perspectives and ideas fostered in each subject area, takes a bird's-eye view of a wide range of events from various angles, and explores issues in the real world and in real life.

【Learning activities outside of classroom】

The following five points are to be noted in terms of pre-study (preparatory study) and post-study (review and homework): 1. pre-study: read the designated sections of the textbook carefully, solve the preparatory part of the worksheet, prepare a unit concept and work diligently on preparation; 2. post-study: work on each assignment, submit a report on the assignment before the next class, and steadily submit the final assignment (development of individual unit concept); 3. 3. to be interested in the teaching practice of integrated learning (inquiry) in secondary schools and to research and understand previous studies and practices; 4. to have read the guidelines for teaching integrated learning (inquiry) in junior high schools and senior high schools; 5. to be familiar with the curriculum and the curriculum guidelines for integrated learning (inquiry) in junior high schools and senior high schools; and 6. 5. to work towards a target of 2 hours of pre-study and 2 hours and 30 minutes of post-study.

【Grading Criteria /Policy】

Comprehensive evaluation based on class participation and contribution (15%) pre- and post-work assignments (including reflection sheets) in sessions 2 to 11 (20%), development and presentation of unit concept by the group (30%) and final assignment (development of unit concept by each student) (35%).

総合的な学習の時間の指導法

窪　和広

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

総合的な学習の時間の意義と原理、特に学校ごとに目標や内を定める際の考え方を理解する。総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方、特に探求的な学習の基礎的な理論や対話を中心とした学習の具体的方法、および他教科との連携の方法を理解し、実際に指導計画が立てられるようになる。総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解できる。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。指導案の作成は授業時間外で行う。

【到達目標】

探求的な見方・考え方をし、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育む「総合的な学習の時間」の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。特に、教科ごとに育まれる見方・考え方を活用し、広範な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、実社会・実生活の課題を探求する学びを実現する授業づくりに必要な基礎的力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義を中心とするが、授業内の質疑応答も行いながら、実際に「総合的な学習の時間」の指導案をPCで作成してもらう。作成した指導案を教材としてフィードバックを行う。修正した指導案を最終指導案として提出する。

毎回講義後にリアクションペーペーを提出する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつかつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（ねらいと目標、授業進め方、成績評価の方法）	本講義のねらいと目標、授業の進め方、成績評価の方法
第2回	「総合的な学習の時間」の位置づけ（創設と経緯、ねらい、目標、授業時数、他教科との関連）	創設と経緯、教育目標、教育課程上の位置付け、授業時間数、他の教科との関連
第3回	カリキュラム上の特徴（問題解決型学習や探求的な学習）	総合的な目指す資質・能力が定める「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力、人間性等」について学ぶ。
第4回	各学校ごとの指導計画（目標と内容）	総合的な学習の時間は学校ごとに課題と目標とを定める。その意義、目的、具体的な立て方について学ぶ。
第5回	指導案作成の理解（年間計画）	総合的な学習の時間は長期的な視野に基づき年間計画を立てて実施することが必要である。その理念及び実践上の必要性について学び、その長期的視野のもとで、個別の指導案を作成する方法を学ぶ。
第6回	アクティブ・ラーニングの技法	総合的な学習の時間において求められるアクティヴ・ラーニングの具体的手法を学ぶ。
第7回	指導案作成の理解（単元計画・評価方法）	総合的な学習の時間は長期計画に基づいて単元計画の指導案を作成する。その作成する内容について学ぶ。総合的な学習の時間における学習の評価の方法を学ぶ。特に問題の発見の仕方や、生徒に実践させるうえでの診断的評価との兼ね合いについて学ぶ。
第8回	具体的な実践例①（国際理解教育）	総合的な学習の時間と他の授業への展開、連携について、実践例をもとに、授業の構想の仕方を具体的に学ぶ。特に、社会科との連携の強い授業案作りを学ぶ（国際理解教育）。
第9回	指導案作成の理解（1単位時間）	総合的な学習の時間は長期計画に基づいて単元計画の指導案を作成する。その作成する内容について学ぶ。前時までの学習を下に実際に1単位時間の指導案を作成する。
第10回	具体的な実践例②（環境教育）	総合的な学習の時間と他の授業への展開、連携について、実践例をもとに、授業の構想の仕方を具体的に学ぶ。理科との連携の強い授業案作りを学ぶ（環境問題への技術的アプローチ）。
第11回	具体的な実践例③（地域学習）	総合的な学習の時間と他の授業への展開、連携について、実践例をもとに、授業の構想の仕方を具体的に学ぶ。特に、社会科・公共との連携の強い授業案作りを学ぶ（地域学習）。
第12回	指導案の発表と講評、指導案改善の観点と方法①	授業で指導案を題材にし、相互評価と教員からの講評を行う。漸時・今時の講評を下に作成した指導案を改善する際の観点を学ぶ。具体的には、①時間配分、②活動における生徒の主体性の育成、③対話的な学習、④他の教科との関連、の観点を学び、自分の作成した指導案を改良する。
第13回	指導案の発表と講評、指導案改善の観点と方法②	授業で指導案を題材にし、相互評価と教員からの講評を行う。漸時・今時の講評を下に作成した指導案を改善する際の観点を学ぶ。具体的には、①時間配分、②活動における生徒の主体性の育成、③対話的な学習、④他の教科との関連、の観点を学び、自分の作成した指導案を改良する。
第14回	具体的な実践例④（シティズンシップ教育）とまとめ	総合的な学習の時間と他の授業への展開、連携について、実践例をもとに、授業の構想の仕方を具体的に学ぶ。特に、社会科・公共との連携の強い授業案作りを学ぶ（シティズンシップ教育）。全13回のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
指導案の作成は授業時間外で行ってもらいます。

【テキスト（教科書）】

適宜指示します。

【参考書】

文部科学省（2017）『中学校学習指導要領（平成29年告示）』
文部科学省（2017）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』

文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』
文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　総合的な探究の時間編』
文部科学省のHPで見れます
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm
文部科学省（2022）『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（中学校編）』
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/20220426-mxt_kouhou02-2.pdf
文部科学省（2023）『今、求めらる力を高める総合的な探究の時間の展開（高等学校編）
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/20230531-mxt_kyouiku_soutantebiki03_2.pdf

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーペー、）10％、授業参加度10％、授業指導案以外の課題30％、1回目の授業指導案20％、最終の授業指導案）30％

【学生の意見等からの気づき】
この講義の最終目的が「1単位時間（1授業分）の指導案」を作成できるようになることであり、作成した年間計画、単元計画、指導案等についてフィードバックを積極的に行っていく。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出の際は、学習支援システムを利用する。
指導案の作成時はPC（パソコン）を用意してください。

【その他の重要事項】
教職科目の「道徳の指導法」、「特別活動」「教育相談等に関する科目」等、各教科の「教科指導法」に該当する科目を履修することにより、この科目の理解が深まることになります。
シラバスの内容は受講生の興味関心に応じて若干の変更をする場合があります。

【Outline (in English)】
Method for the Period for Integrated Studies. The significance of this subject, flame of purpose and contents in each school, how to make taching plans, the way of evaluation of students grades.
To acquire knowledge and skills related to the preparation of instructional plans, specific teaching methods, and evaluation of learning activities in relation to "the Period for Integrated Study."
In particular, students will acquire the basic skills necessary to create classes that achieve the following three points. (1) to utilize the perspectives and ideas nurtured in each subject, (2) to view a wide range of events from a variety of angles, and (3) to realize learning that explores issues in real society and real life.
Normal points (reaction paper,) 10%, presentation of lesson plan 10%, assignments other than lesson plan 30%, first lesson plan (lesson plan) 20%, final submitted lesson plan (lesson plan) 30%.
The standard time for preparation and review for this class is two hours each. Lesson plans will be created outside of class hours.

総合的な学習の時間の指導法

中澤　純一

単位：**2単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
総合的な学習の時間の意義と原理、特に学校ごとに目標や内を定める際の考え方を理解する。総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方、特に探求的な学習の基礎的な理論や対話を中心とした学習の具体的方法、および他教科との連携の方法を理解し、実際に指導計画が立てられるようになる。総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解できる。

【到達目標】
探求的な見方・考え方をし、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育む「総合的な学習の時間」の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。特に、教科ごとに育まれる見方・考え方を活用し、広範な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、実社会・実生活の課題を探求する学びを実現する授業づくりに必要な基礎的力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
各回の講義の特徴にあわせ、グループによる単元構想の作成及び発表、対話・議論型授業、反転授業、参加型学習、プレゼンテーション等を効果的に組み合わせて実施する。授業冒頭で、前回の授業で提出されたリフレクションシートからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	総合的な学習の時間の創設	・総合的な学習の創設からの経緯　・学習指導要領と総合的な学習の時間
第2回	総合的な学習（探究）の時間の意義	・総合的な時間の背景　・総合的な学習の時間の目標及と内容　・目指す資質・能力
第3回	総合的な学習（探究）の時間の教育課程	・教育課程における総合的な学習の時間の位置づけ　・総合的な学習の時間とカリキュラム・マネジメント
第4回	総合的な学習（探究）の時間の目標及び内容	・総合的な学習（探究）の時間の目標　・三つの資質・能力に対応した目標　・総合的な学習（探究）の時間の内容
第5回	総合的な学習（探究）の時間の単元計画	・総合的な学習（探究）の時間の単元　・単元計画　・単元構想
第6回	総合的な学習（探究）の時間の学習指導と評価	・探究的な学習　・総合的な学習（探究）の時間の学習指導　・評価のポイント
第7回	総合的な学習（探究）の時間の学校体制	・校内組織　・学習環境の整備　・外部人材・組織との連携
第8回	総合的な学習（探究）の時間における国際理解教育の授業づくり	・総合的な学習（探究）の時間における国際理解教育の理論と実践　・外部リソースの活用　・授業分析の視点
第9回	総合的な学習（探究）の時間における多文化教育の授業づくり	・総合的な学習（探究）の時間における多文化教育の理論と実践　・授業分析の視点
第10回	総合的な学習（探究）の時間における移民学習の授業づくり	・総合的な学習（探究）の時間における移民学習の教育的意義　・移民学習を題材とした授業事例　・博学連携の視点
第11回	総合的な学習（探究）の時間の単元構想・学習指導案の作成	・総合的な学習（探究）の時間の授業をつくるために　・単元構想・学習指導案を作成するための具体的手順
第12回	総合的な学習（探究）の時間の単元構想の開発	・現代社会の諸課題をテーマにした単元構想づくり
第13回	総合的な学習の時間の単元構想の発表と相互評価	・グループで単元構想の発表及び相互評価
第14回	総合的な探究の時間の単元構想の発表と相互評価	・グループで単元構想の発表及び相互評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習（準備学習）・事後学習（復習・宿題）として、次の５つに留意すること。１．事前学習として、教科書の指定箇所を熟読しワークシートの予習部分を解いたり、単元構想の作成及び準備に熱心に取り組むこと。２．事後学習として、各回の課題に取り組み、次の授業までに課題レポートを提出したり、期末課題（各自による単元構想の開発）を着実に提出すること。３．日頃から、中等学校の総合的な学習（探究）の時間の授業実践に関心をもって先行研究や先行実践を調べて理解しておくこと。４．中学校及び高等学校の総合的な学習（探究）の時間の学習指導要領を読んでおくこと。５．事前学習２時間、事後学習２時間30分を目標として学習に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】
・釜田聡、松井千鶴子、梅野正信編著（2023）『ミネルヴァ教職専門シリーズ11 総合的な学習の時間の新展開』ミネルヴァ書房

【参考書】
・文部科学省（2018）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』東山書房
・文部科学省（2019）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総合的な探究の時間編』東京書籍
・文部科学省編（2022）『「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」（中学校編）』アイフィス
・文部科学省編（2023）『「今、求められる力を高める総合的な探究の時間の展開」（高等学校編）』アイフィス
・日本国際理解教育学会編著（2015）『国際理解教育ハンドブック- グローバル・シティズンシップを育む- 』明石書店
・中澤純一（2023）『多文化教育の授業開発と実践- 多様性の尊重と社会正義の実現をめざして- 』明石書店
・森茂岳雄、中山京子編著『日系移民学習の理論と実践』明石書店

【成績評価の方法と基準】
授業への参加及び貢献（15％）第２回～第11回における事前・事後学習課題（リフレクションシートも含む）（20％）、グループによる単元構想の開発と発表（30％）、期末課題（各自による単元構想の開発）（35％）等に基づいて総合的に評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
提出されたリフレクションシートやレポートにコメントをつけて返却する。また、事前課題の内容について、授業内に解説を行う。

【学生が準備すべき機器他】
総合的な学習（探究）の時間の単元構想の開発・発表において、PC等の持参が必要な場合がある。

【その他の重要事項】
授業の進行状況や社会情勢によって、適宜変更する場合がある。

【Outline (in English)】
【Course outline】
To acquire knowledge and skills related to the preparation of instructional plans, specific teaching methods, and evaluation of learning activities in relation to "the Period for Integrated Study."

In particular, students will acquire the basic skills necessary to create classes that achieve the following three points. (1) to utilize the perspectives and ideas nurtured in each subject, (2) to view a wide range of events from a variety of angles, and (3) to realize learning that explores issues in real society and real life.

【Learning Objectives】

To acquire knowledge and skills in the preparation of teaching plans and specific teaching methods and evaluation of learning activities for the 'integrated learning time', which fosters the qualities and abilities to better solve problems and think about one's own way of life through an enquiring way of seeing and thinking and through cross-cutting and integrated learning. In particular, acquire the basic skills needed to create classes that realise learning that utilises the perspectives and ideas fostered in each subject area, takes a bird's-eye view of a wide range of events from various angles, and explores issues in the real world and in real life.

【Learning activities outside of classroom】

The following five points are to be noted in terms of pre-study (preparatory study) and post-study (review and homework): 1. pre-study: read the designated sections of the textbook carefully, solve the preparatory part of the worksheet, prepare a unit concept and work diligently on preparation; 2. post-study: work on each assignment, submit a report on the assignment before the next class, and steadily submit the final assignment (development of individual unit concept); 3. 3. to be interested in the teaching practice of integrated learning (inquiry) in secondary schools and to research and understand previous studies and practices; 4. to have read the guidelines for teaching integrated learning (inquiry) in junior high schools and senior high schools; 5. to be familiar with the curriculum and the curriculum guidelines for integrated learning (inquiry) in junior high schools and senior high schools; and 6. 5. to work towards a target of 2 hours of pre-study and 2 hours and 30 minutes of post-study.

【Grading Criteria /Policy】

Comprehensive evaluation based on class participation and contribution (15%) pre- and post-work assignments (including reflection sheets) in sessions 2 to 11 (20%), development and presentation of unit concept by the group (30%) and final assignment (development of unit concept by each student) (35%).

社会・地歴科教育法

宮嶋　祐一

単位：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
備考（履修条件等）：2018年度以前入学生用科目
（哲・史・地理学科以外用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解する。地歴分野の授業の方法や評価の仕方を学び、学習指導案を作成して模擬授業を実施する。その振り返りをもとに授業を進める上でのポイントを理解する。

【到達目標】
中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を理解するとともに、教育実習や実際の授業に役立つ教科指導と授業計画を立てるために必要な知識や技能を身につける。模擬授業を行い、４年次の教育実習に対応できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
社会科地歴科教育について歴史と現状を理解し、さらに具体的な授業テーマ（歴史と地理）を取り上げ、実際の教科書を使って授業方法を具体的に学ぶ。授業は講義、模擬授業、模擬授業の質疑応答で構成。講義の時には振り返りシート、模擬授業の時には感想を提出してもらう。質問等については適宜授業で解説を行う。状況により授業形態・計画の変更もあり。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（授業の狙いや進め方） 社会科教育の目的について	授業のオリエンテーションと、学校教育における社会科教育の目的を理解する。
第2回	社会科教育の現在①（中学社会科分野の学習指導要領）	中学社会科の学習指導要領の内容を理解する。
第3回	社会科教育の現在②（高校地歴科の学習指導要領）	高校地歴科の学習指導要領の内容を理解する。
第4回	戦前の社会科教育	戦前の社会科教育の特徴について理解する。
第5回	戦後の社会科教育	戦後の社会科教育の特徴について理解する。
第6回	中学社会科公民的分野の授業例	中学社会科の公民的分野の授業例を検討する（地理、歴史的分野は高校の授業例を扱うため、中学は公民のみとする）。
第7回	高校地歴科歴史分野の授業例①	高校の歴史総合の授業例を検討する。①
第8回	高校地歴科地理分野の授業例①	高校の地理総合の授業例を検討する。①
第9回	高校地歴科歴史分野の授業例②	高校の歴史総合の授業例を検討する。②
第10回	高校地歴科地理分野の授業例②	高校の地理総合の授業例を検討する。②
第11回	高校地歴科の授業例③	状況を見て、高校の歴史分野または地理分野の授業例を検討する。③
第12回	学習指導案の書き方	学習指導案の意義と書き方について理解する。
第13回	模擬授業の意義と模擬授業を行う上での注意事項	模擬授業の意義について理解する。 模擬授業を行う上での具体的な注意事項の確認をする。
第14回	春学期のまとめと確認テスト	春学期のまとめと確認テストを行う。
第15回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第16回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第17回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第18回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第19回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第20回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第21回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第22回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第23回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第24回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第25回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第26回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第27回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第28回	模擬授業のまとめと振り返り	模擬授業を総括し、振り返りレポートを記入する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会科、地歴科の教員には社会に関する高い関心と豊富な知識が必要である。社会の出来事に関心を持ち、読書や新聞、テレビのニュースなどを積極的に見て欲しい。さらにNHKスペシャルなどのドキュメンタリー番組も見て欲しい。授業中に紹介した文献等も積極的に読んで欲しい。模擬授業の授業指導案と授業プリントを事前に作成し提出してもらう。本授業の準備時間は模擬授業の授業指導案と授業プリントの作成を含め３時間ほど、復習時間は１～２時間、計４、５時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。適宜授業プリントを使用する。模擬授業の時には、担当者が作成した学習指導案を事前に提出してもらい、それを参考に模擬授業を実施する。

【参考書】
文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）、文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）
中学校歴史、地理、公民各分野教科書（出版社は指定しない）
高等学校　歴史総合、地理総合教科書（出版社は指定しない）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（リアクションペーパー、模擬授業感想シート、出席状況などで30％）、学習指導案・模擬授業・レポート・春学期の確認テストなど（70％）を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生からの質問等は、次の授業時間やメールなどを使用して回答する。
一昨年度、昨年度とも授業の感想で、模擬授業を経験できたことが大変良かったという意見が多数あったので、今年度も来年度教育実習を行う３年生を中心に模擬授業を行ってもらう。
教育実習や実際に教員になった場合を考慮して、授業実践に役立つ授業を念頭に進める。
学生からの質問等は、次の授業時間やメールなどを使用して回答する。

【学生が準備すべき機器他】
タブレットやノートパソコンを持参してもらう場合もある。

【その他の重要事項】
前半は講義形式、後半は、４年次の教育実習に向けて、３年生中心に２名ずつ歴史総合か地理総合の模擬授業を行ってもらう。基本的には、２限と３限は同じ内容で進める。
実際に教員になった場合、授業を休んだり遅刻をすると、その時間の授業ができず授業時間が不足したりして授業に影響が出てしまう。また、授業の代行や自習監督を他の教員にお願いしなければならず、他の教員の負担が増えてしまう。そのため、現実的には教員はなかなか授業を休むことは難しい。そこで、この授業についてもできるだけ欠席や遅刻をしないようにすること。他の学生の模擬授業を見ることは非常に役立つし、欠席や遅刻をすることは、模擬授業担当者にとってやりづらいし失礼にあたってしまう。出席状況を重視するので注意すること。
授業中に許可無くスマホなどを見ないようにすること。
担当者は、中高の教員の経験が30年以上あるので、それを活かし、実践的な授業を実施するつもりである。

【Outline (in English)】
Learn social studies history and understand the goals and contents of the curriculum. Learn how to teach and evaluate in the field of geography and history, create a lesson plan and conduct a mock lesson. Based on the review, understand the key points for teaching.

社会・地歴科教育法（1）

宮嶋　祐一

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：2019年度以降入学生用科目
（哲・史・地理学科以外用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解する。地歴分野の授業の方法や評価の仕方を学び、学習指導案の作成方法、模擬授業を行う際に注意することなどを学ぶ。

【到達目標】
中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を理解するとともに、教育実習や実際の授業に役立つ教科指導と授業計画を立てるために必要な知識や技能を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
社会科地歴科教育について歴史と現状を理解し、さらに具体的な授業テーマ（歴史と地理）を取り上げ、実際の教科書を使って授業方法を具体的に学ぶ。授業はおもに講義形式で行い、振り返りシートを提出してもらう。質問等については適宜授業で解説を行う。状況により授業形態・計画の変更もあり。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（授業の狙いや進め方） 社会科教育の目的について	授業のオリエンテーションと、学校教育における社会科教育の目的を理解する。
第2回	社会科教育の現在①（中学社会科分野の学習指導要領）	中学社会科の学習指導要領の内容を理解する。
第3回	社会科教育の現在②（高校地歴科の学習指導要領）	高校地歴科の学習指導要領の内容を理解する。
第4回	戦前の社会科教育	戦前の社会科教育の特徴について理解する。
第5回	戦後の社会科教育	戦後の社会科教育の特徴について理解する。
第6回	中学社会科公民的分野の授業例	中学社会科の公民的分野の授業例を検討する（地理、歴史的分野は高校の授業例を扱うため、中学は公民のみとする）。
第7回	高校地歴科歴史分野の授業例①	高校の歴史総合の授業例を検討する。①
第8回	高校地歴科地理分野の授業例①	高校の地理総合の授業例を検討する。①
第9回	高校地歴科歴史分野の授業例②	高校の歴史総合の授業例を検討する。②
第10回	高校地歴科地理分野の授業例②	高校の地理総合の授業例を検討する。②
第11回	高校地歴科の授業例③	状況を見て、高校の歴史分野または地理分野の授業例を検討する。③
第12回	学習指導案の書き方	学習指導案の意義と書き方について理解する。
第13回	模擬授業の意義と模擬授業を行う上での注意事項	模擬授業の意義について理解する。 模擬授業を行う上での具体的な注意事項の確認をする。
第14回	春学期のまとめと確認テスト	春学期のまとめと確認テストを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会科、地歴科の教員には社会に関する高い関心と豊富な知識が必要である。社会の出来事に関心を持ち、読書や新聞、テレビのニュースなどを積極的に見て欲しい。さらにNHKスペシャルなどのドキュメンタリー番組も見て欲しい。授業中に紹介した文献等も積極的に読んで欲しい。復習時間を１～２時間とって、学習内容の定着をはかること。

【テキスト（教科書）】
特になし。適宜授業プリントを使用する。

【参考書】
文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）、文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）
中学校歴史、地理、公民各分野教科書（出版社は指定しない）
高等学校　歴史総合、地理総合教科書（出版社は指定しない）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（リアクションペーパー、出席状況などで30％）、レポート（10％）、確認テスト（60％）を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業中での質問や意見は積極的に行って欲しい。または、毎時間リアクションペーパーを記入してもらうので、そこに質問等があれば記入すること。質問については次の時間に回答し、場合によってはメールで回答する。全体で共有した方がよい内容であれば、次の時間の授業の最初に説明する。

【学生が準備すべき機器他】
タブレットやノートパソコンを持参してもらう場合もある。

【その他の重要事項】
原則として春学期は講義形式で進める。基本的には、２限と３限は同じ内容で進める。
実際に教員になった場合、授業を休んだり遅刻をすると、その時間の授業ができず授業時間が不足したりして授業に影響が出てしまう。また、授業の代行や自習監督を他の教員にお願いしなければならず、他の教員の負担が増えてしまう。そのため、現実的には教員はなかなか授業を休むことは難しい。そこで、この授業についてもできるだけ欠席や遅刻をしないようにすること。出席状況を重視するので注意すること。
授業中に許可無くスマホなどを見ないようにすること。
担当者は、中高の教員の経験が30年以上あるので、それを活かし、実践的な授業を実施するつもりである。

【Outline (in English)】
I learn the history of social studies and understand an aim and the contents of the course of study. Method of the class of the field of geography and history and learn a way making method of the learning teaching plan of the evaluation, simulated; learn that warn you when teach it.

社会・地歴科教育法（2）

宮嶋　祐一

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：2019年度以降入学生用科目
（哲・史・地理学科以外用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解する。地歴分野の授業の方法や評価の仕方を学び、学習指導案を作成して模擬授業を実施する。その振り返りをもとに授業を進める上でのポイントを理解する。

【到達目標】
中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を理解するとともに、教育実習や実際の授業に役立つ教科指導と授業計画を立てるために必要な知識や技能を身につける。模擬授業を行い、４年次の教育実習に対応できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
社会科地歴科教育について歴史と現状を理解し、さらに具体的な授業テーマ（歴史と地理）を取り上げ、実際の教科書を使って授業方法を具体的に学ぶ。授業は模擬授業を中心に進める。毎回模擬授業の感想シートを提出してもらう。質問等については適宜授業で解説を行う。状況により授業形態・計画の変更もあり。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第2回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第3回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第4回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第5回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第6回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第7回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第8回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第9回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第10回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第11回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第12回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第13回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第14回	模擬授業のまとめと振り返り	模擬授業を総括し、振り返りシートを記入する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会科、地歴科の教員には社会に関する高い関心と豊富な知識が必要である。社会の出来事に関心を持ち、読書や新聞、テレビのニュースなどを積極的に見て欲しい。さらにNHKスペシャルなどのドキュメンタリー番組も見て欲しい。授業中に紹介した文献等も積極的に読んで欲しい。模擬授業の授業指導案と授業プリントを事前に作成し提出してもらう。本授業の準備時間は模擬授業の授業指導案と授業プリントの作成を含め３時間ほど、復習時間は１～２時間、計４、５時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。適宜授業プリントを使用する。模擬授業の時には、担当者が作成した学習指導案を事前に提出してもらい、それを参考に模擬授業を実施する。

【参考書】
文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）、文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）
中学校歴史、地理、公民各分野教科書（出版社は指定しない）
高等学校　歴史総合、地理総合教科書（出版社は指定しない）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（リアクションペーパー、模擬授業感想シート、出席状況などで30％）、学習指導案・模擬授業・レポートなど（70％）を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
一昨年度、昨年度とも授業の感想で、模擬授業を経験できたことが大変良かったという意見が多数あったので、今年度も来年度教育実習を行う３年生を中心に模擬授業を行ってもらう。
教育実習や実際に教員になった場合を考慮して、授業実践に役立つ授業を念頭に進める。
学生からの質問等は、次の授業時間やメールなどを使用して回答する。

【学生が準備すべき機器他】
タブレットやノートパソコンを持参してもらう場合もある。

【その他の重要事項】
４年次の教育実習に向けて、３年生中心に２名ずつ歴史総合か地理総合の模擬授業を行ってもらう。基本的には、２限と３限は同じ内容で進める。
実際に教員になった場合、授業を休んだり遅刻をすると、その時間の授業ができず授業時間が不足したりして授業に影響が出てしまう。また、授業の代行や自習監督を他の教員にお願いしなければならず、他の教員の負担が増えてしまう。そのため、現実的には教員はなかなか授業を休むことは難しい。そこで、この授業についてもできるだけ欠席や遅刻をしないようにすること。他の学生の模擬授業を見ることは非常に役立つし、欠席や遅刻をすることは、模擬授業担当者にとってやりづらいし失礼にあたってしまう。出席状況を重視するので注意すること。
授業中に許可無くスマホを見ないようにすること。
担当者は、中高の教員の経験が30年以上あるので、それを活かし、実践的な授業を実施するつもりである。

【Outline (in English)】
Learn social studies history and understand the goals and contents of the curriculum. Learn how to teach and evaluate in the field of geography and history, create a lesson plan and conduct a mock lesson. Based on the review, understand the key points for teaching.

社会・地歴科教育法

宮嶋　祐一

単位：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
備考（履修条件等）：2018年度以前入学生用科目
（哲・史・地理学科用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解する。地歴分野の授業の方法や評価の仕方を学び、学習指導案を作成して模擬授業を実施する。その振り返りをもとに授業を進める上でのポイントを理解する。

【到達目標】
中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を理解するとともに、教育実習や実際の授業に役立つ教科指導と授業計画を立てるために必要な知識や技能を身につける。模擬授業を行い、４年次の教育実習に対応できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
社会科地歴科教育について歴史と現状を理解し、さらに具体的な授業テーマ（歴史と地理）を取り上げ、実際の教科書を使って授業方法を具体的に学ぶ。授業は講義、模擬授業、模擬授業の質疑応答で構成。講義の時には振り返りシート、模擬授業の時には感想を提出してもらう。質問等については適宜授業で解説を行う。状況により授業形態・計画の変更もあり。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（授業の狙いや進め方） 社会科教育の目的について	授業のオリエンテーションと、学校教育における社会科教育の目的を理解する。
第2回	社会科教育の現在①（中学社会科分野の学習指導要領）	中学社会科の学習指導要領の内容を理解する。
第3回	社会科教育の現在②（高校地歴科の学習指導要領）	高校地歴科の学習指導要領の内容を理解する。
第4回	戦前の社会科教育	戦前の社会科教育の特徴について理解する。
第5回	戦後の社会科教育	戦後の社会科教育の特徴について理解する。
第6回	中学社会科公民的分野の授業例	中学社会科の公民的分野の授業例を検討する（地理、歴史的分野は高校の授業例を扱うため、中学は公民のみとする）。
第7回	高校地歴科歴史分野の授業例①	高校の歴史総合の授業例を検討する。①
第8回	高校地歴科地理分野の授業例①	高校の地理総合の授業例を検討する。①
第9回	高校地歴科歴史分野の授業例②	高校の歴史総合の授業例を検討する。②
第10回	高校地歴科地理分野の授業例②	高校の地理総合の授業例を検討する。②
第11回	高校地歴科の授業例③	状況を見て、高校の歴史分野または地理分野の授業例を検討する。③
第12回	学習指導案の書き方	学習指導案の意義と書き方について理解する。
第13回	模擬授業の意義と模擬授業を行う上での注意事項	模擬授業の意義について理解する。 模擬授業を行う上での具体的な注意事項の確認をする。
第14回	春学期のまとめと確認テスト	春学期のまとめと確認テストを行う。
第15回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第16回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第17回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第18回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第19回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第20回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第21回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第22回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第23回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第24回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第25回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第26回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第27回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第28回	模擬授業のまとめと振り返り	模擬授業を総括し、振り返りレポートを記入する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会科、地歴科の教員には社会に関する高い関心と豊富な知識が必要である。社会の出来事に関心を持ち、読書や新聞、テレビのニュースなどを積極的に見て欲しい。さらにNHKスペシャルなどのドキュメンタリー番組も見て欲しい。授業中に紹介した文献等も積極的に読んで欲しい。模擬授業の授業指導案と授業プリントを事前に作成し提出してもらう。本授業の準備時間は模擬授業の授業指導案と授業プリントの作成を含め３時間ほど、復習時間は１～２時間、計４、５時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。適宜授業プリントを使用する。模擬授業の時には、担当者が作成した学習指導案を事前に提出してもらい、それを参考に模擬授業を実施する。

【参考書】
文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）、文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）
中学校歴史、地理、公民各分野教科書（出版社は指定しない）
高等学校　歴史総合、地理総合教科書（出版社は指定しない）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（リアクションペーパー、模擬授業感想シート、出席状況などで30％）、学習指導案・模擬授業・レポート・春学期の確認テストなど（70％）を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生からの質問等は、次の授業時間やメールなどを使用して回答する。
一昨年度、昨年度とも授業の感想で、模擬授業を経験できたことが大変良かったという意見が多数あったので、今年度も来年度教育実習を行う３年生を中心に模擬授業を行ってもらう。
教育実習や実際に教員になった場合を考慮して、授業実践に役立つ授業を念頭に進める。
学生からの質問等は、次の授業時間やメールなどを使用して回答する。

【学生が準備すべき機器他】
タブレットやノートパソコンを持参してもらう場合もある。

【その他の重要事項】
前半は講義形式、後半は、４年次の教育実習に向けて、３年生中心に２名ずつ歴史総合か地理総合の模擬授業を行ってもらう。基本的には、２限と３限は同じ内容で進める。
実際に教員になった場合、授業を休んだり遅刻をすると、その時間の授業ができず授業時間が不足したりして授業に影響が出てしまう。また、授業の代行や自習監督を他の教員にお願いしなければならず、他の教員の負担が増えてしまう。そのため、現実的には教員はなかなか授業を休むことは難しい。そこで、この授業についてもできるだけ欠席や遅刻をしないようにすること。他の学生の模擬授業を見ることは非常に役立つし、欠席や遅刻をすることは、模擬授業担当者にとってやりづらいし失礼にあたってしまう。出席状況を重視するので注意すること。
授業中に許可無くスマホなどを見ないようにすること。
担当者は、中高の教員の経験が30年以上あるので、それを活かし、実践的な授業を実施するつもりである。

【Outline (in English)】
Learn social studies history and understand the goals and contents of the curriculum. Learn how to teach and evaluate in the field of geography and history, create a lesson plan and conduct a mock lesson. Based on the review, understand the key points for teaching.

社会・地歴科教育法（1）

宮嶋　祐一

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：2019年度以降入学生用科目
（哲・史・地理学科用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解する。地歴分野の授業の方法や評価の仕方を学び、学習指導案の作成方法、模擬授業を行う際に注意することなどを学ぶ。

【到達目標】
中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を理解するとともに、教育実習や実際の授業に役立つ教科指導と授業計画を立てるために必要な知識や技能を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
社会科地歴科教育について歴史と現状を理解し、さらに具体的な授業テーマ（歴史と地理）を取り上げ、実際の教科書を使って授業方法を具体的に学ぶ。授業はおもに講義形式で行い、振り返りシートを提出してもらう。質問等については適宜授業で解説を行う。状況により授業形態・計画の変更もあり。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（授業の狙いや進め方） 社会科教育の目的について	授業のオリエンテーションと、学校教育における社会科教育の目的を理解する。
第2回	社会科教育の現在①（中学社会科分野の学習指導要領）	中学社会科の学習指導要領の内容を理解する。
第3回	社会科教育の現在②（高校地歴科の学習指導要領）	高校地歴科の学習指導要領の内容を理解する。
第4回	戦前の社会科教育	戦前の社会科教育の特徴について理解する。
第5回	戦後の社会科教育	戦後の社会科教育の特徴について理解する。
第6回	中学社会科公民的分野の授業例	中学社会科の公民的分野の授業例を検討する（地理、歴史的分野は高校の授業例を扱うため、中学は公民のみとする）。
第7回	高校地歴科歴史分野の授業例①	高校の歴史総合の授業例を検討する。①
第8回	高校地歴科地理分野の授業例①	高校の地理総合の授業例を検討する。①
第9回	高校地歴科歴史分野の授業例②	高校の歴史総合の授業例を検討する。②
第10回	高校地歴科地理分野の授業例②	高校の地理総合の授業例を検討する。②
第11回	高校地歴科の授業例③	状況を見て、高校の歴史分野または地理分野の授業例を検討する。③
第12回	学習指導案の書き方	学習指導案の意義と書き方について理解する。
第13回	模擬授業の意義と模擬授業を行う上での注意事項	模擬授業の意義について理解する。 模擬授業を行う上での具体的な注意事項の確認をする。
第14回	春学期のまとめと確認テスト	春学期のまとめと確認テストを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会科、地歴科の教員には社会に関する高い関心と豊富な知識が必要である。社会の出来事に関心を持ち、読書や新聞、テレビのニュースなどを積極的に見て欲しい。さらにNHKスペシャルなどのドキュメンタリー番組も見て欲しい。授業中に紹介した文献等も積極的に読んで欲しい。復習時間を１～２時間とって、学習内容の定着をはかること。

【テキスト（教科書）】
特になし。適宜授業プリントを使用する。

【参考書】
文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）、文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）
中学校歴史、地理、公民各分野教科書（出版社は指定しない）
高等学校　歴史総合、地理総合教科書（出版社は指定しない）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（リアクションペーパー、出席状況などで30％）、レポート（10％）、確認テスト（60％）を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業中での質問や意見は積極的に行って欲しい。または、毎時間リアクションペーパーを記入してもらうので、そこに質問等があれば記入すること。質問については次の時間に回答し、場合によってはメールで回答する。全体で共有した方がよい内容であれば、次の時間の授業の最初に説明する。

【学生が準備すべき機器他】
タブレットやノートパソコンを持参してもらう場合もある。

【その他の重要事項】
原則として春学期は講義形式で進める。基本的には、２限と３限は同じ内容で進める。
実際に教員になった場合、授業を休んだり遅刻をすると、その時間の授業ができず授業時間が不足したりして授業に影響が出てしまう。また、授業の代行や自習監督を他の教員にお願いしなければならず、他の教員の負担が増えてしまう。そのため、現実的には教員はなかなか授業を休むことは難しい。そこで、この授業についてもできるだけ欠席や遅刻をしないようにすること。出席状況を重視するので注意すること。
授業中に許可無くスマホなどを見ないようにすること。
担当者は、中高の教員の経験が30年以上あるので、それを活かし、実践的な授業を実施するつもりである。

【Outline (in English)】
I learn the history of social studies and understand an aim and the contents of the course of study. Method of the class of the field of geography and history and learn a way making method of the learning teaching plan of the evaluation, simulated; learn that warn you when teach it.

社会・地歴科教育法（2）

宮嶋　祐一

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：2019年度以降入学生用科目
（哲・史・地理学科用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解する。地歴分野の授業の方法や評価の仕方を学び、学習指導案を作成して模擬授業を実施する。その振り返りをもとに授業を進める上でのポイントを理解する。

【到達目標】
中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を理解するとともに、教育実習や実際の授業に役立つ教科指導と授業計画を立てるために必要な知識や技能を身につける。模擬授業を行い、４年次の教育実習に対応できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
社会科地歴科教育について歴史と現状を理解し、さらに具体的な授業テーマ（歴史と地理）を取り上げ、実際の教科書を使って授業方法を具体的に学ぶ。授業は模擬授業を中心に進める。毎回模擬授業の感想シートを提出してもらう。質問等については適宜授業で解説を行う。状況により授業形態・計画の変更もあり。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第2回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第3回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第4回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第5回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第6回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第7回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第8回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第9回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第10回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第11回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第12回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第13回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第14回	模擬授業のまとめと振り返り	模擬授業を総括し、振り返りシートを記入する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会科、地歴科の教員には社会に関する高い関心と豊富な知識が必要である。社会の出来事に関心を持ち、読書や新聞、テレビのニュースなどを積極的に見て欲しい。さらにNHKスペシャルなどのドキュメンタリー番組も見て欲しい。授業中に紹介した文献等も積極的に読んで欲しい。模擬授業の授業指導案と授業プリントを事前に作成し提出してもらう。本授業の準備時間は模擬授業の授業指導案と授業プリントの作成を含め３時間ほど、復習時間は１～２時間、計４、５時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。適宜授業プリントを使用する。模擬授業の時には、担当者が作成した学習指導案を事前に提出してもらい、それを参考に模擬授業を実施する。

【参考書】
文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）、文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）
中学校歴史、地理、公民各分野教科書（出版社は指定しない）
高等学校　歴史総合、地理総合教科書（出版社は指定しない）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（リアクションペーパー、模擬授業感想シート、出席状況などで30％）、学習指導案・模擬授業・レポートなど（70％）を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
一昨年度、昨年度とも授業の感想で、模擬授業を経験できたことが大変良かったという意見が多数あったので、今年度も来年度教育実習を行う３年生を中心に模擬授業を行ってもらう。
教育実習や実際に教員になった場合を考慮して、授業実践に役立つ授業を念頭に進める。
学生からの質問等は、次の授業時間やメールなどを使用して回答する。

【学生が準備すべき機器他】
タブレットやノートパソコンを持参してもらう場合もある。

【その他の重要事項】
４年次の教育実習に向けて、３年生中心に２名ずつ歴史総合か地理総合の模擬授業を行ってもらう。基本的には、２限と３限は同じ内容で進める。
実際に教員になった場合、授業を休んだり遅刻をすると、その時間の授業ができず授業時間が不足したりして授業に影響が出てしまう。また、授業の代行や自習監督を他の教員にお願いしなければならず、他の教員の負担が増えてしまう。そのため、現実的には教員はなかなか授業を休むことは難しい。そこで、この授業についてもできるだけ欠席や遅刻をしないようにすること。他の学生の模擬授業を見ることは非常に役立つし、欠席や遅刻をすることは、模擬授業担当者にとってやりづらいし失礼にあたってしまう。出席状況を重視するので注意すること。
授業中に許可無くスマホを見ないようにすること。
担当者は、中高の教員の経験が30年以上あるので、それを活かし、実践的な授業を実施するつもりである。

【Outline (in English)】
Learn social studies history and understand the goals and contents of the curriculum. Learn how to teach and evaluate in the field of geography and history, create a lesson plan and conduct a mock lesson. Based on the review, understand the key points for teaching.

社会・地歴科教育法

扶川　聡

単位：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
備考（履修条件等）：2018年度以前入学生用科目
（哲・史・地理学科以外用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学習指導要領の基本的事項を確認しながら、授業設計の基本やあり方を学ぶ。その上で、具体的なテーマや教材に即して学習指導案を作成し、授業実践研究（模擬授業の実施と授業改善の振り返り）をおこなう

【到達目標】
中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導や授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
対面授業で行う。対面授業に出られない学生へのオンラインによる補講はしない。対面授業に出ないと欠席となる。授業内のグループワーク、発表あり。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	前期の授業計画と中・高での授業体験の交流
第2回	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	学習指導要領を読み、全体の構成と内容、指導上の留意点などを確認する
第3回	社会科の前史（戦前の社会科系科目）	近代教育の出発と戦時下の教育
第4回	社会科の戦後史と教科書	戦後教育の出発と社会科の成立。戦後の教育改革と社会科教科書
第5回	社会科における資質・能力	社会科における資質・能力と学習指導要領の変遷
第6回	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT教材の活用を含む）	ICT教材の作成・活用の方法および、次のスキル①②を身につける。①博物館や地域で取材し効果的に情報収集する、②社会事象について主体的に課題を設定し調べまとめる。
第7回	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	現地調査、ICT を利用した調査・発表学習、討論の指導
第8回	社会・地歴科の評価	学習評価における評価の観点と評価方法について理解を深める
第9回	教育実践研究（中学地理）	中学校地理の優れた授業実践の紹介と考察およびSDGsの授業
第10回	教育実践研究（高校地理）	高等学校地理の優れた授業実践の紹介と省察およびSDGsの授業
第11回	教育実践研究（中学歴史）	中学校歴史の優れた授業実践の紹介と考察
第12回	教育実践研究（高校歴史）	高等学校歴史の優れた授業実践の紹介と考察
第13回	社会・地歴科の課題（主体的・対話的・深い学び）	主体的・対話的・深い学びの授業設計を構想する
第14回	まとめ（最終レポートも含む）	「社会科教師として育つ」ポイントとは何か、教育実践を語る
第15回	学習指導案とその作成方法	学習指導案作成のポイント
第16回	授業の設計(1)：授業の構成	学習指導要領をふまえた授業計画
第17回	授業の設計(2)：教材の探し方と問いの作り方、ICT教材の活用	社会・地歴科での教材の探し方と問いの作り方およびICT教材活用方法
第18回	授業実践研究：アジアと世界	歴史、地理の視点からアジアと世界を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第19回	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史、地理の視点から現代と民族・宗教を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第20回	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	歴史、地理の視点から資源・エネルギー・人口を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第21回	授業実践研究：環境問題	歴史、地理の視点から環境問題を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第22回	授業実践研究：世界の近代化と日本	歴史の視点から世界と日本の近代化を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第23回	授業実践研究：帝国主義とファシズム	歴史の視点から帝国主義とファシズムを研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第24回	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	歴史の視点から第二次世界大戦とその後の世界・日本を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第25回	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	歴史の視点から冷戦時代とその後の世界・日本を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第26回	授業実践研究：持続可能な世界と日本	SDGsについて研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第27回	社会・地歴科の授業と方法の課題	主体的・対話的・深い学びの授業設計を構想し学習指導案を作成する
第28回	まとめ（最終レポートも含む）	「社会科教師として育つ」ポイントを事例から探る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題・レポートは期限内に必ず提出すること。未提出の場合、単位修得はできない。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特にテキストは使用しない。下記参考書に示した中学校地理・歴史教科書の持参が必要な授業がある。

【参考書】
文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）
文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）
教育出版　中学社会 地理・歴史教科書（令和７年版）
高校地理総合教科書　東京書籍「地理総合」（令和６年版）
高校歴史総合教科書　第一学習社「新歴史総合」（令和６年版）

【成績評価の方法と基準】
授業実践研究等の毎時間授業への取り組み、授業内レポート、宿題（50％）
最終レポート（50％）
宿題・レポートは期限内に必ず提出のこと。未提出の場合、単位修得はできない。
毎回の授業後にもレポートを提出する。その授業内レポートから成績評価に入れる授業内レポートを授業者が選択し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の授業についての建設的な意見は取り入れていく。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンおよび参考書として挙げられた中学校地歴教科書（教育出版　令和７年版）。

【その他の重要事項】
質問、相談は授業後および授業支援システムを通じて受け付ける。
公立中学校社会科教員の実務経験がある。現場感覚での授業づくりが修得できる。
時事問題は社会科教師としての必修事項として授業でも扱う。

【Outline (in English)】
Students are able to understand the goals and contents of junior and high school geography and history in the National Courses of Study, and students are further able to develop knowledge and skills required for teaching and planning lessons.

社会・地歴科教育法（1）

扶川　聡

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：2019年度以降入学生用科目
（哲・史・地理学科以外用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学ぶ。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身につける。

【到達目標】
中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導や授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
対面授業で行う。対面授業に出られない学生へのオンラインによる補講はしない。対面授業に出ないと欠席となる。授業内のグループワーク、発表あり。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	前期の授業計画と中・高での授業体験の交流
第2回	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	学習指導要領を読み、全体の構成と内容、指導上の留意点などを確認する
第3回	社会科の前史（戦前の社会科系科目）	近代教育の出発と戦時下の教育
第4回	社会科の戦後史と教科書	戦後教育の出発と社会科の成立。戦後の教育改革と社会科教科書
第5回	社会科における資質・能力	社会科における資質・能力と学習指導要領の変遷
第6回	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT教材の活用を含む）	ICT教材の作成・活用の方法および、次のスキル①②を身につける。①博物館や地域で取材し効果的に情報収集する、②社会事象について主体的に課題を設定し調べまとめる。
第7回	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	現地調査、ICT を利用した調査・発表学習、討論の指導
第8回	社会・地歴科の評価	学習評価における評価の観点と評価方法について理解を深める
第9回	教育実践研究（中学地理）	中学校地理の優れた授業実践の紹介と考察およびSDGsの授業
第10回	教育実践研究（高校地理）	高等学校地理の優れた授業実践の紹介と省察およびSDGsの授業
第11回	教育実践研究（中学歴史）	中学校歴史の優れた授業実践の紹介と考察
第12回	教育実践研究（高校歴史）	高等学校歴史の優れた授業実践の紹介と考察
第13回	社会・地歴科の課題（主体的・対話的・深い学び）	主体的・対話的・深い学びの授業設計を構想する
第14回	まとめ（最終レポートも含む）	「社会科教師として育つ」ポイントとは何か、教育実践を語る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題・レポートは期限内に必ず提出すること。未提出の場合、単位修得はできない。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特にテキストは使用しない。下記参考書に示した中学校地理・歴史教科書の持参が必要な授業がある。

【参考書】
文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）
文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）
教育出版　中学社会 地理・歴史教科書（令和７年版）
高校地理総合教科書　東京書籍「地理総合」（令和６年版）
高校歴史総合教科書　第一学習社「新歴史総合」（令和６年版）

【成績評価の方法と基準】
授業実践研究等の毎時間授業への取り組み、授業内レポート、宿題（50％）
最終レポート（50％）
宿題・レポートは期限内に必ず提出のこと。未提出の場合、単位修得はできない。
毎回の授業後にもレポートを提出する。その授業内レポートから成績評価に入れる授業内レポートを授業者が選択し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の授業についての建設的な意見は取り入れていく。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンおよび参考書として挙げられた中学校地歴教科書（教育出版　令和７年版）。

【その他の重要事項】
質問、相談は授業後および授業支援システムを通じて受け付ける。
公立中学校社会科教員の実務経験がある。現場感覚での授業づくりが修得できる。
時事問題は社会科教師としての必修事項として授業でも扱う。

【Outline (in English)】
Students are able to understand the goals and contents of junior and high school geography and history in the National Courses of Study, and students are further able to develop knowledge and skills required for teaching and planning lessons.

社会・地歴科教育法（2）

扶川　聡

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：2019年度以降入学生用科目
（哲・史・地理学科以外用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学習指導要領の基本的事項を確認しながら、授業設計の基本やあり方を学ぶ。その上で、具体的なテーマや教材に即して学習指導案を作成し、授業実践研究（模擬授業の実施と授業改善の振り返り）をおこなう。

【到達目標】
中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導や授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
対面授業で行う。対面授業に出られない学生へのオンラインによる補講はしない。対面授業に出ないと欠席となる。授業内のグループワーク、発表あり。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：学習指導案とその作成方法	後期の授業計画と学習指導案作成のポイント
第2回	授業の設計(1)：授業の構成	学習指導要領をふまえた授業計画の作成
第3回	授業の設計(2)：教材の探し方と問いの作り方、ICT教材の活用	社会・地歴科での教材の探し方と問いの作り方およびICT教材活用方法
第4回	授業実践研究：アジアと世界	歴史、地理の視点からアジアと世界を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第5回	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史、地理の視点から現代と民族・宗教を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第6回	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	歴史、地理の視点から資源・エネルギー・人口を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第7回	授業実践研究：環境問題	歴史、地理の視点から環境問題を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第8回	授業実践研究：世界の近代化と日本	歴史の視点から世界と日本の近代化を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第9回	授業実践研究：帝国主義とファシズム	歴史の視点から帝国主義とファシズムを研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第10回	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	歴史の視点から第二次世界大戦とその後の世界・日本を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第11回	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	歴史の視点から冷戦時代とその後の世界・日本を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第12回	授業実践研究：持続可能な世界と日本	SDGsについて研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第13回	社会・地歴科の授業と方法の課題	主体的・対話的・深い学びの授業設計を構想し学習指導案を作成する
第14回	まとめ（最終レポートも含む）	「社会科教師として育つ」ポイントを事例から探る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題・レポートは期限内に必ず提出すること。未提出の場合、単位修得はできない。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特にテキストは使用しない。下記参考書に示した中学校地理・歴史教科書の持参が必要な授業がある。

【参考書】
文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）
文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）
教育出版　中学社会地理教科書・中学歴史教科書（令和７年版）
高校地理総合教科書　東京書籍「地理総合」（令和６年版）
高校歴史総合教科書　第一学習社「新歴史総合」（令和６年版）

【成績評価の方法と基準】
授業実践研究等の毎時間授業への取り組み、授業内レポート、宿題（50％）
最終レポート（50％）
宿題・レポートは期限内に必ず提出のこと。未提出の場合、単位修得はできない。
毎回の授業後にもレポートを提出する。その授業内レポートから成績評価に入れる授業内レポートを授業者が選択し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の授業についての建設的な意見は取り入れていく。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンおよび参考書として挙げられた中学校地歴教科書（教育出版　令和７年版）。

【その他の重要事項】
質問、相談は授業後および授業支援システムを通じて受け付ける。
公立中学校社会科教員の実務経験がある。現場感覚での授業づくりが修得できる。
時事問題は社会科教師としての必修事項として授業でも扱う。

【Outline (in English)】
Students are able to understand the goals and contents of junior and high school geography and history in the National Courses of Study, and students are further able to develop knowledge and skills required for teaching and planning lessons.

社会・地歴科教育法

扶川　聡

単位：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
備考（履修条件等）：2018年度以前入学生用科目
（哲・史・地理学科用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学習指導要領の基本的事項を確認しながら、授業設計の基本やあり方を学ぶ。その上で、具体的なテーマや教材に即して学習指導案を作成し、授業実践研究（模擬授業の実施と授業改善の振り返り）をおこなう

【到達目標】
中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導や授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
対面授業で行う。対面授業に出られない学生へのオンラインによる補講はしない。対面授業に出ないと欠席となる。授業内のグループワーク、発表あり。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	前期の授業計画と中・高での授業体験の交流
第2回	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	学習指導要領を読み、全体の構成と内容、指導上の留意点などを確認する
第3回	社会科の前史（戦前の社会科系科目）	近代教育の出発と戦時下の教育
第4回	社会科の戦後史と教科書	戦後教育の出発と社会科の成立。戦後の教育改革と社会科教科書
第5回	社会科における資質・能力	社会科における資質・能力と学習指導要領の変遷
第6回	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT教材の活用を含む）	ICT教材の作成・活用の方法および、次のスキル①②を身につける。①博物館や地域で取材し効果的に情報収集する、②社会事象について主体的に課題を設定し調べまとめる。
第7回	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	現地調査、ICT を利用した調査・発表学習、討論の指導
第8回	社会・地歴科の評価	学習評価における評価の観点と評価方法について理解を深める
第9回	教育実践研究（中学地理）	中学校地理の優れた授業実践の紹介と考察およびSDGsの授業
第10回	教育実践研究（高校地理）	高等学校地理の優れた授業実践の紹介と省察およびSDGsの授業
第11回	教育実践研究（中学歴史）	中学校歴史の優れた授業実践の紹介と考察
第12回	教育実践研究（高校歴史）	高等学校歴史の優れた授業実践の紹介と考察
第13回	社会・地歴科の課題（主体的・対話的・深い学び）	主体的・対話的・深い学びの授業設計を構想する
第14回	まとめ（最終レポートも含む）	「社会科教師として育つ」ポイントとは何か、教育実践を語る
第15回	学習指導案とその作成方法	学習指導案作成のポイント
第16回	授業の設計(1)：授業の構成	学習指導要領をふまえた授業計画
第17回	授業の設計(2)：教材の探し方と問いの作り方、ICT教材の活用	社会・地歴科での教材の探し方と問いの作り方およびICT教材活用方法
第18回	授業実践研究：アジアと世界	歴史、地理の視点からアジアと世界を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第19回	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史、地理の視点から現代と民族・宗教を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第20回	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	歴史、地理の視点から資源・エネルギー・人口を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第21回	授業実践研究：環境問題	歴史、地理の視点から環境問題を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第22回	授業実践研究：世界の近代化と日本	歴史の視点から世界と日本の近代化を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第23回	授業実践研究：帝国主義とファシズム	歴史の視点から帝国主義とファシズムを研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第24回	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	歴史の視点から第二次世界大戦とその後の世界・日本を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第25回	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	歴史の視点から冷戦時代とその後の世界・日本を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第26回	授業実践研究：持続可能な世界と日本	SDGsについて研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第27回	社会・地歴科の授業と方法の課題	主体的・対話的・深い学びの授業設計を構想し学習指導案を作成する
第28回	まとめ（最終レポートも含む）	「社会科教師として育つ」ポイントを事例から探る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題・レポートは期限内に必ず提出すること。未提出の場合、単位修得はできない。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特にテキストは使用しない。下記参考書に示した中学校地理・歴史教科書の持参が必要な授業がある。

【参考書】
文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）
文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）
教育出版　中学社会 地理・歴史教科書（令和７年版）
高校地理総合教科書　東京書籍「地理総合」（令和６年版）
高校歴史総合教科書　第一学習社「新歴史総合」（令和６年版）

【成績評価の方法と基準】
授業実践研究等の毎時間授業への取り組み、授業内レポート、宿題（50％）
最終レポート（50％）
宿題・レポートは期限内に必ず提出のこと。未提出の場合、単位修得はできない。
毎回の授業後にもレポートを提出する。その授業内レポートから成績評価に入れる授業内レポートを授業者が選択し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の授業についての建設的な意見は取り入れていく。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンおよび参考書として挙げられた中学校地歴教科書（教育出版　令和７年版）。

【その他の重要事項】
質問、相談は授業後および授業支援システムを通じて受け付ける。
公立中学校社会科教員の実務経験がある。現場感覚での授業づくりが修得できる。
時事問題は社会科教師としての必修事項として授業でも扱う。

【Outline (in English)】
Students are able to understand the goals and contents of junior and high school geography and history in the National Courses of Study, and students are further able to develop knowledge and skills required for teaching and planning lessons.

社会・地歴科教育法（1）

扶川　聡

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：2019年度以降入学生用科目
（哲・史・地理学科用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学ぶ。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身につける。

【到達目標】
中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導や授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
対面授業で行う。対面授業に出られない学生へのオンラインによる補講はしない。対面授業に出ないと欠席となる。授業内のグループワーク、発表あり。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	前期の授業計画と中・高での授業体験の交流
第2回	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	学習指導要領を読み、全体の構成と内容、指導上の留意点などを確認する
第3回	社会科の前史（戦前の社会科系科目）	近代教育の出発と戦時下の教育
第4回	社会科の戦後史と教科書	戦後教育の出発と社会科の成立。戦後の教育改革と社会科教科書
第5回	社会科における資質・能力	社会科における資質・能力と学習指導要領の変遷
第6回	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT教材の活用を含む）	ICT教材の作成・活用の方法および、次のスキル①②を身につける。①博物館や地域で取材し効果的に情報収集する、②社会事象について主体的に課題を設定し調べまとめる。
第7回	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	現地調査、ICT を利用した調査・発表学習、討論の指導
第8回	社会・地歴科の評価	学習評価における評価の観点と評価方法について理解を深める
第9回	教育実践研究（中学地理）	中学校地理の優れた授業実践の紹介と考察およびSDGsの授業
第10回	教育実践研究（高校地理）	高等学校地理の優れた授業実践の紹介と省察およびSDGsの授業
第11回	教育実践研究（中学歴史）	中学校歴史の優れた授業実践の紹介と考察
第12回	教育実践研究（高校歴史）	高等学校歴史の優れた授業実践の紹介と考察
第13回	社会・地歴科の課題（主体的・対話的・深い学び）	主体的・対話的・深い学びの授業設計を構想する
第14回	まとめ（最終レポートも含む）	「社会科教師として育つ」ポイントとは何か、教育実践を語る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題・レポートは期限内に必ず提出すること。未提出の場合、単位修得はできない。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特にテキストは使用しない。下記参考書に示した中学校地理・歴史教科書の持参が必要な授業がある。

【参考書】
文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）
文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）
教育出版　中学社会 地理・歴史教科書（令和７年版）
高校地理総合教科書　東京書籍「地理総合」（令和６年版）
高校歴史総合教科書　第一学習社「新歴史総合」（令和６年版）

【成績評価の方法と基準】
授業実践研究等の毎時間授業への取り組み、授業内レポート、宿題（50％）
最終レポート（50％）
宿題・レポートは期限内に必ず提出のこと。未提出の場合、単位修得はできない。
毎回の授業後にもレポートを提出する。その授業内レポートから成績評価に入れる授業内レポートを授業者が選択し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の授業についての建設的な意見は取り入れていく。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンおよび参考書として挙げられた中学校地歴教科書（教育出版　令和７年版）。

【その他の重要事項】
質問、相談は授業後および授業支援システムを通じて受け付ける。
公立中学校社会科教員の実務経験がある。現場感覚での授業づくりが修得できる。
時事問題は社会科教師としての必修事項として授業でも扱う。

【Outline (in English)】
Students are able to understand the goals and contents of junior and high school geography and history in the National Courses of Study, and students are further able to develop knowledge and skills required for teaching and planning lessons.

社会・地歴科教育法（2）

扶川　聡

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：2019年度以降入学生用科目
（哲・史・地理学科用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学習指導要領の基本的事項を確認しながら、授業設計の基本やあり方を学ぶ。その上で、具体的なテーマや教材に即して学習指導案を作成し、授業実践研究（模擬授業の実施と授業改善の振り返り）をおこなう。

【到達目標】
中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導や授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
対面授業で行う。対面授業に出られない学生へのオンラインによる補講はしない。対面授業に出ないと欠席となる。授業内のグループワーク、発表あり。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：学習指導案とその作成方法	後期の授業計画と学習指導案作成のポイント
第2回	授業の設計(1)：授業の構成	学習指導要領をふまえた授業計画の作成
第3回	授業の設計(2)：教材の探し方と問いの作り方、ICT教材の活用	社会・地歴科での教材の探し方と問いの作り方およびICT教材活用方法
第4回	授業実践研究：アジアと世界	歴史、地理の視点からアジアと世界を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第5回	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史、地理の視点から現代と民族・宗教を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第6回	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	歴史、地理の視点から資源・エネルギー・人口を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第7回	授業実践研究：環境問題	歴史、地理の視点から環境問題を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第8回	授業実践研究：世界の近代化と日本	歴史の視点から世界と日本の近代化を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第9回	授業実践研究：帝国主義とファシズム	歴史の視点から帝国主義とファシズムを研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第10回	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	歴史の視点から第二次世界大戦とその後の世界・日本を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第11回	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	歴史の視点から冷戦時代とその後の世界・日本を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第12回	授業実践研究：持続可能な世界と日本	SDGsについて研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第13回	社会・地歴科の授業と方法の課題	主体的・対話的・深い学びの授業設計を構想し学習指導案を作成する
第14回	まとめ（最終レポートも含む）	「社会科教師として育つ」ポイントを事例から探る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題・レポートは期限内に必ず提出すること。未提出の場合、単位修得はできない。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特にテキストは使用しない。下記参考書に示した中学校地理・歴史教科書の持参が必要な授業がある。

【参考書】
文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）
文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）
教育出版　中学社会地理教科書・中学歴史教科書（令和７年版）
高校地理総合教科書　東京書籍「地理総合」（令和６年版）
高校歴史総合教科書　第一学習社「新歴史総合」（令和６年版）

【成績評価の方法と基準】
授業実践研究等の毎時間授業への取り組み、授業内レポート、宿題（50％）
最終レポート（50％）
宿題・レポートは期限内に必ず提出のこと。未提出の場合、単位修得はできない。
毎回の授業後にもレポートを提出する。その授業内レポートから成績評価に入れる授業内レポートを授業者が選択し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の授業についての建設的な意見は取り入れていく。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンおよび参考書として挙げられた中学校地歴教科書（教育出版　令和７年版）。

【その他の重要事項】
質問、相談は授業後および授業支援システムを通じて受け付ける。
公立中学校社会科教員の実務経験がある。現場感覚での授業づくりが修得できる。
時事問題は社会科教師としての必修事項として授業でも扱う。

【Outline (in English)】
Students are able to understand the goals and contents of junior and high school geography and history in the National Courses of Study, and students are further able to develop knowledge and skills required for teaching and planning lessons.

社会・地歴科教育法

宮嶋　祐一

単位：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
備考（履修条件等）：2018年度以前入学生用科目
（哲・史・地理学科以外用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解する。地歴分野の授業の方法や評価の仕方を学び、学習指導案を作成して模擬授業を実施する。その振り返りをもとに授業を進める上でのポイントを理解する。

【到達目標】
中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を理解するとともに、教育実習や実際の授業に役立つ教科指導と授業計画を立てるために必要な知識や技能を身につける。模擬授業を行い、４年次の教育実習に対応できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
社会科地歴科教育について歴史と現状を理解し、さらに具体的な授業テーマ（歴史と地理）を取り上げ、実際の教科書を使って授業方法を具体的に学ぶ。授業は講義、模擬授業、模擬授業の質疑応答で構成。講義の時には振り返りシート、模擬授業の時には感想を提出してもらう。質問等については適宜授業で解説を行う。状況により授業形態・計画の変更もあり。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（授業の狙いや進め方） 社会科教育の目的について	授業のオリエンテーションと、学校教育における社会科教育の目的を理解する。
第2回	社会科教育の現在①（中学社会科分野の学習指導要領）	中学社会科の学習指導要領の内容を理解する。
第3回	社会科教育の現在②（高校地歴科の学習指導要領）	高校地歴科の学習指導要領の内容を理解する。
第4回	戦前の社会科教育	戦前の社会科教育の特徴について理解する。
第5回	戦後の社会科教育と教科書	戦後の社会科教育の特徴について理解する。 教科書の作成について理解する。
第6回	中学社会科公民的分野の授業例	中学社会科の公民的分野の授業例を検討する（地理、歴史的分野は高校の授業例を扱うため、中学は公民のみとする）。
第7回	高校地歴科歴史分野の授業例①	高校の歴史総合の授業例を検討する。①
第8回	高校地歴科地理分野の授業例①	高校の地理総合の授業例を検討する。①
第9回	高校地歴科歴史分野の授業例②	高校の歴史総合の授業例を検討する。②
第10回	高校地歴科地理分野の授業例②	高校の地理総合の授業例を検討する。②
第11回	高校地歴科の授業例③	状況を見て、高校の歴史分野または地理分野の授業例を検討する。③
第12回	学習指導案の書き方	学習指導案の意義と書き方について理解する。
第13回	模擬授業の意義と模擬授業を行う上での注意事項	模擬授業の意義について理解する。 模擬授業を行う上での具体的な注意事項の確認をする。
第14回	春学期のまとめと確認テスト	春学期のまとめと確認テストを行う。
第15回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第16回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第17回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第18回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第19回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第20回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第21回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第22回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第23回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第24回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第25回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第26回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第27回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第28回	模擬授業のまとめと振り返り	模擬授業を総括し、振り返りレポートを記入する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会科、地歴科の教員には社会に関する高い関心と豊富な知識が必要である。社会の出来事に関心を持ち、読書や新聞、テレビのニュースなどを積極的に見て欲しい。さらにNHKスペシャルなどのドキュメンタリー番組も見て欲しい。授業中に紹介した文献等も積極的に読んで欲しい。模擬授業の授業指導案と授業プリントを事前に作成し提出してもらう。本授業の準備時間は模擬授業の授業指導案と授業プリントの作成を含め３時間ほど、復習時間は１～２時間、計４、５時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。適宜授業プリントを使用する。模擬授業の時には、担当者が作成した学習指導案を事前に提出してもらい、それを参考に模擬授業を実施する。

【参考書】
文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）、文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）
中学校歴史、地理、公民各分野教科書（出版社は指定しない）
高等学校　歴史総合、地理総合教科書（出版社は指定しない）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（リアクションペーパー、模擬授業感想シート、出席状況などで30％）、学習指導案・模擬授業・レポート・春学期確認テストなど（70％）を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生からの質問等は、次の授業時間やメールなどを使用して回答する。
一昨年度、昨年度とも授業の感想で、模擬授業を経験できたことが大変良かったという意見が多数あったので、今年度も来年度教育実習を行う３年生を中心に模擬授業を行ってもらう。
教育実習や実際に教員になった場合を考慮して、授業実践に役立つ授業を念頭に進める。

【学生が準備すべき機器他】
タブレットやノートパソコンを持参してもらう場合もある。

【その他の重要事項】
前半は講義形式、後半は、４年次の教育実習に向けて、３年生中心に２名ずつ歴史総合か地理総合の模擬授業を行ってもらう。基本的には、２限と３限は同じ内容で進める。
実際に教員になった場合、授業を休んだり遅刻をすると、その時間の授業ができず授業時間が不足したりして授業に影響が出てしまう。また、授業の代行や自習監督を他の教員にお願いしなければならず、他の教員の負担が増えてしまう。そのため、現実的には教員はなかなか授業を休むことは難しい。そこで、この授業についてもできるだけ欠席や遅刻をしないようにすること。他の学生の模擬授業を見ることは非常に役立つし、欠席や遅刻をすることは、模擬授業担当者にとってやりづらいし失礼にあたってしまう。出席状況を重視するので注意すること。
授業中に許可無くスマホなどを見ないようにすること。
担当者は、中高の教員の経験が30年以上あるので、それを活かし、実践的な授業を実施するつもりである。

【Outline (in English)】
Learn social studies history and understand the goals and contents of the curriculum. Learn how to teach and evaluate in the field of geography and history, create a lesson plan and conduct a mock lesson. Based on the review, understand the key points for teaching.

社会・地歴科教育法（1）

宮嶋　祐一

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：2019年度以降入学生用科目
（哲・史・地理学科以外用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解する。地歴分野の授業の方法や評価の仕方を学び、学習指導案の作成方法、模擬授業を行う際に注意することなどを学ぶ。

【到達目標】
中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を理解するとともに、教育実習や実際の授業に役立つ教科指導と授業計画を立てるために必要な知識や技能を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
社会科地歴科教育について歴史と現状を理解し、さらに具体的な授業テーマ（歴史と地理）を取り上げ、実際の教科書を使って授業方法を具体的に学ぶ。授業はおもに講義形式で行い、振り返りシートを提出してもらう。質問等については適宜授業で解説を行う。状況により授業形態・計画の変更もあり。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（授業の狙いや進め方） 社会科教育の目的について	授業のオリエンテーションと、学校教育における社会科教育の目的を理解する。
第2回	社会科教育の現在①（中学社会科分野の学習指導要領）	中学社会科の学習指導要領の内容を理解する。
第3回	社会科教育の現在②（高校地歴科の学習指導要領）	高校地歴科の学習指導要領の内容を理解する。
第4回	戦前の社会科教育	戦前の社会科教育の特徴について理解する。
第5回	戦後の社会科教育と教科書	戦後の社会科教育の特徴について理解する。 教科書の作成について理解する。
第6回	中学社会科公民的分野の授業例	中学社会科の公民的分野の授業例を検討する（地理、歴史的分野は高校の授業例を扱うため、中学は公民のみとする）。
第7回	高校地歴科歴史分野の授業例①	高校の歴史総合の授業例を検討する。①
第8回	高校地歴科地理分野の授業例①	高校の地理総合の授業例を検討する。①
第9回	高校地歴科歴史分野の授業例②	高校の歴史総合の授業例を検討する。②
第10回	高校地歴科地理分野の授業例②	高校の地理総合の授業例を検討する。②
第11回	高校地歴科の授業例③	状況を見て、高校の歴史分野または地理分野の授業例を検討する。③
第12回	学習指導案の書き方	学習指導案の意義と書き方について理解する。
第13回	模擬授業の意義と模擬授業を行う上での注意事項	模擬授業の意義について理解する。 模擬授業を行う上での具体的な注意事項の確認をする。
第14回	春学期のまとめと確認テスト	春学期のまとめと確認テストを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会科、地歴科の教員には社会に関する高い関心と豊富な知識が必要である。社会の出来事に関心を持ち、読書や新聞、テレビのニュースなどを積極的に見て欲しい。さらにNHKスペシャルなどのドキュメンタリー番組も見て欲しい。授業中に紹介した文献等も積極的に読んで欲しい。復習時間を１～２時間とって、学習内容の定着をはかること。

【テキスト（教科書）】
特になし。適宜授業プリントを使用する。

【参考書】
文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）、文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）
中学校歴史、地理、公民各分野教科書（出版社は指定しない）
高等学校　歴史総合、地理総合教科書（出版社は指定しない）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（リアクションペーパー、出席状況などで30％）、レポート（10％）、確認テスト（60％）を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業中での質問や意見は積極的に行って欲しい。または、毎時間リアクションペーパーを記入してもらうので、そこに質問等があれば記入すること。質問については次の時間に回答し、場合によってはメールで回答する。全体で共有した方がよい内容であれば、次の時間の授業の最初に説明する。

【学生が準備すべき機器他】
タブレットやノートパソコンを持参してもらう場合もある。

【その他の重要事項】
原則として春学期は講義形式で進める。基本的には、２限と３限は同じ内容で進める。
実際に教員になった場合、授業を休んだり遅刻をすると、その時間の授業ができず授業時間が不足したりして授業に影響が出てしまう。また、授業の代行や自習監督を他の教員にお願いしなければならず、他の教員の負担が増えてしまう。そのため、現実的には教員はなかなか授業を休むことは難しい。そこで、この授業についてもできるだけ欠席や遅刻をしないようにすること。出席状況を重視するので注意すること。
授業中に許可無くスマホなどを見ないようにすること。
担当者は、中高の教員の経験が30年以上あるので、それを活かし、実践的な授業を実施するつもりである。

【Outline (in English)】
I learn the history of social studies and understand an aim and the contents of the course of study. Method of the class of the field of geography and history and learn a way making method of the learning teaching plan of the evaluation, simulated; learn that warn you when teach it.

社会・地歴科教育法（2）

宮嶋　祐一

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：2019年度以降入学生用科目
（哲・史・地理学科以外用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解する。地歴分野の授業の方法や評価の仕方を学び、学習指導案を作成して模擬授業を実施する。その振り返りをもとに授業を進める上でのポイントを理解する。

【到達目標】
中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を理解するとともに、教育実習や実際の授業に役立つ教科指導と授業計画を立てるために必要な知識や技能を身につける。模擬授業を行い、４年次の教育実習に対応できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
社会科地歴科教育について歴史と現状を理解し、さらに具体的な授業テーマ（歴史と地理）を取り上げ、実際の教科書を使って授業方法を具体的に学ぶ。授業は模擬授業を中心に進める。毎回模擬授業の感想シートを提出してもらう。質問等については適宜授業で解説を行う。状況により授業形態・計画の変更もあり。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第2回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第3回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第4回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第5回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第6回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第7回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第8回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第9回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第10回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第11回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第12回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第13回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第14回	模擬授業のまとめと振り返り	模擬授業を総括し、振り返りシートを記入する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会科、地歴科の教員には社会に関する高い関心と豊富な知識が必要である。社会の出来事に関心を持ち、読書や新聞、テレビのニュースなどを積極的に見て欲しい。さらにNHKスペシャルなどのドキュメンタリー番組も見て欲しい。授業中に紹介した文献等も積極的に読んで欲しい。模擬授業の授業指導案と授業プリントを事前に作成し提出してもらう。本授業の準備時間は模擬授業の授業指導案と授業プリントの作成を含め３時間ほど、復習時間は１～２時間、計４、５時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。適宜授業プリントを使用する。模擬授業の時には、担当者が作成した学習指導案を事前に提出してもらい、それを参考に模擬授業を実施する。

【参考書】
文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）、文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）
中学校歴史、地理、公民各分野教科書（出版社は指定しない）
高等学校　歴史総合、地理総合教科書（出版社は指定しない）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（リアクションペーパー、模擬授業感想シート、出席状況などで30％）、学習指導案・模擬授業・レポートなど（70％）を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
一昨年度、昨年度とも授業の感想で、模擬授業を経験できたことが大変良かったという意見が多数あったので、今年度も来年度教育実習を行う３年生を中心に模擬授業を行ってもらう。
教育実習や実際に教員になった場合を考慮して、授業実践に役立つ授業を念頭に進める。
学生からの質問等は、次の授業時間やメールなどを使用して回答する

【学生が準備すべき機器他】
タブレットやノートパソコンを持参してもらう場合もある。

【その他の重要事項】
４年次の教育実習に向けて、３年生中心に２名ずつ歴史総合か地理総合の模擬授業を行ってもらう。基本的には、２限と３限は同じ内容で進める。
実際に教員になった場合、授業を休んだり遅刻をすると、その時間の授業ができず授業時間が不足したりして授業に影響が出てしまう。また、授業の代行や自習監督を他の教員にお願いしなければならず、他の教員の負担が増えてしまう。そのため、現実的には教員はなかなか授業を休むことは難しい。そこで、この授業についてもできるだけ欠席や遅刻をしないようにすること。他の学生の模擬授業を見ることは非常に役立つし、欠席や遅刻をすることは、模擬授業担当者にとってやりづらいし失礼にあたってしまう。出席状況を重視するので注意すること。
授業中に許可無くスマホを見ないようにすること。
担当者は、中高の教員の経験が30年以上あるので、それを活かし、実践的な授業を実施するつもりである。

【Outline (in English)】
the curriculum. Learn how to teach and evaluate in the field of geography and history, create a lesson plan and conduct a mock lesson. Based on the review, understand the key points for teaching.

社会・地歴科教育法

宮嶋　祐一

単位：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
備考（履修条件等）：2018年度以前入学生用科目
（哲・史・地理学科用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解する。地歴分野の授業の方法や評価の仕方を学び、学習指導案を作成して模擬授業を実施する。その振り返りをもとに授業を進める上でのポイントを理解する。

【到達目標】
中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を理解するとともに、教育実習や実際の授業に役立つ教科指導と授業計画を立てるために必要な知識や技能を身につける。模擬授業を行い、４年次の教育実習に対応できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
社会科地歴科教育について歴史と現状を理解し、さらに具体的な授業テーマ（歴史と地理）を取り上げ、実際の教科書を使って授業方法を具体的に学ぶ。授業は講義、模擬授業、模擬授業の質疑応答で構成。講義の時には振り返りシート、模擬授業の時には感想を提出してもらう。質問等については適宜授業で解説を行う。状況により授業形態・計画の変更もあり。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（授業の狙いや進め方） 社会科教育の目的について	授業のオリエンテーションと、学校教育における社会科教育の目的を理解する。
第2回	社会科教育の現在①（中学社会科分野の学習指導要領）	中学社会科の学習指導要領の内容を理解する。
第3回	社会科教育の現在②（高校地歴科の学習指導要領）	高校地歴科の学習指導要領の内容を理解する。
第4回	戦前の社会科教育	戦前の社会科教育の特徴について理解する。
第5回	戦後の社会科教育と教科書	戦後の社会科教育の特徴について理解する。 教科書の作成について理解する。
第6回	中学社会科公民的分野の授業例	中学社会科の公民的分野の授業例を検討する（地理、歴史的分野は高校の授業例を扱うため、中学は公民のみとする）。
第7回	高校地歴科歴史分野の授業例①	高校の歴史総合の授業例を検討する。①
第8回	高校地歴科地理分野の授業例①	高校の地理総合の授業例を検討する。①
第9回	高校地歴科歴史分野の授業例②	高校の歴史総合の授業例を検討する。②
第10回	高校地歴科地理分野の授業例②	高校の地理総合の授業例を検討する。②
第11回	高校地歴科の授業例③	状況を見て、高校の歴史分野または地理分野の授業例を検討する。③
第12回	学習指導案の書き方	学習指導案の意義と書き方について理解する。
第13回	模擬授業の意義と模擬授業を行う上での注意事項	模擬授業の意義について理解する。 模擬授業を行う上での具体的な注意事項の確認をする。
第14回	春学期のまとめと確認テスト	春学期のまとめと確認テストを行う。
第15回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第16回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第17回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第18回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第19回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第20回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第21回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第22回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第23回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第24回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第25回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第26回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第27回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第28回	模擬授業のまとめと振り返り	模擬授業を総括し、振り返りレポートを記入する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会科、地歴科の教員には社会に関する高い関心と豊富な知識が必要である。社会の出来事に関心を持ち、読書や新聞、テレビのニュースなどを積極的に見て欲しい。さらにNHKスペシャルなどのドキュメンタリー番組も見て欲しい。授業中に紹介した文献等も積極的に読んで欲しい。模擬授業の授業指導案と授業プリントを事前に作成し提出してもらう。本授業の準備時間は模擬授業の授業指導案と授業プリントの作成を含め３時間ほど、復習時間は１～２時間、計４、５時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。適宜授業プリントを使用する。模擬授業の時には、担当者が作成した学習指導案を事前に提出してもらい、それを参考に模擬授業を実施する。

【参考書】
文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）、文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）
中学校歴史、地理、公民各分野教科書（出版社は指定しない）
高等学校　歴史総合、地理総合教科書（出版社は指定しない）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（リアクションペーパー、模擬授業感想シート、出席状況などで30％）、学習指導案・模擬授業・レポート・春学期確認テストなど（70％）を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生からの質問等は、次の授業時間やメールなどを使用して回答する。一昨年度、昨年度とも授業の感想で、模擬授業を経験できたことが大変良かったという意見が多数あったので、今年度も来年度教育実習を行う３年生を中心に模擬授業を行ってもらう。
教育実習や実際に教員になった場合を考慮して、授業実践に役立つ授業を念頭に進める。

【学生が準備すべき機器他】
タブレットやノートパソコンを持参してもらう場合もある。

【その他の重要事項】
前半は講義形式、後半は、４年次の教育実習に向けて、３年生中心に２名ずつ歴史総合か地理総合の模擬授業を行ってもらう。基本的には、２限と３限は同じ内容で進める。
実際に教員になった場合、授業を休んだり遅刻をすると、その時間の授業ができず授業時間が不足したりして授業に影響が出てしまう。また、授業の代行や自習監督を他の教員にお願いしなければならず、他の教員の負担が増えてしまう。そのため、現実的には教員はなかなか授業を休むことは難しい。そこで、この授業についてもできるだけ欠席や遅刻をしないようにすること。他の学生の模擬授業を見ることは非常に役立つし、欠席や遅刻をすることは、模擬授業担当者にとってやりづらいし失礼にあたってしまう。出席状況を重視するので注意すること。
授業中に許可無くスマホなどを見ないようにすること。
担当者は、中高の教員の経験が30年以上あるので、それを活かし、実践的な授業を実施するつもりである。

【Outline (in English)】
Learn social studies history and understand the goals and contents of the curriculum. Learn how to teach and evaluate in the field of geography and history, create a lesson plan and conduct a mock lesson. Based on the review, understand the key points for teaching.

社会・地歴科教育法（1）

宮嶋　祐一

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：2019年度以降入学生用科目
（哲・史・地理学科用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解する。地歴分野の授業の方法や評価の仕方を学び、学習指導案の作成方法、模擬授業を行う際に注意することなどを学ぶ。

【到達目標】
中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を理解するとともに、教育実習や実際の授業に役立つ教科指導と授業計画を立てるために必要な知識や技能を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
社会科地歴科教育について歴史と現状を理解し、さらに具体的な授業テーマ（歴史と地理）を取り上げ、実際の教科書を使って授業方法を具体的に学ぶ。授業はおもに講義形式で行い、振り返りシートを提出してもらう。質問等については適宜授業で解説を行う。状況により授業形態・計画の変更もあり。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（授業の狙いや進め方） 社会科教育の目的について	授業のオリエンテーションと、学校教育における社会科教育の目的を理解する。
第2回	社会科教育の現在①（中学社会科分野の学習指導要領）	中学社会科の学習指導要領の内容を理解する。
第3回	社会科教育の現在②（高校地歴科の学習指導要領）	高校地歴科の学習指導要領の内容を理解する。
第4回	戦前の社会科教育	戦前の社会科教育の特徴について理解する。
第5回	戦後の社会科教育と教科書	戦後の社会科教育の特徴について理解する。 教科書の作成について理解する。
第6回	中学社会科公民的分野の授業例	中学社会科の公民的分野の授業例を検討する（地理、歴史的分野は高校の授業例を扱うため、中学は公民のみとする）。
第7回	高校地歴科歴史分野の授業例①	高校の歴史総合の授業例を検討する。①
第8回	高校地歴科地理分野の授業例①	高校の地理総合の授業例を検討する。①
第9回	高校地歴科歴史分野の授業例②	高校の歴史総合の授業例を検討する。②
第10回	高校地歴科地理分野の授業例②	高校の地理総合の授業例を検討する。②
第11回	高校地歴科の授業例③	状況を見て、高校の歴史分野または地理分野の授業例を検討する。③
第12回	学習指導案の書き方	学習指導案の意義と書き方について理解する。
第13回	模擬授業の意義と模擬授業を行う上での注意事項	模擬授業の意義について理解する。 模擬授業を行う上での具体的な注意事項の確認をする。
第14回	春学期のまとめと確認テスト	春学期のまとめと確認テストを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会科、地歴科の教員には社会に関する高い関心と豊富な知識が必要である。社会の出来事に関心を持ち、読書や新聞、テレビのニュースなどを積極的に見て欲しい。さらにNHKスペシャルなどのドキュメンタリー番組も見て欲しい。授業中に紹介した文献等も積極的に読んで欲しい。復習時間を１～２時間とって、学習内容の定着をはかること。

【テキスト（教科書）】
特になし。適宜授業プリントを使用する。

【参考書】
文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）、文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）
中学校歴史、地理、公民各分野教科書（出版社は指定しない）
高等学校　歴史総合、地理総合教科書（出版社は指定しない）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（リアクションペーパー、出席状況などで30％）、レポート（10％）、確認テスト（60％）を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業中での質問や意見は積極的に行って欲しい。または、毎時間リアクションペーパーを記入してもらうので、そこに質問等があれば記入すること。質問については次の時間に回答し、場合によってはメールで回答する。全体で共有した方がよい内容であれば、次の時間の授業の最初に説明する。

【学生が準備すべき機器他】
タブレットやノートパソコンを持参してもらう場合もある。

【その他の重要事項】
原則として春学期は講義形式で進める。基本的には、２限と３限は同じ内容で進める。
実際に教員になった場合、授業を休んだり遅刻をすると、その時間の授業ができず授業時間が不足したりして授業に影響が出てしまう。また、授業の代行や自習監督を他の教員にお願いしなければならず、他の教員の負担が増えてしまう。そのため、現実的には教員はなかなか授業を休むことは難しい。そこで、この授業についてもできるだけ欠席や遅刻をしないようにすること。出席状況を重視するので注意すること。
授業中に許可無くスマホなどを見ないようにすること。
担当者は、中高の教員の経験が30年以上あるので、それを活かし、実践的な授業を実施するつもりである。

【Outline (in English)】
I learn the history of social studies and understand an aim and the contents of the course of study. Method of the class of the field of geography and history and learn a way making method of the learning teaching plan of the evaluation, simulated; learn that warn you when teach it.

社会・地歴科教育法（2）

宮嶋　祐一

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：2019年度以降入学生用科目
（哲・史・地理学科用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解する。地歴分野の授業の方法や評価の仕方を学び、学習指導案を作成して模擬授業を実施する。その振り返りをもとに授業を進める上でのポイントを理解する。

【到達目標】
中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を理解するとともに、教育実習や実際の授業に役立つ教科指導と授業計画を立てるために必要な知識や技能を身につける。模擬授業を行い、４年次の教育実習に対応できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
社会科地歴科教育について歴史と現状を理解し、さらに具体的な授業テーマ（歴史と地理）を取り上げ、実際の教科書を使って授業方法を具体的に学ぶ。授業は模擬授業を中心に進める。毎回模擬授業の感想シートを提出してもらう。質問等については適宜授業で解説を行う。状況により授業形態・計画の変更もあり。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第2回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第3回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第4回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第5回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第6回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第7回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第8回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第9回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第10回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第11回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第12回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第13回	模擬授業（高校歴史総合または地理総合）	２名ずつ模擬授業を行う。
第14回	模擬授業のまとめと振り返り	模擬授業を総括し、振り返りシートを記入する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会科、地歴科の教員には社会に関する高い関心と豊富な知識が必要である。社会の出来事に関心を持ち、読書や新聞、テレビのニュースなどを積極的に見て欲しい。さらにNHKスペシャルなどのドキュメンタリー番組も見て欲しい。授業中に紹介した文献等も積極的に読んで欲しい。模擬授業の授業指導案と授業プリントを事前に作成し提出してもらう。本授業の準備時間は模擬授業の授業指導案と授業プリントの作成を含め３時間ほど、復習時間は１～２時間、計４、５時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。適宜授業プリントを使用する。模擬授業の時には、担当者が作成した学習指導案を事前に提出してもらい、それを参考に模擬授業を実施する。

【参考書】
文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）、文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）
中学校歴史、地理、公民各分野教科書（出版社は指定しない）
高等学校　歴史総合、地理総合教科書（出版社は指定しない）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（リアクションペーパー、模擬授業感想シート、出席状況などで30％）、学習指導案・模擬授業・レポートなど（70％）を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
一昨年度、昨年度とも授業の感想で、模擬授業を経験できたことが大変良かったという意見が多数あったので、今年度も来年度教育実習を行う３年生を中心に模擬授業を行ってもらう。
教育実習や実際に教員になった場合を考慮して、授業実践に役立つ授業を念頭に進める。
学生からの質問等は、次の授業時間やメールなどを使用して回答する

【学生が準備すべき機器他】
タブレットやノートパソコンを持参してもらう場合もある。

【その他の重要事項】
４年次の教育実習に向けて、３年生中心に２名ずつ歴史総合か地理総合の模擬授業を行ってもらう。基本的には、２限と３限は同じ内容で進める。
実際に教員になった場合、授業を休んだり遅刻をすると、その時間の授業ができず授業時間が不足したりして授業に影響が出てしまう。また、授業の代行や自習監督を他の教員にお願いしなければならず、他の教員の負担が増えてしまう。そのため、現実的には教員はなかなか授業を休むことは難しい。そこで、この授業についてもできるだけ欠席や遅刻をしないようにすること。他の学生の模擬授業を見ることは非常に役立つし、欠席や遅刻をすることは、模擬授業担当者にとってやりづらいし失礼にあたってしまう。出席状況を重視するので注意すること。
授業中に許可無くスマホを見ないようにすること。
担当者は、中高の教員の経験が30年以上あるので、それを活かし、実践的な授業を実施するつもりである。

【Outline (in English)】
the curriculum. Learn how to teach and evaluate in the field of geography and history, create a lesson plan and conduct a mock lesson. Based on the review, understand the key points for teaching.

社会・公民科教育法

吉田　俊弘

単位：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
備考（履修条件等）：2018年度以前入学生用科目
（哲学科以外用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会・公民科教員として必要な指導上の知識や技能を習得する。中学社会科(公民的分野)及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、教材と学習指導案の作成、模擬授業を通して実践的な指導力の基礎を身につける。

【到達目標】
中学社会科(公民的分野)及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成し授業をすることができる。その際、ICTを活用した授業案をつくる力を身につけることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期には、公民教育に必要な基本的な知識の習得と学生の主体的な学習への取り組みによって授業を進め、教材づくりに取り組む。秋学期には、実践的指導力の習得をめざし、受講生各自が学習指導案を作成し、模擬授業を実施し、その検討をおこなう。授業は発表、グループディスカッションやグループワークを取り入れ、ＩＣＴ教育を配慮した視聴覚機材・情報機器等を介した能動的な学習となる。毎回、リフレクションシートを提出するほか、教材発表や模擬授業などでは適宜講評・解説を行う。状況により計画・授業形態の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	１年間の授業計画の提示・受講者の中高生時代の社会科・公民科体験のアンケート調査など。
2	公民教育の歴史(1)	欧米の公民教育を取り上げ、その内容を検討する。
3	公民教育の歴史(2)	戦前日本の公民教育と戦後の初期社会科を検討する。
4	公民教育と学習指導要領の変遷	中学校学習指導要領を中心にその内容を分析する。
5	社会科(公民的分野)の目標と授業	新学習指導要領の内容を踏まえ、授業の意義を考察する。
6	公民教育の論点①人権教育	人権教育の実例をもとに教材の役割を考察する。
7	公民教育の論点②法教育	法教育の実例をもとに教材作成法と評価について学ぶ。
8	公民教育の論点③経済教育	経済教育の実例をもとに教材作成のほか、情報機器・データの活用を学ぶ。
9	教材発表①　憲法	受講生による憲法教材の発表とその検討を行う。
10	教材発表②　政治	受講生による政治教材の発表とその検討を行う。
11	教材発表③　国際・平和	受講生による国際・平和教材の発表とその検討を行う。
12	教材発表④　労働・社会保障	受講生による労働・社会保障教材の発表とその検討を行う。
13	教材発表⑤　環境	受講生による環境教材の発表とその検討を行う。
14	春学期の授業の振り返り	春学期の学修内容をふまえ、小論文を作成する。
15	オリエンテーション	秋学期の授業内容と進め方について解説する
16	中学校社会科公民的分野・高校公民科の改革(1)	日本学術会議や学会、教育団体の提言などを取り上げ、検討する。
17	中学校社会科公民的分野・高校公民科の改革(2)	中学校社会科公民的分野・高校公民科の最新の動向を理解し、課題を整理する。
18	高校公民科の目標と授業づくり	科目「公共」の学習指導要領を読み、その特徴を分析する。
19	学習指導案の書き方	学習指導案の役割を理解し、その書き方を検討する。
20	政治教育の実践と課題	中学や高校の実践例をもとに公民教育の意義と教師の役割を考察する。
21	主権者教育の実践と課題	18歳選挙権の成立と主権者教育の意義と課題を検討する。
22	倫理教育の実践と課題	生命倫理、功利主義と義務論などを取り上げ、現代の倫理教育の意義と課題を検討する。
23	模擬授業(1)「公共」①	政治と法を主題とする模擬授業の実践と検討を行う。
24	模擬授業(2)「公共」②	国際・平和を主題とする模擬授業の実践と検討を行う。
25	模擬授業(3)「倫理」	青年期・生命倫理・哲学を主題とする模擬授業の実践と検討を行う。
26	模擬授業(4)「政治・経済」	経済を主題とする模擬授業の実践と検討を行う。
27	模擬授業(5)「中学社会科公民的分野」	時事問題を主題とする模擬授業の実践と検討を行う。
28	秋学期の授業のまとめ・レポート試験の実施	秋学期の授業について総括する。いくつかのテーマについての試験を授業時間内に作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習してくること。
・各自が選んだ授業テーマに即して学習指導案を作成し模擬授業を実践するため、授業時間外においてそのための準備に取り組むこと。
・本授業の準備・復習時間は1回につき各２時間、計４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定せず、資料プリントの配布を行う。
なお、テキストではないが、文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）は授業時に参照することが多い。

【参考書】
教員がテーマごとに適宜紹介する。担当教員が執筆している著作の中から参考までに次の4点をあげる。
二谷貞夫・小林汎・大野一夫・和井田清司・吉田俊弘編『中等社会科ハンドブック』学文社(2013年)
杉浦真理・菅澤康雄・斎藤一久編『未来の市民を育む「公共」の授業』大月書店(2020年)
横大道聡・吉田俊弘著『憲法のリテラシー』有斐閣(2022年)
早稲田大学教育総合研究所監修『憲法を学び、教える』学文社(2024年)

【成績評価の方法と基準】
授業参加(平常点)-リフレクションシートの内容（40％）、課題(教材作成、学習指導案の作成、模擬授業)の内容（40％）、小論文の内容（20％）をもとに総合的に評価する。授業形態により変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】
現代的な視点を持った実践的な役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.
（Learning Objectives）
Aiming to develop the qualities and abilities required as teachers of junior high school social studies (civilian field) and high school civilian studies, understand the goals and contents of education, and be able to create learning guidance plans based on learning guidance theory.
（Learning activities outside of classroom）
The method of preparation and review will be instructed at the time of class. In particular, be sure to prepare for the relevant parts of the distributed prints, textbooks, and junior high and high school "Course of Study" related to the lessons.
According to the lesson theme of your choice, make use of the summer vacation to create a lesson plan and submit it at the first class of the fall semester. * This is mandatory.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
（Grading Criteria /Policy）
（Course outline）
This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.
（Learning Objectives）
Aiming to develop the qualities and abilities required as teachers of junior high school social studies (civilian field) and high school civilian studies, understand the goals and contents of education, and be able to create learning guidance plans based on learning guidance theory.
（Learning activities outside of classroom）
The method of preparation and review will be instructed at the time of class. In particular, be sure to prepare for the relevant parts of the distributed prints, textbooks, and junior high and high school "Course of Study" related to the lessons.
According to the lesson theme of your choice, make use of the summer vacation to create a lesson plan and submit it at the first class of the fall semester. * This is mandatory.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
（Grading Criteria /Policy）
Comprehensive evaluation based on in-class contribution (40%), learning tasks (40%), reports (20%), etc.It may change depending on the class format.

社会・公民科教育法（1）

吉田　俊弘

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：2019年度以降入学生用科目
（哲学科以外用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学社会科（公民分野）に軸をおきながら、高校公民科の動向もふまえ、公民教育の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、教材と学習指導案の作成を行う。

【到達目標】
中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案・教材を作成することができる。その際、ICTを活用した授業案を作ることができる力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的な知識の習得と学生の主体的な学習への取り組みによって授業をすすめる。講義やICT教育を配慮した視覚教材などによる学習、授業内の発表、討議などが中心となり、毎回提出物(リフレクションシート)がある。提出物や発表などについては適宜授業で講評・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	１年間の授業計画の提示・受講者の中高生時代の社会科・公民科体験のアンケート調査など。
第2回	公民教育の歴史(1)	欧米の公民教育を取り上げ、その内容を検討する。
第3回	公民教育の歴史(2)	戦前日本の公民教育と戦後の初期社会科を検討する。
第4回	公民教育と学習指導要領の変遷	中学校学習指導要領を中心にその内容を分析する。
第5回	社会科(公民分野)の目標と授業	新学習指導要領の内容をふまえ、授業の意義を考察する。
第6回	公民教育の論点①　人権教育	人権教育の実例をもとに教材の役割を考察する。
第7回	公民教育の論点②　法教育	法教育の実例をもとに教材作成法と評価について学ぶ。
第8回	公民教育の論点③　経済教育	経済教育の実例をもとに教材作成のほか、情報機器・データの活用を学ぶ。
第9回	教材発表(1) 憲法	受講生による憲法教材の発表とその検討を行う。
第10回	教材発表(2) 政治	受講生による政治教材の発表とその検討を行う。
第11回	教材発表(3) 国際・平和	受講生による国際・平和教材の発表とその検討を行う。
第12回	教材発表(4)　労働・社会保障	受講生による労働・社会保障教材の発表とその検討を行う。
第13回	教材発表(5)　環境	受講生による環境教材の発表とその検討を行う。
第14回	公民教育の振り返り	春学期の学修内容をふまえ小論文を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習してくること。
・社会・公民科教育法(2)において学習指導案に基づく模擬授業を行うので、テーマの選定と準備に取り組むこと。
・本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定せず、資料プリントの配布を行う。
なお、テキストではないが、文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）を参照することが多い。

【参考書】
二谷貞夫・小林汎・大野一夫・和井田清司・吉田俊弘編『中等社会科ハンドブック〈社会・地歴・公民〉授業づくりの手引き』学文社(2013年)
横大道聡・吉田俊弘著『憲法のリテラシー』有斐閣(2022年)
早稲田大学教育総合研究所監修『憲法を学び、教える』学文社(2024年)

【成績評価の方法と基準】
授業参加(平常点)-リフレクションシートの内容(40点)、課題(教材作成)に対する発表内容(30点)、テスト＝小論文の内容(30点)をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
現代的な視点に立った実際に役にたつ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
授業計画や授業形態は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods.　Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.
（Learning Objectives）
Aiming to develop the qualities and abilities required as teachers of junior high school social studies (civilian field) and high school civilian studies, understand the goals and contents of education, and be able to create learning guidance plans based on learning guidance theory.
（Learning activities outside of classroom）
The method of preparation and review will be instructed at the time of class. In particular, be sure to prepare for the relevant parts of the distributed prints, textbooks, and junior high and high school "Course of Study" related to the lessons.
According to the lesson theme of your choice, make use of the summer vacation to create a lesson plan and submit it at the first class of the fall semester. * This is mandatory.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
（Grading Criteria /Policy）
Comprehensive evaluation based on in-class contribution (40%), learning tasks (30%), reports (30%), etc.

社会・公民科教育法（2）

吉田　俊弘

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：2019年度以降入学生用科目
（哲学科以外用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、高校公民科に軸をおきながら、中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な知識・技能に基づいて、グループや個人で実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】
中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成し、授業を行うことができる。その際、ICTを活用した授業案をつくる力を身につけることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
前半は、公民科教育の動向を検討し、後半は、各自が高校公民科各科目から1テーマを選び、学習指導案の作成と模擬授業を行う。講義による解説のほか、学生の主体的な取り組み(発表・話し合いなどを含む)が求められる。授業では、毎回リフレクションシートを提出する。学習指導案や模擬授業、発表などについては適宜授業で講評・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方の説明と授業づくりの意義を考察する。
第2回	中学社会科公民的分野・高校公民科の改革(1)	日本学術会議や学会、教育団体の提言などを取り上げ、検討する。
第3回	中学社会科公民的分野・高校公民科の改革(2)	中学社会科公民的分野・高校公民科の最新の動向を理解し、課題を整理する。
第4回	高校公民科の目標と授業づくり	科目「公共」の学習指導要領を読み、その特徴を分析する。
第5回	学習指導案の書き方	学習指導案の役割を理解し、その書き方を検討する。
第6回	政治教育の実践と課題	中学や高校の実践例をもとに公民教育の意義と教師の役割を考察する。
第7回	主権者教育の実践と課題	18歳選挙権の成立と主権者教育の意義と課題を検討する。
第8回	倫理教育の実践と課題	生命倫理、功利主義と義務論などを取り上げ、現代の倫理教育の意義と課題を検討する。
第9回	模擬授業(1)「公共」①	政治と法を主題とする模擬授業の実践と検討を行う。
第10回	模擬授業(2)「公共」②	国際・平和を主題とする模擬授業の実践と検討を行う。
第11回	模擬授業(3)「倫理」	青年期・生命倫理・哲学を主題とする模擬授業の実践と検討を行う。
第12回	模擬授業(4)「政治・経済」	経済を主題とする模擬授業の実践と検討を行う。
第13回	模擬授業(5)「中学社会科公民的分野」	時事問題を主題とする模擬授業の実践と検討を行う。
第14回	公民教育の振り返り	授業をふりかえり小論文を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習してくること。
・各自が選んだ授業テーマに即して学習指導案を作成し模擬授業を実践するため、授業時間外においてそのための準備に取り組むこと。
・授業の予習(模擬授業の準備を含む)と復習については1回につき各2時間(計4時間)の取り組みが標準となる。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。
授業時にプリントを配布する。
なお、テキストではないが、文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）は授業時に参照することが多い(文科省のwebsiteでの閲覧が可能である)。

【参考書】
教員がテーマごとに適宜紹介する。担当教員の著作からおもなものとして次の4点をあげる。
二谷貞夫・小林汎・大野一夫・和井田清司・吉田俊弘編『中等社会科ハンドブック』学文社(2013年)
杉浦真理・菅澤康雄・斎藤一久編『未来の市民を育む「公共」の授業』大月書店(2020年)
横大道聡・吉田俊弘著『憲法のリテラシー』有斐閣(2022年)
早稲田大学教育総合研究所監修『憲法を学び、教える』学文社(2024年)
なお、文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）は授業時に参照することが多い(文科省のwebsiteでの閲覧が可能である)。

【成績評価の方法と基準】
授業参加(平常点)-リフレクションシートの内容(40点)、課題(学習指導案作成と模擬授業)の内容(40点)、小論文の内容(20点)をもとに総合的に評価する。授業形態によって変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】
現代的な視点を持った実践的な役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
授業計画や授業形態は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline (in English)】
【Course outline】This class aims to implement case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals using the basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods.【Learning Objectives】Students are able to design lesson plans and practice simulated lessons on the basis of understanding the goals and contents of social studies and civic education as well as learning theories, for building competencies required as a junior and high school social studies and civic education teacher.【Learning activities outside of classroom】The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.【Grading Criteria/Policy】Comprehensive evaluation based on in-class contribution (40%), learning tasks (40%), reports (20%), etc.

社会・公民科教育法

吉田　俊弘

単位：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
備考（履修条件等）：2018年度以前入学生用科目
（哲学科用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会・公民科教員として必要な指導上の知識や技能を習得する。中学社会科(公民的分野)及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、教材と学習指導案の作成、模擬授業を通して実践的な指導力の基礎を身につける。

【到達目標】
中学社会科(公民的分野)及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成し授業をすることができる。その際、ICTを活用した授業案をつくる力を身につけることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期には、公民教育に必要な基本的な知識の習得と学生の主体的な学習への取り組みによって授業を進め、教材づくりに取り組む。秋学期には、実践的指導力の習得をめざし、受講生各自が学習指導案を作成し、模擬授業を実施し、その検討をおこなう。授業は発表、グループディスカッションやグループワークを取り入れ、ＩＣＴ教育を配慮した視聴覚機材・情報機器等を介した能動的な学習となる。毎回、リフレクションシートを提出するほか、教材発表や模擬授業などでは適宜講評・解説を行う。状況により計画・授業形態の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	１年間の授業計画の提示・受講者の中高生時代の社会科・公民科体験のアンケート調査など。
2	公民教育の歴史(1)	欧米の公民教育を取り上げ、その内容を検討する。
3	公民教育の歴史(2)	戦前日本の公民教育と戦後の初期社会科を検討する。
4	公民教育と学習指導要領の変遷	中学校学習指導要領を中心にその内容を分析する。
5	社会科(公民的分野)の目標と授業	新学習指導要領の内容を踏まえ、授業の意義を考察する。
6	公民教育の論点①　人権教育	人権教育の実例をもとに教材の役割を考察する。
7	公民教育の論点②　法教育	法教育の実例をもとに教材作成法と評価について学ぶ。
8	公民教育の論点③　経済教育	経済教育の実例をもとに教材作成のほか、情報機器・データの活用を学ぶ。
9	教材発表①　憲法	受講生による憲法教材の発表とその検討を行う。
10	教材発表②　政治	受講生による政治教材の発表とその検討を行う。
11	教材発表③　国際・平和	受講生による国際・平和教材の発表とその検討を行う。
12	教材発表④　労働・社会保障	受講生による労働・社会保障教材の発表とその検討を行う。
13	教材発表⑤　環境	受講生による環境教材の発表とその検討を行う。
14	春学期の授業の振り返り	春学期の学修内容をふまえ、小論文を作成する。
15	オリエンテーション	秋学期の授業内容と進め方について解説する
16	中学校社会科公民的分野・高校公民科の改革(1)	日本学術会議や学会、教育団体の提言などを取り上げ、検討する。
17	中学校社会科公民的分野・高校公民科の改革(2)	中学校社会科公民的分野・高校公民科の最新の動向を理解し、課題を整理する。
18	高校公民科の目標と授業づくり	科目「公共」の学習指導要領を読み、その特徴を分析する。
19	学習指導案の書き方	学習指導案の役割を理解し、その書き方を検討する。
20	政治教育の実践と課題	中学や高校の実践例をもとに公民教育の意義と教師の役割を考察する。
21	主権者教育の実践と課題	18歳選挙権の成立と主権者教育の意義と課題を検討する。
22	倫理教育の実践と課題	生命倫理、功利主義と義務論などを取り上げ、現代の倫理教育の意義と課題を検討する。
23	模擬授業(1)「公共」①	政治と法を主題とする模擬授業の実践と検討を行う。
24	模擬授業(2)「公共」②	国際・平和を主題とする模擬授業の実践と検討を行う。
25	模擬授業(3)「倫理」	青年期・生命倫理・哲学を主題とする模擬授業の実践と検討を行う。
26	模擬授業(4)「政治・経済」	経済を主題とする模擬授業の実践と検討を行う。
27	模擬授業(5)「中学社会科公民的分野」	時事問題を主題とする模擬授業の実践と検討を行う。
28	秋学期の授業のまとめ・レポート試験の実施	秋学期の授業について総括する。いくつかのテーマについての試験を授業時間内に作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習してくること。
・各自が選んだ授業テーマに即して学習指導案を作成し模擬授業を実践するため、授業時間外においてそのための準備に取り組むこと。
・本授業の準備・復習時間は1回につき各２時間、計４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定せず、資料プリントの配布を行う。
なお、テキストではないが、文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）は授業時に参照することが多い。

【参考書】
教員がテーマごとに適宜紹介する。担当教員が執筆している著作の中から参考までに次の4点をあげる。
二谷貞夫・小林汎・大野一夫・和井田清司・吉田俊弘編『中等社会科ハンドブック』学文社(2013年)
杉浦真理・菅澤康雄・斎藤一久編『未来の市民を育む「公共」の授業』大月書店(2020年)
横大道聡・吉田俊弘著『憲法のリテラシー』有斐閣(2022年)
早稲田大学教育総合研究所監修『憲法を学び、教える』学文社(2024年)

【成績評価の方法と基準】
授業参加(平常点)-リフレクションシートの内容（40％）、課題(教材作成、学習指導案の作成、模擬授業)の内容（40％）、小論文の内容（20％）をもとに総合的に評価する。授業形態により変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】
現代的な視点を持った実践的な役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.
（Learning Objectives）
Aiming to develop the qualities and abilities required as teachers of junior high school social studies (civilian field) and high school civilian studies, understand the goals and contents of education, and be able to create learning guidance plans based on learning guidance theory.
（Learning activities outside of classroom）
The method of preparation and review will be instructed at the time of class. In particular, be sure to prepare for the relevant parts of the distributed prints, textbooks, and junior high and high school "Course of Study" related to the lessons.
According to the lesson theme of your choice, make use of the summer vacation to create a lesson plan and submit it at the first class of the fall semester. * This is mandatory.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
（Grading Criteria /Policy）
（Course outline）
This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.
（Learning Objectives）
Aiming to develop the qualities and abilities required as teachers of junior high school social studies (civilian field) and high school civilian studies, understand the goals and contents of education, and be able to create learning guidance plans based on learning guidance theory.
（Learning activities outside of classroom）
The method of preparation and review will be instructed at the time of class. In particular, be sure to prepare for the relevant parts of the distributed prints, textbooks, and junior high and high school "Course of Study" related to the lessons.
According to the lesson theme of your choice, make use of the summer vacation to create a lesson plan and submit it at the first class of the fall semester. * This is mandatory.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
（Grading Criteria /Policy）
Comprehensive evaluation based on in-class contribution (40%), learning tasks (40%), reports (20%), etc.It may change depending on the class format.

社会・公民科教育法（1）

吉田　俊弘

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：2019年度以降入学生用科目
（哲学科用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学社会科（公民分野）に軸をおきながら、高校公民科の動向もふまえ、公民教育の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、教材と学習指導案の作成を行う。

【到達目標】
中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案・教材を作成することができる。その際、ICTを活用した授業案を作ることができる力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的な知識の習得と学生の主体的な学習への取り組みによって授業をすすめる。講義やICT教育を配慮した視覚教材などによる学習、授業内の発表、討議などが中心となり、毎回提出物(リフレクションシート)がある。提出物や発表などについては適宜授業で講評・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	１年間の授業計画の提示・受講者の中高生時代の社会科・公民科体験のアンケート調査など。
第2回	公民教育の歴史(1)	欧米の公民教育を取り上げ、その内容を検討する。
第3回	公民教育の歴史(2)	戦前日本の公民教育と戦後の初期社会科を検討する。
第4回	公民教育と学習指導要領の変遷	中学校学習指導要領を中心にその内容を分析する。
第5回	社会科(公民分野)の目標と授業	新学習指導要領の内容をふまえ、授業の意義を考察する。
第6回	公民教育の論点①人権教育	人権教育の実例をもとに教材の役割を考察する。
第7回	公民教育の論点②法教育	法教育の実例をもとに教材作成法と評価について学ぶ。
第8回	公民教育の論点③経済教育	経済教育の実例をもとに教材作成のほか、情報機器・データの活用を学ぶ。
第9回	教材発表(1) 憲法	受講生による憲法教材の発表とその検討を行う。
第10回	教材発表(2) 政治	受講生による政治教材の発表とその検討を行う。
第11回	教材発表(3) 国際・平和	受講生による国際・平和教材の発表とその検討を行う。
第12回	教材発表(4)　労働・社会保障	受講生による労働・社会保障教材の発表とその検討を行う。
第13回	教材発表(5)　環境	受講生による環境教材の発表とその検討を行う。
第14回	公民教育の振り返り	春学期の学修内容をふまえ小論文を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習してくること。
・社会・公民科教育法(2)において学習指導案に基づく模擬授業を行うので、テーマの選定と準備に取り組むこと。
・本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定せず、資料プリントの配布を行う。
なお、テキストではないが、文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）を参照することが多い。

【参考書】
二谷貞夫・小林汎・大野一夫・和井田清司・吉田俊弘編『中等社会科ハンドブック〈社会・地歴・公民〉授業づくりの手引き』学文社(2013年)
横大道聡・吉田俊弘著『憲法のリテラシー』有斐閣(2022年)
早稲田大学教育総合研究所監修『憲法を学び、教える』学文社(2024年)

【成績評価の方法と基準】
授業参加(平常点)-リフレクションシートの内容(40点)、課題(教材作成)に対する発表内容(30点)、テスト＝小論文の内容(30点)をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
現代的な視点に立った実際に役にたつ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
授業計画や授業形態は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.
（Learning Objectives）
Aiming to develop the qualities and abilities required as teachers of junior high school social studies (civilian field) and high school civilian studies, understand the goals and contents of education, and be able to create learning guidance plans based on learning guidance theory.
（Learning activities outside of classroom）
The method of preparation and review will be instructed at the time of class. In particular, be sure to prepare for the relevant parts of the distributed prints, textbooks, and junior high and high school "Course of Study" related to the lessons.
According to the lesson theme of your choice, make use of the summer vacation to create a lesson plan and submit it at the first class of the fall semester. * This is mandatory.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
（Grading Criteria /Policy）
Comprehensive evaluation based on in-class contribution (40%), learning tasks (30%), reports (30%), etc.

社会・公民科教育法（2）

吉田　俊弘

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：2019年度以降入学生用科目（哲学科用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、高校公民科に軸をおきながら、中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な知識・技能に基づいて、グループや個人で実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】
中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成し、授業を行うことができる。その際、ICTを活用した授業案をつくる力を身につけることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
前半は、公民科教育の動向を検討し、後半は、各自が高校公民科各科目から1テーマを選び、学習指導案の作成と模擬授業を行う。講義による解説のほか、学生の主体的な取り組み(発表・話し合いなどを含む)が求められる。授業では、毎回リフレクションシートを提出する。学習指導案や模擬授業、発表などについては適宜授業で講評・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方の説明と授業づくりの意義を考察する。
第2回	中学社会科公民的分野・高校公民科の改革(1)	日本学術会議や学会、教育団体の提言などを取り上げ、検討する。
第3回	中学社会科公民的分野・高校公民科の改革(2)	中学社会科公民的分野・高校公民科の最新の動向を理解し、課題を整理する。
第4回	高校公民科の目標と授業づくり	科目「公共」の学習指導要領を読み、その特徴を分析する。
第5回	学習指導案の書き方	学習指導案の役割を理解し、その書き方を検討する。
第6回	政治教育の実践と課題	中学や高校の実践例をもとに公民教育の意義と教師の役割を考察する。
第7回	主権者教育の実践と課題	18歳選挙権の成立と主権者教育の意義と課題を検討する。
第8回	倫理教育の実践と課題	生命倫理、功利主義と義務論などを取り上げ、現代の倫理教育の意義と課題を検討する。
第9回	模擬授業(1)「公共」①	政治と法を主題とする模擬授業の実践と検討を行う。
第10回	模擬授業(2)「公共」②	国際・平和を主題とする模擬授業の実践と検討を行う。
第11回	模擬授業(3)「倫理」	青年期・生命倫理・哲学を主題とする模擬授業の実践と検討を行う。
第12回	模擬授業(4)「政治・経済」	経済を主題とする模擬授業の実践と検討を行う。
第13回	模擬授業(5)「中学社会科公民的分野」	時事問題を主題とする模擬授業の実践と検討を行う。
第14回	公民教育の振り返り	授業をふりかえり小論文を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習してくること。
・各自が選んだ授業テーマに即して学習指導案を作成し模擬授業を実践するため、授業時間外においてそのための準備に取り組むこと。
・授業の予習(模擬授業の準備を含む)と復習については1回につき各2時間(計4時間)の取り組みが標準となる。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。
授業時にプリントを配布する。
なお、テキストではないが、文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）は授業時に参照することが多い(文科省のwebsiteでの閲覧が可能である)。

【参考書】
教員がテーマごとに適宜紹介する。担当教員の著作からおもなものとして次の4点をあげる。
二谷貞夫・小林汎・大野一夫・和井田清司・吉田俊弘編『中等社会科ハンドブック』学文社(2013年)
杉浦真理・菅澤康雄・斎藤一久編『未来の市民を育む「公共」の授業』大月書店(2020年)
横大道聡・吉田俊弘著『憲法のリテラシー』有斐閣(2022年)
早稲田大学教育総合研究所監修『憲法を学び、教える』学文社(2024年)
なお、文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）は授業時に参照することが多い(文科省のwebsiteでの閲覧が可能である)。

【成績評価の方法と基準】
授業参加(平常点)-リフレクションシートの内容(40点)、課題(学習指導案作成と模擬授業)の内容(40点)、小論文の内容(20点)をもとに総合的に評価する。授業形態によって変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】
現代的な視点を持った実践的な役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
授業計画や授業形態は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline (in English)】
【Course outline】This class aims to implement case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals using the basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods.【Learning Objectives】Students are able to design lesson plans and practice simulated lessons on the basis of understanding the goals and contents of social studies and civic education as well as learning theories, for building competencies required as a junior and high school social studies and civic education teacher.【Learning activities outside of classroom】The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.【Grading Criteria/Policy】Comprehensive evaluation based on in-class contribution (40%), learning tasks (40%), reports (20%), etc.

社会・公民科教育法

中澤　純一

単位：**4単位**　｜　開講セメスター：**年間授業/Yearly**
備考（履修条件等）：**2018年度以前入学生用科目**
（哲学科以外用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会・公民科教育では、「公民としての資質・能力」の育成をめざして、いかに授業を効果的にデザインしていけばよいかが問われている。本授業では、中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法、ICTの活用などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。さらに、これらの基本的な知識・技能に基づいて、グループや個人で実践事例の研究、教材開発、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】
次の５点を本授業の到達目標として定める。
１．社会科教育・公民科教育の内容について総合的に理解し、中等社会系教科を担当する教員として必要な基礎的知識を身に付けることができる。
２．生徒の実態を踏まえた授業設計の重要性とその方法論を把握することができる。
３．中学校社会科及び高等学校公民科の特性に応じたICTの活用及び教材の効果的な方法を理解し、授業設計・実践に活かすことができる。
４．具体的な授業場面を想定して授業設計を行い、学習指導案を立案・作成することができる。
５．授業実践分析を適切に行い、より良い授業づくりのために教材や発問、板書、学習方法などの改善点について具体的に考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
各回の講義の特徴にあわせ、グループによる学習指導案の作成及び実施、対話・議論型授業、反転授業、参加型学習、プレゼンテーション等を効果的に組み合わせて実施する。授業冒頭で、前回の授業で提出されたリフレクションシートからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会科教育・公民科教育の意義と課題	・社会科とは何か　・公民科とは何か　・社会科教育及び公民科教育の目標原理
第2回	中学校社会科と高等学校公民科の全体構造	・中学校社会科・高等学校公民科の分野及び科目の構成　・各分野と科目の役割　・小学校社会科との連携
第3回	中学校社会科・高等学校公民科の教師像	・社会科・公民科教師の働き　・社会科・公民科教師の資質・能力
第4回	中学校社会科と高等学校公民科の目標論及び学力論	・社会科と公民科の目的・方法・性質　・社会科教育と公民科教育で達成すべきもの
第5回	社会科・公民科の評価方法	・何のための評価か ・評価規準とは　・評価の方法
第6回	中学校社会科・高等学校公民科のカリキュラムデザイン	・中学校学習指導要領（社会科）における目標と内容　・中学校社会科公民的分野におけるカリキュラムデザイン
第7回	ICTを取入れた社会科・公民科の授業－中学校社会科（公民的分野）を中心として－	・中学校社会科でICTを活用する学習方法　・中学校社会科でICTを活用する表現活動 ＊ゲストスピーカー：教科書出版社ICT推進室担当者による講話を含む
第8回	参加型学習を取入れた社会科・公民科の授業	・「主体的・対話的で深い学び」の実現　・参加型学習の手法
第9回	社会科・公民科における多文化教育の授業実践の分析	・社会科・公民科における多文化教育の理論と実践　・授業分析の視点
第10回	社会科・公民科における持続可能な社会の授業実践の分析	・SDGsの達成にむけた社会科・公民科の役割　・SDGsを題材とした授業事例　・授業分析の視点
第11回	社会科・公民科の教材研究	・社会科・公民科の授業をつくるために　・現代社会の諸課題・地球的課題を教材にするポイント
第12回	社会科・公民科の教材開発	・現代社会の諸課題をテーマにした教材づくり
第13回	社会科・公民科の教材実践	・グループで教材発表
第14回	中等社会系教科の教師に求められる資質	・作成した教材の改善　・社会科・公民科教師に求められる資質
第15回	中学校社会科・高等学校公民科の授業を創る	・現代社会における公民教育の役割　・社会科・公民科の授業とは
第16回	中学校社会科・高等学校公民科のカリキュラムデザイン	・高等学校学習指導要領（公民科）における目標と内容　・高等学校公民科におけるカリキュラムデザイン
第17回	中学校社会科（公民的分野）の学習指導	・社会科（公民的分野）の単元構想　・社会問題学習としての公民的分野の授業づくり
第18回	高等学校公民科「公共」の学習指導	・「公共」とは何か　・「公共」の年間指導計画と授業展開
第19回	高等学校公民科「倫理」の学習指導	・「倫理」の特質　・「倫理」の年間指導計画と授業展開
第20回	高等学校公民科「政治・経済」の学習指導	・「政治・経済」の特質　・「政治・経済」の年間指導計画と授業展開
第21回	社会科・公民科の学習指導案の作成方法	・学習指導案の構成 ・板書計画
第22回	社会科・公民科の学習指導案の作成	・グループによる模擬授業指導案の協働作成
第23回	ICTを取入れた社会科・公民科の授業－高等学校公民科を中心として－	・高等学校公民科でICTを活用する学習方法 ・高等学校公民科でICTを活用する表現活動 ＊ゲストスピーカー：教科書出版社ICT推進室担当者による講話を含む
第24回	社会科・公民科の模擬授業の実施と相互批評①（中学校社会科公民的分野：私たちと現代社会、私たちと経済）	・グループによる模擬授業　・学習指導案の検討と改善
第25回	社会科・公民科の模擬授業の実施と相互批評②（中学校社会科公民的分野：私たちと政治、私たちと国際社会の諸課題）	・グループによる模擬授業　・学習指導案の検討と改善

第26回	社会科・公民科の模擬授業の実施と相互批評③（高等学校公民科「公共」：公共の扉、自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち）	・グループによる模擬授業　・学習指導案の検討と改善
第27回	社会科・公民科の模擬授業の実施と相互批評④（高等学校公民科「公共」：持続可能な社会づくりの主体となる私たち）	・グループによる模擬授業　・学習指導案の検討と改善
第28回	これからの中等社会系教科の課題と展望	・社会の変化と社会科・公民科の課題　・社会の変化に共通する社会科・公民科教育の課題と展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習（準備学習）・事後学習（復習・宿題）として、次の５つに留意すること。１．事前学習として、教科書の指定箇所を熟読しワークシートの予習部分を解いたり、教材作成及び準備に熱心に取り組むこと。２．事後学習として、各回の課題に取り組み、次の授業までに課題レポートを提出したり、中間・期末課題（各自による教材開発及び学習指導案の作成）を着実に提出すること。３．日頃から、政治や経済に関係する時事的な報道等に関心をもって理解しておくこと。４．中学校社会科公民的分野及び高等学校公民科の教科書を読んでおくこと。５．事前学習２時間、事後学習２時間30分を目標として学習に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】
・社会認識教育学会編（2020）『中学校社会科教育・高等学校公民科教育』学術図書出版
・江口勇治、池上彰 監修（2025）『社会科中学生の公民－よりよい社会を目指して－』帝国書院
・苅部直、川﨑誠司ほか（2022）『高等学校 公共』帝国書院

【参考書】
・文部科学省（2018）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』東洋館出版社
・文部科学省（2019）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 公民編』東京書籍
・森茂岳雄・大友秀明・桐谷正信編著（2014）『新社会科教育の世界－歴史・理論・実践－（第２版）』梓出版社
・日本公民教育学会編（2019）『新版テキストブック公民教育』第一学習社
・森茂岳雄、川﨑誠司、桐谷正信、青木香代子編著（2019）『社会科における多文化教育- 多様性・社会正義・公正を学ぶ- 』明石書店
・中澤純一（2023）『多文化教育の授業開発と実践- 多様性の尊重と社会正義の実現をめざして- 』明石書店

【成績評価の方法と基準】
授業への参加及び貢献（15％）第１回～第27回における事後学習課題（リフレクションシートを含む）（25％）、グループによる教材開発と実践及び学習指導案の作成と実施（30％）、中間・期末課題（各自による教材開発及び学習指導案の作成）（30％）等に基づいて総合的に評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
提出されたリフレクションシートやレポートにコメントをつけて返却する。また、事前課題の内容について、授業内に解説を行う。

【学生が準備すべき機器他】
社会科・公民科の学習指導案の作成及び模擬授業の実施においては、PC等の持参が必要な場合がある。

【その他の重要事項】
授業の進行状況や社会情勢によって、適宜変更する場合がある。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Courseoutline)】
To acquire basic knowledge of the objectives, content, significance and characteristics of social studies and civics education; to deepen understanding of the content and teachingmethods, evaluationmethods,andvariousissuesin contemporarysociety; and toacquire thebasis for creating classes thatare inlinewiththeessenceof social studiesat the secondary level. Insocial studiesandcivics education, therearemanyteacher-led,knowledge-intensiveclasses,such as "chalkandtalk". However, futureeducationwill require studentstobeabletothink, express, andpresent theirown ideasintheirownwordsinresponsetothe"why"questionsand issuestheyfaceintheirownlearning.Wehopethatstudents willacquireboththeoreticalandpractical skillsby learning thetheoryof objectives, academicskills, teachingmaterials, andteachingmethodologyfromtheperspectiveof thewhole pictureofsocialstudiesandcivics.
【到達目標(LearningObjectives)】Thefollowingthreepointsaredefinedastheobjectivesofthis course.
1.Togainacomprehensiveunderstandingof thecontentof social studiesandcivicseducationandtoacquire thebasic knowledgenecessaryforsecondarysocialstudiesteachers.
2.Tounderstandtheimportanceofteachingdesignbasedon students'actualconditionsanditsmethodology.
3.Understandtheeffectiveuseof ICTandteachingmaterials according to the characteristics of juniorhighschool social studiesandseniorhighschoolcivics,andbeabletoapplythem toteachingdesignandpractice.
4.Beabletodesignlessonsandcreatelessonplansbasedon specificclassroomsituations.
5.Beable toanalyzeclassroompracticeappropriatelyand considerspecificpointsforimprovementinteachingmaterials, questioning, blackboardwriting, learningmethods, etc., in ordertocreatebetterclasses.
【成績評価の方法と基準（GradingCriteria/Policy）】Comprehensiveevaluationwillbebasedonclassparticipation and contribution (15%), post-class study assignments from sessions 2-27 (25%), group development and practice of teachingmaterials(30%),andfinalassignment(30%).

社会・公民科教育法（1）

中澤　純一

単位：**2単位**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**2019年度以降入学生用科目（哲学科以外用）**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会・公民科教育では、「公民としての資質・能力」の育成をめざして、いかに授業を効果的にデザインしていけばよいかが問われている。本授業では、中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法、ICTの活用などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、教材開発を行う。

【到達目標】
次の３点を本授業の到達目標として定める。
１．社会科教育・公民科教育の内容について総合的に理解し、中等社会系教科を担当する教員として必要な基礎的知識を身に付けることができる。
２．中学校社会科及び高等学校公民科の特性に応じたICTの活用及び教材の効果的な方法を理解し、授業設計・実践に活かすことができる。
３．中学校社会科及び高等学校公民科における授業実践研究の動向を知り、学習指導案の作成や教材開発に生かすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
各回の講義の特徴にあわせ、グループによる教材の作成及び実践、対話・議論型授業、反転授業、参加型学習、プレゼンテーション等を効果的に組み合わせて実施する。授業冒頭で、前回の授業で提出されたリフレクションシートからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会科教育・公民科教育の意義と課題	・社会科とは何か　・公民科とは何か　・社会科教育及び公民科教育の目標原理
第2回	中学校社会科と高等学校公民科の全体構造	・中学校社会科・高等学校公民科の分野及び科目の構成　・各分野と科目の役割　・小学校社会科との連携
第3回	中学校社会科・高等学校公民科の教師像	・社会科・公民科教師の働き　・社会科・公民科教師の資質・能力
第4回	中学校社会科と高等学校公民科の目標論及び学力論	・社会科と公民科の目的・方法・性質　・社会科教育と公民科教育で達成すべきもの
第5回	社会科・公民科の評価方法	・何のための評価か ・評価規準とは　・評価の方法
第6回	中学校社会科・高等学校公民科のカリキュラムデザイン	・中学校学習指導要領（社会科）における目標と内容　・中学校社会科公民的分野におけるカリキュラムデザイン
第7回	ICTを取入れた社会科・公民科の授業－中学校社会科（公民的分野）を中心として－	・中学校社会科でICTを活用する学習方法　・中学校社会科でICTを活用する表現活動 ＊ゲストスピーカー：教科書出版社ICT推進室担当者による講話を含む
第8回	参加型学習を取入れた社会科・公民科の授業	・「主体的・対話的で深い学び」の実現　・参加型学習の手法
第9回	社会科・公民科における多文化教育の授業実践の分析	・社会科・公民科における多文化教育の理論と実践　・授業分析の視点
第10回	社会科・公民科における持続可能な社会の授業実践の分析	・SDGsの達成にむけた社会科・公民科の役割　・SDGsを題材とした授業事例　・授業分析の視点
第11回	社会科・公民科の教材研究	・社会科・公民科の授業をつくるために　・現代社会の諸課題・地球的課題を教材にするポイント
第12回	社会科・公民科の教材開発	・現代社会の諸課題をテーマにした教材づくり
第13回	社会科・公民科の教材実践	・グループで教材発表
第14回	中等社会系教科の教師に求められる資質	・作成した教材の改善　・社会科・公民科教師に求められる資質

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習（準備学習）・事後学習（復習・宿題）として、次の５つに留意すること。１．事前学習として、教科書の指定箇所を熟読しワークシートの予習部分を解いたり、教材作成及び準備に熱心に取り組むこと。２．事後学習として、各回の課題に取り組み、次の授業までに課題レポートを提出したり、期末課題（各自による教材開発）を着実に提出すること。３．日頃から、政治や経済に関係する時事的な報道等に関心をもって理解しておくこと。４．中学校社会科公民的分野の教科書を読んでおくこと。５．事前学習２時間、事後学習２時間30分を目標として学習に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】
・社会認識教育学会編（2020）『中学校社会科教育・高等学校公民科教育』学術図書出版
・江口勇治、池上彰 監修（2025）『社会科中学生の公民－よりよい社会を目指して－』帝国書院

【参考書】
・文部科学省（2018）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』東洋館出版社
・文部科学省（2019）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 公民編』東京書籍
・国立教育政策研究所教育課程研究センター（2020）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校社会』東洋館出版社
・日本社会科教育学会編（2016）『社会科教育の今を問い、未来を拓く- 社会科（地理歴史科、公民科）授業はいかにしてつくられるか』東洋館出版社
・森茂岳雄、川﨑誠司、桐谷正信、青木香代子編著（2019）『社会科における多文化教育- 多様性・社会正義・公正を学ぶ- 』明石書店
・中澤純一（2023）『多文化教育の授業開発と実践- 多様性の尊重と社会正義の実現をめざして- 』明石書店

【成績評価の方法と基準】
授業への参加及び貢献（15％）第１回～第14回における事後学習課題（リフレクションシートを含む）（25％）、グループによる教材開発と実践（30％）、期末課題（各自による教材開発）（30％）等に基づいて総合的に評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
提出されたリフレクションシートやレポートにコメントをつけて返却する。また、事前課題の内容について、授業内に解説を行う。

【学生が準備すべき機器他】
社会科・公民科の教材開発・実践において、PC等の持参が必要な場合がある。

【その他の重要事項】
授業の進行状況や社会情勢によって、適宜変更する場合がある。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline)】

To acquire basic knowledge of the objectives, content, significance and characteristics of social studies and civics education; to deepen understanding of the content and teaching methods, evaluation methods, and various issues in contemporary society; and to acquire the basis for creating classes that are in line with the essence of social studies at the secondary level. In social studies and civics education, there are many teacher-led, knowledge-intensive classes, such as "chalk and talk". However, future education will require students to be able to think, express, and present their own ideas in their own words in response to the "why" questions and issues they face in their own learning. We hope that students will acquire both theoretical and practical skills by learning the theory of objectives, academic skills, teaching materials, and teaching methodology from the perspective of the whole picture of social studies and civics.

【到達目標(Learning Objectives)】

The following three points are defined as the objectives of this course.

1. To gain a comprehensive understanding of the content of social studies and civics education and to acquire the basic knowledge necessary for secondary social studies teachers.
2. Understand the effective use of ICT and teaching materials according to the characteristics of junior high school social studies and senior high school civics, and be able to apply this knowledge to lesson design and practice.
3. Understand trends in practical research on junior high school social studies and senior high school civics, and apply this knowledge to the preparation of lesson plans and the development of teaching materials.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

The following five points should be kept in mind for pre-study (preparatory study) and post-study (review and homework).

1. As pre-study, students are expected to carefully read the designated sections of the textbook, complete the preparatory part of the worksheet, and diligently prepare and work on the course materials.
2. as post-assignments, students are expected to work on the assignments for each class and submit a report on the assignments by the next class, as well as a final assignment (to develop their own teaching materials).
3. Students will be expected to follow and understand current political and economic news on a daily basis.
4. Students are required to read a civics textbook in junior high school social studies.
5. 2 hours of pre-course work and 2 hours and 30 minutes of post-course work are required.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Comprehensive evaluation will be based on class participation and contribution (15%), post-class study assignments from sessions 2-11 (25%), group development and practice of teaching materials (30%), and final assignment (development of teaching materials by each student) (30%).

社会・公民科教育法（2）

中澤　純一

単位：**2単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
備考（履修条件等）：**2019年度以降入学生用科目（哲学科以外用）**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会・公民科教育では、「公民としての資質・能力」の育成をめざして、いかに授業を効果的にデザインしていけばよいかが問われている。本授業では、中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な知識・技能に基づいて、実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】
次の４点を本授業の到達目標として定める。
１．生徒の実態を踏まえた授業設計の重要性とその方法論を把握することができる。
２．中学校社会科及び高等学校公民科の特性に応じたICTの活用及び教材の効果的な方法を理解し、授業設計・実践に活かすことができる。
３．具体的な授業場面を想定して授業設計を行い、学習指導案を立案・作成することができる。
４．授業実践分析を適切に行い、より良い授業づくりのために教材や発問、板書、学習方法などの改善点について具体的に考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
各回の講義の特徴にあわせ、グループによる学習指導案の作成及び実施、対話・議論型授業、反転授業、参加型学習、プレゼンテーション等を効果的に組み合わせて実施する。授業冒頭で、前回の授業で提出されたリフレクションシートからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中学校社会科・高等学校公民科の授業を創る	・現代社会における公民教育の役割　・社会科・公民科の授業とは
第2回	中学校社会科・高等学校公民科のカリキュラムデザイン	・高等学校学習指導要領（公民科）における目標と内容　・高等学校公民科におけるカリキュラムデザイン
第3回	中学校社会科（公民的分野）の学習指導	・社会科（公民的分野）の単元構想　・社会問題学習としての公民的分野の授業づくり
第4回	高等学校公民科「公共」の学習指導	・「公共」とは何か　・「公共」の年間指導計画と授業展開
第5回	高等学校公民科「倫理」の学習指導	・「倫理」の特質　・「倫理」の年間指導計画と授業展開
第6回	高等学校公民科「政治・経済」の学習指導	・「政治・経済」の特質　・「政治・経済」の年間指導計画と授業展開
第7回	社会科・公民科の学習指導案の作成方法	・学習指導案の構成 ・板書計画
第8回	社会科・公民科の学習指導案の作成	・グループによる模擬授業指導案の協働作成
第9回	ICTを取入れた社会科・公民科の授業－高等学校公民科を中心として－	・高等学校公民科でICTを活用する学習方法 ・高等学校公民科でICTを活用する表現活動 ＊ゲストスピーカー：教科書出版社ICT推進室担当者による講話を含む
第10回	社会科・公民科の模擬授業の実施と相互批評①（中学校社会科公民的分野：私たちと現代社会、私たちと経済）	・グループによる模擬授業　・学習指導案の検討と改善
第11回	社会科・公民科の模擬授業の実施と相互批評②（中学校社会科公民的分野：私たちと政治、私たちと国際社会の諸課題）	・グループによる模擬授業　・学習指導案の検討と改善
第12回	社会科・公民科の模擬授業の実施と相互批評③（高等学校公民科「公共」：公共の扉、自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち）	・グループによる模擬授業　・学習指導案の検討と改善
第13回	社会科・公民科の模擬授業の実施と相互批評④（高等学校公民科「公共」：持続可能な社会づくりの主体となる私たち）	・グループによる模擬授業　・学習指導案の検討と改善
第14回	これからの中等社会系教科の課題と展望	・社会の変化と社会科・公民科の課題　・社会の変化に共通する社会科・公民科教育の課題と展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習（準備学習）・事後学習（復習・宿題）として、次の５つに留意すること。１．事前学習として、教科書の指定箇所を熟読しワークシートの予習部分を解いたり、教材作成及び準備に熱心に取り組むこと。２．事後学習として、各回の課題に取り組み、次の授業までに課題レポートを提出したり、期末課題（各自による学習指導案の作成）を着実に提出すること。３．日頃から、政治や経済に関係する時事的な報道等に関心をもって理解しておくこと。４．中学校社会科公民的分野及び高等学校公民科の教科書を読んでおくこと。５．事前学習２時間、事後学習２時間30分を目標として学習に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】
・社会認識教育学会編（2020）『中学校社会科教育・高等学校公民科教育』学術図書出版（「社会・公民科教育法(1)」で使用した教科書を引き続き使用）
・江口勇治、池上彰 監修（2025）『社会科中学生の公民－よりよい社会を目指して－』帝国書院（「社会・公民科教育法(1)」で使用した教科書を引き続き使用）
・苅部直、川﨑誠司ほか（2022）『高等学校 公共』帝国書院

【参考書】
・文部科学省（2018）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』東洋館出版社
・文部科学省（2019）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 公民編』東京書籍
・森茂岳雄・大友秀明・桐谷正信編著（2014）『新社会科教育の世界－歴史・理論・実践－（第２版）』梓出版社
・日本公民教育学会編（2019）『新版テキストブック公民教育』第一学習社
・森茂岳雄、川﨑誠司、桐谷正信、青木香代子編著（2019）『社会科における多文化教育- 多様性・社会正義・公正を学ぶ- 』明石書店
・中澤純一（2023）『多文化教育の授業開発と実践- 多様性の尊重と社会正義の実現をめざして- 』明石書店

【成績評価の方法と基準】
授業への参加及び貢献（15％）第１回～第14回における事後学習課題（リフレクションシートを含む）（25％）、グループによる学習指導案の作成と実施（30％）、期末課題（各自の学習指導案の作成）（30％）等に基づいて総合的に評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
提出されたリフレクションシートやレポートにコメントをつけて返却する。また、事前課題の内容について、授業内に解説を行う。

【学生が準備すべき機器他】
社会科・公民科の学習指導案の作成及び模擬授業の実施においては、PC等の持参が必要な場合がある。

【その他の重要事項】
授業の進行状況や社会情勢によって、適宜変更する場合がある。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
The purpose of this course is to improve practical competence in teaching based on the basic knowledge of junior high school social studies and high school civics in "Methods of Teaching Social and Civics Studies (1)". In particular, students will learn how to design lessons based on various theories of learning and teaching, assuming specific classroom situations, and develop a foundation of practical skills for teaching social studies and civics through mock classes. Through this course, students will learn the theory of objectives, academic ability, teaching materials, and teaching methodology with a comprehensive view of social studies and civics, and we hope that students will acquire both theoretical and practical skills. The aim is to develop teachers with practical skills in social studies and civics education.
【到達目標（Learning Objectives）】
The following four points are defined as the goals of this class.
1. To understand the importance of teaching design based on students' actual conditions and its methodology.
2. Understand the effective use of ICT and teaching materials according to the characteristics of junior high school social studies and senior high school civics, and be able to apply them to teaching design and practice.
3. Be able to design lessons and create lesson plans based on specific classroom situations.
4. Be able to analyze classroom practice appropriately and consider specific points for improvement in teaching materials, questioning, blackboard writing, learning methods, etc., in order to create better classes.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
The following five points should be kept in mind for pre-study (preparatory study) and post-study (review and homework).
1. As pre-study, students are expected to carefully read the designated sections of the textbook, complete the preparatory part of the worksheet, and diligently prepare and work on the course materials.
2. as post-assignments, students are expected to work on the assignments for each class and submit a report on the assignments by the next class, as well as a final assignment (to develop their own teaching materials).
3. Students will be expected to follow and understand current political and economic news on a daily basis.
4. Students are required to read a civics textbook in junior high school social studies.
5. 2 hours of pre-course work and 2 hours and 30 minutes of post-course work are required.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Overall evaluation will be based on class participation and contribution (15%), post-class study assignments (including reflection sheets) from the first to the fourteenth class meeting (25%), preparation and implementation of group study and lesson plans (30%), and final assignment (preparation of individual study and lesson plans) (30%).

社会・公民科教育法

中澤　純一

単位：**4単位**　｜　開講セメスター：**年間授業**/Yearly
備考（履修条件等）：**2018年度以前入学生用科目（哲学科用）**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会・公民科教育では、「公民としての資質・能力」の育成をめざして、いかに授業を効果的にデザインしていけばよいかが問われている。本授業では、中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法、ICTの活用などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。さらに、これらの基本的な知識・技能に基づいて、グループや個人で実践事例の研究、教材開発、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】
次の５点を本授業の到達目標として定める。
１．社会科教育・公民科教育の内容について総合的に理解し、中等社会系教科を担当する教員として必要な基礎的知識を身に付けることができる。
２．生徒の実態を踏まえた授業設計の重要性とその方法論を把握することができる。
３．中学校社会科及び高等学校公民科の特性に応じたICTの活用及び教材の効果的な方法を理解し、授業設計・実践に活かすことができる。
４．具体的な授業場面を想定して授業設計を行い、学習指導案を立案・作成することができる。
５．授業実践分析を適切に行い、より良い授業づくりのために教材や発問、板書、学習方法などの改善点について具体的に考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
各回の講義の特徴にあわせ、グループによる学習指導案の作成及び実施、対話・議論型授業、反転授業、参加型学習、プレゼンテーション等を効果的に組み合わせて実施する。授業冒頭で、前回の授業で提出されたリフレクションシートからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会科教育・公民科教育の意義と課題	・社会科とは何か　・公民科とは何か　・社会科教育及び公民科教育の目標原理
第2回	中学校社会科と高等学校公民科の全体構造	・中学校社会科・高等学校公民科の分野及び科目の構成　・各分野と科目の役割　・小学校社会科との連携
第3回	中学校社会科・高等学校公民科の教師像	・社会科・公民科教師の働き　・社会科・公民科教師の資質・能力
第4回	中学校社会科と高等学校公民科の目標論及び学力論	・社会科と公民科の目的・方法・性質　・社会科教育と公民科教育で達成すべきもの
第5回	社会科・公民科の評価方法	・何のための評価か ・評価規準とは　・評価の方法
第6回	中学校社会科・高等学校公民科のカリキュラムデザイン	・中学校学習指導要領（社会科）における目標と内容　・中学校社会科公民的分野におけるカリキュラムデザイン
第7回	ICTを取入れた社会科・公民科の授業－中学校社会科（公民的分野）を中心として－	・中学校社会科でICTを活用する学習方法　・中学校社会科でICTを活用する表現活動 ＊ゲストスピーカー：教科書出版社ICT推進室担当者による講話を含む
第8回	参加型学習を取入れた社会科・公民科の授業	・「主体的・対話的で深い学び」の実現　・参加型学習の手法
第9回	社会科・公民科における多文化教育の授業実践の分析	・社会科・公民科における多文化教育の理論と実践　・授業分析の視点
第10回	社会科・公民科における持続可能な社会の授業実践の分析	・SDGsの達成にむけた社会科・公民科の役割　・SDGsを題材とした授業事例　・授業分析の視点
第11回	社会科・公民科の教材研究	・社会科・公民科の授業をつくるために　・現代社会の諸課題・地球的課題を教材にするポイント
第12回	社会科・公民科の教材開発	・現代社会の諸課題をテーマにした教材づくり
第13回	社会科・公民科の教材実践	・グループで教材発表
第14回	中等社会系教科の教師に求められる資質	・作成した教材の改善　・社会科・公民科教師に求められる資質
第15回	中学校社会科・高等学校公民科の授業を創る	・現代社会における公民教育の役割　・社会科・公民科の授業とは
第16回	中学校社会科・高等学校公民科のカリキュラムデザイン	・高等学校学習指導要領（公民科）における目標と内容　・高等学校公民科におけるカリキュラムデザイン
第17回	中学校社会科（公民的分野）の学習指導	・社会科（公民的分野）の単元構想　・社会問題学習としての公民的分野の授業づくり
第18回	高等学校公民科「公共」の学習指導	・「公共」とは何か　・「公共」の年間指導計画と授業展開
第19回	高等学校公民科「倫理」の学習指導	・「倫理」の特質　・「倫理」の年間指導計画と授業展開
第20回	高等学校公民科「政治・経済」の学習指導	・「政治・経済」の特質　・「政治・経済」の年間指導計画と授業展開
第21回	社会科・公民科の学習指導案の作成方法	・学習指導案の構成 ・板書計画
第22回	社会科・公民科の学習指導案の作成	・グループによる模擬授業指導案の協働作成
第23回	ICTを取入れた社会科・公民科の授業－高等学校公民科を中心として－	・高等学校公民科でICTを活用する学習方法 ・高等学校公民科でICTを活用する表現活動 ＊ゲストスピーカー：教科書出版社ICT推進室担当者による講話を含む
第24回	社会科・公民科の模擬授業の実施と相互批評①（中学校社会科公民的分野：私たちと現代社会、私たちと経済）	・グループによる模擬授業　・学習指導案の検討と改善
第25回	社会科・公民科の模擬授業の実施と相互批評②（中学校社会科公民的分野：私たちと政治、私たちと国際社会の諸課題）	・グループによる模擬授業　・学習指導案の検討と改善

第26回	社会科・公民科の模擬授業の実施と相互批評③（高等学校公民科「公共」：公共の扉、自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち）	・グループによる模擬授業　・学習指導案の検討と改善
第27回	社会科・公民科の模擬授業の実施と相互批評④（高等学校公民科「公共」：持続可能な社会づくりの主体となる私たち）	・グループによる模擬授業　・学習指導案の検討と改善
第28回	これからの中等社会系教科の課題と展望	・社会の変化と社会科・公民科の課題　・社会の変化に共通する社会科・公民科教育の課題と展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習（準備学習）・事後学習（復習・宿題）として、次の５つに留意すること。１．事前学習として、教科書の指定箇所を熟読しワークシートの予習部分を解いたり、教材作成及び準備に熱心に取り組むこと。２．事後学習として、各回の課題に取り組み、次の授業までに課題レポートを提出したり、中間・期末課題（各自による教材開発及び学習指導案の作成）を着実に提出すること。３．日頃から、政治や経済に関係する時事的な報道等に関心をもって理解しておくこと。４．中学校社会科公民的分野及び高等学校公民科の教科書を読んでおくこと。５．事前学習２時間、事後学習２時間30分を目標として学習に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】
・社会認識教育学会編（2020）『中学校社会科教育・高等学校公民科教育』学術図書出版
・江口勇治、池上彰 監修（2025）『社会科中学生の公民－よりよい社会を目指して－』帝国書院
・苅部直、川﨑誠司ほか（2022）『高等学校 公共』帝国書院

【参考書】
・文部科学省（2018）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』東洋館出版社
・文部科学省（2019）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 公民編』東京書籍
・森茂岳雄・大友秀明・桐谷正信編著（2014）『新社会科教育の世界－歴史・理論・実践－（第２版）』梓出版社
・日本公民教育学会編（2019）『新版テキストブック公民教育』第一学習社
・森茂岳雄、川﨑誠司、桐谷正信、青木香代子編著（2019）『社会科における多文化教育- 多様性・社会正義・公正を学ぶ- 』明石書店
・中澤純一（2023）『多文化教育の授業開発と実践- 多様性の尊重と社会正義の実現をめざして- 』明石書店

【成績評価の方法と基準】
授業への参加及び貢献（15％）第１回～第27回における事後学習課題（リフレクションシートを含む）（25％）、グループによる教材開発と実践及び学習指導案の作成と実施（30％）、中間・期末課題（各自による教材開発及び学習指導案の作成）（30％）等に基づいて総合的に評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
提出されたリフレクションシートやレポートにコメントをつけて返却する。また、事前課題の内容について、授業内に解説を行う。

【学生が準備すべき機器他】
社会科・公民科の学習指導案の作成及び模擬授業の実施においては、PC等の持参が必要な場合がある。

【その他の重要事項】
授業の進行状況や社会情勢によって、適宜変更する場合がある。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Courseoutline)】
To acquire basic knowledge of the objectives, content, significance and characteristics of social studies and civics education; to deepen understanding of the content and teachingmethods, evaluationmethods,andvariousissuesin contemporarysociety; and toacquire thebasis for creating classes thatare inlinewiththeessenceof social studiesat the secondary level. Insocial studiesandcivics education, therearemanyteacher-led,knowledge-intensiveclasses,such as "chalkandtalk". However, futureeducationwill require studentstobeabletothink, express, andpresent theirown ideasintheirownwordsinresponsetothe"why"questionsand issuestheyfaceintheirownlearning.Wehopethatstudents willacquireboththeoreticalandpractical skillsby learning thetheoryof objectives, academicskills, teachingmaterials, andteachingmethodologyfromtheperspectiveof thewhole pictureofsocialstudiesandcivics.
【到達目標(LearningObjectives)】Thefollowingthreepointsaredefinedastheobjectivesofthis course.
1.Togainacomprehensiveunderstandingof thecontentof social studiesandcivicseducationandtoacquire thebasic knowledgenecessaryforsecondarysocialstudiesteachers.
2.Tounderstandtheimportanceofteachingdesignbasedon students'actualconditionsanditsmethodology.
3.Understandtheeffectiveuseof ICTandteachingmaterials according to the characteristics of juniorhighschool social studiesandseniorhighschoolcivics,andbeabletoapplythem toteachingdesignandpractice.
4.Beabletodesignlessonsandcreatelessonplansbasedon specific-classroomsituations.
5.Beable toanalyzeclassroompracticeappropriatelyand consider-specificpointsforimprovementinteachingmaterials, questioning, blackboardwriting, learningmethods, etc., in ordertocreatebetterclasses.
【成績評価の方法と基準（GradingCriteria/Policy）】Comprehensiveevaluationwillbebasedonclassparticipation and contribution (15%), post-class study assignments from sessions 2-27 (25%), group development and practice of teachingmaterials(30%),andfinalassignment(30%).

社会・公民科教育法（1）

中澤　純一

単位：**2単位**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**2019年度以降入学生用科目（哲学科用）**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会・公民科教育では、「公民としての資質・能力」の育成をめざして、いかに授業を効果的にデザインしていけばよいかが問われている。本授業では、中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法、ICTの活用などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、教材開発を行う。

【到達目標】
次の３点を本授業の到達目標として定める。
１．社会科教育・公民科教育の内容について総合的に理解し、中等社会系教科を担当する教員として必要な基礎的知識を身に付けることができる。
２．中学校社会科及び高等学校公民科の特性に応じたICTの活用及び教材の効果的な方法を理解し、授業設計・実践に活かすことができる。
３．中学校社会科及び高等学校公民科における授業実践研究の動向を知り、学習指導案の作成や教材開発に生かすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
各回の講義の特徴にあわせ、グループによる教材の作成及び実践、対話・議論型授業、反転授業、参加型学習、プレゼンテーション等を効果的に組み合わせて実施する。授業冒頭で、前回の授業で提出されたリフレクションシートからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会科教育・公民科教育の意義と課題	・社会科とは何か　・公民科とは何か　・社会科教育及び公民科教育の目標原理
第2回	中学校社会科と高等学校公民科の全体構造	・中学校社会科・高等学校公民科の分野及び科目の構成　・各分野と科目の役割　・小学校社会科との連携
第3回	中学校社会科・高等学校公民科の教師像	・社会科・公民科教師の働き　・社会科・公民科教師の資質・能力
第4回	中学校社会科と高等学校公民科の目標論及び学力論	・社会科と公民科の目的・方法・性質　・社会科教育と公民科教育で達成すべきもの
第5回	社会科・公民科の評価方法	・何のための評価か ・評価規準とは　・評価の方法
第6回	中学校社会科・高等学校公民科のカリキュラムデザイン	・中学校学習指導要領（社会科）における目標と内容　・中学校社会科公民的分野におけるカリキュラムデザイン
第7回	ICTを取入れた社会科・公民科の授業－中学校社会科（公民的分野）を中心として－	・中学校社会科でICTを活用する学習方法　・中学校社会科でICTを活用する表現活動 ＊ゲストスピーカー：教科書出版社ICT推進室担当者による講話を含む
第8回	参加型学習を取入れた社会科・公民科の授業	・「主体的・対話的で深い学び」の実現　・参加型学習の手法
第9回	社会科・公民科における多文化教育の授業実践の分析	・社会科・公民科における多文化教育の理論と実践　・授業分析の視点
第10回	社会科・公民科における持続可能な社会の授業実践の分析	・SDGsの達成にむけた社会科・公民科の役割　・SDGsを題材とした授業事例　・授業分析の視点
第11回	社会科・公民科の教材研究	・社会科・公民科の授業をつくるために　・現代社会の諸課題・地球的課題を教材にするポイント
第12回	社会科・公民科の教材開発	・現代社会の諸課題をテーマにした教材づくり
第13回	社会科・公民科の教材実践	・グループで教材発表
第14回	中等社会系教科の教師に求められる資質	・作成した教材の改善　・社会科・公民科教師に求められる資質

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習（準備学習）・事後学習（復習・宿題）として、次の５つに留意すること。１．事前学習として、教科書の指定箇所を熟読しワークシートの予習部分を解いたり、教材作成及び準備に熱心に取り組むこと。２．事後学習として、各回の課題に取り組み、次の授業までに課題レポートを提出したり、期末課題（各自による教材開発）を着実に提出すること。３．日頃から、政治や経済に関係する時事的な報道等に関心をもって理解しておくこと。４．中学校社会科公民的分野の教科書を読んでおくこと。５．事前学習２時間、事後学習２時間30分を目標として学習に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】
・社会認識教育学会編（2020）『中学校社会科教育・高等学校公民科教育』学術図書出版
・江口勇治、池上彰 監修（2025）『社会科中学生の公民－よりよい社会を目指して－』帝国書院

【参考書】
・文部科学省（2018）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』東洋館出版社
・文部科学省（2019）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 公民編』東京書籍
・国立教育政策研究所教育課程研究センター（2020）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校社会』東洋館出版社
・日本社会科教育学会編（2016）『社会科教育の今を問い、未来を拓く- 社会科（地理歴史科、公民科）授業はいかにしてつくられるか』東洋館出版社
・森茂岳雄、川﨑誠司、桐谷正信、青木香代子編著（2019）『社会科における多文化教育- 多様性・社会正義・公正を学ぶ- 』明石書店
・中澤純一（2023）『多文化教育の授業開発と実践- 多様性の尊重と社会正義の実現をめざして- 』明石書店

【成績評価の方法と基準】
授業への参加及び貢献（15％）第１回～第14回における事後学習課題（リフレクションシートを含む）（25％）、グループによる教材開発と実践（30％）、期末課題（各自による教材開発）（30％）等に基づいて総合的に評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
提出されたリフレクションシートやレポートにコメントをつけて返却する。また、事前課題の内容について、授業内に解説を行う。

【学生が準備すべき機器他】
社会科・公民科の教材開発・実践において、PC等の持参が必要な場合がある。

【その他の重要事項】
授業の進行状況や社会情勢によって、適宜変更する場合がある。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline)】

To acquire basic knowledge of the objectives, content, significance and characteristics of social studies and civics education; to deepen understanding of the content and teaching methods, evaluation methods, and various issues in contemporary society; and to acquire the basis for creating classes that are in line with the essence of social studies at the secondary level. In social studies and civics education, there are many teacher-led, knowledge-intensive classes, such as "chalk and talk". However, future education will require students to be able to think, express, and present their own ideas in their own words in response to the "why" questions and issues they face in their own learning. We hope that students will acquire both theoretical and practical skills by learning the theory of objectives, academic skills, teaching materials, and teaching methodology from the perspective of the whole picture of social studies and civics.

【到達目標(Learning Objectives)】

The following three points are defined as the objectives of this course.

1. To gain a comprehensive understanding of the content of social studies and civics education and to acquire the basic knowledge necessary for secondary social studies teachers.
2. Understand the effective use of ICT and teaching materials according to the characteristics of junior high school social studies and senior high school civics, and be able to apply this knowledge to lesson design and practice.
3. Understand trends in practical research on junior high school social studies and senior high school civics, and apply this knowledge to the preparation of lesson plans and the development of teaching materials.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

The following five points should be kept in mind for pre-study (preparatory study) and post-study (review and homework).

1. As pre-study, students are expected to carefully read the designated sections of the textbook, complete the preparatory part of the worksheet, and diligently prepare and work on the course materials.
2. as post-assignments, students are expected to work on the assignments for each class and submit a report on the assignments by the next class, as well as a final assignment (to develop their own teaching materials).
3. Students will be expected to follow and understand current political and economic news on a daily basis.
4. Students are required to read a civics textbook in junior high school social studies.
5. 2 hours of pre-course work and 2 hours and 30 minutes of post-course work are required.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Comprehensive evaluation will be based on class participation and contribution (15%), post-class study assignments from sessions 2-11 (25%), group development and practice of teaching materials (30%), and final assignment (development of teaching materials by each student) (30%).

社会・公民科教育法（2）

中澤　純一

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：2019年度以降入学生用科目
（哲学科用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会・公民科教育では、「公民としての資質・能力」の育成をめざして、いかに授業を効果的にデザインしていけばよいかが問われている。本授業では、中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な知識・技能に基づいて、実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】
次の４点を本授業の到達目標として定める。
１．生徒の実態を踏まえた授業設計の重要性とその方法論を把握することができる。
２．中学校社会科及び高等学校公民科の特性に応じたICTの活用及び教材の効果的な方法を理解し、授業設計・実践に活かすことができる。
３．具体的な授業場面を想定して授業設計を行い、学習指導案を立案・作成することができる。
４．授業実践分析を適切に行い、より良い授業づくりのために教材や発問、板書、学習方法などの改善点について具体的に考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
各回の講義の特徴にあわせ、グループによる学習指導案の作成及び実施、対話・議論型授業、反転授業、参加型学習、プレゼンテーション等を効果的に組み合わせて実施する。授業冒頭で、前回の授業で提出されたリフレクションシートからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中学校社会科・高等学校公民科の授業を創る	・現代社会における公民教育の役割　・社会科・公民科の授業とは
第2回	中学校社会科・高等学校公民科のカリキュラムデザイン	・高等学校学習指導要領（公民科）における目標と内容　・高等学校公民科におけるカリキュラムデザイン
第3回	中学校社会科（公民的分野）の学習指導	・社会科（公民的分野）の単元構想　・社会問題学習としての公民的分野の授業づくり
第4回	高等学校公民科「公共」の学習指導	・「公共」とは何か　・「公共」の年間指導計画と授業展開
第5回	高等学校公民科「倫理」の学習指導	・「倫理」の特質　・「倫理」の年間指導計画と授業展開
第6回	高等学校公民科「政治・経済」の学習指導	・「政治・経済」の特質　・「政治・経済」の年間指導計画と授業展開
第7回	社会科・公民科の学習指導案の作成方法	・学習指導案の構成 ・板書計画
第8回	社会科・公民科の学習指導案の作成	・グループによる模擬授業指導案の協働作成
第9回	ICTを取入れた社会科・公民科の授業－高等学校公民科を中心として－	・高等学校公民科でICTを活用する学習方法 ・高等学校公民科でICTを活用する表現活動 ＊ゲストスピーカー：教科書出版社ICT推進室担当者による講話を含む
第10回	社会科・公民科の模擬授業の実施と相互批評①（中学校社会科公民的分野：私たちと現代社会、私たちと経済）	・グループによる模擬授業　・学習指導案の検討と改善
第11回	社会科・公民科の模擬授業の実施と相互批評②（中学校社会科公民的分野：私たちと政治、私たちと国際社会の諸課題）	・グループによる模擬授業　・学習指導案の検討と改善
第12回	社会科・公民科の模擬授業の実施と相互批評③（高等学校公民科「公共」：公共の扉、自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち）	・グループによる模擬授業　・学習指導案の検討と改善
第13回	社会科・公民科の模擬授業の実施と相互批評④（高等学校公民科「公共」：持続可能な社会づくりの主体となる私たち）	・グループによる模擬授業　・学習指導案の検討と改善
第14回	これからの中等社会系教科の課題と展望	・社会の変化と社会科・公民科の課題　・社会の変化に共通する社会科・公民科教育の課題と展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習（準備学習）・事後学習（復習・宿題）として、次の５つに留意すること。１．事前学習として、教科書の指定箇所を熟読しワークシートの予習部分を解いたり、教材作成及び準備に熱心に取り組むこと。２．事後学習として、各回の課題に取り組み、次の授業までに課題レポートを提出したり、期末課題（各自による学習指導案の作成）を着実に提出すること。３．日頃から、政治や経済に関係する時事的な報道等に関心をもって理解しておくこと。４．中学校社会科公民的分野及び高等学校公民科の教科書を読んでおくこと。５．事前学習２時間、事後学習２時間30分を目標として学習に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】
・社会認識教育学会編（2020）『中学校社会科教育・高等学校公民科教育』学術図書出版（「社会・公民科教育法(1)」で使用した教科書を引き続き使用）
・江口勇治、池上彰 監修（2025）『社会科中学生の公民－よりよい社会を目指して－』帝国書院（「社会・公民科教育法(1)」で使用した教科書を引き続き使用）
・苅部直、川﨑誠司ほか（2022）『高等学校 公共』帝国書院

【参考書】
・文部科学省（2018）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』東洋館出版社
・文部科学省（2019）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 公民編』東京書籍
・森茂岳雄・大友秀明・桐谷正信編著（2014）『新社会科教育の世界－歴史・理論・実践－（第２版）』梓出版社
・日本公民教育学会編（2019）『新版テキストブック公民教育』第一学習社
・森茂岳雄、川﨑誠司、桐谷正信、青木香代子編著（2019）『社会科における多文化教育- 多様性・社会正義・公正を学ぶ- 』明石書店
・中澤純一（2023）『多文化教育の授業開発と実践- 多様性の尊重と社会正義の実現をめざして- 』明石書店

【成績評価の方法と基準】
授業への参加及び貢献（15％）第１回～第14回における事後学習課題（リフレクションシートを含む）（25％）、グループによる学習指導案の作成と実施（30％）、期末課題（各自の学習指導案の作成）（30％）等に基づいて総合的に評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
提出されたリフレクションシートやレポートにコメントをつけて返却する。また、事前課題の内容について、授業内に解説を行う。

【学生が準備すべき機器他】
社会科・公民科の学習指導案の作成及び模擬授業の実施においては、PC等の持参が必要な場合がある。

【その他の重要事項】
授業の進行状況や社会情勢によって、適宜変更する場合がある。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
The purpose of this course is to improve practical competence in teaching based on the basic knowledge of junior high school social studies and high school civics in "Methods of Teaching Social and Civics Studies (1)". In particular, students will learn how to design lessons based on various theories of learning and teaching, assuming specific classroom situations, and develop a foundation of practical skills for teaching social studies and civics through mock classes. Through this course, students will learn the theory of objectives, academic ability, teaching materials, and teaching methodology with a comprehensive view of social studies and civics, and we hope that students will acquire both theoretical and practical skills. The aim is to develop teachers with practical skills in social studies and civics education.
【到達目標（Learning Objectives）】
The following four points are defined as the goals of this class.
1. To understand the importance of teaching design based on students' actual conditions and its methodology.
2. Understand the effective use of ICT and teaching materials according to the characteristics of junior high school social studies and senior high school civics, and be able to apply them to teaching design and practice.
3. Be able to design lessons and create lesson plans based on specific classroom situations.
4. Be able to analyze classroom practice appropriately and consider specific points for improvement in teaching materials, questioning, blackboard writing, learning methods, etc., in order to create better classes.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
The following five points should be kept in mind for pre-study (preparatory study) and post-study (review and homework).
1. As pre-study, students are expected to carefully read the designated sections of the textbook, complete the preparatory part of the worksheet, and diligently prepare and work on the course materials.
2. as post-assignments, students are expected to work on the assignments for each class and submit a report on the assignments by the next class, as well as a final assignment (to develop their own teaching materials).
3. Students will be expected to follow and understand current political and economic news on a daily basis.
4. Students are required to read a civics textbook in junior high school social studies.
5. 2 hours of pre-course work and 2 hours and 30 minutes of post-course work are required.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Overall evaluation will be based on class participation and contribution (15%), post-class study assignments (including reflection sheets) from the first to the fourteenth class meeting (25%), preparation and implementation of group study and lesson plans (30%), and final assignment (preparation of individual study and lesson plans) (30%).

社会・公民科教育法

糀谷　陽子

単位：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
備考（履修条件等）：2018年度以前入学生用科目
（哲学科以外用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学社会科（公民的分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標と内容、教材研究や学習指導に関する基礎的な事項を理解し、様々な授業実践に学び、学習指導案の作成と模擬授業を通して指導力の基礎を身につける。

【到達目標】
中学社会科（公民的分野）及び高校公民科の意義と役割を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。現実の様々な課題について関心をもって学び討論し、分析できる能力を養うとともに、様々な視点から教材を開発し、多様な生徒に柔軟に対応できる実践的な指導力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期は、社会・公民科の意義と役割、変遷を明らかにした上で、現行の学習指導要領と教科書をもとに学習内容を把握します。具体的な実践事例を参考にしながら授業づくりの方法を学び、学習指導案と教材を作成します。
秋学期は、社会科・公民科の単元に沿って、教材研究を行い、授業案を作成します。模擬授業を全員で参観して検討し、課題を明らかにしていきます。
授業は、できるだけグループディスカッションやグループワークを取り入れ、視聴覚機材や情報機器等を活用します。グループワークの成果や授業ごとの課題の提出物については、適宜、授業の中で講評、解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	＜春学期のオリエンテーション＞ ―社会科・公民科で何を学ぶのか	授業計画の提示、受講者の中学・高校での体験を踏まえ、社会科・公民科で何を学び、子どもたちにどのような力をつけるのか、どのような教師になりたいかを交流する
第2回	社会科・公民科のあゆみ①―戦前の教育における社会科・公民科	明治以降、今日の社会科・公民科にあたる教育は、どのように行われたか（「教育勅語」、大正デモクラシーのもとでの教育、など）
第3回	社会科・公民科のあゆみ②―日本国憲法のもとでの社会科	戦後、日本国憲法と教育基本法のもとで、学習指導要領がどのように作られ、社会科はどのような教科として出発したか（墨塗り教科書、「山びこ学校」など）
第4回	社会科・公民科のあゆみ③―学習指導要領の変遷と社会科・公民科	高度経済成長期を経て、学習指導要領はどのように改訂され、社会科はどのように変わっていったか（「詰め込み」教育、中学社会のπ型履修、「生活科」など）
第5回	社会科・公民科のあゆみ④―学習指導要領の変遷と社会科・公民科	学校週五日制の導入後、学習指導要領と社会科はどのような変遷を辿ったか。（「ゆとり教育」、「新学力観」、中学「選択社会」、高校「公民科」設置など）
第6回	社会科の教育実践に学ぶ①―加藤文三「すべての子どもが100点を」	公立中学校において、すべての子どもに基礎的・基本的な学力を身につけさせることを目標に据えた実践
第7回	社会科の教育実践に学ぶ②―大津和子「一本のバナナから」	身近にあるモノがどのように私たちの手元に届いたのかを調べることを通して社会のしくみと課題を考える実践
第8回	社会科の教育実践に学ぶ③―討論による授業実践	知識の詰め込みでなく、自ら問いを立てて考え、討論によって学びを深める授業をどのようにすすめるかを考える
第9回	社会科・公民科の意義と役割を考える	学習指導要領と教科書をもとに、社会科・公民科の授業を通して、子どもたちにどのような力をつけるのかを考える
第10回	今日、求められる「主権者教育」とは	国内の主権者教育の実践及び、海外での教育の様子を知り、「主権者教育」のあり方について考える
第11回	「デジタル・シティズンシップ教育」とは	教育DXの進行により求められる「デジタル・シティズンシップ教育」とは何か、社会科・公民科においてどのようにすすめていくのかを考える
第12回	「教科書」とは	授業で使う教科書が、どのように編集され、どのようなしくみで子どもたちに届けられるのかを知り、考える
第13回	教材研究と授業づくり、学習指導案の作成	教材研究をどのようにすすめ、指導計画と学習指導案をどのように作成するのかを学ぶ。授業づくりにおける板書とパワーポイント、学校図書館・新聞等の活用、ICT化など、具体例をもとに考える
第14回	テスト問題の作成と学習評価	テストについて考え、問題を作成する。学習評価の考え方と進め方について学び、評価基準・規準を作成する
第15回	＜秋学期のオリエンテーション＞生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために①―グループ内で交流	春学期の課題として作成した学習指導案と教材をもとにグループを構成し、グループ内で、各自が作成した指導案と教材の改善点と課題を明らかにする
第16回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために②―グループごとに、模擬授業の準備	グループごとに、次回からの模擬授業のための指導案、教材、授業の準備を行う
第17回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために③―模擬授業（「公民」「公共」とは、倫理）とふりかえり	グループの代表または全員が「公民」「公共」の授業びらき、または倫理の模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、今後の課題を明らかにする
第18回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために④―模擬授業（憲法）とふりかえり	グループの代表または全員が憲法の単元での模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、今後の課題を明らかにする
第19回	教材研究と授業プラン①（倫理、憲法）	中学校「公民」と高校「公共」の学習指導要領と教科書をもとに、倫理、憲法の単元で何を学習するのか、教材研究のポイントを明らかにする

第20回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために⑤―模擬授業（政治分野）とふりかえり	グループの代表または全員が政治分野の模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、今後の課題を明らかにする
第21回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために⑥―模擬授業（地方自治）とふりかえり	グループの代表または全員が地方自治の単元の模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、今後の課題を明らかにする
第22回	教材研究と授業プラン②（政治分野）	中学校「公民」と高校「公共」の学習指導要領と教科書をもとに、政治分野の単元で何を学習するのか、教材研究のポイントを明らかにする
第23回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために⑦―模擬授業（経済分野の基礎）とふりかえり	グループの代表または全員が経済分野の基礎を学ぶ単元の模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、今後の課題を明らかにする
第24回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために⑧―模擬授業（財政、社会保障）とふりかえり	グループの代表または全員が財政、社会保障の単元の模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、今後の課題を明らかにする
第25回	教材研究と授業プラン③（経済分野）	中学校「公民」と高校「公共」の学習指導要領と教科書をもとに、経済分野の単元で何を学習するのか、教材研究のポイントを明らかにする
第26回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために⑨―模擬授業（国際政治）とふりかえり	グループの代表または全員が国際政治の単元の模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、今後の課題を明らかにする
第27回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために⑩―模擬授業（国際経済）とふりかえり	グループの代表または全員が国際経済の単元の模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、今後の課題を明らかにする
第28回	教材研究と授業プラン④（国際政治・経済）	中学校「公民」と高校「公共」の学習指導要領と教科書をもとに、国政政治・経済の単元で何を学習するのか、教材研究のポイントを明らかにする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習や復習については、授業の際に指示をします。「中学社会・公民的分野」・高校「公共」の教科書と学習指導要領、授業のテーマや課題にかかわる配付資料や提示した参考書は必ず読んでください。
日常的に新聞を読み、現実の社会や教育の課題について関心を持って考え、授業で活用できるようにしてください。
　本授業の準備・復習時間は各2時間、計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中学校社会科（公民的分野）教科書『新編新しい社会　公民』東京書籍
高等学校公民科教科書『公共』実教出版
その他、授業ごとに必要な資料を配布します。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編」・「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　公民編」
市民を育てる「公共」編集委員会編「市民を育てる『公共』」大学図書出版
和井田清司、他「中等社会科100のテーマ」三恵社

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（10％）、授業時の課題（60％）、レポート（学習指導案）（30％）をもとに、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
作成された指導案や提出物を全体で共有し、コメントを添えて次の時間の冒頭に提示し、振り返りができるようにします。

【学生が準備すべき機器他】
授業の中で端末が必要になる場合は、その都度、事前に連絡します。

【Outline (in English)】
【Outline(in English)】
【授業の概要（Course outline）】
This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.
【到達目標（Learning Objectives）】
Students are able to acquire basic knowledge and skills in the use of educational methods and techniques, ICT, and teaching materials, and to be able to effectively design lesson plans with the aim of developing qualities and abilities.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students will be expected to read research teaching materials, prepare presentations, write a lesson plan and prepare simulated lessons. The preparation and review time for this class is based on 2 hours each, for total of 4 hours.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
The evaluation will be made based on the attitude of participation in the lesson(10%), learning tasks60%), reports（learning guidance plan） (30%).

社会・公民科教育法（1）

糀谷　陽子

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：2019年度以降入学生用科目
（哲学科以外用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学社会科（公民的分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標と内容、教材研究や学習指導に関する基礎的な事項を理解し、様々な授業実践に学び、学習指導案の作成を通して指導力の基礎を身につける。

【到達目標】
中学社会科（公民的分野）及び高校公民科の意義と役割を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。現実の様々な課題について関心をもって学び討論し、分析できる能力を養うとともに、様々な視点から教材を開発し、多様な生徒に柔軟に対応できる実践的な指導力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
社会・公民科の意義と役割、変遷を明らかにした上で、現行の学習指導要領と教科書をもとに学習内容を把握します。具体的な実践事例を参考にしながら授業づくりの方法を学び、学習指導案と教材を作成します。
授業は、できるだけグループディスカッションやグループワークを取り入れ、視聴覚機材や情報機器等を活用します。グループワークの成果や授業ごとの課題の提出物については、適宜、授業の中で講評、解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	＜オリエンテーション＞ ―社会科・公民科で何を学ぶのか	授業計画の提示、受講者の中学・高校での体験を踏まえ、社会科・公民科で何を学び、子どもたちにどのような力をつけるのか、どのような教師になりたいかを交流する
第2回	社会科・公民科のあゆみ①―戦前の教育における社会科・公民科	明治以降、今日の社会科・公民科にあたる教育は、どのように行われたか（「教育勅語」、大正デモクラシーのもとでの教育、など）
第3回	社会科・公民科のあゆみ②―日本国憲法のもとでの社会科	戦後、日本国憲法と教育基本法のもとで、学習指導要領がどのように作られ、社会科はどのような教科として出発したか（墨塗り教科書、「山びこ学校」など）
第4回	社会科・公民科のあゆみ③―学習指導要領の変遷と社会科・公民科	高度経済成長期を経て、学習指導要領はどのように改訂され、社会科はどのように変わっていったか（「詰め込み」教育、中学社会のπ型履修、「生活科」など）
第5回	社会科・公民科のあゆみ④―学習指導要領の変遷と社会科・公民科	学校週五日制の導入後、学習指導要領と社会科はどのような変遷を辿ったか。（「ゆとり教育」、「新学力観」、中学「選択社会」、高校「公民科」設置など）
第6回	社会科の教育実践に学ぶ①―加藤文三「すべての子どもが100点を」	公立中学校において、すべての子どもに基礎的・基本的な学力を身につけさせることを目標に据えた実践
第7回	社会科の教育実践に学ぶ②―大津和子「一本のバナナから」	身近にあるモノがどのように私たちの手元に届いたのかを調べることを通して社会のしくみと課題を考える実践
第8回	社会科の教育実践に学ぶ③―討論による授業実践	知識の詰め込みでなく、自ら問いを立てて考え、討論によって学びを深める授業をどのようにすすめるかを考える
第9回	社会科・公民科の意義と役割を考える	学習指導要領と教科書をもとに、社会科・公民科の授業を通して、子どもたちにどのような力をつけるのかを考える
第10回	今日、求められる「主権者教育」とは	国内の主権者教育の実践及び、海外での教育の様子を知り、「主権者教育」のあり方について考える
第11回	「デジタル・シティズンシップ教育」とは	教育DXの進行により求められる「デジタル・シティズンシップ教育」とは何か、社会科・公民科においてどのようにすすめていくのかを考える
第12回	「教科書」とは	授業で使う教科書が、どのように編集され、どのようなしくみで子どもたちに届けられるのかを知り、考える
第13回	教材研究と授業づくり、学習指導案の作成	教材研究をどのようにすすめ、指導計画と学習指導案をどのように作成するのかを学ぶ。授業づくりにおける板書とパワーポイント、学校図書館・新聞等の活用、ICT化など、具体例をもとに考える
第14回	テスト問題の作成と学習評価	テストについて考え、問題を作成する。学習評価の考え方と進め方について学び、評価基準・規準を作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習や復習については、授業の際に指示をします。「中学社会・公民的分野」・高校「公共」の教科書と学習指導要領、授業のテーマや課題にかかわる配付資料や提示した参考書は必ず読んでください。日常的に新聞を読み、現実の社会や教育の課題について関心を持って考え、授業で活用できるようにしてください。
本授業の準備・復習時間は各2時間、計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中学校社会科（公民的分野）教科書『新編新しい社会　公民』東京書籍
高等学校公民科教科書『公共』実教出版
その他、授業ごとに必要な資料を配布します。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編」・「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　公民編」
市民を育てる「公共」編集委員会編「市民を育てる『公共』」大学図書出版
和井田清司、他「中等社会科100のテーマ」三恵社

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（10％）、授業時の課題（60％）、レポート（学習指導案）（30％）をもとに、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
作成された指導案や提出物を全体で共有し、コメントを添えて次の時間の冒頭に提示し、振り返りができるようにします。

【学生が準備すべき機器他】
授業の中で端末が必要になる場合は、その都度、事前に連絡します。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.
【到達目標（Learning Objectives）】
Students are able to acquire basic knowledge and skills in the use of educational methods and techniques, ICT, and teaching materials, and to be able to effectively design lesson plans with the aim of developing qualities and abilities.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students will be expected to read research teaching materials, prepare presentations, write a lesson plan and prepare simulated lessons. The preparation and review time for this class is based on 2 hours each, for total of 4 hours.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
The evaluation will be made based on the attitude of participation in the lesson(10%), learning tasks60%), reports（learning guidance plan） (30%).

社会・公民科教育法（2）

糀谷　陽子

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：2019年度以降入学生用科目
（哲学科以外用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学社会科（公民的分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標と内容、教材研究や学習指導に関する基礎的な事項を理解し、様々な授業実践に学び、学習指導案の作成と模擬授業を通して指導力の基礎を身につける。

【到達目標】
中学社会科（公民的分野）及び高校公民科の意義と役割を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。現実の様々な課題について関心をもって学び討論し、分析できる能力を養うとともに、様々な視点から教材を開発し、多様な生徒に柔軟に対応できる実践的な指導力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
社会科・公民科の単元に沿って、教材研究を行い、授業案を作成します。模擬授業を全員で参観して検討し、課題を明らかにしていきます。
授業は、できるだけグループディスカッションやグループワークを取り入れ、視聴覚機材や情報機器等を活用します。グループワークの成果や授業ごとの課題の提出物については、適宜、授業の中で講評、解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	＜オリエンテーション＞生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために①―グループ内で交流	春学期の課題として作成した学習指導案と教材をもとにグループを構成し、グループ内で、各自が作成した指導案と教材の改善点と課題を明らかにする
第2回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために②―グループ内で交流	グループごとに、次回からの模擬授業のための指導案、教材、授業の準備を行う
第3回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために③―模擬授業（「公民」「公共」とは、倫理）とふりかえり	グループの代表または全員が「公民」「公共」の授業びらき、または倫理の模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、今後の課題を明らかにする
第4回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために④―模擬授業（憲法）とふりかえり	グループの代表または全員が憲法の単元での模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、今後の課題を明らかにする
第5回	教材研究と授業プランづくり①（倫理、憲法）	中学校「公民」と高校「公共」の学習指導要領と教科書をもとに、倫理、憲法の単元で何を学習するのか、教材研究のポイントを明らかにする
第6回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために⑤―模擬授業（政治分野）とふりかえり	グループの代表または全員が政治分野の単元での模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、今後の課題を明らかにする
第7回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために⑥―模擬授業（地方自治）とふりかえり	グループの代表または全員が地方自治の単元の模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、今後の課題を明らかにする
第8回	教材研究と授業プランづくり②（政治分野）	中学校「公民」と高校「公共」の学習指導要領と教科書をもとに、政治分野の単元で何を学習するのか、教材研究のポイントを明らかにする
第9回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために⑦―模擬授業（経済分野の基礎）とふりかえり	グループの代表または全員が経済分野の基礎を学ぶ単元での模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、今後の課題を明らかにする
第10回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために⑧―模擬授業（財政、社会保障）とふりかえり	グループの代表または全員が財政、社会保障の単元の模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、今後の課題を明らかにする
第11回	教材研究と授業プランづくり③（経済分野）	中学校「公民」と高校「公共」の学習指導要領と教科書をもとに、経済分野の単元で何を学習するのか、教材研究のポイントを明らかにする
第12回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために⑨―模擬授業（国際政治）とふりかえり	グループの代表または全員が国際政治の単元の模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、今後の課題を明らかにする
第13回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために⑩―模擬授業（国際経済）とふりかえり	グループの代表または全員が国際経済の単元の模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、今後の課題を明らかにする
第14回	教材研究と授業プランづくり④（国際政治・経済）	中学校「公民」と高校「公共」の学習指導要領と教科書をもとに、国際政治・経済の単元で何を学習するのか、教材研究のポイントを明らかにする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習や復習については、授業の際に指示をします。「中学社会・公民的分野」・高校「公共」の教科書と学習指導要領、授業のテーマや課題にかかわる配付資料や提示した参考書は必ず読んでください。日常的に新聞を読み、現実の社会や教育の課題について関心を持って考え、授業で活用できるようにしてください。
本授業の準備・復習時間は各2時間、計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中学校社会科（公民的分野）教科書『新編新しい社会　公民』東京書籍
高等学校公民科教科書『公共』実教出版
その他、授業ごとに必要な資料を配布します。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編」・「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　公民編」
市民を育てる「公共」編集委員会編「市民を育てる『公共』」大学図書出版
和井田清司、他「中等社会科100のテーマ」三恵社

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（10％）、授業時の課題（60％）、レポート（学習指導案）（30％）をもとに、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
作成された指導案や提出物を全体で共有し、コメントを添えて次の時間の冒頭に提示し、振り返りができるようにします。

【学生が準備すべき機器他】
授業の中で端末が必要になる場合は、その都度、事前に連絡します。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.
【到達目標（Learning Objectives）】
Students are able to acquire basic knowledge and skills in the use of educational methods and techniques, ICT, and teaching materials, and to be able to effectively design lesson plans with the aim of developing qualities and abilities.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students will be expected to read research teaching materials, prepare presentations, write a lesson plan and prepare simulated lessons. The preparation and review time for this class is based on 2 hours each, for total of 4 hours.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
The evaluation will be made based on the attitude of participation in the lesson(10%), learning tasks60%), reports（learning guidance plan） (30%).

社会・公民科教育法

糀谷　陽子

単位：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
備考（履修条件等）：2018年度以前入学生用科目
（哲学科用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学社会科（公民的分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標と内容、教材研究や学習指導に関する基礎的な事項を理解し、様々な授業実践に学び、学習指導案の作成と模擬授業を通して指導力の基礎を身につける。

【到達目標】
中学社会科（公民的分野）及び高校公民科の意義と役割を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。現実の様々な課題について関心をもって学び討論し、分析できる能力を養うとともに、様々な視点から教材を開発し、多様な生徒に柔軟に対応できる実践的な指導力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期は、社会・公民科の意義と役割、変遷を明らかにした上で、現行の学習指導要領と教科書をもとに学習内容を把握します。具体的な実践事例を参考にしながら授業づくりの方法を学び、学習指導案と教材を作成します。
秋学期は、社会科・公民科の単元に沿って、教材研究を行い、授業案を作成します。模擬授業を全員で参観して検討し、課題を明らかにしていきます。
授業は、できるだけグループディスカッションやグループワークを取り入れ、視聴覚機材や情報機器等を活用します。グループワークの成果や授業ごとの課題の提出物については、適宜、授業の中で講評、解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	＜春学期のオリエンテーション＞ ―社会科・公民科で何を学ぶのか	授業計画の提示、受講者の中学・高校での体験を踏まえ、社会科・公民科で何を学び、子どもたちにどのような力をつけるのか、どのような教師になりたいかを交流する
第2回	社会科・公民科のあゆみ①―戦前の教育における社会科・公民科	明治以降、今日の社会科・公民科にあたる教育は、どのように行われたか（「教育勅語」、大正デモクラシーのもとでの教育、など）
第3回	社会科・公民科のあゆみ②―日本国憲法のもとでの社会科	戦後、日本国憲法と教育基本法のもとで、学習指導要領がどのように作られ、社会科はどのような教科として出発したか（墨塗り教科書、「山びこ学校」など）
第4回	社会科・公民科のあゆみ③―学習指導要領の変遷と社会科・公民科	高度経済成長期を経て、学習指導要領はどのように改訂され、社会科はどのように変わっていったか（「詰め込み」教育、中学社会のπ型履修、「生活科」など）
第5回	社会科・公民科のあゆみ④―学習指導要領の変遷と社会科・公民科	学校週五日制の導入後、学習指導要領と社会科はどのような変遷を辿ったか。（「ゆとり教育」、「新学力観」、中学「選択社会」、高校「公民科」設置など）
第6回	社会科の教育実践に学ぶ①―加藤文三「すべての子どもが100点を」	公立中学校において、すべての子どもに基礎的・基本的な学力を身につけさせることを目標に据えた実践
第7回	社会科の教育実践に学ぶ②―大津和子「一本のバナナから」	身近にあるモノがどのように私たちの手元に届いたのかを調べることを通して社会のしくみと課題を考える実践
第8回	社会科の教育実践に学ぶ③―討論による授業実践	知識の詰め込みでなく、自ら問いを立てて考え、討論によって学びを深める授業をどのようにすすめるかを考える
第9回	社会科・公民科の意義と役割を考える	学習指導要領と教科書をもとに、社会科・公民科の授業を通して、子どもたちにどのような力をつけるのかを考える
第10回	今日、求められる「主権者教育」とは	国内の主権者教育の実践及び、海外での教育の様子を知り、「主権者教育」のあり方について考える
第11回	「デジタル・シティズンシップ教育」とは	教育DXの進行により求められる「デジタル・シティズンシップ教育」とは何か、社会科・公民科においてどのようにすすめていくのかを考える
第12回	「教科書」とは	授業で使う教科書が、どのように編集され、どのようなしくみで子どもたちに届けられるのかを知り、考える
第13回	教材研究と授業づくり、学習指導案の作成	教材研究をどのようにすすめ、指導計画と学習指導案をどのように作成するのかを学ぶ。授業づくりにおける板書とパワーポイント、学校図書館・新聞等の活用、ICT化など、具体例をもとに考える
第14回	テスト問題の作成と学習評価	テストについて考え、問題を作成する。学習評価の考え方と進め方について学び、評価基準・規準を作成する
第15回	＜秋学期のオリエンテーション＞生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために①―グループ内で交流	春学期の課題として作成した学習指導案と教材をもとにグループを構成し、グループ内で、各自が作成した指導案と教材の改善点と課題を明らかにする
第16回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために②―グループごとに、模擬授業の準備	グループごとに、次回からの模擬授業のための指導案、教材、授業の準備を行う
第17回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために③―模擬授業（「公民」「公共」とは、倫理）とふりかえり	グループの代表または全員が「公民」「公共」の授業びらき、または倫理の模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、今後の課題を明らかにする
第18回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために④―模擬授業（憲法）とふりかえり	グループの代表または全員が憲法の単元での模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、今後の課題を明らかにする
第19回	教材研究と授業プラン①（倫理、憲法）	中学校「公民」と高校「公共」の学習指導要領と教科書をもとに、倫理、憲法の単元で何を学習するのか、教材研究のポイントを明らかにする

第20回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために⑤―模擬授業（政治分野）とふりかえり	グループの代表または全員が政治分野の模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、今後の課題を明らかにする
第21回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために⑥―模擬授業（地方自治）とふりかえり	グループの代表または全員が地方自治の単元の模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、今後の課題を明らかにする
第22回	教材研究と授業プラン②（政治分野）	中学校「公民」と高校「公共」の学習指導要領と教科書をもとに、政治分野の単元で何を学習するのか、教材研究のポイントを明らかにする
第23回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために⑦―模擬授業（経済分野の基礎）とふりかえり	グループの代表または全員が経済分野の基礎を学ぶ単元の模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、今後の課題を明らかにする
第24回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために⑧―模擬授業（財政、社会保障）とふりかえり	グループの代表または全員が財政、社会保障の単元の模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、今後の課題を明らかにする
第25回	教材研究と授業プラン③（経済分野）	中学校「公民」と高校「公共」の学習指導要領と教科書をもとに、経済分野の単元で何を学習するのか、教材研究のポイントを明らかにする
第26回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために⑨―模擬授業（国際政治）とふりかえり	グループの代表または全員が国際政治の単元の模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、今後の課題を明らかにする
第27回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために⑩―模擬授業（国際経済）とふりかえり	グループの代表または全員が国際経済の単元の模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、今後の課題を明らかにする
第28回	教材研究と授業プラン④（国際政治・経済）	中学校「公民」と高校「公共」の学習指導要領と教科書をもとに、国政政治・経済の単元で何を学習するのか、教材研究のポイントを明らかにする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習や復習については、授業の際に指示をします。「中学社会・公民的分野」・高校「公共」の教科書と学習指導要領、授業のテーマや課題にかかわる配付資料や提示した参考書は必ず読んでください。
日常的に新聞を読み、現実の社会や教育の課題について関心を持って考え、授業で活用できるようにしてください。
　本授業の準備・復習時間は各2時間、計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中学校社会科（公民的分野）教科書『新編新しい社会　公民』東京書籍
高等学校公民科教科書『公共』実教出版
その他、授業ごとに必要な資料を配布します。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編」・「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　公民編」
市民を育てる「公共」編集委員会編「市民を育てる『公共』」大学図書出版
和井田清司、他「中等社会科100のテーマ」三恵社

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（10％）、授業時の課題（60％）、レポート（学習指導案）（30％）をもとに、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
作成された指導案や提出物を全体で共有し、コメントを添えて次の時間の冒頭に提示し、振り返りができるようにします。

【学生が準備すべき機器他】
授業の中で端末が必要になる場合は、その都度、事前に連絡します。

【Outline (in English)】
【Outline(in English)】
【授業の概要（Course outline）】
This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.
【到達目標（Learning Objectives）】
Students are able to acquire basic knowledge and skills in the use of educational methods and techniques, ICT, and teaching materials, and to be able to effectively design lesson plans with the aim of developing qualities and abilities.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students will be expected to read research teaching materials, prepare presentations, write a lesson plan and prepare simulated lessons. The preparation and review time for this class is based on 2 hours each, for total of 4 hours.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
The evaluation will be made based on the attitude of participation in the lesson(10%), learning tasks60%), reports（learning guidance plan） (30%).

社会・公民科教育法（1）

糀谷　陽子

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：2019年度以降入学生用科目
（哲学科用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学社会科（公民的分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標と内容、教材研究や学習指導に関する基礎的な事項を理解し、様々な授業実践に学び、学習指導案の作成を通して指導力の基礎を身につける。

【到達目標】
中学社会科（公民的分野）及び高校公民科の意義と役割を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。現実の様々な課題について関心をもって学び討論し、分析できる能力を養うとともに、様々な視点から教材を開発し、多様な生徒に柔軟に対応できる実践的な指導力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
社会・公民科の意義と役割、変遷を明らかにした上で、現行の学習指導要領と教科書をもとに学習内容を把握します。具体的な実践事例を参考にしながら授業づくりの方法を学び、学習指導案と教材を作成します。
授業は、できるだけグループディスカッションやグループワークを取り入れ、視聴覚機材や情報機器等を活用します。グループワークの成果や授業ごとの課題の提出物については、適宜、授業の中で講評、解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	＜オリエンテーション＞ ―社会科・公民科で何を学ぶのか	授業計画の提示、受講者の中学・高校での体験を踏まえ、社会科・公民科で何を学び、子どもたちにどのような力をつけるのか、どのような教師になりたいかを交流する
第2回	社会科・公民科のあゆみ①―戦前の教育における社会科・公民科	明治以降、今日の社会科・公民科にあたる教育は、どのように行われたか（「教育勅語」、大正デモクラシーのもとでの教育、など）
第3回	社会科・公民科のあゆみ②―日本国憲法のもとでの社会科	戦後、日本国憲法と教育基本法のもとで、学習指導要領がどのように作られ、社会科はどのような教科として出発したか（墨塗り教科書、「山びこ学校」など）
第4回	社会科・公民科のあゆみ③―学習指導要領の変遷と社会科・公民科	高度経済成長期を経て、学習指導要領はどのように改訂され、社会科はどのように変わっていったか（「詰め込み」教育、中学社会のπ型履修、「生活科」など）
第5回	社会科・公民科のあゆみ④―学習指導要領の変遷と社会科・公民科	学校週五日制の導入後、学習指導要領と社会科はどのような変遷を辿ったか。（「ゆとり教育」、「新学力観」、中学「選択社会」、高校「公民科」設置など）
第6回	社会科の教育実践に学ぶ①―加藤文三「すべての子どもが100点を」	公立中学校において、すべての子どもに基礎的・基本的な学力を身につけさせることを目標に据えた実践
第7回	社会科の教育実践に学ぶ②―大津和子「一本のバナナから」	身近にあるモノがどのように私たちの手元に届いたのかを調べることを通して社会のしくみと課題を考える実践
第8回	社会科の教育実践に学ぶ③―討論による授業実践	知識の詰め込みでなく、自ら問いを立てて考え、討論によって学びを深める授業をどのようにすすめるかを考える
第9回	社会科・公民科の意義と役割を考える	学習指導要領と教科書をもとに、社会科・公民科の授業を通して、子どもたちにどのような力をつけるのかを考える
第10回	今日、求められる「主権者教育」とは	国内の主権者教育の実践及び、海外での教育の様子を知り、「主権者教育」のあり方について考える
第11回	「デジタル・シティズンシップ教育」とは	教育DXの進行により求められる「デジタル・シティズンシップ教育」とは何か、社会科・公民科においてどのようにすすめていくのかを考える
第12回	「教科書」とは	授業で使う教科書が、どのように編集され、どのようなしくみで子どもたちに届けられるのかを知り、考える
第13回	教材研究と授業づくり、学習指導案の作成	教材研究をどのようにすすめ、指導計画と学習指導案をどのように作成するのかを学ぶ。授業づくりにおける板書とパワーポイント、学校図書館・新聞等の活用、ICT化など、具体例をもとに考える
第14回	テスト問題の作成と学習評価	テストについて考え、問題を作成する。学習評価の考え方と進め方について学び、評価基準・規準を作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習や復習については、授業の際に指示をします。「中学社会・公民的分野」・高校「公共」の教科書と学習指導要領、授業のテーマや課題にかかわる配付資料や提示した参考書は必ず読んでください。日常的に新聞を読み、現実の社会や教育の課題について関心を持って考え、授業で活用できるようにしてください。
本授業の準備・復習時間は各2時間、計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中学校社会科（公民的分野）教科書『新編新しい社会　公民』東京書籍
高等学校公民科教科書『公共』実教出版
その他、授業ごとに必要な資料を配布します。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編」・「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　公民編」
市民を育てる「公共」編集委員会編「市民を育てる『公共』」大学図書出版
和井田清司、他「中等社会科100のテーマ」三恵社

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（10％）、授業時の課題（60％）、レポート（学習指導案）（30％）をもとに、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
作成された指導案や提出物を全体で共有し、コメントを添えて次の時間の冒頭に提示し、振り返りができるようにします。

【学生が準備すべき機器他】
授業の中で端末が必要になる場合は、その都度、事前に連絡します。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.
【到達目標（Learning Objectives）】
Students are able to acquire basic knowledge and skills in the use of educational methods and techniques, ICT, and teaching materials, and to be able to effectively design lesson plans with the aim of developing qualities and abilities.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students will be expected to read research teaching materials, prepare presentations, write a lesson plan and prepare simulated lessons. The preparation and review time for this class is based on 2 hours each, for total of 4 hours.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
The evaluation will be made based on the attitude of participation in the lesson(10%), learning tasks60%), reports（learning guidance plan） (30%).

社会・公民科教育法（2）

糀谷　陽子

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：2019年度以降入学生用科目
（哲学科用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学社会科（公民的分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標と内容、教材研究や学習指導に関する基礎的な事項を理解し、様々な授業実践に学び、学習指導案の作成と模擬授業を通して指導力の基礎を身につける。

【到達目標】
中学社会科（公民的分野）及び高校公民科の意義と役割を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。現実の様々な課題について関心をもって学び討論し、分析できる能力を養うとともに、様々な視点から教材を開発し、多様な生徒に柔軟に対応できる実践的な指導力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
社会科・公民科の単元に沿って、教材研究を行い、授業案を作成します。模擬授業を全員で参観して検討し、課題を明らかにしていきます。
授業は、できるだけグループディスカッションやグループワークを取り入れ、視聴覚機材や情報機器等を活用します。グループワークの成果や授業ごとの課題の提出物については、適宜、授業の中で講評、解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	＜オリエンテーション＞生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために①―グループ内で交流	春学期の課題として作成した学習指導案と教材をもとにグループを構成し、グループ内で、各自が作成した指導案と教材の改善点と課題を明らかにする
第2回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために②―グループ内で交流	グループごとに、次回からの模擬授業のための指導案、教材、授業の準備を行う
第3回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために③―模擬授業（「公民」「公共」とは、倫理）とふりかえり	グループの代表または全員が「公民」「公共」の授業びらき、または倫理の模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、今後の課題を明らかにする
第4回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために④―模擬授業（憲法）とふりかえり	グループの代表または全員が憲法の単元での模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、今後の課題を明らかにする
第5回	教材研究と授業プランづくり①（倫理、憲法）	中学校「公民」と高校「公共」の学習指導要領と教科書をもとに、倫理、憲法の単元で何を学習するのか、教材研究のポイントを明らかにする
第6回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために⑤―模擬授業（政治分野）とふりかえり	グループの代表または全員が政治分野の単元での模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、今後の課題を明らかにする
第7回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために⑥―模擬授業（地方自治）とふりかえり	グループの代表または全員が地方自治の単元の模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、今後の課題を明らかにする
第8回	教材研究と授業プランづくり②（政治分野）	中学校「公民」と高校「公共」の学習指導要領と教科書をもとに、政治分野の単元で何を学習するのか、教材研究のポイントを明らかにする
第9回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために⑦―模擬授業（経済分野の基礎）とふりかえり	グループの代表または全員が経済分野の基礎を学ぶ単元での模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、今後の課題を明らかにする
第10回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために⑧―模擬授業（財政、社会保障）とふりかえり	グループの代表または全員が財政、社会保障の単元の模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、今後の課題を明らかにする
第11回	教材研究と授業プランづくり③（経済分野）	中学校「公民」と高校「公共」の学習指導要領と教科書をもとに、経済分野の単元で何を学習するのか、教材研究のポイントを明らかにする
第12回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために⑨―模擬授業（国際政治）とふりかえり	グループの代表または全員が国際政治の単元の模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、今後の課題を明らかにする
第13回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために⑩―模擬授業（国際経済）とふりかえり	グループの代表または全員が国際経済の単元の模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、今後の課題を明らかにする
第14回	教材研究と授業プランづくり④（国際政治・経済）	中学校「公民」と高校「公共」の学習指導要領と教科書をもとに、国際政治・経済の単元で何を学習するのか、教材研究のポイントを明らかにする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習や復習については、授業の際に指示をします。「中学社会・公民的分野」・高校「公共」の教科書と学習指導要領、授業のテーマや課題にかかわる配付資料や提示した参考書は必ず読んでください。日常的に新聞を読み、現実の社会や教育の課題について関心を持って考え、授業で活用できるようにしてください。
本授業の準備・復習時間は各2時間、計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中学校社会科（公民的分野）教科書『新編新しい社会　公民』東京書籍
高等学校公民科教科書『公共』実教出版
その他、授業ごとに必要な資料を配布します。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編」・「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　公民編」
市民を育てる「公共」編集委員会編「市民を育てる『公共』」大学図書出版
和井田清司、他「中等社会科100のテーマ」三恵社

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（10％）、授業時の課題（60％）、レポート（学習指導案）（30％）をもとに、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
作成された指導案や提出物を全体で共有し、コメントを添えて次の時間の冒頭に提示し、振り返りができるようにします。

【学生が準備すべき機器他】
授業の中で端末が必要になる場合は、その都度、事前に連絡します。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.
【到達目標（Learning Objectives）】
Students are able to acquire basic knowledge and skills in the use of educational methods and techniques, ICT, and teaching materials, and to be able to effectively design lesson plans with the aim of developing qualities and abilities.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students will be expected to read research teaching materials, prepare presentations, write a lesson plan and prepare simulated lessons. The preparation and review time for this class is based on 2 hours each, for total of 4 hours.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
The evaluation will be made based on the attitude of participation in the lesson(10%), learning tasks60%), reports（learning guidance plan） (30%).

商業科教育法

木村　良成

単位：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
備考（履修条件等）：2018年度以前入学生用科目

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春・秋学期の授業を通して，商業教育，特に高等学校の商業科教育についての正しい認識と理解を得させるとともに，当該教科の教育についての学習指導能力の基礎を培うことが達成できれば良いと思っている。

まず最初に，商業教育とは，特に高等学校段階での商業教育とは一体どのような性格の教育なのか，そしてそれにはどのような効用なり，役割が期待されているのかを考えてみる。

春学期の授業では，当該教科の学習指導を中心とした授業展開を考えているが，その前段階として，まず，一般的な商業の学習指導の概念や学習指導計画，学習形態と学習指導法などについて学習する。その後，高等学校の商業教科の組織上の科目群，すなわち，流通ビジネス（商業経済），国際経済，簿記会計，経営情報（情報処理）および総合的（総合学習）の各科目群の中から幾つかの科目を選んで，それぞれの科目の性格・目標，内容などとの関連において，これらに適した学習指導法について考え，演習を試みてみる。秋学期は，そのような商業教育は，わが国の場合，何時ごろ，どのような社会的経済的背景の下に起こり，どのような変遷を経て今日に至ったのか，特に戦後の教育制度の下での変遷に力点をおいてみる。

その後，最新版の高等学校学習指導要領を用いて現行の高等学校商業科教育の目標について検討する。これは教科の目標と学科の目標について検討することになる。これらの目標は具体的には高等学絞の教科・科目の履修を通して実現されるものであるから，ここで現行高等学校の商業に関する教科の種類（科目）および教育課程の編成について触れる。

【到達目標】

教員として学校における全ての教育活動において役に立つようになること。そして、商業科教員として最大限身につけておくようにな教材研究ができるようになること。昨今のＩＣＴ教育が最大限効果的に活用できる授業ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義一辺倒にならぬように，例えば，課題解決的な学習や模擬授業のようなものを取り入れたり，現職教員を招いての講演会を行うなど，多様な授業形態・方法を工夫してやっていきたいと思っている。

単元や要所終了時にリアクションペーパーの提出や課題を求め、それにより教育方法や教育指導法が十分学習できたかどうか判断を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	日本における現在の商業教育全般について	「商業教育」とは何か
2	商学と商業学の違いについて	学問間の違い
3	教科商業の科目について	（１） 基礎科目（実際の科目についての説明）
4	教科商業の科目について	（２） 必修科目（実際の低学年での科目についての説明）
5	教科商業の科目について	（３） 必修科目（実際の高学年での科目についての説明）
6	教科商業の科目について	（４） 発展科目（実際の科目についての説明）
7	商業教育の特質	普通高校との相違
8	現代商業教育の役割	現代に求められている商業教育
9	学習指導の形態と進め方	商業教育におけるそれぞれの科目の学習指導方法
10	学習指導法と指導計画について	指導計画における「指導案」の役割
11	学習指導計画と教育評価	教育評価の様々な方法について
12	外国における商業教育の現状	諸外国での現状（近隣アジア諸国での現状）
13	生涯学習と商業教育の結びつき	生涯学習の意義と定義
14	高等学校・大学以外で行われている商業教育	商業教育が行われている現場
15	現代商業教育の実状と問題点について	課題と解決
16	今後の商業教育の動向について	将来の商業科教育を模索
17	近代商業教育制度の創設	室町時代から江戸時代
18	明治時代の商業教育	明治時代初期における学制を中心とした教育
19	学制の発布とその創成期	教育令や商業学校通則に従った商業教育
20	明治時代中期以降の商業教育	実業学校令における商業教育
21	大正時代から昭和時代初期（戦前から戦後にかけて）の商業教育	大正期における商業教育の絶頂期
22	第二次世界大戦中の商業教育	商業教育の危機
23	第二次世界大戦後まもなくの商業教育体系の変化	高度経済成長育期までの商業教育の成長
24	商業教育の体系的変化	高度経済成長期以降の低成長およびバブル経済下における商業教育の質的変化（平成不況も含む）
25	実際に行われている商業教育の現場から	商業科高等学校教員を招聘しての講演
26	授業を行うにあたっての留意点	（１）教材研究の方法にあたって
27	授業を行うにあたっての留意点	（２）板書例と黒板の書き方
28	授業を行うにあたっての留意点	（３）５０分授業の展開方法とヤマ場の創出方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修学生の授業への主体的・積極約な参加を期待する。
授業のために、教育・社会科学等に関する分野を毎日１時間以上新聞等（紙
媒体）で探し、スクラップ及びメモしておくこと。（授業で発表できるように
しておくことが望ましい。）

【テキスト（教科書）】
木村良成『商業科教育法』（法政大学 通信教育部）＜授業時必携＞

【参考書】
文部科学省『高等学校学習指導要領解説　商業編』＜最新版＞
文部科学省『高等学校学習指導要領解説　情報編』＜最新版＞

他のテキスト・文献の使用については最初の授業時に指示する。また，授業内容に関係する参考文献・資料などについては，最初の授業時および必要と思われるときに紹介する。

【成績評価の方法と基準】

この授業の成績評価は，春・秋学期それぞれ一回の定期試験（またはレポート）＜４０％＞，授業中の学習態度＜２０％＞，授業に出席した際の積極さや履修状況＜４０％＞を基準に行う。

【学生の意見等からの気づき】
特記事項無し

【学生が準備すべき機器他】
１２桁電卓

【その他の重要事項】
簿記・会計が理解できていること。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This class aims to understand what is commercial education and also to gain basic knowledge and skills for teaching it. Focusing on commercial education, the curriculum and instruction, different types of learning, and educational methods are initially explored. And then, the goals and characteristics of commercial education in the National Courses of Study are examined.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to understand Commercial Studies.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend over one hours everyday to understand the course of Education and Social Science etc.(By News Paper)
【Grading Criteria /Policy）】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination or report:40%, in class contribution: 60%.
【Notice】
日本国籍外で教員免許を取得した場合、教育活動等において制限が多いので留意すること。

商業科教育法Ⅰ

木村　良成

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：2019年度以降入学生用科目

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
まず最初に授業を通して，商業教育，特に高等学校の商業科教育についての正しい認識と理解を得させるとともに，当該教科の教育についての学習指導能力の基礎を培うことが達成できれば良いと思っている。
次に，商業教育とは，特に高等学校段階での商業教育とは一体どのような性格の教育なのか，そしてそれにはどのような効用なり，役割が期待されているのかを考えてみる。
春学期の授業では，当該教科の学習指導を中心とした授業展開を考えているが，その前段階として，まず，一般的な商業の学習指導の概念や学習指導計画，学習形態と学習指導法などについて学習する。その後，高等学校の商業教科の組織上の科目群，すなわち，流通ビジネス（商業経済），国際経済，簿記会計，経営情報（情報処理）および総合的（総合学習）の各科目群の中から幾つかの科目を選んで，それぞれの科目の性格・目標，内容などとの関連において，これらに適した学習指導法について考え，演習を試みてみる。
その後，最新版の高等学校学習指導要領を用いて現行の高等学校商業科教育の目標について検討する。これは教科の目標と学科の目標について検討することになる。これらの目標は具体的には高等学校の教科・科目の履修を通して実現されるものであるから，ここで現行高等学校の商業に関する教科の種類（科目）および教育課程の編成について触れる。

【到達目標】
教員として学校における全ての教育活動において役に立つようになること。そして、商業科教員として最大限身につけておくようにな教材研究ができるようになること。昨今のＩＣＴ教育が最大限効果的に活用できる授業ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義一辺倒にならぬように，例えば，課題解決的な学習や模擬授業のようなものを取り入れたり，現職教員を招いての講演会を行うなど，多様な授業形態・方法を工夫してやっていきたいと思っている。
単元や要所終了時にリアクションペーパーの提出や課題を求め、それにより教育方法や教育指導法が十分学習できたかどうか判断を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本における現在の商業教育全般について	「商業教育」とは何か
第2回	商学と商業学の違いについて	学問間の違い
第3回	教科商業の科目について	（1） 基礎科目（実際の科目についての説明）
第4回	教科商業の科目について	（2） 必修科目（実際の低学年での科目についての説明）
第5回	教科商業の科目について	（3） 必修科目（実際の高学年での科目についての説明）
第6回	教科商業の科目について	（4） 発展科目（実際の科目についての説明）
第7回	商業教育の特質	普通高校との相違
第8回	現代商業教育の役割	現代に求められている商業教育
第9回	学習指導の形態と進め方	商業教育におけるそれぞれの科目の学習指導方法
第10回	学習指導法と指導計画について	指導計画における「指導案」の役割
第11回	学習指導計画と教育評価	教育評価の様々な方法について
第12回	外国における商業教育の現状	諸外国での現状（近隣アジア諸国での現状）
第13回	生涯学習と商業教育の結びつき	生涯学習の意義と定義
第14回	高等学校・大学以外で行われている商業教育	商業教育が行われている現場

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修学生の授業への主体的・積極約な参加を期待する。
授業のために、教育・社会科学等に関する分野を毎日１時間以上新聞等（紙媒体）で探し、スクラップ及びメモしておくこと。（授業で発表できるようにしておくことが望ましい。）

【テキスト（教科書）】
木村良成『商業科教育法』（法政大学 通信教育部）＜授業時必携＞

【参考書】
文部科学省『高等学校学習指導要領解説　商業編』＜最新版＞
文部科学省『高等学校学習指導要領解説　情報編』＜最新版＞
他のテキスト・文献の使用については最初の授業時に指示する。また，授業内容に関係する参考文献・資料などについては，最初の授業時および必要と思われるときに紹介する。

【成績評価の方法と基準】
この授業の成績評価は，定期試験（またはレポート）＜４０％＞，授業中の学習態度＜３０％＞や履修状況など＜３０％＞を総合的に考慮して行う。

【学生の意見等からの気づき】
－

【学生が準備すべき機器他】
１２桁計算機

【その他の重要事項】
簿記・会計が理解できていること。
必ず最初に「商業科教育法Ⅰ」を履修すること。（その後，「商業科教育法Ⅱ」を履修することとする。）

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This class aims to understand what is commercial education and also to gain basic knowledge and skills for teaching it. Focusing on commercial education, the curriculum and instruction, different types of learning, and educational methods are initially explored. And then, the goals and characteristics of commercial education in the National Courses of Study are examined.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to understand Commercial Studies.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend over one hours everyday to understand the course of Education and Social Science etc.(By News Paper)
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination or report:40%, in class contribution: 60%.
【Notice】
日本国籍外で教員免許を取得した場合、教育活動等に制限が多いので留意すること。

商業科教育法Ⅱ

木村　良成

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：2019年度以降入学生用科目

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員として学校における全ての教育活動において役に立つようになることを主眼とし、商業科の一教員として最大限身につけておくように学習活動を行う。
講義一辺倒にならぬように，学生主体の授業を行う。

【到達目標】
商業科教育法Ⅰの授業を通して，商業教育，特に高等学校の商業科教育の科目の違いについて学習した。今回は当該科目の教育方法についての学習指導能力の基礎を培うことが達成できれば良いと思っている。
　秋学期においては，今まで学習していた商業教育は，わが国の場合，何時ごろ，どのような社会的経済的背景の下に起こり，どのような変遷を経て今日に至ったのか，特に戦後の教育制度の下での変遷に力点をおいてみる。
　ここでも，最新版の高等学校学習指導要領を用いて現行の高等学校商業科教育の目標について検討する。これは教科の目標と学科の目標について検討することになる。これらの目標は具体的には高等学絞の教科・科目の履修を通して実現されるものであるから，ここで現行高等学校の商業に関する教科の種類（科目）および教育課程の編成について触れる。
　また、昨今のＩＣＴ教育が最大限効果的に活用できる授業ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
課題解決的な学習や模擬授業，現職教員を招いての講演会を行う。
　単元や要所終了時にリアクションペーパーの提出や課題を求め、それにより教育方法や教育指導法が十分学習できたかどうか判断を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代商業教育の実状と問題点及び課題と解決	課題と解決方法について探る
第2回	今後の商業教育の動向について、将来の商業科教育を模索	将来の商業科教育を模索し、考える
第3回	近代商業教育制度の創設－室町時代から江戸時代	室町時代から江戸時代における教育体系
第4回	明治時代の商業教育－明治時代初期における学制を中心とした教育	明治時代初期における学制を中心とした教育（森有礼の存在）
第5回	学制の発布とその創成期－教育令や商業学校通則に従った商業教育	教育令や商業学校通則に従った商業教育（その他実業学校との比較）
第6回	明治時代中期以降の商業教育－実業学校令における商業教育	実業学校令における商業教育での進展
第7回	大正時代から昭和時代初期（戦前から戦後にかけて）の商業教育－大正期における商業教育の絶頂期	大正期における商業教育の栄光の絶頂期
第8回	第二次世界大戦中の－商業教育の危機	商業教育の危機とその現状
第9回	第二次世界大戦後まもなくの商業教育体系の変化―高度経済成長育期までの商業教育の成長	高度経済成長期までの商業教育の成長
第10回	商業教育の体系的変化―高度経済成長期以降の低成長およびバブル経済下における商業教育の質的変化（平成不況も含む）	高度経済成長以降の低成長及びバブル経済下における商業教育の質的変化
第11回	実際に行われている商業教育の現場から　（担当；商業科高等学校教員を招聘）	高等学校商業科に勤務している教員を招聘しての講演
第12回	授業を行うにあたっての留意点　（１）教材研究の方法と情報機器の活用方法	教材研究の方法にあたって
第13回	授業を行うにあたっての留意点　（２）板書例と黒板の書き方	板書例と黒板やホワイトボード、電子黒板の使用方法
第14回	授業を行うにあたっての留意点　（３）５０分授業の展開方法とヤマ場の創出方法	５０分授業と９０（１００）分授業の質的相違

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修学生の授業への主体的・積極約な参加を期待する。
授業のために、教育・社会科学等に関する分野を毎日１時間以上新聞等（紙
媒体）で探し、スクラップ及びメモしておくこと。（授業で発表できるように
しておくことが望ましい。）

【テキスト（教科書）】
木村良成『商業科教育法』（法政大学 通信教育部）

【参考書】
文部科学省『高等学校学習指導要領』最新版
文部科学省『高等学校学習指導要領解説　商業編』最新版
文部科学省『高等学校学習指導要領解説　情報編』最新版
他のテキスト・文献の使用については最初の授業時に指示する。また，授業内容に関係する参考文献・資料などについては，最初の授業時および必要と思われるときに紹介する。

【成績評価の方法と基準】
この授業の成績評価は，定期試験（またはレポート）＜４０％＞，授業中の学習態度＜３０％＞や履修状況など＜３０％＞を総合的に考慮して行う。

【学生の意見等からの気づき】
－

【学生が準備すべき機器他】
１２桁計算機

【その他の重要事項】
必ず最初に「商業科教育法Ⅰ」を履修してから、この「商業科教育法Ⅱ」履修のこと。

【Outline (in English)】
【Course Outline】

This class aims to understand what is commercial education and also to gain basic knowledge and skills for teaching it. Focusing on commercial education, the curriculum and instruction, different types of learning, and educational methods are initially explored. And then, the goals and characteristics of commercial education in the National Courses of Study are examined.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to understand Commercial Studies.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend over one hours everyday to understand the course of Education and Social Science etc.(By News Paper)
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination or report:40%, in class contribution: 60%.
【Notice】
日本国籍外で教員免許を取得した場合、教育活動等に制限が多いので留意すること。

英語科教育法Ⅰ

望月　尚子

単位：4単位　｜　開講セメスター：春学期集中/Intensive(Spring)
備考（履修条件等）：2018年度以前入学生用科目
（国際文化用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、日本の中学校英語教育の文脈において、第二言語言語習得理論と英語教授法理論の応用と実践を目指します。言語の記述と分析（文法・音韻・語彙・機能）、言語スキル指導、学習者のモチベーションやニーズ、学習スタイル、理論に基づく教授法とその実践、指導法や指導案作成などを扱います。受講生は、ワークショップ、ディスカッション、模擬授業を行い、将来的に授業の指導案を作成し、実施するための分析力と実践力を養います。

【到達目標】
英語科教育法や第二言語習得に関する基本的な知識や技能、また中学校・高等学校などの英語教員に必要とされる資質について学ぶと同時に、近い将来英語教員として効果的な指導をするために必要な英語運用能力を培う。英語教育の現場や個々の学習者を観察し、現状把握や問題解決に向けて自発的に考え行動できる能力の養成も目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本講義は、講義、ディスカッション、実際に指導の練習を行う指導法に関するワークショップ、授業案を作成して実際に行う模擬授業で構成されています。受講生は、授業前に指定された教科書の範囲を読み、授業内のディスカッション参加し意見交換することで理解を深めることが求められます。模擬授業は、中・高の英語授業最初の１５分の設定で行うものと授業最後にまとめとして実施するコミュニケーション活動を予定しています。本授業では、実践的な学習活動を中心に据え、ICTの活用を意識しながら、目的に応じた効果的な学習ツールの選定・活用方法について適宜取り上げます。
＜教師からのフィードバックについて＞
模擬授業に関しては直後のディスカッションでコメントし、より詳細なフィードバックは、Google classroomを通して行います。リフレクションとTake-home examについても、フィードバックは、一週間以内に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	コース概要・中学・高校の英語教育
第2回	英語学習経験・英語教員の資質	英語学習経験の考察・言語活動
第3回	学習指導要領	英語運用能力向上のための言語活動・コミュニケーション活動
第4回	文法指導	言語構造・言語機能それぞれのアプローチ
第5回	語彙指導	ワークショップ（語彙指導・新出単語導入）
第6回	発音・文字指導	音声・音韻・リンキング指導
第7回	リーディング指導	Predicting, deducing, inferringのスキル指導
第8回	ライティング指導	ジャンル理論とフィードバック、ワークショップ（リタラシー指導）
第9回	リスニング指導	スキャニング、スキミング、リンキングの意識付け
第10回	スピーキング指導	スピーキングアクティビティの種類と目的、ワークショップ（授業始まりのスピーキング）
第11回	ことばと文化	語用論的指導、模擬授業
第12回	学習者論	モチベーション
第13回	多文化理解教育	多様性と学習者、学習スタイル、ニーズ
第14回	言語習得	言語接触とフォーカス・オン・フォーム、ワークショップ（フォーカス・オン・フォーム）
第15回	表現指導	フィードバック・誤りの学習における役割
第16回	英語教授法	言語教育のアプローチと指導法
第17回	教室の使用言語	教室英語、新出文法事項・表現の導入
第18回	中学校の指導	新出文法事項の導入、模擬授業
第19回	高等学校での指導	テキストのパラフレーズ、display questionsとreferencial questionsの効果的使用、模擬授業
第20回	評価と言語学習意欲、授業運営	教室内での教師の役割、模擬授業
第21回	教育実習と授業の形態	ペア・グループ活動、ティームティーチング、模擬授業
第22回	小学校での英語教育	言語および技能習得を促す言語活動・タスク
第23回	授業準備と指導案	目標の設定と選定・授業計画の構成、模擬授業
第24回	指導案	個別の授業および単元の計画、模擬授業
第25回	早期外国語教育	早期教育・イマージョン教育の考察 模擬授業
第26回	評価活動	評価方法と評価課題
第27回	教材研究	参考・補助教材、ICT・生成AIの活用
第28回	まとめと考察	専門性向上と省察、今後の成長に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に指定されたテキスト（教科書）の範囲を読み、授業内のディスカッション参加し意見交換することで理解を深めることが求められます。・模擬授業の計画、練習、またTake-home examのための、授業外にグループでディスカッションをすることが求められます。本授業の準備、復習時間は、各週計８時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Spratt, Pulverness, and Williams (2011). The TKT (Teaching Knowledge Test) Course, Modules 1,2 and 3. Cambridge University Press￥ Cambridge University Press (注)「TKT Course, Modules 1,2 and 3」を必ず購入してください。同じTKTで始まるタイトルでも、副題が違うものがあるので、注意してください。

【参考書】
中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
第二言語習得と英語科教育法（JACET教育問題研究会編著・開拓社）英語教育指導法事典（米山朝二著・研究社出版）

【成績評価の方法と基準】
１授業参加・貢献度・Reading 課題（２０％）*
２レポート（Take-home exam)(2)（２０％）
３模擬授業と指導案　（２０％）
４模擬授業の省察　（４０％）
*授業への参加を重視するため、授業６コマ相当の欠席をすると単位の履修が不可能となります。

【学生の意見等からの気づき】
英語教員として英語での授業および効果的な指導をするためには、英語運用能力を十分に伸ばしておく必要がありますが、ほとんどの受講生は授業以外で英語でのコミュニケーションをする場が非常に少ないようです。この授業では、テキスト(教科書）を含めて、随所に英語を用います。また、グループワーク中心ですので、自分なりの見解を持って授業に臨むようにすれば、英語でも、日本語でも、コミュニケーションの楽しさと重要性を実感することができ、英語が苦手の学生でも乗り切れます。ぜひ、英語でのコミュニケーションの楽しさを生徒たちに伝えることを目指して積極的に参加してください。

【学生が準備すべき機器他】
テキスト（教科書）は、初回の授業に間に合うように購入し、持参してください。
学習支援システム、Google Classroom等を使用して授業を行うため、大学のアカウントでログインし、大学の電子メールを毎日確認してください。

【その他の重要事項】
この授業は中学校・高等学校などの英語教員をめざす学生を主な対象とし、授業への出席はもちろんのこと、授業前の準備、個人やグループでの作業や模擬授業、ディスカッションなどへの積極的な貢献が求められます。参加型の授業のため、自らの英語学習の経験談や分析、新しいアイディア、疑問、意見交換などを歓迎します。

【Outline (in English)】
In this course you will acquire basic knowledge and skills related to English teaching methodology and second language acquisition. While learning about the qualifications required of English teachers at junior and senior high schools, you will cultivate communicative competence in English necessary for effective instruction in the near future. The course also has as its goal to develop the ability to think and act on your own initiative to grasp the current situation and solve problems by observing the instructional context and individual learners. We will primarily review the theoretical foundations of English language teaching and deals with topics such as the history of English language education, language teaching methodologies, language learning styles and strategies, second language acquisition, the teaching of of English as an international language, intercultural understanding, the Course of Study, and lesson plans. This course must be taken in combination with English Teaching Methodology (2).Your work will be graded based primarily on your participation, reflective papers, and micro teaching. For this accelerated course, the preparation and review time of approximately 8 hours a week is recommended.

英語科教育法（1）

望月　尚子

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：2019年度以降入学生用科目
英語科教育法（1）(2)は必ずセットで履修してください
（国際文化用）
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、日本の中学校英語教育の文脈において、第二言語言語習得理論と英語教授法理論の応用と実践を目指します。言語の記述と分析（文法・音韻・語彙・機能）、言語スキル指導、学習者のモチベーションやニーズ、学習スタイル、理論に基づく教授法とその実践、指導法や指導案作成などを扱います。受講生は、ワークショップ、ディスカッション、模擬授業を行い、将来的に授業の指導案を作成し、実施するための分析力と実践力を養います。

【到達目標】
英語科教育法や第二言語習得に関する基本的な知識や技能、また中学校・高等学校などの英語教員に必要とされる資質について学ぶと同時に、近い将来英語教員として効果的な指導をするために必要な英語運用能力を培う。英語教育の現場や個々の学習者を観察し、現状把握や問題解決に向けて自発的に考え行動できる能力の養成も目標とする。この授業では主に英語教育の理論的側面の基礎を概観し、英語教育や教授法の歴史、学習者論、第二言語習得、国際語としての英語教育、国際文化理解教育、学習指導要領、指導案などを扱う。なお、英語科教育法（２）とセットで履修する必要がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本講義は、講義、ディスカッション、実際に指導の練習を行う指導法に関するワークショップ、授業案を作成して実際に行う模擬授業で構成されています。受講生は、授業前に指定された教科書の範囲を読み、授業内のディスカッション参加し意見交換することで理解を深めることが求められます。模擬授業は、中・高の英語授業最初の１５分の設定で行うものと、授業最後にまとめとして実施するコミュニケーション活動を予定しています。本授業では、実践的な学習活動を中心に据え、ICTの活用を意識しながら、目的に応じた効果的な学習ツールの選定・活用方法について適宜取り上げます。
＜教師からのフィードバックについて＞
模擬授業に関しては直後のディスカッションでコメントし、より詳細なフィードバックは、Google classroomを通して行います。リフレクションとTake-home examについても、フィードバックは、一週間以内に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	コース概要、中学・高校の英語教育
第2回	学習指導要領	英語運用能力向上のための言語活動・コミュニケーション活動
第3回	語彙指導	ワークショップ（語彙指導・新出単語導入）
第4回	リーディング指導	Predicting, reducing, inferring のスキル指導
第5回	リスニング指導	スキャニング、スキミング、リンキングの意識付け
第6回	ことばと文化	語用論的指導、模擬授業
第7回	多文化理解教育	多様性と学習者、学習スタイル、ニーズ
第8回	表現指導	フィードバック・誤りの学習における役割
第9回	教室の使用言語	教室英語、新出文法事項・表現の導入、フォーカス・オン・フォームの実践
第10回	高等学校での指導	テキストのパラフレーズ、display questionsとreferencial questionsの効果的使用、模擬授業
第11回	教育実習と授業の形態	ペア、グループ活動・ティームティーチング、模擬授業
第12回	授業準備と指導案	目標の設定と選定・授業計画の構成要素、模擬授業
第13回	早期外国語教育	早期教育・イマージョン教育とは、模擬授業
第14回	教材研究	補助教材：ICT/生成AIの活用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に指定されたテキスト（教科書）の範囲を読み、授業内のディスカッション参加し意見交換することで理解を深めることが求められます。・模擬授業の計画、練習、またTake-home examのための、授業外にグループでディスカッションをすることが求めらます。本授業の準備、復習時間は、各週計８時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Spratt, Pulverness, and Williams (2011). The TKT (Teaching Knowledge Test) Course, Modules 1,2 and 3. Cambridge University Press￥ Cambridge University Press (注)「TKT Course, Modules 1,2 and 3」を必ず購入してください。同じTKTで始まるタイトルでも、副題が違うものがあるので、注意してください。

【参考書】
中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
第二言語習得と英語科教育法（JACET教育問題研究会編著・開拓社）英語教育指導法事典（米山朝二著・研究社出版）

【成績評価の方法と基準】
１授業参加・貢献度・Reading 課題（２０％）*
２レポート（Take-home exam)(2)（２０％）
３模擬授業と指導案　（２０％）
４模擬授業の省察　（４０％）
*授業への参加を重視するため、授業６コマ相当の欠席をすると単位の履修が不可能となります。

【学生の意見等からの気づき】
英語教員として英語での授業および効果的な指導をするためには、英語運用能力を十分に伸ばしておく必要がありますが、ほとんどの受講生は授業以外で英語でのコミュニケーションをする場が非常に少ないようです。この授業では、テキスト(教科書）を含めて、随所に英語を用います。また、グループワーク中心ですので、自分なりの見解を持って授業に臨むようにすれば、英語でも、日本語でも、コミュニケーションの楽しさと重要性を実感することができ、英語が苦手の学生でも乗り切れます。ぜひ、英語でのコミュニケーションの楽しさを生徒たちに伝えることを目指して積極的に参加してください。

【学生が準備すべき機器他】
テキスト（教科書）は、初回の授業に間に合うように購入し、持参してください。
学習支援システム、Google Classroom等を使用して授業を行うため、大学のアカウントでログインし、大学の電子メールを毎日確認してください。

【その他の重要事項】
この授業は中学校・高等学校などの英語教員をめざす学生を主な対象とし、授業への出席はもちろんのこと、授業前の準備、個人やグループでの作業や模擬授業、ディスカッションなどへの積極的な貢献が求められます。参加型の授業のため、自らの英語学習の経験談や分析、新しいアイディア、疑問、意見交換などを歓迎します。

【Outline (in English)】
In this course you will acquire basic knowledge and skills related to English teaching methodology and second language acquisition. While learning about the qualifications required of English teachers at junior and senior high schools, you will cultivate communicative competence in English necessary for effective instruction in the near future. The course also has as its goal to develop the ability to think and act on your own initiative to grasp the current situation and solve problems by observing the instructional context and individual learners. We will primarily review the theoretical foundations of English language teaching and deals with topics such as the history of English language education, language teaching methodologies, language learning styles and strategies, second language acquisition, the teaching of of English as an international language, intercultural understanding, the Course of Study, and lesson plans. This course must be taken in combination with English Teaching Methodology (2).Your work will be graded based primarily on your participation, reflective papers, and micro teaching. For this course, the preparation and review time of approximately 4 hours a week is recommended

英語科教育法（2）

望月　尚子

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：2019年度以降入学生用科目
英語科教育法（1）(2)は必ずセットで履修してください
（国際文化用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、日本の中学校英語教育の文脈において、第二言語言語習得理論と英語教授法理論の応用と実践を目指します。言語の記述と分析（文法・音韻・語彙・機能）、言語スキル指導、学習者のモチベーションやニーズ、学習スタイル、理論に基づく教授法とその実践、指導法や指導案作成などを扱います。受講生は、ワークショップ、ディスカッション、模擬授業を行い、将来的に授業の指導案を作成し、実施するための分析力と実践力を養います。

【到達目標】
英語科教育法や第二言語習得に関する基本的な知識や技能、また中学校・高等学校などの英語教員に必要とされる資質について学ぶと同時に、近い将来英語教員として効果的な指導をするために必要な英語運用能力を培う。英語教育の現場や個々の学習者を観察し、現状把握や問題解決に向けて自発的に考え行動できる能力の養成も目標とする。この授業では主に実践面を中心に、コミュニカティブな英語科教育のための 4 領域、4 技能統合型指導、文法・語彙などの指導、中・高における英語指導、早期英語教育と小学校での英語指導、テストなどの評価活動など教室指導と直接関連するテーマを取り上げる。なお、英語科教育法（１）とセットで履修する必要がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本講義は、講義、ディスカッション、実際に指導の練習を行う指導法に関するワークショップ、授業案を作成して実際に行う模擬授業で構成されています。受講生は、授業前に指定された教科書の範囲を読み、授業内のディスカッション参加し意見交換することで理解を深めることが求められます。模擬授業は、中・高の英語授業最初の１５分の設定で行うものと、授業最後にまとめとして実施するコミュニケーション活動を予定しています。本授業では、実践的な学習活動を中心に据え、ICTの活用を意識しながら、目的に応じた効果的な学習ツールの選定・活用方法について適宜取り上げます。
＜教師からのフィードバックについて＞
模擬授業に関しては直後のディスカッションでコメントし、より詳細なフィードバックは、Google classroomを通して行います。リフレクションとTake-home examについても、フィードバックは、一週間以内に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	英語学習経験・教員の資質と役割	英語学習経験の考察・言語活動
第2回	文法指導	言語構造・言語機能それぞれのアプローチ
第3回	発音・文字指導	音声・音韻・リンキング指導
第4回	ライティング指導	ジャンル理論とフィードバック、ワークショップ（リタラシー指導）
第5回	スピーキング指導	スピーキングアクティビティの種類と目的、ワークショップ（授業始まりのスピーキング）
第6回	学習者論	モチベーション
第7回	言語習得	言語接触とフォーカス・オン・フォーム ワークショップ（フォーカス・オン・フォーム)
第8回	英語教授法	言語教育のアプローチと指導法
第9回	中学校での指導	新出文法事項の導入、模擬授業、
第10回	評価と言語学習意欲、授業運営	教室内での教師の役割、模擬授業
第11回	小学校での英語教育	言語及び技能習得を促す練習活動とタスク
第12回	指導案	個別の授業および単元の計画、模擬授業
第13回	評価活動	評価方法と評価課題
第14回	まとめと考察	専門性向上と省察、今後の成長に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に指定されたテキスト（教科書）の範囲を読み、授業内のディスカッション参加し意見交換することで理解を深めることが求められます。・模擬授業の計画、練習、またTake-home examのための、授業外にグループでディスカッションをすることが求めらます。本授業の準備、復習時間は、各週計８時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Spratt, Pulverness, and Williams (2011). The TKT (Teaching Knowledge Test) Course, Modules 1,2 and 3. Cambridge University Press￥ Cambridge University Press (注)「TKT Course, Modules 1,2 and 3」を必ず購入してください。同じTKTで始まるタイトルでも、副題が違うものがあるので、注意してください。

【参考書】
中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
第二言語習得と英語科教育法（JACET教育問題研究会編著・開拓社）英語教育指導法事典（米山朝二著・研究社出版）

【成績評価の方法と基準】
１授業参加・貢献度・Reading 課題（２０％）*
２レポート（Take-home exam)(2)（２０％）
３模擬授業と指導案　（２０％）
４模擬授業の省察　（４０％）
*授業への参加を重視するため、授業６コマ相当の欠席をすると単位の履修が不可能となります。

【学生の意見等からの気づき】
英語教員として英語での授業および効果的な指導をするためには、英語運用能力を十分に伸ばしておく必要がありますが、ほとんどの受講生は授業以外で英語でのコミュニケーションをする場が非常に少ないようです。この授業では、テキスト(教科書）を含めて、随所に英語を用います。また、グループワーク中心ですので、自分なりの見解を持って授業に臨むようにすれば、英語でも、日本語でも、コミュニケーションの楽しさと重要性を実感することができ、英語が苦手の学生でも乗り切れます。ぜひ、英語でのコミュニケーションの楽しさを生徒たちに伝えることを目指して積極的に参加してください。

【学生が準備すべき機器他】
テキスト（教科書）は、初回の授業に間に合うように購入し、持参してください。
学習支援システム、Google Classroom等を使用して授業を行うため、大学のアカウントでログインし、大学の電子メールを毎日確認してください

【その他の重要事項】
この授業は中学校・高等学校などの英語教員をめざす学生を主な対象とし、授業への出席はもちろんのこと、授業前の準備、個人やグループでの作業や模擬授業、ディスカッションなどへの積極的な貢献が求められます。参加型の授業のため、自らの英語学習の経験談や分析、新しいアイディア、疑問、意見交換などを歓迎します。

【Outline (in English)】
In this course you will acquire basic knowledge and skills related to English teaching methodology and second language acquisition. While learning about the qualifications required of English teachers at junior and senior high schools, you will cultivate communicative competence in English necessary for effective instruction in the near future. The course also has as its goal to develop the ability to think and act on your own initiative to grasp the current situation and solve problems by observing the instructional context and individual learners. We will primarily focus on practical aspect of communicative language teaching and deals with topics of direct relevance to classroom instruction, such as the teaching of four and integrated skills, grammar and vocabulary instruction, English education in junior and senior high schools, early childhood education and elementary education for English, and testing and assessment. This course must be taken in combination with English Teaching Methodology (1). Your work will be graded based primarily on your participation, reflective papers, and micro teaching. For this course, the preparation and review time of approximately 4 hours a week is recommended.

英語科教育法Ⅰ

望月　尚子

単位：4単位　｜　開講セメスター：春学期集中/Intensive(Spring)
備考（履修条件等）：2018年度以前入学生用科目
（英文学科用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、日本の中学校英語教育の文脈において、第二言語言語習得理論と英語教授法理論の応用と実践を目指します。言語の記述と分析（文法・音韻・語彙・機能）、言語スキル指導、学習者のモチベーションやニーズ、学習スタイル、理論に基づく教授法とその実践、指導法や指導案作成などを扱います。受講生は、ワークショップ、ディスカッション、模擬授業を行い、将来的に授業の指導案を作成し、実施するための分析力と実践力を養います。

【到達目標】
英語科教育法や第二言語習得に関する基本的な知識や技能、また中学校・高等学校などの英語教員に必要とされる資質について学ぶと同時に、近い将来英語教員として効果的な指導をするために必要な英語運用能力を培う。英語教育の現場や個々の学習者を観察し、現状把握や問題解決に向けて自発的に考え行動できる能力の養成も目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本講義は、講義、ディスカッション、実際に指導の練習を行う指導法に関するワークショップ、授業案を作成して実際に行う模擬授業で構成されています。受講生は、授業前に指定された教科書の範囲を読み、授業内のディスカッション参加し意見交換することで理解を深めることが求められます。模擬授業は、中・高の英語授業最初の１５分の設定で行うものと授業最後にまとめとして実施するコミュニケーション活動を予定しています。本授業では、実践的な学習活動を中心に据え、ICTの活用を意識しながら、目的に応じた効果的な学習ツールの選定・活用方法について適宜取り上げます。
＜教師からのフィードバックについて＞
模擬授業に関しては直後のディスカッションでコメントし、より詳細なフィードバックは、Google classroomを通して行います。リフレクションとTake-home examについても、フィードバックは、一週間以内に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	コース概要・中学・高校の英語教育
第2回	英語学習経験・英語教員の資質	英語学習経験の考察・言語活動
第3回	学習指導要領	英語運用能力向上のための言語活動・コミュニケーション活動
第4回	文法指導	言語構造・言語機能それぞれのアプローチ
第5回	語彙指導	ワークショップ（語彙指導・新出単語導入）
第6回	発音・文字指導	音声・音韻・リンキング指導
第7回	リーディング指導	Predicting, deducing, inferringのスキル指導
第8回	ライティング指導	ジャンル理論とフィードバック、ワークショップ（リタラシー指導）
第9回	リスニング指導	スキャニング、スキミング、リンキングの意識付け
第10回	スピーキング指導	スピーキングアクティビティの種類と目的、ワークショップ（授業始まりのスピーキング）
第11回	ことばと文化	語用論的指導、模擬授業
第12回	学習者論	モチベーション
第13回	多文化理解教育	多様性と学習者、学習スタイル、ニーズ
第14回	言語習得	言語接触とフォーカス・オン・フォーム、ワークショップ（フォーカス・オン・フォーム）
第15回	表現指導	フィードバック・誤りの学習における役割
第16回	英語教授法	言語教育のアプローチと指導法
第17回	教室の使用言語	教室英語、新出文法事項・表現の導入
第18回	中学校の指導	新出文法事項の導入、模擬授業
第19回	高等学校での指導	テキストのパラフレーズ、display questionsとreferencial questionsの効果的使用、模擬授業
第20回	評価と言語学習意欲、授業運営	教室内での教師の役割、模擬授業
第21回	教育実習と授業の形態	ペア・グループ活動、ティームティーチング、模擬授業
第22回	小学校での英語教育	言語および技能習得を促す言語活動・タスク
第23回	授業準備と指導案	目標の設定と選定・授業計画の構成、模擬授業
第24回	指導案	個別の授業および単元の計画、模擬授業
第25回	早期外国語教育	早期教育・イマージョン教育の考察 模擬授業
第26回	評価活動	評価方法と評価課題
第27回	教材研究	参考・補助教材、ICT・生成AIの活用
第28回	まとめと考察	専門性向上と省察、今後の成長に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に指定されたテキスト（教科書）の範囲を読み、授業内のディスカッション参加し意見交換することで理解を深めることが求められます。・模擬授業の計画、練習、またTake-home examのための、授業外にグループでディスカッションをすることが求められます。本授業の準備、復習時間は、各週計８時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Spratt, Pulverness, and Williams (2011). The TKT (Teaching Knowledge Test) Course, Modules 1,2 and 3. Cambridge University Press￥ Cambridge University Press (注)「TKT Course, Modules 1,2 and 3」を必ず購入してください。同じTKTで始まるタイトルでも、副題が違うものがあるので、注意してください。

【参考書】
中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
第二言語習得と英語科教育法（JACET教育問題研究会編著・開拓社）英語教育指導法事典（米山朝二著・研究社出版）

【成績評価の方法と基準】
１授業参加・貢献度・Reading 課題（２０％）*
２レポート（Take-home exam)(2)（２０％）
３模擬授業と指導案　（２０％）
４模擬授業の省察　（４０％）
*授業への参加を重視するため、授業６コマ相当の欠席をすると単位の履修が不可能となります。

【学生の意見等からの気づき】
英語教員として英語での授業および効果的な指導をするためには、英語運用能力を十分に伸ばしておく必要がありますが、ほとんどの受講生は授業以外で英語でのコミュニケーションをする場が非常に少ないようです。この授業では、テキスト(教科書）を含めて、随所に英語を用います。また、グループワーク中心ですので、自分なりの見解を持って授業に臨むようにすれば、英語でも、日本語でも、コミュニケーションの楽しさと重要性を実感することができ、英語が苦手の学生でも乗り切れます。ぜひ、英語でのコミュニケーションの楽しさを生徒たちに伝えることを目指して積極的に参加してください。

【学生が準備すべき機器他】
テキスト（教科書）は、初回の授業に間に合うように購入し、持参してください。
学習支援システム、Google Classroom等を使用して授業を行うため、大学のアカウントでログインし、大学の電子メールを毎日確認してください。

【その他の重要事項】
この授業は中学校・高等学校などの英語教員をめざす学生を主な対象とし、授業への出席はもちろんのこと、授業前の準備、個人やグループでの作業や模擬授業、ディスカッションなどへの積極的な貢献が求められます。参加型の授業のため、自らの英語学習の経験談や分析、新しいアイディア、疑問、意見交換などを歓迎します。

【Outline (in English)】
In this course you will acquire basic knowledge and skills related to English teaching methodology and second language acquisition. While learning about the qualifications required of English teachers at junior and senior high schools, you will cultivate communicative competence in English necessary for effective instruction in the near future. The course also has as its goal to develop the ability to think and act on your own initiative to grasp the current situation and solve problems by observing the instructional context and individual learners. We will primarily review the theoretical foundations of English language teaching and deals with topics such as the history of English language education, language teaching methodologies, language learning styles and strategies, second language acquisition, the teaching of of English as an international language, intercultural understanding, the Course of Study, and lesson plans. This course must be taken in combination with English Teaching Methodology (2).Your work will be graded based primarily on your participation, reflective papers, and micro teaching. For this accelerated course, the preparation and review time of approximately 8 hours a week is recommended.

英語科教育法（1）

望月　尚子

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：2019年度以降入学生用科目
英語科教育法（1）(2)は必ずセットで履修してください
（英文学科用）
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、日本の中学校英語教育の文脈において、第二言語言語習得理論と英語教授法理論の応用と実践を目指します。言語の記述と分析（文法・音韻・語彙・機能）、言語スキル指導、学習者のモチベーションやニーズ、学習スタイル、理論に基づく教授法とその実践、指導法や指導案作成などを扱います。受講生は、ワークショップ、ディスカッション、模擬授業を行い、将来的に授業の指導案を作成し、実施するための分析力と実践力を養います。

【到達目標】
英語科教育法や第二言語習得に関する基本的な知識や技能、また中学校・高等学校などの英語教員に必要とされる資質について学ぶと同時に、近い将来英語教員として効果的な指導をするために必要な英語運用能力を培う。英語教育の現場や個々の学習者を観察し、現状把握や問題解決に向けて自発的に考え行動できる能力の養成も目標とする。この授業では主に英語教育の理論的側面の基礎を概観し、英語教育や教授法の歴史、学習者論、第二言語習得、国際語としての英語教育、国際文化理解教育、学習指導要領、指導案などを扱う。なお、英語科教育法（２）とセットで履修する必要がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本講義は、講義、ディスカッション、実際に指導の練習を行う指導法に関するワークショップ、授業案を作成して実際に行う模擬授業で構成されています。受講生は、授業前に指定された教科書の範囲を読み、授業内のディスカッション参加し意見交換することで理解を深めることが求められます。模擬授業は、中・高の英語授業最初の１５分の設定で行うものと、授業最後にまとめとして実施するコミュニケーション活動を予定しています。本授業では、実践的な学習活動を中心に据え、ICTの活用を意識しながら、目的に応じた効果的な学習ツールの選定・活用方法について適宜取り上げます。
＜教師からのフィードバックについて＞
模擬授業に関しては直後のディスカッションでコメントし、より詳細なフィードバックは、Google classroomを通して行います。リフレクションとTake-home examについても、フィードバックは、一週間以内に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	コース概要、中学・高校の英語教育
第2回	学習指導要領	英語運用能力向上のための言語活動・コミュニケーション活動
第3回	語彙指導	ワークショップ（語彙指導・新出単語導入）
第4回	リーディング指導	Predicting, reducing, inferring のスキル指導
第5回	リスニング指導	スキャニング、スキミング、リンキングの意識付け
第6回	ことばと文化	語用論的指導、模擬授業
第7回	多文化理解教育	多様性と学習者、学習スタイル、ニーズ
第8回	表現指導	フィードバック・誤りの学習における役割
第9回	教室の使用言語	教室英語、新出文法事項・表現の導入、フォーカス・オン・フォームの実践
第10回	高等学校での指導	テキストのパラフレーズ、display questionsとreferencial questionsの効果的使用、模擬授業
第11回	教育実習と授業の形態	ペア、グループ活動・ティームティーチング、模擬授業
第12回	授業準備と指導案	目標の設定と選定・授業計画の構成要素、模擬授業
第13回	早期外国語教育	早期教育・イマージョン教育とは、模擬授業
第14回	教材研究	補助教材：ICT/生成AIの活用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に指定されたテキスト（教科書）の範囲を読み、授業内のディスカッション参加し意見交換することで理解を深めることが求められます。・模擬授業の計画、練習、またTake-home examのための、授業外にグループでディスカッションをすることが求めらます。本授業の準備、復習時間は、各週計８時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Spratt, Pulverness, and Williams (2011). The TKT (Teaching Knowledge Test) Course, Modules 1,2 and 3. Cambridge University Press￥ Cambridge University Press (注)「TKT Course, Modules 1,2 and 3」を必ず購入してください。同じTKTで始まるタイトルでも、副題が違うものがあるので、注意してください。

【参考書】
中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
第二言語習得と英語科教育法（JACET教育問題研究会編著・開拓社）英語教育指導法事典（米山朝二著・研究社出版）

【成績評価の方法と基準】
１授業参加・貢献度・Reading 課題（２０％）*
２レポート（Take-home exam)(2)（２０％）
３模擬授業と指導案　（２０％）
４模擬授業の省察　（４０％）
*授業への参加を重視するため、授業６コマ相当の欠席をすると単位の履修が不可能となります。

【学生の意見等からの気づき】
英語教員として英語での授業および効果的な指導をするためには、英語運用能力を十分に伸ばしておく必要がありますが、ほとんどの受講生は授業以外で英語でのコミュニケーションをする場が非常に少ないようです。この授業では、テキスト(教科書）を含めて、随所に英語を用います。また、グループワーク中心ですので、自分なりの見解を持って授業に臨むようにすれば、英語でも、日本語でも、コミュニケーションの楽しさと重要性を実感することができ、英語が苦手の学生でも乗り切れます。ぜひ、英語でのコミュニケーションの楽しさを生徒たちに伝えることを目指して積極的に参加してください。

【学生が準備すべき機器他】
テキスト（教科書）は、初回の授業に間に合うように購入し、持参してください。
学習支援システム、Google Classroom等を使用して授業を行うため、大学のアカウントでログインし、大学の電子メールを毎日確認してください。

【その他の重要事項】
この授業は中学校・高等学校などの英語教員をめざす学生を主な対象とし、授業への出席はもちろんのこと、授業前の準備、個人やグループでの作業や模擬授業、ディスカッションなどへの積極的な貢献が求められます。参加型の授業のため、自らの英語学習の経験談や分析、新しいアイディア、疑問、意見交換などを歓迎します。

【Outline (in English)】
In this course you will acquire basic knowledge and skills related to English teaching methodology and second language acquisition. While learning about the qualifications required of English teachers at junior and senior high schools, you will cultivate communicative competence in English necessary for effective instruction in the near future. The course also has as its goal to develop the ability to think and act on your own initiative to grasp the current situation and solve problems by observing the instructional context and individual learners. We will primarily review the theoretical foundations of English language teaching and deals with topics such as the history of English language education, language teaching methodologies, language learning styles and strategies, second language acquisition, the teaching of of English as an international language, intercultural understanding, the Course of Study, and lesson plans. This course must be taken in combination with English Teaching Methodology (2).Your work will be graded based primarily on your participation, reflective papers, and micro teaching. For this course, the preparation and review time of approximately 4 hours a week is recommended

英語科教育法（2）

望月　尚子

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：2019年度以降入学生用科目
英語科教育法（1）(2)は必ずセットで履修してください
（英文学科用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、日本の中学校英語教育の文脈において、第二言語言語習得理論と英語教授法理論の応用と実践を目指します。言語の記述と分析（文法・音韻・語彙・機能）、言語スキル指導、学習者のモチベーションやニーズ、学習スタイル、理論に基づく教授法とその実践、指導法や指導案作成などを扱います。受講生は、ワークショップ、ディスカッション、模擬授業を行い、将来的に授業の指導案を作成し、実施するための分析力と実践力を養います。

【到達目標】
英語科教育法や第二言語習得に関する基本的な知識や技能、また中学校・高等学校などの英語教員に必要とされる資質について学ぶと同時に、近い将来英語教員として効果的な指導をするために必要な英語運用能力を培う。英語教育の現場や個々の学習者を観察し、現状把握や問題解決に向けて自発的に考え行動できる能力の養成も目標とする。この授業では主に実践面を中心に、コミュニカティブな英語科教育のための 4 領域、4 技能統合型指導、文法・語彙などの指導、中・高における英語指導、早期英語教育と小学校での英語指導、テストなどの評価活動など教室指導と直接関連するテーマを取り上げる。なお、英語科教育法（１）とセットで履修する必要がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本講義は、講義、ディスカッション、実際に指導の練習を行う指導法に関するワークショップ、授業案を作成して実際に行う模擬授業で構成されています。受講生は、授業前に指定された教科書の範囲を読み、授業内のディスカッション参加し意見交換することで理解を深めることが求められます。模擬授業は、中・高の英語授業最初の１５分の設定で行うものと、授業最後にまとめとして実施するコミュニケーション活動を予定しています。本授業では、実践的な学習活動を中心に据え、ICTの活用を意識しながら、目的に応じた効果的な学習ツールの選定・活用方法について適宜取り上げます。
＜教師からのフィードバックについて＞
模擬授業に関しては直後のディスカッションでコメントし、より詳細なフィードバックは、Google classroomを通して行います。リフレクションとTake-home examについても、フィードバックは、一週間以内に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	英語学習経験・教員の資質と役割	英語学習経験の考察・言語活動
第2回	文法指導	言語構造・言語機能それぞれのアプローチ
第3回	発音・文字指導	音声・音韻・リンキング指導
第4回	ライティング指導	ジャンル理論とフィードバック、ワークショップ（リタラシー指導）
第5回	スピーキング指導	スピーキングアクティビティの種類と目的、ワークショップ（授業始まりのスピーキング）
第6回	学習者論	モチベーション
第7回	言語習得	言語接触とフォーカス・オン・フォーム ワークショップ（フォーカス・オン・フォーム)
第8回	英語教授法	言語教育のアプローチと指導法
第9回	中学校での指導	新出文法事項の導入、模擬授業、
第10回	評価と言語学習意欲、授業運営	教室内での教師の役割、模擬授業
第11回	小学校での英語教育	言語及び技能習得を促す練習活動とタスク
第12回	指導案	個別の授業および単元の計画、模擬授業
第13回	評価活動	評価方法と評価課題
第14回	まとめと考察	専門性向上と省察、今後の成長に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に指定されたテキスト（教科書）の範囲を読み、授業内のディスカッション参加し意見交換することで理解を深めることが求められます。・模擬授業の計画、練習、またTake-home examのための、授業外にグループでディスカッションをすることが求めらます。本授業の準備、復習時間は、各週計８時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Spratt, Pulverness, and Williams (2011). The TKT (Teaching Knowledge Test) Course, Modules 1,2 and 3. Cambridge University Press￥ Cambridge University Press (注)「TKT Course, Modules 1,2 and 3」を必ず購入してください。同じTKTで始まるタイトルでも、副題が違うものがあるので、注意してください。

【参考書】
中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
第二言語習得と英語科教育法（JACET教育問題研究会編著・開拓社）英語教育指導法事典（米山朝二著・研究社出版）

【成績評価の方法と基準】
１授業参加・貢献度・Reading 課題（２０％）*
２レポート（Take-home exam)(2)（２０％）
３模擬授業と指導案　（２０％）
４模擬授業の省察　（４０％）
*授業への参加を重視するため、授業６コマ相当の欠席をすると単位の履修が不可能となります。

【学生の意見等からの気づき】
英語教員として英語での授業および効果的な指導をするためには、英語運用能力を十分に伸ばしておく必要がありますが、ほとんどの受講生は授業以外で英語でのコミュニケーションをする場が非常に少ないようです。この授業では、テキスト(教科書）を含めて、随所に英語を用います。また、グループワーク中心ですので、自分なりの見解を持って授業に臨むようにすれば、英語でも、日本語でも、コミュニケーションの楽しさと重要性を実感することができ、英語が苦手の学生でも乗り切れます。ぜひ、英語でのコミュニケーションの楽しさを生徒たちに伝えることを目指して積極的に参加してください。

【学生が準備すべき機器他】
テキスト（教科書）は、初回の授業に間に合うように購入し、持参してください。
学習支援システム、Google Classroom等を使用して授業を行うため、大学のアカウントでログインし、大学の電子メールを毎日確認してください

【その他の重要事項】
この授業は中学校・高等学校などの英語教員をめざす学生を主な対象とし、授業への出席はもちろんのこと、授業前の準備、個人やグループでの作業や模擬授業、ディスカッションなどへの積極的な貢献が求められます。参加型の授業のため、自らの英語学習の経験談や分析、新しいアイディア、疑問、意見交換などを歓迎します。

【Outline (in English)】
In this course you will acquire basic knowledge and skills related to English teaching methodology and second language acquisition. While learning about the qualifications required of English teachers at junior and senior high schools, you will cultivate communicative competence in English necessary for effective instruction in the near future. The course also has as its goal to develop the ability to think and act on your own initiative to grasp the current situation and solve problems by observing the instructional context and individual learners. We will primarily focus on practical aspect of communicative language teaching and deals with topics of direct relevance to classroom instruction, such as the teaching of four and integrated skills, grammar and vocabulary instruction, English education in junior and senior high schools, early childhood education and elementary education for English, and testing and assessment. This course must be taken in combination with English Teaching Methodology (1). Your work will be graded based primarily on your participation, reflective papers, and micro teaching. For this course, the preparation and review time of approximately 4 hours a week is recommended.

英語科教育法Ⅱ

飯野　厚

単位：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
備考（履修条件等）：2018年度以前入学生用科目（国際文化用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語教師になるための基本的な資質を養う。応用言語学、第二言語習得論とその周辺領域の知識を身に着け、教室指導に応用できる実践的知識と指導力を養う。

【到達目標】
1)英語教育の現状に精通する
2)多様な語学指導法の存在を知り実践できる
3)基本的な指導技術を組み合わせた授業づくりと教室運営ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
担当教師によるワークショップと講義、学生によるプレゼンテーション・模擬授業を組み合わせた授業運営を行い、学生に主体的な学びの機会を提供しながら教育実践力を養う。学生の発表内容や模擬授業に関してその場で建設的なフィードバックを与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	英語教師に求められる資質とは：英語力、授業力、成長力
第2回	世界の中の英語	世界の言語事情からWorld Englishesまで
第3回	第二言語習得論概説	母語習得と第二言語習得の差異。コミュニケーション能力とは
第4回	学習指導要領	小学校、中学校、高等学校の英語教科書の分析
第5回	外国語教授法１	文法訳読法、直接教授法、
第6回	外国語教授法２	オーラルメソッド（パーマーメソッド）、オーディオリンガルメソッド
第7回	外国語指導法３	コミュニカティブアプローチ、ナチュラルアプローチ
第8回	外国語指導法４	TBLT、CBLT、CLIL
第9回	外国語指導法５	サイレントウェイ、サジェストペディア、TPR
第10回	音声指導	音素、音変化、プロソディ
第11回	語彙指導	受容語彙・発表語彙、機能語・内容語、語彙頻度とサイズ、意図的学習・偶発的学習
第12回	文法指導１	演繹的指導法、PPP式、明示的フィードバック
第13回	文法指導２	帰納的指導法、Focus on Form、暗示的フィードバック、気づき
第14回	まとめ	専門用語理解テスト
第15回	オリエンテーション	模擬授業割り振りと準備方法
第16回	授業展開	言語材料と言語活動、指導手順
第17回	指導案作成演習	教材研究と授業構成
第18回	教材・教具	英語教科書の現状、教育工学、ICT活用
第19回	四技能の指導：リスニング	オーラル・イントロダクション、シャドーイング、ディクテーションなど
第20回	四技能の指導：リーディング	フレーズ読み、パラグラフ読み、Q&Aによる理解、音読、速読、多読、訳読、スキミング、スキャニング
第21回	四技能の指導：スピーキング	パターン練習、再生、シャドーイング、スピーチ、ショー&テル、インフォギャップ、タスク
第22回	四技能の指導：ライティング	自由作文、制限作文、パラグラフ作文、要約、再現、和文英訳
第23回	四技能の統合的扱い	授業における言語要素、四技能、メソッド・指導技術の折衷
第24回	小学校英語	音声指導と文字指導、言語活動の実際
第25回	学習者要因	年齢、動機づけ、個人差、認知スタイル、主体的な学習者を育成するため具体例
第26回	テスト作成	到達度を測るテスト、4技能の問題形式
第27回	テスト結果の分析と評価	平均値と標準偏差、偏差値、形成的評価の実際、英語標準テストとCEFR
第28回	まとめ	指導案作成、諸課題に関する論述

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
(1)担当箇所のプレゼンテーションはHoppi授業内掲示板に前日までに投稿し、発表準備を行う（基本的にMicro-teachingを含めたワークショップ＋解説）
(2)秋学期には、中学校または高校教科書の指導案を作成する
(3)英語教育関連の研究会・学会に学期に１回参加し、参加レポートを書く（各学期）
(4)授業時間後に「学んだこと、感じたこと」を電子掲示板にコメントとして毎回書くく、次の授業の前にテキストや資料を読んでおく（合計約２時間程度を要する）

【テキスト（教科書）】
『新・グローバル時代の英語教育』(2020)成美堂

【参考書】
中学校学習指導要領（最新版）、高等学校学習指導要領（最新版）
『We Can』文部科学省　小学3，4年向
『Crown Junior』小学校英語教科書（三省堂）5,6年向
『New Crown English Series』中学校英語教科書（三省堂）
『My Way English Series』高校英語コミュニケーション教科書（三省堂）
『英語教育用語辞典』(大修館）
『現代英語教授法総覧』（大修館）

【成績評価の方法と基準】
学期末テスト50%、Term final exams 50 %
授業内活動・提出物　50%（模擬授業を含む発表40％；学外英語教育関連の学会・研究会参加レポート10％）

【学生の意見等からの気づき】
受講者の専門性（英文学科、国際文化学科、大学院など）の違いにより、英語教育学を支える関連諸科学の知識のバラつきが大きいことを踏まえて指導する。

【学生が準備すべき機器他】
オーディオ、ビデオ機器、パワーポイント、インターネットなどを常時使用する。また、レポートや連絡などに授業支援システムを頻繁に利用する（アクセス確保は自己責任）。

【その他の重要事項】
生徒の指導者たる教員になるための資格を付与するため科目である。当然のことながら、履修する学生には模範的かつ積極的な学習態度を求める。

【Outline (in English)】
In this course, the students will will learn basic knowledge on English Language Teaching, Applied Linguistics and Second Language Acquisition. They will become able to apply the knowledge to their practical instructional in English classrooms in junior and senior high schools.
Work to be done outside of class (preparation, etc.) :

(1) Slides for the students' presentations are to be prepared with Google Slides and shared with the instructor through HOPPI BBS.
(2)In Fall semester, writing a teaching plan for junior or high school level is required.
(3)It is required to participate in a professional conference or a research meeting at least once during the semester and a reporting paper need to be submitted.
Grading Criteria: Engagement in activities in the classes and required matters being submitted 50%(Micro-teaching practice and presentations 40%; Report on a professional meeting attended)
Learning activities outside of classroom ： The course takers will write their thoughts and feelings after every class in BBS in Hoppi system. They are also to read an assigned part of the textbook before the next class. It would take about two hours every week.

英語科教育法（3）

飯野　厚

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：2019年度以降入学生用科目
（国際文化用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語教師になるための基本的な資質を養う。応用言語学、第二言語習得論とその周辺領域の知識を身に着け、教室指導に応用できる実践的知識と指導力を養う。

【到達目標】
1)英語教育の現状に精通する
2)多様な語学指導法の存在を知り実践できる
3)基本的な指導技術を組み合わせた授業づくりとその実践ができる
4)授業においてICTを活用した指導ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
担当教師によるワークショップと講義、学生によるプレゼンテーション・模擬授業を組み合わせた授業運営を行い、学生に主体的な学びの機会を提供しながら教育実践力を養う。学生の発表内容や模擬授業に関してその場で建設的なフィードバックを与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	英語教師に求められる資質とは：英語力、授業力、成長力
第2回	世界の中の英語	世界の言語事情からWorld Englishesまで
第3回	第二言語習得論概説	母語習得と第二言語習得の差異。コミュニケーション能力とは
第4回	学習指導要領	小学校、中学校、高等学校の英語教科書の分析
第5回	外国語教授法１	文法訳読法、直接教授法（ICT活用含む）
第6回	外国語教授法２	オーラルメソッド（パーマーメソッド）、オーディオリンガルメソッド（ICT活用含む）
第7回	外国語教授法３	コミュニカティブアプローチ、ナチュラルアプローチ
第8回	外国語教授法４	TBLT、CBLT、CLIL（ICT活用含む）
第9回	外国語教授法５	サイレントウェイ、サジェストペディア、TPR（ICT活用含む）
第10回	音声指導	音素、音変化、プロソディ
第11回	語彙指導	受容語彙・発表語彙、機能語・内容語、語彙頻度とサイズ、意図的学習・偶発的学習
第12回	文法指導１	演繹的指導法、PPP方式、明示的フィードバック　（ICT活用含む）
第13回	文法指導２	帰納的指導法、Focus on Form、暗示的フィードバック、気づき　（ICT活用含む）
第14回	まとめ	応用言語学用語理解テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
(1)担当箇所のプレゼンテーションはHoppi授業内掲示板に前日までに投稿し、発表準備を行う（基本的にMicro-teachingを含めたワークショップ＋解説）
(2)英語教育関連の研究会・学会に学期に１回参加し、参加レポートを書く
(3)授業時間後に「学んだこと、感じたこと」を電子掲示板にコメントとして毎回書くく、次の授業の前にテキストや資料を読んでおく（合計約２時間程度を要する）。

【テキスト（教科書）】
『新・グローバル時代の英語教育』成美堂(2020)

【参考書】
中学校学習指導要領（最新版）、高等学校学習指導要領（最新版）
『We Can』文部科学省　小学3，4年向
『Crown Junior』小学校英語教科書（三省堂）5,6年向
『New Crown English Series』中学校英語教科書（三省堂）
『My Way English Series』高校英語コミュニケーション教科書(2013)三省堂
『英語教育用語辞典』(大修館)
『現代英語教授法総覧』（大修館）

【成績評価の方法と基準】
春学期末テスト50%
授業内活動・提出物　50%（模擬授業を含む発表40％；学外英語教育関連の学会・研究会参加レポート10％）

【学生の意見等からの気づき】
受講者の専門性（英文学科、国際文化学科、大学院など）の違いにより、英語教育学を支える関連諸科学の知識のバラつきが大きいことを踏まえて指導する。

【学生が準備すべき機器他】
オーディオ、ビデオ機器、パワーポイント、インターネットなどを常時使用する。また、レポートや連絡などに授業支援システムを頻繁に利用する（アクセス確保は自己責任）。

【その他の重要事項】
生徒の指導者たる教員になるための資格を付与するため科目である。当然のことながら、履修する学生には模範的かつ積極的な学習態度を求める。

【Outline (in English)】
In this course, the students will will learn basic knowledge on English Language Teaching, Applied Linguistics and Second Language Acquisition.　They will become able to apply the knowledge to their practical instructional in English classrooms in junior and senior high schools.
Work to be done outside of class (preparation, etc.) :
(1)Slides for the students presentations are to be prepared with Google Slides and shared with the instructor.
(2)It is required to participate in a professional conference or a research meeting at least once during the semester and a reporting paper need to be submitted.
Grading Criteria:Term final exam 50%
Engagement in activities in the classes 40%　((Micro-teaching practice and presentations)
Report submitted 10%(Report on a professional meeting attended)
Learning activities outside of classroom ： The course takers will write their thoughts and feelings after every class in BBS in Hoppi system. They are also to read an assigned part of the textbook before the next class. It would take about two hours every week.

英語科教育法（4）

飯野　厚

単位：**2単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
備考（履修条件等）：**2019年度以降入学生用科目（国際文化用）**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語教師になるための基本的な資質を養う。応用言語学、第二言語習得論とその周辺領域の知識を身に着け、教室指導に応用できる実践的知識と指導力を養う。

【到達目標】
1)英語と英語教育の現状に精通する
2)多様な語学指導法の存在を知り体験することができる
3)基本的な指導技術を組み合わせた授業づくりとその実践ができる
4)授業においてICTを活用した指導ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
担当教師によるワークショップと講義、学生によるプレゼンテーション・模擬授業を組み合わせた授業運営を行い、学生に主体的な学びの機会を提供しながら教育実践力を養う。学生の発表内容や模擬授業に関してその場で建設的なフィードバックを与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	模擬授業割り振りと準備方法
第2回	授業展開	言語材料と言語活動、指導手順（ICT活用含む）
第3回	指導案作成演習	教材研究と授業構成（ICT活用含む）
第4回	教材・教具	英語教科書の現状、教育工学、ICT活用
第5回	四技能の指導：リスニング	オーラル・イントロダクション、シャドーイング、ディクテーションなど（ICT活用含む）
第6回	四技能の指導：リーディング	フレーズ読み、パラグラフ読み、Q&Aによる理解、音読、速読、多読、訳読、スキミング、スキャニング
第7回	四技能の指導：スピーキング	パターン練習、再生、シャドーイング、スピーチ、ショー&テル、インフォギャップ、タスク
第8回	四技能の指導：ライティング	自由作文、制限作文、パラグラフ作文、要約、再現、和文英訳（ICT活用含む）
第9回	四技能のバランスと統合	授業における言語要素、四技能、メソッド・指導技術の折衷（ICT活用含む）
第10回	小学校英語	音声指導と文字指導、言語活動の実際 （ICT活用含む）
第11回	学習者要因	年齢、動機づけ、個人差、認知スタイル
第12回	テスト作成	主到達度を測るテスト、4技能の問題形式
第13回	テスト結果の分析と評価	平均値と標準偏差、偏差値、形成的評価の実際、英語標準テストとCEFR（ICT活用含む）
第14回	まとめ	指導案作成、諸課題に関する論述

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
(1)担当箇所のプレゼンテーションはHoppi 授業内掲示板に前日までに投稿し、発表準備を行う（基本的にMicro-teachingを含めたワークショップ＋解説）
(2)中学校または高校教科書の指導案を作成し提出する
(3)英語教育関連の研究会・学会に学期に１回参加し、参加レポートを書く
(4)授業時間後に「学んだこと、感じたこと」を電子掲示板にコメントとして毎回書くく、次の授業の前にテキストや資料を読んでおく（合計約２時間程度を要する）

【テキスト（教科書）】
『新・グローバル時代の英語教育』(2020)成美堂

【参考書】
中学校学習指導要領（最新版）、高等学校学習指導要領（最新版）
『We Can』文部科学省　小学3，4年向
『Crown Junior』小学校英語教科書（三省堂）5,6年向
『New Crown English Series』中学校英語教科書（三省堂）
『My Way English Series』高校英語コミュニケーション教科書(2013)三省堂
『英語教育用語辞典』(大修館)
『現代英語教授法総覧』（大修館）

【成績評価の方法と基準】
学期末テスト50%、Term final exam 50 %
授業内活動・提出物　50%（模擬授業を含む発表40％；学外英語教育関連の学会・研究会参加レポート10％）

【学生の意見等からの気づき】
受講者の専門性（英文学科、国際文化学科、大学院など）の違いにより、英語教育学を支える関連諸科学の知識のバラつきが大きいことを踏まえて指導する。

【学生が準備すべき機器他】
オーディオ、ビデオ機器、パワーポイント、インターネットなどを常時使用する。また、レポートや連絡などに授業支援システムを頻繁に利用する（アクセス確保は自己責任)。

【その他の重要事項】
生徒の指導者たる教員になるための資格を付与するため科目である。当然のことながら、履修する学生には模範的かつ積極的な学習態度を求める。

【Outline (in English)】
In this course, the students will learn about basic knowledge on English Language Teaching, Applied Linguistics and Second Language Acquisition.　They will become able to apply the knowledge to their practical instructional in English classrooms in junior and senior high schools.
(1)Slides for the students presentations are to be prepared with Google Slides and shared with the instructor.
(2)　Writing a teaching plan for junior or high school level is required.
(3)It is required to participate in a professional conference or a research meeting at least once during the semester and a reporting paper need to be submitted.
Grading Criteria:Term final exam 50%
Engagement in activities in the classes 40%　((Micro-teaching practice and presentations)
Report submitted 10%(Report on a professional meeting attended)
Learning activities outside of classroom ： The course takers will write their thoughts and feelings after every class in BBS in Hoppi system. They are also to read an assigned part of the textbook before the next class. It would take about two hours every week.

英語科教育法Ⅱ

飯野　厚

単位：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
備考（履修条件等）：2018年度以前入学生用科目（英文学科用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語教師になるための基本的な資質を養う。応用言語学、第二言語習得論とその周辺領域の知識を身に着け、教室指導に応用できる実践的知識と指導力を養う。

【到達目標】
1)英語教育の現状に精通する
2)多様な語学指導法の存在を知り実践できる
3)基本的な指導技術を組み合わせた授業づくりと教室運営ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
担当教師によるワークショップと講義、学生によるプレゼンテーション・模擬授業を組み合わせた授業運営を行い、学生に主体的な学びの機会を提供しながら教育実践力を養う。学生の発表内容や模擬授業に関してその場で建設的なフィードバックを与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	英語教師に求められる資質とは：英語力、授業力、成長力
第2回	世界の中の英語	世界の言語事情からWorld Englishesまで
第3回	第二言語習得論概説	母語習得と第二言語習得の差異。コミュニケーション能力とは
第4回	学習指導要領	小学校、中学校、高等学校の英語教科書の分析
第5回	外国語教授法１	文法訳読法、直接教授法、
第6回	外国語教授法２	オーラルメソッド（パーマーメソッド)、オーディオリンガルメソッド
第7回	外国語指導法３	コミュニカティブアプローチ、ナチュラルアプローチ
第8回	外国語指導法４	TBLT、CBLT、CLIL
第9回	外国語指導法５	サイレントウェイ、サジェストペディア、TPR
第10回	音声指導	音素、音変化、プロソディ
第11回	語彙指導	受容語彙・発表語彙、機能語・内容語、語彙頻度とサイズ、意図的学習・偶発的学習
第12回	文法指導１	演繹的指導法、PPP式、明示的フィードバック
第13回	文法指導２	帰納的指導法、Focus on Form、暗示的フィードバック、気づき
第14回	まとめ	専門用語理解テスト
第15回	オリエンテーション	模擬授業割り振りと準備方法
第16回	授業展開	言語材料と言語活動、指導手順
第17回	指導案作成演習	教材研究と授業構成
第18回	教材・教具	英語教科書の現状、教育工学、ICT活用
第19回	四技能の指導：リスニング	オーラル・イントロダクション、シャドーイング、ディクテーションなど
第20回	四技能の指導：リーディング	フレーズ読み、パラグラフ読み、Q&Aによる理解、音読、速読、多読、訳読、スキミング、スキャニング
第21回	四技能の指導：スピーキング	パターン練習、再生、シャドーイング、スピーチ、ショー&テル、インフォギャップ、タスク
第22回	四技能の指導：ライティング	自由作文、制限作文、パラグラフ作文、要約、再現、和文英訳
第23回	四技能の統合的扱い	授業における言語要素、四技能、メソッド・指導技術の折衷
第24回	小学校英語	音声指導と文字指導、言語活動の実際
第25回	学習者要因	年齢、動機づけ、個人差、認知スタイル、主体的な学習者を育成するため具体例
第26回	テスト作成	到達度を測るテスト、4技能の問題形式
第27回	テスト結果の分析と評価	平均値と標準偏差、偏差値、形成的評価の実際、英語標準テストとCEFR
第28回	まとめ	指導案作成、諸課題に関する論述

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
(1)担当箇所のプレゼンテーションはHoppi授業内掲示板に前日までに投稿し、発表準備を行う（基本的にMicro-teachingを含めたワークショップ＋解説）
(2)秋学期には、中学校または高校教科書の指導案を作成する
(3)英語教育関連の研究会・学会に学期に１回参加し、参加レポートを書く（各学期）
(4)授業時間後に「学んだこと、感じたこと」を電子掲示板にコメントとして毎回書くく、次の授業の前にテキストや資料を読んでおく（合計約２時間程度を要する）

【テキスト（教科書）】
『新・グローバル時代の英語教育』(2020)成美堂

【参考書】
中学校学習指導要領（最新版)、高等学校学習指導要領（最新版）
『We Can』文部科学省　小学3，4年向
『Crown Junior』小学校英語教科書（三省堂）5,6年向
『New Crown English Series』中学校英語教科書（三省堂）
『My Way English Series』高校英語コミュニケーション教科書（三省堂）
『英語教育用語辞典』(大修館）
『現代英語教授法総覧』（大修館）

【成績評価の方法と基準】
学期末テスト50%、Term final exams 50 %
授業内活動・提出物　50%（模擬授業を含む発表40％；学外英語教育関連の学会・研究会参加レポート10％）

【学生の意見等からの気づき】
受講者の専門性（英文学科、国際文化学科、大学院など）の違いにより、英語教育学を支える関連諸科学の知識のバラつきが大きいことを踏まえて指導する。

【学生が準備すべき機器他】
オーディオ、ビデオ機器、パワーポイント、インターネットなどを常時使用する。また、レポートや連絡などに授業支援システムを頻繁に利用する（アクセス確保は自己責任)。

【その他の重要事項】
生徒の指導者たる教員になるための資格を付与するため科目である。当然のことながら、履修する学生には模範的かつ積極的な学習態度を求める。

【Outline (in English)】
In this course, the students will will learn basic knowledge on English Language Teaching, Applied Linguistics and Second Language Acquisition. They will become able to apply the knowledge to their practical instructional in English classrooms in junior and senior high schools.
Work to be done outside of class (preparation, etc.) :

(1) Slides for the students' presentations are to be prepared with Google Slides and shared with the instructor through HOPPI BBS.
(2)In Fall semester, writing a teaching plan for junior or high school level is required.
(3)It is required to participate in a professional conference or a research meeting at least once during the semester and a reporting paper need to be submitted.
Grading Criteria: Engagement in activities in the classes and required matters being submitted 50%(Micro-teaching practice and presentations 40%; Report on a professional meeting attended)
Learning activities outside of classroom ： The course takers will write their thoughts and feelings after every class in BBS in Hoppi system. They are also to read an assigned part of the textbook before the next class. It would take about two hours every week.

英語科教育法（3）

飯野　厚

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：2019年度以降入学生用科目
（英文学科用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語教師になるための基本的な資質を養う。応用言語学、第二言語習得論とその周辺領域の知識を身に着け、教室指導に応用できる実践的知識と指導力を養う。

【到達目標】
1)英語教育の現状に精通する
2)多様な語学指導法の存在を知り実践できる
3)基本的な指導技術を組み合わせた授業づくりとその実践ができる
4)授業においてICTを活用した指導ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
担当教師によるワークショップと講義、学生によるプレゼンテーション・模擬授業を組み合わせた授業運営を行い、学生に主体的な学びの機会を提供しながら教育実践力を養う。学生の発表内容や模擬授業に関してその場で建設的なフィードバックを与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	英語教師に求められる資質とは：英語力、授業力、成長力
第2回	世界の中の英語	世界の言語事情からWorld Englishesまで
第3回	第二言語習得論概説	母語習得と第二言語習得の差異。コミュニケーション能力とは
第4回	学習指導要領	小学校、中学校、高等学校の英語教科書の分析
第5回	外国語教授法１	文法訳読法、直接教授法（ICT活用含む）
第6回	外国語教授法２	オーラルメソッド（パーマーメソッド）、オーディオリンガルメソッド（ICT活用含む）
第7回	外国語教授法３	コミュニカティブアプローチ、ナチュラルアプローチ
第8回	外国語教授法４	TBLT、CBLT、CLIL（ICT活用含む）
第9回	外国語教授法５	サイレントウェイ、サジェストペディア、TPR（ICT活用含む）
第10回	音声指導	音素、音変化、プロソディ
第11回	語彙指導	受容語彙・発表語彙、機能語・内容語、語彙頻度とサイズ、意図的学習・偶発的学習
第12回	文法指導１	演繹的指導法、PPP方式、明示的フィードバック　（ICT活用含む）
第13回	文法指導２	帰納的指導法、Focus on Form、暗示的フィードバック、気づき　（ICT活用含む）
第14回	まとめ	応用言語学用語理解テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
(1)担当箇所のプレゼンテーションはHoppi授業内掲示板に前日までに投稿し、発表準備を行う（基本的にMicro-teachingを含めたワークショップ＋解説）
(2)英語教育関連の研究会・学会に学期に１回参加し、参加レポートを書く
(3)授業時間後に「学んだこと、感じたこと」を電子掲示板にコメントとして毎回書くく、次の授業の前にテキストや資料を読んでおく（合計約２時間程度を要する）。

【テキスト（教科書）】
『新・グローバル時代の英語教育』成美堂(2020)

【参考書】
中学校学習指導要領（最新版）、高等学校学習指導要領（最新版）
『We Can』文部科学省　小学3，4年向
『Crown Junior』小学校英語教科書（三省堂）5,6年向
『New Crown English Series』中学校英語教科書（三省堂）
『My Way English Series』高校英語コミュニケーション教科書(2013)三省堂
『英語教育用語辞典』(大修館)
『現代英語教授法総覧』（大修館）

【成績評価の方法と基準】
春学期末テスト50%
授業内活動・提出物　50%（模擬授業を含む発表40％；学外英語教育関連の学会・研究会参加レポート10％）

【学生の意見等からの気づき】
受講者の専門性（英文学科、国際文化学科、大学院など）の違いにより、英語教育学を支える関連諸科学の知識のバラつきが大きいことを踏まえて指導する。

【学生が準備すべき機器他】
オーディオ、ビデオ機器、パワーポイント、インターネットなどを常時使用する。また、レポートや連絡などに授業支援システムを頻繁に利用する（アクセス確保は自己責任）。

【その他の重要事項】
生徒の指導者たる教員になるための資格を付与するため科目である。当然のことながら、履修する学生には模範的かつ積極的な学習態度を求める。

【Outline (in English)】
In this course, the students will will learn basic knowledge on English Language Teaching, Applied Linguistics and Second Language Acquisition.　They will become able to apply the knowledge to their practical instructional in English classrooms in junior and senior high schools.
Work to be done outside of class (preparation, etc.) :
(1)Slides for the students presentations are to be prepared with Google Slides and shared with the instructor.
(2)It is required to participate in a professional conference or a research meeting at least once during the semester and a reporting paper need to be submitted.
Grading Criteria:Term final exam 50%
Engagement in activities in the classes 40%　((Micro-teaching practice and presentations)
Report submitted 10%(Report on a professional meeting attended)
Learning activities outside of classroom ： The course takers will write their thoughts and feelings after every class in BBS in Hoppi system. They are also to read an assigned part of the textbook before the next class. It would take about two hours every week.

英語科教育法（4）

飯野　厚

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：2019年度以降入学生用科目
（英文学科用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語教師になるための基本的な資質を養う。応用言語学、第二言語習得論とその周辺領域の知識を身に着け、教室指導に応用できる実践的知識と指導力を養う。

【到達目標】
1)英語と英語教育の現状に精通する
2)多様な語学指導法の存在を知り体験することができる
3)基本的な指導技術を組み合わせた授業づくりとその実践ができる
4)授業においてICTを活用した指導ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
担当教師によるワークショップと講義、学生によるプレゼンテーション・模擬授業を組み合わせた授業運営を行い、学生に主体的な学びの機会を提供しながら教育実践力を養う。学生の発表内容や模擬授業に関してその場で建設的なフィードバックを与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	模擬授業割り振りと準備方法
第2回	授業展開	言語材料と言語活動、指導手順（ICT活用含む）
第3回	指導案作成演習	教材研究と授業構成（ICT活用含む）
第4回	教材・教具	英語教科書の現状、教育工学、ICT活用
第5回	四技能の指導：リスニング	オーラル・イントロダクション、シャドーイング、ディクテーションなど（ICT活用含む）
第6回	四技能の指導：リーディング	フレーズ読み、パラグラフ読み、Q&Aによる理解、音読、速読、多読、訳読、スキミング、スキャニング
第7回	四技能の指導：スピーキング	パターン練習、再生、シャドーイング、スピーチ、ショー&テル、インフォギャップ、タスク
第8回	四技能の指導：ライティング	自由作文、制限作文、パラグラフ作文、要約、再現、和文英訳（ICT活用含む）
第9回	四技能のバランスと統合	授業における言語要素、四技能、メソッド・指導技術の折衷（ICT活用含む）
第10回	小学校英語	音声指導と文字指導、言語活動の実際 （ICT活用含む）
第11回	学習者要因	年齢、動機づけ、個人差、認知スタイル
第12回	テスト作成	主到達度を測るテスト、4技能の問題形式
第13回	テスト結果の分析と評価	平均値と標準偏差、偏差値、形成的評価の実際、英語標準テストとCEFR（ICT活用含む）
第14回	まとめ	指導案作成、諸課題に関する論述

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
(1)担当箇所のプレゼンテーションはHoppi 授業内掲示板に前日までに投稿し、発表準備を行う（基本的にMicro-teachingを含めたワークショップ＋解説）
(2)中学校または高校教科書の指導案を作成し提出する
(3)英語教育関連の研究会・学会に学期に１回参加し、参加レポートを書く
(4)授業時間後に「学んだこと、感じたこと」を電子掲示板にコメントとして毎回書くく、次の授業の前にテキストや資料を読んでおく（合計約２時間程度を要する）

【テキスト（教科書）】
『新・グローバル時代の英語教育』(2020)成美堂

【参考書】
中学校学習指導要領（最新版）、高等学校学習指導要領（最新版）
『We Can』文部科学省　小学3，4年向
『Crown Junior』小学校英語教科書（三省堂）5,6年向
『New Crown English Series』中学校英語教科書（三省堂）
『My Way English Series』高校英語コミュニケーション教科書(2013)三省堂
『英語教育用語辞典』(大修館)
『現代英語教授法総覧』（大修館）

【成績評価の方法と基準】
学期末テスト50%、Term final exam 50 %
授業内活動・提出物　50%（模擬授業を含む発表40％；学外英語教育関連の学会・研究会参加レポート10％）

【学生の意見等からの気づき】
受講者の専門性（英文学科、国際文化学科、大学院など）の違いにより、英語教育学を支える関連諸科学の知識のバラつきが大きいことを踏まえて指導する。

【学生が準備すべき機器他】
オーディオ、ビデオ機器、パワーポイント、インターネットなどを常時使用する。また、レポートや連絡などに授業支援システムを頻繁に利用する（アクセス確保は自己責任)。

【その他の重要事項】
生徒の指導者たる教員になるための資格を付与するため科目である。当然のことながら、履修する学生には模範的かつ積極的な学習態度を求める。

【Outline (in English)】
In this course, the students will learn about basic knowledge on English Language Teaching, Applied Linguistics and Second Language Acquisition.　They will become able to apply the knowledge to their practical instructional in English classrooms in junior and senior high schools.
(1)Slides for the students presentations are to be prepared with Google Slides and shared with the instructor.
(2)　Writing a teaching plan for junior or high school level is required.
(3)It is required to participate in a professional conference or a research meeting at least once during the semester and a reporting paper need to be submitted.
Grading Criteria:Term final exam 50%
Engagement in activities in the classes 40%　((Micro-teaching practice and presentations)
Report submitted 10%(Report on a professional meeting attended)
Learning activities outside of classroom ： The course takers will write their thoughts and feelings after every class in BBS in Hoppi system. They are also to read an assigned part of the textbook before the next class. It would take about two hours every week.

中国語科教育法（1）

渡辺　昭太

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、中学校・高等学校の『学習指導要領』（外国語科）や『外国語教育のめやす』、及び現役中国語教員の手記や最新の教育方法に関する文献など精読しつつ、日本の中学校・高等学校における中国語教育の目標及び現状、必要な心構えなどを理解する。また、中国語教育を行う際に必要となる中国語の体系的な知識を身に付けるため、中国語学および中国語教育、外国語教育に関する専門書や資料を講読し、その知識を教育の場にいかに応用するかを考える。授業は、講義形式と演習形式を組み合わせて行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（テーマ別模擬指導、関連書籍・資料の輪読発表など）を行う機会も設ける。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下の通りである。
（1）外国語科の『学習指導要領』や『外国語教育のめやす』等、中国語教育・外国語教育に関する資料や文献の精読・検討を行い、中学校・高等学校における中国語教育の目標や在り方、現状を適切に理解する。
（2）中国語のテキストで扱う諸項目を、中国語学の観点を交えつつ分析し、指導時にどのような工夫が必要かを考え、受講生に中国語の総合的なコミュニケーション能力を身に付けさせるための適切な指導ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・授業は講義形式と演習形式を組み合わせて行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（テーマ別模擬指導、関連書籍・資料の輪読発表など）を行う機会も設ける。
・授業内容に関する質問等は毎回の授業時に受け付ける。また、課題へのコメントやフィードバックは授業時に直接、あるいはメールや学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・シラバスを確認し、授業の概要を把握する。
第2回	日本における中国語教育	・各種資料を精読しつつ、日本における中国語教育の歴史と現状、動向（最新の取り組みなど）を理解する。
第3回	高等学校学習指導要領（外国語科）	・高等学校学習指導要領（外国語科）を精読・検討し、各科目の目標や内容を高等学校の中国語科にどのように応用すべきか考える。
第4回	中国語教育のガイドライン『外国語学習のめやす』	・中国語教育のガイドラインである『外国語学習のめやす』（国際文化フォーラム編）を精読・検討し、理解を深める。
第5回	中国語教育に影響を与えた外国語教授法	・中国語教育に影響を与えた外国語教授法や教具、現役教員の実践などを概観し、理解を深める。
第6回	中国語学の教育への応用と模擬指導―中国の言語事情―	・中国の複雑な言語状況への理解を深め、学習者に正しい認識を促すための工夫や指導法を考える。
第7回	中国語学の教育への応用と模擬指導―発音とピンイン―	・発音及びピンイン（アルファベットを用いた中国語音声表記法）への理解を深める。
第8回	中国語学の教育への応用と模擬指導―中国語の類型論的特徴―	・中国語の類型論的特徴を考察し、学習者に正しい認識を促すための工夫や指導法を考える。
第9回	中国語学の教育への応用と模擬指導―動詞述語文―	・中国語の基本文型「動詞述語文」に関して学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第10回	中国語学の教育への応用と模擬指導―形容詞述語文―	・中国語の基本文型「形容詞述語文」に関して学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第11回	中国語学の教育への応用と模擬指導―連体修飾表現―	・中国語の連体修飾表現について学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第12回	中国語学の教育への応用と模擬指導―補語―	・中国語の補語について学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第13回	中国語学の教育への応用と模擬指導―さまざまな構文―	・中国語のさまざまな構文について学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第14回	中国語の総合的コミュニケーション能力の育成に向けて	・この授業で学んだ内容を有機的に連携させつつ、中国語の総合的コミュニケーション能力育成のための教育方法を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・配付資料を熟読すると共に、各自で学習のまとめのノートを作成し、学習内容の定着をはかること。
・本授業の準備学修・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。必要な資料は担当教員が適宜準備する。

【参考書】
・『高等学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領』（最新版　文部科学省）
・『高等学校学習指導要領・解説　外国語編・英語編』（最新版　文部科学省）
・『中学校学習指導要領・解説　外国語編』（最新版　文部科学省）
・『外国語教育のめやす　高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』（2013年，公益財団法人国際文化フォーラム）
・森住衛 他（編）（2016）.『外国語教育は英語だけでいいのか ―グローバル社会は多言語だ!』，くろしお出版.
・境一三 他（2022）.『外国語教育を変えるために』，三修社.
・稲垣忠、鈴木克明（2015）.『授業設計マニュアルVer.2: 教師のためのインストラクショナルデザイン』，北大路書房.
・胡玉華（2009）.『中国語教育とコミュニケーション能力の育成―「わかる」中国語から「できる」中国語へ』，東方書店.
・相原茂 他（2016）.『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書　新訂版』，同学社.
・三宅登之（2012）.『中級中国語　読み解く文法』，白水社.
・木村英樹（2017）.『中国語はじめの一歩［新版］』（ちくま学芸文庫），筑摩書房.
・劉月華・潘文娯・故韡（2019）.《実用現代漢語語法（第三版）》，北京：商務印書館.

【成績評価の方法と基準】
・発表（輪読発表、質疑応答など）を50％、期末レポートを50％として合計100点満点とし、60点以上の成績で合格とする。
・定期試験は実施せず、上記の各課題によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。必要な場合は教員側で準備する。

【その他の重要事項】
・授業に関する連絡は学習支援システム通じて行うので、随時確認すること。
・本科目は国際文化学部の自由科目としても受講可能である。
・中国語科教育法(1)と(2)は同一セメスターでセット履修すること。

【Outline (in English)】
【Outline】
In this course, we will try to grasp the present conditions of Chinese education in high school and junior high school through reading relevant materials including the Courses of Study. Moreover, to acquire enough systematic knowledge of Chinese grammar, we will also read various materials on Chinese linguistics, Chinese teaching and foreign language teaching, and consider how to apply the knowledge to education.
【Goal】
The goals of this course are as follows:
(1) To grasp the present conditions of Chinese education in high school and junior high school in Japan through reading relevant materials including the Courses of Study.
(2) To acquire enough systematic knowledge of Chinese grammar through reading various materials on Chinese linguistics, Chinese teaching and foreign language teaching, and consider how to apply the knowledge to education.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
· After every class, students are required to review the materials.
· Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading criteria】
· Grading will be decided based on presentation (50%) and term-end report (50%).
· No final exam will be held in this course.

中国語科教育法（2）

渡辺　昭太

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、中学校・高等学校の『学習指導要領』（外国語科）や『外国語教育のめやす』、及び現役中国語教員の手記や最新の教育方法に関する文献など精読しつつ、日本の中学校・高等学校における中国語教育の目標及び現状、必要な心構えなどを理解する。また、中国語教育を行う際に必要となる中国語の体系的な知識を身に付けるため、中国語学および中国語教育、外国語教育に関する専門書や資料を講読し、その知識を教育の場にいかに応用するかを考える。授業は、講義形式と演習形式を組み合わせて行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（テーマ別模擬指導、関連書籍・資料の輪読発表など）を行う機会も設ける。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下の通りである。
（1）外国語科の『学習指導要領』や『外国語教育のめやす』等、中国語教育・外国語教育に関する資料や文献の精読・検討を行い、中学校・高等学校における中国語教育の目標や在り方、現状を適切に理解する。
（2）中国語のテキストで扱う諸項目を、中国語学の観点を交えつつ分析し、指導時にどのような工夫が必要かを考え、受講生に中国語の総合的なコミュニケーション能力を身に付けさせるための適切な指導ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・授業は講義形式と演習形式を組み合わせて行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（テーマ別模擬指導、関連書籍・資料の輪読発表など）を行う機会も設ける。
・授業内容に関する質問等は毎回の授業時に受け付ける。また、課題へのコメントやフィードバックは授業時に直接、あるいはメールや学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	これまでの中国語学習の振り返り	・受講生のこれまでの中国語学習に関して振り返り、疑問点などを共有する。
第2回	中国語教育の意義	・各種資料を精読しつつ、公教育における中国語教育の意義について考える。
第3回	中学校学習指導要領（外国語科）	・中学校学習指導要領（外国語科）を精読・検討し、各科目の目標や内容を中学校の中国語科にどのように応用すべきか考える。
第4回	『外国語学習のめやす』の応用	・『外国語学習のめやす』が提案する学習内容や学習方法を中学校及び高等学校の中国語科にどのように応用すべきか検討する。
第5回	ICT（各種情報機器）の有効活用	・現役教員の実践を紹介しつつ、eラーニングやブレンド型学習の役割や在り方について考察する。
第6回	中国語学の教育への応用と模擬指導―現代中国語（普通話）―	・中学校および高等学校の中国語教育で扱う「現代中国語（普通話）」の概説を行い、学習者に正しい認識を促すための工夫や指導法を考える。
第7回	中国語学の教育への応用と模擬指導―発音指導の留意点―	・発音及びピンイン（アルファベットを用いた中国語音声表記法）の指導時に留意すべき点を考える。
第8回	中国語学の教育への応用と模擬指導―基本的文法構造―	・中国語の基本的な文法構造を学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第9回	中国語学の教育への応用と模擬指導―名詞述語文―	・中国語の基本文型「名詞述語文」に関して学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第10回	中国語学の教育への応用と模擬指導―主述述語文―	・中国語の基本文型「主述述語文」に関して学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第11回	中国語学の教育への応用と模擬指導―連用修飾表現―	・中国語の連用修飾表現について学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第12回	中国語学の教育への応用と模擬指導―助動詞―	・中国語の助動詞について学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第13回	中国語学の教育への応用と模擬指導―さまざまな複文―	・中国語のさまざまな複文について学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第14回	全体のまとめと振り返り	・この授業で学習した項目を振り返りつつ、疑問点などを議論し合う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・配付資料を熟読すると共に、各自で学習のまとめのノートを作成し、学習内容の定着をはかること。
・本授業の準備学修・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。必要な資料は担当教員が適宜準備する。

【参考書】
・『高等学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領』（最新版　文部科学省）
・『高等学校学習指導要領・解説　外国語編・英語編』（最新版　文部科学省）
・『中学校学習指導要領・解説　外国語編』（最新版　文部科学省）
・『外国語教育のめやす　高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』（2013年，公益財団法人国際文化フォーラム）
・森住衛 他（編）（2016）.『外国語教育は英語だけでいいのか ―グローバル社会は多言語だ!』，くろしお出版.
・境一三 他（2022）.『外国語教育を変えるために』，三修社.
・稲垣忠、鈴木克明（2015）.『授業設計マニュアルVer.2: 教師のためのインストラクショナルデザイン』，北大路書房.
・胡玉華（2009）.『中国語教育とコミュニケーション能力の育成―「わかる」中国語から「できる」中国語へ』，東方書店.
・相原茂 他（2016）.『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書　新訂版』，同学社.
・三宅登之（2012）.『中級中国語　読み解く文法』，白水社.
・木村英樹（2017）.『中国語はじめの一歩［新版］』（ちくま学芸文庫），筑摩書房.
・劉月華・潘文娯・故韡（2019）.《実用現代漢語語法（第三版）》，北京：商務印書館.

【成績評価の方法と基準】
・発表（輪読発表、質疑応答など）を50％、期末レポートを50％として合計100点満点とし、60点以上の成績で合格とする。
・定期試験は実施せず、上記の各課題によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。必要な場合は教員側で準備する。

【その他の重要事項】
・授業に関する連絡は学習支援システム通じて行うので、随時確認すること。
・本科目は国際文化学部の自由科目としても受講可能である。
・中国語科教育法(1)と(2)は同一セメスターでセット履修すること。

【Outline (in English)】
【Outline】
In this course, we will try to grasp the present conditions of Chinese education in high school and junior high school through reading relevant materials including the Courses of Study. Moreover, to acquire enough systematic knowledge of Chinese grammar, we will also read various materials on Chinese linguistics, Chinese teaching and foreign language teaching, and consider how to apply the knowledge to education.
【Goal】
The goals of this course are as follows:
(1) To grasp the present conditions of Chinese education in high school and junior high school in Japan through reading relevant materials including the Courses of Study.
(2) To acquire enough systematic knowledge of Chinese grammar through reading various materials on Chinese linguistics, Chinese teaching and foreign language teaching, and consider how to apply the knowledge to education.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
· After every class, students are required to review the materials.
· Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading criteria】
· Grading will be decided based on presentation (50%) and term-end report (50%).
· No final exam will be held in this course.

中国語科教育法（3）

渡辺　昭太

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学習指導要領では、外国語科の目標として「外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。」ということが明示されている。この目的を達成するためには、教師は中国語や中国文化に対する深い理解に加えて、適切な指導方法を身に付ける必要がある。本授業では、中国語教材の分析や模擬授業の実践を通じて、中国語教育を行う際に必要な知識や技術を身につけられるようにする。授業は、講義形式と演習形式を組み合わせて行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（教材分析の結果報告、模擬授業など）を行う機会も設ける。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下の通りである。
（1）教材分析を通じて各教材の特徴を理解・把握し、各項目を適切に指導できるようになる。
（2）テストや評価方法に関する学習を通じて、自分の行った教育の効果・達成度を適切に測ることができるようになる。
（3）模擬授業の準備・実践を通じて、授業計画の立て方や学習指導案の作り方を学び、自分で主体的に「授業づくり」ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・授業は講義形式と演習形式を組み合わせて行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（教材分析の結果報告、模擬授業など）を行う機会も設ける。
・授業内容に関する質問等は毎回の授業時に受け付ける。また、課題へのコメントやフィードバックは授業時に直接、あるいはメールや学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・シラバスを確認し、授業の概要を把握する。
第2回	教材研究―大学生向け教科書―	・大学生向けの教科書を取り上げ、それを中学校及び高校で利用する際に留意すべき点を考える。
第3回	教材研究―初級者向け文法書―	・初級者向けの文法書を取り上げ、各文法書の特徴に関して考察する。
第4回	教材研究―電子辞書・オンライン辞典等の活用―	・各種辞書を取り上げながら、情報機器（PC等）やICT教具の効果的な活用を考える。
第5回	教材分析の準備―教科書選定―	・各受講生が分析を行う教科書の選定を行う。
第6回	教材分析の実践―教科書の全体的分析―	・選択した教科書の特徴（コンセプトや構成など）を考察し、自分なりにまとめる。
第7回	教材分析の発表―教科書の全体的特徴―	・選択した教科書の分析結果を発表し、その特徴や利用時の留意点について議論する。
第8回	授業研究―授業の組み立て方―	・中国語の授業の組み立て方（導入・展開・まとめ、練習方法等）について学習する。
第9回	授業研究―学習指導案の確認―	・学習指導案の様々な実例を確認し、学習指導要領との関連、形式や一般的な記述事項を確認する。
第10回	授業研究―テストと評価―	・テストと評価に関して学習し、効果的なテストの作成方法と適切な評価方法について検討する。
第11回	模擬授業の準備―教科書の選定―	・模擬授業で利用する教科書の選定を行う。
第12回	学習指導案の作成―作成前の確認―	・学習指導要領を踏まえ、どのような学習者に対して、どのような授業を行うのかを想定しつつ、記入すべき必要事項の確認などを行う。
第13回	模擬授業と講評―実践―	・受講生による模擬授業を行う。
第14回	中国語の総合的コミュニケーション能力を育成する授業の構築に向けて	・この授業で学んだ内容を有機的に連携させつつ、中国語の総合的コミュニケーション能力を育成するための授業方法（基礎的内容から発展的内容まで）を全員で検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・配付資料を熟読すると共に、各自で学習のまとめのノートを作成し、学習内容の定着をはかること。
・本授業の準備学修・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。必要な資料は担当教員が適宜準備する。

【参考書】
・『高等学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領』（最新版　文部科学省）
・『高等学校学習指導要領・解説　外国語編・英語編』（最新版　文部科学省）
・『中学校学習指導要領・解説　外国語編』（最新版　文部科学省）
・『外国語教育のめやす　高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』（2013年，公益財団法人国際文化フォーラム）
・森住衛 他（編）（2016）.『外国語教育は英語だけでいいのか ―グローバル社会は多言語だ!』，くろしお出版.
・境一三 他（2022）.『外国語教育を変えるために』，三修社.
・稲垣忠、鈴木克明（2015）.『授業設計マニュアルVer.2: 教師のためのインストラクショナルデザイン』，北大路書房.
・胡玉華（2009）.『中国語教育とコミュニケーション能力の育成――「わかる」中国語から「できる」中国語へ』，東方書店.
・相原茂 他（2016）.『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書　新訂版』，同学社.
・三宅登之（2012）.『中級中国語　読み解く文法』，白水社.
・木村英樹（2017）.『中国語はじめの一歩［新版］』（ちくま学芸文庫），筑摩書房.
・劉月華・潘文娯・故韡（2019）.《実用現代漢語語法（第三版）》，北京：商務印書館.

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業への積極的参加度、適切な質疑応答など）を30％、教材分析（分析結果をまとめたレポート及び発表）を30%、模擬授業（含・学習指導案作成）を40％として合計100点満点とし、60点以上の成績で合格とする。
・定期試験は実施せず、上記の各課題によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。必要な場合は教員側で準備する。

【その他の重要事項】
・授業に関する連絡は学習支援システム通じて行うので、随時確認すること。
・本科目は国際文化学部の自由科目としても受講可能である。

・中国語科教育法(3)と(4)は同一セメスターでセット履修すること。

【Outline (in English)】
【Outline】
In this course, we will acquire knowledge which is required in Chinese education for high school and junior high school students through analyzing teaching materials, and also improve students' Chinese teaching skills to achieve goals which is shown in the Courses of Study by practical trial lessons.
【Goal】
The goals of this course are as follows:
(1) Through the analysis of teaching materials, students will be able to understand characteristics of teaching materials and teach grammatical items appropriately.
(2) Through learning about tests and evaluation methods, students will be able to measure the effectiveness and achievement of their teaching appropriately.
(3) Through the preparation and practical trial lessons, students will learn how to make lesson plans and be able to make lessons on their own.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
· After every class, students are required to review the materials.
· Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading criteria】
· Grading will be decided based on in-class contribution (30%), analysis of teaching materials (30%) and practical trial lessons (40%).
· No final exam will be held in this course.

中国語科教育法（4）

渡辺　昭太

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学習指導要領では、外国語科の目標として「外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。」ということが明示されている。この目的を達成するためには、教師は中国語や中国文化に対する深い理解に加えて、適切な指導方法を身に付ける必要がある。本授業では、中国語教材の分析や模擬授業の実践を通じて、中国語教育を行う際に必要な知識や技術を身につけられるようにする。授業は、講義形式と演習形式を組み合わせて行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（教材分析の結果報告、模擬授業など）を行う機会も設ける。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下の通りである。
(1) 教材分析を通じて各教材の特徴を理解・把握し、各項目を適切に指導できるようになる。
(2) テストや評価方法に関する学習を通じて、自分の行った教育の効果・達成度を適切に測ることができるようになる。
(3) 模擬授業の準備・実践を通じて、授業計画の立て方や学習指導案の作り方を学び、自分で主体的に「授業づくり」ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・授業は講義形式と演習形式を組み合わせて行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（教材分析の結果報告、模擬授業など）を行う機会も設ける。
・授業内容に関する質問等は毎回の授業時に受け付ける。また、課題へのコメントやフィードバックは授業時に直接、あるいはメールや学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	これまでの中国語授業の振り返り	・受講生がこれまでに受けた中国語の授業を振り返り、疑問点や気づいた点を共有する。
第2回	教材研究―中高生向け教科書―	・中高生向けの教科書を取り上げ、その特徴を分析し、指導の際に留意すべき点を考える。
第3回	教材研究―中級者向け文法書―	・中級者向けの文法書を取り上げ、各文法書の特徴に関して考察する。
第4回	教材研究―各種データベース／電子コーパスの活用―	・各種データベース／電子コーパスを取り上げ、ICT教材や情報機器の活用方法を検討する。
第5回	教材分析の準備―単元選定―	・各受講生が分析を行う単元の選定を行う。
第6回	教材分析の実践―各単元の分析―	・選択した各単元の特徴（説明方法や構成など）を考察し、自分なりにまとめる。
第7回	教材分析の発表―各単元の特徴―	・選択した単元の分析結果を発表し、その特徴や指導時に注意すべきことなどについて議論する。
第8回	授業研究―各技能の指導法―	・学習指導要領を踏まえ、中国語の4技能（読む、書く、聞く、話す）の指導法について学習する。
第9回	授業研究―学習指導案作成上の留意事項―	・学習指導要領を踏まえ、学習指導案作成の際に留意すべきことを検討する。
第10回	授業研究―継続的学習を促す方法―	・学習者が中国語学習を継続的に行える仕組みや工夫、評価について検討する。
第11回	模擬授業の準備―単元の選定―	・模擬授業で扱う単元の選定を行う。
第12回	学習指導案の作成―作成―	・模擬授業の実施に向けて、学習指導要領を踏まえ、学習指導案を作成する。
第13回	模擬授業と講評―講評―	・各受講生の模擬授業に対する講評を全員で行う。
第14回	全体のまとめと振り返り	・この授業で学習した項目を振り返りつつ、疑問点などを議論し合う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・配付資料を熟読すると共に、各自で学習のまとめのノートを作成し、学習内容の定着をはかること。
・本授業の準備学修・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。必要な資料は担当教員が適宜準備する。

【参考書】
・『高等学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領』（最新版　文部科学省）
・『高等学校学習指導要領・解説　外国語編・英語編』（最新版　文部科学省）
・『中学校学習指導要領・解説　外国語編』（最新版　文部科学省）
・『外国語教育のめやす　高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』（2013年，公益財団法人国際文化フォーラム）
・森住衛 他（編）（2016）.『外国語教育は英語だけでいいのか ―グローバル社会は多言語だ!』，くろしお出版.
・境一三 他（2022）.『外国語教育を変えるために』，三修社.
・稲垣忠、鈴木克明（2015）.『授業設計マニュアルVer.2: 教師のためのインストラクショナルデザイン』，北大路書房.
・胡玉華（2009）.『中国語教育とコミュニケーション能力の育成―「わかる」中国語から「できる」中国語へ』，東方書店.
・相原茂 他（2016）.『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書　新訂版』，同学社.
・三宅登之（2012）.『中級中国語　読み解く文法』，白水社.
・木村英樹（2017）.『中国語はじめの一歩［新版］』（ちくま学芸文庫），筑摩書房.
・劉月華・潘文娯・故韡（2019）.《実用現代漢語語法（第三版）》，北京：商務印書館.

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業への積極的参加度、適切な質疑応答など）を30％、教材分析（分析結果をまとめたレポート及び発表）を30%、模擬授業（含・学習指導案作成）を40％として合計100点満点とし、60点以上の成績で合格とする。
・定期試験は実施せず、上記の各課題によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。必要な場合は教員側で準備する。

【その他の重要事項】
・授業に関する連絡は学習支援システム通じて行うので、随時確認すること。
・本科目は国際文化学部の自由科目としても受講可能である。
・中国語科教育法(3)と(4)は同一セメスターでセット履修すること。

【Outline (in English)】
【Outline】

In this course, we will acquire knowledge which is required in Chinese education for high school and junior high school students through analyzing teaching materials, and also improve students' Chinese teaching skills to achieve goals which is shown in the Courses of Study by practical trial lessons.
【Goal】
The goals of this course are as follows:
(1) Through the analysis of teaching materials, students will be able to understand characteristics of teaching materials and teach grammatical items appropriately.
(2) Through learning about tests and evaluation methods, students will be able to measure the effectiveness and achievement of their teaching appropriately.
(3) Through the preparation and practical trial lessons, students will learn how to make lesson plans and be able to make lessons on their own.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
· After every class, students are required to review the materials.
· Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading criteria】
· Grading will be decided based on in-class contribution (30%), analysis of teaching materials (30%) and practical trial lessons (40%).
· No final exam will be held in this course.

教育実習（事前指導）

沖濱　真治

単位：**単位**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
備考（履修条件等）：**英語免許（英文学科・国際文化・GIS学部生のみ履修可）**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業のテーマは「授業づくり」である。教育実習の流れやその準備について理解した上で、学習指導案や授業に関わる基礎的な理論や知識および授業の見方、授業実践に不可欠なスキルを取り上げる。

【到達目標】
４年時に教育実習に参加する前提として、教職に関する基礎的な知識と教科指導にかかわる基礎知識・スキルを学び、実際の教育実習に対処できる一定の力量を獲得することを目標とする。教育実習の受講を希望する学生は、この講座を必ず受講し、実習前年度までに合格しておかなければならない。この講義で合格と認められない場合は、教育実習に参加することはできない。また、この講座は英語科免許取得用の授業なので、自分の取得予定の免許の教科と所属学部で英語科免許が取得できるかに注意して登録すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義内容は、英語科免許取得の学生を対象に、①教育実習とは何か、それに向けてどういう準備とスキルが必要か、②授業の見方と学習指導案（授業指導案) の作成、③授業を行う一定のスキルの獲得、④模擬授業検討(学習指導案・授業批評）などを主な内容として構成する。
（なお、教育実習の単位は、教育実習事前指導、現場での教育実習、教育実習事後指導を総合して評価されることとなる。）
フィードバックの方法としては、学生から提出されたリアクションペーパー・課題を次の授業で紹介して講評し、また学生相互で討論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介、予定、希望調査
	授業デザイン①	英語授業イメージ／自分がやりたい授業
第2回	授業デザイン②	教科書教材の集団での分析①（中学校） 指導スキルの紹介と検討（導入活動、ICT機器の活用）
第3回	授業デザイン③	教科書教材の集団での分析② 指導スキルの紹介と検討（読む活動）
第4回	授業デザイン④	教科書教材の集団での分析③ 指導スキルの紹介と検討（聞く、話す活動）
第5回	授業デザイン⑤	学習指導案の書き方、目的論の検討
第6回	授業デザイン⑥	指導スキルの紹介と検討（書く活動）
第7回	模擬授業準備	個人での模擬授業案作成
第8回	模擬授業①	第１回発表担当学生による模擬授業の実施と相互評価・討論、関連事項補足学習
第9回	模擬授業②	第２回発表担当学生による模擬授業の実施と相互評価・討論、関連事項補足学習
第10回	模擬授業③	第３回発表担当学生による模擬授業の実施と相互評価・討論、関連事項補足学習
第11回	中間ふり返り	模擬授業中間ふり返り
第12回	模擬授業④	第４回発表担当学生による模擬授業の実施と相互評価・討論、関連事項補足学習
第13回	模擬授業⑤	第５回発表担当学生による模擬授業の実施と相互評価・討論、関連事項補足学習
第14回	講義のまとめ	講義全体をふり返り、自らの課題を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎時間、授業に取り組んだ感想（疑問・質問・発見なども含む）についてのリアクションペーパーを書き、提出すること。なお、本授業の準備・復習時間は各１時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・『新・若手英語教師のためのよい授業をつくる 32 章』本多敏幸著（教育出版）2,200 円＋税
・教員が配布する講義資料

【参考書】
・月刊誌「新英語教育」　高文研 765 円
・月刊誌「英語教育」　大修館書店 880 円
・「現場発！　人間的な英語の授業を求めて」池田真澄著　高文研 2,420 円
・「よくわかる英語教育学」鳥飼玖美子他著　ミネルヴァ書房 2,750 円
・「英語習得の「常識」「非常識」第二言語習得研究からの検証」　白畑知彦編著　大修館書店870 円
・「英語学習は早いほど良いのか」　バトラー後藤　岩波書店　924円
・「外国語学習の科学: 第二言語習得論とは何か」白井恭弘　岩波書店　1,012円
・「英語独習法」今井むつみ 岩波新書 880円＋税
・「言語の本質-ことばはどう生まれ、進化したか」今井むつみ、秋田喜美著 中公新書1,056円
・「英語学習７つの誤解」大津由紀雄著 ひつじ書房 1,600円＋税
・「「日本人と英語」の社会学」寺澤拓敬著 研究社 2,600円＋税
・「英語教育のポリティクス　競争から協働へ」江利川春雄著（三友社出版）　2,200円＋税
・「協同学習を取り入れた英語授業のすすめ」江利川春雄編著　大修館書店　2,200 円
・「「学びの共同体」の実践　学びが開く！　高校の授業」佐藤学他編著 明治図書　2,486 円
・「「学びの共同体」で変わる！　高校の授業」佐藤学他編著 明治図書 2,486 円
・「「自己表現活動」を取り入れた英語授業」田中武夫・田中知聡著 大修館書店　2,420 円
・「英語教師のための発問テクニック　田中武夫・田中知聡著　大修館書店　2,420 円
・「和訳先渡し授業の試み」金谷憲他共著　三省堂
・「フォ-カス・オン・フォ-ムでできる　新しい英文法指導アイデアワ-ク (高校)」佐藤一嘉　　明治図書
・「「意味順」式 イラストと図解でパッとわかる 英文法図鑑」田地野彰　KADOKAWA　1,650円
・「英語コミュニケーション基礎をつくる音読指導」土屋澄男　研究社　2,420円
・「英語で行う英語授業のルール&活動アイデア：生徒をアクティブ・ラーナーにする!」胡子美由紀　明治図書　2,156円
・『たった一つを変えるだけ　クラスも教師も自立する「質問つくり」』ダン・ロスステイン、ルース・サンタナ著 新評論 2,640 円
・「高校入試に英語スピーキングテスト？ 東京都の先行事例を徹底検証」 大津由紀雄、南風原朝和編 岩波書店 680円+税
・「新編　教えるということ」　大村はま　筑摩書房　880円　（＊大村氏は国語教師）
・「中学校学習指導要領」（平成 29 年告示）解説外国語編文部科学省
・「高等学校学習指導要領」（平成 30 年告示）解説外国語編文部科学省

・Jacobs, G, M., Power, M, A., &Inn, L, W. (2002). The teacher's sourcebook for cooperative learning: practical techniques, basic principles, and frequently asked questions. Thousand Oaks, CA: Corwin Press. 関田一彦監訳 (2005). 『先生のためのアイディアブック：協同学習の基本原則とテクニック』ナカニシヤ出版
・Johnson, D. W., Johnson, R. T., &Holubec, E. J. (2002). Circles of learning: Cooperation in the classroom (5th Ed.). Edina, MN: Interaction Book Company. 石田裕久・梅原巳代子訳. (2010). 『学習の輪：学び合いの協同教育入門』二瓶社
・Marek Kiczkowiak and Robert J. Lowe, Teaching English as a Lingua Franca : The Journey from EFL to ELF. DELTA Publishing

【成績評価の方法と基準】
①リアクションペーパー提出状況も含めた、グループ、全体での討論等への参加状況（20%）
②模擬授業への取り組み状況と成果（50%）
③最終レポート（30%）
を総合的に勘案し評価する。（出席は、単位認定の前提条件である）

【学生の意見等からの気づき】
教科書教材の集団での分析により、授業をどうつくっていくかがより具体的にわかるようなので、続けていきたい。また受講者人数によるが、一人ひとりの模擬授業指導案の集団での分析も実習時の授業案作成に有効なので、時間の許す限り行いたい。

【学生が準備すべき機器他】
基本的には対面授業で行うが、オンライン授業ができる端末を準備すること。

【その他の重要事項】
受講人数と受講者の希望によって、模擬授業の日程や形式など、授業計画は調整する。

【Outline (in English)】
The theme of the course is "to learn how to organize lessons". After understanding the flow of teaching practice and preparation for it, we will cover basic theories and knowledge related to teaching plans and lessons themselves, analytical points of views on lessons, and needed skills. Students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings; performance in classes, such as making teaching plans, in-class contribution to group discussion, model-teaching and after-class short reports and final report.

教育実習（事前指導）

沖濱　真治

単位：**単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
備考（履修条件等）：**英語免許（英文学科・国際文化・GIS学部生のみ履修可）**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業のテーマは「授業づくり」である。教育実習の流れやその準備について理解した上で、学習指導案や授業に関わる基礎的な理論や知識、および授業の見方、授業実践に必要なスキルを取り上げる。

【到達目標】
４年時に教育実習に参加する前提として、教職に関する基礎的な知識と教科指導にかかわる基礎知識・スキルを学び、実際の教育実習に対処できる一定の力量を獲得することを目標とする。教育実習の受講を希望する学生は、この講座を必ず受講し、実習前年度までに合格しておかなければならない。この講義で合格と認められない場合は、教育実習に参加することはできない。また、この講座は英語科免許取得用の授業なので、自分の取得予定の免許の教科と所属学部で英語科免許が取得できるかに注意して登録すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義内容は、英語科免許取得の学生を対象に、①教育実習とは何か、それに向けてどういう準備とスキルが必要か、②授業の見方と学習指導案（授業指導案) の作成、③授業を行う一定のスキルの獲得、④模擬授業検討(学習指導案・授業批評）などを主な内容として構成する。
（なお、教育実習の単位は、教育実習事前指導、現場での教育実習、教育実習事後指導を総合して評価されることとなる。）
フィードバックの方法としては、学生から提出されたリアクションペーパー・課題を次の授業で紹介して講評し、また学生相互で討論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 授業デザイン①	自己紹介、予定、希望調査 英語授業イメージ／自分がやりたい授業
第2回	授業デザイン②	教科書教材の集団での分析①（中学校） 指導スキルの紹介と検討（導入活動、ICT機器の活用）
第3回	授業デザイン③	教科書教材の集団での分析② 指導スキルの紹介と検討（読む活動）
第4回	授業デザイン④	教科書教材の集団での分析③ 指導スキルの紹介と検討（聞く、話す活動）
第5回	授業デザイン⑤	学習指導案の書き方、目的論の検討
第6回	授業デザイン⑥	指導スキルの紹介と検討（書く活動）
第7回	模擬授業準備	個人での模擬授業案作成
第8回	模擬授業①	第１回発表担当学生による模擬授業の実施と相互評価・討論、関連事項補足学習
第9回	模擬授業②	第２回発表担当学生による模擬授業の実施と相互評価・討論、関連事項補足学習
第10回	模擬授業③	第３回発表担当学生による模擬授業の実施と相互評価・討論、関連事項補足学習
第11回	中間ふり返り	模擬授業中間ふり返り
第12回	模擬授業④	第４回発表担当学生による模擬授業の実施と相互評価・討論、関連事項補足学習
第13回	模擬授業⑤	第５回発表担当学生による模擬授業の実施と相互評価・討論、関連事項補足学習
第14回	講義のまとめ	講義全体をふり返り、自らの課題を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎時間、授業に取り組んだ感想（疑問・質問・発見なども含む）についてのリアクションペーパーを書き、提出すること。なお、本授業の準備・復習時間は各１時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・『新・若手英語教師のためのよい授業をつくる 32 章』本多敏幸著（教育出版）2,200 円＋税
・教員が配布する講義資料

【参考書】
・月刊誌「新英語教育」　高文研 765 円
・月刊誌「英語教育」　大修館書店 880 円
・「現場発！　人間的な英語の授業を求めて」池田真澄著　高文研 2,420 円
・「よくわかる英語教育学」鳥飼玖美子他著　ミネルヴァ書房 2,750 円
・「英語習得の「常識」「非常識」第二言語習得研究からの検証」　白畑知彦編著　大修館書店870 円
・「英語学習は早いほど良いのか」　バトラー後藤　岩波書店　924円
・「外国語学習の科学: 第二言語習得論とは何か」白井恭弘　岩波書店　1,012円
・「英語独習法」今井むつみ 岩波新書 880円＋税
・「言語の本質-ことばはどう生まれ、進化したか」今井むつみ、秋田喜美著 中公新書1,056円
・「英語学習７つの誤解」大津由紀雄著 ひつじ書房 1,600円＋税
・「「日本人と英語」の社会学」寺澤拓敬著 研究社 2,600円＋税
・「英語教育のポリティクス　競争から協働へ」江利川春雄著（三友社出版）　2,200円＋税
・「協同学習を取り入れた英語授業のすすめ」江利川春雄編著　大修館書店　2,200 円
・「「学びの共同体」の実践　学びが開く！　高校の授業」佐藤学他編著 明治図書　2,486 円
・「「学びの共同体」で変わる！　高校の授業」佐藤学他編著 明治図書 2,486 円
・「「自己表現活動」を取り入れた英語授業」田中武夫・田中知聡著 大修館書店　2,420 円
・「英語教師のための発問テクニック　田中武夫・田中知聡著　大修館書店　2,420 円
・「和訳先渡し授業の試み」金谷憲他共著　三省堂
・「フォ-カス・オン・フォ-ムでできる　新しい英文法指導アイデアワ-ク (高校)」佐藤一嘉　　明治図書
・「「意味順」式 イラストと図解でパッとわかる 英文法図鑑」田地野彰　KADOKAWA　1,650円
・「英語コミュニケーション基礎をつくる音読指導」土屋澄男　研究社　2,420円
・「英語で行う英語授業のルール&活動アイデア：生徒をアクティブ・ラーナーにする!」胡子美由紀　明治図書　2,156円
・『たった一つを変えるだけ　クラスも教師も自立する「質問つくり」』ダン・ロスステイン、ルース・サンタナ著 新評論 2,640 円
・「高校入試に英語スピーキングテスト？ 東京都の先行事例を徹底検証」 大津由紀雄、南風原朝和編 岩波書店 680円+税
・「新編　教えるということ」　大村はま　筑摩書房　880円　（＊大村氏は国語教師）
・「中学校学習指導要領」（平成 29 年告示）解説外国語編文部科学省
・「高等学校学習指導要領」（平成 30 年告示）解説外国語編文部科学省

・Jacobs, G, M., Power, M, A., &Inn, L, W. (2002). The teacher's sourcebook for cooperative learning: practical techniques, basic principles, and frequently asked questions. Thousand Oaks, CA: Corwin Press. 関田一彦監訳 (2005). 『先生のためのアイディアブック：協同学習の基本原則とテクニック』ナカニシヤ出版
・Johnson, D. W., Johnson, R. T., &Holubec, E. J. (2002). Circles of learning: Cooperation in the classroom (5th Ed.). Edina, MN: Interaction Book Company. 石田裕久・梅原巳代子訳. (2010). 『学習の輪：学び合いの協同教育入門』二瓶社
・Marek Kiczkowiak and Robert J. Lowe, Teaching English as a Lingua Franca : The Journey from EFL to ELF. DELTA Publishing

【成績評価の方法と基準】
①リアクションペーパー提出状況も含めた、グループ、全体での討論等への参加状況（20%）
②模擬授業への取り組み状況と成果（50%）
③最終レポート（30%）
を総合的に勘案し評価する。（出席は、単位認定の前提条件である）

【学生の意見等からの気づき】
教科書教材の集団での分析により、授業をどうつくっていくかがより具体的にわかるようなので、続けていきたい。また受講者人数によるが、一人ひとりの模擬授業指導案の集団での分析も実習時の授業案作成に有効なので、時間の許す限り行いたい。

【学生が準備すべき機器他】
基本的には対面授業で行うが、オンライン授業ができる端末を準備すること。

【その他の重要事項】
受講人数と受講者の希望によって、模擬授業の日程や形式など、授業計画は調整する。

【Outline (in English)】
The theme of the course is "to learn how to organize lessons". After understanding the flow of teaching practice and preparation for it, we will cover basic theories and knowledge related to teaching plans and lessons themselves, analytical points of views on lessons, and needed skills. Students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings; performance in classes, such as making teaching plans, in-class contribution to group discussion, model-teaching and after-class short reports and final report.

教育実習（事前指導）

丸山　義昭

単位：**単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
備考（履修条件等）：**国語免許（日文学科生のみ履修可）**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業テーマは、「授業つくり」である。教育実習の流れやその準備に触れた上で、学習指導案や授業に関わる基礎的な理論や知識、および授業実践に不可欠な方法・技術と心構えなどを取り上げる。４年生の教育実習体験を聴くことによって、現場での教育実習の具体的な取り組みについて学ぶ。

【到達目標】
教育実習に向けて、どういう準備が必要であり、自らの課題が何であるか明確に意識しながら、準備と課題解決に取り組んでいくことができる。
教材研究から学習指導案の作成、多様な授業技術の用意まで、具体的な手順を踏んで授業を構想していくことができる。
学習指導案の報告を聴いたり模擬授業に参加したりすることによって、授業検討の観点について学び、その上に立って授業を的確に批評することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義内容は、国語科免許取得の学生を対象に、①教育実習とは何か、それに向けてどういう準備が必要か、②学習指導案と指導言計画の作成、③授業を行うための知識と技量の獲得、④模擬授業とその検討、⑤すでに教育実習を実施した４年生から体験を聴いて学ぶ、を中心的な内容として構成する。毎回、フィードバック用紙に意見や感想、質問を書き、提出。それらを次時までに全員で共有し、学生の応答と教員のコメントを交えながら学びを深めていく。（なお、教育実習の単位は、教育実習事前指導、現場での教育実習、教育実習事後指導を総合して評価されることとなるが、事後指導の一環として、４年次教育実習終了時の指定される時期（毎年９月の下旬から12月中旬頃）に、前年に参加した教育実習事前指導の講義クラスに相当する授業に参加し、３年生に実習体験や、授業を模範授業として再現するなどの「報告会」を実施する。全員の参加を義務とする。具体的な時期等は、４年次初回授業時までに連絡するので、注意すること。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 実習に向けての準備のあり方	授業の方法や目当て、講義の進め方等についてのガイダンス 教育実習に臨む姿勢や教材研究と学習指導案作成、授業参観等に関わる留意事項
第2回	４年生の教育実習体験を聴く① 教壇実習に向けての準備のあり方	教壇実習のための準備と指導言計画作成の実際
第3回	４年生の教育実習体験を聴く② 授業の実際と学習指導案の展開①	中学校の説明的文章について、具体的にどう授業化するか、実践例を用いての考察
第4回	４年生の教育実習体験を聴く③ 授業の実際と学習指導案の展開②	高校の評論について、具体的にどう授業化するか、実践例を用いての考察
第5回	４年生の教育実習体験を聴く④ 授業の実際と学習指導案の展開③	中学校の小説について、具体的にどう授業化するか、実践例を用いての考察
第6回	４年生の教育実習体験を聴く⑤ 授業の実際と学習指導案の展開④	高校の小説について、具体的にどう授業化するか、実践例を用いての考察
第7回	４年生の教育実習体験を聴く⑥ 授業の実際と学習指導案の展開⑤	詩・短歌・俳句について、具体的にどう授業化するか、実践例を用いての考察
第8回	４年生の教育実習体験を聴く⑦ 授業の実際と学習指導案の展開⑥	教員による模擬授業と応答
第9回	４年生の教育実習体験を聴く⑧ 模擬授業の準備	各グループに分かれての、模擬授業の学習指導案の検討と改訂
第10回	模擬授業（中学国語・説明的文章）	模擬授業（２グループ）とそれをめぐる討論・批評
第11回	模擬授業（中学国語・小説）	模擬授業（２グループ）とそれをめぐる討論・批評
第12回	模擬授業（高校国語・評論）	模擬授業（２グループ）とそれをめぐる討論・批評
第13回	模擬授業（高校国語・小説）	模擬授業（２グループ）とそれをめぐる討論・批評
第14回	全体的な総括と、教育実習に向けての確認	４年生の教育実習報告とその検討、及び模擬授業とその検討から明らかになったことの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
作成した学習指導案について教員の方からコメント、修正すべき点を提示するので、その内容、実際の模擬授業での実践、他者の模擬授業を見ての反省などを踏まえて作成し、最終レポートとしての指導案は、第14回時に提出すること。詳細は授業内で指示する。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業内で指示する。また、法政大学教職課程委員会編『教育実習の手引き』を教育実習ガイダンス時に配布するので、参考にすること。

【参考書】
『学習指導要領』及び解説書（文部科学省）
『学力・人格と教育実践』佐貫浩（大月書店）
『新・生活指導の理論』竹内常一（高文研）
『読むことの教育』竹内常一（山吹書店）
『子どもの自分くずしと自分つくり』竹内常一（東京大学出版会）
『カリキュラムの批評』佐藤学（世織書房）
『実践国語科教育法』町田守弘（学文社）
『改訂新版　教師の条件』小島弘道 他（学文社）
『持続可能な未来のための教職論』諏訪哲郎 他（学文社）
『文学は教育を変えられるか』福田淑子（コールサック社）
『生き方を問う子どもたち』田中孝彦（岩波書店）
『第三項理論が拓く文学研究／文学教育』田中実 他（明治図書）
『文学が教育にできること』田中実 他（教育出版）
『ベストをつくす教育実習』筒井美紀・遠藤野ゆり 他（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】
平常点を重視するが、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）、話し合い・討論への参加状況、模擬授業の様子、レポート課題（学習指導案など）を総合して評価する。なお、評価基準の詳細は、最初の講義時に説明する。

【学生の意見等からの気づき】
４年生の教育実習体験を聴く貴重な機会と評価されている。個々の実習体験における成果と課題がさらに浮き彫りになるように設定したい。また、各教材の指導法を知ることができてよかったという声もあり、そのための時間も確保していきたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】

The theme of this course is “how to give classes that develop students’ creativity”. This course includes classes on how to write teaching plan , the basic theory and knowledge on the teaching profession, and the essential method and skills necessary for teaching. Also, the students can learn the specific tackling about the practice teaching, listening to the experience of the seniors who have completed it.
【Learning Objectives】
· To be able to work on the preparation and problem solving of practice teaching by becoming fully aware of what personal task is necessary, and how it should be done.
· To be able to conceptualize a practical idea of how to proceed from material studying to acquiring a variety of teaching skills to making out teaching plans.
· To be able to learn a perspective on how to review classes, and thereby criticize classes appropriately by learning from others’ reports on teaching plans and taking part in mock classes.
【Learning activities outside of classroom】
The students’ teaching plans are commented or given appropriate advice to by the teacher. The students are requested to make out the plans reflecting upon their own mock teaching and others’. The final teaching plans are to be submitted in the 14th class. The minute details are to be given during the class. The average time spent on the preparation and review of this class on the part of students is two hours respectively.
【Grading Criteria /Policy】
Student evaluation is made up of how well he or she takes part in the class. It includes attendance, how much he or she participates in discussion, how he or she carries out mock teaching, how good their report is and etc. The details of evaluation will be given in the first class.

教育実習（事前指導）

松尾　知明

単位：**単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
備考（履修条件等）：**社会地歴公民免許（史・心理学科生のみ履修可）**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4年次に実施される教育実習に必要とされる知識とスキルの習得が目的である。教育実習の全体像の理解、教科指導（授業）のための基礎的知識の習得、授業で活用できる実践的スキルの習熟が、柱となる３つの授業目的となる。

【到達目標】
授業の実践的指導力の土台作りができる。そのために、プロ教師の授業分析を通じて、授業を成立させる諸要素を理解すること、授業に必要な知的・コミュニケーション・スキルを知ること、その上で、模擬授業づくりのグループワークを通じて、知り理解したものを実践することができる。
なお、本授業はクラス指定となっている。また、教育実習の履修単位は、教育実習事前指導、現場での教育実習、事後指導を総合して評定される。教育実習を希望する学生は、この授業を必ず受講し、合格することが求められる。本授業の履修が合格と認められない場合は、教育実習に参加することはできない。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は、対面で実施し、学習支援システムを活用する。中学校社会科・理科、高校地歴・公民・理科・商業の免許を取得する学生を対象とする授業である。クラス指定が行われ、原則として指定されたクラスで受講しなければならない。
講義内容は、①教育実習とは何か、準備すべきこととは何かを理解する。②プロ教師の授業を分析し、授業スキルを学ぶ。③学習指導案や教材を作成し、模擬授業を行う。また、教育実習をリアルに知るために、4年生との合同授業も設定する。課題については、授業のなかでフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	オリエンテーション	授業の進め方、教師に求められる資質・能力とは
2回	教育実習に向けて	教育実習の目的、流れ、準備
3回	生徒指導	教育実習で知っておくべき基礎基本
4回	学習指導	教育実習で知っておくべき基礎基本
5回	授業デザイン⑴指導案	教材研究の進め方、学習指導案の書き方
6回	授業デザイン⑵準備	発問、板書、ICT活用、指導・支援のあり方
7回	授業デザイン⑶授業	授業を考える
8回	4年生との共同授業	4年生によるプレゼンと交流
9回	模擬授業の準備	学習指導案の検討と準備
10回	模擬授業⑴　基本的な所作	授業のはじめ
11回	模擬授業⑵　発問・指示・説明	授業の山場
12回	模擬授業⑶　生徒とのかかわり	授業の前半
13回	模擬授業⑷　授業の展開	授業の後半
14回	授業のまとめ	授業づくりのポイント、授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として、文献や資料などを読み、課題に応えてパワーポイントのスライドやレポートを作成する。また、学習指導案の作成や模擬授業の準備をする。準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
学習指導要領や実践記録など、講義の中で適宜指示する。なお、法政大学教職課程委員会編『教育実習の手引き』を毎年、受講生に配布しているので、参考にすること。

【参考書】
筒井美紀・遠藤野ゆり編『ベストをつくす教育実習』有斐閣、2017年。
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加状況（30％）、課題、学習指導案、模擬授業（70％）などを総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学習指導案の書き方の指導のやり方を工夫する。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
The aim and goal of this class is to learn and obtain teaching knowledges and skills for the practical training in secondary schools during next school year.
【到達目標（Learning Objectives）】
Students are able to 1) acquire basic knowledge and skills related to teaching, subject teaching, and student guidance in order to participate in educational practice, 2) acquire the social and interpersonal skills required for educational practice and 3) write lesson plans and conduct lessons.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students will be expected to read research teaching materials, prepare presentations, write lesson plans and prepare simulated lessons.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Grading will be decided based on in class contribution (30%) and assignments and presentations (70%).

教育実習（事前指導）

寺崎　里水

単位：**単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
備考（履修条件等）：**社会地歴公民免許（法学部生のみ履修可）**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4年次に実施される教育実習に必要とされる知識とスキルの習得が目的です。教育実習の全体像の理解、教科指導（授業）のための基礎的知識の習得、授業で活用できる実践的スキルの習熟が、柱となる３つの授業目的となります。

【到達目標】
授業の実践的指導力の土台作りが目標となります。そのために、プロ教師の授業分析を通じて、①授業を成立させる諸要素が理解できること、②授業に必要な知的・コミュニケーション・スキルを知れること、③その上で、模擬授業づくりのグループワークを通じて、知り理解したものを実践できることを求めます。
なお、教育実習の履修単位は、教育実習事前指導、現場での教育実習、事後指導を総合して評定されます。教育実習を希望する学生は、この講義を必ず受講し、合格することが求められます。本講義の履修が合格と認められない場合は、教育実習に参加することはできません。なお、クラス指定の授業です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本講義は、中学校・社会科、高校地歴・公民の免許を取得する学生を対象としています。また、クラス指定が行われ、原則として指定されたクラスで受講しなければなりません。
講義内容は、３つの単元から構成されます。
①教育実習とはなにか、準備すべきこととはなにか
②プロ教師の授業を分析し、授業スキルを学ぶ
③グループで学習指導案や教材を作成し、模擬授業をおこなう
また、教育実習をリアルに知るために、4年生との合同授業も設定します。
模擬授業や学習指導案に対するフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業の概要説明とグループ分け
第2回	教育実習とは何か	実習の流れと準備
第3回	プロ教師の授業から学ぶ（1）	授業の型と展開の基本
第4回	プロ教師の授業から学ぶ（2）	発問と授業コミュニケーション
第5回	プロ教師の授業から学ぶ（3）	モノ・教材の使い方
第6回	プロ教師の授業から学ぶ（4）	構成・シナリオとハプニング
第7回	プロ教師の授業から学ぶ（5）	板書のタイプと技法
第8回	教育実習生の実習体験から学ぶ	教育実習全体に関する身近なモデルからの学び
第9回	教育実習生の授業体験から学ぶ	授業実践に焦点化した身近なモデルからの学び
第10回	模擬授業を準備する	グループごとの打合せ
第11回	模擬授業して合評する（高校現代社会・政経分野）	模擬授業のグループ発表とその検討会
第12回	模擬授業して合評する（高校歴史分野）	模擬授業のグループ発表とその検討会
第13回	模擬授業して合評する（中学公民分野）	模擬授業のグループ発表とその検討会
第14回	模擬授業して合評する（中学地歴分野）	模擬授業のグループ発表とその検討会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習集団としてグループを形成します。講義をうけた話し合い・討論をはじめとして、模擬授業づくり発表準備や事後の振り返りをこの基本集団でおこないます。模擬授業にあたっては、1週間前に素案を共同制作し、担当教員の指導助言を受けることも含まれます。加えて、各個人が終了レポートとして、1時限の授業に必要な学習指導案や生徒用プリント、補助教材の作成も求められます。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習指導要領や実践記録など、講義の中で適宜指示します。なお、法政大学教職課程委員会編『教育実習の手引き』を毎年、受講生に配布していますので、参考にしてください。

【参考書】
高野良一「『教育実習（事前指導）』の授業デザイン」『法政大学教職課程年報』Vol.14（教職課程のHPから閲覧可能）
その他、講義の中に適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】
コメントペーパーや模擬授業の実施などの平常点（60％）、各自の学習指導案と教材からなる終了レポート（40％）を主たる評価対象として、総合的に合否を判定します。なお、平常点には、グループワークや授業内の討論への参加なども含みます。

【学生の意見等からの気づき】
身近なモデルとしての4年生から学ぶことは多いので、合同授業は大切にしたい。模擬授業では、授業を受けた学生からの「授業評価アンケート票」を活用して、双方向の振り返りを充実させたい。

【Outline (in English)】
Course Outline: The aim and goal of this class is to learn and obtain teaching knowledges and skills for the practical training in secondary schools during next school year.
Learning Objectives: To acquire practical teaching skills in the classroom.
Learning Activities Outside of Classroom: Preparation and review time should be 2 hours each.
Grading Criteria: Ordinary points such as comment papers and mock classes (60%), final report consisting of each student's study plan and teaching materials (40%)

教育実習（事前指導）

仲田　康一

単位：**単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
備考（履修条件等）：**社会地歴公民理科商業免許（地理学科・人間環境・経営学部生のみ履修可）**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育実習に参加を希望する学生を対象として行う事前指導です。教育実習に必要とされる知識とスキルの習得を目指します。より具体的には、教育実習の全体像の理解、教科指導（授業）のための基礎的知識の習得、授業で活用できる実践的スキルの習熟が、柱となる３つの授業目的となります。

【到達目標】
受講生が、①教育実習に向けて必要とされる準備や心構えを理解する、②学習指導案（授業指導案）の作り方を身につける、③授業を行う基礎的な姿勢と考え方を理解する、④学生同士による授業検討（批評）の方法を習得する、という目標を達成できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は、対面で実施します。クラス指定が行われ、原則として指定されたクラスで受講しなければなりません。
授業では、①教育実習に向けた注意事項の共有を行います。次に、②指導案の作成と検討を経て、③相互に模擬授業を行います。なお、受講生は、基本的に1回は模擬授業を実施します。
授業中または授業後において、教員・他の受講生から文字または口頭にて、模擬授業に対するフィードバックを受けてもらいます。また、適宜のタイミングで、教育実習を経験した上級生との合同授業を行い、実習や授業の経験について共有してもらったり、指導案や模擬授業についてフィードバックを受けたりする機会を設けます。
受講生の実態に合わせる形で、シラバスの順序等を変更することがありますが、その際は受講生との合意の上で進めて行きます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業の概要説明と評価方法の共有
第2回	教育実習とは何か	①教育実習の目的・流れ・準備、②実習前・実習中・実習後に求められる行動や態度などの説明
第3回	指導案作成の留意点	単元、教科書、学習指導要領
第4回	指導案の相互吟味	受講生相互による指導案の検討
第5回	指導案の改善	4年生との合同授業による指導案の改善
第6回	模擬授業1（中学社会・歴史分野）	中学社会・歴史分野についての模擬授業の実施と相互吟味
第7回	模擬授業2（中学社会・地理分野）	中学社会・地理分野についての模擬授業の実施と相互吟味
第8回	模擬授業3（中学社会・公民分野）	中学社会・公民分野についての模擬授業の実施と相互吟味
第9回	模擬授業4（高校地歴・歴史系科目）	高校地歴・歴史系科目についての模擬授業の実施と相互吟味
第10回	模擬授業5（高校地歴・地理系科目）	高校地歴・地理系科目についての模擬授業の実施と相互吟味
第11回	模擬授業6（高校公民）	高校公民についての模擬授業の実施と相互吟味
第12回	模擬授業7（その他の教科・科目）	その他の教科・科目についての模擬授業の実施と相互吟味
第13回	師範授業	4年生の代表者による模擬授業の実施
第14回	授業のまとめ	授業内容の総括と各自の内省

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①各個人は、模擬授業に向けた準備が求められます。具体的には、指導案の作成、教材研究などです。自ら、模擬授業の模擬授業を実施することも推奨されます。
②自身の模擬授業の実施だけでなく、他者の模擬授業に対してのコメントをLMSにて実施することも必要です（その際の観点は、教員から示します）。
③加えて、各個人が最終提出物として、1時限の授業に必要な学習指導案や生徒用プリント、補助教材を作成することも求められます。
以上の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習指導要領や実践記録など、講義の中で適宜指示します。なお、法政大学教職課程委員会編『教育実習の手引き』を毎年、受講生に配布していますので、参考にしてください。

【参考書】
高野良一「『教育実習（事前指導）』の授業デザイン」『法政大学教職課程年報』Vol.14（教職課程のHPから閲覧可能）
その他、講義の中に適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】
各回に記述を求めるコメントや模擬授業の実施などの平常点（40％）、各自の学習指導案と教材からなる最終提出物（60％）を主たる評価対象として、総合的に合否を判定します。なお、平常点には、グループワークや授業内の討論への参加なども含みます。

【学生の意見等からの気づき】
例年、実習を経験した4年生の有志が、実習や指導案について助言をしてもらう機会を設けています。引き続き好評だったため、類似した機会を設けたいと考えます。

【学生が準備すべき機器他】
各回においては、パソコン・タブレットなどの持参をお願いします。

【その他の重要事項】
①日常的には、Google Classroomを用いて資料の共有を行います。ただし、最終提出物の提出先や、重要な連絡はHoppiiを通じて行いますのでご留意ください。
②多くの場合、このクラスのメンバーが、実習後の教員免許必修科目である「教職実践演習」で同じクラスに配置される傾向にあります。2年間お付き合いする仲間であると思って、お互いに敬意を持ちながら交流を深めてほしいです。
③教員をどれだけ活用するかが大学での学びの質を大きく左右します。教員への質問・相談は学生の権利であり、教員にとってもやりがいの源泉ですので、どうぞお気軽に。

【Outline (in English)】
【Outline (in English)】
The aim and goal of this class is to learn and obtain teaching knowledges and skills for the practical training in secondary schools during next school year.
【到達目標（Learning Objectives）】
Students are expected to understand the overall picture of teachers' practice, to acquire basic knowledge for subject teaching (classroom teaching), and to become familiar with practical skills that can be used in the classroom.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students are expected to analyse textbooks and other teaching materials used in schools, write teaching plans, and prepare for simulation lessons.
The standard learning time outside the classroom is two hours.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Grading will be decided based on in class contribution (40%) and assignments and presentations (60%).

教育実習（事前指導）

遠藤　野ゆり

単位：**単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
備考（履修条件等）：**社会地歴公民商業免許（哲学科・CD学部生のみ履修可）**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4年次に実施される教育実習に必要とされる知識とスキルの習得が目的です。教育実習の全体像の理解、教科指導（授業）のための基礎的知識の習得、授業で活用できる実践的スキルの習熟が、柱となる３つの授業目的となります。授業計画の立て方、指導案の作成を行い、模擬授業を全員が実施します。
クラス指定の授業で、キャリアデザイン学部、および文学部哲学科の学生のためのクラスです。

【到達目標】
授業の実践的指導力の土台作りが目標となります。そのために、受講生は、プロ教師の授業分析を通じて、授業を成立させる諸要素を理解すること、授業に必要な知的・コミュニケ―ション・スキルを知ること、その上で、模擬授業づくりのグループワークを通じて、知り理解したものを現実化することができることを目指します。また、受講生は、実際に模擬授業を行い、問題なく授業が実施できる力の証明ができることを目指します。
なお、教育実習の履修単位は、教育実習事前指導、現場での教育実習、事後指導を総合して評定されます。教育実習を希望する学生は、この講義を必ず受講し、合格することが求められます。本講義の履修が合格と認められない場合は、教育実習に参加することはできません。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本講義は、中学校・社会科、高校地歴・公民の免許を取得する学生を対象としています。また、クラス指定が行われ、原則として指定されたクラスで受講しなければなりません。
講義内容は、３つの単元から構成されます。
①教育実習とはなにか、準備すべきこととはなにか
②プロ教師の授業を分析し、授業スキルを学ぶ
③グループで学習指導案や教材を作成し、模擬授業をおこなう
また、教育実習をリアルに知るために、4年生との合同授業も設定します。
作成した指導案は添削して返却します。模擬授業へのフィードバックは、授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業の概要説明とグループ分け 実習の流れと準備
第2回	プロ教師の授業から学ぶ（1）	教科書をもとに実際の授業の組み立てを経験する
第3回	プロ教師の授業から学ぶ（2）	プロ教師の授業映像を見て自身の立てた指導案とを比較する
第4回	指導案の書き方	指導案の基本的な書き方及び注意事項を学ぶ
第5回	教材研究	教材研究の方法を学ぶ
第6回	教材化と教具	授業の資料を教材化するための工夫や教具の使い方、特に電子黒板やICT機器を利用した授業のつくり方を学ぶ
第7回	模擬授業のリハーサル	模擬授業のリハーサルを実施し指導案の最終修正を行う
第8回	模擬授業の実施と検討（中学・地理分野）	担当グループによる模擬授業の実施。その他の受講生は中学生役で臨む。終了後に授業の良い点や改善点を検討する。
第9回	模擬授業の実施と検討（中学・歴史分野）	担当グループによる模擬授業の実施。その他の受講生は中学生役で臨む。終了後に授業の良い点や改善点を検討する。
第10回	模擬授業の実施と検討（中学・公民分野）	担当グループによる模擬授業の実施。その他の受講生は中学生役で臨む。終了後に授業の良い点や改善点を検討する。
第11回	模擬授業の実施と検討（高校世界史分野）	担当グループによる模擬授業の実施。その他の受講生は高校生役で臨む。終了後に授業の良い点や改善点を検討する。
第12回	模擬授業の実施と検討（高校日本史分野）	担当グループによる模擬授業の実施。その他の受講生は高校生役で臨む。終了後に授業の良い点や改善点を検討する。
第13回	模擬授業の実施と検討（高校・公共分野）	担当グループによる模擬授業の実施。その他の受講生は高校生役で臨む。終了後に授業の良い点や改善点を検討する。
第14回	模擬授業の実施と検討（高校・政治経済分野） 本講義のまとめ	担当グループによる模擬授業の実施。その他の受講生は高校生役で臨む。終了後に授業の良い点や改善点を検討する。 本講義について何を学んだかふりかえり整理する。 教育実習までの時間の過ごし方を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。学習集団としてグループを形成します。講義をうけた話し合い・討論をはじめとして、模擬授業づくり発表準備や事後の振り返りをこの基本集団でおこないます。模擬授業にあたっては、1週間前に素案を共同制作し、担当教員の指導助言を受けることも含まれます。加えて、各個人が終了レポートとして、1時限の授業に必要な学習指導案や生徒用プリント、補助教材の作成も求められます。

【テキスト（教科書）】
筒井美紀他編『ベストを尽くす教育実習』（有斐閣・2017）
そのほか、学習指導要領や実践記録など、講義の中で適宜指示します。なお、法政大学教職課程委員会編『教育実習の手引き』を毎年、受講生に配布していますので、参考にしてください。

【参考書】
学種指導要領他、講義の中で適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】
グループで作成する指導案、および個人で作成する指導案の２つが双方共に60％（30点）以上であることが、単位認定の要件です。また、模擬授業で合格することも、要件に当たります。
そのうえで、指導案の点数（50％）に加えて、授業へのコミットメント（25％）、ディスカッションにおける貢献度（25％）を総合的に判断して、評価を定めます。

【学生の意見等からの気づき】
身近なモデルとしての4年生から学ぶことは多いので、合同授業は大切にしたい。模擬授業では、授業を受けた学生からの「授業評価アンケート票」を活用して、双方向の振り返りを充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】
教科書（『ベストを尽くす教育実習』）は初回授業にて使用しますので、入手をしておいてください。
初回の授業までに、自分が指導案を作成する教科の教科書について調べておいてください（教職課程センターに教科書はあります）。可能ならば、実習先に、使用する教科書会社について問い合わせをしておいてください。
指導案作成時には授業にパソコンを用意してください。

【その他の重要事項】
履修予定の学生は必ず初回の授業に参加してください。初回の授業に参加していない場合は履修を認めません。
なお、介護等体験と重なる、インフルエンザ等「やむを得ない事情」で欠席をせざるをえない場合、事前に以下に連絡をしてください。当日の急きょの欠席の場合は、可及的速やかに連絡をしてください。
noyuriendo@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
Course outline：The purpose of this course is to acquire the knowledge and skills required for the teaching practice that will be held in the fourth year. The three main objectives of the class are understanding the overall picture of teaching practice, acquiring basic knowledge for subject instruction (classes), and mastering practical skills that can be used in classes. All students will create lesson plans, create instructional plans, and conduct mock classes.
Learning Objectives：The goal is to create a foundation for practical teaching skills. To this end, through class analysis by professional teachers, students will understand the various elements that make a class work, learn the intellectual, communication, and skills necessary for the class, and then participate in group discussions to create mock classes. Through work, we are required to make what we know and understand into reality. In addition, students are required to actually perform a mock class and prove that they can conduct the class without any problems.
Learning activities outside of classroom：The standard preparation and review time for this class is two hours each. Students will form groups as learning groups. Students will work in this group to discuss and debate, create mock lessons, prepare for presentations, and reflect after the lessons. For mock classes, students are required to jointly create a draft one week before the class and receive guidance and advice from the instructor in charge. In addition, each individual will be required to create a final report, along with lesson plans, student handouts, and supplementary materials necessary for the one-hour class.
Grading Criteria /Policy：The requirement for credit recognition is that both the instruction plan created by the group and the instruction plan created by individuals must both score 60 points or higher. Passing a mock class is also a requirement.
Then, in addition to the points for the teaching plan (50%), the student's commitment to the class (25%) and degree of contribution to the discussion (25%) will be comprehensively judged to determine the evaluation.

教育実習（事前指導）

宮坂　健介

単位：**単位**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
備考（履修条件等）：**中国語免許（国際文化学部生のみ履修可）**
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4年次に教育実習に参加する前提として、教職に関する基礎的な知識と教科指導にかかわる基礎知識・力量の形成、教育実習に対処できる一定のスキルの獲得を目標とする。教育実習の受講を希望する学生は、この講義を必ず受講し、実習前年度までに合格しておかなければならない。この講義で合格と認められない場合は、教育実習に参加することはできない。なおこの講義はクラス指定であるので、自分の取得予定の免許の教科と所属学部に注意して登録すること。

【到達目標】
受講者が中国語の教育実習に行った際に、教材研究ができ、授業計画が作れ、教壇に立った時に授業ができることを目指す。またそのために必要な言語教育や中国語の知識を身に着け、それをどのように使うのかが理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義内容は、外国語科(中国語)免許取得の学生を対象に、①教育実習とは何か、それに向けてどういう準備とスキルが必要か、②学習指導案（授業指導案）の作成、③授業を行う一定のスキルの獲得、④授業検討（授業批評）、⑤すでに教育実習を実施した4年生からの体験を学ぶことを中心的な内容として構成する。授業内での発表も行う。その際のレポートについては、授業中に取り上げて、問題点や美点などを含めて議論を進め、コメントを加えたい。対面授業ができない場合は講義動画を織り交ぜつつ、必要な知識が身に付けられるように展開したい。
第1回については、zoomにて行いたいので、下記までアクセスしてください。
https://us02web.zoom.us/j/87093635219?pwd=REF4SVdqZjNWNStnZDc1QzIwYWhCQT09
なお、教育実習の単位は、教育実習事前指導、現場での教育実習、教育実習事後指導を総合して評価されることとなるが、事後指導の一環として、4年次教育実習終了時の指定される時期（毎年11月の初旬から中旬頃）に、前年参加した教育実習事前指導講義のクラスに相当する授業に参加し、3年生に実習体験や授業を模範授業として再現するなどの「報告会」を実施する。全員の参加を義務とする。具体的な時期等は、4年次秋に掲示にて連絡するので注意すること。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のオリエンテーション	講義全体の概要を説明する。
第2回	教育実習における基本姿勢(1)	教育実習とはどのようなものか。「教師」としての基本姿勢を学ぶ。
第3回	教育実習における基本姿勢(2)	実習前の準備と言語教育の基本を学ぶ。
第4回	教育実習における基本姿勢(3)	言語教育の基本について学ぶ。第二言語習得理論の歴史1:文法翻訳法・オーディオリンガルアプローチ・サジェストペディア
第5回	教育実習における基本姿勢(4)	言語教育の基本について学ぶ。第二言語習得理論の歴史2:コミュニカティブアプローチ・脱教授法
第6回	教育実習における基本姿勢(5)	中国語を教える際の基本について学ぶ。四技能の中で何を伸ばすのか。
第7回	教育実習における基本姿勢(6)	中国語を教える際の基本について学ぶ。ピンインと簡体字、文法について。
第8回	教科書検討会	中国語教科書について実際に比較検討を発表する
第9回	指導案の書き方	外国語を教える際の注意点と指導法の確認を中心に、どのように授業を組み立ててゆくか考える。
第10回	模擬授業	これまでの授業をもとに模擬授業を行う。
第11回	実習を終えた4年生参加による教育実習報告会	実習の実際について報告を聞く。
第12回	教育実習における注意点(1)	教材研究などについて学ぶ。
第13回	教育実習における注意点(2)	授業以外の教育実習についての注意点を確認する。
第14回	まとめ	全体のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
英語をはじめとする第二言語習得についての文献を幅広く読むこと、現在の中国語教科書について調べること、その他授業方法について調べることを中心として、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜レジュメを配布します。

【参考書】
法政大学教職課程委員会編『教育実習の手引き』
『高等学校の中国語と韓国朝鮮語：学習のめやす(試行版)』
『学習指導要領』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
平常点(40％)を重視するが、討論への参加状況、レポート課題(指導案作成30％)、模擬授業(30％)などを総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
意見を言ったり質問をしやすい授業にしたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン若しくはスマートフォン・タブレット

【Outline (in English)】
As a prerequisite for participating in teaching practice in the fourth year, we aim to establish basic knowledge on teacher training and basic knowledge /competence related to subject guidance, and acquire certain skills that can cope with educational practice. Students who wish to take an educational training must attend this lecture without fail and must pass the examination by the previous fiscal year. In cases where it is not accepted as passing in this lecture, you can not participate in teaching practice. Since this lecture is class designation, register it with attention to the subject of the license to be acquired by yourself and the faculty affiliated.
Aim to be able to teach "properly" when conducting Chinese language training. The word "properly" includes the meaning of learning the basics that make up a lesson, such as studying teaching materials, making lesson plans, and dealing with students, and being able to put it to practical use. I would like to give a lecture focusing on what kind of Chinese knowledge is required and how to use it, and practice it.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each, with a focus on reading a wide range of literature on second language acquisition, including English, researching current Chinese textbooks, and researching other lesson methods. will do.
Emphasis is placed on normal points (40%), but the status of participation in discussions, report assignments (teaching plan preparation 30%), mock lessons (30%), etc. are comprehensively evaluated.

教職実践演習

沖濱　真治

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：英語免許（英文学科・国際文化・GIS学部生のみ履修可）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育実習での経験や４年間の教職関連科目での学びを踏まえ、実際の教育現場での課題についても幅広く議論、検討しながら、教職を担うにふさわしい知識、技能、ならびに教職を目指す姿勢を獲得することを目指す。

【到達目標】
教職に就くための基礎力量の仕上げを行う
①学校現場における授業を進める実践的スキルの獲得
②専門とする教科領域における教育内容についての一定の研究と教材作成力の獲得（授業指導案の作成を含む）
③子ども理解及び学級・学校の実際の理解と実践力、指導力量の育成
④教職に向けての明確な意志と各自の目標の設定
⑤積極的なコミュニケーションと発表・プレゼンテーションのスキルの獲得
なお、この講座は英語科免許取得用の授業なので、自分の取得予定の免許の教科と所属学部で英語科免許が取得できるかに注意して登録すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
グループと個人で研究と発表を行う。テーマは各自の専門とする領域から立てる。具体的には
①教科の内容・指導方法に関するレポート、ブックレット等の作成
②教職等の仕事の現状についてのレポートの作成
③子どもの困難、青年の自立の困難等についてのレポートの作成等から選択。発表も行う。
④教育行政、教育を取り巻く環境についてのレポートの作成等から選択。発表も行う。
またフィードバックの方法としては、学生から提出されたリアクションペーパー・課題を次の授業で紹介して講評し、また学生相互で討論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介、予定、希望調査
第2回	英語教育現代課題の検討①	現代課題講義（含む ICT の活用）・討論
第3回	教育実習体験報告①	教育実習体験発表・討論①
第4回	教育実習体験報告②	教育実習体験発表・討論②
第5回	教育実習体験報告③	教育実習体験発表・討論③
第6回	英語教育現代課題の検討②	英語教育現代課題グループレポート発表の項目の検討と分担
第7回	英語教育現代課題の検討③	英語教育現代課題グループレポート発表・討論①
第8回	英語教育現代課題の検討④	英語教育現代課題グループレポート発表・討論②
第9回	英語教育現代課題の検討⑤	英語教育現代課題レポート発表・討論についての振り返り・補足講義
第10回	個人研究準備	個人研究テーマ検討
第11回	個人研究発表①	個人研究発表・討論①
第12回	個人研究発表②	個人研究発表・討論②　補足講義
第13回	個人研究発表③	個人研究発表・討論③　補足講義
第14回	まとめ	講義全体のまとめ・補足講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から教育書、新聞、インターネットなどで今日の教育、とりわけ外国語教育の状況や問題点を十分に把握する。また日本や世界の抱える課題に目を向け、視野を広げ、認識を深める努力をする。なお、本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・教員が配布する講義資料

【参考書】
・月刊誌「新英語教育」　高文研 765 円
・月刊誌「英語教育」　大修館書店 880 円
・「現場発！　人間的な英語の授業を求めて」池田真澄著　高文研 2,420 円
・「よくわかる英語教育学」鳥飼玖美子他著　ミネルヴァ書房 2,750 円
・「英語習得の「常識」「非常識」第二言語習得研究からの検証」　白畑知彦編著　大修館書店870 円
・「英語学習は早いほど良いのか」　バトラー後藤　岩波書店　924円
・「外国語学習の科学: 第二言語習得論とは何か」白井恭弘　岩波書店　1,012円
・「英語独習法」今井むつみ 岩波新書 880円＋税
・「言語の本質-ことばはどう生まれ、進化したか」今井むつみ、秋田喜美著 中公新書1,056円
・「英語学習７つの誤解」大津由紀雄著 ひつじ書房 1,600円＋税
・「「日本人と英語」の社会学」寺澤拓敬著 研究社 2,600円＋税
・「英語教育のポリティクス　競争から協働へ」江利川春雄著（三友社出版）　2,200円＋税
・「協同学習を取り入れた英語授業のすすめ」江利川春雄編著　大修館書店　2,200 円
・「「学びの共同体」の実践　学びが開く！　高校の授業」佐藤学他編著 明治図書　2,486 円
・「「学びの共同体」で変わる！　高校の授業」佐藤学他編著 明治図書 2,486 円
・「「自己表現活動」を取り入れた英語授業」田中武夫・田中知聡著 大修館書店　2,420 円
・「英語教師のための発問テクニック　田中武夫・田中知聡著　大修館書店　2,420 円
・「和訳先渡し授業の試み」金谷憲他共著　三省堂
・「フォ-カス・オン・フォ-ムでできる　新しい英文法指導アイデアワ-ク (高校)」佐藤一嘉　　明治図書
・「「意味順」式 イラストと図解でパッとわかる 英文法図鑑」田地野彰　KADOKAWA　1,650円
・「英語コミュニケーション基礎をつくる音読指導」土屋澄男　研究社　2,420円
・「英語で行う英語授業のルール&活動アイデア：生徒をアクティブ・ラーナーにする!」胡子美由紀　明治図書　2,156円
・『たった一つを変えるだけ　クラスも教師も自立する「質問つくり」』ダン・ロスステイン、ルース・サンタナ著 新評論 2,640 円
・「高校入試に英語スピーキングテスト？ 東京都の先行事例を徹底検証」 大津由紀雄、南風原朝和編 岩波書店 680円+税
・「新編　教えるということ」　大村はま　筑摩書房　880円　（＊大村氏は国語教師）
・「中学校学習指導要領」（平成 29 年告示）解説外国語編文部科学省
・「高等学校学習指導要領」（平成 30 年告示）解説外国語編文部科学省
・Jacobs, G, M., Power, M, A., &Inn, L, W. (2002). The teacher's sourcebook for cooperative learning: practical techniques, basic principles, and frequently asked questions. Thousand Oaks, CA: Corwin Press. 関田一彦監訳 (2005). 『先生のためのアイディアブック：協同学習の基本原則とテクニック』ナカニシヤ出版
・Johnson, D. W., Johnson, R. T., &Holubec, E. J. (2002). Circles of learning: Cooperation in the classroom (5th Ed.). Edina, MN: Interaction Book Company. 石田裕久・梅原巳代子訳. (2010). 『学習の輪：学び合いの協同教育入門』二瓶社
・Marek Kiczkowiak and Robert J. Lowe, Teaching English as a Lingua Franca : The Journey from EFL to ELF. DELTA Publishing

【成績評価の方法と基準】
①実習報告、グループプレゼンテーションの評価
②グループ研究／個人研究の発表と討論への参加状況
③リアクションペーパー提出状況、最終レポートの評価
を総合的に勘案し評価する。（出席は、単位認定の前提条件である）

【学生の意見等からの気づき】
教育実習報告や、授業内での疑問について全員で検討していくことから学ぶことがとても多いという意見が多い。是非続けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
基本的には対面授業で行うが、オンライン授業ができる端末を準備すること。

【その他の重要事項】
受講人数や受講者の希望によって、授業の日程や形式など、授業計画は調整する。

【Outline (in English)】
【Course Outline and Learning Objectives】Based on the experience of teaching practice and the four years of teaching-related courses, students aim to acquire the knowledge, the skills and the attitude appropriate for working as teacher, discussing and examining a wide range of issues in actual educational settings,
【Learning activities outside of classroom】：After each class meeting, students are expected to spend two hours to understand the course content and send reaction reports r the teacher and other students.
【Grading Criteria/Policy】
The following items will be comprehensively considered and evaluated
(1) Evaluation of teaching practice reports and group presentations
(2) Participation in group/individual research presentations and discussions
(3) Submission of reaction papers and the final report
(Attendance is a prerequisite for credit.)

教職実践演習

沖濱　真治

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：英語免許（英文学科・国際文化・GIS学部生のみ履修可）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育実習での経験や４年間の教職関連科目での学びを踏まえ、実際の教育現場での課題についても幅広く議論、検討しながら、教職を担うにふさわしい知識、技能、ならびに教職を目指す姿勢を獲得することを目指す。

【到達目標】
教職に就くための基礎力量の仕上げを行う
①学校現場における授業を進める実践的スキルの獲得
②専門とする教科領域における教育内容についての一定の研究と教材作成力の獲得（授業指導案の作成を含む）
③子ども理解及び学級・学校の実際の理解と実践力、指導力量の育成
④教職に向けての明確な意志と各自の目標の設定
⑤積極的なコミュニケーションと発表・プレゼンテーションのスキルの獲得
なお、この講座は英語科免許取得用の授業なので、自分の取得予定の免許の教科と所属学部で英語科免許が取得できるかに注意して登録すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
グループと個人で研究と発表を行う。テーマは各自の専門とする領域から立てる。具体的には
①教科の内容・指導方法に関するレポート、ブックレット等の作成
②教職等の仕事の現状についてのレポートの作成
③子どもの困難、青年の自立の困難等についてのレポートの作成等から選択。発表も行う。
④教育行政、教育を取り巻く環境についてのレポートの作成等から選択。発表も行う。
またフィードバックの方法としては、学生から提出されたリアクションペーパー・課題を次の授業で紹介して講評し、また学生相互で討論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介、予定、希望調査
第2回	英語教育現代課題の検討①	現代課題講義（含む ICT の活用）・討論
第3回	教育実習体験報告①	教育実習体験発表・討論①
第4回	教育実習体験報告②	教育実習体験発表・討論②
第5回	教育実習体験報告③	教育実習体験発表・討論③
第6回	英語教育現代課題の検討②	英語教育現代課題グループレポート発表の項目の検討と分担
第7回	英語教育現代課題の検討③	英語教育現代課題グループレポート発表・討論①
第8回	英語教育現代課題の検討④	英語教育現代課題グループレポート発表・討論②
第9回	英語教育現代課題の検討⑤	英語教育現代課題レポート発表・討論についての振り返り・補足講義
第10回	個人研究準備	個人研究テーマ検討
第11回	個人研究発表①	個人研究発表・討論①
第12回	個人研究発表②	個人研究発表・討論②　補足講義
第13回	個人研究発表③	個人研究発表・討論③　補足講義
第14回	まとめ	講義全体のまとめ・補足講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から教育書、新聞、インターネットなどで今日の教育、とりわけ外国語教育の状況や問題点を十分に把握する。また日本や世界の抱える課題に目を向け、視野を広げ、認識を深める努力をする。なお、本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・教員が配布する講義資料

【参考書】
・月刊誌「新英語教育」　高文研 765 円
・月刊誌「英語教育」　大修館書店 880 円
・「現場発！　人間的な英語の授業を求めて」池田真澄著　高文研 2,420 円
・「よくわかる英語教育学」鳥飼玖美子他著　ミネルヴァ書房 2,750 円
・「英語習得の「常識」「非常識」第二言語習得研究からの検証」　白畑知彦編著　大修館書店870 円
・「英語学習は早いほど良いのか」　バトラー後藤　岩波書店　924円
・「外国語学習の科学: 第二言語習得論とは何か」白井恭弘　岩波書店　1,012円
・「英語独習法」今井むつみ 岩波新書 880円＋税
・「言語の本質-ことばはどう生まれ、進化したか」今井むつみ、秋田喜美著 中公新書1,056円
・「英語学習７つの誤解」大津由紀雄著 ひつじ書房 1,600円＋税
・「「日本人と英語」の社会学」寺澤拓敬著 研究社 2,600円＋税
・「英語教育のポリティクス　競争から協働へ」江利川春雄著（三友社出版）　2,200円＋税
・「協同学習を取り入れた英語授業のすすめ」江利川春雄編著　大修館書店　2,200 円
・「「学びの共同体」の実践　学びが開く！　高校の授業」佐藤学他編著 明治図書　2,486 円
・「「学びの共同体」で変わる！　高校の授業」佐藤学他編著 明治図書 2,486 円
・「「自己表現活動」を取り入れた英語授業」田中武夫・田中知聡著 大修館書店　2,420 円
・「英語教師のための発問テクニック　田中武夫・田中知聡著　大修館書店　2,420 円
・「和訳先渡し授業の試み」金谷憲他共著　三省堂
・「フォ-カス・オン・フォ-ムでできる　新しい英文法指導アイデアワ-ク (高校)」佐藤一嘉　　明治図書
・「「意味順」式 イラストと図解でパッとわかる 英文法図鑑」田地野彰　KADOKAWA　1,650円
・「英語コミュニケーション基礎をつくる音読指導」土屋澄男　研究社　2,420円
・「英語で行う英語授業のルール&活動アイデア：生徒をアクティブ・ラーナーにする!」胡子美由紀　明治図書　2,156円
・『たった一つを変えるだけ　クラスも教師も自立する「質問つくり」』ダン・ロスステイン、ルース・サンタナ著 新評論 2,640 円
・「高校入試に英語スピーキングテスト？ 東京都の先行事例を徹底検証」 大津由紀雄、南風原朝和編 岩波書店 680円+税
・「新編　教えるということ」　大村はま　筑摩書房　880円　（＊大村氏は国語教師）
・「中学校学習指導要領」（平成 29 年告示）解説外国語編文部科学省
・「高等学校学習指導要領」（平成 30 年告示）解説外国語編文部科学省
・Jacobs, G, M., Power, M, A., &Inn, L, W. (2002). The teacher's sourcebook for cooperative learning: practical techniques, basic principles, and frequently asked questions. Thousand Oaks, CA: Corwin Press. 関田一彦監訳 (2005). 『先生のためのアイディアブック：協同学習の基本原則とテクニック』ナカニシヤ出版
・Johnson, D. W., Johnson, R. T., &Holubec, E. J. (2002). Circles of learning: Cooperation in the classroom (5th Ed.). Edina, MN: Interaction Book Company. 石田裕久・梅原巳代子訳. (2010). 『学習の輪：学び合いの協同教育入門』二瓶社
・Marek Kiczkowiak and Robert J. Lowe, Teaching English as a Lingua Franca : The Journey from EFL to ELF. DELTA Publishing

【成績評価の方法と基準】
①実習報告、グループプレゼンテーションの評価
②グループ研究／個人研究の発表・討論への参加状況
③リアクションペーパー提出状況、最終レポート
を総合的に勘案し評価する。（出席は、単位認定の前提条件である）

【学生の意見等からの気づき】
教育実習報告や、授業内での疑問について全員で検討していくことから学ぶことがとても多いという意見が多い。是非続けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
基本的には対面授業で行うが、オンライン授業ができる端末を準備すること。

【その他の重要事項】
受講人数や受講者の希望によって、授業の日程や形式など、授業計画は調整する。

【Outline (in English)】
【Course Outline and Learning Objectives】Based on the experience of teaching practice and the four years of teaching-related courses, students aim to acquire the knowledge, the skills and the attitude appropriate for working as teacher, discussing and examining a wide range of issues in actual educational settings.
【Learning activities outside of classroom】：After each class meeting, students are expected to spend two hours to understand the course content and send reaction reports r the teacher and other students.
【Grading Criteria/Policy】
The following items will be comprehensively considered and evaluated
(1) Evaluation of teaching practice reports and group presentations
(2) Participation in group/individual research presentations and discussions
(3) Submission of reaction papers and the final report
(Attendance is a prerequisite for credit.)

教職実践演習

丸山　義昭

単位：**2単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
備考（履修条件等）：**国語免許（日文学科生のみ履修可）**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教職に相応しい知識と技能、教職を目指す姿勢の獲得をはかるとともに、４年間の単位取得状況や関連科目の成績等の到達点を踏まえ、教員免許取得に求められる大学教育としての到達目標を達成することを目標とする。

【到達目標】
教職に就くための基礎力量の総仕上げを行う。
①授業を進める上での実践的な方法・技術（ICT活用も含む）の獲得と生徒理解
②専門とする教科領域における教育内容についての理解と、教材研究と授業構想の能力の獲得（学習指導案の作成力も含む）
③今日の子ども理解および学校・学級についての理解と実践力、指導力量の獲得
④教職に向けての明確な意志の確立と、各自の実践上の目標を設定すること
⑤積極的なコミュニケーションとプレゼンテーション技能の獲得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教育実習報告のためにレジュメを作成し、それと研究授業の学習指導案およびワークシートなど実際に使用した資料をもとに、研究授業を中心に順番で報告を行う。続いて報告をめぐって各グループで検討の話し合いを十分に行った上で、質疑応答、全体討論を行う。また、「教育実習事前指導」の受講生を対象に、教育実習体験の報告も行う。毎回、前時の授業後に提出されたリアクションペーパーから意見や感想、質問をいくつか取り上げて全体にフィードバックし、相互の応答と教員のコメントを交えながら、さらなる議論に活かしていく。また、いくつかの教材について発問計画を考え作成し、全体で検討する。なお、各種課題の提出等は「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	本講義の目標と性格について説明する。本講義で取り組む課題、到達すべき目標について確認する。評価についての説明
2	教育実習報告とその検討①	教育実習における研究授業の学習指導案とその実際について、検討の観点を具体的に整理し、確認する。
3	教育実習報告とその検討②	中学校・説明的文章の研究授業について報告とグループによる検討および質疑応答、全体討論。
4	教育実習報告とその検討③	中学校・小説の研究授業について報告とグループによる検討および質疑応答、全体討論。
5	教育実習報告とその検討④	高校・評論の研究授業について報告とグループによる検討および質疑応答、全体討論。
6	教育実習報告とその検討⑤	高校・小説の研究授業について報告とグループによる検討および質疑応答、全体討論。
7	教育実習報告とその検討⑥	高校・古典（古文）の研究授業について報告とグループによる検討および質疑応答、全体討論。
8	教育実習報告とその検討⑦	高校・古典（漢文）の研究授業について報告とグループによる検討および質疑応答、全体討論。
9	説明的文章・評論の授業の探究	模擬授業とグループによる検討および質疑応答、全体討論。
10	文学作品（小説）の授業の探究	模擬授業とグループによる検討および質疑応答、全体討論。
11	文学作品（詩と短歌・俳句）の授業の探究	模擬授業とグループによる検討および質疑応答、全体討論。
12	古典（古文・漢文）の授業の探究	模擬授業とグループによる検討および質疑応答、全体討論。
13	ICTを活用した模擬授業	ICTを活用した模擬授業とその検討を行う。質疑応答、討論、講義によって、ICTを用いた授業の利点と課題について考察する。
14	全体的な総括および授業と学級経営の関わり	グループ演習。学ぶということ・教えるということについての考察とまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教育実習の体験報告の準備、学習指導案の練り直しなど模擬授業の準備、模擬授業後の振り返りシートの作成等を行う。参考文献を読み込むことによって、実習体験を意味づけるとともに、教育現場の抱える問題や取り組むべき課題などについて理解を深める。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。毎回、必要な参考文献や資料などを指定、もしくは配布する。

【参考書】
『学習指導要領』及び解説書（文部科学省）
『学力・人格と教育実践』佐貫浩（大月書店）
『新・生活指導の理論』竹内常一（高文研）
『読むことの教育』竹内常一（山吹書店）
『子どもの自分くずしと自分つくり』竹内常一（東京大学出版会）
『カリキュラムの批評』佐藤学（世織書房）
『実践国語科教育法』町田守弘（学文社）
『改訂新版　教師の条件』小島弘道 他（学文社）
『持続可能な未来のための教職論』諏訪哲郎 他（学文社）
『文学は教育を変えられるか』福田淑子（コールサック社）
『生き方を問う子どもたち』田中孝彦（岩波書店）
『第三項理論が拓く文学研究／文学教育』田中実 他（明治図書）
『文学が教育にできること』田中実 他（教育出版）

【成績評価の方法と基準】
①個別課題とプレゼンテーション等の評価、②グループ作業への積極的な参加と役割の遂行、討論への参加状況などの評価、③授業への積極的貢献度、を総合的に勘案して評価する。なお、最終評価に関わって個別面談を実施する場合もある。

【学生の意見等からの気づき】
教育実習の振り返りを通して、新たな課題が明確になったという意見が多い。個々の実習報告をめぐる質疑応答、討論の質をさらに高めていきたい。また、教員の模擬授業や現場体験に学ぶところが多いとの声があるので、そのための時間も確保していきたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The target of this class is to foster the student's positive attitude to teaching with good skills and knowledge, and accomplish the goal of obtaining a teaching license through a 4-year university education based on the scholastic marks in the related subjects.
【Learning Objectives】
Completing the basic skills required for the teaching profession.
① Acquiring practical methods and skills (including ICT utilization) for teaching, and understanding students.

② Understanding educational content in specialized subject areas, and acquiring the abilities to study teaching materials in depth and create a plan (including the ability to create teaching plans for classes).
③ Understanding children today and how schools and classes are today, and acquiring practical and leadership skills as a teacher.
④ Establishing a definite intention for the teaching profession, and setting one's practical goals.
⑤ Acquiring active communication and presentation skills.
【Learning activities outside of classroom】
Preparing an experience report for the practice teaching, preparing a mock class, such as reworking the teaching plan, and completing a self-evaluation sheet after the mock class, etc.
Reading the references in order to make the practical experience meaningful and deepen the understanding of problems in the field of education and issues to be tackled, etc.
The standard preparation and self-evaluation time for students for this class is four hours, (two hours for preparation, two hours for self-evaluation).
【Grading Criteria /Policy】
The following are each evaluated:
① Individual assignments and presentations, etc.
② Contribution to the group work and participation in the discussions, etc.
③ Contribution to the classes
The evaluation is made by taking into comprehensive consideration the above.

Individual interviews may be held in connection with the final evaluation, if necessary.

教職実践演習

松尾　知明

単位：**2単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
備考（履修条件等）：**社会地歴公民免許（史・心理学科生のみ履修可）**
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
４年間の教職科目及び関連科目の履修を踏まえ，教職を担うに相応しい知識や技能、姿勢や態度を理解し習得することを通じて、教員免許取得に求められる資質・能力の形成が目的となる。

【到達目標】
①学校現場における授業を進める指導スキル（授業指導案の作成を含む）に習熟することができる。②専門とする教科領域の教育内容について教材研究することができる。③子ども理解及び学級・学校の実際について理解することができる。④教職に向けての意志と各自の目標を明確にすることができる。⑤授業において積極的なコミュニケーションと対人関係のスキルを身に付けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
対面で授業を実施し、学習支援システムを活用する。授業は，グループワークも加味した演習形式の集団指導と個別学生への指導とを組み合わせて構成する。個別的指導については，開始当初に学生に「教職のための力量獲得についての自己評価」と「履修カルテ」を提出させ、個別課題を設定させる。必要に応じて中間報告を提出させ、講義修了時に個人研究成果報告書の作成を求める。なお、必要に応じて適宜、個別面談も行う。
授業では、①教職のあり方や実態、法規等を理解し考える報告・討論，②模擬授業も含めた授業実践の研究、③生徒指導に関する事例研究，④以上を踏まえて、学生自ら設定した模擬授業も含む研究成果発表などを行う。課題については、授業のなかでフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、教師に求められる資質・能力
2	教育実習の振り返り	履修カルテ、教育実習の振り返り
3	教職のあり方①：学習指導	学習指導のポイント
4	教職のあり方②：授業	教材研究の進め方
5	教職のあり方③：生徒指導	学級づくり、学級経営案
6	教職のあり方④：個別の課題	いじめや不登校、問題行動、家庭や外部との連携
7	テーマ研究の中間報告	テーマ研究の発表に向けて
8	３年生との共同授業	４年生によるプレゼンと交流
9	授業実践の分析	授業の見方・考え方・分析の方法
10	模擬授業	ICTを活用した授業の実施と検討
11	教師の力量形成	教師の専門性と実践の課題
12	テーマ研究発表(1)学習指導	プレゼンと討議
13	テーマ研究発表(2)生徒指導	プレゼンと討議
14	授業のまとめ	教職課程のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として、文献や資料などを読み、課された課題を行う。また、学習指導案の作成や模擬授業の準備する。準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特にして指定しない。毎回、必要文献、資料などを指定、あるいは配布する。

【参考書】
文部科学白書最新版（文部科学省ホームページを利用）等のデータ
数冊の教育実践記録（講義の最初に教科ごとに適切なものを選択して指示する）
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加状況（30％）、個別課題や発表、学習指導案、模擬授業（70％）などを総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
振り返りの話し合いを工夫する。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
This class is final one that students are demanded for obtaining the teaching certificates in Japan. Its aim and goal are to reflect themselves and develop the abilities and dispositions for teaching professionals.
【到達目標（Learning Objectives）】
Students are able to 1) acquire practical skills for teaching in a school setting, 2) research teaching materials of the subject area, 3) understand students and the actual conditions of classrooms and schools, 4) set clear intentions and goals for their teaching career, and 5) acquire positive communication and presentation skills.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students will be expected to read research teaching materials, prepare presentations, write lesson plans and prepare simulated lessons. The standard preparation and review time is 2 hours each.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Grading will be decided based on in class contribution (30%) and assignments and presentations (70%).

教職実践演習

寺崎　里水

単位：**2単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
備考（履修条件等）：**社会地歴公民免許（法学部生のみ履修可）**
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
４年間の教職科目及び関連科目の履修を踏まえ，教職を担うに相応しい知識や技能、姿勢や態度を理解し習得することを通じて、教員免許取得に求められる資質・能力の形成が目的となる。

【到達目標】
具体的には，①学校現場における授業を進める指導スキル（授業指導案の作成を含む）の習熟，②専門とする教科領域における教育内容についての研究力量の形成，③子ども理解及び学級・学校の実際の理解，④教職に向けての明確な意志と各自の目標設定の形成，⑤演習参加（グループ討論を含む）における積極的なコミュニケーションと対人関係のスキルの獲得，の５点が到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は対面で，グループワークも加味した演習形式の集団指導と個別学生への指導とを組み合わせて構成する。
個別的指導については，開始当初に学生に「教職のための力量獲得についての自己評価」と「履修カルテ」を提出させ、個別課題を設定させる。必要に応じて中間報告を提出させ、講義修了時に個人研究成果報告書の作成を求める。なお、必要に応じて適宜、個別面談も行う。
演習形式を基本とする講義は，次の4つから構成される。①教職のあり方や実態、法規等を理解し考える報告・討論，②模擬授業も含めた授業実践の記録の共同研究、③生徒指導に関する事例研究，④以上を踏まえて、学生自ら設定した模擬授業も含む研究成果発表である。
なお、学生のクラス分けは教科ごととする。
課題の提出とフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目標と構成をオリエンテーションし、履修カルテや事前提出レポート等を、修正を含めて点検する。
2	教育実習の振り返り	各自の教育実習の総括および事前提出レポートを素材に，教育実習を振り返る。
3	教職のあり方－報告と討論①：職務や労働条件	職務の多様性の理解を含む，教師の職務の全体像と労働条件を理解する。
4	教職のあり方－報告と討論②：教師の専門性と権限	教育法規に基づき，教師の権限や自由，子どもの権利を理解し、教師の専門性を向上させる制度やしくみを理解する。
5	教職のあり方－報告と討論③：学級運営と教員の評価・管理，学校評価	学級経営の基本的あり方について理解し，また教員が相互に協力して学校教育を推進していく同僚性のあり方を考える。
6	授業指導の実際－授業記録の共同研究（1）	単元、目標と評価、生徒理解を重点に授業研究をする。
7	授業指導の実際－授業記録の共同研究（2）	教材と教具、ICTの活用、内容と構成を重点に授業研究をする。
8	授業指導の実際－授業記録の共同研究（3）	指導方法とコミュニケーションを重点に授業研究をする。
9	生徒指導の事例研究（1）	不登校やいじめ、対人関係トラブルの事例を扱う
10	生徒指導の事例研究（2）	家庭・親との対話や支援、地域・他機関との連携の事例を扱う
11	学生研究成果発表とその集団検討（1）	学生自らが設定した模擬授業を含む研究発表とその議論。研究対象は中学校
12	学生研究成果発表とその集団検討（2）	研究対象は高校
13	学生研究成果発表とその集団検討（3）	「特別な配慮を要する生徒」等の特定テーマ
14	講義のまとめ	学生の教職履修総括の発表と講義者のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「教職のための力量獲得についての自己評価」と「履修カルテ」の作成、共同研究や研究成果発表の準備が必須となる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特にして指定しない。毎回、必要文献、資料などを指定、あるいは配布する。

【参考書】
文部科学白書最新版（文部科学省ホームページを利用）等のデータ数冊の教育実践記録（講義の最初に教科ごとに適切なものを選択して指示する）
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
①個別課題レポートについての評価（50％），②演習の中で分担した報告作業に関する評価（30％），③討論への参加やコメントペーパー提出などの平常点（20％）を目安として、総合的に評価する。なお，最終的評価については，必要に応じて個別面接を実施する 場合もある。

【学生の意見等からの気づき】
ほぼ2年間にわたり、学生の主体性や能動性を重視しながらも、こちらから問いや課題を出して授業を進めてきた。本年度も、教員と学生、学生相互のコミュニケーションを活性化させつつ、基礎的な知識やスキルの習得を確認しながら教職課程履修の総まとめをおこなっていきたい。

【Outline (in English)】
Course Outline: This class is final one that students are demanded for obtaining the teaching certificates in Japan. Its aim and goal is to reflect themself and develop the abilities and dispositions for teaching professionals.
Learning Objectives: (1) mastery of teaching skills to promote classroom teaching in the school setting, (2) formation of research skills in the educational content of specialized subjects, (3) understanding of children and the actual conditions of classrooms and schools, (4) formation of a clear will and setting of individual goals for teaching, and (5) acquisition of positive communication and interpersonal skills.
Learning Activities Outside of Classroom: Preparation and review time should be 2 hours each.
Grading Criteria: Evaluation of the individual assignment reports (50%), evaluation of the reporting work assigned in the exercises (30%), and ordinary points such as participation in discussions and submission of comment papers (20%)

教職実践演習

仲田　康一

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：社会地歴公民理科商業免許（地理学科・人間環境・経営学部生のみ履修可）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
４年間の教職科目及び関連科目の履修を踏まえ、教職を担うに相応しい知識や技能、姿勢や態度を理解し習得することを通じて、教員免許取得に求められる資質・能力の形成を目的とします。

【到達目標】
授業を通して、次の各項目を達成することを目標とします。
①学校現場において豊かな授業を展開する指導スキル（授業指導案の作成を含む）に習熟する
②専門とするそれぞれの教科領域の教育内容についてより深く研究することができる
③子ども研究・子ども理解のあり方と、学級・学校の実際について深く理解する
④教職課程の振り返りの上に、各自の課題の明確化と今後への目標設定を行えるようになる
⑤演習参加（グループ討論を含む）における積極的なコミュニケーションを通して、他者から学ぶ力を涵養し、対人スキルを高める

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業では、授業時間に行われる演習を中心に、必要に応じて各学生への個別指導を行います。
演習においては、グループワーク・模擬授業などを行い、授業中または授業後において、教員・他の受講生から文字または口頭にて、模擬授業に対するフィードバックを受けてもらいます。
学期初に「履修カルテ」を提出し、個別課題を設定してもらいます（必要に応じて、適宜、中間報告の提出や個別面談もしてもらいます）。さらに、学期末に最終報告の提出を求めます。
加えて、受講者は、時間割上の問題がないことを前提に、本授業の時限の直前にある「教育実習（事前指導）」（秋・水3）に2学年合同授業に参加してもらいます。教育実習の経験をふまえて、後輩に指導的関与をし、知見の継承に貢献していただきます。
ダイナミックに展開するため、シラバスの内容を変更することがあるので、連絡には留意してください。
なお、学生のクラス分けは教科ごとになっています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目標と構成をオリエンテーションし、履修カルテや事前提出レポート等を、修正を含めて点検する。
2	教育実習の振り返り	各自の教育実習の総括および事前提出レポートを素材に，教育実習を振り返る。
3	教職のあり方－報告と討論①：職務や労働条件	職務の多様性の理解を含む，教師の職務の全体像と労働条件を理解する。教育条件整備の実態についても，教材の充実，ICTの拡充，他/多職種との連携などの観点から，実態に基づき意義と課題を共有する。
4	教職のあり方－報告と討論②：教師の専門性と権限	教育法規に基づき，教師の権限や自由，子どもの権利を理解し、教師の専門性を向上させる制度やしくみを理解する。
5	教職のあり方－報告と討論③：学級運営と教員の評価・管理，学校評価	学級経営の基本的あり方について理解し，また教員が相互に協力して学校教育を推進していく同僚性のあり方を考える。学級運営や保護者とのコミュニケーションにおけるICTの活用法についても扱う。
6	授業指導の実際－授業記録の共同研究（1）	単元、目標と評価、生徒理解を重点に授業研究をする。
7	授業指導の実際－授業記録の共同研究（2）	教材と教具、内容と構成を重点に授業研究をする。
8	授業指導の実際－授業記録の共同研究（3）	指導方法とコミュニケーションを重点に授業研究をする。特にその中で、ICTを活用した模擬授業なども行う。
9	生徒指導の事例研究（1）	不登校やいじめ、対人関係トラブルの事例を扱う
10	生徒指導の事例研究（2）	家庭・親との対話や支援、地域・他機関との連携の事例を扱う
11	学生研究成果発表とその集団検討（1）	学生自らが設定した模擬授業を含む研究発表とその議論。研究対象は中学校
12	学生研究成果発表とその集団検討（2）	研究対象は高校
13	学生研究成果発表とその集団検討（3）	「特別な配慮を要する生徒」等の特定テーマ
14	講義のまとめ	学生の教職履修総括の発表と講義者のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。授業時間外における具体的な学習事項は、「教職のための力量獲得についての自己評価」と「履修カルテ」の作成、模擬授業の準備、クラスメートへのフィードバック、3年生への助言、最終報告作成などです。

【テキスト（教科書）】
特に設定しません。毎回、必要文献、資料などを指示、あるいは配布します。

【参考書】
文部科学白書最新版（文部科学省ホームページを利用）等
中学校・高等学校学習指導要領と、その解説（最新版　文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
①最終課題についての評価（30％）、
②演習中のディスカッションや模擬授業に関する評価（50％）、
③討論への参加や受講生相互のコメントなどの平常点（20％）
を目安として、総合的に評価します。なお、最終的評価については、必要に応じて個別面接を実施する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】
例年、3年生の教育実習事前指導受講生に対して、指導案等の助言をする合同授業を数回設けています。後輩に指導的関与をすることの有効性は大きかったようです。引き続き類似の機会を設けるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】
各回においては、パソコン・タブレットなどの持参をお願いします。

【その他の重要事項】
①資料の共有や最終提出物の提出などでオンラインシステムを用います。詳細は授業初回に説明します。
②多くの場合、前年度までに行われている教育実習（事前指導）と同じクラスに配置される傾向にあります。実習前からの成長をクラスメイトで相互に確認しあい、仲間として切磋琢磨してほしいと思います。
③教員をどれだけ活用するかが大学での学びの質を大きく左右します。教員への質問・相談は学生の権利であり、教員にとってもやりがいの源泉ですので、どうぞお気軽に。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
This class is final one that students are demanded for obtaining the teaching certificates in Japan. Its aim and goal is to reflect themself and develop the abilities and dispositions for teaching professionals.
【到達目標（Learning Objectives）】
Students are able to 1) acquire practical skills for teaching in a school setting, 2) research teaching materials of the subject area, 3) understand students and the actual conditions of classrooms and schools, 4) set clear intentions and goals for their teaching career, and 5) acquire positive communication and presentation skills.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students are required to read and analyse teaching materials, prepare presentations, write lesson plans and prepare simulation lessons.
The standard preparation and review time for this class is two hours each.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Grading will be decided based on term report(30%), assignments and presentations (50%), and in-class contribution (20%).

教職実践演習

遠藤　野ゆり

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：社会地歴公民商業免許（哲学科・CD学部生のみ履修可）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教職に相応しい知識と技能、教職を目指す姿勢の獲得について、４年間の単位取得状況、関連科目の成績等の到達点を踏まえ、教員免許取得に求められる大学教育としての到達目標を達成することを目標とする。

【到達目標】
教職に就くための基礎力量の仕上げを行う。具体的には、以下の５点を到達目標とする。
①学校現場における授業を進める実践的スキル（授業指導案の作成を含む）の獲得
②専門とする教科領域における教育内容についての一定の研究と教材作成力の獲得
③子ども理解及び学級・学校の実際の理解
④教職に向けての明確な意志と各自の目標の設定
⑤積極的なコミュニケーションとプレゼンテーションの技能獲得
なお、クラス指定の授業です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教職課程における学びや教育実習経験等に照らして、現在の学校が直面する実践的・臨床的課題の整理を行う。そこで共有化された項目について、グループに分かれ、ロールプレイングや模擬授業を取り入れながら、教員としての自己目標の設定と課題の明確化を行う。その成果を共同研究として論文にまとめる。
　なお、受講者は、この授業時限の直前にある「教育実習事前指導」に必要に応じて数回出席し、実習経験を踏まえた助言・相談を通して、後進の育成に貢献すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や課題、評価方法の説明。教職課程における本科目の位置づけの理解。
第2回	教職課程における学修の振り返り	履修カルテの確認、４年間の学修の振り返りと課題の導出。それらについて全体で討論。
第3回	教育実習の振り返り①	教育実習の体験を踏まえ、自らの学習課題を明らかにすると同時に、現在の学校が直面する実践的・臨床的課題を整理する。
第4回	教育実習の振り返り②	教育実習の体験を踏まえ、大学での学修を振り返る。また、後輩に伝える教育実習の心構え、準備等についてまとめる。
第5回	模擬授業①	３年生の前で模範となる模擬授業を行う。また教育実習に向けての心構え、準備等も伝える。
第6回	教材研究	４年間の学修および教育実習を踏まえ、教材研究の重要性、方法について振り返る。
第7回	授業方法	４年間の学修および教育実習を踏まえ、授業方法の重要性、方法について振り返る。
第8回	生徒指導	４年間の学修および教育実習を踏まえ、ロールプレイングを行いながら、生徒指導の重要性、方法について振り返る。
第9回	教員のキャリア	４年間の学修および教育実習を踏まえ、教員のキャリアの現状、今後の課題等について振り返る。
第10回	新しい課題	４年間の学修および教育実習を踏まえ、社会のなかで学校が直面する問題、地域との連携、今後の課題等について振り返る。ICT機器の活用について学ぶ。
第11回	模擬授業②	３年生の指導案づくりや模擬授業の練習に立ち合い、アドバイスをしたり、実際にやって見せたりする。
第12回	協同研究①	教職課程の総合的な振り返りとして、教材研究、授業方法、生徒指導、教員のキャリア、新しい課題、後輩の指導といった課題を設定し、研究レポートを執筆する。そのためのグループを決定する。
第13回	協同研究②	中間発表を行い、議論を進める。
第14回	研究レポートの提出と全体のまとめ	４年間の学びの総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に毎回レポートの提出を求める。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。
3年生の教育実習事前指導（火曜日5限）の授業における指導経験を体験することがある。可能な限りこの時間帯の履修を空けておくことが望ましい。
授業開始までに各自の教職履修カルテを整理し、教員としての自己の資質の確認を行っておくこと。授業時間に生産的な作業や議論が可能になるよう、与えられた課題を積極的に行うこと。

【テキスト（教科書）】
『ベストを尽くす教育実習』筒井美紀ほか編2017有斐閣

【参考書】
授業中に適宜指示。
「学習指導要領」（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
授業中に課された課題の提出70％（教育実習事前指導での後輩への助言、演習における積極的な役割の遂行や討論への参加状況などを含む）、期末研究レポート30％。

【学生の意見等からの気づき】
実習のふりかえりとして後輩指導が有効であるという意見が多いため、3年生の実習への助言、支援を中心に行う。

【学生が準備すべき機器他】
毎週パソコンを持参すること。

【その他の重要事項】
教職課程総仕上げの授業であることを自覚して臨むこと。
初回の授業に必ず参加すること。
実習等で参加できない場合は事前に連絡をすること（連絡先 noyuriendo@hosei.ac.jp）。初回授業等を無断欠席をした場合には履修を認めないことがある。
演習であるため原則として欠席を認めない。やむを得ないと判断される実習等を除き、3回以上欠席した場合には単位が修得できない。15分以上の遅刻は欠席とみなす。

【Outline (in English)】
Outline and objectives
Reflection of one's own experience of practical training. Brushing-up on the skill of teaching and reaching the attainment target of the teacher training course.
Goal
In this class, student will finish the basic skills to get a teaching profession. Specifically, the following five points are set as goals.

(1) Acquisition of practical skills (including preparation of lesson guidance plans) for advancing lessons at school sites
(2) Acquisition of a certain level of research and teaching material creation ability regarding educational content in the subject area of specialization
③ Understanding of children and actual understanding of classes and schools
④ Clear will for teaching profession and setting of individual goals
⑤ Active communication and presentation skills acquisition
Methods
In this class, students will sort out the practical and clinical issues facing the current school in light of the learning and practical training experience in the teaching profession. Therefore, the shared items will be divided into groups, and while incorporating role-playing and mock lessons, self-goals as teachers will be set and issues will be clarified. The results will be summarized in a paper as a joint research.
Work to be done outside of class (preparation, etc.)
Students may experience teaching experience in a pre-teaching lesson for third grade students. It is advisable to leave lessons during this time as much as possible.
Students must organize their teaching profession charts and confirm their qualifications as a teacher before the start of class. During class, students are required to actively perform given tasks so that they can work and discuss productively.
Textbooks
『ベストを尽くす教育実習』筒井美紀ほか編2017有斐閣
Grading criteria
70 %： Submission of assignments assigned during class (including advice to juniors in pre-teaching training, active role performance in exercises, participation in discussions, etc.)
30%：term-end report.

教育実習（高）

教育実習担当教員※

単位：3単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
備考（履修条件等）：2週間実施の方のみ履修可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育の現場たる中学校・高等学校における教師の教育実践・実務等を体験することを通して，教師の仕事の重要性・困難性，あるいはその豊かさを体験し、未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに，その役割や責任を自覚することを目的とする。

【到達目標】
教師としての仕事を遂行するために必要な力量を獲得する。そのためにも、実習校の指導に従い教育実習を全力で全うする。そしてその実習を総括して、さらなる課題を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教育実習は，教員免許取得に必要な教育課程の総仕上げとして位置づけられている。具体的には，①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む），②中学校・高等学校での実習，③実習後の「事後指導」を通して，反省と総括を行う。
事前及び事後指導において、適宜、リアクションペーパーや課題を課すことになる。そのフィードバックは、授業内で紹介したり、授業支援システムを利用したりしておこなう予定である。
課題は、授業のなかでフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
実習前	事前指導	第3年次（教育実習前年度）に各免許教科別に分かれて授業を行う。事前指導は，教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とする。
実習中①	教育実習校でのオリエンテーション	実習校の概要や特色，指導方針等の確認，指導教員との打ち合わせ等を行う。
実習中②	教育実習（3週間）	・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（教育実習の総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後，実習校の先生から指導を受ける。）
実習後	事後指導	実習日誌を完成させ、①各自の実習体験やそこから得たもの，反省点などをまとめ，②これから教育実習に臨む3年生にその経験を伝えたり，③実際に行った授業を３年生に対する模範授業として行ったりする。今後教壇に立つための更なる課題を自覚する。教職実践演習との有機的関連を持って実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教育実習で担当する授業の授業案の作成など全力で取り組む。

【テキスト（教科書）】
各プロセスで適宜指示する。

【参考書】
文部科学省『学習指導要領』及び『学習指導要領解説』
法政大学『教育実習の手引き』
その他、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
教育実習事前指導の合格を前提にし、実習校の評価を主とし，実習日誌の評価，実習後にまとめる実習リポートの採点及び事後指導の結果を加味して、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
実践的スキルの形成を指導過程で重視する。

【Outline (in English)】
The objectives for those who take this course are both to learn teaching knowledges and skills and to realize the roles and responsibilities for teaching and supervising pupils. The course begins at a third-year preparatory program and finishes in a fourth-year practical training.
The goal of this course is to complete the practice teaching in high school.
Students will be expected to work on the indicated task before and after practice teaching in school.
Preparation such as creating lesson plans for the classes to be taught during the teaching practicum is required.
Your overall grade in the class will be decided based on in-class contribution.

教育実習（中・高）

教育実習担当教員※

単位：5単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
備考（履修条件等）：3週間実施の方のみ履修可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育の現場たる中学校・高等学校における教師の教育実践・実務等を体験することを通して，教師の仕事の重要性・困難性，あるいはその豊かさを体験し、未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに，その役割と責任を自覚することを目的とする。

【到達目標】
教師としての職務を遂行するために必要な力量形成の仕上げを行う。そのため、実習校の指導に従い教育実習を全力で全うする。そしてその実習を総括して、さらなる課題を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
　教育実習は，教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。具体的には，①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む），②中学校・高等学校での実習，③実習後の「事後指導」を通して，反省と総括を行う。
　事前及び事後指導において、適宜、リアクションペーパーや課題を課すことになる。そのフィードバックは、授業内で紹介したり、授業支援システムを利用したりしておこなう予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
実習前	事前指導	第3年次（教育実習前年度）に各免許教科別に分かれて授業を行う。事前指導は，教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とする。
実習中①	教育実習校でのオリエンテーション	実習校の概要や特色，指導方針等の確認，指導教員との打ち合わせ等を行う。
実習中②	教育実習（3週間）	・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（教育実習の総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後，実習校の先生から指導を受ける。）
実習後	事後指導	実習日誌を完成させ、①各自の実習体験やそこから得たもの，反省点などをまとめ，②これから教育実習に臨む3年生にその経験を伝えたり，③実際に行った授業を３年生に対する模範授業として行ったりする。今後教壇に立つための更なる課題を自覚する。教職実践演習との有機的関連を持って実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教育実習で担当する授業の授業案の作成など全力で取り組む。

【テキスト（教科書）】
各プロセスで指示する。

【参考書】
文部科学省『学習指導要領』及び『学習指導要領解説』
その他、必要に応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
教育実習事前指導の合格を前提にし、実習校の採点を主とし，実習日誌の評価，実習後にまとめる実習リポートの採点及び事後指導の結果を加味して、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
実践的スキルの形成を指導過程で重視する。

【Outline (in English)】
The objectives for those who take this course are both to learn teaching knowledges and skills and to realize the roles and responsibilities for teaching and supervising pupils. The course begins at a third-year preparatory program and finishes in a fourth-year practical training.
The goal of this course is to complete the practice teaching in high school.
Students will be expected to work on the indicated task before and after practice teaching in school.
Preparation such as creating lesson plans for the classes to be taught during the teaching practicum is required.
Your overall grade in the class will be decided based on in-class contribution.

人文地理学Ⅰ

佐々木　達

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済現象は地域性をどのように作り出すかという経済地理学のオーソドックスな枠組みに基づいて，地域社会や地域経済の変容メカニズムについて企保的な方法論を学習することを狙いとする。

【到達目標】
到達目標①：経済地理学の学問的性格を理解する。
到達目標②：地域（社会・経済）の変容メカニズムについて説明できること
到達目標③：産業立地の基本的枠組みを説明できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
人文地理学は、地球上で展開される人間の諸活動が自然環境や社会環境を反映してどのような地域的特徴を作り出すのかを明らかにする、いわば「輪切りにされた歴史」を把握する学問分野である。本講義は、経済地理学の枠組みから地理的見方や地域の変化を捉える基礎的視点を学習する前半部分と、地域の変化をもたらす産業の在り方や現代的課題を地理学的に考察する後半部分からなる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	経済現象の地域性の解明とは？	経済地理学の基本的な枠組みについて解説する。
第2回	社会科学としての地理学	社会を科学するとは？
第3回	社会的分業と地域の形成①	地域は最初からあるものではなく，作られるものである。
第4回	社会的分業と地域の形成②	資本主義社会の元での地域
第5回	産業立地と地域経済の発展	立地論と地域経済の理論について解説する。
第6回	農業立地論と日本の農業地域	チューネンの農業立地論
第7回	食料供給の地理学	これからも腹いっぱい食べることができるか？
第8回	食のグローバル化はどう進んだか？	農産物貿易と国際食糧価格を事例に
第9回	工業立地論と日本の工業地域	ウェーバーの工業立地論
第10回	工業の地方分散と農村工業化	立地論の適用事例
第11回	中心地理論とコンビニの立地戦略	同じ店名のコンビニストアはなぜ向かい側に立地するのか？
第12回	立地競争と日本の商業環境	均衡立地と最適立地
第13回	経済地理学研究の魅力	地域経済と地域農業の再構築の実践事例
第14回	試験とまとめ	試験を実施し，まとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から日本経済新聞等に目を通して，社会や経済に関心をもってください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。

【参考書】
中澤高志『経済地理学とは何か』，旬報社，2021年
伊藤達也・小田宏伸・加藤幸治編著『経済地理学への招待』，ミネルヴァ書房，2020年
竹中克行編著『人文地理学への招待』，ミネルヴァ書房，2015年
竹内敦彦・小田宏信編著『日本経済地理読本　第9版』，東洋経済新報社，2014年
松原宏編著『地域経済論』，古今書院，2014年
川端基夫『改訂版立地ウォーズ』，新評論，2013年

【成績評価の方法と基準】
試験50%,小レポート50％に基づいて総合的に成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用する予定です。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces the basic framework of economic geography.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to understand of basic theory of economic geography, to be able to explain of the transformation mechanism of the regional economymechanizm, and to be able to explain the basic framework of industrial location.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

人文地理学Ⅱ

村田　陽平

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代の人文地理学において、主要な潮流であるジェンダー地理学を中心に地理学的パースペクティブの本質を理解することを目的とする。

【到達目標】
空間や場所におけるジェンダーやセクシュアリティ、ポジショナリティを十分に理解し、人文地理学を身近なものとして認識できるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教科書を用いて、わかりやすく解説し、毎回リアクションペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義の全体像の提示
第2回	人文地理学とジェンダー	フェミニスト地理学の誕生
第3回	人文地理学とセクシュアリティ(1)	LGBTQIの空間経験(1)
第4回	人文地理学とセクシュアリティ(2)	LGBQIの空間経験(2)
第5回	人文地理学とセクシュアリティ(3)	「女性専用車両」の意味
第6回	人文地理学とポリティクス（1）	政治という場所
第7回	人文地理学とポリティクス（2）	男性・異性愛の空間構造
第8回	人文地理学と広告（1）	自然な風景
第9回	人文地理学と広告（2）	身体と空間
第10回	人文地理学と男性	ホモソーシャルな空間
第11回	人文地理学と女性	地理学界のジェンダー
第12回	人文地理学とポジショナリティ	建築、空間、場所
第13回	人文地理学と現象学（1）	空間の認識論
第14回	人文地理学と現象学（2）	よりよい空間へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の復習や授業中に紹介する関連文献を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
村田陽平（2009）『空間の男性学：ジェンダー地理学の再構築』京都大学学術出版会，￥3800円＋税

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業で提出するリアクションペーパー（100％）を成績判定の材料とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
This course deals with Human Geography. It also enhances the development of students' skill in Human Geography. The aims and the goals of this course is to help students acquire an understanding of the contemporary Human Geography. At the end of the course, students are expected to realize the contemporary Human Geography.Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting, which will need more than 2 hours. Final grade will be decided based on the Short reports.

自然地理学Ⅰ

狩野　真規

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学の基本を学びながら、教壇で地理を教えるために必要な資質・能力の獲得を目指す。例えば地図や分布図の読図に関わる技能やICT教材の利用のためのノウハウなどの獲得を狙いつつ、中学・高校の地理の授業に必要な知識や実践のためのヒントを講義や実習から学んでいく。

【到達目標】

実際に中学・高校での地理の授業を板書だけに頼らないレベルで実施できる知識や指導法の獲得と、自然地理学にまつわる話題の理解を目指す。また、文部科学省の学習指導要領の中学社会および、高校地歴の内容の理解も目指していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的に講義の際に利用する図表などはプリントで配付し、それらをもとにPCによるスライドを利用した講義形式とする。また、各回の最後に次回への課題を提示し、次回冒頭にて小テストを実施ないしは実習課題等を提出する。フィードバックについては小テストならば、直後の講義内で解答の確認をしていく。（実習課題は次回返却をもってフィードバックとする）。なお、予定では教室での対面形式での実施を前提とするが、オンラインでの受講となるケースがあれば、適宜対応していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地理学とは？	地理学とは如何なる学問であるかを確認しつつ、中学・高校の社会および地歴科の学習指導要領における地理の内容について確認する。
第2回	地理の教科書を見る	実際の中学・高校における地理の教科書にて自然地理に関わる内容を確認する。
第3回	地球の成り立ちと地球表面における活動	地表面の形成とプレートの運動について、わが国の自然環境と発生する災害などを確認する。
第4回	地図の活用	授業での地図の活用について、地形図やGISなどを利用するための方法を探る。
第5回	地形図の読図・その1	実際の地形図を使って、地形図上の土地利用を考える。
第6回	地形図の読図・その2	実際の地形図を使って、地形計測を行う。
第7回	白地図の利用	実際の授業に備えた教材研究の一環として、白地図の利用法について課題の発表を通じて考える。
第8回	ケッペンの気候区分について	ケッペンの気候区分とその設定基準について確認する。
第9回	小気候スケールの現象	生活圏の地理的課題と地域調査の観点から身近な地域で発生する現象やその仕組みを考える。
第10回	気候景観について	身近な生活空間で発現する現象からその場所の気候を考える。
第11回	地球上における水	地球的課題の観点から生活に不可欠な水とその分布状態について考える。
第12回	水資源とその利用	生活圏の地理的課題の観点から人間が利用できる水資源とその問題点について考える。
第13回	自然災害と防災について	我が国の自然環境の特色を踏まえた上で、災害を引き起こす自然現象に注目し、防災意識を高めるための教材作りについて考える。
第14回	ICT教材やアクティブラーニングについて	地理の授業で実践するために必要な事項を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の冒頭にて小テストを実施するか、実習課題を課すので、その準備が必要となる（予習の代わり）。小テストないしは課題の内容は毎回の講義の最後にて指示する。
なお、各講義出席に備えて、必要となる予習がおおよそ2時間、復習も2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

高等学校で使用する地図帳、例えば帝国書院の新詳高等地図などがよい。
また、文部科学省の中学校ならびに高等学校の学習指導要領（社会・地理歴史）についてはその内容を確認しておくことが望ましい。

【参考書】

高橋日出男・小泉武栄（2008）地理学基礎シリーズ2　自然地理学概論、朝倉書店
水野一晴（2015）自然の仕組みがわかる地理学入門　ベレ出版
などがあげられるが、その他については適宜授業時に紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

毎回、何かしら評価の対象となるものを課題として設定するので、その合計で評価をする。具体的には小テストないしは実習課題(80%)、および課題を基にした発表内容(20%)の合計で評価する。特に発表に対する評価は教員だけではなく、受講者同士の相互評価を加え、教員と受講者で半分ずつの比率とする。

【学生の意見等からの気づき】

地理に対しての知識の無さを気にする学生が多いが、その対策の一つとして、近年は小テストを実施するようにしたが、事前に提示した課題に対してWeb、特にフリーの百科事典のようなものを見ただけで済ませてしまうケースが散見されるようになった。教材研究につながる部分もあるわけなので、図書館の文献を手に取るような主体的な学びの姿勢を持ってもらいたい（教員は学ぶことを教える仕事であるので、自ら学ぶ意味を考えていただきたい）。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用できる準備をしておくこと。また、課題で地図への彩色が必要となる関係で色鉛筆(12色セットのもの)や定規・極細のペンなど作図ができるような道具を用意すること。

【その他の重要事項】

近年、出席が常ではない履修者が増えてきている。特に初回から出席しないものが増加している。教壇に立つために自分を律することが求められるはずなので、初回からきちんと出席をすることを求める。
また、実習などで欠席した際には証明書を速やかに提出すること。
それから、配布資料などは講義内での配布のみで、Hoppii等での配布はしない（出席をすることの意味を考えていただくためである）。
なお、情勢によっては教室での講義ができなくなることも起こり得るので、その際には臨機応変に対応していくこととする。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to　assemble geography classes in the junior high school and high school. Especially, learn the basics of natural geography.
By the end of the course, students should be able to do the following:
1. Acquisition of lesson method using map

2. An understanding of the basic of natural geography(Topography,Climatology and Hydrology).
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.
4. To assemble geography classes in the junior high school and high school for educational training.
Learning activities outside of classroom : Students need about 4 hours to prepare and review the content each time.
Grading Criteria /Policy : Reports and tests (70%)
Announcement of issues and mutual evaluation (30%)

自然地理学Ⅱ

狩野　真規

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学に関するテーマを軸として、教壇で地理を教えるために必要な資質・能力の獲得を目指す。特に受講者による模擬授業を実践することで、教材研究や板書計画などの経験を積むとともに、中学・高校で地理を教えるスキルの獲得・向上を目指す。

【到達目標】

地理の授業に必須となる自然地理学の知識だけではなく、教えるために必要な技能などの獲得を目指す。具体的には文部科学省の学習指導要領の内容を意識した学習指導案の作成から授業の実践を経験し、現場での授業に対処できるレベルへの到達を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的には序盤はプリントを配付し、それらをもとにPCによるスライドを利用した講義形式とし、小テストなどの課題を実施する（フィードバックについては、小テストの解答を実施直後の講義内で提示していき、全体に対して行うことを基本とする）。中盤以降は受講者による実践を中心にしたいと考えている。よって、基本的には教室での対面形式で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地理学とは何か？	地理学とは如何なる学問であるかを確認しつつ、中学・高校の社会および地歴科の学習指導要領における地理について確認する。
第2回	自然環境と産業との関わり	農業と気候との対応などから地誌的内容への応用を探る。
第3回	造山帯と資源分布	造山運動と資源分布との対応から暗記主体授業からの脱却のための視点を考える。
第4回	地形図にみられる地形とその形成	身近な地域でみられる地形について、その形成や地形図上での表記に注目し、地形図の読図に関する知識の獲得とそれらを教材としての使い方を考える。
第5回	気候区分について	気候区分とその考え方から教材研究の方法を探る。
第6回	白地図の利用	実際の授業に備えた教材研究の一環として、白地図の利用法について課題の発表を通じて考える。
第7回	自然地理の授業の実践・その1	大地形についての授業を履修者が主体となって授業を行うことで、授業実践に慣れることに主眼を置く。
第8回	自然地理の授業の実践・その2	地形図に出てくるスケールの地形についての授業を履修者が主体となって授業を行うことで、授業の実践・振り返りから授業改善の視点を養うことに主眼を置く。
第9回	自然地理の授業の実践・その3	ケッペンの気候区分についての授業を履修者が主体となって授業を行うことで、内容に対する指導上の留意点を確認していく。
第10回	自然地理の授業の実践・その4	日本の気候についての授業を履修者が主体となって授業を行うことで、生徒の状況(認識力・思考力・学力など)に応じた授業設計の必要性を確認していく。
第11回	自然地理を活かした授業の実践・その1	アメリカ地誌について自然環境の説明から展開する内容とした履修者主体の授業の実践を行うことで、発展的な学習内容を盛り込んだ授業実践を行うことで、それらの学習指導への位置づけを考える。
第12回	自然地理を活かした授業の実践・その2	オーストラリア地誌について自然環境の説明から展開する内容とした履修者主体の授業の実践を行うことで、ICT機器などの効果的利用を考慮した授業設計の検討をしていく。
第13回	自然地理を活かした授業の実践・その3	アジア地誌について自然環境の説明から展開する内容とした履修者主体の授業の実践を行うことで、定期テストやレポートなどを通じた学習評価について、その方法や考え方を理解する。
第14回	アクティブラーニングを使った授業	地理の授業で実践するために必要な事項を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

序盤では小テストないしは課題を課すので、それに対処できる準備をして欲しい。中盤以降は履修者が主体となるので、模擬授業の準備などが必要となる。特に意識してもらいたいこととして、他人の模擬授業を聞くときは、自分が扱うことを想定した準備をしてくることを挙げたい。なお、各講義出席に備えて、必要となる予習がおおよそ2時間、復習も2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

高等学校で使用する地図帳、例えば帝国書院の新詳高等地図などがよい。また、文部科学省の中学校ならびに高等学校の学習指導要領（社会・地理歴史）についてその内容を確認しておくことが望ましい。

【参考書】

高橋日出男・小泉武栄（2008）地理学基礎シリーズ2　自然地理学概論、朝倉書店

水野一晴（2015）自然の仕組みがわかる地理学入門　ベレ出版

などがあげられるが、その他については適宜授業時に紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

序盤までの授業で実施する小テストないしは実習課題（40%）、および模擬授業内容（60%）の合計で評価する。特に模擬授業に対する評価は教員だけではなく、受講者同士の相互評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業の順についてはかつての履修者からの声を参考とした。また、他者が模擬授業をしているときにも出席する意義づけを考え、履修者同士の評価も成績評価に取り入れるようにしてきた。一方で、模擬授業の際に指定した教科書の枠にとらわれた授業が目立つようになってきたが、教科書を教えるのではなく、教科書で教えることを目指してもらいたい。その第一歩としては図書館の関連する文献を教材研究に活用することであろう。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使えるようにしておくこと。場合によってはオンライン講義になることもあるので、その際にはインターネットへの常時接続ができる環境を各自で用意する必要があるので、大学の支援などについて各自で確認し、対応することが必要となる。

【その他の重要事項】

まず、教員免許取得を目指すならば、現場での授業を成立させるためのスキル獲得は目指すべきである。そのための科目であることを意識する必要がある。卒業の単位数に加える形での履修が求められている意味をよく考えてもらいたい。
例えば、近年、出席が常ではない履修者が一定数いる。特に初回から出席しないものが増加している。教壇に立つために自分を律することが求められるはずなので、初回からきちんと出席をすることを求める。

また、実習などで欠席した際には証明書を速やかに提出すること。

それから、配布資料などは講義内での配布のみで、Hoppii等での配布はしない（出席をすることの意味を考えていただくためである）。

なお、情勢によっては教室での講義ができなくなることも起こり得るので、その際には臨機応変に対応していくこととする。特に模擬授業が実施できなければ、評価についても変わってくるので、その時には改めてアナウンスをしていくこととする。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to　assemble geography classes in the junior high school and high school. Especially, learn the basics of natural geography.
By the end of the course, students should be able to do the following:
1. Acquisition of lesson method using map
2. To　assemble geography classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.
Learning activities outside of classroom : Requires at least 4 hours to prepare and review the assignments for each lecture.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Reports or tests (40%)
Teaching plan ,contents of the simulated class and mutual evaluations between the student attending a lectures for the simulated class(60%)

地誌Ⅰ

山口　隆子

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地理の授業を担当する社会科の教員として必要な地理（地誌学）の基本的な知識を習得します。

【到達目標】
地理の授業を担当する社会科の教員として必要な基礎知識と授業の展開方法を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
地図作業、学生による模擬授業などを適宜交えて講義を進行させます。出席者にはプリントの配布やHoppiiでの資料配布を行います。提出されたリアクションペーパーや課題等はコメントを付けて返却します。対面での講義が実施できない場合、ZOOMによるオンライン授業になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地理学と地誌学	地理学や地誌学は、どのような学問か。
第2回	地理的な見方・考え方とは	学習指導要領に例示されている五つの地理的な見方・考え方
第3回	地理学習の基礎	地理情報と地図の活用
第4回	日本の諸地域	日本の自然
第5回	世界の諸地域①	アジアの自然
第6回	世界の諸地域②	西アジア・アフリカの自然
第7回	世界の諸地域③	ヨーロッパの自然
第8回	世界の諸地域④	東欧・ロシアの自然
第9回	世界の諸地域⑤	北米の自然
第10回	世界の諸地域⑥	中南米の自然
第11回	世界の諸地域⑦	オセアニア・極域の自然
第12回	世界の諸地域⑧	学生による模擬授業等
第13回	フィールドワークとは	大学周辺でのフィールドワーク
第14回	まとめ	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
毎回の講義で実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しないが、高校で使用していていた地図帳（出版社は問わない）を必ず持参すること。新たに購入する場合は、『新詳高等地図』帝国書院を推奨。

【参考書】
荒井正剛（2019）：『地理授業づくり入門』．古今書院，150p.
井田仁康（2021）：『「地理総合」の授業を創る』．明治図書，163p.
碓井照子編（2018）:『「地理総合」ではじまる地理教育』．古今書院，200p.
千葉県高等学校教育研究会地理部会（2019）：『新しい地理の授業：高校「地理」新時代に向けた提案』．二宮書店，222p.
奈良県高等学校地理教育研究会編（2022）：『地理総合の授業』．帝国書院，119p.
矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣雄矢（2020）：『地誌学概論　第2版』．朝倉書店，174p.
山口幸男ほか編（2016）：『地理教育研究の新展開』．古今書院，276p.
吉水裕也編著（2019）：『本当は地理が苦手な先生のための中学社会　地理的分野の授業デザイン＆実践モデル』．明治図書，149p.
吉水裕也編著（2022）：『新３観点の学習評価を位置づけた中学校地理授業プラン』．明治図書，127p.
吉水裕也著（2023）：『地理的な見方・考え方を働かせた地理授業デザイン』．明治図書，173p.

【成績評価の方法と基準】
到達目標欄に記載した各目的の達成度を評価基準とし、次の要素配分で評価を行う。
レポート：50％、課題：50％

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
高校で使用していた教科書準拠の地図帳（『新詳高等地図』帝国書院など）を毎回持参すること。

【Outline (in English)】
Learn the basic knowledge of the geography necessary as a teacher of the social department in charge of geography classes. To acquire the basic knowledge and lesson development methods necessary for social studies teachers to teach geography classes.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Some practical assignments may be given in each lecture, so students are expected to fulfill them in their home study and attend the class.
Final grade will be calculated according to the following Mid-term reports(50%), and assignments in the lecture(50%).

地誌Ⅰ

南　春英

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21世紀の現代世界を理解する上で欠くことのできない中国について、地誌学の立場から理解を深めます。地域を理解するためには、さまざまな視点から見る必要がありますが、特に本講義では現代中国を理解するために重要な視点に絞って論じます。

【到達目標】

まずは、現代中国に関する基礎的知識を習得します。また、中国の地域的広がりと多様性を理解することを目標とします。そして、地図帳や統計を使って地域を空間的に把握出来るよう目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めていきます。受講生には、授業後にペーパー（あるいは授業支援システム）通して、感想・質問等のリアクションや課題の提出をお願いすることがあります。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロ	授業内容の説明
第2回	地誌学とは	地誌学の目的とアプローチ
第3回	中国と日本①	日本と中国の歴史関係について考える。
第4回	中国の地誌①	自然環境の多様性について考える。
第5回	中国の地誌②	自然災害について考える。
第6回	中国の地誌③	経済の歩みと日中経済について考える。
第7回	中国の地誌④	都市化と課題について考える。
第8回	中国の地誌⑤	中国の抱える人口問題の現状について考える。
第9回	中国の地誌⑥	（DVD）中国の世界遺産
第10回	中国の地誌⑦	民族と文化の多様性について考える。
第11回	中国の地誌⑧	自然と人文環境から生まれた食文化について考える。
第12回	中国の地誌⑨	中国の教育制度と現状について考える。
第13回	中国の地誌⑩	中国人の現在の暮らしについて考える。
第14回	試験・まとめと解説	授業内試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、講義で扱う地域を地図帳などで確認し、基本的な位置関係や地名を確認しておくことが求められます。また、講義中に紹介する文献をよむことを望みます。授業と並行してレポート「○○地域の地誌」を作成します。こうしたことから、各自がそれぞれ2時間以上自ら学ぶことを期待します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。読んで欲しい書籍や文献は授業のなかで随時紹介するので、積極的に読んでください。

【参考書】

時事的な社会情勢の理解に役立つよう、常に最新の題材を取り扱っていきたい。

可児弘明ほか（1998）『民族で読む中国』朝日新聞社.
季 増民（2008）『中国地理概論』ナカニシヤ出版.
古田陽久（2022）『ユネスコ遺産ガイド　世界編　総合版』シンクタンクせとうち
総合研究機構.
高井潔司・藤野 彰・曽根康雄（2012）『現代中国を知るための40章』明石書店.
陳 舜臣・尾崎秀樹（1993）『中国：読んで旅する世界の歴史と文化』新潮社.
帝国書院編集部（2019）『図説地理資料　世界の諸地域NOW』帝国書院.
帝国書院編集部（2019）『中学校社会科地図』帝国書院.
帝国書院（2020）『最新基本地図―世界・日本―44訂版』帝国書院.
藤野 彰（2018）『現代中国を知るための52章』明石書店.
丸川智雄（2013）『現代中国経済』有斐閣アルマ.
矢ケ﨑典隆，加賀美雅弘，牛垣雄矢（2020）『地誌学概論』朝倉書店.

【成績評価の方法と基準】

成績は期末試験（50％）とレポート（50％）で行い、両者の合計が100％です。
テンポの良い授業を目指します。

【学生の意見等からの気づき】

さまざまな視点から現代中国を理解する。

【Outline (in English)】

Understand modern China from various perspectives.
The aim of this course is to help students acquire the knowleage and new point of view to contemporary China.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process
Short reports (50%), term-end examination (50%).

地誌Ⅱ

南　春英

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教職の科目としても重要な地誌学の基本的な考え方や様々な地域の地誌学的な見方の基礎を培います。中国の「古都」と呼ばれる首都である北京と、「魔都」と呼ばれている中国の経済中心である上海を学習対象とし、その歴史から発展、現状、抱える課題について考えていきます。

【到達目標】
中国の地域的広がりと地域による多様性について理解します。中国の諸地域の中でも、南北を代表している北京と上海を取り上げることで、地域ごとの特徴を正しく理解することを目標とします。特に、「地誌」作成の基礎能力を修得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は教員の講義方式で進めていきます。また、グループごとに北京の世界遺産を調べ、その結果を授業の最後に発表します。受講生には、授業後にペーパー（あるいは授業支援システム）通して、感想・質問等のリアクションや課題の提出をお願いすることがあります。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロ	授業内容の説明
第2回	地誌学とは	地誌学の目的とアプローチ
第3回	北京の地誌①	北京の自然環境と歴史について考える。
第4回	北京の地誌②	「四合院」と現代住宅事情について考える。
第5回	北京の地誌③	北京の経済発展とその機能について考える。
第6回	北京の地誌④	北京市民の生活と文化について考える。
第7回	上海の地誌①	上海の自然環境と歴史について考える。
第8回	上海の地誌②	上海の経済発展とその機能について考える。
第9回	上海の地誌③	中国とアジアの中における上海について考える。
第10回	上海の地誌④	上海市民の生活と文化について考える。
第11回	北京と上海の地域特徴①	北京人からみる上海人と上海人からみる北京人について考える。
第12回	学生による発表①	グループごとに発表する（AとBグループ）。
第13回	学生による発表②	グループごとに発表する（CとDグループ）。
第14回	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
北京と上海の基本的な地理については、事前に学習しておいてください。
授業と並行してレポート「北京の○○世界遺産」を作成し、発表します。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。

【参考書】
岩間一弘ほか（2012）『上海―都市生活の現代史』風響社.
榎本泰子（2009）『上海―多国籍都市の百年』中央公論新社.
木之内誠（2011）『上海歴史ガイドマップ』大修館書店.
櫻井澄夫・人見 豊・森田憲司（2017）『北京を知るための52章』明石書店.
田嶋淳子（2000）『上海-甦る世界都市』時事通信社.
帝国書院編集部（2019）『図説地理資料　世界の諸地域NOW』帝国書院.
村松伸文（1999）『北京-図説：三〇〇〇の悠久都市』河出書房新社.
矢ケ﨑典隆, 加賀美雅弘, 牛垣雄矢（2020）『地誌学概論』朝倉書店.
楊東平著；趙 宏偉・青木まさこ訳（1997）『北京人と上海人-攻防と葛藤の20世紀』
日本放送出版協会.

【成績評価の方法と基準】
成績は発表（40％）とレポート（60％）で行い、両者の合計が100％です。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ学生のコメントに耳を傾けた授業を行いたいと思います。

【Outline (in English)】
Learn the basic knowledge of the geography necessary as a teacher ofthe social department in charge of geography classes.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process
Discussion (40%), report(60%).

図書館サービス概論

栗原　智久

単位：**2単位**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館サービスとは？　みなさんの思いうかべるものは？
この授業では、図書館サービスの意義・種類・目的・方法・目標・評価などについて学習します。
実例をもとに、また図書館の種別・属性によるところからもみてみます。
みなさんのアイデアもグループディスカッションなどを通じて掲げてもらい、考察します。

【到達目標】
①図書館サービスを理解する。
②学習したことをもとに、自ら図書館サービスをこなすことができる知識、また図書館サービスを考案できる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
対面授業による講義が基本ですが、みなさんに能動的に考えてもらう時間、アイデアを出してもらう時間も設けます。（提出・発表）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	図書館におけるサービス	イントロダクションとして、みなさんが思いつくサービスを掲げてもらいます。その上で、図書館サービスの意義・種類・目的・方法などについて考えます。
第2回	情報サービス	図書館における情報サービスについて、レファレンスサービス・レフェラルサービス・カレントアウェアネスサービスをはじめとして、説明します。
第3回	閲覧サービス	資料提供サービスとしての閲覧サービスについて学習します。閲覧のための空間提供についてもふれます。
第4回	複写サービス	資料提供サービスとしての複写サービスについて学習します。複写に関連する著作権についてもふれます。
第5回	貸出サービス	資料提供サービスとしての貸出サービスについて学習します。自館と他館における館間相互貸借についてもふれます。
第6回	情報提供サービス	レファレンスサービスをコアに、情報を提供するとはどういうことか、学習し、考えます。
第7回	児童・生徒・学生サービス	乳幼児～ヤングアダルト、調べ学習・総合的な学習の時間などに応えるサービスについて、具体的にみていきます。
第8回	発信型サービス	受動的ではなく能動的なサービスとしての発信型サービスについて、アナログ型・デジタル型ともにみていきます。
第9回	アウトリーチサービス	通常サービスを利用するのがむずかしい人（ところ）へのサービスについて考えます。
第10回	講座・セミナー	実例をもとに、具体的にみていきます。評価します。
第11回	連携・協力サービス	博物館など類縁機関との連携・協力、内部連携・協力について、実例をもとに、具体的にみていきます。評価します。
第12回	図書館（情報）利用教育	図書館を、図書館の情報・サービスを、利用する、利用させる情報リテラシーについて学習し、考えます。
第13回	図書館サービスのこれから	実例をもとに、ユニークなサービスをみてみます。評価します。これからの図書館サービスについて、目標を含めて考えます。
第14回	まとめと試験	まとめと試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前後にプリントをよく読んで、準備・復習します。自分で気になる図書館を、訪問したり、ホームページで確認したりするなどして、授業で学習したことと照らし合わせて知識としての定着をはかってください。
実際に、宿題（課題レポート）で、図書館サービスを調査します。（提出）
毎回、準備学習に２時間、復習に２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回テキストプリントを配布します。

【参考書】
授業時に複数紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点(25%)　提出物(25%)　期末試験(50%)

【学生の意見等からの気づき】
みなさんが図書館に関心があり、そのサービスに興味があることはわかっています。自らそれを積極的に調べたくなるような学習内容を目指します。

【その他の重要事項】
図書館司書課程必修科目です。
博物館図書室、公共図書館協議会での実務経験を示せればと思っています。

【Outline (in English)】
Course outline : The aim of this course is to help students understand Library Service.
Learning Objectives : By the end of the course, students should be able to do Library Service and plan for Library Service.
Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies : In-class performance(20%) Report(30%)　Term-end examination(50%)

情報サービス演習

田中　順子

単位：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報サービスとは、利用者の情報ニーズに応じ、その問題解決のために、情報を提供するサービスのことをいいます。現代の図書館では重要なサービスに位置づけられています。そこで、この授業では、演習をとおして情報サービスの意義と実務について学びます。

【到達目標】
情報サービスの設計から評価に至る一連の業務について、実践的な学習をとおして理解を深めます。具体的には、情報サービスの基本的な業務であるレファレンスサービス、情報検索サービスに関する実践力を身につけ、さらに図書館が積極的に情報を発信するスキルを習得します。
Students learn about how to respond user's need.
First, go to library and research various books,
Then, they present their research results and learn how to express them effectively.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
情報サービスの業務に関し実践的な力を養うため、レファレンスサービス、情報検索サービスを中心に、レファレンス・コレクションの評価、レファレンス・インタビューの技法、図書館利用教育プログラムづくりなどについての演習を行います。また、情報発信型サービスについても学びます。
学生の調査結果の発表と提出物に対し、適切なアドバイスを行います。フィードバックは、授業中に受け付けます。さらにメールアドレスを提示し、適宜受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス/情報サービスの概要	授業内容と進め方について/情報検索の基礎
2	情報検索の基本（1）	コンピュータ検索の技術　①OPAC検索の基礎と応用
3	情報検索の基本（2）	コンピュータ検索の技術　②論理演算
4	情報検索の基本（3）	コンピュータ検索の技術　③トランケーション
5	情報サービスの設計	情報サービスの態勢づくり
6	情報資源の探し方（1）	情報資源の特徴とアクセスの方法
7	情報資源の探し方（2）	情報資源の活用、インターネット上の情報資源
8	情報検索基礎演習（1）	図書・図書情報に関する検索
9	情報検索基礎演習（2）	雑誌・雑誌記事に関する検索
10	情報検索基礎演習（3）	新聞・新聞記事に関する検索
11	情報検索基礎演習（4）	法律、外交資料の検索
12	情報検索基礎演習（5）	レファレンスブック検索
13	情報検索基礎演習（6）	統計の検索
14	情報検索基礎演習（7）/春学期のまとめ	情報検索、回答結果の評価
15	レファレンス・インタビュー(1)	インタビューの技法
16	レファレンス・インタビュー(2)	質問に対する回答の方法
17	情報検索演習(1)	「ことば」に関する課題と回答
18	情報検索演習(2)	「ひと・団体」に関する課題と回答
19	情報検索演習(3)	「とき」に関する課題と回答
20	情報検索演習(4)	「ところ」に関する課題と回答
21	情報検索演習(5)	「本・作者・作品」に関する課題と回答
22	情報検索演習(6)	「もの・事柄」に関する課題と回答
23	情報検索演習(7)	「雑誌・新聞」に関する課題と回答
24	情報検索演習(8)	書誌に関する課題と回答
25	情報検索演習(9)	インターネットで調べられない質問に対する調査
26	情報発信型サービスの実際(1)	情報発信型サービスを行っている事例について解説
27	情報発信型サービスの実際(2)	地域の特徴を生かした情報発信型サービスの実情
28	図書館利用教育の実際/秋学期のまとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容を復習し、与えられた課題について、図書館などで文献調査に取り組みます。本授業のための調査・復習時間は各4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
参考書などは、適宜授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
情報サービスに関する発表、演習（課題に対する回答の提出内容）によって成績を評価します。配分は発表20％、演習80％です。授業に対する積極的な貢献度が認められる場合、最終評価の参考にします。

【学生の意見等からの気づき】
授業の準備（課題の回答）が大変だとの意見が見られますが、その努力、積み重ねが必要なことを説明し、学生が課題調査に取り組めるように指導していきます。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and importance of information services on modern libraries. It also enhances the development of student's skill in information retrieval.
Before each class meeting, students will go to library and research various books to answer user's need.
Then in the class, they present their research results and submit research reports.
Students will spend more than four hours to research various books for making report.
After class they need to study about the course content.
Research reports(80%)
Presentation about their research results in the class.(20%)

情報サービス演習

田中　順子

単位：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報サービスとは、利用者の情報ニーズに応じ、その問題解決のために、情報を提供するサービスのことをいいます。現代の図書館では重要なサービスに位置づけられています。そこで、この授業では、演習をとおして情報サービスの意義と実務について学びます。

【到達目標】
情報サービスの設計から評価に至る一連の業務について、実践的な学習をとおして理解を深めます。具体的には、情報サービスの基本的な業務であるレファレンスサービス、情報検索サービスに関する実践力を身につけ、さらに図書館が積極的に情報を発信するスキルを習得します。
Students learn about how to respond user's need.
First, go to library and research various books,
Then, they present their research results and learn how to express them effectively.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
情報サービスの業務に関し実践的な力を養うため、レファレンスサービス、情報検索サービスを中心に、レファレンス・コレクションの評価、レファレンス・インタビューの技法、図書館利用教育プログラムづくりなどについての演習を行います。また、情報発信型サービスについても学びます。
学生の調査結果の発表と提出物に対し、適切なアドバイスを行います。フィードバックは、授業中に受け付けます。さらにメールアドレスを提示し、適宜受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス/情報サービスの概要	授業内容と進め方について/情報検索の基礎
2	情報検索の基本（1）	コンピュータ検索の技術　①OPAC検索の基礎と応用
3	情報検索の基本（2）	コンピュータ検索の技術　②論理演算
4	情報検索の基本（3）	コンピュータ検索の技術　③トランケーション
5	情報サービスの設計	情報サービスの態勢づくり
6	情報資源の探し方（1）	情報資源の特徴とアクセスの方法
7	情報資源の探し方（2）	情報資源の活用、インターネット上の情報資源
8	情報検索基礎演習（1）	図書・図書情報に関する検索
9	情報検索基礎演習（2）	雑誌・雑誌記事に関する検索
10	情報検索基礎演習（3）	新聞・新聞記事に関する検索
11	情報検索基礎演習（4）	法律、外交資料の検索
12	情報検索基礎演習（5）	レファレンスブック検索
13	情報検索基礎演習（6）	統計の検索
14	情報検索基礎演習（7）/春学期のまとめ	情報検索、回答結果の評価
15	レファレンス・インタビュー(1)	インタビューの技法
16	レファレンス・インタビュー(2)	質問に対する回答の方法
17	情報検索演習(1)	「ことば」に関する課題と回答
18	情報検索演習(2)	「ひと・団体」に関する課題と回答
19	情報検索演習(3)	「とき」に関する課題と回答
20	情報検索演習(4)	「ところ」に関する課題と回答
21	情報検索演習(5)	「本・作者・作品」に関する課題と回答
22	情報検索演習(6)	「もの・事柄」に関する課題と回答
23	情報検索演習(7)	「雑誌・新聞」に関する課題と回答
24	情報検索演習(8)	書誌に関する課題と回答
25	情報検索演習(9)	インターネットで調べられない質問に対する調査
26	情報発信型サービスの実際(1)	情報発信型サービスを行っている事例について解説
27	情報発信型サービスの実際(2)	地域の特徴を生かした情報発信型サービスの実情
28	図書館利用教育の実際/秋学期のまとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容を復習し、与えられた課題について、図書館などで文献調査に取り組みます。本授業のための調査・復習時間は各4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
参考書などは、適宜授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
情報サービスに関する発表、演習（課題に対する回答の提出内容）によって成績を評価します。配分は発表20％、演習80％です。授業に対する積極的な貢献度が認められる場合、最終評価の参考にします。

【学生の意見等からの気づき】
授業の準備（課題の回答）が大変だとの意見が見られますが、その努力、積み重ねが必要なことを説明し、学生が課題調査に取り組めるように指導していきます。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and importance of information services on modern libraries. It also enhances the development of student's skill in information retrieval.
Before each class meeting, students will go to library and research various books to answer user's need.
Then in the class, they present their research results and submit research reports.
Students will spend more than four hours to research various books for making report.
After class they need to study about the course content.
Research reports(80%)
Presentation about their research results in the class.(20%)

情報サービス演習

菅原　真悟

単位：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報サービスとは、利用者の情報ニーズに応じ、その問題解決のために必要な情報を提供するサービスのことで、現代の図書館の重要なサービスと位置づけられている。この授業では、演習を通して次の2点を主に扱う。
1.情報源（データベース）を検索し回答する方法を学ぶ
2.発信型情報サービスのためのウェブサイト・データベースを構築する方法を学ぶ

【到達目標】
利用者の質問に回答し、回答と回答プロセスをデータベース化できるようになる。利用者教育プログラムの構築ができるようになる。発信型情報サービスのために必要なICTの基礎知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・利用者の質問に回答する方法を学ぶ。情報源として、事典、書誌などの資料や、データベース、インターネット情報などを使えるようにする。模擬的な問答を演習に用いる。
・データベースの使い方について、利用者教育を想定した発表を行う演習を取り入れる。
・発信型情報サービスのためのウェブサイト作成、データベース構築を学ぶ。
・図書館の情報サービスについて調査し発表する課題を課す。
・毎回の授業で、授業の振り返りを掲示板に投稿する時間を設ける。
・授業の初めに、前回の授業で提出された掲示板への感想・コメントからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックする。また、必要に応じて掲示板上でも個々にフィードバックする。
・課題等の提出・フィードバックは授業支援システムを通じて行う。
・発表課題では、すべての発表について質疑応答を通じたフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：情報サービスとは	図書館の情報サービス。利用者質問の種類と対応。利用者に回答する際に注意すべき点。
第2回	図書検索(1)	法政大学図書館OPACの使い方。
第3回	図書検索(2)	検索演算子を使った検索演習。
第4回	図書検索(3)	検索式を用いた検索方法。NDL-OPAC。
第5回	情報サービス(1)	情報サービスの現状。
第6回	情報サービス(2)	レファレンス事例データベース。
第7回	図書館に関する最新情報を探す	カレント・アウェアネスの活用方法。
第8回	論文検索(1)	CiNiiを使った論文検索（基礎）。
第9回	論文検索(2)	CiNiiを使った論文検索（応用）。
第10回	横断検索・連想検索	情報を横断的に探す方法。連想検索。
第11回	雑誌記事検索	MAGAZINEプラス・大宅壮一文庫などのデータベースの活用。
第12回	新聞記事検索	新聞社のデータベースの活用。
第13回	さまざまなデータベースを使う(1)	辞書・事典・歴史・地図検索。
第14回	さまざまなデータベースを使う(2)	統計・議会情報・法令検索・判例検索などのデータベースの活用。
第15回	春学期のまとめ	春学期の振り返りとまとめ。
第16回	ウェブ検索	ウェブで情報を探す。検索エンジンの仕組み。
第17回	人物情報検索	人物情報について調べる方法。
第18回	特許検索	特許や商標等の知財情報を調べる方法。
第19回	発信型情報サービス	これまでの情報サービスと発信型情報サービスの比較。
第20回	理系論文検索(1)	シソーラスを用いた検索。科学技術系論文を探す。
第21回	理系論文検索(2)	医学系論文を探す。
第22回	SNS演習	図書館とソーシャルメディア。
第23回	発表会(1)発信型情報サービスの現状	図書館の発信型情報サービスについて、個人またはグループで調べた内容を発表。
第24回	CMS演習(1)	CMSと図書館サイト構築の現状。
第25回	CMS演習(2)	図書館サイトのコンテンツ分析。
第26回	CMS演習(3)	CMS用いた図書館サイトの構築演習。
第27回	CMS演習(4)	グループでレファレンス演習。レファレンス事例データベースの構築。
第28回	発表会(2)新しい発信型情報サービス	新しい発信型情報サービスについて、個人またはグループで発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて授業でプリントを配布します。

【参考書】
講義の中で随時指示します。

【成績評価の方法と基準】
発信型情報サーブについて、グループまたは個人発表　30%
小レポートの提出、データベース演習での発表　40%
授業内演習への参加（授業への貢献）　30%
小レポート・発表の資料等はすべて授業支援システムへアップロードして提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
情報サービスについての理解を深めるために、演習やグループディスカッションの時間を増やします。利用者教育についての理解を深めるために、レファレンスを想定した演習を増やします。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム（https://hoppii.hosei.ac.jp/）のほかに、司書課程専用の学習支援システム「HULiC」(http://lc.i.hosei.ac.jp/)も使います。

【その他の重要事項】
情報実習室で授業を行うため、人数超過の場合は抽選となります。必ず第1回目の授業に出席すること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course deals with (1) Learn how to search information sources (databases)a and (2)Learn how to build website and database for outgoing information service.
【Learning Objectives】
It will be possible to answer user's questions and make a database of answers. Students acquire the basic knowledge of ICT necessary foroutgoing information services in libraries.
【Learningactivities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Two presentations:　30%、Short reports and presentations: 40%、in class contribution: 30%

図書館情報資源概論

小黒　浩司

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様な図書館情報資源について、形態別、主題別の特性の概略を学習する。また図書館情報資源の収集と選択、評価、保存など、図書館における情報資源の管理の実際を学ぶ。加えて、代表的な図書館情報資源である図書や雑誌についての理解を深めるために、その流通事情などについても学ぶ。

【到達目標】

学生は、図書館情報資源の収集、保存のあり方などについての基礎的な知識の習得から、資料・情報の収集と提供が図書館の基本的な機能であることを理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

下記授業計画のように、前半では主要な図書館情報資源の種類について、形態別、主題別に解説する。後半では図書館情報資源の維持・管理の手法や意義などについて概説する。

最終授業で、13回までの講義内容のまとめを行い、試験を実施予定である。試験、課題等のフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

なお、新型コロナウィルスの感染状況などによっては、オンラインでの開講となる可能性がある。具体的なオンライン授業の方法、各回の授業計画の変更などについては、学習支援システムでその都度提示するので、学習支援システムの提示を必ず確認すること。また、フィードバックは同じく学習支援システムより行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方についてのガイダンス	授業の進め方、成績評価などについて、オンライン形式で説明する。
第2回	図書館情報資源とは何か	図書館情報資源について、図書館法など関連法規の上から説明する。
第3回	図書館情報資源の類型	『日本目録規則 1987年版改訂3版』の類型、並びに同規則2018年版の機器種別などによって、図書館情報資源の概略を説明する。
第4回	図書・逐次刊行物	図書と逐次刊行物について概説する。
第5回	視聴覚資料・電子資料	視聴覚資料と電子資料について概説する。
第6回	図書館情報資源の選択と収集	図書館における資料選択と収集の形態について概説する。
第7回	蔵書評価	図書館における蔵書評価の種類などについて概説する。
第8回	蔵書管理	図書館における蔵書管理の技法などについて概説する。
第9回	図書館情報資源の更新	図書館における資料の更新の意義などについて概説する。
第10回	資料保存	図書館における資料保存のあり方などについて概説する。
第11回	資源共有	図書館情報資源の収集と保存の協力について概説する。
第12回	資料選択の自由	図書館における資料収集と選択の自由について概説する。
第13回	出版流通	日本の出版流通の現状を、メディア別ならびに流通過程から概説する。
第14回	まとめ	試験・まとめ。新型コロナウィルスの感染状況によっては、変更の可能性があるので注意すること。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の学習は、準備学習・復習各2時間程度を標準としている。授業中に配布するプリントに参考文献、関連ウェブサイトのURLなどを掲載するので、活用してほしい。

【テキスト（教科書）】

指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考書】

新訂図書館資料論　小黒浩司編著　東京書籍　2008

【成績評価の方法と基準】

期末試験の得点（80％）に、授業への参加・貢献度（20％）を加えて評価する予定である。

ただし新型コロナウィルスの感染状況などによっては、オンラインでの開講となる可能性がある。この場合、成績評価の方法と基準が変更となるが、詳細な方法などは、学習支援システムにて連絡する。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に配布するプリントに参考文献などを掲載するので、復習に活用してほしい。不明な点などは、メールで問い合わせること（kohji.oguro.58@hosei.ac.jp）。

【学生が準備すべき機器他】

新型コロナウィルスの感染状況などによっては、オンラインでの開講となる可能性があるので、PC・タブレットなどの情報機器を準備しておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

質問などは遠慮なくメールで問い合わせること（kohji.oguro.58@hosei.ac.jp）。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course introduces the characteristics of various library information resources.

[Learning Objectives]

At the end of the course, students are expected to comprehend library information resources.

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 80%, contribution: 20%

図書館情報資源概論

村上　郷子

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
印刷資料、非印刷資料および電子資料やネットワーク情報源からなる図書館情報資源全般についての基本的な知識や概念について総合的に学ぶ。

【到達目標】
・図書館資料の基礎的な学習としてのメディアの歴史、資料の類型と特質、資料の収集と保存、生産、印刷、出版・流通過程などを総合的に理解することができる。
・「紙の博物館」または「印刷博物館」に実際に行き、実物を見たり触ったりすることにより、図書館資料についての体験的・身体的造詣を深めることができる。
・現地での見学から得られた知識や体験を基にした小レポートを書くことにより、授業を通じて得られた知識や体験を身体化し、より確実にすることができる。
・授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行うことにより、知識を定着することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業の初回のみオンラインで行う。Hoppiiで、ZoomのURLを確認すること。
本授業では、資料の構造や歴史、現代社会における図書の出版・流通過程などの基礎的なコンセプトについて、講義だけではなく、紙の博物館や印刷博物館などへの実地見学と併せて学習する。
講義が中心ではあるが、適時視聴覚教材の活用やグループデスカッションなども取り入れる。また、授業内外で授業用グループウェア(HULiC)を教員及び学生同士のコミュニケーションツールとして活用する。
毎回授業の初めに、前回の授業の確認クイズを行う。確認クイズのフィードバックは確認クイズ回収後直ちに行い、知識の定着を図る。
アンケート調査やグループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	図書館資料の意義と知的自由	グループウェア(HULiC)利用ガイダンス 図書館資料の定義と類型
2	メディアの発展史①（紙の発明）	情報と記録化、紙の定義、製紙技術の伝播等
3	図書館資料の類型（印刷資料）	図書、逐次刊行物（雑誌、新聞）、小冊子、地図等
4	図書館資料の類型（非印刷資料）	点字資料、録音資料、マイクロ資料、映像資料、音声資料他
5	資料特論	専門資料及び特殊資料（灰色文献、政府刊行物、地域資料等）
6	メディアの発展史②（印刷革命(1) 木版・活版印刷他）	木版印刷・活版印刷の歴史
7	メディアの発展史③（印刷革命(2) 印刷物の制作システム） 紙の博物館または印刷博物館見学	印刷物の制作システム、主な印刷の種類、印刷の用紙 小レポート
8	電子資料・図書のデジタル化	AIの活用、図書のデジタル化、電子コンテンツ、電子出版、ネットワーク情報資源等
9	図書の出版流通のしくみ	出版流通経路、業界三位一体の構図、小売業の現状と流通の仕組み、再販売価格維持制度等
10	図書館資料と知的自由、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源	図書館の自由、知る権利、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源とその特徴
11	蔵書論、蔵書管理	蔵書の意義、収集方針、複本と予約、蔵書の更新、蔵書の評価、除籍と廃棄、資源共有など
12	図書館資料コレクション構築の理論(選書)	選書の意義、選書論、選書方法、選書のための情報源など
13	図書館資料の受入と資料の組織化、書庫管理 まとめ	受入・登録業務、資料の装備、予算管理、書庫管理の意義、資料の保存と修復、メディア変換など
14	総まとめ	筆記試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は、テキストの該当頁を事前に必ず読んでおくこと。また、授業のレジメを事前にダウンロードし、空欄を埋めておくことが望ましい。
「紙の博物館」「印刷博物館」への実地見学については、時間帯によって各自が授業外に行き、小レポートを提出することも可能である。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
馬場俊明編著『図書館情報資源概論』、日本図書館協会、最新版（JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3-8)

【参考書】
岸田和明編著、改訂 図書館情報資源概論 (現代図書館情報学シリーズ)、2020、樹村房

【成績評価の方法と基準】
（1）毎回の確認クイズ（30％）、（2）小レポート（20％）、（3）学期末試験（50％）によって総合的に評価する。
全ての提出物は、授業用グループウェア(HULiC)上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。
毎回、授業の前に前回授業の確認クイズを行うため、欠席や遅刻が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。また、授業開始より20分経過して入室した者は遅刻とする。

【学生の意見等からの気づき】
ディベートを希望するコメントがいくつか見られた。なんとかその時間を捻出したい。

【Outline (in English)】
(Course outline and Learning Objectives) : Students will learn the foundations of library information resources that consist of print materials/resources, non-print materials/resources, electronic materials/resources, and network information/resources. Students also learn patterns of media history, the collection, preservation, production of library resources, and publication and circulation processes. In addition, students are required to visit the "Paper Museum" and the "Printing Museum" and write papers as a part of the course requirement.
(Learning activities outside of classroom) : Students are required to read the relevant pages of the textbook in advance. It is also advisable that students download the class learning materials in advance and fill in the blanks.
Students are expected to visit the "Paper Museum" and "Printing Museum" outside of class and submit a short report. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria /Policy) : The overall evaluation will be based on (1) a quiz at each class (30%), (2) two short reports (30%), and (3) a final exam (40%).

図書館情報資源概論

村上　郷子

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
印刷資料、非印刷資料および電子資料やネットワーク情報源からなる図書館情報資源全般についての基本的な知識や概念について総合的に学ぶ。

【到達目標】
・図書館資料の基礎的な学習としてのメディアの歴史、資料の類型と特質、資料の収集と保存、生産、印刷、出版・流通過程などを総合的に理解することができる。
・「紙の博物館」または「印刷博物館」に実際に行き、実物を見たり触ったりすることにより、図書館資料についての体験的・身体的造詣を深めることができる。
・現地での見学から得られた知識や体験を基にした小レポートを書くことにより、授業を通じて得られた知識や体験を身体化し、より確実にすることができる。
・授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行うことにより、知識を定着することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業の初回のみオンラインで行う。Hoppiiで、ZoomのURLを確認すること。
本授業では、資料の構造や歴史、現代社会における図書の出版・流通過程などの基礎的なコンセプトについて、講義だけではなく、紙の博物館や印刷博物館などへの実地見学と併せて学習する。
講義が中心ではあるが、適時視聴覚教材の活用やグループデスカッションなども取り入れる。また、授業内外で授業用グループウェア(HULiC)を教員及び学生同士のコミュニケーションツールとして活用する。
毎回授業の初めに、前回の授業の確認クイズを行う。確認クイズのフィードバックは確認クイズ回収後直ちに行い、知識の定着を図る。
アンケート調査やグループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	図書館資料の意義と知的自由	グループウェア(HULiC)利用ガイダンス 図書館資料の定義と類型
2	メディアの発展史①（紙の発明）	情報と記録化、紙の定義、製紙技術の伝播等
3	図書館資料の類型（印刷資料）	図書、逐次刊行物（雑誌、新聞）、小冊子、地図等
4	図書館資料の類型（非印刷資料）	点字資料、録音資料、マイクロ資料、映像資料、音声資料他
5	資料特論	専門資料及び特殊資料（灰色文献、政府刊行物、地域資料等）
6	メディアの発展史②（印刷革命(1) 木版・活版印刷他）	木版印刷・活版印刷の歴史
7	メディアの発展史③（印刷革命(2) 印刷物の制作システム） 紙の博物館または印刷博物館見学	印刷物の制作システム、主な印刷の種類、印刷の用紙 小レポート
8	電子資料・図書のデジタル化	AIの活用、図書のデジタル化、電子コンテンツ、電子出版、ネットワーク情報資源等
9	図書の出版流通のしくみ	出版流通経路、業界三位一体の構図、小売業の現状と流通の仕組み、再販売価格維持制度等
10	図書館資料と知的自由、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源	図書館の自由、知る権利、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源とその特徴
11	蔵書論、蔵書管理	蔵書の意義、収集方針、複本と予約、蔵書の更新、蔵書の評価、除籍と廃棄、資源共有など
12	図書館資料コレクション構築の理論(選書)	選書の意義、選書論、選書方法、選書のための情報源など
13	図書館資料の受入と資料の組織化、書庫管理 まとめ	受入・登録業務、資料の装備、予算管理、書庫管理の意義、資料の保存と修復、メディア変換など
14	総まとめ	筆記試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は、テキストの該当頁を事前に必ず読んでおくこと。また、授業のレジメを事前にダウンロードし、空欄を埋めておくことが望ましい。
「紙の博物館」「印刷博物館」への実地見学については、時間帯によって各自が授業外に行き、小レポートを提出することも可能である。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
馬場俊明編著『図書館情報資源概論』、日本図書館協会、最新版（JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3-8)

【参考書】
岸田和明編著、改訂 図書館情報資源概論 (現代図書館情報学シリーズ)、2020、樹村房

【成績評価の方法と基準】
（1）毎回の確認クイズ（30％）、（2）小レポート（20％）、（3）学期末試験（50％）によって総合的に評価する。
全ての提出物は、授業用グループウェア(HULiC)上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。
毎回、授業の前に前回授業の確認クイズを行うため、欠席や遅刻が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。また、授業開始より20分経過して入室した者は遅刻とする。

【学生の意見等からの気づき】
ディベートを希望するコメントがいくつか見られた。なんとかその時間を捻出したい。

【Outline (in English)】
(Course outline and Learning Objectives) : Students will learn the foundations of library information resources that consist of print materials/resources, non-print materials/resources, electronic materials/resources, and network information/resources. Students also learn patterns of media history, the collection, preservation, production of library resources, and publication and circulation processes. In addition, students are required to visit the "Paper Museum" and the "Printing Museum" and write papers as a part of the course requirement.
(Learning activities outside of classroom) : Students are required to read the relevant pages of the textbook in advance. It is also advisable that students download the class learning materials in advance and fill in the blanks.
Students are expected to visit the "Paper Museum" and "Printing Museum" outside of class and submit a short report. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria /Policy) : The overall evaluation will be based on (1) a quiz at each class (30%), (2) two short reports (30%), and (3) a final exam (40%).

図書館情報資源特論

小黒　浩司

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館情報資源概論では扱わなかった情報資源、主題情報について、学習する。とくに電子資料については、その収集・提供・保存などについて、十分に理解する。

【到達目標】
学生は、図書館情報資源概論での学習を基礎に、近年図書館で重視されている各種情報資源の特性などについての発展的な学習から、図書館の資料・情報の収集と提供が図書館の基本的な機能であることを理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
下記授業計画のように、前半では近年公共図書館で重視されている図書館情報資源の種類について、形態別、主題別に解説する。後半では学術図書館で重視されている図書館情報資源の種類について、形態別、主題別に解説する。
最終授業で、13回までの講義内容のまとめを行い、試験を実施予定である。試験、課題等のフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。
なお、新型コロナウィルスの感染状況などによっては、オンラインでの開講となる可能性がある。具体的なオンライン授業の方法、各回の授業計画の変更などについては、学習支援システムでその都度提示するので、学習支援システムの提示を必ず確認すること。また、フィードバックは同じく学習支援システムより行う予
定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	電子資料に関する動向	最初に授業の進め方、成績評価などについて説明し、電子資料に関する近年の動向を概説する。
第2回	政府刊行物	図書館における政府刊行物の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第3回	地域資料	図書館における地域資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第4回	法情報	図書館における法情報の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第5回	統計資料	図書館における統計資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第6回	健康・医療情報	図書館における健康・医療情報の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第7回	生活・労働情報	図書館における生活・労働情報の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第8回	音楽資料	図書館における音楽資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第9回	地図資料	図書館における地図資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第10回	読書の電子化	1990年代にはじまり、2010年代になり本格化した日本における「電子読書」の歴史と現状を概説する。
第11回	歴史的音源	SP盤レコードなどの歴史的音源の電子化や配信の状況を概説する。
第12回	ウェブアーカイビング	ウェブアーカイビングの意義や現状を概説する。
第13回	オンライン資料	オンライン資料の収集と提供の現状を概説する。
第14回	まとめ	試験・まとめ。新型コロナウィルスの感染状況によっては、変更の可能性があるので注意すること。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習は、準備学習・復習各2時間程度を標準としている。授業中に配布するプリントに参考文献、関連ウェブサイトのURLなどをなどを掲載するので、近年注目されている図書館情報資源に関する理解を深めてほしい。

【テキスト（教科書）】
指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考書】
新訂図書館資料論　小黒浩司編著　東京書籍　2008

【成績評価の方法と基準】
期末試験の得点（80％）に、授業への参加・貢献度（20％）を加えて評価する予定である。ただし新型コロナウィルスの感染状況などによっては、オンラインでの開講となる可能性がある。この場合、成績評価の方法と基準が変更となるが、詳細な方法などは、学習支援システムにて連絡する。

【学生の意見等からの気づき】
授業中に配布するプリントに理解の参考となる情報源などを掲載するので、復習に活用してほしい。不明な点などは、メールで問い合わせること（kohji.oguro.58@hosei.ac.jp）。

【学生が準備すべき機器他】
新型コロナウィルスの感染状況などによっては、オンラインでの開講となる可能性があるので、PC・タブレットなどの情報機器を準備しておくことが望ましい。

【その他の重要事項】
質問などは遠慮なくメールで問い合わせること（kohji.oguro.58@hosei.ac.jp）。

【Outline (in English)】
[Course outline]
This course introduces the characteristics of various library information resources and subject information that you did not learn in the spring semester, focusing on electronic materials.
[Learning Objectives]
At the end of the course, students are expected to comprehend library information resources.
[Learning activities outside of classroom]
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 80%, contribution: 20%

図書館情報資源特論

村上　郷子

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多様な資料を扱う専門図書館を中心に、インターネットを介した事前調査研究、グループによる現地調査及びインタビュー調査を行い、専門図書館の現状と課題を総合的に理解する。

【到達目標】
専門図書館への現地調査や専門図書館司書へのインタビューを通して、各専門図書館の情報資源の実際を理解し、専門図書館および専門図書館情報資源に関する課題を発見することができる。
グループの班員とともに、専門図書館や情報資源を取りまく様々な課題の解決策や提案等を考えることによって、専門図書館および情報資源について包括的に理解することができる。
また、プレゼンテーションをグループで行うことにより、他者との協働、図書館の利用法や検索方法、情報機器の活用法、プレゼンテーションの技術などを総合的に学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業の初回のみオンラインで行う。Hoppiiで、ZoomのURLを確認すること。
グループに分かれて、さまざまな専門図書館について事前にインターネットを介した調査研究を行ったうえで現地調査を行い、選んだ専門図書館の評価をする。授業の中頃には現地調査を行う前の中間発表を行い、教員及び視聴者の学生のフィードバックをもらう。後半には調査結果及び評価に関するプレゼンテーションを行う。各グループのプレゼンテーションは、クラス全体で自己評価・他己評価する。
　プレゼンテーションでは、調査テーマについて、「問題の所在」を明らかにし、その「解決策」を提示する。
　アンケート調査、プレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	秋学期授業ガイダンス	個人・グループによる調査方法について
2	専門図書館の機能	専門図書館の機能 個人・グループの調査対象図書館の確定、アポの取り方
3	専門資料の概要、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
4	メタデータ、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
5	新聞・雑誌情報、グループ活動	インタビューの極意、調査計画の検討・資料収集
6	政治・行政資料、情報提供、グループ活動	発表順の抽選、現地基本調査の報告書（宿題）の提出
7	プレゼン資料作成の極意、グループ活動	資料作成・現地調査等
8	統計データ情報、グループ活動	個人の調査計画の報告書提出①、資料作成・現地調査等
9	プレゼンの極意、グループ活動	グループ調査進行状況チェック
10	グループ活動	グループによる打ち合わせ・資料作成
11	プレゼンのリハーサル	グループ調査進行状況チェック
12	グループ・プレゼンテーション①　利用者の立場からみた専門図書館の課題発見と解決策を探る	プレゼンの実践と評価（利用者の立場からみた専門図書館の課題発見と解決策を探る）
13	グループ・プレゼンテーション②　利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決案を探る	プレゼンの実践と評価（利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決案を探る）
14	グループ活動のまとめ・全体討議	まとめ・全体討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業は数名のグループに分かれてさまざまな専門図書館のインターネットを介したフィールド調査及びインタビュー調査を行い、それをパワーポイントなどにまとめ、グループでのプレゼンを行う。そのため、授業時間外の活動が入ってくることを了承しておくこと。また、グループや個人による現地調査や班活動がメインになるため、授業への積極的な参加（出席は8割以上）が求められる。
　授業の一環として、協働学習、メディア情報リテラシーに関するアンケート調査も実施する。本授業の準備学習・復習を含む授業外活動は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【成績評価の方法と基準】
（1）個人の調査計画・グループ活動報告書①②、個人の調査報告書（30％）
（2）グループ活動・授業への参加（出席）と貢献度（出席重視）、グループ活動及びプレゼンテーション、グループによる配付資料、プレゼン内容など（30％）
（3）個人のレポート（40％）
全ての提出物は授業用グループウェア(HULiC)上にアップロードすることを原則とする。
授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視される。出席は80％を目安とする。欠席は3回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良（14回中4回以上の欠席）のものは、「（2）グループ活動・授業への参加（出席）・（30％）」の部分は0とする。正当な理由があるため4回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで5回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として0とする。欠席が多くなると予想される者は、他の授業を検討されたい。
全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・パワポ・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア(HULiC)上にアップロードすることを原則とする。
また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】
グループ活動において、他の班員との日程調整やグループ活動全体の日程調整が大変という声を聞く。いつでも意見交換及び情報共有ができるグループウェア活用の徹底とグループ活動に必要な情報の提供に努めたい。ちょっとした情報共有では、班員同士のLINEの活用も奨励する。

【Outline (in English)】
（Course outline &learning objectives）: Students are required to perform field work (students choose one special library as their own fields) and interview librarians as a pair or group in order to compare and evaluate several special libraries to find out current situations and issues of the special libraries. Students will make presentations, lead discussions, and present problems which the special libraries were confronted with as well as the ways of solving the problems.
（Learning activities outside of classroom）: In this class, students will be divided into groups to conduct field research and interview surveys of various special libraries, to summarize in a PowerPoint presentation and to present to the group. Students are expected to understand that there will be activities outside of class time.
The standard for out-of-class activities including preparation and review for this class is 2 hours each.
（Grading Criteria /Policy）: (1) Individual research plans, group activity reports, and individual research reports (30%)
(2) Group activities, class participation (attendance) and contribution (emphasis on attendance), group activities and presentations, handouts by the group, presentation content, etc. (30%)
(3) Individual reports (40%)
All submissions are to be uploaded on the class groupware (HULiC) as a rule.

図書館情報資源特論

村上　郷子

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多様な資料を扱う専門図書館を中心に、インターネットを介した事前調査研究、グループによる現地調査及びインタビュー調査を行い、専門図書館の現状と課題を総合的に理解する。

【到達目標】
専門図書館への現地調査や専門図書館司書へのインタビューを通して、各専門図書館の情報資源の実際を理解し、専門図書館および専門図書館情報資源に関する課題を発見することができる。
グループの班員とともに、専門図書館や情報資源を取りまく様々な課題の解決策や提案等を考えることによって、専門図書館および情報資源について包括的に理解することができる。
また、プレゼンテーションをグループで行うことにより、他者との協働、図書館の利用法や検索方法、情報機器の活用法、プレゼンテーションの技術などを総合的に学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業の初回のみオンラインで行う。Hoppiiで、ZoomのURLを確認すること。
グループに分かれて、さまざまな専門図書館について事前にインターネットを介した調査研究を行ったうえで現地調査を行い、選んだ専門図書館の評価をする。授業の中頃には現地調査を行う前の中間発表を行い、教員及び視聴者の学生のフィードバックをもらう。後半には調査結果及び評価に関するプレゼンテーションを行う。各グループのプレゼンテーションは、クラス全体で自己評価・他己評価する。
　プレゼンテーションでは、調査テーマについて、「問題の所在」を明らかにし、その「解決策」を提示する。
　アンケート調査、プレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	秋学期授業ガイダンス	個人・グループによる調査方法について
2	専門図書館の機能	専門図書館の機能 個人・グループの調査対象図書館の確定、アポの取り方
3	専門資料の概要、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
4	メタデータ、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
5	新聞・雑誌情報、グループ活動	インタビューの極意、調査計画の検討・資料収集
6	政治・行政資料、情報提供、グループ活動	発表順の抽選、現地基本調査の報告書（宿題）の提出
7	プレゼン資料作成の極意、グループ活動	資料作成・現地調査等
8	統計データ情報、グループ活動	個人の調査計画の報告書提出①、資料作成・現地調査等
9	プレゼンの極意、グループ活動	グループ調査進行状況チェック
10	グループ活動	グループによる打ち合わせ・資料作成
11	プレゼンのリハーサル	グループ調査進行状況チェック
12	グループ・プレゼンテーション①　利用者の立場からみた専門図書館の課題発見と解決策を探る	プレゼンの実践と評価（利用者の立場からみた専門図書館の課題発見と解決策を探る）
13	グループ・プレゼンテーション②　利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決案を探る	プレゼンの実践と評価（利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決案を探る）
14	グループ活動のまとめ・全体討議	まとめ・全体討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業は数名のグループに分かれてさまざまな専門図書館のインターネットを介したフィールド調査及びインタビュー調査を行い、それをパワーポイントなどにまとめ、グループでのプレゼンを行う。そのため、授業時間外の活動が入ってくることを了承しておくこと。また、グループや個人による現地調査や班活動がメインになるため、授業への積極的な参加（出席は8割以上）が求められる。
　授業の一環として、協働学習、メディア情報リテラシーに関するアンケート調査も実施する。本授業の準備学習・復習を含む授業外活動は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【成績評価の方法と基準】
（1）個人の調査計画・グループ活動報告書①②、個人の調査報告書（30％）
（2）グループ活動・授業への参加（出席）と貢献度（出席重視）、グループ活動及びプレゼンテーション、グループによる配付資料、プレゼン内容など（30％）
（3）個人のレポート（40％）
全ての提出物は授業用グループウェア(HULiC)上にアップロードすることを原則とする。
授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視される。出席は80％を目安とする。欠席は3回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良（14回中4回以上の欠席）のものは、「（2）グループ活動・授業への参加（出席）・（30％）」の部分は0とする。正当な理由があるため4回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで5回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として0とする。欠席が多くなると予想される者は、他の授業を検討されたい。
全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・パワポ・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア(HULiC)上にアップロードすることを原則とする。
また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】
グループ活動において、他の班員との日程調整やグループ活動全体の日程調整が大変という声を聞く。いつでも意見交換及び情報共有ができるグループウェア活用の徹底とグループ活動に必要な情報の提供に努めたい。ちょっとした情報共有では、班員同士のLINEの活用も奨励する。

【Outline (in English)】
（Course outline &learning objectives）: Students are required to perform field work (students choose one special library as their own fields) and interview librarians as a pair or group in order to compare and evaluate several special libraries to find out current situations and issues of the special libraries. Students will make presentations, lead discussions, and present problems which the special libraries were confronted with as well as the ways of solving the problems.
（Learning activities outside of classroom）: In this class, students will be divided into groups to conduct field research and interview surveys of various special libraries, to summarize in a PowerPoint presentation and to present to the group. Students are expected to understand that there will be activities outside of class time.
The standard for out-of-class activities including preparation and review for this class is 2 hours each.
（Grading Criteria /Policy）: (1) Individual research plans, group activity reports, and individual research reports (30%)
(2) Group activities, class participation (attendance) and contribution (emphasis on attendance), group activities and presentations, handouts by the group, presentation content, etc. (30%)
(3) Individual reports (40%)
All submissions are to be uploaded on the class groupware (HULiC) as a rule.

図書館演習

坂本　旬

単位：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会における新しい図書館像の探究とメディア情報リテラシーの理解

【到達目標】
(1)ユネスコのメディア情報リテラシー教育の基本的な考え方を理解する。
(2)メディア情報リテラシー・カリキュラムに基づいた実践を行うことができる。
(3)ユネスコのメディア情報リテラシーの理念・運動にもとづいた公共図書館・学校図書館像を構想することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
ユネスコの日本語版と英語版カリキュラムをテキストとして用いてディスカッションを行う。また秋期では、一人ひとりがカリキュラムにもとづいたワークショップを企画・実施し、図書館司書としてのワークショップ実践力を身につける。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・良いリアクションペーパーは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
・課題等の提出・フィードバックは授業支援システムを通じて行う予定。
・オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する。
・最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容と方法の解説
2	授業支援システムの使い方	司書課程専用授業支援システムHULiCの使い方を解説する
3	デジタル・インクルージョンの概念	デジタル・インクルージョン概念の枠組みについて学ぶ
4	図書館の包摂性と読書バリアフリーの必要性	図書館の包摂性と読書バリアフリー、情報アクセシビリティを学ぶ
5	メディア情報リテラシーの基礎理論	メディア情報リテラシーに関する基礎理論を学ぶ
6	メディアと情報の政策	メディア情報リテラシーにかかわる政策の見通しについて学ぶ
7	メディアと情報に関する基礎理解	民主主義社会におけるメディアと情報に関する基礎知識を学ぶ
8	メディアと情報の評価	メディアと情報の評価方法について学ぶ
9	メディアと情報の創造と活用	メディアと情報の創造や活用方法の基礎を学ぶ
10	司書・司書教諭の能力	実践の核になる司書や司書教諭の能力について学ぶ
11	メディア情報リテラシーと学校図書館	ユネスコのメディア情報リテラシーと学校図書館の役割について学ぶ
12	メディア情報リテラシーと公共図書館	ユネスコのメディア情報リテラシーと公共図書館の役割について学ぶ
13	図書館におけるデジタル・ストーリーテリングの必要性	図書館におけるデジタル・ストーリーテリング実践の有効性を学ぶ
14	デジタル・ストーリーテリング制作実習	デジタル・ストーリーテリング制作の実際を体験する
15	秋学期ガイダンス	春学期の振り返りと秋学期授業のガイダンス
16	シチズンシップ、表現・情報の自由と生涯学習	シチズンシップ、表現・情報の自由と生涯学習について学ぶ
17	ニュース、メディア倫理と情報倫理	ニュース、メディア倫理と情報倫理について学ぶ
18	メディアと情報のリプレゼンテーション	メディアと情報のリプレゼンテーションについて学ぶ
19	メディアと情報の言語	メディアと情報の言語について学ぶ
20	情報メディアと広告	広告について学ぶ
21	新旧のメディア	新旧のメディアについて学ぶ
22	インターネットの機会と挑戦	インターネットの機会と挑戦について学ぶ
23	情報リテラシーと図書館スキル	情報リテラシーと図書館スキルについて学ぶ
24	コミュニケーション、メディア情報リテラシーと学習	コミュニケーション、メディア情報リテラシーと学習について学ぶ
25	メディアの技術	メディアの技術について学ぶ
26	デジタル・ブックトーク制作の方法	デジタル・ブックトークの方法を学び、プランを作る
27	デジタル・ブックトークの制作	デジタル・ブックトークを制作する
28	デジタル・ブックトークの発表	制作したデジタル・ブックトークを発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
司書課程専用授業支援システム(HULiC)を用いた事前学習および宿題をする。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
坂本旬『メディアリテラシーを学ぶ』大月書店(2022年)

【参考書】
坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局（2014年）
寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐSDGsの教育学』(2021年)

【成績評価の方法と基準】
小テスト30％、提出課題30％、平常点40％

【学生の意見等からの気づき】
オンライン授業を適宜導入することで、多様な専門家をゲストとして授業に呼ぶことができた。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPCを用意すること。

【その他の重要事項】
実習として映像制作（デジタル・ストーリーテリングおよびデジタル・ブックトーク）を行う。

【授業中に求められる学習活動について】
A,B,C,D,E,F,G,H

【Outline (in English)】
Exploration of the new image of libraries in modern society and an understanding of media information literacy.
(1) To understand the basic concept of media information literacy of UNESCO.
(2) To be able to practice based on the media and information literacy curriculum.
(3) To be able to conceptualize the image of public libraries and school libraries based on UNESCO's media and information literacy principles and movements.
The goal is to understand UNESCO's Media and Information Literacy (MIL), to be able to implement practices based on the MIL curriculum, and to be able to envision a public or school library based on MIL.

Grading criteria are as follows. 30%for quiz, 30%for report, and 40%for attitude.
Students will be required to do prep work and homework prepared in advance.
For film production, students will conduct interviews and edit videos outside of class time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

図書館演習

村上　郷子

単位：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期は、講義のほか、グループによる研究調査とその発表を行い、公共図書館を取りまく様々な課題について理解を深める。秋学期は、グループによる公共図書館へのフィールド調査やプレゼンを行うことにより、公立図書館の現状と課題について総合的に理解する。

【到達目標】
春学期は、講義のほか、学生による研究発表を行うことにより、公立図書館の現状と課題について理解することができる。
秋学期は、東京23区中央立図書館を中心に、グループによる対面・参与調査を行い、個別事例に基づく図書館の現状と課題について総合的に理解することができる。また、プレゼンにおける配付資料、プレゼン資料、おしゃべり原稿（シナリオ）などを作成することにより、実践的なメディア情報リテラシーのスキルを習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業の初回のみオンラインで行う。Hoppiiで、ZoomのURLを確認すること。
春学期は、図書館環境や情報資源のデジタル化、司書の雇用形態、多様なサービスなどについての中間報告及び調査報告のプレゼンを行い、調査内容に関する報告書を提出する。その際、各項目の課題について指摘し、課題の解決策・提案等も提示すること。
秋学期は、グループによる中間報告及び現地調査を行うことにより、図書館の実際についての理解を深め、その調査結果のプレゼンテーションを行う。
春・秋学期、それぞれ授業で学んだことをまとめた学期末レポートを提出する。また、授業の一環として、協働学習およびメディア情報リテラシーに関するアンケート調査を実施する。自身のメディア情報リテラシーのスキル・能力について自己評価をすることによって、どのスキル・能力がどの程度伸びたのかを客観的にみるためのものである。
アンケート調査やグループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期授業及び授業用グループウェア(HULiC)の利用ガイダンスについて
2	図書館政策の動向	主として、公共図書館の図書館政策及び政策の変遷を多様な情報資源から分析
3	図書館サービスの策定と課題	公共図書館の多様な利用者を対象にした多様なサービスの現状と課題
4	公立図書館の現状と課題①	知的自由と検閲
5	公立図書館の現状と課題②	図書館職員の役割と労働形態（指定管理者制度を含む）
6	公立図書館の現状と課題③	民間企業・NGO、行政、大学研究機関などを含めた市民との協働
7	公立図書館の現状と課題④	図書館環境及び情報資源のデジタル化の現状と課題（中間報告書を課す）
8	グループ活動 オリテン＋ブレインストーミング	オリテン＋ブレインストーミング、各自の中間報告書（調べた内容）を基に研究テーマと課題を決める。
9	グループ活動①	グループによる言及テーマと課題、調査方法などを略式の中間発表によって共有する。グループによる研究発表の準備①
10	グループ活動②	グループによる研究発表の準備②グループ内での役割分担及びパワポのスライドたたき台を作成
11	グループ活動③	グループによる研究発表の準備③発表での出し物を考える。同時に発表資料やパワポのスライド等を精査する。
12	グループ活動④	グループによる研究発表の準備及びリハーサル④（予備）
13	学生による研究発表①	主たるテーマを軸にした2つのテーマについて発表する。発表後はプレゼンの評価を行う。
14	学生による研究発表②	主たるテーマを軸にした2つのテーマについて発表する。発表後はプレゼンの評価を行う。時間が許せば、簡単なまとめの議論を行う。
15	秋学期授業ガイダンス	公立図書館の比較概要
16	東京23区中央図書館の動向①	個人・グループの調査対象図書館の選定
17	東京23区中央図書館の動向②	調査対象図書館及びグループの確定、アポの取り方
18	調査計画案作成①（グループ）	インタビューの極意、調査テーマの決定
19	調査計画案作成②（グループ）	調査でのインタビュー項目の決定、現地調査の結果提出
20	発表順の抽選	個人によるグループ活動報告書提出①
21	グループ調査進行状況チェック①	配付資料作成の極意
22	グループ調査進行状況チェック②	プレゼン資料作成の極意
23	グループ調査進行状況チェック③	プレゼンの極意、インタビュー調査の結果提出
24	グループ調査進行状況チェック④	グループ活動
25	リハーサル(予備)	グループによる配付資料提出、プレゼンのリハーサル
26	グループ・プレゼンテーション①	プレゼンの実践と評価。事前に決められたプレゼンの順番に従い、進めていく。
27	グループ・プレゼンテーション②	プレゼンの実践と評価。各グループの評価は個人情報を抜いた形で量的・質的（コメント等）評価を公開する。
28	公共図書館の現状と課題・グループ活動総括	振り返り・総合ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期は、研究発表の準備や研究課題について、グループで十分に話し合いの時間を確保すること。
秋学期は、グループや個人による現地調査や班活動がメインになるので、受講生には授業への積極的な参加とリーダシップが求められる。また、授業時間外のグループ活動が入ってくることを了承しておくこと。

授業用グループウェア(HULiC)を教員及び学生同士のコミュニケーションツールとして活用する。グループ活動では、HuliCだけではなく、簡単な確認のためのコミュニケーションツールとしてLINE等を含むSNSも積極的に活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【成績評価の方法と基準】
（1）グループ活動・授業への参加と貢献度、及びプレゼンテーション（配付資料、プレゼン資料等）（春学期15％＋秋学期15％＝合計30％）
（2）個人の課題・アンケート＋個人の覆面調査など（20％）
（3）課題研究に関する報告書＋春・秋学期末レポート（50％）
授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視される。出席は80％を目安とする。欠席は3回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良（14回中10回以下）のものは、「（1）グループ活動・授業への参加と貢献度、及びプレゼンテーション」の部分は0とする。正当な理由があるため4回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで5回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として0とする。
全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・パワポ・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア(HULiC)上にアップロードすることを原則とする。また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】
シラバス原稿作成時アンケート結果集計中

【Outline (in English)】
(Course outline and learning objectives): In the spring semester, students will deeply understand the current trends and various issues surrounding public libraries by conducting research investigations in groups. In the fall semester, students are required to visit one central public library in the 23 wards of Tokyo, interview librarians with group members, and make presentations together in order to compare and evaluate public libraries and discover current situations, various issues of the public libraries, and the ways of solving the problems.
(Learning activities outside of classroom):In the spring semester, students should ensure that there is sufficient time for group discussions on research topics and preparation for research presentations.
In the fall semester, the main focus will be on group and individual field research and group activities. Thus, students are expected to actively participate in class and take a leadership role. Students should also be aware that group activities outside of classroom will be required.
Classroom groupware (HULiC) shall be used as a communication tool for both faculty and students. In group activities, students should actively use not only HuliC but also SNS including LINE, etc. as communication tools for simple confirmation.
The standard for out-of-class activities including preparation and review for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria /Policy): (1) Group activities, class participation and contribution, and presentations (handouts, presentation materials, etc.) (Spring semester 15%+ Fall semester 15%= 30%total)
(2) Individual assignments, questionnaires + individual field research, etc. (20%)
(3) Report on the research project + reports at the end of spring and fall semesters (50%)

図書館演習

竹之内　禎

単位：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は春期のテーマを「生きがいを感じられる本と図書館の世界」、秋期のテーマを「書物の歴史と教養の形成」とします。春期は、本と図書館の知識を「生きる意味」の発見・実現に生かす「実践知」の基盤を身に着けることをめざします。秋期は、西洋を中心に、文学史、思想史、学問史における重要著作をおさえつつ、古代ギリシャから近現代までの主要な書物を取り上げ、教養の基礎となる書物の知識を獲得することをめざします。年間を通じて、学生による選書と書籍紹介を毎回の課題とし、話題を共有していきます。大人の心に効く絵本を紹介する絵本セラピーの方法も学びます。総合的に、教養の読書を自分自身の生涯にわたる人格形成の力として高めていく基礎を培うことをめざします。なお、進路として司書をめざす方のサポートも行います。

【到達目標】
(1)さまざまな状況にある人々の「いきがい」や「生きる意味」を、フランクルの創造価値、体験価値、態度価値というキーワードからとらえ、その充実のための支援について、司書課程で学んだ情報リテラシー（問題解決のための情報資源活用能力）を応用できるようになること。
(2)生涯を通じて自分自身の人格形成に資する学びを続けるために、本の世界への知識と関心を広めること。特に西洋を中心とした文学史、思想史、学問史における重要著作の概要を説明できるようになること。
(3)絵本セラピーや朗読会、読書会などのブックコミュニケーション（本を通じたコミュニケーション）の手法を学び、大人が読書を楽しむ方法、自分自身が「教養の読書」を実践する方法を確立すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・テキスト『生きる意味の情報学』から論点を抽出し、関連する話題と書籍・映像メディア等を紹介しあい、意見交換を行います。
・図書の歴史については、図書館やメディアの歴史とあわせて知識として教授するとともに、毎回、関連情報を調べる課題を課します。
・ブックコミュニケーションについては、古今東西の書物を題材に、本だけでなくメディアミックス作品（漫画、アニメ、映画等）も視野に入れ、作品の相互紹介と意見交換をしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス 生きる意味の思想と実践：フランクル・ロゴセラピーの世界	テキスト第1章の論点をまとめ、ヴィクトール・E・フランクルの「生きる意味」の思想について、創造価値・体験価値・態度価値の観点から学ぶ。
第2回	自己実現から意味実現へ：ロゴイストのすすめ LIFEの核はIF	テキスト第3章前半の論点をまとめ、「やりたいこと」と「意味あること」の違い、PTSDとPTGの違いについて学ぶ。コラム3を参考に、人生のIFについて考察する。
第3回	人生の岐路に向き合う	テキスト第3章後半の論点をまとめ、仕事の選び方、仕事に取り組む姿勢について学ぶ。コラム4を参考に「自分にあるもの・できることシート」を作成する。
第4回	声に乗せて届ける	テキスト第4章とコラム5を参考に、「声に乗せて届ける」活動をしているYouTube等の動画（朗読など）を探索する。著作権についても考慮する。参考動画：『この声をきみに』（NHKオンデマンドで有料配信）
第5回	ボランティアを通じた創造価値	テキスト第5章を参考に、録音図書及びバリアフリー情報資源について学び、ボランティアや寄付を通じた創造価値について考察する。
第6回	見えない世界を生きる原動力	テキストの第6章を参考に、視覚障害者にとっての生きる意味について考察する。参考文献：穴澤雄介『見えなくなったら希望が見えた』、ヨシタケシンスケ『みえるとかみえないとか』、伊藤亜紗『目の見えない人は世界をどう見ているのか』。
第7回	絵本セラピーとの出会い：言葉の奥にあるcompassion	テキスト第7章の論点をまとめ、絵本セラピーの方法と考え方について学ぶ。絵本セラピーのプログラムを作成する。
第8回	読書の体験を伝える：読書感想文とビブリオバトル	テキスト第8章の論点をまとめ、身近な書籍でミニ読書感想文を作成し、動画を視聴してビブリオバトルの実際について学ぶ。
第9回	精神次元を体験する旅：消費の観光を超えて 本で旅する／本が旅する 登山は哲学とともに	テキスト第9章の論点をまとめ、精神次元を体験する旅の論点について学ぶ。コラム9, 10を参考に旅に関する書籍・映画・ドラマを探索する。
第10回	ネット・ゲーム依存は子どものSOS	テキスト第10章の論点をまとめ、ネット・ゲーム依存と読書の効用について検討する。
第11回	喪失体験と意味の回復	テキスト第11章の論点をまとめ、喪失体験と意味の回復について、悲哀と抑鬱の違いを中心に学ぶ。また、グリーフケアに関連する書籍を紹介しあう。
第12回	それでも人生にイエスと言う	テキスト第12章とコラム12を参考に、不可避の運命に対して意味を見出す姿勢、苦悩する人に寄り添う姿勢を学ぶ。
第13回	共創・共感・共苦のメディア	テキスト終章の論点をまとめ、共創・共感・共苦のメディアの考え方について、図書館を例として検討する。
第14回	意味発見シート 暮らしの風景を生きる	第2章を参考に、「意味発見シート」に取り組む。「暮らしの風景を生きる」をテーマにまちづくり（シティプロモーション）の論点について学ぶ。「暮らしの風景」を写真におさめる。観光資源としての図書館について考える。
第15回	古代ギリシャの著述家と著作	ギリシャ哲学、ギリシャ悲劇ほか
第16回	古代アレクサンドリア図書館①	古代の知識を集積したプトレマイオス朝エジプトの王立図書館の歴史
第17回	古代アレクサンドリア図書館②	古代アレクサンドリア図書館を舞台とした作品
第18回	古代ローマの著述家と著作	キケロ、カエサル、セネカ、プリニウスほか
第19回	キリスト教と聖書	日本語版・英語版・ドイツ語版の比較

第20回	中世前期の三つの世界：西欧、東ローマ、イスラム世界	西欧の写本づくりとビザンツの書物、イスラムの科学と文学
第21回	イスラム世界の著述家と著作	イスラム科学、アラビアン・ナイト
第22回	中世後期からルネサンス期の著述家と著作	普遍論争、騎士道物語、ダンテ、ペトラルカ、シェイクスピア
第23回	ドイツの著述家と著作	ドイツ史と作品：ファウスト、モモ、ドイツ観念論、実存思想
第24回	フランスの著述家と著作	フランス史と作品：星の王子さま　ほか
第25回	イギリスの著述家と著作	英国史と作品：ガリバー旅行記、不思議の国のアリス　ほか
第26回	アメリカ合衆国の著述家と著作	米国史と作品：老人と海、アルジャーノンに花束を　ほか
第27回	北欧諸国の著述家と著作	アンデルセン童話、ムーミン　ほか
第28回	まとめ	教養の読書

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回のテーマに関連した図書を探して、紹介する準備をしてください。本授業の予習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書『生きる意味の情報学　共創・共感・共苦のメディア』竹之内禎編著　東海大学出版部　2022.3
※通常価格だと高価なため、書店経由ではなく著者割で直接販売いたします。最初の3回の授業に必要な内容はPDFでも配布します。

【参考書】
①ヴィクトール・E・フランクル著、池田香代子訳
『夜と霧　新版』みすず書房、2002年
https://www.msz.co.jp/book/detail/03970/
②河原理子著『フランクル『夜と霧』への旅』平凡社、2012年
https://www.heibonsha.co.jp/book/b160190.html
③NHKオンデマンドで配信されている番組「100分de名著　フランクル『夜と霧』」「この声をきみに」の視聴をお勧めしています（個別契約が必要です）。
https://www.nhk.or.jp/meicho/famousbook/14_frankl/index.html
https://www.nhk-ondemand.jp/goods/G2012039429SA000/
https://www.nhk-ondemand.jp/program/P201700157600000/index.html

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業後の課題（50％）
授業内での報告及びコメント（50％）

【学生の意見等からの気づき】
テーマによって外部のゲスト講師を招く可能性があります。また、長期休み中に図書館や大型書店、絵本専門店等の見学、読書関連イベントへの参加（任意）も行えればと考えています。

【その他の重要事項】
本科目は対面授業を基本としながら、オンライン授業も取り入れるハイブリッド形式で実施予定です。「図書館情報学概論Ⅰ及び情報サービス論」あるいは「図書館情報学概論Ⅰ、Ⅱ」が履修済みであることが望ましいです（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）。

【Outline (in English)】
Course outline
The theme of this class is "the world of books and libraries for fulfillment" (spring semester) and "history of books and building up knowledge" (autumn semester).
In this class, we quest the way to forming our identity by reading and library utilization.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
(1) By applying the information literacy (the ability to use information resources for problem solving) learned in the librarian course, people living with various problems will find "meaning of life" from the perspective of creative value, experience value, and attitude value. to lead a fulfilling life, and to be linked to support at the level of action and practice
(2) To spread knowledge and interest in the world of books in order to continue learning that contributes to the formation of one's own personality throughout life. To be able to explain the outline of important works in the history of literature, the history of thought, and the history of scholarship, especially in the West.
(3) Learn book communication methods such as picture book therapy, and establish your own method of making reading habits while enjoying adult reading.
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policy
Grading will be decided based on the short reports (50%), in-class contribution including making presentations and comments (50%).

読書と豊かな人間性

田中　順子

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
読書と豊かな人間性の関係について学ぶ。読書は人間性にどのような影響を与えるのか、その方法はいかなるものか。読書教育を進めるために、図書館と司書教諭の役割について考える。具体的には、読書の意義と効用について知り、児童、生徒の発達段階に応じた適切な指導について学ぶ。本についての知識を深め、子どもと本をつなぐ具体的な方法を身に着けるための実践も行う。毎回、その日の学びを深めるためにグループ発表を行う。

【到達目標】
読書教育のこれまでの流れを知る。さらにそれを発展させ、課題を克服するために司書教諭は何ができるかを考える。本についての知識を蓄え、本と子供を結び付けるスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的に対面授業とする。授業の解説を受けて、自分の考えをまとめグループ発表を行う。数回、読み聞かせやブックトークなど、子供と本を結び付ける様々な実践を行う。
フィードバックは、授業中に受け付けます。さらにメールアドレスを提示し、適宜受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	読書の意義と効用について	現代における読書の意義と効用について学ぶ。学生自身の読書体験を振り返る
第2回	これまでの読書環境と読書習慣について	子どもたちの読書状況について学ぶ。社会環境の変化と子供の読書習慣の関係を探る。 学習指導要領の変遷について学ぶ。
第3回	発達段階と読書指導	子どもの発達段階に合わせた読書指導について学ぶ。 幼少期、小学校期、中学校期、高等学校期の読書指導について。
第4回	生涯学習と読書	生涯を通じて読書を楽しみ、学習を続けていけるように、基本的な力を身に着ける指導について学ぶ。山形の図書館利用教育を徹底している小学校の取り組みを参考にする。
第5回	図書館の現状　様々な取り組みについて	子どもにとって快適な図書館、読書推進に貢献できる図書館について考える。 具体的に様々な工夫をしている図書館を事例として学ぶ。
第6回	教科指導と読書指導　司書教諭の役割	学校図書館における司書教諭の役割として、読書能力を高める指導、調べ学習の力をつける指導について学ぶ。
第7回	読書と心の教育について	「心の教育」における、読書の役割について考える。 読書療法についても取り上げる。
第8回	家庭や地域との連携	ブックスタートなど、家庭や保健所のような他機関と図書館が連携することで、本や読書と出会う環を整備する方法について学ぶ。
第9回	子供と本をつなぐスキルを身に着ける１	読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトークについて学んだあと学生による実演を行う
第10回	子供と本をつなぐスキルを身に着ける２	読書郵便、読書感想文、読書感想画について学んだあと学生による実演を行う
第11回	子供と本をつなぐスキルを身に着ける３	アニマシオンについて学んだあと学生による実演を行う
第12回	子供と本をつなぐスキルを身に着ける４	本の魅力を伝える力を身に着けるため、学生による読書会、ビブリオバトルを行う
第13回	子供の読書活動の推進について	「子どもの読書活動の推進に関する法律」「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」に基づき、各地方自治体、学校などの取り組みについて学ぶ。
第14回	まとめ 様々な課題をどう克服するか考える	これまでの学びを振り返り、読書と豊かな人間性についてまとめ、課題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを事前に予習して授業に臨む。
実演の準備、授業の予習に２時間、復習に2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
探究　学校図書館学　第4巻　読書と豊かな人間性
「探究　学校図書館学」編集委員会編著　全国学校図書館協議会

【参考書】
『図書館をつくる　教育を変える』山形県鶴岡市立朝暘第一小学校　著
全国学校図書館協議会

【成績評価の方法と基準】
平常点（グループ発表における発言、授業時の小課題）：30％
中間レポート：20％
期末レポート：50％

【学生の意見等からの気づき】
自らが読書によって得られたものを探求し、読書指導の手法を学ぶことで、さらに読書の魅力に気づく学生が多かった。

【Outline (in English)】
(Course outline)
I want to discuss the meaning of reading books for humans, using some statistics and research.
I also explain the way to attract children, for example, how to read children some books, how to let them read books deeply and how interesting books are.
(Learning Objectives)
・ Students can explain the importance of reading books.
・ Students can use technique such as reading children some books and organizing book reading environment.
(Learning activities outside of classroom)
Since the lecture will be given according to the chapter of the textbook, please read the relevant part of the textbook in advance before the lecture. The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.
(Grading Criteria /Policy)
Class assignments (30%), mid-term report(20%), term-end report (50%) .

情報メディアの活用

村上　郷子

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校図書館における情報メディア全般の特性と活用方法を理解し、司書教諭に必要な情報メディアの基本的な知識、技能を習得することにより、メディア情報リテラシーの基礎を習得する。

【到達目標】
司書教諭に必要な情報メディアの基本的な知識、技能を習得することができる。例えば、学校図書館の広報誌、簡単なCM・動画広報、簡単な図表、パワポなど、限られた汎用ソフトを使って、制作することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業の初回のみオンラインで行う。Hoppiiで、ZoomのURLを確認すること。
学校図書館の利用と検索、情報機器の活用法、AIを含めたアプリケーションの活用法、プレゼンテーションの方法など、各項目の課題演習をこなすことによって、基礎的なメディア情報リテラシーの取得を目指す。授業後半では、グループによる広報紙およびCM・動画制作を行い、グループによるプレゼンを行う。
　アンケート調査やプレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	情報メディアの特性と活用	情報実習室及び授業用グループウェア(HULiC)利用ガイダンス、「司書教諭」の規定、学校図書館とメディア
2	メディアの歴史（課題①　「未来の学校図書館」ポンチ絵))	学校図書館とメディア情報リテラシー
3	レポート・論文の書き方（課題②　引用文献）	レポート・論文作成法－10のステップ
4	検索の基礎理論（課題③　検索）	データベース、検索システム、論理演算、他
5	パスファインダー（課題④　パスファインダー作成）	パスファインダー製作作り方・考え方、主題の選び方他
6	法政大学図書館　検索実習	データベース検索の実際（有料データベース、洋書、他）
7	プレゼンテーションの基礎・著作権（課題⑤　パワーポイント）（グループを決める）	プレゼンテーションの目的と方法、著作権、AIの活用と課題他
8	広報誌：見出しとレイアウト、ホームページの仕組みと作り方	読ませるための基礎理論、見出しとレイアウトの基本、ホームページの目的と機能、レイアウト、グループ活動
9	情報倫理・著作権・AIの活用他（グループ活動によるブレインストーミング）	情報リテラシー、AIと著作権、グループ活動
10	学校図書館からの情報発信①	グループによる広報誌制作（その１)、各班の広報誌タイトルと役割分担の決定
11	学校図書館からの情報発信②	グループによる広報誌制作（その２)、広報誌の構成、レイアウト、コンテンツの作成
12	学校図書館からの情報発信③	グループによる広報誌制作（その３）広報誌の校正、プレゼン・リハーサル
13	グループ・プレゼンテーション①	グループ・プレゼンテーション
14	情報メディアの活用・グループ活動総括	振り返り・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業以外にも演習課題の提出やグループによる広報誌制作およびビデオ制作を行う。課題をしっかりこなし、授業にも積極的に参加することが求められる。また、授業後半のグループ学習においては、班によっては授業外での活動も求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし。必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【参考書】
・高鍬 裕樹・田嶋 知宏著『情報メディアの活用』、放送大学教育振興会、新訂、2022
・五十嵐絹子著『学校図書館ビフォー・アフター物語―図書館活用教育の全国展開を願って』、国土社、2009

【成績評価の方法と基準】
課題（30％)、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む)、グループ・プロジェクト及びプレゼンテーション（30％)、個人のプロジェクト作品（40％）によって総合的に評価する。
全ての提出物は、授業用グループウェア(HULiC)上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、０になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】
課題のワードについてはほとんどの学生がある程度のスキル（画像の挿入、罫線・図表の作成など）を身についているため、今回は割愛した。

【その他の重要事項】
授業では、グループによるプロジェクトの協働制作やプレゼンテーションを行うため、受講生には授業への積極的な参加が求められる。

【Outline (in English)】
(Course outline and learning objectives) : Students will understand the characteristics of media and information resources in school libraries and acquire basic skills and knowledge of media and information literacy that are necessary for teacher librarians.　Examples include creating school library PR, newsletters and videos.
(Learning activities outside of classroom) :　In addition to classes, students will be required to submit assignments and work in groups to produce a PR magazine and video. Students are expected to complete assignments and actively participate in class.　The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria /Policy) :　Comprehensive evaluation will be based on assignments (40%), active contribution to the class (including attendance), group projects and presentations (30%), and individual project works (30%).

情報メディアの活用

坂本　旬

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
受講生は、情報メディア社会を生きる市民に必要なメディア情報リテラシーを育成するための学校図書館と情報メディア活用の基礎を学び、実践力を養う。

【到達目標】
(1)今日の情報メディア社会を生きる人間のあり方を考察することができる。
(2)学校図書館における情報メディア活用の実践力を身に付ける。
(3)情報メディア社会に生きる市民として求められるメディア情報倫理を理解する。
(4)情報メディアを活用した基礎的な映像制作スキルを身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
前半はメディア情報リテラシーの基本的な考え方を学び、後半は実際の情報メディアを用いた創作活動を行う。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・良いリアクションペーパーは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
・課題等の提出・フィードバックは授業支援システムを通じて行う予定。
・オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する。
・最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容や学習方法、司書課程専用授業支援システムの使い方などを解説する
2	高度情報社会と人間	グローバル化するメディア社会の特徴を考える
3	情報メディアの発展と社会の変化	情報メディアの発展と社会の変化の関係を考える
4	情報メディアの特性と選択	情報・メディアの特性と活用のためのメディア情報リテラシーの概念を学ぶ
5	情報倫理と市民社会	市民社会における著作権や肖像権、表現・情報の自由、読書バリアフリーなどの情報倫理を学ぶ
6	情報メディアの種類とその特性	さまざまな情報メディアの種類と特性を学ぶ
7	情報リテラシーと情報検索・探究学習	情報リテラシーと情報検索・探究学習の関係を具体例を通して学ぶ
8	学校図書館と情報リテラシー教育	学校図書館が情報リテラシー教育の中心に位置することを学ぶ
9	視聴覚メディアとメディアリテラシー	視聴覚メディアとメディア・リテラシーの関係を学ぶ
10	視聴覚メディアの活用と学習	視聴覚メディアの仕組みと学習についての基本的な理論を学ぶ
11	学校図書館とコンピュータ・情報発信	デジタル・ストーリーテリングを学校図書館で活用する方法を学ぶ
12	映像制作の実際	映像制作の過程を実践的に学ぶ
13	映像評価の実際	映像を評価する方法を実践的に学ぶ
14	映像作品の発表会	映像作品を発表し、評価をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
司書課程用授業支援システム(HULiC)を用いて、事前に準備された予習や宿題等を行う。映像制作では、授業時間外の取材や編集を行います。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
坂本旬『メディアリテラシーを学ぶ』大月書店(2022年)

【参考書】
坂本旬『メディア情報教育学』(法政大学出版局)2014年
寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐSDGsの教育学』(2021年)

【成績評価の方法と基準】
授業評価の方法と基準は以下の通り。授業への参加30%、映像制作20%、課題レポート50%。

【学生の意見等からの気づき】
授業の最後に映像を導入することで、映像制作を通じた学習の振り返りができた。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォンやパソコンなどの映像制作可能な情報機器。新型コロナ感染症流行のため、オンライン授業となる場合は、オンライン授業に用いる端末が必要である。

【その他の重要事項】
授業の中で映像制作を行うため、欠席はなるべくしないこと。

【Outline (in English)】
To study basic theories of digital media and information literacy for school librarians
To produce digital storytelling video about books and reading life
The goal is to acquire the ability to examine people living in an information media society, the ability to use information media in school libraries, media ethics, and basic video production skills.
Grading criteria are as follows. Class participation is 30% , filmmaking is 20%, and reports are 50%. Students will be required to do prep work and homework prepared in advance.For film production, students will conduct interviews and edit videos outside of class time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

社会教育演習

久井　英輔

単位：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
（授業の概要）
実際の社会教育実践の現場（社会教育施設など）での実地調査（インタビュー、資料収集等）を実施し、調査結果をもとに受講者各自でレポートを作成・発表する。また社会教育実践を対象とした調査と考察に必要な基本的視点、知識を学ぶための文献講読を行う。
（授業の目的・意義）
文献講読、実地調査、レポート作成等を通じて、社会教育士、社会教育主事に求められる実践的な研究能力（地域社会で行われている社会教育実践の性格と背景を客観的に把握し、あわせて現実的な提言をおこなう）を獲得する。

【到達目標】
社会教育施設、社会教育行政と関連する制度、社会教育をめぐる連携のあり方に関する基本的な視点と知識を得る。また、これらの視点・知識を生かして、実際の社会教育事業に対して客観的把握と実践的提言を行える力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業の序盤は、社会教育実践の分析に必要な基本的な視点、知識について、文献講読を通じて学ぶ。その後、各自の問題関心に関連した先行研究の検討や、社会教育施設等の実践現場での実地調査（インタビュー調査、資料調査）を踏まえて、受講者各自でレポートを作成し、それを基に討論を行う。
また、実地調査以外でも学生に社会教育実践の現場感覚に触れてもらうため、社会教育施設見学、現役の社会教育主事のゲスト講義も実施する。
学生の文献発表、調査レポート発表などに対しては、発表後の授業内での討論や授業後のアドバイス（対面、メールなど）等の形でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	問題関心の共有	演習の実施方法について説明するとともに、受講者各自の社会教育に関する問題関心を共有する
第2回	社会教育の制度を捉える①	多様な社会教育のとりくみとその中における社会教育行政の位置づけについて、文献講読を通じて理解する。
第3回	社会教育の制度を捉える②	社会教育施設の体系と各種施設の役割について、文献講読を通じて理解する。
第4回	実地調査の構想発表①	社会教育施設における事業企画・事業評価・広報活動に関心をもつ学生が、具体的な問題関心を発表する。
第5回	実地調査の構想発表②	社会教育施設等と地域社会との関係性に関心をもつ学生が、具体的な問題関心を発表する。
第6回	実地調査の構想発表③	学習支援者（職員・ボランティア）の資質・能力に関心をもつ学生が、具体的な問題関心を発表する。
第7回	実地調査に関連した文献の検討①	社会教育施設における事業企画や事業評価に関心をもつ学生が、関連する先行研究を紹介し、それを基に討論を行う。
第8回	実地調査に関連した文献の検討②	社会教育施設における広報活動に関心をもつ学生が、関連する先行研究を紹介し、それを基に討論を行う。
第9回	実地調査に関連した文献の検討③	社会教育施設と地域社会との関係性に関する関心をもつ学生が、関連する先行研究を紹介し、それを基に討論を行う。
第10回	実地調査に関連した文献の検討④	学習支援者（職員・ボランティア）の資質・能力に関心をもつ学生が、関連する先行研究を紹介し、それを基に討論を行う。
第11回	実地調査案の検討①	社会教育施設における事業企画・事業評価について、具体的な社会教育施設等の調査対象を選定した上で、実地調査の計画を発表し、それを基に討論する。
第12回	実地調査案の検討②	社会教育施設の広報活動について、具体的な社会教育施設等の調査対象を選定した上で、実地調査の計画を発表し、それを基に討論する。
第13回	実地調査案の検討③	社会教育施設と地域社会との関係性について、具体的な社会教育施設等の調査対象を選定した上で、実地調査の計画を発表し、それを基に討論する。
第14回	実地調査案の検討④	学習支援者（職員・ボランティア）の資質・能力について、具体的な社会教育施設等の調査対象を選定した上で、実地調査の計画を発表し、それを基に討論する。
第15回	社会教育実践の場を知る①	公民館およびそれに類似する施設の役割と課題について、文献講読を通じて理解する。
第16回	社会教育実践の場を知る②	青少年教育施設、女性教育施設の役割と課題について、文献講読を通じて理解する。
第17回	社会教育における連携を探る①	社会教育行政と多様な主体の間で行われる連携の概要について、文献講読を通じて理解する。
第18回	社会教育における連携を探る②	社会教育行政と多様な主体との連携の意義と課題について、文献講読を通じて理解する。
第19回	社会教育施設見学①	社会教育施設経営に関して必要な知見・視点について、施設職員から説明を受けた上で、質疑応答を行う。
第20回	社会教育施設見学②	社会教育施設の講座事業を見学し、講座企画・実施・評価の実際について、施設職員から説明を受けた上で、質疑応答を行う。
第21回	ゲストスピーカー講義①	県の社会教育主事をゲストスピーカーとして招き、勤務内容の実際について話題提供の上、受講者と意見交換を行う。
第22回	ゲストスピーカー講義②	市町村の社会教育主事をゲストスピーカーとして招き、勤務内容の実際について話題提供の上、受講者と意見交換を行う。
第23回	実地調査に基づくレポートの発表・討論①	社会教育施設における事業企画に関する現状・課題・展望について、受講者が調査を基に報告する。

第24回	実地調査に基づくレポートの発表・討論②	社会教育の事業評価に関する現状・課題・展望について、受講者が調査を基に報告する。
第25回	実地調査に基づくレポートの発表・討論③	社会教育施設の広報活動に関する現状・課題・展望について、受講者が調査を基に報告する。
第26回	実地調査に基づくレポートの発表・討論④	社会教育施設等と地域社会との関係性に関する現状・課題・展望について、受講者が調査を基に報告する。
第27回	実地調査に基づくレポートの発表・討論⑤	学習支援者（職員・ボランティア）の資質能力に関する現状・課題・展望について、受講者が調査を基に報告する。
第28回	実地調査報告の振り返り	受講生各自が、自分の作成したレポートの要約を持ち寄り、本授業で学習した内容について、論点を整理し・共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・文献講読の場合は、文献に関する疑問点やコメントを事前に整理した上で、授業に臨むこと。
・調査レポートの作成は基本的に授業時間外となるので、計画的な調査実施と執筆を心がけること。
・本授業の準備学習時間・復習時間は合わせて、授業1回につき4時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
多岐にわたるので、授業内で提示する。文献のマスターコピーまたはPDFファイルは、担当教員が用意する。

【参考書】
鈴木眞理、伊藤真木子、本庄陽子編『社会教育の連携論：社会教育の固有性と連携を考える』学文社、2015年
鈴木眞理、井上伸良、大木真徳編『社会教育の施設論：社会教育の空間的展開を考える』学文社、2015年
鈴木眞理、稲葉隆、藤原文雄編『社会教育の公共性論：社会教育の制度設計と評価を考える』学文社、2016年

【成績評価の方法と基準】
実地調査に関する発表　60％
（授業での構想発表、関連文献発表、調査計画発表、最終報告）
文献講読発表　15％
（課題文献の発表）
討論への貢献度　25％

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は、各学生の実地調査が時間的余裕をもって進められるよう、以前よりも大幅に早い時期（5月）から、各学生の実地調査の計画づくりを開始した。このこと自体は意図した通りの効果があったが、7月に各学生が実地調査案を概ね確定した後の調査実施スケジュールについては各学生に委ね、特に時期に関する目安を設定しなかったため、調査対象となる施設との交渉が遅くなり、学生が当初予定していた調査が十分に行えないというケースが散見された。もちろん、最適な調査スケジュールは施設によっても異なるが、調査計画策定後の調査実施時期の目安についても、今年度からは授業内で明確に学生に伝えるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC

【その他の重要事項】
本科目は、社会教育主事講習等規程第11条に規定された「社会教育演習」に該当します。社会教育主事任用資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目です。
この授業を履修するにあたっては、原則として前年度までに「生涯学習入門Ⅰ」「生涯学習入門Ⅱ」を履修し、単位取得していることを求めます。
また、この授業は2年生から受講可となっていますが、なるべく3年生以上での履修を推奨します。
（社会教育・生涯学習に関する学習を十分行っていない段階で実習を行なっても、学習効果が低いため）

【Outline (in English)】
(Course Outline)
The aims of this course are to provide students with basic knowledge and viewpoints indispensable to analyses on social education activities, to support for conducting surveys on social education activities, mainly in social education facilities, and to advise for writing reports utilizing data of the survey.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to help students acquire proper abilities of practical research for social education advisers and supervisors (ability to grasp the characteristic of each social education activity and its background, and to make realistic proposals for the activity) by reading texts, conducting surveys, and writing reports.
(Learning Activities Outside of Classroom)
Students will be expected to organize his or her own comments and questions about assigned literature in advance in advance, and to conduct his or her planful survey. Your study time will be more than four hours for a class.
(Grading Criteria /Policy)
Final grade will be calculated according to the following process:
Presentations on field survey: 60%
Presentations on assigned readings: 15%
Contribution to discussion: 25%

社会教育経営論Ⅰ

久井　英輔

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
（授業概要）
前半は「社会教育経営」という考え方と、それが社会教育行政において必要とされるようになった背景について概観する。その上で、社会教育調査、社会教育計画の策定、社会教育の広報、社会教育と評価、学習成果の活用、等、社会教育経営の観点から求められる具体的な知識について解説する。
後半は、これらの基本的知識の定着を図るため、演習または実習的に授業を展開する。第一に、自治体が実際に作成した社会教育計画の検討を各自で行い、学生間の質疑応答を実施する。第二に。実際の社会教育施設（公民館等を想定）の見学を行い、その経験に基づいてグループレポート作成、学生同士の質疑応答を実施する。
（授業目的）
「社会教育経営」という概念を、実際の自治体社会教育計画策定や社会教育施設の経営といった実践に活用できる形で理解する。

【到達目標】
「社会教育経営」という概念を、社会教育調査、社会教育計画策定、社会教育の広報、社会教育の評価、学習成果の活用、といった個別の論点と関連付けて理解できるようになる。また「社会教育経営」という観点から実際の自治体の計画や社会教育施設の事業を分析する力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
前半は、社会教育経営という概念と、それに関わるいくつかの要素（社会教育調査、社会教育計画の策定、社会教育の広報、社会教育と評価、学習成果の活用、等）を講義形式で解説するとともに、実際の自治体の社会教育計画に関する分析・考察を個人発表の形で各学生が提示する。
後半は、社会教育施設（公民館を想定）の訪問と、その経験を踏まえた社会教育施設経営に関するグループ発表を行う。
学生に対するフィードバックは、毎回のコメントシート提出に対する教員からのリプライ、および、プレゼンテーションに対する教員のコメントなどの形で行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会教育経営の基本的視点	「社会教育経営」という概念の意味を解説するとともに、この概念が必要とされるに到った背景について検討する。
第2回	自治体社会教育計画策定の実際	実際の都道府県や市区町村において、どのような留意点に配慮しながら社会教育計画が策定されているかについて解説を行う
第3回	社会教育関連法令の動向	生涯学習概論Ⅰで学んだ社会教育関連法令（特に社会教育法）に関して、特に今日において重要となっている規定について解説する。
第4回	社会教育調査とデータの活用	社会教育現場で実施されるアンケート調査について、量的分析の基本的性格を確認するとともに、住民、施設利用者、講座参加者対象のアンケートがそれぞれ具体的にどのように実施・活用されているかを解説する。
第5回	社会教育計画の実例の検討（1）	実際に都道府県レベルで策定されている社会教育計画を受講生個々人が適宜選定して概要を紹介し、自治体政策において社会教育がどのような意義を持つものと捉えられているのかを検討する。
第6回	社会教育計画の実例の検討（2）	実際に市区町村レベルで策定されている社会教育計画を各受講生個々人が適宜選定して概要を紹介し、自治体の政策において社会教育がどのような意義を持つものと捉えられているのかを検討する。
第7回	社会教育と広報	社会教育の施設・事業の広報に求められる手法の独自性とよく見られる工夫について紹介、考察する。
第8回	社会教育と評価	社会教育で扱われる「評価」の多様性（個人の学習成果の評価、事業の評価、行政評価）とその意義について検討する。
第9回	学習成果の活用	社会教育の学習プログラムで得られた個々人の学習成果が、どのように活用しうるか、またその活用のために社会教育行政が行っている取り組み（ボランティア活動、人材バンク登録など）がどのような取り組みをしているかを紹介する。
第10回	社会教育施設の今日的課題	社会教育施設の経営に求められる今日的な課題（財政、人員確保、利用者の高齢化など）について検討する。
第11回	社会教育施設実地視察の事前学習	実際に訪問する社会教育施設について、その経営方針や事業に関する質問等を学生間で検討する。
第12回	社会教育施設の実地視察	社会教育施設（公民館またはその類似施設、あるいは生涯学習センター）を訪問し、設備や経営方針、事業企画の傾向などを職員から説明を受けた上で、受講生との質疑応答を行う。
第13回	社会教育施設実地視察の報告資料作成	前回に訪問した社会教育施設について、施設経営に関する諸点（事業のテーマ・広報・評価手法、学習成果の活用、地域住民との関係性）をグループにて共有し、簡潔なプレゼンテーション資料を作成する。
第14回	社会教育施設実地視察の成果報告・共有	施設訪問における知見について、各グループのプレゼンテーションと討議を行った上で、これまでの授業の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各回の授業後、配布資料をよく読み返すとともに、配布資料で提示した参考文献の関連箇所を読むこと。
・自治体社会教育計画に関する個人発表については、授業内で発表資料を作成する時間は取れないので、授業外で十分に時間を取って準備すること。
・本授業の復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
国立教育政策研究所社会教育実践研究センター（浅井経子編集代表）『社会教育経営論』ぎょうせい、2020年

【成績評価の方法と基準】
毎回のコメントシート　40％
社会教育計画の実例検討を踏まえた個人発表　20％
社会教育施設実地視察を踏まえたグループ発表　20％
グループ、全体での討論への貢献度　20％

【学生の意見等からの気づき】
今年度から本授業の担当となるため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC

【その他の重要事項】
本科目は、社会教育主事講習等規程第11条に規定された「社会教育経営論」に該当します。社会教育主事任用資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目です。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The first half of the course will provide an overview of the concept of “social education management” and the background of its necessity in social education administration. Specific knowledge related to social education management, such as social education surveys, social education planning, public relations for social education, social education and evaluation, and utilization of learning outcomes, will also be explained.
The second half of the course will consist of presentations and group work to consolidate this knowledge. First, each student will examine an actual social education plan prepared by the local government. Second, students will visit actual social education facilities, prepare for group presentation based on their experiences in these visits.
【Learning Objectives】
The purpose of this course is to understand the concept of social education management as a practical concept that can be used in social education planning in local governments and projects at social education facilities.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to read documents of lecture again and references mentioned in the document of lecture after each class meeting. Students are also required to prepare for the presentation of social education plans and basically outside of class time. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process:
Submission of comment sheets: 40%
Individual presentation on plan of social education: 20%
Group presentation based on visits of social education facilities: 20%
Contribution to discussion: 20%

社会教育経営論Ⅱ

井上　伸良

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・授業の概要
　社会教育を経営するということの意味や意義について説明する。その際、地域との関連を中心としながら、事例的・実践的にも説明する。
・授業の意義・目的
　社会教育を経営することの具体的な内容や社会的な意義について理解できるようになることが目的である。

【到達目標】
　社会教育に関する経営的事項について、行政レベル、施設レベル双方での理解を図るとともに、社会教育が人々や地域の学びや発展とどのように関係しているか理解する。なお、そうした目標を把握しやすくするために、想定される利用対象が限定的な社会教育施設の見学を予定している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
　授業の進め方は、授業者による解説が中心となる。履修者の質問へのフィードバックについては、授業内で毎回質疑の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会教育の経営を考える視点	社会教育経営という概念およびそうした概念が現れた社会的背景について説明する。その際、社会教育経営と地域活性化がどのように関連するのかについてもあわせて説明する。
第2回	社会教育行政と地域活性化の関連	地域活性化というテーマは社会教育に限らず複数の行政分野で用いられる。社会教育における地域活性化の特徴について、具体例を交えながら理解を図る。
第3回	社会教育行政の経営戦略（1）【社会教育事業予算の検討】	行政における予算や諸事業について、その財源を含めて理解を図る。
第4回	社会教育行政の経営戦略（2）【施設における社会教育事業の検討】	各施設における社会教育事業の傾向について、事業評価への理解を含め説明する。
第5回	社会教育施設の経営戦略とその社会的背景	社会教育施設の経営に関する規制緩和の沿革とその社会的背景について説明する。
第6回	社会教育行政を基点としたネットワーク型行政と地域ネットワーキング	社会教育行政を基点とするネットワークとはどのようなものか。まずはネットワークや関連語句の原理的考察から始め、行政文書での定義やその問題点について考察する。
第7回	社会教育における地域ネットワーキングの実際（1）【民間の教育機会との連携】	社会教育施設を民間教育事業が使用することの是非やその根拠、民間の教育機会が社会教育事業を担っている事例について説明する。
第8回	社会教育における地域ネットワーキングの実際（2）【家庭教育支援】	社会教育による家庭教育支援について、子ども家庭支援センターのような福祉部局との連携や異同の検討を含めて説明する。
第9回	社会教育施設の見学(1)	青少年教育施設あるいはそれに類する施設を見学し、利用者の学習や地域を支援することの実態と意義について理解する。
第10回	社会教育施設の見学(2)	青少年教育施設あるいはそれに類する施設を見学し、利用者の学習や地域を支援することの実態と意義について理解する。また、見学を踏まえての振り返りも行う。
第11回	社会教育における学びのデザイン	配布資料や前回の施設見学での内容も参考にしながら、社会教育施設における学びにどのような形態があり、どのように学びを掘り起こす、あるいは支援していくことができるのかについて考察する。
第12回	社会教育における地域人材の養成	社会教育実践を支える、あるいは地域を支える人材が社会教育行政によってどのように養成されてきたか、その沿革について説明する。
第13回	学習ボランティアと地域の学習支援組織・ネットワーク	生涯学習とボランティアの関連が国レベルで整理された平成4年の生涯学習審議会を出発点として、学習ボランティアや非営利活動に関する法令・行政レベルの取り組みについて、具体的事例を紹介しながら整理する。
第14回	社会教育の取り組みの発展方策と展望（まとめ）	中央教育審議会生涯学習分科会のまとめ等を拠り所として、これからの社会変化に対応した社会教育がどのように構想されているのかを確認し、検討を試みる。また、これからの社会教育の在り方について、主に地方公共団体あるいはより狭い学校区域を想定して具体的に考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習を重視する。時間外学習としては復習4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
山本珠美・熊谷慎之助・大木真徳編著『社会教育経営の基礎』学文社、2021年

【成績評価の方法と基準】
中間レポート60％、期末試験40％とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
調べ学習をする場合があるので、何らかのデバイスの持参が望ましい。

【その他の重要事項】
本科目は、社会教育主事講習等規程第11条に規定された「社会教育経営論」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目である。

【Outline (in English)】
Course outline:　This course will explain the meaning and significance of managing social education, focusing on its relationship with the local community and also using case studies and practical examples.
Learning Objectives:　The goal is to enable students to understand the specific details and social significance of managing social education.

Learning activities outside of classroom: After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria: Your overall grade in the class will be decided based on the following - Term-end examination 40%, Short reports 60%.

生涯学習支援論Ⅰ

松橋　義樹

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・授業の概要

生涯学習支援に関する事項として、学習支援に関する教育理論、効果的な学習支援方法、参加型学習の実際とファシリテーション技法に関する講義および演習を行う。

・授業の意義・目的

社会教育主事に求められる資質・能力のうち、学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識及び技能の習得を図る。

【到達目標】

学習支援に関する教育理論については、発達課題と学習課題、学習者及び学習内容の捉え方、多様な学習の形態・方法について理解する。効果的な学習支援方法については、コーディネートおよびカウンセリングの技法、情報提供と学習相談の方法、多様なメディアの活用方法を習得する。参加型学習の実際とファシリテーション技法については、主に学習者・学習内容別の参加型学習の進め方を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、予習課題と復習課題を出題し、授業の冒頭で予習・復習課題への解答に対する教員からのコメントを行う。その後、各回のテーマに即した講義および演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生涯学習支援の多様性	生涯学習支援は学習者・学習目的・学習内容・学習方法などのいずれの側面においても多様であることを、実践例をもとに解説する。
第2回	生涯発達論の意義と展開	生涯学習支援における生涯発達論の意義とともに、社会の変化に伴う生涯発達論の展開について解説する。
第3回	学習者としての青少年理解	学習としての青少年の特徴について、青少年を対象とした各種調査結果をもとに解説する。
第4回	学習者としての成人理解	学習としての成人の特徴について、アンドラゴジーをはじめとする成人学習論をもとに解説する。
第5回	学習者としての高齢者理解	学習としての高齢者の特徴について、ジェロゴジーをはじめとする各種理論をもとに解説する。
第6回	特別な配慮を必要とする学習者支援の基本的な考え方	特別な配慮を必要とする学習者を支援する上での基本的な考え方について、社会的包摂や合理的配慮の概念をもとに解説する。
第7回	学習情報提供・学習相談の実際	社会教育施設等で行われている学習情報提供・学習相談の現状と課題および具体的手法について、実践例をもとに解説する。
第8回	社会教育におけるコーディネート・カウンセリングの実際	社会教育活動の中で行われているコーディネート・カウンセリングの現状と課題および具体的手法について、実践例をもとに解説する。
第9回	社会教育におけるメディア活用の実際	社会教育活動の中でのメディア活用の現状と課題および具体的手法について、実践例をもとに解説する。
第10回	参加型学習の意義と展開	社会教育活動における参加型学習の意義とともに、社会の変化に伴う参加型学習の展開について解説する。
第11回	青少年教育における参加型学習とファシリテーションの実際	青少年教育における参加型学習とファシリテーションの進め方について、実践例をもとにグループワークを行う。
第12回	成人教育・高齢者教育における参加型学習とファシリテーションの実際	成人教育および高齢者教育における参加型学習とファシリテーションの進め方について、実践例をもとにグループワークを行う。
第13回	特別な配慮を必要とする学習者支援における参加型学習とファシリテーションの実際	特別な配慮を必要とする学習者支援における参加型学習とファシリテーションの進め方について、実践例をもとにグループワークを行う。
第14回	これからの生涯学習支援のあり方	本科目の授業の総括として、これからの生涯学習支援のあり方について講義およびグループワークを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習課題および次回の授業資料の講読に毎週2時間、復習課題に毎週1時間取り組むこと。加えて、期末レポートの執筆に15時間取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

使用しない。使用する資料は毎回、電子データで配布する。

【参考書】

・清國祐二・国立教育政策研究所社会教育実践研究センター編『生涯学習支援論ハンドブック』ぎょうせい、2020年

・小池茂子・本庄陽子・大木真徳編『生涯学習支援の基礎』学文社、2022年

【成績評価の方法と基準】

・予習課題および復習課題への取組状況　30%

・グループワークへの取組状況　30%

・期末レポート　40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度から授業を担当するため、フィードバックなし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。（各自がパソコンを持参する前提）

【その他の重要事項】

本科目は、社会教育主事講習等規程第11条に規定された「生涯学習支援論」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目である。

【Outline (in English)】

(Outline)

This course provides students with basic knowledge and skills on educational theories related to learning support, effective methods of learning support, practical participatory learning, and facilitation techniques.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to acquire knowledge and skills related to learning support tailored to the diverse characteristics of learners.

(Learning activities outside of classroom)

Spend 2 hours each week on pre-class assignments and reading materials for the next lesson, and 1 hour each week on review assignments. Additionally, dedicate 15 hours to writing the final report.
(Grading Criteria /Policy)
・Engagement in pre-class and review assignments:30%
・Participation in group work:30%
・Final report:40%

生涯学習支援論Ⅱ

久井　英輔

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会教育における実践的な学習プログラムの作成手法や作成の際に必要な視点について解説し、それらの知識を活用して、地域社会の背景を踏まえた学習プログラム案作成のグループワークを行う。
（授業の目的・意義）
グループワークによる学習プログラム案の作成というプロセスを通じて、社会教育職員あるいは社会教育における学習支援者に求められる実践知（理論知を現実の状況に応じて適切に活用する能力）を体得する。

【到達目標】
社会教育における様々な学習支援技法を活用した学習プログラムの作成手法を理解する。また、これらの知識を生かして、地域社会の背景を踏まえた学習プログラム案を作成する基本的な実践力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
最初の数回は、学習プログラム作成の基本的手法を学んだうえで、既存の学習プログラム（公民館などの社会教育施設が実際に実施した講座）を学生が検討し、学習プログラムに対する批評眼を養う。
これらを踏まえて、具体的な自治体／地域を想定して、グループワークで学習プログラム案（対象地域の特性の把握、実際の自治体社会教育計画の把握、学習プログラムの目的・概要と展開案、参加者対象アンケート案、広報案）を作成する。
作成した学習プログラム案については、教員、ゲストコメンテーター（社会教育施設職員）からだけでなく、学生相互にコメントし、個々人でより改善を進めたものを最終レポートとして提出する。グループワークでの成果に対する教員からのフィードバックは、授業内でのディスカッションを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：社会教育における学習プログラムとは	社会教育における学習プログラムの特色について概観する
第2回	学習プログラム作成の現場から（ゲストスピーカー講義）	ゲストスピーカー（社会教育施設職員）から学習プログラム作成、実施、評価の実際について、情報提供していただく。
第3回	学習プログラム作成の基本的な手法①	社会教育の学習プログラム案作成の基本的な視点、および標準的な手順について解説する。
第4回	学習プログラム作成の基本的な手法②	学習プログラム案作成にあたって必要な、地域社会の特性・課題把握の方法について解説する。
第5回	学習プログラム作成の基本的な手法③	学習プログラムの広報、および、受講者アンケート実施に必要な基本的事項について解説する。
第6回	学習プログラムの実例検討①	社会教育施設等における既存の学習プログラムを各受講者が選定しその詳細を調査する。
第7回	学習プログラムの実例検討②	社会教育施設等における既存の学習プログラムについて、各受講者が選定したプログラムの意義について発表し、質疑応答を行う。
第8回	学習プログラムの実例検討③	社会教育施設等における既存の学習プログラムについて、各受講者が選定したプログラムの改善すべき点について発表し、質疑応答を行う。
第9回	地域課題の把握	任意の地域（市町村など）を各受講者が選定し、その地域の課題、教育・学習・文化環境や、社会教育に関わる政策環境について個人レポートの発表を通じて把握する。
第10回	学習プログラム案の作成①	任意の地域を対象とした個人レポートの成果を基に、グループに分かれて一つの地域を選定し、地域社会の課題について、またその課題を背景とした学習プログラムの目的・概要を作成する。
第11回	学習プログラム案の作成②	グループ毎に、学習プログラム各回実施内容の詳細、受講者アンケート案、広報案を作成する。
第12回	学習プログラム案の発表①	グループ毎に完成した学習プログラム案を発表する。
第13回	学習プログラム案の発表②	グループ毎の学習プログラム案について、学生間の質疑応答や社会教育施設職員（ゲストコメンテーター）を通じてその意義と課題を論じる。
第14回	学習プログラム案の振り返り	グループ毎に学習プログラム案の作成プロセスを振り返り、改善すべきポイントを明確化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・個人ワーク、グループワークともに、授業時間外での準備時間が十分に必要となるので、留意すること。
・各回の授業後、参考書や授業内で提示した参考文献の関連箇所を読むこと。
・本授業の準備学習・復習時間は合わせて各回4時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
髙井正・中村香編『生涯学習支援のデザイン』玉川大学出版部、2019年
国立教育政策研究所社会教育実践研究センター（清國祐二編集代表）『生涯学習支援論』ぎょうせい、2020年

【成績評価の方法と基準】
各回のコメントシート　20％
グループワークへの貢献度　20％
個人発表・グループ発表　30％
全体でのディスカッションへの貢献度　20％
学習プログラムの改善案（最終の個人レポート）　10％

【学生の意見等からの気づき】
受講者数によってグループワーク、発表、質疑応答にかける時間が大きく変化する授業である。昨年度は比較的小人数であったため、グループワークや全体でのディスカッションに十分な時間を割くことができたが、例年受講者数がかなり変動するので、スケジュール、タイムテーブルについては、学生数に応じてある程度柔軟に対応できるよう心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC（グループワーク等で使用）

【その他の重要事項】
本科目は、社会教育主事講習等規程第11条に規定された「生涯学習支援論」に該当します。社会教育主事任用資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目です。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
The aims of this course are to provide students with knowledge on practical methods for planning learning programs in social education, and to supports group work of students for planning learning programs by utilizing basic knowledge.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to help students to acquire “practical knowledge” (the ability of utilizing theoretical knowledge according to situation) for staffs or learning supporters of social education, by experiencing the process of planning learning programs.
(Learning Activities Outside of Classroom)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
(Grading Criteria /Policy)
Final grade will be calculated according to the following process:
Submission of comment sheets: 20%
Contribution to group work: 20%
Individual presentation and group presentation: 30%
Contribution to discussion in class: 20%
Term-end report: 10％

社会教育特講Ⅰ

上野　昌之

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、日本社会における多様なマイノリティ（例：先住民族、部落問題、在日コリアン、外国人就労者、障害者、LGBTQ+、女性、高齢者など）について理解を深め、社会構造や歴史的背景を考察します。そのうえで差別や人権に目を向け、マイノリティが直面する課題を把握し、より公正で包摂的な社会を実現するための具体的な方策を探求することを目的とします。本講義を通じて、受講生は多様性の尊重と社会変革への主体的な関与の重要性を学びます。

【到達目標】
1.多様なマイノリティの理解：日本社会におけるさまざまなマイノリティの歴史的・社会的背景、現状、課題を説明できる。
2.構造的な差別と日本人特権の認識：マジョリティとマイノリティの関係を社会構造の観点から分析し、無意識のバイアスや制度的差別を認識できる。
3.批判的思考の育成：社会的な偏見やステレオタイプを問い直し、異なる視点から物事を考察できる。
4.包摂的な社会の実現に向けた提案：具体的な政策、制度、実践の提案を行い、より公正な社会のための行動計画を立案できる。
5.対話と共生のスキルの習得：多様な価値観や立場を尊重し、建設的な議論を行う能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本とする。授業内では質疑応答をしながら進める。バズセッションなり、グループで話し合うことも逐次行う。最後にリアクションペーパ記述の時間を設けるので、当日の講義での疑問、考えたことなどまとめ提出するように。翌週の冒頭にリアクションペーパーをもとに前回の確認を行う。
期間中に書籍を読み論評する課題を課す。課題図書は講義の中で指定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：日本社会におけるマイノリティカテゴリーの認識と自己における人権意識	日本における社会的なマイノレィティにはどのような人々がいて、受講者の日常生活でどのような意識を持って接しているか内省する。
第2回	部落差別(同和問題)について考える。	いわゆる部落差別というものの歴史的な経緯を知り、現代における状況や問題点を踏まえ、差別、人権について考える。
第3回	在日コリアン等(オールドカマー)について考える。	「在日」と言われる人々が生まれた歴史的な背景を把握し、現代社会での状況を知り、自己や社会の在り方を考える。
第4回	日本に在留するいわゆる「外国人就労者」(ニューカマー)について考える。	「外国人就労者」を必要とする日本社会の構造と、彼らのおかれている現状を把握し、日本人、日本社会の在り方を考える。
第5回	先住民族アイヌの形成についてアイヌ民族の歴史的・地理的な経緯を再考する。	先住民族アイヌの歴史的な背景を把握し、日本と先住民族の関係を考える。
第6回	先住民族アイヌの現代まで継承されている言語・文化について知る。	アイヌ民族が現在も継承している伝統文化のを知ることで日本民族との違いを知る。
第7回	先住民族アイヌ文化の喪失について明治以降の日本の植民地主義とアイヌ民族について考える。	アイヌ民族が日本社会に組み込まれていく中で、先住民族アイヌについて独自文化の喪失過程を把握しその意味を考える。
第8回	アイヌ民族への差別と対抗に向けた人権活動について考える。	アイヌは日本人日本社会からの差別の視線へどのような抵抗と対抗を行ってきたかを考える。
第9回	先住民族アイヌについてポストコロニアル的視点から現代の状況を考える。	現代のアイヌ民族の民族復興活動をポストコロニアルの視点から考え、国家と先住民族の共生を考える。
第10回	障害者を取り巻く問題について考える。	インクルーシブが一般化しようとしている社会がより良いものになっているのか、障害者視点を踏まえ考える。
第11回	性的マイノリティ(LGBTQ+）を取り巻く問題をについて考える。	LGBTQ+の人々にとって日本社会は決して生きやすいものではない。彼らを受容する社会設計に必要なこととは何かを考える。
第12回	女性を取り巻く問題について考える。	日本での女性の社会的な地位はマイノリティと言える。日本社会での女性をめぐる問題について考える。
第13回	高齢者を取り巻く問題について考える。	日本は高齢社会にある。高齢者をめぐり社会のいたるところに歪が生じている。より良い人生を全うするために必要なこととは何かを考える。
第14回	試験・まとめと解説	現在の日本社会の抱える社会的マイノリテイとの関係を振り返り、公平で公正な社会の実現の構築に必要なものを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回のテーマについて書籍やインターネットなどで情報を集め、日本社会の中でどのようなことが問題となっているのかを下調べしておく。講義終了後には講義で問題となっていた点について熟考し、当事者の立場と自己の立場でどのような齟齬が起きてくるのか、自己の考えをまとめておく。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。講義時に必要資料を配布する。
アイヌ民族に関しては別につぎのURLから中学生用資料をダウンロードしておくように。
https://www.ff-ainu.or.jp/web/potal_bunka/details/post.html

【参考書】
キム・ジへ『差別はたいてい悪意のない人がする』大月書店　2021年　1600円。
北村英哉・唐沢穣『偏見や差別はなぜ起こる？』ちとせプレス　2019年　2500円。
古橋エツ子監修、和田幸司編『人権論の教科書』ミネルバ書房　2021年　3000円。
北原モコットゥナシ『アイヌの真実』ベスト新書　2020年　1300円。
その他、各カテゴリーで様々な観点から書籍が出ているので、自分が興味を持ち読みやすいものを入手し、参考資料として使いなさい。

【成績評価の方法と基準】
・毎回提出されたリアクションペーパー（13回分)を評価の対象とする。「到達目標」を意識した記載を評価する（26％）。
・課題論文についてその内容を評価対象とする（24％）。
・授業への参加態度学習状況などを平常点として評価する（10％）。
・最終日の試験内容を評価する（40％）。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
特に指定しない。

【その他の重要事項】
・課題またはリアクションペーパーを、生成AIにより作成し提出したものと考えられるものは減点(無効を含む)の対象とする。
・オフィスアワーについては、講師のため大学滞在時間が限られているため、授業後の時間を当てる。単発、簡素なものは学習支援システム上で行う。

【Outline (in English)】
In this course, we will deepen our understanding of various minorities in Japanese society, such as Indigenous peoples, issues related to the Buraku community, Zainichi Koreans, foreign workers, people with disabilities, LGBTQ+ individuals, women, and the elderly. We will examine the social structures and historical backgrounds surrounding these groups. Furthermore, we will focus on discrimination and human rights, identify the challenges minorities face, and explore concrete measures to achieve a fairer and more inclusive society. Through this course, students will learn the importance of respecting diversity and actively engaging in social change.

社会教育特講Ⅱ

大木　由以

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
（授業の概要）
地域の歴史文化や地域産業にかかわる多様な社会教育実践に目を向け、地域づくりにおける実践の意義や特徴を検討する。
（授業の意義・目的）
本授業は地域の歴史文化や地域産業の現状と課題を知るとともに、それにかかわる社会教育実践が地域づくりに果たす役割を理解することを目的とする。本授業の意義は様々な実践に触れることで多様な主体・内容・方法による社会教育実践のあり方を理解できるようになることである。

【到達目標】
受講者には、地域の歴史文化や地域産業の実態を理解したうえで、関連する多様な社会教育実践を知り、その特徴・意義および地域づくりに果たす役割を説明できるようになることを期待している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
各回の授業後に、授業を通して感じたこと考えたことについてリアクションペーパーを提出してもらう。その内容の一部は次回以降の授業時で共有し、必要に応じて補足説明を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方を説明する。また、地域の歴史文化・地域産業をめぐる現状と課題を検討する。
第2回	地域課題と学習	多様な地域課題の解決方法について検討しながら、学びを通した地域課題解決という考え方について理解を深める。
第3回	公民館と地域産業	公民館について概説したうえで、地域産業にかかわる実践事例を分析し、その特徴を検討する。
第4回	公民館と地域の歴史文化	公民館における地域の歴史文化にかかわる実践事例を分析し、その特徴を検討する。
第5回	図書館と地域産業	図書館について概説したうえで地域産業にかかわる実践事例を分析し、その特徴を検討する。
第6回	図書館と地域の歴史文化	図書館における地域の歴史文化にかかわる実践事例を分析し、その特徴を検討する。
第7回	博物館と地域産業	博物館について概説したうえで、地域産業にかかわる実践事例を分析し、その特徴を検討する。
第8回	博物館と地域の歴史文化	博物館における地域の歴史文化にかかわる実践事例を分析し、その特徴を検討する。
第9回	文化施設と地域産業	文化施設について概説したうえで、地域産業にかかわる実践事例を分析し、その特徴を捉える。
第10回	文化施設と地域の歴史文化	文化施設における地域の歴史文化にかかわる実践事例を分析し、その特徴を検討する。
第11回	NPOと地域産業	NPOについて概説したうえで、地域産業にかかわる実践事例を分析し、その特徴を検討する。
第12回	NPOと地域の歴史文化	NPOにおける地域の歴史文化にかかわる実践事例を分析し、その特徴を検討する。
第13回	地域づくりと生涯学習	地域の歴史文化・地域産業の現状と課題について確認をしたうえで多様な主体による学習機会とその特徴について概観し、改めて地域づくりと生涯学習について検討する。
第14回	全体の振り返り	前回までの授業についてリアクションペーパー等で示された論点を取り上げながらグループディスカッションを行い、授業全体への理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
特に使用しない。

【成績評価の方法と基準】

各回のリアクションペーパー	30%
グループディスカッションへの貢献具合	30%
期末レポート	40%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
本科目は、社会教育主事講習等規程第11条に規定された「社会教育特講」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目である。

【Outline (in English)】
This class is designed to help students understand the various community practices that develop local culture and industry. Students will be able to understand the concepts and historical background to evaluate the practices.
Students will gather practices for discussion and review class notes outside the classroom.
Classwork is a vital part of this class and regular attendance is necessary to pass the course.
Short reflection essays for each class (30%)
Active class participation (30%)
Final report (40%)

博物館概論

森屋　雅幸

単位：**2単位**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**キャリアデザイン学部生は、配当年次が異なるため（2年次から受講可）、キャリアデザイン学部の履修の手引きを参照してください。**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館（ミュージアム）の定義や理念、目的や機能に関する講義を通し、博物館の諸活動に従事するのに不可欠な基礎的知識を習得し、専門性の基礎となる能力を養うことを目的とする。

【到達目標】
博物館の理念や目的、博物館の成り立ちや多様性、法令や諸制度に関する知識を習得し、現代社会において博物館が果たす役割や意義を理解して、論理的に説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式の授業を実施する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックするなど、受講者との双方向の授業を意識して実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博物館とは何か	博物館の定義・理念について博物館法やICOMの憲章等から解説する。
第2回	博物館の誕生	西洋におけるミュージアムの誕生から日本における博物館の創設まで概観し、講義する。
第3回	博物館発達の歴史	明治時代から戦後、高度経済成長を経て現代に至るまでの日本における博物館の歴史を概観し、講義する。
第4回	博物館学史	博物館学の学史について主要な研究を紹介し、博物館学の目的等についても講義する。
第5回	博物館の法制度	博物館法および関連する文化財保護法やその他制度を解説する。
第6回	博物館の種類	館種、設置者別などによる博物館の種類について紹介する。
第7回	博物館の機能Ⅰ	博物館の機能である収集・保管・展示の方法と現場での実践を紹介し、その意義を講義する。
第8回	博物館の機能Ⅱ	博物館の機能である調査研究・教育普及の方法と現場での実践を紹介し、その意義を講義する。
第9回	学芸員の役割	学芸員の博物館における役割と現代に求められる姿を解説する。
第10回	博物館と文化財保護	文化財保護において博物館が果たす役割について講義する。
第11回	博物館と地域社会Ⅰ	博物館と地域のコミュニティ、まちづくりの関わりを示す博物館論と博物館を拠点としたコミュニティによるまちづくりの事例を紹介する。
第12回	博物館と地域社会Ⅱ	「エコミュージアム」の理論とフランスにおける歴史、日本国内における実践事例を紹介する。
第13回	現代の博物館の現状・課題と展望	現代の博物館の現状と課題を確認するとともに、今後の博物館がどのようにあるべきか展望を講義する。
第14回	試験・まとめと解説	本授業のまとめ・解説をするとともに、到達目標を達成できたか確認する筆記試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の準備学習・復習の内容は、初回の授業で指示します。初回の授業の準備学習は、過去に自分が見学して印象に残っている博物館や現在興味のある博物館の概要をまとめておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
自分が興味・関心のある博物館を日頃から見学すること。東京国立博物館、国立科学博物館、国立美術館（国立西洋美術館、国立近代美術館等）はキャンパスメンバーとして常設展を無料で見学ができるので活用すること。

【テキスト（教科書）】
毎回、講義資料を配布します。

【参考書】
鷹野光行他編『新編博物館概論』（同成社、2011年）
金山喜昭『博物館と地方再生－市民・自治体・企業・地域との連携－』（同成社、2017年）
岩城卓二・高木博志編『博物館と文化財の危機』（人文書院、2020年）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー・授業への貢献（40％）、授業内課題（20％）、期末試験（40％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
Through lectures on the definition, philosophy, purpose, and functions of museums, this course aims to provide students with the basic knowledge that is indispensable for engaging in various museum activities and to develop skills that will serve as the foundation of their expertise.

博物館経営論

森屋　雅幸

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：キャリアデザイン学部生は、配当年次が異なるため（2年次から受講可）、キャリアデザイン学部の履修の手引きを参照してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館の適切な管理・運営について理解し、博物館経営（ミュージアム・マネジメント）に関する基礎的能力と応用力を養うことを目的とする。

【到達目標】
博物館の経営基盤、使命・計画・評価、博物館倫理（行動規範）、市民参画・他館連携、地域社会との関わりなど博物館経営に関する理解を深め、現代に求められる博物館の適切な管理・運営について考察できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式の授業を実施する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックするなど、受講者との双方向の授業を意識して実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博物館経営とはなにか	授業ガイダンスに加え、博物館を経営の視点から考える必要性と「ミュージアム・マネジメント」の概念について講義する。
第2回	博物館の社会的使命とその役割	博物館の社会的使命とは何か説明し、使命書の作成や行動計画の立案について講義する。
第3回	博物館の経営基盤Ⅰ	博物館に関する法令から、博物館経営の歴史や経営を支える行財政制度について、講義する。
第4回	博物館の経営基盤Ⅱ	博物館の財政状況や施設・設備・組織・人材の実態を講義する。
第5回	博物館経営の現状Ⅰ	公立博物館における近年の経営動向について解説する。
第6回	博物館経営の現状Ⅱ	私立博物館における近年の経営動向について解説する。
第7回	博物館経営の現状Ⅲ	独立行政法人、指定管理者制度、PFIについて説明する。
第8回	博物館における連携Ⅰ	ボランティアなどの博物館における市民参画ついて講義する。
第9回	博物館における連携Ⅱ	企業・他館との連携やネットワークについて講義する。
第10回	博物館の企画運営Ⅰ	ユニバーシティ・ミュージアムの歴史と経営について講義する。
第11回	博物館の企画運営Ⅱ	地域社会と連携・協働する博物館経営について講義する。
第12回	博物館における危機管理	博物館の災害対策について日常的な防災と地震・水害への対策を事例に講義する。
第13回	博物館経営の課題と展望	近年の改正博物館法・博物館法において博物館経営に求められる博物館の姿と、課題について講義する。
第14回	試験・まとめと解説	本授業のまとめ・解説をするとともに、到達目標を達成できたか確認する筆記試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業で取り上げた事例について、自主的に文献や現地調査をするなど準備学習・復習に努めるとともに、最新の関連した報道も日常的に調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回、講義資料を配布する。

【参考書】
金山喜昭編『転換期の博物館経営』（同成社、2020年）
佐々木亨・今村信隆『博物館経営論〔改訂新版〕』（放送大学教育振興会、2023年）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー・授業への貢献（40％）、授業内課題（20％）、期末試験（40％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to understand the proper management and operation of museums and to develop basic and applied skills in museum management.

博物館経営論

杉長　敬治

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：**キャリアデザイン学部生は、配当年次が異なるため（2年次から受講可）、キャリアデザイン学部の履修の手引きを参照してください。**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、博物館の経営上の課題を解決していくためのスキルを習得することを目的に、博物館経営についての基本知識と博物館経営の現状と課題について学習します。

【到達目標】
博物館の根拠法である博物館法が制定された1951年から60年代、博物館が急増した1970年代から80年代.バブル経済の崩壊以降の経済的低迷の時代、そしてグローバル化と情報化・デジタル化が急激に進み、社会構造が大きく変化した現在とでは、博物館の経営環境は大きく変化しています。経営環境の変化に伴い、博物館に求められている役割や期待は、大きく変わってきました。受講生は、博物館の経営環境の変化と博物館に期待されている社会的役割について理解を深め、環境の変化に対応し、社会の期待に応える博物館となるために必要な博物館経営（ミュージアム・マネジメント）の考え方を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業では、博物館経営に関する基本知識を講義します。講義内容を踏まえて、受講生には、①授業内容に関連した課題への回答と②各自が選択した博物館について、実地調査その他のリサーチに基づいて経営分析（当該博物館の課題を解決するための取組）をしてもらいます。授業時のリアクションペーパーでのコメントは、講義を活性化するためのツールとして活用しますので、受講者は積極的にコメントしてください。最終授業では、受講生の学習成果を相互に確認するために、博物館の現状認識を交換する場を設ける予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス－博物館経営の基本概念と博物館の業種特性、博物館の経営資源を中心に	博物館の経営（マネジメント）の重要性が強調されるようになった背景、博物館経営の基本概念、博物館の業種特性、博物館の経営資源について学習する。
2	博物館の目的・使命（ミッション）・事業計画、評価・改善の取組	博物館の目的・使命がどのように設定されているかについて学習する。また、目的・使命を達成する上で、事業の計画・実施・評価・改善からなるPDCAサイクルを機能させることの重要性について理解を深める。
3	経営資源から見た日本の博物館の現状	博物館の経営資源（ヒト・モノ・カネ・経営力）に着目して、我が国の博物館の現状（経営資源が乏しい館が多いこととその背景、資金調達を巡る問題）について学習する。
4	博物館の課題と国の博物館政策の動向	日本の博物館の抱える課題と国の博物館政策の概要や歴史について学習する。
5	国立博物館の経営－現状と課題	独立行政法人制度の下で運営されている国立博物館を中心に、国立博物館の現状と課題について学習する。外国の代表的な博物館と日本の国立博物館の経営状況を比較し、日本の国立博物館の特徴について理解を深める。
6	公立博物館の経営－現状と課題	指定管理者制度や地方独立行政法人制度によって運営している館と直営館の違いに着目しながら、公立博物館の現状と課題について学習する。
7	私立博物館の経営－現状と課題	私立博物館の成立事情に触れながら、私立博物館の特徴と課題、国の支援策について学習する。
8	博物館経営とマーケティング	マーケティングは、博物館の経営戦略を構築する上で基本的なツールである。マーケティングの視点から博物館経営の在り方を考える。
9	博物館のプロモーション・会員制度・ブランド戦略	博物館のマーケティング活動のうち、プロモーション活動、会員制度、ブランド戦略を中心に学習する。
10	博物館の支援組織と他の組織との連携・協力－現状と課題	博物館運営を支援する組織（友の会・後援会）とボランティアについて学習する。経営資源を豊かにするために必要な他の組織との連携・協力の現状と課題について学習する。
11	博物館の利用者サービス施設と施設設備の諸問題	ミュージアムショップ、レストランその他の利用者サービス施設と博物館の施設設備に係わる諸問題（施設設備の老朽化やバリアフリーへの対応）について学習する。
12	博物館経営におけるイノベーション	博物館経営には、イノベーションが求められている。博物館のイノベーションの事例を取り上げ、イノベーションが可能となる条件を探る。
13	博物館の倫理規程・行動規範	博物館活動において倫理上問題になった事例を取り上げ、博物館の倫理規程・行動規範の意義・内容について学習する。
14	博物館における危機管理・授業のまとめ	博物館が直面する様々な危機と危機への対応の在り方（危機管理）について学習する。最後に、授業のまとめとして、講義と課題を通して受講生が考えたことを共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。受講生は、学習支援システムに掲載した資料や参考書に目を通して講義を受講してください。受講生は、授業期間中博物館をできるだけ視察し、博物館を見る眼を鍛えてください。

【テキスト（教科書）】
授業で恒常的に使用する教科書はありません。レポートを作成する際に参照してほしい文献を、参考書の欄に記載してあります。この他にも適宜授業で文献を紹介します。

【参考書】
①改正博物館法で博物館はどうなる、金山喜昭編、同成社、②転換期の博物館経営、金山喜昭、同成社、③ミュージアム・マーケティング、F・コトラー、N・コトラー、第一法規、④マネジメント、P．F．ドラッカー、ダイヤモンド社他、⑤ミュージアムが都市を再生する、上山信一、稲葉郁子、日本経済新聞社、⑥博物館学・美術館学・文化遺産学基礎概念事典、フランソワ・メレス他、東京堂出版、⑦ザ・ミュージアム；世界の知と美の殿堂、O・ホプキンズ、河出書房新社、⑧国（文科省）の博物館統計である社会教育調査（https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa02/shakai/）、⑨その他（授業内で適宜紹介します。）

【成績評価の方法と基準】
博物館経営についての理解の度合いを判定するため、レポートにより評価します。配点は、①授業期間中に提出する「課題レポート」（授業をより深く理解するために、受講生が課題を4つ選択して作成するもの）が40%、②最終（第14回）授業時に提出する「博物館経営分析レポート」が50%、③平常点（10％）です。②のレポートは、受講生が博物館が公開している経営情報と実地調査等により博物館をリサーチし、その成果を基に経営分析（経営状況の把握、経営上の課題の抽出、課題の解決策の提案）を行うものです。

【学生の意見等からの気づき】
講義内容に関する質問には、回答を共有するために原則学習支援システムを使用して回答します。受講生が、授業環境に問題があると感じた場合には、その都度指摘してください。

【学生が準備すべき機器他】
授業に関する諸連絡・教材配付は、原則学習支援システムで行います。各回の授業の前後に必ず学習支援システムにアクセスしてください。

【その他の重要事項】
この科目は、学芸員資格を取得する上で必要な科目のひとつです。学芸員資格の取得は目指さないが、博物館の経営に関心のある受講者も念頭に置いて、授業を進行します。①質問や意見は、授業への参画のための重要なツールで、授業を興味深いものにする上で重要な役割を果たします。②博物館を理解する上では“歩く・見る・聞く”そして“考える”がセットになった行動が必要不可欠です。皆さんの博物館体験を深化させてください。また、博物館の経営状況を示す事業報告書、財務諸表や評価資料を公開する館が増えており、博物館の経営を考える上では、これらのデータを丹念に読み取ることが必要です。授業ではこれらのデータの読み方も学習します。講義は、博物館での勤務や生涯学習・文化行政での実務経験を踏まえて、博物館の現状と国の博物館政策・文化政策の状況を伝えていきます。

【Outline (in English)】
（Course outline）Students will learn basic knowledge about museum management and the current state and issues of museum management in Japan, and aim to acquire skills to solve the management issues of museums.The goal of this subject is to acquire the basic management knowledge that museums need to meet the expectations of society.
（Learning Objectives）The aim of this course is to acquire the basic knowledge necessary for museum management.
（Learning activities outside of classroom）Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policies）Grading will be decided based on term-end report (50%)、short reports(50%).

博物館資料論

森屋　雅幸

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館資料の収集、整理・保管などに関する理論や方法に関する知識・技術を習得し、博物館の調査研究活動について理解することを通じて、博物館資料に関する基礎的能力を養うことを目的とする。

【到達目標】
博物館資料の多様性や多面性について理解し、学芸員になるための基礎的な知識を習得するとともに、博物館資料を収集、研究し、活用するための方策について考察することができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式の授業を実施する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックするなど、受講者との双方向の授業を意識して実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博物館資料の概念	ガイダンスと博物館資料という考え方が形成されてきた背景を講義する。
第2回	博物館資料と博物館活動	博物館資料の条件、資料化の過程、資料の価値、コレクション形成の意義などについて講義する。
第3回	博物館資料の多様性Ⅰ	博物館法等に示される博物館資料について講義する。
第4回	博物館資料の多様性Ⅱ	文化財保護法と博物館資料の関わりについて、歴史的な観点も含めて講義する。
第5回	博物館資料の収集	博物館資料の収集について、その方針や手法について講義する。
第6回	博物館資料の保管	博物館資料の保管について、資料を収蔵までのプロセスなどを講義する。
第7回	博物館資料の展示	博物館資料の展示について、展示環境や資料借用なども含めて解説する。
第8回	博物館資料の調査研究Ⅰ	博物館資料の調査研究とその還元の実際について講義する。
第9回	博物館資料の調査研究Ⅱ	博物館資料の調査研究をとくに市民参加の観点から講義する。
第10回	博物館資料の公開と近年の動向	博物館資料のデジタル・アーカイブ化とその公開・発信について説明する。
第11回	博物館資料のもつ現代的意義	博物館資料の他分野での活用について、事例を示して解説する。
第12回	博物館資料の活用	改正博物館法・博物館法を受けて、博物館資料の活用に求められるものと課題について講義する。
第13回	博物館資料のの保存・活用をめぐる近年の動向	博物館資料の保存・活用をめぐる近年の動向と課題について講義する。
第14回	試験・まとめと解説	本授業のまとめ・解説をするとともに、到達目標を達成できたか確認する筆記試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業で取り上げた事例について、自主的に文献や現地調査をするなど準備学習・復習に努めるとともに、最新の関連した報道も日常的に調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回、講義資料を配布する。

【参考書】
青木豊編『人文系博物館資料論』（雄山閣、2012年）
加藤有次他編『博物館資料論〔新版博物館学講座5〕』（雄山閣、1999年）
金山喜昭編『博物館の収蔵庫問題と新たなコレクション管理』（雄山閣、2024年）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー・授業への貢献（40％）、授業内課題（20％）、期末試験（40％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to acquire knowledge and skills related to theories and methods of collecting, organizing, and storing museum materials, and to develop basic skills related to museum materials through understanding of research and study activities of museums.
Students are expected to make efforts to prepare for and review the cases discussed in each class by independently conducting literature and field research, as well as to research the latest related news reports on a daily basis. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading methods and criteria are as follows Reaction paper and contribution to class (40%), in-class assignments (20%), and final exam (40%)

博物館教育論

渡邊　祐子

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、ミュージアムにおける教育活動の理念、活動の基礎となる学習理論、国内外のミュージアムの具体的な事例に関する講義を通して、ミュージアムの教育的な役割と意義について理解を深めます。

【到達目標】
実際のミュージアムの利用体験と照らし合わせながら講義の内容について理解を深め、ミュージアムの教育活動や日常場面で活かされる論理的思考力、コミュニケーション能力、チームワーク、創造力といった基礎的能力を養います。また、博物館教育の理論と実践を関連づけることで、具体的な教育プログラムをデザインするスキルを身につけ、教育的な働きかけができるようになることを期待します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この授業は講義と演習を中心に構成されます。具体的には、座学のほか、現地リサーチ、グループ企画、授業内発表、ワークショップの開催といった実践的な活動を通じて、博物館における教育の役割を深く理解することを目指します。このような授業での活動は、授業で学んだ知識と具体的な教育現場でのイメージを結びつけて、把握するのに役立てられます。
授業で提出した課題に対しては、個別のフィードバックを提供するだけでなく、授業内で全体に向けたフィードバックも行います。それにより、学生一人ひとりの理解度を高めるとともに、クラス全体の学習効果を向上させることをねらいます。
※授業形態（対面 or オンライン）を予定から変更する場合、各回の授業開始前に学習支援システムを通じてアナウンスしますので、必ず確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の目的、進め方、計画、評価などの概要について説明します。
第2回	博物館教育とは何か	ミュージアムとは何か、“博物館教育”（museum education）とは何かについて学びます。また、なぜミュージアムにおいて教育が重視されるようになったのか、歴史をたどりながら理解していきます。
第3回	博物館教育の学習理論	ミュージアムでの学びにみられる特徴について、学校教育などとの比較をふまえて理解していきます。
第4回	教育資源としての展示	ミュージアムでの実物教授の学び（object-based learning）について理解し、教育的な活用事例を見ていきます。
第5回	展示見学	ミュージアムの展示を見学し、調べ学習をします。
第6回	ミュージアムと来館者をつなぐ①	ミュージアムの資料や展示を生かしたプログラムの実践実例を知り、プログラムの企画・立案のプロセスについて学びます。
第7回	ミュージアムと来館者をつなぐ②	ミュージアムが教育活動のために作成している教材やウェブなどの媒体、アーカイブの事例を知り、制作のプロセスを学びます。
第8回	ミュージアムと来館者をつなぐ③	ミュージアムで活躍する市民（アート・コミュニケータ）の役割と活動について学びます。
第9回	ワークショップ体験	ミュージアムで実践されているワークショップと同じ内容の活動を授業内で体験します。
第10回	プログラム・メイキング①	教育プログラムを立案するためのプロセスを理解したところで、グループごとに与えられたテーマに沿った企画を考えます。
第11回	プログラム・メイキング②	グループごとに与えられたテーマに沿った企画内容を考え、企画案を作成します。
第12回	グループ発表①	グループごとに作成した企画案を発表します。（前半）
第13回	グループ発表②	グループごとに作成した企画案を発表します。（後半）
第14回	まとめと試験	ミュージアム教育の意義や課題について、授業を通して得られた知見を整理・確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業では、ミュージアムの見学や、その体験をもとにしたプログラム案の企画・発表を予定しています。そのため、授業内容と合わせて各館のホームページを閲覧して多様な教育プログラムについての知識を深めたり、授業内で紹介する博物館教育に関する報告書、文献等を読んだりするための、準備学習及び課題が適宜課されます。授業外の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、資料を配布します。

【参考書】
J.H. フォーク・L.D. ディアーキング『博物館体験』（雄山閣出版）
G.E. ハイン『博物館で学ぶ』（同成社）
稲庭彩和子、伊藤達矢、河野佑美、鈴木智香子、渡邊祐子『こどもと大人のためのミュージアム思考』（左右社）ほか

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的参加、グループ発表、企画課題、レポート課題を含む）50％と期末試験50％の合計で評価します。
※4回以上の欠席がある場合、単位取得に必要な基礎的内容を十分に学修できていないと判断し、成績評価を不可（不合格）とします。

【学生の意見等からの気づき】
基礎的な理解を深めるための講義の他、調べ学習、グループワーク、プレゼンテーション等、参加型授業の側面も重要視していきたいと思います。

【その他の重要事項】
東京都美術館で子どものための博物館教育を行ってきました。美術館での実務経験をもとに、国内外の先進的な事例を具体的に取り上げ、多様性を尊重した「博物館の教育」づくりの基本や方法を伝えます。
また、何かしら配慮が必要とする学生は、大学を介して教員まで連絡してください。
参考：東京都 東京都多文化共生ポータルサイト「やさしい日本語」活用事例 2021年3月
https://www.seikatubunka.metro.tokyo.lg.jp/chiiki_tabunka/tabunka/tabunkasuishin/files/0000001620/13_museum-start.pdf

【Outline (in English)】
This course surveys the principles and practices of museum education. It explores the kinds of learning that occur in museums and how educational programming can engage diverse audiences.
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination 50%, in class contribution 50%.

博物館教育論

荒川　裕子

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会教育施設として位置づけられている博物館＝ミュージアム（歴史博物館、美術館、文学館、自然科学系博物館、等々が含まれる）では、資料の収集、研究、展示等と並んで、教育普及の活動が重要な役割を果たしています。この授業では、ミュージアムにおける教育の意義や効果について、理論的基盤と実践事例の双方の観点から考え、これからのミュージアム教育のあるべき姿を探ります。

【到達目標】
DEIなども勘案しつつ、さまざまなバックグラウンドをもつ人びとを対象に展開されているミュージアム教育の現状とその意義を理解することができるとともに、今後さらにミュージアムでの学びを深化させていくにはどうすればよいかを具体的に考えたり企画できる力を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
各回ごとにトピックを設定し、ビジュアル資料や文献資料を用いて具体的な事例を紹介しながら、ミュージアム教育についての理解を深めていきます。また、各自が実際にミュージアムで実施されている教育活動に参加し、そこから得られた知見をプレゼンテーション等を通じて共有します。基本的に毎回リアクションペーパーを書いてもらい、次の授業の際にフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ミュージアム教育とは何か	授業のガイダンスとして、この領域で扱うトピックスについて概説する。
第2回	ミュージアムでの体験と学び	学校での学びとミュージアムにおける学びの違いについて考え、ミュージアム教育の特質を理解する。
第3回	生涯学習とミュージアム①	なぜミュージアム教育の必要性が重視されるようになったのか、生涯学習社会の観点から考える。
第4回	生涯学習とミュージアム②	現在、国内外で展開されているミュージアム教育の法的・理論的枠組みを理解する。
第5回	学校と連携したミュージアム教育	小学校や中学校と連携して展開される教育プログラムについて検討する。
第6回	地域と連携したミュージアム教育	地域のニーズや特性を生かしたミュージアム教育について検討する。
第7回	ミュージアム教育の手法①	ミュージアムの持つ資料や展示を生かした講座、講演会、ギャラリートーク等について学ぶ。
第8回	ミュージアム教育の手法②	ミュージアムが教育目的で作成、配布、頒布等を行っている印刷資料やウェブを通した情報公開について学ぶ。
第9回	ミュージアム教育の手法③	ミュージアムにおけるワークショップや体験学習について、具体例を手がかりに学ぶ。
第10回	教育プログラムの立案に向けて	教育プログラムを実際に立案するためのプロセスや留意事項を理解する。
第11回	教育プログラムの作成と発表①	グループごとに教育プログラムを立案し、受講生全体で検討する（グループ1）。
第12回	教育プログラムの作成と発表②	グループごとに教育プログラムを立案し、受講生全体で検討する（グループ2）。
第13回	教育プログラムの作成と発表③	グループごとに教育プログラムを立案し、受講生全体で検討する（グループ3）。
第14回	振り返りとまとめ	ミュージアム教育の意義や課題について、授業を通して得られた知見を整理・確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学期の途中でミュージアムにおけるフィールド調査を実施し、その成果をもとにレポートを書いたり、プレゼンテーションをしてもらう予定です（その際、若干の入場料等が発生する可能性があります）。また、授業に関連した事例を調べるなどの課題が適宜出されます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しないが、ほぼ毎回、資料を配布します。

【参考書】
黒沢浩（編・著）『博物館教育論』講談社、
ほか、授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（課題の成果、ディスカッションへの積極的な参加など）：55％
期末レポート：45％

【学生の意見等からの気づき】
教室内での学びに終始せず、博物館でのフィールド調査とそのフィードバックを充実させていきたいと考えています。

【Outline (in English)】
In the museums, including historical museum, fine art museum, museum of literature, museum of natural science and so on, which are positioned as social adult educational facilities, educational activities for the visitors are very important alongside collecting materials, doing research and planning exhibition. In this class, we will consider the significance and effects of so-called ‘museum education’ from the viewpoint of both theory and practice, and explore the future form of it.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end report: 45％, in class contribution: 55％

生涯学習概論Ⅰ

久井　英輔

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：2024年度以前キャリアデザイン学部入学生はC7052を受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
(授業の概要)
生涯学習、社会教育に関する事項についての基本的な内容を解説する。
(授業の目的・意義)
授業内容をとおして、学校教育に留まらない学びが社会の至る所で展開していることを深く理解し、教育や学習をとらえる視野を広げる。

【到達目標】
生涯学習の理念、社会教育に関する様々な概念、制度、実際に行われている事業・実践、社会教育の歴史、社会教育に類する海外の教育活動（多様なノンフォーマル教育）の展開などについての基本的な理解を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
各回とも、テーマに関する講義を行った上で、そのテーマにおける重要な論点について各自のコメントシートの提出を求める。コメントシートで提示された重要な視点や質問については、次回授業にて教員からリプライする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「生涯学習」「社会教育」とは何か？	社会教育の概念とそこに含まれる多様な教育活動について、および、包括的な概念・理念としての生涯学習について解説する。
第2回	行政は社会教育にどう関わっているか？	市町村レベルの社会教育行政で実際に行われている事業の事例を挙げながら、社会教育行政の特徴について解説する。
第3回	社会教育の学習テーマはどうあるべきか？	社会教育行政の事業を展開する上で重要な概念である「必要課題」「要求課題」とその具体例について解説する。
第4回	学校以外にどのような場で学べるか？	公民館、図書館、博物館など、社会教育行政が運用する多様な施設（社会教育施設）の基本的役割と実態について解説する。
第5回	社会教育に関わる人はどのように働いているのか？	ゲストスピーカー（現役の社会教育施設の職員）から、地域住民の学びを支援する仕事の実際について情報提供していただき、学生と質疑応答を行う。
第6回	社会教育はどのように制度化されているか？	社会教育に関連する法律、特に社会教育法の概要説明を中心に、社会教育行政に求められている役割、あるいは社会教育行政が行ってはならない制約について解説する。
第7回	民間企業・団体は社会教育にどう関わっているか？	内容　カルチャーセンター、塾、スクールビジネスなど、民間企業・団体の社会教育事業の現状について解説する。
第8回	なぜ人々は趣味を学ぶのか？	ゲストスピーカー（シリアスホビーの研究者）に、趣味の学びを現代人がどのように意味づけているのかについて情報提供いただき、学生と質疑応答を行う。
第9回	社会教育という概念はどのように成立したか？	日本における近代以降（第二次世界大戦まで）の社会教育の歴史的展開について、社会教育行政の事業を中心に解説する。
第10回	社会教育は戦後どのように変化してきたか？	日本における第二次世界大戦以降の社会教育の歴史的展開について、社会教育行政の事業を中心に解説する。
第11回	社会教育は国によってどのように違うのか？	社会教育を国際比較的に検討する際に必要な視点、及び、日本において頻繁に参照される海外の社会教育的な取り組みについて解説する。
第12回	社会教育、生涯学習を支える理念はどのように展開してきたか？	社会教育、生涯学習の推進のために国際的に展開されてきた様々な理念について紹介・解説する。
第13回	「大人の学力」はどのように測るのか？	第２回国際成人力調査（PIAAC）を題材として、「大人の学力」がどのような背景で注目され、また実際にどのように測られているのかを解説する。
第14回	授業の振り返り	前回までの議論について、各受講者から自由に提示された論点を基に検討し、授業内容全体についての理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・準備学習は特に必要ない。
・各回の授業後、授業内で提示した参考文献の関連箇所を読むこと。
・期末レポートの執筆において、各回の授業内容を十分に復習すること。
・本授業の復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
香川正弘他編『よくわかる生涯学習（改訂版）』ミネルヴァ書房、2016年
松岡広路、松橋義樹、鈴木眞理編『社会教育の基礎』学文社、2015年

【成績評価の方法と基準】
毎回のコメントシート　60％
期末レポート　40％

【学生の意見等からの気づき】
昨年度の授業（昨年度の名称は「生涯学習入門Ⅰ」）において、「遅刻、早退の扱いをある程度厳密にしてほしい」との学生の要望があったため、今年度は出欠の扱いに関する授業内の「約束事」を明確に定め、それに沿って運用したい。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC

【その他の重要事項】
本科目は、社会教育主事講習等規程第11条に規定された「生涯学習概論」に該当します。社会教育主事任用資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目です。また、図書館司書資格、博物館学芸員資格取得のための必修科目でもあります。

【Outline (in English)】
(Outline)
This course provides students with basic knowledge on lifelong learning and social education. This course aims to deepen students' understanding on various types of learning activities outside of schools, and to widen students' perspective on education and learning.
(Learning Objectives)

The goal of this course is to help students to understand basic knowledge on lifelong learning and social education in order to involve in and make useful suggestions to learning activities in social education.
(Learning Activities Outside of Classroom)
Students will be expected to read document of lecture again after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
(Grading Criteria /Policy)
Final grade will be calculated according to the following process: Comment for every class (60%), final report (40%).

生涯学習概論Ⅰ

久井　英輔

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：2024年度以前キャリアデザイン学部入学生はC7053を受講してください。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
(授業の概要)
生涯学習、社会教育に関する事項についての基本的な内容を解説する。
(授業の目的・意義)
授業内容をとおして、学校教育に留まらない学びが社会の至る所で展開していることを深く理解し、教育や学習をとらえる視野を広げる。

【到達目標】
生涯学習の理念、社会教育に関する様々な概念、制度、実際に行われている事業・実践、社会教育の歴史、社会教育に類する海外の教育活動（多様なノンフォーマル教育）の展開などについての基本的な理解を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
各回とも、テーマに関する講義を行った上で、そのテーマにおける重要な論点について各自のコメントシートの提出を求める。コメントシートで提示された重要な視点や質問については、次回授業にて教員からリプライする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「生涯学習」「社会教育」とは何か？	社会教育の概念とそこに含まれる多様な教育活動について、および、包括的な概念・理念としての生涯学習について解説する。
第2回	行政は社会教育にどう関わっているか？	市町村レベルの社会教育行政で実際に行われている事業の事例を挙げながら、社会教育行政の特徴について解説する。
第3回	社会教育の学習テーマはどうあるべきか？	社会教育行政の事業を展開する上で重要な概念である「必要課題」「要求課題」とその具体例について解説する。
第4回	学校以外にどのような場で学べるか？	公民館、図書館、博物館など、社会教育行政が運用する多様な施設（社会教育施設）の基本的役割と実態について解説する。
第5回	社会教育に関わる人はどのように働いているのか？	ゲストスピーカー（現役の社会教育施設の職員）から、地域住民の学びを支援する仕事の実際について情報提供していただき、学生と質疑応答を行う。
第6回	社会教育はどのように制度化されているか？	社会教育に関連する法律、特に社会教育法の概要説明を中心に、社会教育行政に求められている役割、あるいは社会教育行政が行ってはならない制約について解説する。
第7回	民間企業・団体は社会教育にどう関わっているか？	内容　カルチャーセンター、塾、スクールビジネスなど、民間企業・団体の社会教育事業の現状について解説する。
第8回	「学び」によって地域はどう変わるか？	地域社会において様々な社会教育の場を提供している民間団体の関係者に情報提供いただき、学生と質疑応答を行う。
第9回	社会教育という概念はどのように成立したか？	日本における近代以降（第二次世界大戦まで）の社会教育の歴史的展開について、社会教育行政の事業を中心に解説する。
第10回	社会教育は戦後どのように変化してきたか？	日本における第二次世界大戦以降の社会教育の歴史的展開について、社会教育行政の事業を中心に解説する。
第11回	社会教育は国によってどのように違うのか？	社会教育を国際比較的に検討する際に必要な視点、及び、日本において頻繁に参照される海外の社会教育的な取り組みについて解説する。
第12回	社会教育、生涯学習を支える理念はどのように展開してきたか？	社会教育、生涯学習の推進のために国際的に展開されてきた様々な理念について紹介・解説する。
第13回	「大人の学力」はどのように測るのか？	第２回国際成人力調査（PIAAC）を題材として、「大人の学力」がどのような背景で注目され、また実際にどのように測られているのかを解説する。
第14回	授業の振り返り	前回までの議論について、各受講者から自由に提示された論点を基に検討し、授業内容全体についての理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・準備学習は特に必要ない。
・各回の授業後、授業内で提示した参考文献の関連箇所を読むこと。
・期末レポートの執筆において、各回の授業内容を十分に復習すること。
・本授業の復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
香川正弘他編『よくわかる生涯学習（改訂版）』ミネルヴァ書房、2016年
松岡広路、松橋義樹、鈴木眞理編『社会教育の基礎』学文社、2015年

【成績評価の方法と基準】
毎回のコメントシート　60％
期末レポート　40％

【学生の意見等からの気づき】
昨年度の授業（昨年度の名称は「生涯学習入門Ⅰ」）において、「遅刻、早退の扱いをある程度厳密にしてほしい」との学生の要望があったため、今年度は出欠の扱いに関する授業内の「約束事」を明確に定め、それに沿って運用したい。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC

【その他の重要事項】
本科目は、社会教育主事講習等規程第11条に規定された「生涯学習概論」に該当します。社会教育主事任用資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目です。また、図書館司書資格、博物館学芸員資格取得のための必修科目でもあります。

【Outline (in English)】
(Outline)
This course provides students with basic knowledge on lifelong learning and social education. This course aims to deepen students' understanding on various types of learning activities outside of schools, and to widen students' perspective on education and learning.
(Learning Objectives)

The goal of this course is to help students to understand basic knowledge on lifelong learning and social education in order to involve in and make useful suggestions to learning activities in social education.
(Learning Activities Outside of Classroom)
Students will be expected to read document of lecture again after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
(Grading Criteria /Policy)
Final grade will be calculated according to the following process: Comment for every class (60%), final report (40%).

生涯学習概論Ⅱ

杉山　昂平

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では生涯学習、社会教育に関する事項についての基本的な内容を解説する。授業内容をとおして、さまざまな現場において、生涯学習、社会教育に関する何が論点となり、どんな事業・実践がなされているのかを深く理解する。それによって、教育や学習をとらえる視野を広げる。

【到達目標】
生涯学習、社会教育に関して様々な現場で行われている事業・実践について基本的な理解を獲得し、具体的な事例をもとに生涯学習、社会教育への関わり方を考えられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
各回とも、テーマに関する講義を行った上で、具体的な事業・実践に関して調べ、論じるワークに取り組む。ワークの成果や質問などは次回授業において紹介し、フィードバックや発展的な論点の紹介を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／ノンフォーマル教育とインフォーマル教育	授業の概要及び生涯学習、社会教育に関する事業・実践を分析的に理解するための基礎的な枠組みについて解説する。
第2回	子ども・若者の学び	体験活動やユースワークを中心に取り上げる。子ども・若者の生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第3回	社会人の学び	リスキリングや人的資本経営を中心に取り上げる。社会人の生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第4回	親・保護者の学び	家庭教育や子育て支援活動を中心に取り上げる。親・保護者の生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第5回	高齢者の学び	生涯スポーツや芸術文化活動を中心に取り上げる。高齢者の生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第6回	障害者の学び	知的障害者の学習支援を中心に取り上げる。障害者の生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第7回	学校と地域での学び	地域学校協働活動やコミュニティスクールを中心に取り上げる。学校と地域を舞台にした生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第8回	大学での学び	大学開放やMOOCsを中心に取り上げる。大学を舞台にした生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第9回	地域についての学び	住民自治や市民参加型プログラムを中心に取り上げる。地域についての生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第10回	デジタルテクノロジーについての学び	デジタルリテラシーに関わるプログラムを中心に取り上げる。テクノロジーについての生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第11回	多文化共生についての学び	日本語教室や文化交流プログラムを中心に取り上げる。多文化共生についての生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第12回	アクティビズムについての学び	消費者運動や政治運動を中心に取り上げる。アクティビズムについての生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第13回	持続可能な開発についての学び	ESDやSDGsを中心に取り上げる。持続可能な開発についての生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第14回	授業の振り返り	授業で扱ったさまざまな事業・実践を構造化して整理しなおしたうえで、授業内容と自らの生活の関連について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・準備学習は特に必要ない。
・各回の授業後、授業内で提示した参考資料の関連箇所を読んだり視聴したりすること。
・期末レポートの執筆において、各回の授業内容を十分に復習すること。
・本授業の復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
香川正弘他編『よくわかる生涯学習(改訂版)』ミネルヴァ書房、2016年
松岡広路、松橋義樹、鈴木眞理編『社会教育の基礎』学文社、2015年

【成績評価の方法と基準】
毎回のワーク　50%
期末レポート　50%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
課題提出をウェブで行いますのでインターネットに接続したパソコンもしくはスマートフォンを持参ください

【その他の重要事項】
本科目は、社会教育主事講習等規程第11条に規定された「生涯学習概論」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目である。また、図書館司書資格、博物館学芸員資格取得のための必修科目でもある。

【Outline (in English)】
This course provides an introduction to the fundamental aspects of lifelong learning and social education. Through the course content, students will gain a deeper understanding of the key issues in lifelong learning and social education and the kinds of programs and practices being implemented in various settings. This will help broaden their perspective on education and learning.

生涯学習概論Ⅱ

杉山　昂平

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では生涯学習、社会教育に関する事項についての基本的な内容を解説する。授業内容をとおして、さまざまな現場において、生涯学習、社会教育に関する何が論点となり、どんな事業・実践がなされているのかを深く理解する。それによって、教育や学習をとらえる視野を広げる。

【到達目標】
生涯学習、社会教育に関して様々な現場で行われている事業・実践について基本的な理解を獲得し、具体的な事例をもとに生涯学習、社会教育への関わり方を考えられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
各回とも、テーマに関する講義を行った上で、具体的な事業・実践に関して調べ、論じるワークに取り組む。ワークの成果や質問などは次回授業において紹介し、フィードバックや発展的な論点の紹介を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／ノンフォーマル教育とインフォーマル教育	授業の概要及び生涯学習、社会教育に関する事業・実践を分析的に理解するための基礎的な枠組みについて解説する。
第2回	子ども・若者の学び	体験活動やユースワークを中心に取り上げる。子ども・若者の生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第3回	社会人の学び	リスキリングや人的資本経営を中心に取り上げる。社会人の生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第4回	親・保護者の学び	家庭教育や子育て支援活動を中心に取り上げる。親・保護者の生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第5回	高齢者の学び	生涯スポーツや芸術文化活動を中心に取り上げる。高齢者の生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第6回	障害者の学び	知的障害者の学習支援を中心に取り上げる。障害者の生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第7回	学校と地域での学び	地域学校協働活動やコミュニティスクールを中心に取り上げる。学校と地域を舞台にした生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第8回	大学での学び	大学開放やMOOCsを中心に取り上げる。大学を舞台にした生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第9回	地域についての学び	住民自治や市民参加型プログラムを中心に取り上げる。地域についての生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第10回	デジタルテクノロジーについての学び	デジタルリテラシーに関わるプログラムを中心に取り上げる。テクノロジーについての生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第11回	多文化共生についての学び	日本語教室や文化交流プログラムを中心に取り上げる。多文化共生についての生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第12回	アクティビズムについての学び	消費者運動や政治運動を中心に取り上げる。アクティビズムについての生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第13回	持続可能な開発についての学び	ESDやSDGsを中心に取り上げる。持続可能な開発についての生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第14回	授業の振り返り	授業で扱ったさまざまな事業・実践を構造化して整理しなおしたうえで、授業内容と自らの生活の関連について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・準備学習は特に必要ない。
・各回の授業後、授業内で提示した参考資料の関連箇所を読んだり視聴したりすること。
・期末レポートの執筆において、各回の授業内容を十分に復習すること。
・本授業の復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
香川正弘他編『よくわかる生涯学習(改訂版)』ミネルヴァ書房、2016年
松岡広路、松橋義樹、鈴木眞理編『社会教育の基礎』学文社、2015年

【成績評価の方法と基準】
毎回のワーク　50%
期末レポート　50%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
課題提出をウェブで行いますのでインターネットに接続したパソコンもしくはスマートフォンを持参ください

【その他の重要事項】
本科目は、社会教育主事講習等規程第11条に規定された「生涯学習概論」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目である。また、図書館司書資格、博物館学芸員資格取得のための必修科目でもある。

【Outline (in English)】
This course provides an introduction to the fundamental aspects of lifelong learning and social education. Through the course content, students will gain a deeper understanding of the key issues in lifelong learning and social education and the kinds of programs and practices being implemented in various settings. This will help broaden their perspective on education and learning.

図書館情報学概論 I

原田　隆史

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：2024年度以前キャリアデザイン学部入学生はC7182を受講してください。配当年次が異なります。（2年次から受講可）
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1. 図書館情報学とは何かに関する理解
2. 情報の収集・整理・利用，およびその実践の場である図書館に関する基礎的な知識の習得
3. 情報メディアや情報検索に関わる基礎的な知識の習得

【到達目標】
1. 図書館・情報学についての基本的な知識を身につけ，情報の収集・整理・利用およびその実践の場である図書館や各種の情報提供機関に関して理解できる
2. 現代社会での情報の生産・流通・処理・提供・利用・制度に関して，基本的な考え方・知識・技法，社会に及ぼす影響などについても理解できるようになる
3. 上記のような考え方・知識・技法が，図書館や情報提供機関の仕事およびサービスにどのように生かされるのか，その際に留意すべきことは何かについても考えを深められる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
図書館・情報学とは何かについて，さまざまな新しいトピックを含めて解説していきます。まず，情報の収集・整理・利用およびその実践の場である図書館に関する内容を中心に説明し，続いて情報メディアや情報検索に関わる内容を中心に講義します。図書館は，単に図書を集め，保存し，提供するという役割だけではなく，様々なサービスを行っています。図書館の持つ大きな可能性について知っていただきたいと思います。また，ネットワーク時代の図書館サービスも含め，実際の情報収集活動にも役立つ様々な知識を学ぶことができるように工夫していきます。
授業に対するフィードバックとしては，授業後に受講者からのコメント・質問などを集め，次の授業時に提出されたリコメント・質問などからいくつかを取り上げて全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	図書館とは，図書館情報学とは何か	ガイダンスと授業の概要
2	図書館と情報メディアの歴史	図書館と情報メディアの意義・機能・歴史について述べます
3	現代の公共図書館・明治期以降の公共図書館の変化	現代の公共図書館はどのように成立したのか，またどのように変化し何が変わらないのか講義します
4	図書館の種類	図書館の種類と役割・特徴などについて講義します。
5	図書館の諸機能(1)	直接サービス，レファレンスサービスについて説明していきます
6	図書館の諸機能(2)	間接サービス，テクニカルサービスとは何かについて説明していきます
7	知的自由と図書館	図書館の自由に関する宣言や，図書館員の専門性についても説明します
8	図書館における児童サービス	公共図書館で行われる児童サービス，ヤングアダルトサービスについて解説します
9	図書館と出版流通	日本の出版状況などについて説明するとともに，図書館と出版流通の関係についても解説します
10	図書館をめぐる各種法制度：図書館法と著作権法を中心に	図書館法や著作権法をはじめとした図書館と関わりがある各種の法規について説明するとともに，図書館行政・図書館政策などについても解説します。
11	情報メディア(1)	図書や雑誌など各種情報メディアの特徴を説明するとともに，図書館での資料の保存についても解説します
12	情報メディア(2)：学術情報流通とオープンアクセス	学術情報流通について説明するとともに，引用，オープンアクセス，デジタルアーカイブなどについて説明します
13	情報の探索と入手・情報検索	情報検索の基本的な考え方について説明します。また情報検索の手法などについて例示を含めても述べます
14	図書館の将来展望と課題	図書館の評価について説明するとともに，図書館の課題や将来展望について説明します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館を実際に使用したり，情報検索演習などを行う可能性があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
逸村裕(ほか)編. 図書館情報学を学ぶ人のために. 世界思想社. 2017. ISBN : 978-4790716952

【参考書】
日本図書館情報学会「図書館情報学用語辞典」第3版(丸善)など (必須ではありませんが，専門用語などでわからない語が出てきた場合に参考にしてください)

【成績評価の方法と基準】
平常点　20%
授業に出ているだけの場合成績評価には算入しませんが，授業に積極的に参加した場合には加点することがあります。逆に教室にいても寝ていたり別の授業のことをしているなどの場合は大幅に減点します。また，毎回授業に関するコメントを記入していただく予定です。なお，もしリアルタイムオンライン授業(Zoomでの授業)を併用する場合には原則としてビデオをオンにしていただきます。
レポート　60%(または80%)
期末試験　20%(または 0%)
現時点では期末試験と4〜5回のレポートを課す予定ですが，授業の進展などにより期末試験を行わずに全てレポート(レポートの配点を80%)とする可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】
講義動画やシラバスなど自習教材の公開をできるだけ早期に行うことができるように努力いたします。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
対面での授業を原則としますが，必要に応じてリアルタイムオンライン授業(Zoomを使用)や動画を公開して視聴するオンデマンド授業を併用する可能性があります。どのように授業を行うかはHoppiiおよび下記の授業用ページで告知しますので必要に応じて確認するようにしてください。
http://www.slis.doshisha.ac.jp/ ushi/LIS/

授業についての最新の授業テーマ内容・授業用スライド・授業動画の公開などは，上記授業用ページで行います。このページを大学の授業支援システムHoppiiと併用しますので両方見る必要があることに注意してください。

【Outline (in English)】
[Course outline]
This course introduces "Basic knowledge on Library and Information Science" to students taking this course.
[Learning Objectives]
By the end of the course, students should be able to understand library activities, information media, information retrieval and so on.
[Learning activities outside of classroom]
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content
[Grading Criteria/Policy]
Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (40%), Term-end examination (40%), and in-class contribution.

図書館情報学概論Ⅰ

村上　郷子

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：2024年度以前キャリアデザイン学部入学生はC7181を受講してください。配当年次が異なります。（2年次から受講可）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館情報学の入門として、生涯学習の観点から、図書館活動の各領域についての基礎的なコンセプトを総合的に学ぶ。

【到達目標】
図書館情報学の基礎を学び、生涯学習施設の一つである図書館についての基本的な知識や概念を包括的に習得することができる。
図書館ツアーでは、市ヶ谷図書館の現場（事務室）で、図書館の運営方針、予算などを実際に職員に聞くことによって、図書館の実際について深く学ぶことができる。また、現場の見学から得られた知識や体験を基にした小レポートを書くことにより、授業を通じて得られた知識や体験をより確実にすることができる。
授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行うことにより、知識を定着することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業の初回のみオンラインで行う。Hoppiiで、ZoomのURLを確認すること。
授業ではテキストを中心に、図書館司書課程e-Learningシステム（HULiC）を活用しながら、図書館情報学に関する多様な知識や概念を総合的に理解することをめざす。必要に応じて、図書館の見学や映像資料の視聴、グループデスカッション、図書館見学の小レポートなども課す。
毎回授業の初めに、前回の授業の確認クイズを行う。確認クイズのフィードバックは確認クイズ回収後直ちに行い、知識の定着を図る。
メディア情報リテラシーのアンケート調査等も行う。アンケート調査やグループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業及び授業用グループウェア(HULiC)の利用ガイダンス、図書館とは何か
2	図書館の意義と役割①	図書館法、生涯学習社会の到来、教育観の変化、情報社会と図書館等
3	図書館の意義と役割②	図書館協力・ネットワーク、出版文化と図書館、著作権等
4	図書館の理念と図書館員の職務	図書館の自由、図書館員の倫理綱領（専門職とは何か、図書館員の対応）等
5	図書館法規と行政、施策	図書館の法的基盤、教育基本法と社会教育、地方自治法、国の図書館行政と施策等
6	地域社会と公共図書館（制度・機能）	地域の情報拠点としての図書館、市民参加、公共図書館の機能、制度、諸問題等
7	学校図書館及び大学図書館の制度と機能	学校図書館及び大学図書館に関する法律、機能、諸問題等
8	市ヶ谷図書館ツアー・ガイダンス（予定）	図書館ツアーの小レポートを課す。
9	国立国会図書館及び専門図書館の制度と機能	国立国会図書館及び専門図書館に関する法律、機能、諸問題等
10	日本の図書館の歴史	古代～現代
11	世界の図書館の歴史①	古代～中世
12	世界の図書館の歴史②	近世～現代
	外国の図書館	アメリカ、イギリス、北欧、中国等
13	図書館の類縁機関・関係団体	国際機関、図書館協会、図書館関係団体等
	図書館の課題と展望	図書館の挑戦と課題（ケース・スタディ）
14	総まとめ	筆記試験・まとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの該当頁を事前に必ず読んでおくこと。また、授業のレジメを事前に司書資格課程の授業ポータルサイトからダウンロードし、空欄を埋めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
塩見昇　編、『図書館概論』、日本図書館協会、最新版
(JLA図書館情報学テキストシリーズ 3-1)

【参考書】
高山正也、岸田和明　編集、『図書館概論』樹村房、2017 (現代図書館情報学シリーズ)ISBN-10: 4883672719 ISBN-13: 978-4883672714

【成績評価の方法と基準】
毎回の確認アンケートクイズ（30％）、図書館ガイダンスのレポート（20％）、筆記試験（50％）によって総合的に評価する。
全ての提出物は、授業用グループウェア(HULiC)上にアップロードすることを原則とする。毎回授業の初めに小クイズを行うため、遅刻・欠席が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。また、授業開始より20分経過して入室した者は遅刻とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進度が早いという指摘がいくつかあったので、話す内容を精査したい。

【その他の重要事項】
本授業では、50人収容の情報実習室で行われる。50人以上の場合は、最初の授業で、(1) 上級生 (2) 図書館資格課程の履修生の優先順位で受講生を確定する。2回目以降の受講は認めない。
最初の選抜で受講者の権利を得たが、本授業を履修しないと決めた者は、速やかに教員に連絡すること。

【Outline (in English)】
(Course outline) : As an introduction to Library Information Science, students will learn foundations and basic concepts of libraries from the viewpoint of lifelong learning.
(Learning Objectives): Students will learn the basic concepts of library and information science and gain comprehensive knowledge of basic knowledge and concepts about libraries.
(Learning activities outside of classroom) : Students should read the relevant pages of the textbook in advance. In addition, students should download the class learning materials in advance and fill in the blanks. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria /Policy) : Comprehensive evaluation will be made based on each confirmation questionnaire quiz (40%), library guidance report (20%), and written exam (40%).

図書館情報学概論Ⅱ

原田　隆史

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：2024年度以前キャリアデザイン学部入学生はC7184を受講してください。配当年次が異なります。（2年次から受講可）
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1. コンピュータやネットワークに関する基礎的な知識
2. 図書館業務に関する技術(図書館システム，Webページを用いた情報発信など)
3. データの管理を中心とした技術(データベース管理システム，デジタルアーカイブなど)
4. ネットワークセキュリティと図書館
5. 情報技術と社会

【到達目標】
1. 図書館をとりまく多様な情報環境について考えるための基礎となる知識を身につける
2. 各種の図書館業務に関わる技術手法について理解し，取り扱うことができる
3. 図書館活動を行う際に，どのような情報技術が利用可能であるのかを判断する能力を身につける
4. 図書館情報学を学ぶ際に必要な基本的な情報技術を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
図書館をとりまく多様な情報環境，各種の図書館業務に関わる技術手法について説明します。まず，コンピュータやネットワークの基礎知識について学んだ後，図書館システムやデータベース管理システム，WebAPIなどについて理解を深めていきます。講義のほか演習も行う場合があります。
　授業に対するフィードバックとしては，授業後に受講者からのコメント・質問などを集め，次の授業時に提出されたリコメント・質問などからいくつかを取り上げて全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	情報技術と図書館，コンピュータとは何か	コンピュータ発達の歴史について説明するとともに，授業の概要について説明します(ガイダンス)
2	文字のデジタル化と文字コード	コンピュータ中で文字がどのように取り扱われているか説明するとともに，標準化の重要性について解説します
3	アナログとデジタル	アナログ情報とデジタル情報とはどういうものなのか説明していくとともに，音声や画像などのアナログ形式の情報をデジタル形式に変換する手法ついて解説します
4	コンピュータの基礎知識，コンピュータのハードウェア	コンピュータの動作原理などについて解説するとともにコンピュータの各種部品について解説します
5	ソフトウェアとアルゴリズム	OSやアプリケーションソフトウェアなどについて説明します
6	ネットワークとインターネットの基礎知識	インターネットやLANなどの仕組みについて解説します
7	ネットワークサービスとWebページ，検索システム	検索エンジンの仕組みや歴史，無料で提供されている理由などを説明します
8	Webページ発信の仕組み，HTMLとは何か	Webページを構成するHTMLについて解説するとともに，実際にWebページを作成する演習も行います
9	図書館業務システムの仕組みと最近の動き	図書館業務システムやOPACの仕組みについて説明します。またディスカバリーサービスなどと呼ばれる仕組みなど最近の状況について解説します
10	データベース管理システムの仕組みと検索技術の実際	図書館システムの基礎となっているデータベース管理システムについて説明します
11	図書館システムを用いた外部との連携，WebAPI	図書館が他のWebサービスと連携する手法などについて学びます
12	図書館と電子資料，デジタルアーカイブとオープンデータ，ビッグデータ，生成AI	デジタルアーカイブの理論と実例，オープンデータの提供，ビックデータと生成AIなどについて説明します 最近話題の生成AIや，それを支えるビッグデータ，さらに図書館との関わりなどについて学びます
13	図書館の管理・運営とセキュリティ管理	ネットワークサービスにおける管理・運用について説明するとともに，セキュリティ対策などについても述べます
14	コンピュータシステムの開発と運用，図書館と社会(まとめに代えて)	図書館情報技術に関するまとめを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館をとりまくコンピュータやネットワークなどの情報技術に関するレポートをいくつか作成していただきます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
杉本重雄編著．図書館情報技術論 (現代図書館情報学シリーズ 3). 2014, 224p. ISBN: 978-4883672035

【参考書】
特定の参考書は指定しません。必要に応じて資料プリントをWeb上で公開して用いることもあります。

【成績評価の方法と基準】
平常点　20%
　授業に出ているだけの場合成績評価には算入しませんが，授業に積極的に参加した場合には加点することがあります。逆に教室にいても寝ていたり別の授業のことをしているなどの場合は大幅に減点します。また，毎回授業に関するコメントを記入していただく予定です。なお，リアルタイムオンライン授業(Zoomでの授業)の場合は原則としてビデオをオンにしていただきます。
レポート　60%(または 80%)
期末試験　20%(または 0%)
　現時点では期末試験と4〜5回のレポートを課す予定ですが，授業の進展状況などの影響により期末試験を行わない場合は，全てレポート(レポートの配点を80%)とする可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】
講義動画やシラバスなど自習教材の公開をできるだけ早期に行うことができるように努力いたします。

【その他の重要事項】
対面での授業を原則としますが，状況などによってリアルタイムオンライン授業(Zoomを使用)や動画を公開して視聴する授業を併用する可能性があります。どのように授業を行うかはHoppiiおよび下記の授業用ページで告知しますので必要に応じて確認するようにしてください。

http://www.slis.doshisha.ac.jp/ ushi/IT/
授業についての最新の授業テーマ内容・授業用スライド・授業動画の公開などは，上記授業用ページで行います。このページを大学の授業支援システムHoppiiと併用しますので両方見る必要があることに注意してください。

【Outline (in English)】
[Course outline]
1. Basic knowledge of computers, networks and information technology
2. Information technology in libraries.
3. Database management system, digital archive
4. Network Security
5. Information Technology and Society
[Learning Objectives]
At the end of the course, students are expected to understand the basic knowledge of computers,Information technology in libraries.
[Learning activities outside of classroom]
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
Term-end examination: 40%
Short reports : 40%
In class contribution: 20%

図書館情報学概論Ⅱ

竹之内　明子

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：2024年度以前キャリアデザイン学部入学生はC7183を受講してください。配当年次が異なります。（2年次から受講可）
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目では、貴重な情報資源を長期間保存し多くの人がインターネットを通じて利用できるようにしたデジタルアーカイブをはじめとして、図書館が機能的に情報提供サービスを行うための仕組みについて学習します。現在、インターネットを通じて様々な情報資源が活用できるようになっています。司書はその利用法を熟知していなくてはなりません。授業では、コンピュータを利用して、OPAC、データベース、デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源を実際に比較検討して理解を深めていきます。授業内では司書としての情報リテラシーの涵養、すなわち、自ら調べまとめる力の育成を重視して、PCを利用して調べたことをまとめる演習を行います。

【到達目標】
この授業では、終了時に学生が以下の能力を身につけていることを目標とします。
1) 図書館に関わる各種の情報技術とその背景にある思想を理解する
2) 図書館業務に関わる情報検索、情報発信、情報管理の技術を身につける
3) 情報技術のこれまでの歴史や思想をふまえて、今後の図書館や図書館員のあるべき姿について論じることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
ネットワーク情報資源の種類や成り立ちなどを概観した後、コンピュータを利用して、OPAC、データベース、デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源を実際に比較検討して理解を深めていきます。授業では司書としての情報リテラシーの涵養、すなわち、自ら調べまとめる力の育成を重視して、PCを利用して調べたことを小レポートにまとめる形式で進めます。Hoppiで毎週、教材と課題をアップロードするので、期日までに取り組んで提出してください。課題のフィードバックは、授業資料及び授業内でのコメントを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	国立国会図書館「レファレンス協同データベース」（レファ協）の解説と事例のまとめ
第2回	検索検定	情報科学技術協会（INFOSTA）検索技術者検定の過去問に見る情報技術の論点
第3回	国際子ども図書館デジタルアーカイブ(1)	絵本ギャラリーの解説と事例のまとめ
第4回	国際子ども図書館デジタルアーカイブ(2)	電子展示会ほか
第5回	国立国会図書館デジタルアーカイブ(1)	国立国会図書館デジタルコレクション
第6回	国立国会図書館デジタルアーカイブ(2)	歴史的音源、WARPほか
第7回	公共図書館のデジタルアーカイブ	都道府県立・市町村立図書館が提供する地域資料のデジタルアーカイブ
第8回	海外のデジタルアーカイブ	Europeanaほか
第9回	OPACの比較	大学図書館と公共図書館
第10回	情報検索の基礎知識	論理演算と検索の評価指標
第11回	オンラインデータベースの種類と概要	地域資料の組織化 絵本の組織化 学校図書館における組織化
第12回	情報ユニバーサルデザイン(1)	Webアクセシビリティ
第13回	情報ユニバーサルデザイン(2)	カラーユニバーサルデザイン
第14回	情報ユニバーサルデザイン(3)	マルチメディアDAISY図書

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Hoppiで、毎週、教材と課題をアップロードするので、期日までに取り組んで提出してください。
本授業のための予習・復習の時間は各回2時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
評価の方法：毎回のまとめ課題70％（1回5点×14回），学期末レポート30%
評価の基準：
1) デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源の特徴を説明できるか
2) 特別な配慮が必要な利用者を想定した情報技術について説明できるか
3) レポート作成に必要な情報機器の操作スキルが身についているか

【学生の意見等からの気づき】
調査とまとめの作業を通じて知識形成を図ります。

【学生が準備すべき機器他】
PC教室で実施します。オンライン授業の回はPCを使用できる環境で取り組んでください。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当します。
中央大学図書館，東京大学駒場図書館，東海大学付属図書館での勤務経験から，図書館において必要とされる情報技術の知見を教授します。
本科目は対面授業を基本としながら、オンライン授業も取り入れるハイブリッド形式で実施予定です。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, students will learn about the mechanisms for the functional provision of information services by libraries, such as digital archives, which preserve valuable information resources for a long period of time and make them available to many people through the Internet.
【Learning Objectives】
In this course, students are expected to use computers to actually compare and examine network information resources such as OPACs, databases, and digital archives to deepen their understanding.
At the end of the course,students expected to acquire the information literacy as a librarian.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to spend
at least two hours for each class meeting.Everyweek on the Hoppi,students are required to complete weekly assignments.
【Grading Criteria】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
1) Weekly short reports:70％
2) Term-end report:30%

Grades will be decided based on the contents of weekly assignments.
3)Evaluation criteria
・Ability to explain the characteristics of network information resources such as digital archives.
・Ability to explain information technology assuming users with special needs.
・Ability to operate information devices in order to create reports.

図書館情報学概論Ⅱ

菅原　真悟

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：2024年度以前キャリアデザイン学部入学生はC7185を受講してください。配当年次が異なります。（2年次から受講可）
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館司書資格を取得しようとしている学生を対象に、図書館に関わる情報技術について理解を深めることをめざす。授業では主に下記の5つの項目を学ぶ。
1.コンピュータやネットワークに関する基礎知識
2.図書館業務に関する技術（システム・情報発信・検索エンジン）
3.データ管理に関する技術（電子資料・データベース）
4.ネットワークセキュリティと図書館
5.情報技術と社会

【到達目標】
図書館に関わる情報技術の基礎的知識を理解するとともに、コンピュータを使った演習を通して基本的な技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、電子図書館、検索エンジン、コンピュータセキュリティ等について講義を行い、必要に応じて演習を行う。毎回の授業で、授業の振り返りを掲示板に投稿する時間を設ける。
・授業の初めに、前回の授業で提出された掲示板への感想・コメントからいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックする。また、必要に応じて掲示板上でも個々にフィードバックする。
・課題等の提出・フィードバックは授業支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業支援システム(HULiC)の利用方法に関するガイダンス。
第2回	コンピュータの基礎知識(1)	デジタルとアナログ。2進数と10進数。ビットとバイト。
第3回	コンピュータの基礎知識(2)	コンピュータの歴史。
第4回	ウェブOPAC	ウェブOPACを用いた演習。
第5回	デジタルアーカイブ	デジタルアーカイブの理論と実際。
第6回	ウェブの歴史	ウェブの誕生から普及に至る歴史。ブラウザの種類とシェアの推移。
第7回	AI時代の図書館	コンピュータ研究の現在と未来。人工知能研究の発展と図書館。
第8回	検索エンジン	検索エンジンの種類と仕組み。
第9回	電子図書館(1)	電子資料・出版、電子図書館の現状。
第10回	電子図書館(2)	電子書籍の特性について、タブレット端末を用いた演習。
第11回	図書館業務システム(1)	図書館業務システムの仕組み。
第12回	図書館業務システム(2)	図書館業務システムを用いた演習。
第13回	セキュリティ	コンピュータの管理とセキュリティ対策。
第14回	振り返りとまとめ	半期の授業を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて授業でプリントを配布します。

【参考書】
講義の中で随時指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業内の演習への積極的な参加（平常点）　30%
課題（授業中に課題を数回出す予定）　40%
期末レポート　30%
課題・レポートは授業支援システムへアップロードして提出する。

【学生の意見等からの気づき】
演習やグループディスカッションの時間を増やしたいと考えています。授業に出席すればよいのではなく、演習等への積極的な参加が求められます。

【その他の重要事項】
情報実習室で授業を行うため、人数超過の場合は抽選となります。必ず第1回目の授業に出席すること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course deals with (1)Computer and network, (2)Technology related to libraries, (3)Database, (4)Network security, and (5)Information Technology and Society.
【Learning Objectives】
Students acquire basic knowledge of ICT related to libraries, and also acquire basic ICT skills through computer-based exercises.
【Learningactivities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report:　30%、Short reports :　40%、in class contribution: 30%

図書館情報学概論Ⅱ

竹之内　明子

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：2024年度以前キャリアデザイン学部入学生はC7186を受講してください。配当年次が異なります。（2年次から受講可）
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目では、貴重な情報資源を長期間保存し多くの人がインターネットを通じて利用できるようにしたデジタルアーカイブをはじめとして、図書館が機能的に情報提供サービスを行うための仕組みについて学習します。現在、インターネットを通じて様々な情報資源が活用できるようになっています。司書はその利用法を熟知していなくてはなりません。授業では、コンピュータを利用して、OPAC、データベース、デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源を実際に比較検討して理解を深めていきます。授業内では司書としての情報リテラシーの涵養、すなわち、自ら調べまとめる力の育成を重視して、PCを利用して調べたことをまとめる演習を行います。

【到達目標】
この授業では、終了時に学生が以下の能力を身につけていることを目標とします。
1) 図書館に関わる各種の情報技術とその背景にある思想を理解する
2) 図書館業務に関わる情報検索、情報発信、情報管理の技術を身につける
3) 情報技術のこれまでの歴史や思想をふまえて、今後の図書館や図書館員のあるべき姿について論じることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
ネットワーク情報資源の種類や成り立ちなどを概観した後、コンピュータを利用して、OPAC、データベース、デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源を実際に比較検討して理解を深めていきます。授業では司書としての情報リテラシーの涵養、すなわち、自ら調べまとめる力の育成を重視して、PCを利用して調べたことを小レポートにまとめる形式で進めます。Hoppiで毎週、教材と課題をアップロードするので、期日までに取り組んで提出してください。課題のフィードバックは、授業資料及び授業内でのコメントを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	国立国会図書館「レファレンス協同データベース」（レファ協）の解説と事例のまとめ
第2回	検索検定	情報科学技術協会（INFOSTA）検索技術者検定の過去問に見る情報技術の論点
第3回	国際子ども図書館デジタルアーカイブ(1)	絵本ギャラリーの解説と事例のまとめ
第4回	国際子ども図書館デジタルアーカイブ(2)	電子展示会ほか
第5回	国立国会図書館デジタルアーカイブ(1)	国立国会図書館デジタルコレクション
第6回	国立国会図書館デジタルアーカイブ(2)	歴史的音源、WARPほか
第7回	公共図書館のデジタルアーカイブ	都道府県立・市町村立図書館が提供する地域資料のデジタルアーカイブ
第8回	海外のデジタルアーカイブ	Europeanaほか
第9回	OPACの比較	大学図書館と公共図書館
第10回	情報検索の基礎知識	論理演算と検索の評価指標
第11回	オンラインデータベースの種類と概要	地域資料の組織化 絵本の組織化 学校図書館における組織化
第12回	情報ユニバーサルデザイン(1)	Webアクセシビリティ
第13回	情報ユニバーサルデザイン(2)	カラーユニバーサルデザイン
第14回	情報ユニバーサルデザイン(3)	マルチメディアDAISY図書

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Hoppiで、毎週、教材と課題をアップロードするので、期日までに取り組んで提出してください。
本授業のための予習・復習の時間は各回2時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
評価の方法：毎回のまとめ課題70％（1回5点×14回），学期末レポート30%
評価の基準：
1) デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源の特徴を説明できるか
2) 特別な配慮が必要な利用者を想定した情報技術について説明できるか
3) レポート作成に必要な情報機器の操作スキルが身についているか

【学生の意見等からの気づき】
調査とまとめの作業を通じて知識形成を図ります。

【学生が準備すべき機器他】
PC教室で実施します。オンライン授業の回はPCを使用できる環境で取り組んでください。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当します。
中央大学図書館，東京大学駒場図書館，東海大学付属図書館での勤務経験から，図書館において必要とされる情報技術の知見を教授します。
本科目は対面授業を基本としながら、オンライン授業も取り入れるハイブリッド形式で実施予定です。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, students will learn about the mechanisms for the functional provision of information services by libraries, such as digital archives, which preserve valuable information resources for a long period of time and make them available to many people through the Internet.
【Learning Objectives】
In this course, students are expected to use computers to actually compare and examine network information resources such as OPACs, databases, and digital archives to deepen their understanding.
At the end of the course,students expected to acquire the information literacy as a librarian.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to spend
at least two hours for each class meeting.Everyweek on the Hoppi,students are required to complete weekly assignments.
【Grading Criteria】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
1) Weekly short reports:70％
2) Term-end report:30%

Grades will be decided based on the contents of weekly assignments.
3)Evaluation criteria
・Ability to explain the characteristics of network information resources such as digital archives.
・Ability to explain information technology assuming users with special needs.
・Ability to operate information devices in order to create reports.

図書館制度・経営論

竹之内　明子

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館の法令と関連法規について解説して、主に公立図書館の基本設計から管理運営までの過程（プロセス）を、経営という観点から考察して解説します。多様なニーズに応え、それぞれのセクターにとって望ましいサービスを達成するには、図書館を開設する前の基本設計の時点から綿密に計画する必要があります。サービス対象となる利用者の特性を考えて、地域や母体組織（学校、大学、企業など）に相応した図書館像を考えます。図書館の財務管理や人事管理などをめぐる諸問題についても触れ、PFI、指定管理者制度、民間活力導入の問題が、今後の図書館経営に与える影響についても考察します。

【到達目標】
1)公立図書館の運営について説明ができる。
2)公立図書館に関する法令と関連動向について説明ができる。
3)PFI、指定管理者制度などの新たな公共機関の運営方法について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本とし、教科書と配布したレジュメに沿って授業を行います。課題の提出、フィードバックはHoppiiを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	図書館法の成り立ち(1)	図書館法の位置づけ
第2回	図書館法の成り立ち(2)	図書館法逐条解説、条例等その他の法規
第3回	図書館経営の意義と基本的な考え方(1)	組織の経営と経営原理、経営組織
第4回	図書館経営の意義と基本的な考え方(2)	経営資源の構成要素、業務プロセスと経営資源、経営のサイクル
第5回	人的資源と組織編成	図書館の人的資源、知識専門職としての司書、図書館の組織
第6回	物品の調達・管理	図書館に必要なモノ、物品の調達、物品の管理
第7回	図書館財務	図書館にとっての財務、図書館財務の実際と限界、新しい図書館財務の考え方
第8回	公共空間としての図書館	施設を活かす管理・運用、サービス空間の設計、書庫管理
第9回	ＰＲとマーケティング	ＰＲとは何か、マーケティングの必要性、図書館のマーケティング
第10回	経営戦略策定のための調査・分析と評価	戦略計画をつくる、戦略を支える調査と研究、経営評価
第11回	経営形態の選択と外部連携	図書館の経営環境の変化、公共図書館の経営形態、外部との連携
第12回	図書館情報政策の意義	図書館情報政策の位置づけ、地方自治体内の一組織としての図書館
第13回	各種図書館の役割と根拠法	国立国会図書館、大学図書館、学校図書館、専門図書館、関連する諸法律
第14回	まとめと確認	まとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【予習】各回の授業内容に対応するテキストの該当箇所を事前に通読しておくこと。
【復習】各回の授業内容を見直し、要点をまとめること。
本授業のための予習・復習の時間は各回2時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
柳与志夫著.『図書館制度・経営論』第3版（ライブラリー図書館情報学４）　学文社，2024

【参考書】
今まど子、小山憲司編著『図書館情報学基礎資料』第3版　樹村房，2020
その他授業内で適宜指示する

【成績評価の方法と基準】
評価の方法：毎回の授業への参加と口頭発表（50％）、提出課題（50％）
評価の基準：授業への2/3以上の出席を前提として、以下の観点から総合的に評価します。
1) 毎回の授業課題に積極的に取り組んだか
2) 公立図書館の運営について説明できるか
3) PFI、指定管理者制度などの新たな公共機関の運営方法について説明できるか

【学生の意見等からの気づき】
図書館に関する制度の活用と経営の工夫について具体的事例を多く紹介します。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当します。
中央大学図書館，東京大学駒場図書館，東海大学付属図書館での勤務経験から，情報資源組織法の知見を教授します。
本科目は対面授業を基本としながら、オンライン授業も取り入れるハイブリッド形式で実施予定です。詳細な日程については、開講時にあらためて説明します。

【Outline (in English)】
This course mainly introduces the process from the basic strategy of public libraries to their management and operation from the perspective of management with explanation of library laws and related laws.In order to respond the diverse needs of people, it is necessary to plan from the point of the basic strategy of the library before opening.We derive indices of library services from library statistics, consider the features of the users, and consider the image of libraries that are appropriate for the region and the parent organization (schools, universities, companies, etc.). We will also touch on various issues related to library financial management, personnel management, etc., and consider the impact of PFI, the designated manager system, and the introduction of private-sector vitality on library management in the future.

児童サービス論

田中　順子

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
児童の発達状況と読書の役割を理解し、適切なサービスを実践する能力を習得する。

【到達目標】
児童の発達状況と読書の役割を理解し、適切なサービスを実践する能力を習得する。絵本等の資料を使った読み聞かせを実践し、児童と本を結びつける手法も獲得する。また、学校との連携など、児童を取り巻く読書環境についても学ぶ。
Students learn about child's capability and importance of reading at their age.
They practice reading children's book and learn how to make children's environment comfortable for their reading.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
児童（乳幼児からヤングアダルトまで）を対象に、発達と学習における読書の役割、年齢層別サービス、絵本・物語等の資料、読み聞かせ、学校との協力等について解説し、必要に応じて演習を行う。毎回、学生によるその日のテーマに関する発表や意見の提出を行い、それについて授業中にコメント、アドバイスを行う。良いコメントを紹介し、さらなる議論に活かす。 フィードバックは、授業中に受け付けます。さらにメールアドレスを提示し、適宜受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	児童サービスとは	児童サービスの理念について
2	児童について	児童の発達と読書について
3	乳幼児の読書環境	乳幼児の読書環境とブックスタート
4	児童サービスの歴史	児童サービスの歴史と法律について。児童の読書推進のための政府、自治体の取り組みについて
5	ブック・トーク	ブックトーク実践
6	読み聞かせ	読み聞かせ実践
7	ヤングアダルト	ヤングアダルトサービスについて
8	児童図書館	児童図書館の目的と役割
9	児童図書館リサーチ	児童図書館や児童図書コーナーの調査
10	他団体との連携	公立図書館と、学校図書館、他の施設との連携について
11	レファレンス・サービス	児童のためのレファレンスサービスについて
12	読書の児童への影響	幼少時の読書がどんな影響を与えるか学ぶ
13	学習支援	学習支援としての児童サービス
14	学校図書館	学校、学校図書館の活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定した範囲のテキストの読み込みを含め、
本授業の準備・復習時間に、各２時間を充てること。
Read a text book.
Learn about important points and think about their own idea for two hours.

【テキスト（教科書）】
植松貞夫・鈴木佳苗編『児童サービス論』樹村房

【参考書】
笠原良郎編『楽しい読み聞かせ　学校図書館入門シリーズ３』全国学校図書館協議会
『図書館をつくる　教育をかえる』全国学校図書館協議会

【成績評価の方法と基準】
平常点、授業内の発表(20%)と中間レポートの提出(30％)、学期末のレポート(50%)。
Attend classes and present their ideas about current topics.(20%)
Research children's library and submit a report about it.(30%)
Submit a final report.(50%)

【学生の意見等からの気づき】
現場のリサーチや、読み聞かせの実践を通して、実情が実感できたという感想が多いので、学生による体験を積極的に取り入れていく。

【Outline (in English)】
（Course outline）
Achieving the effective service to users requires careful planning from the point of basic design before the library is opened. I want to derive an index of library services from library statistics, consider the characteristics of users to be serviced, and consider a library image that is appropriate for the region and organization (school, university, company, etc.).
This section will also discuss various issues related to library financial management and personnel management, and consider the effects of PFI（Private Finance Initiative）, the designated manager system, and the issue of private vitality on library management in the future.
（Learning Objectives）
・ Students can explain the management of the public library.
・ Students can explain how to manage new public institutions such as PFI and designated manager system.
・ Students can be interested in articles about the operation of public libraries in newspapers and magazines.
（Learning activities outside of classroom）
Since the lecture will be given according to the chapter of the textbook, please read the relevant part of the textbook in advance before the lecture. The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.
（Grading Criteria /Policy）
Class assignments (50%), term-end reports (50%) .

情報サービス論（2013年度より開設）

田中　順子

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館での情報サービスについて把握し、利用者のニーズに応えられるレファレンスサービスを展開する能力を習得する。

【到達目標】
図書館での情報サービスについて把握し、利用者のニーズに応えられるレファレンスサービス、情報検索について理解を深め、多岐にわたる情報源の知識を習得し、情報サービスを積極的に展開する能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法、参考図書・データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等の新しいサービスについて解説する。
毎回、学生によるその日のテーマに関する発表や意見の提出を行い、それについて授業中にコメント、アドバイスを行う。良いコメントを紹介し、さらなる議論に活かす。 フィードバックは、授業中に受け付けます。さらにメールアドレスを提示し、適宜受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	情報サービスとは	情報サービスの概念と歴史
2	レファレンス・サービス	レファレンスサービスとレフェラルサービスについて
3	図書館の利用	カレントアウェアネスサービスと読書相談、利用案内等について
4	レファレンス・サービスに求められるもの	レファレンスサービスの理論と実際
5	レファレンス・プロセス	レファレンスプロセスについて
6	レファレンス・インタビュー	利用者のニーズを引き出すレファレンスインタビュー
7	図書館の情報サービス	情報社会における図書館の情報サービスの役割
8	情報源について（1）	各種情報源の特質と利用法
9	情報源について（2）	各種情報源の解説と評価
10	情報源について（3）	各種情報源の組織化
11	情報検索サービス	情報検索サービスの理論と方法
12	図書館利用教育	図書館利用教育の現状
13	図書館の連携	学校図書館、地域の図書館の連携について
14	情報リテラシー	情報リテラシーの育成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定した範囲のテキストを読んでくることを含め、
本授業の準備・復習時間に、各２時間を充てること。

【テキスト（教科書）】
山崎久道編集『情報サービス論』樹村房（改訂版ではありません）

【参考書】
井上真琴『図書館に訊け！』ちくま新書

【成績評価の方法と基準】
平常点、授業内発表(20%)と課題調査(30%)、学期末のレポート(50%)。

【学生の意見等からの気づき】
授業中に行うディスカッションによって、考える力、発信する力がついたという感想が多いので、受け身ではなく積極的に授業に参加する場を設けていく。

【Outline (in English)】
In this class,students learn about library service and think about various challenges in the future library. Students visit a library to research it. They also learn about reference work.
Students learn about library service and think about how to answer user's need. Students visit a library to research it. They also learn about reference work.
Before and after classes, students are requested to read a text book and
learn about important points.
Then they need to think about their own idea.
They will take totally more than four hours to complete them.
Grading criteria
Attend classes and present their ideas about current topics.(20%)
Research a library and submit a report about it.(30%)
Submit a final report.(50%)

情報資源組織論

竹之内　明子

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館の利用者が求める情報資源を的確に提供するには、情報資源の組織化（整理）が欠かせません。情報資源の組織化は、情報資源に関するデータを一定の方法に従って記述するための記述目録法（狭義の目録法）と、情報資源の内容（主題）を分析、表現するための主題目録法（分類法および件名法）に大別できます。この授業では、情報資源組織化の意義とその理論的背景に加え、目録法、分類法、件名法の基礎的事項、新しい目録法の動向までを学びます。

【到達目標】
この授業では、終了時に以下の能力を身につけていることを目標とします。
1) 情報資源組織化の意義と方法を理解する
2) 情報資源組織化のためのツール（種類と特徴）を理解する
3) 目録法、分類法、件名法の概略を理解する
4) 新しい目録法の動向を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
情報資源組織化に関する基礎知識として、『日本十進分類法』（NDC）を使用した分類法、『基本件名標目表』（BSH）を使用した件名法、『日本目録規則』（NCR）を使用した目録法の概略を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報資源組織化の目的	情報資源の組織化とは 情報資源組織化の意義
第2回	主題による組織化	主題とは何か，主題を明らかにする方法，知の分類と情報資源の分類
第3回	分類法	代表的な分類法 日本十進分類法（NDC）
第4回	件名法	シソーラスと件名標目表 基本件名標目表（BSH）
第5回	目録法	書誌記述 アクセスポイント 目録作業の実際
第6回	日本目録規則（NCR）	書誌階層 目録記入 目録作業の実際
第7回	新しい目録規則とその動向	FRBR NCR2018
第8回	書誌コントロール	国際的な書誌コントロールの展開，国立図書館と全国書誌
第9回	書誌情報の流通	集中目録作業 共同目録作業
第10回	装備と配架（排架）	登録、装備、配架
第11回	多様な情報資源の組織化	地域資料の組織化 絵本の組織化 学校図書館における組織化
第12回	Web OPAC	設計、リプレイス、バージョンアップ
第13回	ネットワーク情報資源の組織化	電子ジャーナル 機関リポジトリ メタデータ Webの組織化
第14回	まとめ	情報資源組織法の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Hoppiで、毎週、教材と課題をアップロードするので、期日までに取り組んで提出してください。
本授業のための予習・復習の時間は各回2時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
竹之内禎, 山口洋, 西田洋平編著『情報資源組織論』，東海大学出版部, 2020

【参考書】
竹之内禎ほか編著『情報資源組織演習：情報メディアへのアクセスの仕組みをつくる』，ミネルヴァ書房，2016

【成績評価の方法と基準】
評価の方法：毎回の授業への参加と提出課題（100％）
評価の基準：
1) 課題に積極的に取り組み、理解を深めているか
2) 情報資源組織化の意義と方法を説明できるか
3) 情報資源組織化のために使用されるツールについて説明できるか
4) 目録法、分類法、件名法の概略を説明できるか
5) 新しい目録法の動向について説明できるか

【学生の意見等からの気づき】
新しい専門用語の意味を覚え、図書を中心とした図書館の情報資源を管理するツールについて、演習につながる理解が得られるように解説していきます。前の回の知識が後の回の前提となり、演習科目の土台ともなるので、毎回の内容をしっかり覚えてください。わからない点は遠慮なく問い合わせてください。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当します。
中央大学図書館，東京大学駒場図書館，東海大学付属図書館での勤務経験から，情報資源組織法の知見を教授します。
本科目は対面授業を基本としながら、オンライン授業も取り入れるハイブリッド形式で実施予定です。

【Outline (in English)】
Organization of information resources is essential to accurately provide the information resources requested by library users. The organization of information resources can be roughly divided into descriptive cataloging methods for describing data related to information resources according to a fixed method, and taxonomy and subject matter methods for analyzing and expressing the contents of information resources. In this class, students will learn the usefulness of information resource organization and its theoretical background, as well as the basics of cataloging, taxonomy, subject matter, and trends in new cataloging methods.

情報資源組織演習

竹之内　明子

単位：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館が扱う図書を中心とした膨大な情報資源の中から目的にかなうものを素早く見つけ出し入手する仕組みを作ることを「情報資源の組織化」と言います。本演習では，『日本十進分類法』（NDC），『基本件名標目表』（BSH）、『日本目録規則』（NCR）という３つのルールブックを使用した情報資源組織化の方法を習得することを目指し，図書館の実際の資料を対象に，情報資源の主題分析と記号化，統制語彙の適用，目録データベースを作成するための書誌情報の記録方法等の演習を行います。

【到達目標】
1)『日本十進分類法』（NDC）を使用して，基本的な分類記号を与えることができる
2)『基本件名標目表』（BSH）を使用して，基本的な件名標目を与えることができる
3)『日本目録規則』（NCR）の概要を理解して，図書館が扱う情報資源に関する適切な目録データを作成することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
前期は『日本十進分類法』（NDC）、『基本件名標目表』（BSH）という二つのルールブックを使用して、図書資料に分類記号と件名標目を与える演習を行います。後期はこれに加えて『日本目録規則』（NCR）に基づき、図書を中心とした図書館情報資源に関する目録データの作成演習を行います。毎回、図書館の蔵書を探す課題を出す予定です。演習科目ですので、授業への参加と課題の提出を重視します。授業では、受講生が選んだ本の著者や内容もをシェアしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報資源組織化の全体像	分類法、件名法、目録法の概要 『日本十進分類法』（NDC）による分類法の基礎
第2回	『日本十進分類法』（NDC）の構成、NDC相関索引の使用法	第1分冊：本表・補助表編 第2分冊：相関索引・使用法編 相関索引と分類記号の対応、指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第3回	本表の省略記号、NDC1類（哲学・心理学・宗教）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第4回	地理区分（１）、NDC3類（社会科学）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第5回	地理区分（２）、NDC4類（自然科学・医学・薬学）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第6回	形式区分、NDC5類（技術・工学・生活科学）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第7回	海洋区分、NDC2類（歴史・伝記・地理）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第8回	地理区分（３）、NDC6類（農林水産業・商業・交通・観光・通信）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第9回	言語区分、NDC7類（芸術・スポーツ）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第10回	分類規程、NDC8類（言語）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第11回	図書記号、NDC9類（文学）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第12回	NDC0類（知識・情報・図書館・出版・博物館・ジャーナリズム）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第13回	『基本件名標目表』（BSH）の構成	BSHによる件名付与の方法、指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第14回	『基本件名標目表』（BSH）の使用法	BSHによる件名付与の方法、指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第15回	目録法の概要 分類法、件名法の復習	『日本目録規則』(NCR)による目録作成の基礎 『基本件名標目表』(BSH)による件名付与の復習 『日本十進分類法』(NDC)による分類記号付与の復習
第16回	書誌記述（１）	目録記入の基本型 タイトルと責任表示の記述 教科書演習問題の解説
第17回	書誌記述（２）	版表示、出版地、出版者、出版年の記述 教科書演習問題の解説
第18回	書誌記述（３）	形態に関する事項の記述 教科書演習問題の解説
第19回	書誌記述（４）	さまざまなケースの記述 教科書演習問題の解説
第20回	資料紹介と目録記入の作成（NDC0類・1類）	NDC0類・1類関連の資料紹介と目録記入の確認
第21回	資料紹介と目録記入の作成（NDC2類・3類）	NDC2類・3類関連の資料紹介と目録記入の確認
第22回	書誌記述（５）	ISBN 教科書演習問題の解説
第23回	資料紹介と目録記入の作成（NDC4類・5類）	NDC4類・5類関連の資料紹介と目録記入の確認
第24回	書誌記述（６）	注記の記述 教科書演習問題の解説
第25回	資料紹介と目録記入の作成（NDC6類・7類）	NDC6類・7類関連の資料紹介と目録記入の確認
第26回	資料紹介と目録記入の作成（NDC8類・9類類）	NDC8類・9類関連の資料紹介と目録記入の確認
第27回	資料紹介と目録記入の作成（指定テーマ）（１）	設定したテーマに関連する資料紹介と目録記入の確認
第28回	資料紹介と目録記入の作成（指定テーマ）（２）	設定したテーマに関連する資料紹介と目録記入の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【予習】各回の授業内容に対応するテキストの該当箇所を事前に通読しておくこと。宿題として指定されたテーマの図書を探し，書誌情報，著者・出版者情報，分類記号等を調べること。加えて，後期の授業では目録記入を作成すること。
【復習】各回の授業内容を見直し，要点をまとめること。授業でシェアした図書資料の情報を確認すること。
本授業のための予習・復習の時間は各回2時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
山本順一監修, 竹之内禎ほか編著,『情報資源組織演習:情報メディアへのアクセスの仕組みをつくる 第2版』, 講座・図書館情報学, ミネルヴァ書房, 2025

【参考書】
竹之内禎ほか編著,『情報資源組織論』, 東海大学出版部, 2020
本体価格2800円＋税
https://www.press.tokai.ac.jp/bookdetail.jsp?isbn_code=ISBN978-4-486-02188-9

【成績評価の方法と基準】
評価の方法：
　毎回の授業への参加と口頭発表（50％）、提出課題（50％）
評価の基準：
授業への2/3以上の出席を前提として、以下の観点から総合的に評価します。
1) 毎回の授業課題に積極的に取り組んだか
2) 分類法，件名法のスキルを習得したか
3) 図書館情報資源の目録データの作成スキルを修得したか

【学生の意見等からの気づき】
同じテーマで同じ図書館を探しても、受講生それぞれに選書の観点が異なり、新たな資料との出会いを楽しみながら学んでいます。

【学生が準備すべき機器他】
ボアソナードタワー１４階の工作室で授業を行います。教室内の棚にNDC、BSH、NCRがありますので、毎回の授業の始めに各自で借り受けて、授業終了時に返却するようにしてください。場所等は初回に指示します。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当します。
中央大学図書館，東京大学駒場図書館，東海大学付属図書館での勤務経験から，情報資源組織法の知見を教授します。
本科目は対面授業を基本としながら、オンライン授業も取り入れるハイブリッド形式で実施予定です。詳細な日程については、開講時にあらためて説明します。
「情報資源組織論」を履修済みであるか、同時履修していることが望ましいです。

【Outline (in English)】
Based on the theory and knowledge learned in information resource organization theory (document organization theory), students will actually create bibliographic data, subject analysis, and classification work.

情報資源組織演習

村上　郷子

単位：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報資源組織論(資料組織論）で学んだ理論や知識をもとに、実際に書誌データの作成、主題分析、分類作業の作成を行う。

【到達目標】
書誌データの作成、主題分析、分類作業等の基本的スキルを修得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業の初回のみオンラインで行う。Hoppiiで、ZoomのURLを確認すること。
資料の組織化は、大きく記述目録法と主題目録法の2部から成り立っている。春学期は記述目録の演習を中心に目録規則の適用及び主題分析の基礎について学習する。秋学期は主に日本十進分類法による分類作業を中心に、主題目録法の実際についてのスキルを学ぶ。
　授業の初めに、毎回の小クイズの答え合わせをすることにより、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・情報資源組織演習概要、情報資源組織化を行う環境	情報資源組織演習の概要について概説する。
2	目録法（目録と目録規則）、日本目録規則2018年版総説	目録と目録規則、日本目録規則2018年版総説（概念モデルFRBR、エレメントの記録他）
3	体現形の記録（図書）（1）タイトル・責任表示	タイトルと責任表示
4	体現形の記録（図書）（2）版表示、出版表示等、シリーズ表示、キャリアに関する情報	版、資料の特性、出版・頒布等形態・シリーズ表示、キャリアに関する情報
5	体現形の記録（図書）（3）体現形の識別子、入手条件、注記、個別資料の記録	体現形の識別子、入手条件、注記、個別資料の記録
6	体現形の記録・演習（予備）	体現形の演習部分を完成させる。
7	体現形の記録（逐次刊行物）（4）逐次刊行物の記録	逐次刊行物の記録
8	著作・表現形の記録、個人・団体・家族の記録	著作・表現形の記録、個人・団体・家族の記録
9	アクセス・ポイントの構築	アクセス・ポイントと典拠コントロール
10	関連記録、総合演習問題（1）	図書のエレメントの記録例を中心に行う
11	総合演習問題（2）＋解説	図書の総合演習問題と解説
12	記録フォーマットとデータ活用の実際（MARC、MACSIS-CAT他）	コピー・カタロギング、オリジナル・カタロギング、NACSIS-CAT、JAPAN-MARC、MARC21など
13	メタデータ、	ネットワーク情報資源の組織化とメタデータ、メタデータの記述規則、流通
14	春学期総まとめ	筆記試験・まとめ
15	主題組織法、日本十進法の構成	秋学期ガイダンス、主題組織法とは何か、日本十進分類法とは何か NDCの構成、形式区分
16	日本十進法による分（Unit31）	地理区分、海洋区分、言語区分
17	分類記号付与の実際	分類作業、分類規定、分類表の改訂
18	人文科学①	哲学・宗教(1類)
19	人文科学②	歴史・地理・伝記（2類）
20	社会科学	政治・法律・経済、社会・教育他（3類）
21	自然科学・総記	自然科学・総記(4・0類)
22	技術・産業	技術・産業(5・6類)
23	人文科学④　芸術	芸術（7類）
24	言語・文学	言語・文学　（8・9類）
25	文学、所在記号	文学(9類)、図書記号、別置記号
26	件名法（1）	基本権名標目表の概略、語の関係性、細目
27	件名法（2）	件名規定と演習
28	秋学期総まとめ	筆記試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回出される宿題を、確実にこなすこと。

【テキスト（教科書）】
和中幹雄・横谷弘美共著『情報資源組織演習』三訂版、日本図書館協会、2023、(JLA図書館情報学シリーズ3-10)

【参考書】
日本図書館研究会編『図書館資料の目録と分類』、最新版、日本図書館研究会
日本図書館研究会編著『情報資源組織法』、2020、日本図書館研究会

【成績評価の方法と基準】
通年授業のため、春学期は50％、秋学期は50％とする。50％の内、出席・毎回の小クイズ・春・秋学期それぞれ（25％）、春・秋学期筆記試験それぞれ（25％）によって総合的に評価する。
出席は8割以上を目安とする。毎回授業の初めに小テストを行うため、遅刻や欠席が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
なじみの少ない領域のため、できるだけ平易な説明を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
学生は司書資格課程のポータルサイト(Hulic）から、事前に毎回のレジメをダウンロード・印刷をして授業に臨むこと。

【その他の重要事項】
この授業では、受講生を20人以下に制限する。20人以上の場合は、司書課程の受講生及び上級生を優先し、司書課程以外の受講生及び下級生は最初の日に抽選を行う。途中からの受講は認めない。

【Outline (in English)】
(Course outline）: Based on the theory and the knowledge of organizing information resources, students will practice creating actual bibliographic catalog and decimal classification as well as analyzing subject headings.
(Learning Objectives）: Students are able to acquire basic skills in bibliographic data preparation, subject analysis, and classification work.
(Learning activities outside of classroom）: Students must ensure that they complete the homework assigned each time.

（Grading Criteria /Policy）：　Since this class is offered throughout the year, 50%will be given in the spring semester and 50%in the fall semester; of the 50%, the overall evaluation will be based on attendance, each quiz, and each of the spring and fall semesters (25%), and each of the spring and fall semester written examinations (25%).

情報資源組織演習

竹之内　明子

単位：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館が扱う図書を中心とした膨大な情報資源の中から目的にかなうものを素早く見つけ出し入手する仕組みを作ることを「情報資源の組織化」と言います。本演習では，『日本十進分類法』（NDC），『基本件名標目表』（BSH）、『日本目録規則』（NCR）という３つのルールブックを使用した情報資源組織化の方法を習得することを目指し，図書館の実際の資料を対象に，情報資源の主題分析と記号化，統制語彙の適用，目録データベースを作成するための書誌情報の記録方法等の演習を行います。

【到達目標】
1)『日本十進分類法』（NDC）を使用して，基本的な分類記号を与えることができる
2)『基本件名標目表』（BSH）を使用して，基本的な件名標目を与えることができる
3)『日本目録規則』（NCR）の概要を理解して，図書館が扱う情報資源に関する適切な目録データを作成することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
前期は『日本十進分類法』（NDC）、『基本件名標目表』（BSH）という二つのルールブックを使用して、図書資料に分類記号と件名標目を与える演習を行います。後期はこれに加えて『日本目録規則』（NCR）に基づき、図書を中心とした図書館情報資源に関する目録データの作成演習を行います。毎回、図書館の蔵書を探す課題を出す予定です。演習科目ですので、授業への参加と課題の提出を重視します。授業では、受講生が選んだ本の著者や内容もをシェアしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報資源組織化の全体像	分類法、件名法、目録法の概要 『日本十進分類法』（NDC）による分類法の基礎
第2回	『日本十進分類法』（NDC）の構成、NDC相関索引の使用法	第1分冊：本表・補助表編 第2分冊：相関索引・使用法編 相関索引と分類記号の対応、指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第3回	本表の省略記号、NDC1類（哲学・心理学・宗教）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第4回	地理区分（１）、NDC3類（社会科学）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第5回	地理区分（２）、NDC4類（自然科学・医学・薬学）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第6回	形式区分、NDC5類（技術・工学・生活科学）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第7回	海洋区分、NDC2類（歴史・伝記・地理）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第8回	地理区分（３）、NDC6類（農林水産業・商業・交通・観光・通信）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第9回	言語区分、NDC7類（芸術・スポーツ）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第10回	分類規程、NDC8類（言語）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第11回	図書記号、NDC9類（文学）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第12回	NDC0類（知識・情報・図書館・出版・博物館・ジャーナリズム）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第13回	『基本件名標目表』（BSH）の構成	BSHによる件名付与の方法、指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第14回	『基本件名標目表』（BSH）の使用法	BSHによる件名付与の方法、指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第15回	目録法の概要 分類法、件名法の復習	『日本目録規則』(NCR)による目録作成の基礎 『基本件名標目表』(BSH)による件名付与の復習 『日本十進分類法』(NDC)による分類記号付与の復習
第16回	書誌記述（１）	目録記入の基本型 タイトルと責任表示の記述 教科書演習問題の解説
第17回	書誌記述（２）	版表示、出版地、出版者、出版年の記述 教科書演習問題の解説
第18回	書誌記述（３）	形態に関する事項の記述 教科書演習問題の解説
第19回	書誌記述（４）	さまざまなケースの記述 教科書演習問題の解説
第20回	資料紹介と目録記入の作成（NDC0類・1類）	NDC0類・1類関連の資料紹介と目録記入の確認
第21回	資料紹介と目録記入の作成（NDC2類・3類）	NDC2類・3類関連の資料紹介と目録記入の確認
第22回	書誌記述（５）	ISBN 教科書演習問題の解説
第23回	資料紹介と目録記入の作成（NDC4類・5類）	NDC4類・5類関連の資料紹介と目録記入の確認
第24回	書誌記述（６）	注記の記述 教科書演習問題の解説
第25回	資料紹介と目録記入の作成（NDC6類・7類）	NDC6類・7類関連の資料紹介と目録記入の確認
第26回	資料紹介と目録記入の作成（NDC8類・9類類）	NDC8類・9類関連の資料紹介と目録記入の確認
第27回	資料紹介と目録記入の作成（指定テーマ）（１）	設定したテーマに関連する資料紹介と目録記入の確認
第28回	資料紹介と目録記入の作成（指定テーマ）（２）	設定したテーマに関連する資料紹介と目録記入の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【予習】各回の授業内容に対応するテキストの該当箇所を事前に通読しておくこと。宿題として指定されたテーマの図書を探し，書誌情報，著者・出版者情報，分類記号等を調べること。加えて，後期の授業では目録記入を作成すること。
【復習】各回の授業内容を見直し，要点をまとめること。授業でシェアした図書資料の情報を確認すること。
本授業のための予習・復習の時間は各回2時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
山本順一監修, 竹之内禎ほか編著,『情報資源組織演習:情報メディアへのアクセスの仕組みをつくる 第2版』, 講座・図書館情報学, ミネルヴァ書房, 2025

【参考書】
竹之内禎ほか編著,『情報資源組織論』, 東海大学出版部, 2020
本体価格2800円＋税
https://www.press.tokai.ac.jp/bookdetail.jsp?isbn_code=ISBN978-4-486-02188-9

【成績評価の方法と基準】
評価の方法：
　毎回の授業への参加と口頭発表（50％）、提出課題（50％）
評価の基準：
授業への2/3以上の出席を前提として、以下の観点から総合的に評価します。
1) 毎回の授業課題に積極的に取り組んだか
2) 分類法，件名法のスキルを習得したか
3) 図書館情報資源の目録データの作成スキルを修得したか

【学生の意見等からの気づき】
同じテーマで同じ図書館を探しても、受講生それぞれに選書の観点が異なり、新たな資料との出会いを楽しみながら学んでいます。

【学生が準備すべき機器他】
ボアソナードタワー１４階の工作室で授業を行います。教室内の棚にNDC、BSH、NCRがありますので、毎回の授業の始めに各自で借り受けて、授業終了時に返却するようにしてください。場所等は初回に指示します。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当します。
中央大学図書館，東京大学駒場図書館，東海大学付属図書館での勤務経験から，情報資源組織法の知見を教授します。
本科目は対面授業を基本としながら、オンライン授業も取り入れるハイブリッド形式で実施予定です。詳細な日程については、開講時にあらためて説明します。
「情報資源組織論」を履修済みであるか、同時履修していることが望ましいです。

【Outline (in English)】
Based on the theory and knowledge learned in information resource organization theory (document organization theory), students will actually create bibliographic data, subject analysis, and classification work.

情報資源組織演習

竹之内　明子

単位：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館が扱う図書を中心とした膨大な情報資源の中から目的にかなうものを素早く見つけ出し入手する仕組みを作ることを「情報資源の組織化」と言います。本演習では，『日本十進分類法』（NDC），『基本件名標目表』（BSH）、『日本目録規則』（NCR）という３つのルールブックを使用した情報資源組織化の方法を習得することを目指し，図書館の実際の資料を対象に，情報資源の主題分析と記号化，統制語彙の適用，目録データベースを作成するための書誌情報の記録方法等の演習を行います。

【到達目標】
1)『日本十進分類法』（NDC）を使用して，基本的な分類記号を与えることができる
2)『基本件名標目表』（BSH）を使用して，基本的な件名標目を与えることができる
3)『日本目録規則』（NCR）の概要を理解して，図書館が扱う情報資源に関する適切な目録データを作成することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
前期は『日本十進分類法』（NDC）、『基本件名標目表』（BSH）という二つのルールブックを使用して、図書資料に分類記号と件名標目を与える演習を行います。後期はこれに加えて『日本目録規則』（NCR）に基づき、図書を中心とした図書館情報資源に関する目録データの作成演習を行います。毎回、図書館の蔵書を探す課題を出す予定です。演習科目ですので、授業への参加と課題の提出を重視します。授業では、受講生が選んだ本の著者や内容もをシェアしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報資源組織化の全体像	分類法、件名法、目録法の概要 『日本十進分類法』（NDC）による分類法の基礎
第2回	『日本十進分類法』（NDC）の構成、NDC相関索引の使用法	第1分冊：本表・補助表編 第2分冊：相関索引・使用法編 相関索引と分類記号の対応、指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第3回	本表の省略記号、NDC1類（哲学・心理学・宗教）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第4回	地理区分（１）、NDC3類（社会科学）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第5回	地理区分（２）、NDC4類（自然科学・医学・薬学）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第6回	形式区分、NDC5類（技術・工学・生活科学）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第7回	海洋区分、NDC2類（歴史・伝記・地理）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第8回	地理区分（３）、NDC6類（農林水産業・商業・交通・観光・通信）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第9回	言語区分、NDC7類（芸術・スポーツ）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第10回	分類規程、NDC8類（言語）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第11回	図書記号、NDC9類（文学）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第12回	NDC0類（知識・情報・図書館・出版・博物館・ジャーナリズム）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第13回	『基本件名標目表』（BSH）の構成	BSHによる件名付与の方法、指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第14回	『基本件名標目表』（BSH）の使用法	BSHによる件名付与の方法、指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第15回	目録法の概要 分類法、件名法の復習	『日本目録規則』(NCR)による目録作成の基礎 『基本件名標目表』(BSH)による件名付与の復習 『日本十進分類法』(NDC)による分類記号付与の復習
第16回	書誌記述（１）	目録記入の基本型 タイトルと責任表示の記述 教科書演習問題の解説
第17回	書誌記述（２）	版表示、出版地、出版者、出版年の記述 教科書演習問題の解説
第18回	書誌記述（３）	形態に関する事項の記述 教科書演習問題の解説
第19回	書誌記述（４）	さまざまなケースの記述 教科書演習問題の解説
第20回	資料紹介と目録記入の作成（NDC0類・1類）	NDC0類・1類関連の資料紹介と目録記入の確認
第21回	資料紹介と目録記入の作成（NDC2類・3類）	NDC2類・3類関連の資料紹介と目録記入の確認
第22回	書誌記述（５）	ISBN 教科書演習問題の解説
第23回	資料紹介と目録記入の作成（NDC4類・5類）	NDC4類・5類関連の資料紹介と目録記入の確認
第24回	書誌記述（６）	注記の記述 教科書演習問題の解説
第25回	資料紹介と目録記入の作成（NDC6類・7類）	NDC6類・7類関連の資料紹介と目録記入の確認
第26回	資料紹介と目録記入の作成（NDC8類・9類類）	NDC8類・9類関連の資料紹介と目録記入の確認
第27回	資料紹介と目録記入の作成（指定テーマ）（１）	設定したテーマに関連する資料紹介と目録記入の確認
第28回	資料紹介と目録記入の作成（指定テーマ）（２）	設定したテーマに関連する資料紹介と目録記入の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【予習】各回の授業内容に対応するテキストの該当箇所を事前に通読しておくこと。宿題として指定されたテーマの図書を探し，書誌情報，著者・出版者情報，分類記号等を調べること。加えて，後期の授業では目録記入を作成すること。
【復習】各回の授業内容を見直し，要点をまとめること。授業でシェアした図書資料の情報を確認すること。
本授業のための予習・復習の時間は各回2時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
山本順一監修, 竹之内禎ほか編著,『情報資源組織演習:情報メディアへのアクセスの仕組みをつくる 第2版』, 講座・図書館情報学, ミネルヴァ書房, 2025

【参考書】
竹之内禎ほか編著,『情報資源組織論』, 東海大学出版部, 2020
本体価格2800円＋税
https://www.press.tokai.ac.jp/bookdetail.jsp?isbn_code=ISBN978-4-486-02188-9

【成績評価の方法と基準】
評価の方法：
　毎回の授業への参加と口頭発表（50％）、提出課題（50％）
評価の基準：
授業への2/3以上の出席を前提として、以下の観点から総合的に評価します。
1) 毎回の授業課題に積極的に取り組んだか
2) 分類法，件名法のスキルを習得したか
3) 図書館情報資源の目録データの作成スキルを修得したか

【学生の意見等からの気づき】
同じテーマで同じ図書館を探しても、受講生それぞれに選書の観点が異なり、新たな資料との出会いを楽しみながら学んでいます。

【学生が準備すべき機器他】
ボアソナードタワー１４階の工作室で授業を行います。教室内の棚にNDC、BSH、NCRがありますので、毎回の授業の始めに各自で借り受けて、授業終了時に返却するようにしてください。場所等は初回に指示します。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当します。
中央大学図書館，東京大学駒場図書館，東海大学付属図書館での勤務経験から，情報資源組織法の知見を教授します。
本科目は対面授業を基本としながら、オンライン授業も取り入れるハイブリッド形式で実施予定です。詳細な日程については、開講時にあらためて説明します。
「情報資源組織論」を履修済みであるか、同時履修していることが望ましいです。

【Outline (in English)】
Based on the theory and knowledge learned in information resource organization theory (document organization theory), students will actually create bibliographic data, subject analysis, and classification work.

学校図書館メディアの構成

村上　郷子

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校図書館における多様な情報メディア全般の種類と特性を理解し、必要な資料を選択、収集して組織化していくための基礎的な技術を学ぶとともに、学校図書館の運用に必要な基礎的な知識や技能を身につける。目録と分類作業では、課題が課される場合もある。

【到達目標】
本授業では、司書教諭に必要な情報メディアの特性や情報資源の組織化、資料の配架やレイアウトなどの学校図書館運用に必要な基本的な知識・技能を習得することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業の初回のみオンラインで行う。Hoppiiで、ZoomのURLを確認すること。
本授業では、司書教諭に必要な情報メディアの特性や情報資源の組織化、資料の配架やレイアウトなどの学校図書館運用に必要な基本的な知識・技能を習得することを目的とするため、基本的には講義形式が主となるが、内容によっては、目録・分類等の基本的な演習も含まれる。授業では授業用グループウェア(HULiC)を教員及び学生同士のコミュニケーションツールとして活用する。
　毎回前回の講義内容の確認クイズを行うため、きちんと予習してくること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報社会の現状と学校図書館メディアの種類と特性	学校図書館メディアの種類と特性（概説）、授業用グループウェア(HULiC)ガイダンス
第2回	学校図書館メディアの種類と特性①	印刷資料(図書・逐次刊行物)
第3回	学校図書館メディアの種類と特性②	視聴覚資料・電子資料・他
第4回	学校図書館メディアの出版と流通	メディアの出版・流通の現状（統計）
第5回	学校図書館メディアの収集方針と選書	情報資源の収集、保存、選書方針など
第6回	学校図書館メディアの組織化（1）	目録法①　日本目録規則2018年度版（概念モデルFRBR、エレメントの記録、属性の記録総則）
第7回	学校図書館メディアの組織化（2）	目録法②　体現形の記録（図書）
第8回	学校図書館メディアの組織化（3）	目録法③　著作・表現形他
第9回	学校図書館メディアの組織化（4）	分類①　NDCの構成・一般補助表
第10回	学校図書館メディアの組織化（5）	分類②　人文科学
第11回	学校図書館メディアの組織化（6）	分類③　社会科学
第12回	学校図書館メディアの組織化（7）	分類④　自然科学
第13回	図書記号・別置記号の付与、	配架・試験対策(予備)
第14回	「学校図書館メディアの構成」のまとめ	筆記試験（予定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業以外にも演習課題の提出がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし。必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【参考書】
学校図書館メディアの構成 (探究 学校図書館学第2巻)、「探究 学校図書館学」編集委員会 著、全国学校図書館協議会、2020
学校図書館メディアの構成 (放送大学教材)、米谷優子、呑海沙織著、放送大学教育振興会、2022

【成績評価の方法と基準】
出席・毎回の確認クイズ・課題（50 %）、学期末試験（50 %）によって総合的に評価する。毎回、授業の前に前回事業の確認クイズを行うため、欠席や遅刻が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。また、授業開始より20分経過して入室した者は遅刻とする。全ての授業用資料は、授業用グループウェア(HULiC)上にアップロードするため、個別に準備しておくこと。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
Students will gain an understanding of the basic characteristics of various information and media in school libraries, learn basic techniques for selecting, collecting, and organizing the necessary materials, and acquire the basic knowledge and skills necessary for operating a school library. Assignments will be given in cataloging and classification work.

学校経営と学校図書館

松田　ユリ子

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校図書館の本質的な意義に迫る。まずは学校教育における学校図書館の位置づけを、法律・制度・歴史・学習理論などの面から考察する。その上で学校図書館運営の実際について、事例を豊富に交えながら概観し、受講者とともに理想的な学校図書館のあり方を探る。

【到達目標】
講義の内容を踏まえて、受講生が理想の学校図書館像を明確に捉え、他者に説明できることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教科書および関連する文献を読み、与えられたテーマで期日までにレポートを提出する
翌週までに講師からのコメントを受け取り、指定された時間にやり取りの過程で生じた疑問点や考察したことをディスカッションする

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	この授業で扱う内容と講義のすすめ方の確認
第2回	自分の学校図書館体験から考える学校図書館の意義	事前に課題を提出し、それに基づいて解説及び議論を行う。
第3回	新しい知から考える学校図書館の意義	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第4回	学校教育から考える学校図書館の意義	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第5回	学校の中の学校図書館	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第6回	米国における学校図書館の歴史	事前に教科書の第8章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第7回	日本における学校図書館の歴史	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第8回	日本の学校図書館の現状	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第9回	学校図書館の目的と機能	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第10回	学校図書館のサービス	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第11回	学校図書館の教育活動	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第12回	学校図書館のマネジメント	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。る。
第13回	学校図書館の担当者	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第14回	学校図書館の設計/まとめ	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書だけでなく、示された参考文献その他の情報も可能な限り参照すること。また、参照した文献は全て必ずレポート末尾に書誌情報を明記すること。本授業の準備・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
中村百合子編著『学校経営と学校図書館(司書教諭テキストシリーズII・1)』樹村房, 2022

【参考書】
金沢みどり編著『学校司書の役割と活動改訂版:学校図書館の活性化の視点から』学文社, 2024
全国学校図書館協議会監修『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携:理論と実践』改訂版, 悠光堂, 2017
野口武悟, 前田稔編著『学校経営と学校図書館』改訂ニ版, 放送大学教育振興会, 2023
堀川照代編著『「学校図書館ガイドライン」活用ハンドブック 解説編』悠光堂, 2018

【成績評価の方法と基準】
各レポートの提出が必須である。
事前課題レポート70％、最終レポート30％の比率で評価を行う。質問やディスカッションなど授業参加の状況なども加味する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
課題の指示をより明確にする

【学生が準備すべき機器他】
パソコンが必要だが、準備できない場合は相談すること

【Outline (in English)】
【Course outline】Students will articulate the history, values, legal and foundational principles of the school library profession.
To provide a broad understanding of the field of school library, and facilitate the exploration of the rich possibilities of practice in the field.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to clearly grasp the ideal school library image and explain it to others.
【Learning activities outside of classroom】Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text, and submit a report on the assigned topic by the due date.
【Grading Criteria /Policy】Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (70%), term-end report (30 %), and in-class contribution.

学習指導と学校図書館

松田　ユリ子

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、情報リテラシー教育、メディア・リテラシー教育、言語活動、探究型学習についての理解を深め、学校図書館がいかに教科学習を支えていくかを考える。

【到達目標】
授業のゴールとしては、受講生各自が司書教諭としてのオリジナルな探究学習の授業案をつくることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
指定された文献等を読み、与えられたテーマで期日までにレポートを提出する
授業では、レポート作成の過程で生じた疑問点や考察したことを共有しフィードバックを行った上でディスカッションする

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のすすめ方の説明と学校図書館資料を使った授業を受けた経験の共有
第2回	学習と学校図書館	学習と学校図書館の関係
第3回	「学習指導要領」と学校図書館	学習指導要領と学校図書館の関係
第4回	学校図書館における情報リテラシー教育	情報リテラシー教育と情報活用教育とは
第5回	探究学習プロセスモデル	探究学習プロセスモデルとは
第6回	探究学習プロセスの指導：課題の設定	ブレーンストーミング・マッピング・マンダラート
第7回	探究学習プロセスの指導：情報の収集	レファレンスツール・情報源の探索と収集
第8回	探究学習プロセスの指導：整理・分析	情報カード
第9回	探究学習プロセスの指導：まとめ・共有	プレゼンソフト・論文作法
第10回	学校図書館資料の把握	パスファインダー
第11回	小学校カリキュラムにおける学校図書館の活用	小学校の事例
第12回	中学高校カリキュラムにおける学校図書館の活用	中学・高校の事例
第13回	授業案の発表	発表
第14回	まとめ	司書教諭の役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分が卒業した小学校、中学校、高等学校における学校図書館の状況（職員体制・授業での活用状況）を確認しておくこと。読むことを課された文献だけでなく、参考文献その他の情報も可能な限り参照すること。また、レポート提出の際は参照した文献は全て必ず末尾に示すこと。本授業の準備・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない

【参考書】
桑田てるみ他.チームでつくる探究的な学び：授業のヒントは学校図書館に.全国学校図書館協議会, 2024
塩谷京子ほか.学習指導と学校図書館放送大学教育振興会, 2022
「探究学校図書館学」編集委員会. 学習指導と学校図書館. 全国学校図書館協議会, 2020
日本図書館協会図書館利用教育委員会.問いをつくるスパイラル:考えることか ら探究学習をはじめよう!.日本図書館協会, 2011

【成績評価の方法と基準】
各レポートの提出が必須である。事前課題レポート60％、最終レポート40％の比率で評価を行う。質問やディスカッションなど授業参加の状況なども加味する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
特に無し

【学生が準備すべき機器他】
パソコンが必要だが、用意できない場合は相談すること

【Outline (in English)】
【Course outline】Students will demonstrate competency in multiple literacies (literacy, information literacy and media literacy etc.) and inquiry-based-learning of the school library profession.
To understand the importance of collaboration between school library specialist, teachers and students.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to create an original lesson plan as a librarian teacher.
【Learning activities outside of classroom】Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text, and submit a report on the assigned topic by the due date.
【Grading Criteria /Policy】Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (70%), term-end repotr (30%),and in-class contribution.

社会教育実習

久井　英輔

単位：2単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
備考（履修条件等）：2024年度以前入学生は2年次から受講可
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【授業の概要】
社会教育施設等での実習を通じた、社会教育主事、社会教育士に求められる基礎的・実践的な知識・視点の獲得を目的とする。
【授業の目的・意義】
社会教育主事、社会教育士としての資質・能力の実践的基盤を獲得するため、社会教育事業の現場（社会教育施設等）で求められる基本的・実践的な知識・視点を学生が実習を通して理解する。

【到達目標】
・学生が実習を通して、以下に関する基本的かつ実践的な知識・視点を獲得する。
①社会教育施設経営（経営体制、地域社会との関係等）
②社会教育の現場における学習プログラムの企画・実施・評価
③社会教育主事、社会教育士、その他社会教育関係職員に求められる能力・資質

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
受講者が自分自身で実習先となる社会教育施設等を選定し、その施設において50時間の実習を行う（実習時期、日数については、施設と受講者の事情に応じて柔軟に対応するものとする）。また大学での集合学習では、受講者の実習準備状況、実習進捗報告、実習後報告の場で各自の経験を共有するとともに、社会教育主事あるいは社会教育施設職員のゲストスピーカーとの情報交換の場も設けて、実習で得た知見の深化を図る。
学生による実習記録、報告の内容に対しては、授業内のディスカッションの場などでで担当教員からのフィードバックを随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
演習	演習の趣旨・進め方の説明	受講者各自の問題関心を全体で共有するとともに、社会教育実習の趣旨、実習先選定作業の進め方、年間スケジュールの詳細について説明を行う。
演習	実習準備状況の報告１	実習計画（実習先選定、実習日時、活動内容）についての進捗状況を学受講者が報告する。
演習	実習準備状況の報告２	確定した実習計画を各受講者間で共有する。
実習	社会教育施設における実習１	実習に従事しつつ社会教育施設の経営体制について把握する。
実習	社会教育施設における実習２	実習に従事しつつ社会教育施設の地域社会における位置づけについて把握する。
演習	進捗状況の報告１	実習の進捗状況を受講者間で共有し、施設の経営体制について相互に意見交換する。
演習	進捗状況の報告２	実習の進捗状況を受講者間で共有し、地域社会における社会教育施設の位置づけについて相互に意見交換する。
演習	現場の実践者との対話	ゲストスピーカー（社会教育主事または社会教育施設職員（有資格者））の実践報告を基に、社会教育主事／社会教育士の資質能力のあり方について意見交換する。
実習	社会教育施設における実習３	実習に従事しつつ社会教育施設における学習プログラム企画のあり方について位置づけについて把握する。
実習	社会教育施設における実習４	実習に従事しつつ社会教育施設における学習プログラム実施・評価のあり方について位置づけについて把握する。
実習	社会教育施設における実習５	実習に従事しつつ社会教育関係職員の資質・能力のあり方について検討する。
演習	実習の振り返り１	受講者の実習後報告をもとに、社会教育施設経営のあり方について議論を行う。
演習	実習の振り返り２	受講者の実習後報告をもとに、学習プログラム企画・実施・評価のあり方について議論を行う。
演習	実習の振り返り３	受講者の実習後報告をもとに、学習プログラム企画・実施・評価のあり方について議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
授業内にて随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
実習記録の内容　15％
集合学習の場での報告　40％
集合学習の場での討論への参加状況　30％
最終レポート　15％

【学生の意見等からの気づき】
実習施設を学生自身で選定することが求められますが、施設または教育委員会によって、実習希望者に対する対応が大きく異なるという現状があります。
各方面から担当教員が得た情報を元に、ある程度実習対応の実績を有する自治体・施設についての情報を、必要に応じて学生に提供したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムにおける情報の更新を随時確認するようにしてください。
また、必要に応じてメールによる連絡も併用します。

【その他の重要事項】
本科目は、社会教育主事講習等規程第11条（文部科学省令）に規定された「社会教育実習」に該当する。社会教育主事任用資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための選択必修科目です。2024年度以前入学者は、本科目の代わりに「地域学習支援Ⅱ」または「博物館実習Ⅲ」の単位を修得することでも上記資格・称号の取得が可能ですが、なるべく本科目を単位修得することを推奨します。
この授業を履修するにあたっては、原則として前年度までに「生涯学習入門Ⅰ」「生涯学習入門Ⅱ」を履修し、単位修得していることを求めます。
この授業は2年生から受講可となっていますが、なるべく3年生以上での履修を推奨します。
（社会教育・生涯学習に関する学習を十分行っていない段階で実習を行なっても、学習効果が低いため）
また、この授業は予め固定された曜日・時間割では実施しません。4月の初回授業にて、年間スケジュールの調整・調整を行います。初回授業は以下の通り行います。
　4/11（金）の6時限（18:35～）　於・BT14階、資格課程実習室（精密）

履修登録者は必ずこの初回授業に出席し、本授業の趣旨と進め方について十分に把握してから実習に臨むようにしてください。
なお、上記の初回授業への参加がどうしても難しい場合は、必ず前もって担当教員（久井）にご相談ください。
極力、履修希望者の事情に配慮して、本科目を運用したいと思います。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purpose of this practicum is to acquire the basic and practical knowledge and perspectives required of social education supervisors and social educators.
【Learning objectives】
Students are required to acquire basic and practical knowledge and perspectives on the following:
(1) Management of social education facilities (management system, relationship with local communities, etc.)
(2) Planning, implementation, and evaluation of learning programs at social education facilities)
(3) Competencies and qualities required of social education supervisors, social educators, and other social education-related staffs.
【Learning activities outside of classroom or of practicum】
The standard time for preparation and review for this class is one hour.
【Grading Criteria】
Record of Practicum 15%
Reporting in class 40%
Participation in class discussions 30%.
Final report 15%

博物館資料保存論

今野　農

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館における基本的な機能の１つである「資料保存」について学習する。代表的な資料の劣化要因や環境管理、さらに、歴史的・自然的環境の 保護に対する博物館の役割について、学総的見地から理解を深める。講 義を通じ、資料保存に関する基礎的な能力を身に付け、資料を将来へ継承していくことに対する意識の向上を目指す。

【到達目標】
講義の序盤では、主として材質や劣化要因、取扱いなど、「資料」に関する知識が習得できる。中盤では、温湿度や生物等、資料を取り巻く「環境管理」に関する知識が習得できる。終盤では、博物館外に立地する「地域資 源の保護」に関する知識が習得できる。これら一連の講義を総括して、資料の劣化やその展示・収蔵環境に関し、学芸員としての知識の基盤が形成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
パワーポイントと配布資料による講義を中心とする。その他、サンプルや用具等を講義中に適宜回覧する。また、各回にリアクションペーパーの提出、ないし小テストを課し、記載された重要な事項や質問、小テストの解説については、各回の講義冒頭で取り上げて議論を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博物館における資料保存の意義	学芸員資格課程における資料保存論の位置付けを明確化し、博物館における資料保存の意義について解説する。
第2回	資料の種類・材質と維持管理	主な資料の種類や材質の特性、および維持管理上の留意点について解説する。
第3回	資料の調査	資料の状態調査・現状把握の方法、代表的な分析機器について解説する。
第4回	資料の修復・保存処理	木材、金属等を素材とした資料について、修復や保存処理の方法について解説する。
第5回	資料の梱包・輸送	資料の輸送における保存上の留意点や梱包方法、材料等について解説する。
第6回	日本の伝統的保存法	日本の風土に根差して文化財を伝世してきた、伝統的保存方法について解説する。
第7回	博物館における環境管理・温湿度管理	資料保存における環境管理の概要、および温湿度による劣化とその対策について解説する。
第8回	有害物質管理と照明管理	汚染物質や光による劣化とその対策について解説する。
第9回	有害生物管理	生物被害の種類、日本の代表的な害虫、ＩＰＭ（総合的有害生物管理）について解説する。
第10回	災害と保全対策	災害の種類（火災、地震、水害、盗難等）と対策、復興支援等について解説する。
第11回	地域資源の保存・活用と博物館	地域資源の保存と活用等、地域全体を対象とする博物館の沿革と役割について解説する。
第12回	歴史的環境の保護と博物館	歴史的建造物や史跡等をはじめとする文化財の保護、および博物館の役割について解説する。
第13回	自然環境の保護と博物館	「種の保存」や環境教育等、自然環境の保護における博物館の役割について解説する。
第14回	まとめ・学芸員の役割	授業のまとめとして、資料保存に果たすべき学芸員の役割について解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
分野・専攻を問わず、様々な博物館へ頻繁に足を運ぶ。講義中に関心を持った点、理解が不足していた点は、文献を読むなどして知識を補っておく。小テストの後半は授業の復習的な内容に相当するため、それまでの配付資料を読み返しておく。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
・石﨑武志・編著（2024.10）『博物館資料保存論（第2版）』講談社
・国立文化財機構東京文化財研究所（2011.12）『文化財の保存環境』中央公論美術出版
・京都造形芸術大学（2002.4）『文化財のための保存科学入門』飛鳥企画

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー：60%（内、平常点50%程度、各回コメント、ないし小テスト10%程度）、最終試験：30%。

【学生の意見等からの気づき】
授業の工夫や満足度は例年通り好評であったため、この点は水準の維持を図る。授業時間外の学習活動については、一昨年より導入した事前のレジュメ配布により、多くの学生が講義日前の予習が可能となるように努める。サンプルや機材等の提示も、一定数の好評が得られているので、本年度も継続する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course provides students with basic knowledge of preservation of the museum collections. The aria of this course is preservation of the museum collections, environmental agents of museums, and preservation of historic and natural properties.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings;
　− acquire knowledge of proper handling, storage, exhibit, restoration, and packing and shipping techniques of museum objects.
　− acquire knowledge of controlling environmental agents (e.g., temperature, relative humidity, light, and air pollution) and Integrated Pest Management.
　− acquire knowledge of preservation and conservation of historic monuments and heritages, and protection of the natural environment.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content by reading references.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the followings;
Term-end examination: 30%, Short reports : 10%, in class contribution: 60%.

博物館資料保存論

清水　玲子

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学芸員資格を取得する際に必要な博物館における資料保存の基礎について学習する。資料を展示すると共に資料を保存（保全）する役割を、博物館は担っている。この相反する事柄を可能にする為に、資料に劣化や害を及ぼす要因、資料を展示及び保存する環境を適切に保つ為に土台となる知識を修得する。また、博物館は地域の文化財保護の担い手でもあることから、文化財の保存や活用等についても見ていきたい。

【到達目標】
博物館における資料の展示及び収蔵の環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通して、博物館資料の保存に関する基礎的能力を養う。
到達目標としては、博物館における資料保存及び資料の置かれる環境に関して科学的に分析できる為の基礎学力を身に着けることを目指す。次に、資料劣化の原因を把握し、対策を構築できる応用能力を育む為に、自ら考えることの重要度を理解し実行できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・pptによる資料を提示しながら、実施する。
・講義後に、リアクションペーパーを毎回提出。
・第1回目の講義URLの案内はHoppiiのお知らせ機能から送付。
・ワークショップを実施予定。
・ワークショップの日程により、授業内容は前後することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
講義	はじめに（オリエンテーション）	オンライン講義を履修する上の注意点や評価方法などの説明,博物館資料と学芸員の役割を考える
講義	養生と梱包	資料の貸借等における調書の作成や輸送の手順及び保存上の留意点について。
講義	文化財保護の歴史	近代以降の文化財保護の法制度の変遷について
講義	文化財と博物館	保護から活用へ文化財の位置づけが大きく変化する中で、博物館の役割とは何か。
講義	美術資料の取り扱い①	美術資料の保存において、学芸員に必要な知識と技術について学ぶ
講義	美術資料の取り扱い②	美術資料の保存において、学芸員に必要な知識と技術について学ぶ
ワークショップ	資料保存の意義	資料保存の意義について考える
講義	美術資料の取り扱い③	美術資料の保存において、学芸員に必要な知識と技術について学ぶ
講義	展示室の環境①	資料を保存する環境について（劣化要因として温度と湿度）
講義	展示室の環境②	資料を保存する環境について（劣化要因となる光）
講義	展示室の環境③	資料を保存する環境について（劣化要因となる光）
講義	資料の修復と保全	資料の修復と保全に関する手法と注意事項
講義	まとめ	本講義のまとめ
ワークショップ	期末課題	期末課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・原則、授業後にリアクションペーパーを提出してもらうが、その他については、必要に応じて告知する。
・本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは設定していない。授業はパワーポイント投影しながら進める。必要があれば、資料を配布予定。

【参考書】
『歴史を未来につなぐ：「3・11からの歴史学」の射程』東京大学出版、2019年5月
金山喜昭『博物館と地方再生－市民・自治体・企業・地域との連携－』同成社、2017年3月
奥村弘・村井良介・木村修二『地域歴史遺産と現代社会 (地域づくりの基礎知識 1)』神戸大学出版会、2018年1月
吉田 正人『世界遺産を問い直す』山と渓谷社、2018年8月
*その他、必要に応じて授業内で告知する。

【成績評価の方法と基準】
・講義終了後に、理解の程度を確認する為のリアクションペーパーを提出。
小課題50％　期末課題50％　にて評価する。
＊詳細は、第1回目の講義（オリエンテーション）で説明する。

【学生の意見等からの気づき】
他の出席者との関係性が希薄になるという学生からの意見があったので、ワークショップを取り入れ、お互いに意見交換したり、共に何かを考える時間を設けながら進める予定である。

【学生が準備すべき機器他】
期末課題に関して、スマホを使用する可能性がある。

【Outline (in English)】
Students learn the basics of preservation of museum materials, which is necessary to obtain a curator's license. Museums are responsible for exhibition and preserving materials. In order to fulfill this contradictory role, the basic knowledge for the proper maintenance of deterioration and harmful factors, exhibition and preservation environment is acquired. In addition, since museums are responsible for the protection of local cultural properties, we would like to take a look at the preservation and utilization of cultural properties.

博物館展示論

大山　裕

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人類がこれまで歩んできた歴史や、その営みのなかで育まれた文化を伝える技術としての展示について、その多様な手法と効果、これからの可能性について学びます。

【到達目標】
１．博物館展示とは何かを理解し、他の展示との違いを知る。
２．博物館展示における多様な表現を知り、その特徴を理解する。
３．展示室を構成する展示ケースや展示台などの各種の展示什器や展示手法の特性を理解し、展示の目的や展示資料に適した展示空間をつくれるようになる。
４．展示表現の意義や効果、その可能性ついて考え、博物館の理解者、博物館の未来を支える人材となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学期の途中で変更になる場合には、別途提示します。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
人に伝える技術として広まった展示の歴史を知り、博物館という施設の中で、様々な表現メディアを駆使して、対象に応じて分かりやすく伝える展示方法について学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	展示とは何か１	本講義の概要と、博物館とは何か、博物館における展示について解説し、今日の博物館展示のあり方を学ぶ。
第2回	展示とは何か２	博物館展示の事例を紹介しながら諸類型を理解し、博物館展示はどのようにすべきかについて学ぶ。
第3回	博物館における学び１	生涯学習、学校との連携、地域づくりなど、博物館の社会的役割について学ぶ。
第4回	博物館における学び２	子どもや高齢者、障がい者、外国人など多様な来館者に対応する展示手法、参加型展示について学ぶ。
第5回	展示空間の構成１	展示の構想、計画、設計など、博物館をつくる流れ、展示空間のつくり方を学ぶ。
第6回	展示空間の構成２	展示資料の配置や見せ方、動線計画と視線計画について学ぶ。
第7回	展示の芸術性１	博物館と美術館の比較、解説や鑑賞について展示の表現方法を学ぶ。
第8回	展示の芸術性２	物語性、記憶や共感を伝える展示表現を学ぶ。
第9回	展示の科学性	資料保存の考え方と、文化財の保存と活用について学ぶ。
第10回	特別講義	文化財の保存や活用ついて、ゲスト講師から最新事例などを学ぶ。
第11回	展示の解説と造型１	グラフィックパネルにおけるデザインと効果について学ぶ。
第12回	展示の解説と造型２	模型、パノラマ、ジオラマ等について学ぶ。
第13回	展示照明	照明計画の要点と課題について学ぶ。
第14回	展示評価、博物館展示のまとめ	博物館の評価について学ぶ。最後に博物館展示のまとめを行い、講義で学んだ重要な点を再確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で扱った事項については、実際に博物館等を訪れ、できるだけ自分の目で確かめること。

【テキスト（教科書）】
里見親幸　「博物館展示の理論と実践」同成社

【参考書】
特に無し。

【成績評価の方法と基準】
授業後の感想文５０％、複数回実施する課題レポート５０％によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生からのフィードバック（感想文、質問等）を大切にして授業運営をすすめる。

【学生が準備すべき機器他】
特に無し。

【その他の重要事項】
特に無し。

【Outline (in English)】
Learn about the various methods, effects, and future possibilities of display as a technology to convey the history of humankind and the culture that has been cultivated through that activity.

博物館展示論

松丸　裕之

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
空間の情報メディアとしての展示、特に博物館における展示とはどのようなものか、ここでは展示の基本的な概要をはじめ博物館展示の特性、企画・デザイン・制作の進め方について実践例を通じて学ぶ。授業では、博物館の展示の現場に携わる外部の多様な専門家からその実践について話しを聞くことも予定している。また講義の他、実際の展示施設での学びや、展示企画構成を実践するグループワークも予定している。

【到達目標】
①博物館展示の特性について理解を深める
②情報メディアとしての展示を構成するストーリー・演出要素等について理解する
③展示がどのように構成し出来上がっているかを理解する
④小規模の展示を企画・構成することができるようになる
＊尚、事前に博物館概論・博物館資料論等を履修し博物館概要について理解しておくことを推奨します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
予め用意するパワーポイントをもとに講義を進める。
各回終了後にリアクションペーパーを提出するとともに、施設の実地見学を予定している。またグループワークでは受講生を任意にグループ分けし、与えられたテーマをもとにグループで企画構成を行いプレゼンテーションし、最後に講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要説明、進め方、博物館展示論の概要等。
第2回	博物館展示概論-博物館展示とは何か	博物館展示の特性・役割、諸類型等について展示の歴史を通じて学ぶ。
第3回	博物館展示のプロセス	博物館展示を支える人々、展示の構成・プロセス等について実際例をもとに学ぶ。
第4回	様々な博物館展示	国内外の多様なテーマによる博物館展示のあり方について学ぶ。
第5回	博物館展示の技術 Ⅰ 企画する	博物館展示の企画とはどのようなものか、どのように組み立てるのかを実際例をもとに学ぶ。（ゲストスピーカーを予定）
第6回	博物館展示の技術 Ⅱ デザインする	博物館展示のデザイン・設計とはどのようなものか、どのように行いどこにこだわるのか等について実際例をもとに学ぶ。（ゲストスピーカーを予定）
第7回	博物館展示のエレメント Ⅰ実物資料と展示ケース・照明 /グループワーク①	博物館展示における主要な要素である実物資料の取り扱いについて、その展示方法と合わせて学ぶ。
第8回	現地学習	都内の施設を実地見学・学習予定。（レポートを提出すること）＊日曜を予定
第9回	博物館展示のエレメント Ⅱ展示解説・グラフィック /グループワーク②	展示の主要な解説手段であるグラフィック及び様々な解説手段について学ぶ。
第10回	博物館展示のエレメント Ⅲ模型・造形	博物館展示をわかりやすく表現する手段としての模型・造形・レプリカ（複製）等について、その実際例を通じて制作過程と留意点等について学ぶ。（ゲストスピーカーを予定）
第11回	博物館展示のエレメント Ⅳ映像・音響 /グループワーク③	近年急速に発展する博物館展示における映像等のあり方・技術・事例について、その実際例をもとに学ぶ。
第12回	グループワーク④	事前に与えられたテーマをもとにグループ毎にディスカッションし、企画・構成を検討　まとめ作業を行う。
第13回	プレゼンテーション	最終企画案をまとめ、グループごとにプレゼンテーションし、講評する。
第14回	博物館を楽しむ、まとめテスト	博物館展示をめぐる今後の課題・役割についてまとめを行う。まとめテストを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
３館以上のミュージアム（博物館・資料館・科学館等）に行き、展示の構成・ストーリー・演出・空間の特徴について確認・まとめておくこと。
またそれ以外にも積極的に各種施設見学を行うこと。
（当大学はキャンパスメンバーズ会員のため東博等無料で見学が可能）

【テキスト（教科書）】
里見親幸「博物館展示の理論と実践」同成社
＊パワーポイント資料を中心に使用予定

【参考書】
日本展示学会編「展示学事典」2019　丸善出版

【成績評価の方法と基準】
出席 40%、グループワーク・プレゼンテーション 20%、レポート 20%、テスト（講義毎の小テスト及び期末テストを予定、教科書・講義内容から出題）20%

【学生の意見等からの気づき】
受講者からのフィードバックを大切に授業運営を進める。

【その他の重要事項】
・第8回「現地学習」は、日曜に行います。日程等詳細は講義の中で説明します。(各自入館料・交通費が必要)
・尚、担当講師は長年展示会社にて博物館等の施設・展示計画の実務を行ってきており、これらの実践を通して博物館展示を様々な角度から見ていきます。

【Outline (in English)】
In this course, we will learn about the basic outline of exhibitions, as well as the characteristics, planning, design, and production methods of museum exhibitions, through practical examples. In the class, we also plan to hear from a variety of external experts who are involved in museum exhibitions about their practices. In addition to lectures, there will also be learning at actual exhibition facilities and group work to practice exhibition planning composition.

博物館情報・メディア論

柏女　弘道

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館における情報の活かし方を考える

【到達目標】
博物館における情報の意義と活用方法や情報発信の課題について理解し、博物館情報の管理と活用に関する基礎的能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は博物館における情報の整備・提供・活用に関して、多様なテーマから説明します。大規模館の例にとらわれず、市町村規模の博物館におけるメディア活用の現状と課題についても取り上げます。授業は講義形式で行います。
リアクションペーパー等に記載された質問や感想については、次回以降の講義の中で回答をおこなうとともに、その後の講義に活かしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 博物館におけるメディアと情報	授業ガイダンスとともに、博物館におけるメディアや情報とは何かについて概説し、その意義と重要性を学ぶ。
第2回	メディアとしての博物館、ICT社会における博物館	博物館のメディアとしての役割や、ICT化による博物館の情報の管理や公開の変化について学ぶ。
第3回	博物館の発信する情報の伝わり方	広告と広報、マスメディアとの関わりなどについて学ぶ。
第4回	博物館における映像理論・情報機器の活用	博物館における映像の必要性を説明するとともに、映像の活用事例に触れながら、その特徴や課題などを取り上げる。
第5回	インターネットによる情報公開①博物館のデジタルアーカイブの現状	資料管理に用いられる資料データベースの概要と、一般公開されているデータベースについて学ぶ。
第6回	インターネットを使った情報公開② ホームページ、SNS等	インターネットを活用した情報発信について、ホームページなどの例を見ながら学ぶ。
第7回	博物館活動と著作権①	著作権法の概要と博物館活動との関りについて学ぶ。
第8回	博物館活動と著作権②、肖像権	実際の博物館活動の中での著作権や肖像権に関する事例について学ぶ。
第9回	ユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインの考え方を通して、あらゆる人たちが利用しやすい博物館における情報発信について学ぶ。
第10回	様々な情報伝達メディア	電子機器に限定されない博物館で使用される様々な情報伝達メディアについて学ぶ。
第11回	連携とネットワーク	地域や他機関との連携事業やネットワークの構築と、それに伴う情報の共有や発信について学ぶ。
第12回	博物館の情報管理・メディア利用の現状と課題①	博物館総合調査の結果などをとおして、博物館における情報管理やメディア利用の現状と課題について学ぶ。
第13回	博物館の情報管理・メディア利用の現状と課題②	博物館法改正などをとおして、これからの博物館に求められる情報管理やメディアの活用について学ぶ。
第14回	学芸員と情報	博物館の情報を管理・活用する学芸員に求められる姿や、メディアとしての学芸員のあり方について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博物館や美術館を実際に訪れて、博物館における情報の活用状況をイメージできるように心掛ける。また、博物館のホームページや博物館に関する情報サイトなども確認する。授業で取り上げた事例について、文献やインターネット、さらには現地調査で確認するなど、個々に内容を理解するための学習活動を行う。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
稲村哲也・近藤智嗣編著『博物館情報・メディア論』（放送大学教育振興会、2018年）
水嶋英治・田窪直規編著『博物館情報学シリーズ1　ミュージアムの情報資源と目録・カタログ』（樹村房、2017年）
若月憲夫編著『博物館情報学シリーズ4　ミュージアム展示と情報発信』（樹村房、2021年）
日本教育メディア学会編『博物館情報・メディア論』（ぎょうせい、2013年）
日本展示学会編『展示論―博物館の展示をつくる―』（雄山閣、2010年）
甲斐正道著、全国美術館会議編『現場で使える美術著作権ガイド2019』（美術出版社、2019年）
広瀬浩二郎編著『ひとが優しい博物館―ユニバーサル・ミュージアムの新展開―』（青弓社、2016年）

【成績評価の方法と基準】
平常点56％、レポート44％。レポートの課題や文字数については授業内で通知する。

【学生の意見等からの気づき】
なし

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム

【その他の重要事項】
博物館について日ごろから興味関心をもち、各自授業外の学習活動を積極的に行ってください。また、パソコンや情報端末等機器等、情報を発信・受信するためのツールの操作方法については授業では詳しく解説しませんが、各自出来る範囲で扱い方を覚えるようにしてください。

【Outline (in English)】
Think about how to make use of information in museums

博物館情報・メディア論

石川　貴敏

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館における情報の整備・提供・活用に関して、多様なテーマから説明するとともに、各テーマに基づく博物館の現状と課題についても取り上げます。特に、情報通信技術は進展が早いため、できるだけ新しい事例を盛り込むなどの工夫を図るとともに、今後の可能性や展開についても考察します。2023年4月に施行された改正博物館法や、文化審議会博物館部会「博物館ＤＸの推進に関する基本的な考え方」（2023年2月）などを踏まえた授業を行います。新しい取り組みを知り、これからの博物館のあり方を考えるために学びます。

【到達目標】
将来、博物館に関する仕事を志す学生は、博物館における情報の意義と活用方法や情報発信の課題について理解するなど、博物館情報の提供と活用に関する基礎的能力を身に付けることができます。また、文化・教育関連の仕事をはじめ、博物館以外の仕事を志す学生は、博物館の賢い利用者、支援者となるために、博物館における情報の活用方法などを理解することで、ミュージアム・リテラシーを高めることができます。約70年ぶりとなる博物館法の単独改正が実現するなど、2022年以降、博物館制度は大きな転換期を迎えているため、新たな法制度を踏まえた内容を理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行います。授業毎にリアクションペーパーを提出してもらい、できるだけ一方的な講義スタイルにならないよう、時に学生の意見を踏まえながら授業内容の工夫を図っていきたいと考えています。授業では、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博物館における情報の意義	授業ガイダンスとともに、博物館における情報とは何かについて概説し、その意義を伝える。また、情報教育の意義と重要性についても触れる。
第2回	メディアとしての博物館	新たな法制度や指針をもとに、博物館に求められている役割について伝えるとともに、博物館のメディアとしての役割について解説する。
第3回	ＩＣＴ社会における博物館	情報資源の双方向活用とその役割、情報倫理、さらには学校や図書館、研究機関とのネットワークなどを、現在の博物館事情を踏まえながら解説する。
第4回	博物館活動の情報化＜収集保存活動・調査研究活動＞	博物館の収集保存活動や調査研究活動における情報の活用と展開について紹介する。
第5回	博物館活動の情報化＜展示活動＞	博物館の展示活動における情報の活用と展開について紹介する。
第6回	博物館活動の情報化＜教育普及活動・学習活動・管理運営＞	博物館の教育普及活動や学習活動、管理運営における情報の活用と展開について紹介する。
第7回	資料のドキュメンテーションとデータベース化	資料のドキュメンテーションとデータベース化の手順や、博物館における実施状況、活用・展開事例について説明する。
第8回	デジタルアーカイブの現状と課題	現在、各地の博物館で取り組まれているデジタルアーカイブ事業を概説するとともに、今後の可能性と課題について説明する。
第9回	博物館における情報機器の活用	博物館における情報機器の活用（情報端末、新たなメディア経験等）について紹介する。博物館メディアの役割と学習活用の状況についても触れる。
第10回	インターネットの活用	現在の博物館における様々なインターネットの活用状況を説明するとともに、今後の展開についても解説する。
第11回	博物館における映像理論	博物館における映像の必要性を説明するとともに、映像の活用事例に触れながら、その特徴や課題などを取り上げる。
第12回	博物館に関する法と権利	知的財産権（著作権等）や所有権、個人情報（肖像権等）など、博物館情報の構築・発信に伴う権利や法令などについて伝えるとともに、権利処理や、情報の整備・管理・発信（公開）時における課題についても触れる。
第13回	アクセシビリティの高い博物館を目指して	現在の博物館は、あらゆる人々にとってアクセシビリティの高い博物館を目指している。利用者の観点から博物館情報のあり方について語る。
第14回	博物館における情報・メディア戦略（まとめ）	博物館のミッションや中長期計画などに基づいた展開や、博物館に対する社会的要請や今日的課題を通して、今、求められている博物館の情報・メディア事業について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博物館や美術館を実際に訪れて、博物館における情報の活用状況をイメージできるように心掛けてください。また、博物館のホームページや博物館に関する情報サイトなども確認してください。授業ではできるだけ多くの事例を紹介することを心掛けます。授業各回で紹介した事例は、後日、講義資料とは別の資料（講義ＵＲＬメモ）にまとめて学習支援システムに掲載します。講義ＵＲＬメモには、授業で紹介しきれなかった情報も豊富に盛り込みますので、復習は必要です。授業で取り上げた事例について、文献やインターネット、場合によっては現地で確認するなど、個々に内容を理解するための学習活動を行ってください。博物館に関する講義ですので、博物館とはどのような施設であり、どのような活動を行っているのかについて知っていないと内容が理解できないかもしれません。各自、授業時間外の学習活動を積極的に行って、博物館の理解に努めてください。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使いません。必要に応じて資料を用意し、学習支援システムを通じて配布します。

【参考書】
『博物館情報・メディア論〔新訂版〕(放送大学教材)』（鶴見英成・近藤智嗣編著，放送大学教育振興会，2025年3月予定）
『博物館情報・メディア論(放送大学教材)』（稲村哲也・近藤智嗣編著，放送大学教育振興会，2018年）
『博物館情報・メディア論(放送大学教材)』（西岡貞一・篠田謙一編著，放送大学教育振興会，2013年）
『博物館情報・メディア論』（日本教育メディア学会編，ぎょうせい，2013年)
『博物館学III ― 博物館情報・メディア論』（大堀哲・水嶋英治編著，学文社，2012年）
『博物館展示論 第2版 学芸員の現場で役立つ基礎と実践 (KS理工学専門書)』（黒沢浩編著，講談社，2025年3月予定）

『博物館展示論(ＫＳ理工学専門書)』(黒沢浩編著，講談社，2014年)
『展示論－博物館の展示をつくる－』(日本展示学会編，雄山閣，2010年)
『文化とまちづくり叢書 改正博物館法詳説・Ｑ＆Ａ 地域に開かれたミュージアムをめざして』(博物館法令研究会編著，水曜社，2023年)
『博物館法－法律・施行令・施行規則 重要法令シリーズ083』(信山社編集部編，信山社，2023年)

【成績評価の方法と基準】
本科目では「平常点」と「レポート課題」で総合的に評価します。「平常点」は、各回の授業後に、授業内容をもとにリアクションペーパーを提出してもらい、授業での学習状況や参加度を評価します。レポート課題（到達目標に掲げた内容につながる課題を考えます）は期末に提示します。「レポート課題」は、与えられた課題に即した内容のレポートをまとめることができるかを評価します。「平常点40％（40点）」「レポート課題60％（60点）」の配分（合計100点）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
フィードバックの時間や振り返りの時間を設けることで、授業内容への理解が深まるようにします。本授業では、数多くの事例（情報）を紹介しますので、授業後に学生が復習しやすいように、学習支援システムを活用します。本授業に関する事項は、近年、活発に新たな動きを見せています。国からも新たな法制度や施策・指針が示されていることから、できるだけ新しい情報を提供するとともに、そうした今後のあり方に関して、学生と意見を交わしていけたらと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
本授業では、講義資料（パワーポイント等）・参考資料とともに、インターネットを介した個別の事例（取組）を紹介します。インターネットにアクセスできる情報機器（ノートＰＣやスマートフォン等）は準備できると望ましいです。また、各回の内容を復習できるように、講義資料・参考資料や、授業で紹介した事例（取組）のＵＲＬは学習支援システムに掲載します。リアクションペーパーやレポートの提出も学習支援システムを利用して行います。なお、計14回のうち、数回はオンライン（法政大学専用Zoom）を用いた授業を行う予定です。法政大学専用Zoomにつなげるように準備を行ってから、出席してください。

【その他の重要事項】
ミュージアムに関する国内唯一の専門シンクタンクである丹青研究所において、30年以上の実務経験を有しています。そのうち25年以上にわたって、情報部門の責任者を務めています。その間、各種ミュージアムに関する官公庁や民間からの委託事業を担当し、これからのミュージアムのあり方に関する調査研究事業にも従事しています。日々多くの情報を集め発信する立場を生かして、豊富な情報をもとに、これからの方向性を思考する授業を行います。

【Outline (in English)】
I will explain from various themes about the development, provision and utilization of information in museums, and also explain about the current situation and issues of museums based on each theme. In particular, since information and communication technologies are progressing rapidly, I will try to introduce new cases as much as possible, and also consider future possibilities and developments. Learn to understand new initiatives and think about what the museum should be like in the future. Students who aspire to work related to museums in the future will be able to acquire basic abilities regarding the provision and utilization of museum information, such as understanding the significance and utilization of information in museums and the challenges of disseminating information. In addition, students who wish to work outside the museum, including those related to culture and education, can improve museum literacy by understanding how to utilize information in the museum in order to become wise users and supporters of the museum. Please visit museums and art galleries so that you can imagine how information is being used in museums. Also, check the museum's homepage and information sites about the museum. In class, I try to introduce as many examples as possible. The examples introduced in each lesson will be compiled into materials and posted on the learning support system at a later date. The material will include a wealth of information that could not be introduced in class, so a review is necessary. Please carry out learning activities to understand the contents individually, such as checking the literature, the Internet, and in some cases on-site about the cases taken up in the class. Since this is a lecture about museums, you may not understand the contents unless you know what kind of facility the museum is and what kind of activities it is doing. Please try to understand the museum by actively engaging in learning activities outside the class. The standard preparation and review time for this class is 4 hours each. In this subject, a comprehensive evaluation will be made based on "normal points" and "report assignments". For "normal points", after each lesson, you will be asked to submit a Reaction-Paper based on the content of the lesson, and the learning situation and degree of participation in the lesson will be evaluated. Report assignments (think issues that lead to the content set in the goals) will be presented at the end of the term. "Report assignment" evaluates whether it is possible to put together a report with contents that match a given assignment. Evaluation is based on the distribution of "normal score 40%(40 points)" and "report assignment 60%(60 points)" (total 100 points).

博物館実習Ⅰ

森屋　雅幸

単位：2単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館の実務に関するさまざまな知識・技術や心構え・作法を習得するとともに、将来、博物館のみならず、文化・教育関連施設や関連するNPO等の分野でも活用できる技能を養うことを目的とする。

【到達目標】
学芸員としての心構えや作法、資料の観察・記録・整理・展示など博物館活動に関わるさまざまな知識・技術を理解し、実践へとつなげることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この授業では、博物館活動の基礎となる実習を行う。前期には大学のコレクションを用いた実務実習を行う。後期には各種の資料の取り扱いなどを学ぶ。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックするなど、受講者との双方向の授業を意識して実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	事前指導	ガイダンスとして実習全体の事前指導に加え、「博物館学芸員という仕事・実務」に関して概説する。
第2回	博物館資料の取り扱い（実務実習のための指導）	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に実資料に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第3回	博物館資料の取り扱いⅠ	資料の整理・実測(1)
第4回	博物館資料の取り扱いⅡ	資料の整理・実測(2)
第5回	博物館資料の取り扱いⅢ	資料の整理・実測(3)
第6回	博物館資料の取り扱いⅣ	資料の整理・実測(4)
第7回	博物館資料の取り扱いⅤ	取り扱い資料の整理・調査・観察・記録に至る成果を発表し、実務実習・調査研究の成果・考察について発表する。
第8回	博物館資料の取り扱いⅥ	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に実資料（考古資料）に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第9回	博物館資料の取り扱いⅦ	アーカイブ実習（1）
第10回	博物館資料の取り扱いⅧ	アーカイブ実習（2）
第11回	博物館資料の取り扱いⅨ	アーカイブ実習（3）
第12回	博物館資料の取り扱いⅩ	アーカイブ実習（4）
第13回	博物館見学会Ⅰ	東京および近郊の博物館における学芸員からの業務の解説を通して、博物館の実務を理解する。
第14回	事後指導	前期の実習の総括・講評・指導
第15回	ガイダンス・コレクション調査Ⅰ	後期の実習のガイダンスと、夏季休暇中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（郷土玩具等）に関して、その成果を報告する。
第16回	コレクション調査Ⅱ	夏季休暇中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（郷土玩具等）の資料カードを作成する。
第17回	コレクション調査Ⅲ	夏季休暇中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（郷土玩具等）の資料カード作成の続きを行う。
第18回	コレクション調査Ⅳ	夏季休暇中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（郷土玩具等）のキャプションを作成する。
第19回	コレクション調査Ⅴ	夏季休暇中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（郷土玩具等）のキャプション作成の続きを行う。
第20回	コレクション調査Ⅵ	夏季休暇中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（郷土玩具等）の写真撮影を行う。
第21回	博物館資料の取り扱いXI	美術資料（掛軸など）の取り扱いと展示を体験する。
第22回	博物館資料の取り扱いXⅡ	考古資料の取り扱いと梱包・運搬を体験する。
第23回	博物館資料の取り扱いXⅢ	考古資料の取り扱いと展示を体験する。
第24回	博物館資料の取り扱いXⅣ	文書資料の取り扱いと整理を体験する。
第25回	博物館資料の取り扱いXⅤ	拓本実習（1）
第26回	博物館資料の取り扱いXⅥ	拓本実習（2）
第27回	博物館見学会Ⅱ	東京および近郊の博物館における学芸員からの業務の解説を通して、博物館の実務を理解する。
第28回	事後指導	課題提出、実習全体の総括・講評・指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
夏休み中に資料収集をすることは、ホームワークとする。

【テキスト（教科書）】
随時プリントなどを配布する。

【参考書】
随時プリントなどを配布する。

【成績評価の方法と基準】
平常点と課題の提出によって評価する。
平常点50％、課題50％。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
本授業は25名を上限とする。なお、初回の授業にて希望者を選考する。また見学会や授業の詳細は、授業内の指示および資格課程実習準備室の掲示などを留意すること。

【Outline (in English)】
The purpose is to acquire various techniques, attitudes, and manners related to museum work, and to develop skills that can be used in the future not only in museums but also in fields such as cultural and educational facilities and related NPOs.

博物館実習Ⅰ

森屋　雅幸

単位：2単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館の実務に関するさまざまな知識・技術や心構え・作法を習得するとともに、将来、博物館のみならず、文化・教育関連施設や関連するNPO等の分野でも活用できる技能を養うことを目的とする。

【到達目標】
学芸員としての心構えや作法、資料の観察・記録・整理・展示など博物館活動に関わるさまざまな知識・技術を理解し、実践へとつなげることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この授業では、博物館活動の基礎となる実習を行う。前期には大学のコレクションを用いた実務実習を行う。後期には各種の資料の取り扱いなどを学ぶ。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックするなど、受講者との双方向の授業を意識して実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	事前指導	ガイダンスとして実習全体の事前指導に加え、「博物館学芸員という仕事・実務」に関して概説する。
第2回	博物館資料の取り扱い（実務実習のための指導）	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に実資料に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第3回	博物館資料の取り扱いⅠ	資料の整理・実測(1)
第4回	博物館資料の取り扱いⅡ	資料の整理・実測(2)
第5回	博物館資料の取り扱いⅢ	資料の整理・実測(3)
第6回	博物館資料の取り扱いⅣ	資料の整理・実測(4)
第7回	博物館資料の取り扱いⅤ	取り扱い資料の整理・調査・観察・記録に至る成果を発表し、実務実習・調査研究の成果・考察について発表する。
第8回	博物館資料の取り扱いⅥ	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に実資料（考古資料）に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第9回	博物館資料の取り扱いⅦ	アーカイブ実習（1）
第10回	博物館資料の取り扱いⅧ	アーカイブ実習（2）
第11回	博物館資料の取り扱いⅨ	アーカイブ実習（3）
第12回	博物館資料の取り扱いⅩ	アーカイブ実習（4）
第13回	博物館見学会Ⅰ	東京および近郊の博物館における学芸員からの業務の解説を通して、博物館の実務を理解する。
第14回	事後指導	前期の実習の総括・講評・指導
第15回	ガイダンス・コレクション調査Ⅰ	後期の実習のガイダンスと、夏季休暇中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（郷土玩具等）に関して、その成果を報告する。
第16回	コレクション調査Ⅱ	夏季休暇中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（郷土玩具等）の資料カードを作成する。
第17回	コレクション調査Ⅲ	夏季休暇中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（郷土玩具等）の資料カード作成の続きを行う。
第18回	コレクション調査Ⅳ	夏季休暇中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（郷土玩具等）のキャプションを作成する。
第19回	コレクション調査Ⅴ	夏季休暇中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（郷土玩具等）のキャプション作成の続きを行う。
第20回	コレクション調査Ⅵ	夏季休暇中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（郷土玩具等）の写真撮影を行う。
第21回	博物館資料の取り扱いXI	美術資料（掛軸など）の取り扱いと展示を体験する。
第22回	博物館資料の取り扱いXⅡ	考古資料の取り扱いと梱包・運搬を体験する。
第23回	博物館資料の取り扱いXⅢ	考古資料の取り扱いと展示を体験する。
第24回	博物館資料の取り扱いXⅣ	文書資料の取り扱いと整理を体験する。
第25回	博物館資料の取り扱いXⅤ	拓本実習（1）
第26回	博物館資料の取り扱いXⅥ	拓本実習（2）
第27回	博物館見学会Ⅱ	東京および近郊の博物館における学芸員からの業務の解説を通して、博物館の実務を理解する。
第28回	事後指導	課題提出、実習全体の総括・講評・指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
夏休み中に資料収集をすることは、ホームワークとする。

【テキスト（教科書）】
随時プリントなどを配布する。

【参考書】
随時プリントなどを配布する。

【成績評価の方法と基準】
平常点と課題の提出によって評価する。
平常点50％、課題50％。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
本授業は25名を上限とする。なお、初回の授業にて希望者を選考する。また見学会や授業の詳細は、授業内の指示および資格課程実習準備室の掲示などを留意すること。

【Outline (in English)】
The purpose is to acquire various techniques, attitudes, and manners related to museum work, and to develop skills that can be used in the future not only in museums but also in fields such as cultural and educational facilities and related NPOs.

博物館実習Ⅱ

小西　雅徳

単位：2単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館における特別展を含む企画展の実施は学芸員活動の花形です。この授業では企画展実施過程の手法を学びつつ、日本及び海外での博物館活動の現状にも触れていきます。例えばコレクションの関係や館規模・組織等の問題から、集客性に重点をおいて企画展を重視する傾向が何故あるのかを考えていきます。企画展は学芸員を志す者にとって最も興味深い分野ですので、学生各人の企画力やグループ討議を通じて企画展実施のノウハウを学びながら、博物館の裏方を支える学芸員の世界をのぞいてみましょう。

【到達目標】
企画展を実施するには様々な専門性に加え、多様な価値観や社会観を基本とした企画展実施への過程というものがあります。受講生にはその実際の手法をテキストや画像あるいは実資料を手に取りながら実体験的に学んでいきます。企画展実施までの手法を課題発表の繰り返しにより、受講生の豊かな発想や視点を加えつつ、博物館現場の実際に近い状況をシミュレーションします。同時に博物館学という基礎能力の構築と豊かな企画展創造への個々人のスタイルを引き出していきたいです。後期授業では個々人の企画力に加え、グループワークとしての企画展を構想・発表して企画展実施計画までの到達点を確認します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業内容は、前期と後期とを通じて①博物館展示の意義、②企画展実施の工程と手順、③学生個々人の企画展案発表、④グループ企画展発表とし、適宜配布資料により授業を進めていきます。前期は主として講義形式ですが博物館の展示状況をスライド等で紹介し、博物館資料の古代鏡等の実資料にも触れます。後期は各人の企画展発表やグループ発表準備にあてます。発想を重視した企画力を高め、大規模展で主流となりつつあるプロジェクト体制をグループワークを通じて模擬体験します。発表はパワーポイントとなります。レポート課題を随時課していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス　博物館展示と学芸員の世界観	授業の狙いや課題提示について説明します。学芸員の心得や七つ道具等を紹介します。
第2回	博物館展示の時代的、地域的変遷推移や、日本と海外の企画展の違いについて考える	博物館の始まりと展示の種類・手法について、特に常設展と企画展との違いを比較検証し、海外と日本の学芸員のスタイルについて紹介します。
第3回	企画展プロセス①－企画展を考える種の探し方とは？	企画展実施までの工程手順―その1－展示のための素材探し、展示発送の種- ヒントの探し方を考える。
第4回	企画展プロセス②－話題となった企画展を分析してみること	企画展実施までの工程手順―その２－成功した企画展例を基に、自分なりにシミュレーションしてみる。
第5回	スライド（海外博物館の展示状況）	欧米博物館・美術館の展示状況をスライドで解説します。
第6回	展示構想と企画書　企画展を構想する①	展示構想の内容と要点について説明し、企画書に盛り込む内容を整理する。課題として企画書を作成準備する。
第7回	展示設営（展示レイアウト－展示導線と照明計画	展示レイアウト－展示導線と照明計画について説明する。パワポ資料提示。
第8回	レポート課題　企画展を構想する	前回までの展示の進め方を参考に自分が取り組んでみたい企画展を構想し提出してください。
第9回	展示解説パネル、キャプション作成や効果的な演出力について	学芸員が存在する理由の一つは解説者、説明者であり、また作文者であること。ライターとしての学芸員像を提示する。
第10回	展示小道具とサイン計画	常備すべき展示小道具や新たに発注する小道具について考える。またサイン作成も重要。
第11回	展示図録・パンフレット等の作成手順及び情報端末導入について	展示図録・パンフレット等の作成手順。大規模展示では音声ガイド等の様々な情報媒体が導入されている。その取り組み方を考える。
第12回	借用交渉と調書	学芸員の力量は資料を見る目と同時に、借用交渉の態度にも表れる。資料をみて調書を作成する。
第13回	企画展発表Ⅰ①	各回10名程度に分け、パワポ5枚程度を作成し発表する。
第14回	企画展発表Ⅰ②	パワポ5枚程度を作成し発表する。発表終了後、後期の発表課題について事前説明を行う。
第15回	資料目録の作成手順と資料保存修復の仕方について	展示の第一歩は出展目録の作成にある。展示資料の1次候補から2次候補への絞り込みを、エクセルデータ等の目録作成から始め、また、展示を実施する際の資料の修復等について説明する。
第16回	企画展を構想する②	前期発表を肉付けした企画展の構想について説明する。
第17回	企画展発表前事前相談	各人の取り組みについて相談し、課題を克服する。
第18回	企画展発表Ⅱ－①	各回7名程度に分け、パワポ10枚程度を作成し発表する。
第19回	企画展発表Ⅱ－②	パワポ10枚程度を作成し発表する。
第20回	企画展発表Ⅱ－③	パワポ10枚程度を作成し発表する。
第21回	グループ企画展実施① グループ紹介と自己の主張について	5人前後でグループ編成し討議を行う。発表内容の絞り込みを行う。
第22回	グループ企画展実施②　グループ企画展から発表題を絞り込む	相互に企画展を紹介することで、グループ発表案を決定し、内容構成を整理する。
第23回	グループ企画展実施③　展示企画の具体像の作文化	発表企画展の内容、特に出品目録や目玉展示を考える。
第24回	グループ企画展実施④　教育普及と観覧者の希望する展示とは何かを考える	企画展における教育普及のあり方を考え、更に集客方法や展示の仕方と広がりを考える。
第25回	グループ企画展実施⑤　ミュージアムグッズについて	博物館の魅力の一つとしてグッズがある。独自のグッズを考えてみよう。
第26回	グループ企画展実施⑥　最終発表に向けた調整を行う	最終発表案の詰めや発表時間を調整する。パワポ内容やレジュメ原稿を整理する。

第27回	発表　グループ数が多い場合には、発表順を決め2回に分けて実施する場合がある	各グループが15分程度で発表する。パワーポイントを用いて発表する。1年間の成果を問う。
第28回	発表評価と企画展の将来的展望について（まとめ）	発表案について評価すると共に、日本の企画展の将来像や展示評価について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。企画展発表のためにはいろいろな展示会への見学参加を希望します。レポート課題を最低3回程度課しパワポ等で発表を行います。最新の展示状況を俯瞰しながら自分の企画展発表のシーズ（種）を探していきましょう。

【テキスト（教科書）】
特に指定はしませんが、展示論に関する本には目を通してください。テキストは随時授業時に配布します。

【参考書】
特別展図録や展示論関係本を参考図書として推薦します。

【成績評価の方法と基準】
出席7割以上確認の上、成績は課題発表等から評価していく。学生自身のオリジナリテイを評価したいと考えています。積極的な発言者を評価する共に、自由自在な発想力を評価します。後期に行われるグループ発表に欠席した場合には成績を評価しないこともあります。前期の出席や評価についても適宜課題等を通じて確認していきます。

【学生の意見等からの気づき】
机上討議なので、企画展本来の面白さをどれだけ伝えられるか心配ですが、このスタイルの授業はそれなりに学生からも評価されていると考えています。授業時に実物資料を手に取ることが好評です。本物のもつ価値観を体験してください。、後期のグループワークは総じて楽しいとの評価がある一方で、仲間を形成できない学生の姿を時々散見しますので、授業に問題があった場合は遠慮なく声をかけください。

【学生が準備すべき機器他】
グループ討議ではPCを用意していただきます。個人用に加え必要があれば貸し出し用も用意します。情報共有としてPCを活用してほしいですが、最近ではスマートフォンでやり取りするケースも多く実際その使用を認めています。

【その他の重要事項】
特にありません。

【Outline (in English)】
Learn how to organize exhibitions at the museum.In the first half the lesson,you will learn various steps besed on the text.In the second half,we will organize a group and present a special exhibition.　At the same time,learn about the differences between the world and japan in their approach to museum activities.

博物館実習Ⅱ

杉山　享司

単位：2単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
展覧会は博物館学芸員の主たる活動の一つです。この授業では展覧会の企画から展覧会チラシ（フライヤー）の制作までを通して、学芸員の仕事の実際について学び、資料の活用方法や展示に関する技術の習得を目指します。

【到達目標】
この授業では、展覧会の企画から実施までのプロセスを理解し、その上で受講生自らが展覧会を立案して展覧会の企画書にまとめ、最終的にそれを展覧会チラシ（フライヤー）として完成させ、発表するまでを到達目標とします。この授業を履修することによって、展覧会活動に必要となる知識や技術などの習得が可能となることでしょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学習支援システムを通して資料を配布し、それに基づきながら対面形式による実習授業を進めていきます。当該の授業回のねらいや目的を提示しますので、受講生は配布された資料や参考動画を視聴し、学芸員の仕事に関する知識を深めながら各自に与えられた課題（企画書や展覧会チラシ）に取り組んでください。なお、課題報告に際してはデザイン思考に基づく視点を取り入れ、教師や受講生同士による質疑応答を重視しながら授業を進めます。多様な意見を取り入れながら合意形成をはかることで、新たな視点や考え方のヒントが得られることでしょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の授業に関するガイダンス	授業の内容や目的、その進め方について説明し、博物館の使命や意義、学芸員の役割やその仕事について解説する
2	日本における博物館の歩み	展覧会の歴史を紐解きながら、東京国立博物館の概要と収蔵する資料について紹介する
3	国内における私立博物館の活動紹介	日本民藝館の歴史とその概要について紹介する
4	海外における博物館の歴史と活動の紹介	海外における博物館の歴史を紐解きながら、大英博物館の概要について紹介する
5	企画展の開催とその意義について	企画展の歴史やその意義、そして開催方法などについて解説する
6	展覧会実施までのプロセス①	展覧会（企画展）の立案から企画書の作成までの過程を解説する
7	展覧会実施までのプロセス②	出品交渉などの準備から展覧会実施までの過程を解説する
8	展覧会企画書の作成とデザイン思考について	展覧会実施までのプロセスを理解した上で、企画書の作成方法や注意点について解説し、企画書を実際に作成してみる。併せて、展覧会企画とデザイン思考との関連について解説する
9	受講生による1回目の展覧会企画書案の発表	受講生による1回目の「展覧会企画書案」の発表と、デザイン思考に基づく受講生と教師による討議を行い、修正点を見出していく
10	受講生による2回目の展覧会企画書案の発表	受講生による2回目の「展覧会企画書案」の発表と、デザイン思考に基づく受講生と教師による討議を行い、修正点を見出していく
11	受講生による3回目の展覧会企画書案の発表	受講生による3回目の「展覧会企画書案」の発表と、デザイン思考に基づく受講生と教師による討議を行い、修正点を見出していく
12	受講生による1回目の展覧会企画書（確定版）の発表	受講生による1回目の「展覧会企画書」の最終発表と講評を行う
13	受講生による2回目の展覧会企画書（確定版）の発表	受講生による2回目の「展覧会企画書」の最終発表と講評を行う
14	13回目に統合	同上
15	秋学期の授業に関するガイダンス	授業の内容や目的、その進め方について説明し、春学期に行った「展覧会企画書」作成の総括を行う
16	企画書を基にした展覧会チラシ（フライヤー）の作成とデザイン思考について	展覧会チラシ（フライヤー）の作成方法やその際の注意点について解説し、併せてデザイン思考に基づく作業について理解を深める
17	学芸員と資料保存	学芸員が必要とする資料保存に関する基本的な考え方について解説する
18	資料保存の変遷と博物館の役割	日本における資料保存の歴史と文化財IPMについて解説する
19	無形文化の保存に関する博物館の役割について	学芸員が担う無形文化の保存と継承について紹介する
20	受講生による1回目の展覧会のチラシ案の発表	春学期の企画書に基づき作成した展覧会チラシ案の1回目の発表を行い、デザイン思考に基づく受講生と教師による討議を通して修正点を見出していく
21	受講生による2回目の展覧会のチラシ案の発表	春学期の企画書に基づき作成した展覧会チラシ案の2回目の発表を行い、デザイン思考に基づく受講生と教師による討議を通して修正点を見出していく
22	受講生による3回目の展覧会のチラシ案の発表	春学期の企画書に基づき作成した展覧会チラシ案の3回目の発表を行い、デザイン思考に基づく受講生と教師による討議を通して修正点を見出していく
23	展覧会の実見（学外での実習）	学芸員の案内を受けながら、東京都内の博物館施設で開催されている展覧会を見学する
24	受講生による1回目の展覧会チラシ（確定版）の発表	受講生による1回目の「展覧会チラシ」の最終発表と講評を行う
25	受講生による2回目の展覧会チラシ（確定版）の発表	受講生による2回目の「展覧会チラシ」の最終発表と講評を行う
26	受講生による3回目の展覧会チラシ（確定版）の発表	受講生による3回目の「展覧会チラシ」の最終発表と講評を行う
27	授業のまとめと解説	展覧会企画のプロセスや学芸員の役割と仕事について改めて解説し、本授業を通して学んだことを受講生に発表してもらう
28	27回目に統合	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博物館に関する学問は現場から生まれたものです。受講生各位は積極的に多くの展覧会を見学するなど、日頃から意識して様々な博物館施設を利用するよう心掛けて下さい。

【テキスト（教科書）】
教員が作成した授業テキストをプリントして配布します。

【参考書】
必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
春学期の課題「企画書の作成と発表」の評価50％、秋学期の課題「展覧会チラシの制作と発表」の評価50％。なお、授業回数の1/3を超えて欠席した場合には、成績評価の対象とはなりません。

【学生の意見等からの気づき】
受講生同士の積極的な意見交換がなされるよう、各自が毎時間発言する機会を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
当授業は「実務経験のある教員による授業」に該当しており、教員は美術館の学芸員として長年にわたり現場に携わっています。そこで、この授業では出来るだけ現場で得た新しい情報や知識を伝えるとともに、学芸員や博物館の仕事に関する質問についても応えていきたいと思います。

【Outline (in English)】
An exhibition which is one of the basic items of curator's activities.
In this lesson, from the planning of the exhibition to the production of the flyer, we aim to master the technique of utilizing the materials and the exhibition.

博物館実習Ⅲ

森屋　雅幸

単位：2単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマは、博物館の実務実習である。博物館で働く学芸員の実務に触れることで、専門的で多様な技能を身につけることを目的とする。

【到達目標】
博物館に関する基礎知識や基本的技能をベースに、博物館での館務実習を通して、博物館の業務を理解するとともに、学芸員として求められる技能を実践へとつなげることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
受講前年度までに「博物館概論」、「博物館経営論」、「博物館資料論」、「博物館資料保存論」、「博物館展示論」、「博物館情報・メディア論」、「博物館教育論」、「博物館実習Ⅰ」、「博物館実習Ⅱ」の9科目全てを取得した者のみを対象に、2週間（10日間）以上の館務実習を実施する。
実習先としては、(1) 全国の博物館における館園実習コース及び (2) 法政大学博物館展示施設での展示実習コースを選択する。受け入れ先の博物館の都合により、実習日数が10日を満たない場合は、不足分を秋学期に学内での学芸員実務で補う。このほか、実習前後に計5回の事前（実習ガイダンス）・事後（実習発表会）の指導のほか、個別の面接指導・課題指導等を実施する(全員が対象)。
なお、新型コロナ感染拡大の影響に伴い、今後の予定や、変更等が生じた場合は資格課程準備室等からメール等で連絡をする。
最終授業となる実習報告会では、実習のまとめや振り返りだけでなく、学芸員となるための準備や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導	博物館実習Ⅲ（館務実習）の事前指導。概要、受講条件・年間スケジュール、受講及び応募に向けての準備学習を指導。
実習前②	事前指導	受講生の志望に即した実習計画の設定、応募施設の選択等に関する個別面談指導。
実習前③	事前指導	実習計画を踏まえた博物館学芸員実習希望登録書・身上書等の作成・提出。
実習前④	事前指導	「博物館実習Ⅲ」の履修登録手続等の確認、学内学外実習の応募先の決定、実習計画・関連書類の整備。
実習前⑤	事前指導	博物館実習の事前指導。（実務実習の方針、実習にのぞむ心構え・姿勢、事前準備・予習事項）
実習中	館園実習（10日間）	現場の学芸員によるガイダンス等を行う。 学内実習の場合は担当教員によるガイダンスを行う。 ・実習館の見学、説明。 ・展示企画、準備、実施などを行う。 ・資料整理を行う。 ・教育普及活動。 ・実習授業の反省会。
実習後①	事後指導	事後指導ガイダンス。実習を終えての礼状作成、実習成果報告およびプレゼンテーションに関する指導。
実習後②	事後指導	実習成果・考察を明示した報告課題（実習日誌・実習レポート・年度報告書用レジュメ）とプレゼンテーション用電子資料のまとめ・提出。
実習後③	事後指導	受講者全員による実習成果の発表会。 実習授業全体の振り返りと総評。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料を事前に読むこと。
実習する館を事前に下調べする。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する。

【参考書】
随時指示する。

【成績評価の方法と基準】
実習先での評価(50%)
ガイダンスを含めた平常点(20%)
課題提出物（30%）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
*第1回ガイダンス【受講準備】（前年度12月）
*個別指導【施設選択、希望実習館への問い合わせ、提出書類作成、応募】
*第2回ガイダンス【登録、学内・学外実習先の決定】（4月）
*第3回ガイダンス【事前指導】（7月）
*実地実習
*実習先への礼状の送付
*第4回ガイダンス【報告準備】（10月）
*事後指導・実習報告会および情報交換会（12月上旬に市ヶ谷キャンパスで開催予定）形式：各自制作のレジュメおよびパワーポイントによる成果発表。
なお、本講座に関する指示・通知に関しては、各ガイダンスならびに資格課程実習準備室の掲示板等で常に確認するようにしてください。

【学内実習】
学内実習の実務実習は、春学期（6月）及び秋学期（10月～11月）にそれぞれ10日間実地する。学外の各博物館の都合で実習日数が10日に満たない場合、不足分を秋学期の学内実習で補う。

【Outline (in English)】
The theme of this class is practical museum training. The objective of this class is to develop professional and diverse skills through exposure to the practical work of curators working in museums.

ミュージアム資料保存論

今野　農

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館における基本的な機能の１つである「資料保存」について学習する。代表的な資料の劣化要因や環境管理、さらに、歴史的・自然的環境の 保護に対する博物館の役割について、学総的見地から理解を深める。講 義を通じ、資料保存に関する基礎的な能力を身に付け、資料を将来へ継承していくことに対する意識の向上を目指す。

【到達目標】
講義の序盤では、主として材質や劣化要因、取扱いなど、「資料」に関する知識が習得できる。中盤では、温湿度や生物等、資料を取り巻く「環境管理」に関する知識が習得できる。終盤では、博物館外に立地する「地域資 源の保護」に関する知識が習得できる。これら一連の講義を総括して、資料の劣化やその展示・収蔵環境に関し、学芸員としての知識の基盤が形成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
パワーポイントと配布資料による講義を中心とする。その他、サンプルや用具等を講義中に適宜回覧する。また、各回にリアクションペーパーの提出、ないし小テストを課し、記載された重要な事項や質問、小テストの解説については、各回の講義冒頭で取り上げて議論を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博物館における資料保存の意義	学芸員資格課程における資料保存論の位置付けを明確化し、博物館における資料保存の意義について解説する。
第2回	資料の種類・材質と維持管理	主な資料の種類や材質の特性、および維持管理上の留意点について解説する。
第3回	資料の調査	資料の状態調査・現状把握の方法、代表的な分析機器について解説する。
第4回	資料の修復・保存処理	木材、金属等を素材とした資料について、修復や保存処理の方法について解説する。
第5回	資料の梱包・輸送	資料の輸送における保存上の留意点や梱包方法、材料等について解説する。
第6回	日本の伝統的保存法	日本の風土に根差して文化財を伝世してきた、伝統的保存方法について解説する。
第7回	博物館における環境管理・温湿度管理	資料保存における環境管理の概要、および温湿度による劣化とその対策について解説する。
第8回	有害物質管理と照明管理	汚染物質や光による劣化とその対策について解説する。
第9回	有害生物管理	生物被害の種類、日本の代表的な害虫、ＩＰＭ（総合的有害生物管理）について解説する。
第10回	災害と保全対策	災害の種類（火災、地震、水害、盗難等）と対策、復興支援等について解説する。
第11回	地域資源の保存・活用と博物館	地域資源の保存と活用等、地域全体を対象とする博物館の沿革と役割について解説する。
第12回	歴史的環境の保護と博物館	歴史的建造物や史跡等をはじめとする文化財の保護、および博物館の役割について解説する。
第13回	自然環境の保護と博物館	「種の保存」や環境教育等、自然環境の保護における博物館の役割について解説する。
第14回	まとめ・学芸員の役割	授業のまとめとして、資料保存に果たすべき学芸員の役割について解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
分野・専攻を問わず、様々な博物館へ頻繁に足を運ぶ。講義中に関心を持った点、理解が不足していた点は、文献を読むなどして知識を補っておく。小テストの後半は授業の復習的な内容に相当するため、それまでの配付資料を読み返しておく。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
・石﨑武志・編著（2024.10）『博物館資料保存論（第2版）』講談社
・国立文化財機構東京文化財研究所（2011.12）『文化財の保存環境』中央公論美術出版
・京都造形芸術大学（2002.4）『文化財のための保存科学入門』飛鳥企画

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー：60%（内、平常点50%程度、各回コメント、ないし小テスト10%程度）、最終試験：30%。

【学生の意見等からの気づき】
授業の工夫や満足度は例年通り好評であったため、この点は水準の維持を図る。授業時間外の学習活動については、一昨年より導入した事前のレジュメ配布により、多くの学生が講義日前の予習が可能となるように努める。サンプルや機材等の提示も、一定数の好評が得られているので、本年度も継続する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course provides students with basic knowledge of preservation of the museum collections. The aria of this course is preservation of the museum collections, environmental agents of museums, and preservation of historic and natural properties.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings;
　− acquire knowledge of proper handling, storage, exhibit, restoration, and packing and shipping techniques of museum objects.
　− acquire knowledge of controlling environmental agents (e.g., temperature, relative humidity, light, and air pollution) and Integrated Pest Management.
　− acquire knowledge of preservation and conservation of historic monuments and heritages, and protection of the natural environment.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content by reading references.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the followings;
Term-end examination: 30%, Short reports : 10%, in class contribution: 60%.

ミュージアム資料保存論

清水　玲子

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学芸員資格を取得する際に必要な博物館における資料保存の基礎について学習する。資料を展示すると共に資料を保存（保全）する役割を、博物館は担っている。この相反する事柄を可能にする為に、資料に劣化や害を及ぼす要因、資料を展示及び保存する環境を適切に保つ為に土台となる知識を修得する。また、博物館は地域の文化財保護の担い手でもあることから、文化財の保存や活用等についても見ていきたい。

【到達目標】
博物館における資料の展示及び収蔵の環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通して、博物館資料の保存に関する基礎的能力を養う。
到達目標としては、博物館における資料保存及び資料の置かれる環境に関して科学的に分析できる為の基礎学力を身に着けることを目指す。次に、資料劣化の原因を把握し、対策を構築できる応用能力を育む為に、自ら考えることの重要度を理解し実行できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・pptによる資料を提示しながら、実施する。
・講義後に、リアクションペーパーを毎回提出。
・第1回目の講義URLの案内はHoppiiのお知らせ機能から送付。
・ワークショップを実施予定。
・ワークショップの日程により、授業内容は前後することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
講義	はじめに（オリエンテーション）	オンライン講義を履修する上の注意点や評価方法などの説明,博物館資料と学芸員の役割を考える
講義	養生と梱包	資料の貸借等における調書の作成や輸送の手順及び保存上の留意点について。
講義	文化財保護の歴史	近代以降の文化財保護の法制度の変遷について
講義	文化財と博物館	保護から活用へ文化財の位置づけが大きく変化する中で、博物館の役割とは何か。
講義	美術資料の取り扱い①	美術資料の保存において、学芸員に必要な知識と技術について学ぶ
講義	美術資料の取り扱い②	美術資料の保存において、学芸員に必要な知識と技術について学ぶ
ワークショップ	資料保存の意義	資料保存の意義について考える
講義	美術資料の取り扱い③	美術資料の保存において、学芸員に必要な知識と技術について学ぶ
講義	展示室の環境①	資料を保存する環境について（劣化要因として温度と湿度）
講義	展示室の環境②	資料を保存する環境について（劣化要因となる光）
講義	展示室の環境③	資料を保存する環境について（劣化要因となる光）
講義	資料の修復と保全	資料の修復と保全に関する手法と注意事項
講義	まとめ	本講義のまとめ
ワークショップ	期末課題	期末課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・原則、授業後にリアクションペーパーを提出してもらうが、その他については、必要に応じて告知する。
・本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは設定していない。授業はパワーポイント投影しながら進める。必要があれば、資料を配布予定。

【参考書】
『歴史を未来につなぐ：「3・11からの歴史学」の射程』東京大学出版、2019年5月
金山喜昭『博物館と地方再生－市民・自治体・企業・地域との連携－』同成社、2017年3月
奥村弘・村井良介・木村修二『地域歴史遺産と現代社会 (地域づくりの基礎知識 1)』神戸大学出版会、2018年1月
吉田 正人『世界遺産を問い直す』山と渓谷社、2018年8月
*その他、必要に応じて授業内で告知する。

【成績評価の方法と基準】
・講義終了後に、理解の程度を確認する為のリアクションペーパーを提出。
小課題50％　期末課題50％　にて評価する。
＊詳細は、第1回目の講義（オリエンテーション）で説明する。

【学生の意見等からの気づき】
他の出席者との関係性が希薄になるという学生からの意見があったので、ワークショップを取り入れ、お互いに意見交換したり、共に何かを考える時間を設けながら進める予定である。

【学生が準備すべき機器他】
期末課題に関して、スマホを使用する可能性がある。

【Outline (in English)】
Students learn the basics of preservation of museum materials, which is necessary to obtain a curator's license. Museums are responsible for exhibition and preserving materials. In order to fulfill this contradictory role, the basic knowledge for the proper maintenance of deterioration and harmful factors, exhibition and preservation environment is acquired. In addition, since museums are responsible for the protection of local cultural properties, we would like to take a look at the preservation and utilization of cultural properties.

ミュージアム展示論

大山　裕

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人類がこれまで歩んできた歴史や、その営みのなかで育まれた文化を伝える技術としての展示について、その多様な手法と効果、これからの可能性について学びます。

【到達目標】
１．博物館展示とは何かを理解し、他の展示との違いを知る。
２．博物館展示における多様な表現を知り、その特徴を理解する。
３．展示室を構成する展示ケースや展示台などの各種の展示什器や展示手法の特性を理解し、展示の目的や展示資料に適した展示空間をつくれるようになる。
４．展示表現の意義や効果、その可能性ついて考え、博物館の理解者、博物館の未来を支える人材となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学期の途中で変更になる場合には、別途提示します。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
人に伝える技術として広まった展示の歴史を知り、博物館という施設の中で、様々な表現メディアを駆使して、対象に応じて分かりやすく伝える展示方法について学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	展示とは何か１	本講義の概要と、博物館とは何か、博物館における展示について解説し、今日の博物館展示のあり方を学ぶ。
第2回	展示とは何か２	博物館展示の事例を紹介しながら諸類型を理解し、博物館展示はどのようにすべきかについて学ぶ。
第3回	博物館における学び１	生涯学習、学校との連携、地域づくりなど、博物館の社会的役割について学ぶ。
第4回	博物館における学び２	子どもや高齢者、障がい者、外国人など多様な来館者に対応する展示手法、参加型展示について学ぶ。
第5回	展示空間の構成１	展示の構想、計画、設計など、博物館をつくる流れ、展示空間のつくり方を学ぶ。
第6回	展示空間の構成２	展示資料の配置や見せ方、動線計画と視線計画について学ぶ。
第7回	展示の芸術性１	博物館と美術館の比較、解説や鑑賞について展示の表現方法を学ぶ。
第8回	展示の芸術性２	物語性、記憶や共感を伝える展示表現を学ぶ。
第9回	展示の科学性	資料保存の考え方と、文化財の保存と活用について学ぶ。
第10回	特別講義	文化財の保存や活用ついて、ゲスト講師から最新事例などを学ぶ。
第11回	展示の解説と造型１	グラフィックパネルにおけるデザインと効果について学ぶ。
第12回	展示の解説と造型２	模型、パノラマ、ジオラマ等について学ぶ。
第13回	展示照明	照明計画の要点と課題について学ぶ。
第14回	展示評価、博物館展示のまとめ	博物館の評価について学ぶ。最後に博物館展示のまとめを行い、講義で学んだ重要な点を再確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で扱った事項については、実際に博物館等を訪れ、できるだけ自分の目で確かめること。

【テキスト（教科書）】
里見親幸　「博物館展示の理論と実践」同成社

【参考書】
特に無し。

【成績評価の方法と基準】
授業後の感想文５０％、複数回実施する課題レポート５０％によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生からのフィードバック（感想文、質問等）を大切にして授業運営をすすめる。

【学生が準備すべき機器他】
特に無し。

【その他の重要事項】
特に無し。

【Outline (in English)】
Learn about the various methods, effects, and future possibilities of display as a technology to convey the history of humankind and the culture that has been cultivated through that activity.

ミュージアム展示論

松丸　裕之

単位：**2単位**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
空間の情報メディアとしての展示、特に博物館における展示とはどのようなものか、ここでは展示の基本的な概要をはじめ博物館展示の特性、企画・デザイン・制作の進め方について実践例を通じて学ぶ。授業では、博物館の展示の現場に携わる外部の多様な専門家からその実践について話しを聞くことも予定している。また講義の他、実際の展示施設での学びや、展示企画構成を実践するグループワークも予定している。

【到達目標】
①博物館展示の特性について理解を深める
②情報メディアとしての展示を構成するストーリー・演出要素等について理解する
③展示がどのように構成し出来上がっているかを理解する
④小規模の展示を企画・構成することができるようになる
＊尚、事前に博物館概論・博物館資料論等を履修し博物館概要について理解しておくことを推奨します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
予め用意するパワーポイントをもとに講義を進める。
各回終了後にリアクションペーパーを提出するとともに、施設の実地見学を予定している。またグループワークでは受講生を任意にグループ分けし、与えられたテーマをもとにグループで企画構成を行いプレゼンテーションし、最後に講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要説明、進め方、博物館展示論の概要等。
第2回	博物館展示概論-博物館展示とは何か	博物館展示の特性・役割、諸類型等について展示の歴史を通じて学ぶ。
第3回	博物館展示のプロセス	博物館展示を支える人々、展示の構成・プロセス等について実際例をもとに学ぶ。
第4回	様々な博物館展示	国内外の多様なテーマによる博物館展示のあり方について学ぶ。
第5回	博物館展示の技術 Ⅰ 企画する	博物館展示の企画とはどのようなものか、どのように組み立てるのかを実際例をもとに学ぶ。（ゲストスピーカーを予定）
第6回	博物館展示の技術 Ⅱ デザインする	博物館展示のデザイン・設計とはどのようなものか、どのように行いどこにこだわるのか等について実際例をもとに学ぶ。（ゲストスピーカーを予定）
第7回	博物館展示のエレメント Ⅰ実物資料と展示ケース・照明 /グループワーク①	博物館展示における主要な要素である実物資料の取り扱いについて、その展示方法と合わせて学ぶ。
第8回	現地学習	都内の施設を実地見学・学習予定。（レポートを提出すること）＊日曜を予定
第9回	博物館展示のエレメント Ⅱ展示解説・グラフィック /グループワーク②	展示の主要な解説手段であるグラフィック及び様々な解説手段について学ぶ。
第10回	博物館展示のエレメント Ⅲ模型・造形	博物館展示をわかりやすく表現する手段としての模型・造形・レプリカ（複製）等について、その実際例を通じて制作過程と留意点等について学ぶ。（ゲストスピーカーを予定）
第11回	博物館展示のエレメント Ⅳ映像・音響 /グループワーク③	近年急速に発展する博物館展示における映像等のあり方・技術・事例について、その実際例をもとに学ぶ。
第12回	グループワーク④	事前に与えられたテーマをもとにグループ毎にディスカッションし、企画・構成を検討　まとめ作業を行う。
第13回	プレゼンテーション	最終企画案をまとめ、グループごとにプレゼンテーションし、講評する。
第14回	博物館を楽しむ、まとめテスト	博物館展示をめぐる今後の課題・役割についてまとめを行う。まとめテストを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
３館以上のミュージアム（博物館・資料館・科学館等）に行き、展示の構成・ストーリー・演出・空間の特徴について確認・まとめておくこと。
またそれ以外にも積極的に各種施設見学を行うこと。
（当大学はキャンパスメンバーズ会員のため東博等無料で見学が可能）

【テキスト（教科書）】
里見親幸「博物館展示の理論と実践」同成社
＊パワーポイント資料を中心に使用予定

【参考書】
日本展示学会編「展示学事典」2019　丸善出版

【成績評価の方法と基準】
出席 40%、グループワーク・プレゼンテーション 20%、レポート 20%、テスト（講義毎の小テスト及び期末テストを予定、教科書・講義内容から出題）20%

【学生の意見等からの気づき】
受講者からのフィードバックを大切に授業運営を進める。

【その他の重要事項】
・第8回「現地学習」は、日曜に行います。日程等詳細は講義の中で説明します。(各自入館料・交通費が必要)
・尚、担当講師は長年展示会社にて博物館等の施設・展示計画の実務を行ってきており、これらの実践を通して博物館展示を様々な角度から見ていきます。

【Outline (in English)】
In this course, we will learn about the basic outline of exhibitions, as well as the characteristics, planning, design, and production methods of museum exhibitions, through practical examples. In the class, we also plan to hear from a variety of external experts who are involved in museum exhibitions about their practices. In addition to lectures, there will also be learning at actual exhibition facilities and group work to practice exhibition planning composition.

ミュージアム情報・メディア論

柏女　弘道

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館における情報の活かし方を考える

【到達目標】
博物館における情報の意義と活用方法や情報発信の課題について理解し、博物館情報の管理と活用に関する基礎的能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は博物館における情報の整備・提供・活用に関して、多様なテーマから説明します。大規模館の例にとらわれず、市町村規模の博物館におけるメディア活用の現状と課題についても取り上げます。授業は講義形式で行います。
リアクションペーパー等に記載された質問や感想については、次回以降の講義の中で回答をおこなうとともに、その後の講義に活かしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 博物館におけるメディアと情報	授業ガイダンスとともに、博物館におけるメディアや情報とは何かについて概説し、その意義と重要性を学ぶ。
第2回	メディアとしての博物館、ICT社会における博物館	博物館のメディアとしての役割や、ICT化による博物館の情報の管理や公開の変化について学ぶ。
第3回	博物館の発信する情報の伝わり方	広告と広報、マスメディアとの関わりなどについて学ぶ。
第4回	博物館における映像理論・情報機器の活用	博物館における映像の必要性を説明するとともに、映像の活用事例に触れながら、その特徴や課題などを取り上げる。
第5回	インターネットによる情報公開①博物館のデジタルアーカイブの現状	資料管理に用いられる資料データベースの概要と、一般公開されているデータベースについて学ぶ。
第6回	インターネットを使った情報公開② ホームページ、SNS等	インターネットを活用した情報発信について、ホームページなどの例を見ながら学ぶ。
第7回	博物館活動と著作権①	著作権法の概要と博物館活動との関りについて学ぶ。
第8回	博物館活動と著作権②、肖像権	実際の博物館活動の中での著作権や肖像権に関する事例について学ぶ。
第9回	ユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインの考え方を通して、あらゆる人たちが利用しやすい博物館における情報発信について学ぶ。
第10回	様々な情報伝達メディア	電子機器に限定されない博物館で使用される様々な情報伝達メディアについて学ぶ。
第11回	連携とネットワーク	地域や他機関との連携事業やネットワークの構築と、それに伴う情報の共有や発信について学ぶ。
第12回	博物館の情報管理・メディア利用の現状と課題①	博物館総合調査の結果などをとおして、博物館における情報管理やメディア利用の現状と課題について学ぶ。
第13回	博物館の情報管理・メディア利用の現状と課題②	博物館法改正などをとおして、これからの博物館に求められる情報管理やメディアの活用について学ぶ。
第14回	学芸員と情報	博物館の情報を管理・活用する学芸員に求められる姿や、メディアとしての学芸員のあり方について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博物館や美術館を実際に訪れて、博物館における情報の活用状況をイメージできるように心掛ける。また、博物館のホームページや博物館に関する情報サイトなども確認する。授業で取り上げた事例について、文献やインターネット、さらには現地調査で確認するなど、個々に内容を理解するための学習活動を行う。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
稲村哲也・近藤智嗣編著『博物館情報・メディア論』（放送大学教育振興会、2018年）
水嶋英治・田窪直規編著『博物館情報学シリーズ1　ミュージアムの情報資源と目録・カタログ』（樹村房、2017年）
若月憲夫編著『博物館情報学シリーズ4　ミュージアム展示と情報発信』（樹村房、2021年）
日本教育メディア学会編『博物館情報・メディア論』（ぎょうせい、2013年）
日本展示学会編『展示論―博物館の展示をつくる―』（雄山閣、2010年）
甲斐正道著、全国美術館会議編『現場で使える美術著作権ガイド2019』（美術出版社、2019年）
広瀬浩二郎編著『ひとが優しい博物館―ユニバーサル・ミュージアムの新展開―』（青弓社、2016年）

【成績評価の方法と基準】
平常点56％、レポート44％。レポートの課題や文字数については授業内で通知する。

【学生の意見等からの気づき】
なし

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム

【その他の重要事項】
博物館について日ごろから興味関心をもち、各自授業外の学習活動を積極的に行ってください。また、パソコンや情報端末等機器等、情報を発信・受信するためのツールの操作方法については授業では詳しく解説しませんが、各自出来る範囲で扱い方を覚えるようにしてください。

【Outline (in English)】
Think about how to make use of information in museums

ミュージアム情報・メディア論

石川　貴敏

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館における情報の整備・提供・活用に関して、多様なテーマから説明するとともに、各テーマに基づく博物館の現状と課題についても取り上げます。特に、情報通信技術は進展が早いため、できるだけ新しい事例を盛り込むなどの工夫を図るとともに、今後の可能性や展開についても考察します。2023年4月に施行された改正博物館法や、文化審議会博物館部会「博物館ＤＸの推進に関する基本的な考え方」（2023年2月）などを踏まえた授業を行います。新しい取り組みを知り、これからの博物館のあり方を考えるために学びます。

【到達目標】
将来、博物館に関する仕事を志す学生は、博物館における情報の意義と活用方法や情報発信の課題について理解するなど、博物館情報の提供と活用に関する基礎的能力を身に付けることができます。また、文化・教育関連の仕事をはじめ、博物館以外の仕事を志す学生は、博物館の賢い利用者、支援者となるために、博物館における情報の活用方法などを理解することで、ミュージアム・リテラシーを高めることができます。約70年ぶりとなる博物館法の単独改正が実現するなど、2022年以降、博物館制度は大きな転換期を迎えているため、新たな法制度を踏まえた内容を理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行います。授業毎にリアクションペーパーを提出してもらい、できるだけ一方的な講義スタイルにならないよう、時に学生の意見を踏まえながら授業内容の工夫を図っていきたいと考えています。授業では、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博物館における情報の意義	授業ガイダンスとともに、博物館における情報とは何かについて概説し、その意義を伝える。また、情報教育の意義と重要性についても触れる。
第2回	メディアとしての博物館	新たな法制度や指針をもとに、博物館に求められている役割について伝えるとともに、博物館のメディアとしての役割について解説する。
第3回	ＩＣＴ社会における博物館	情報資源の双方向活用とその役割、情報倫理、さらには学校や図書館、研究機関とのネットワークなどを、現在の博物館事情を踏まえながら解説する。
第4回	博物館活動の情報化＜収集保存活動・調査研究活動＞	博物館の収集保存活動や調査研究活動における情報の活用と展開について紹介する。
第5回	博物館活動の情報化＜展示活動＞	博物館の展示活動における情報の活用と展開について紹介する。
第6回	博物館活動の情報化＜教育普及活動・学習活動・管理運営＞	博物館の教育普及活動や学習活動、管理運営における情報の活用と展開について紹介する。
第7回	資料のドキュメンテーションとデータベース化	資料のドキュメンテーションとデータベース化の手順や、博物館における実施状況、活用・展開事例について説明する。
第8回	デジタルアーカイブの現状と課題	現在、各地の博物館で取り組まれているデジタルアーカイブ事業を概説するとともに、今後の可能性と課題について説明する。
第9回	博物館における情報機器の活用	博物館における情報機器の活用（情報端末、新たなメディア経験等）について紹介する。博物館メディアの役割と学習活用の状況についても触れる。
第10回	インターネットの活用	現在の博物館における様々なインターネットの活用状況を説明するとともに、今後の展開についても解説する。
第11回	博物館における映像理論	博物館における映像の必要性を説明するとともに、映像の活用事例に触れながら、その特徴や課題などを取り上げる。
第12回	博物館に関する法と権利	知的財産権（著作権等）や所有権、個人情報（肖像権等）など、博物館情報の構築・発信に伴う権利や法令などについて伝えるとともに、権利処理や、情報の整備・管理・発信（公開）時における課題についても触れる。
第13回	アクセシビリティの高い博物館を目指して	現在の博物館は、あらゆる人々にとってアクセシビリティの高い博物館を目指している。利用者の観点から博物館情報のあり方について語る。
第14回	博物館における情報・メディア戦略（まとめ）	博物館のミッションや中長期計画などに基づいた展開や、博物館に対する社会的要請や今日的課題を通して、今、求められている博物館の情報・メディア事業について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博物館や美術館を実際に訪れて、博物館における情報の活用状況をイメージできるように心掛けてください。また、博物館のホームページや博物館に関する情報サイトなども確認してください。授業ではできるだけ多くの事例を紹介することを心掛けます。授業各回で紹介した事例は、後日、講義資料とは別の資料（講義ＵＲＬメモ）にまとめて学習支援システムに掲載します。講義ＵＲＬメモには、授業で紹介しきれなかった情報も豊富に盛り込みますので、復習は必要です。授業で取り上げた事例について、文献やインターネット、場合によっては現地で確認するなど、個々に内容を理解するための学習活動を行ってください。博物館に関する講義ですので、博物館とはどのような施設であり、どのような活動を行っているのかについて知っていないと内容が理解できないかもしれません。各自、授業時間外の学習活動を積極的に行って、博物館の理解に努めてください。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使いません。必要に応じて資料を用意し、学習支援システムを通じて配布します。

【参考書】
『博物館情報・メディア論〔新訂版〕(放送大学教材)』（鶴見英成・近藤智嗣編著，放送大学教育振興会，2025年3月予定）
『博物館情報・メディア論(放送大学教材)』（稲村哲也・近藤智嗣編著，放送大学教育振興会，2018年）
『博物館情報・メディア論(放送大学教材)』（西岡貞一・篠田謙一編著，放送大学教育振興会，2013年）
『博物館情報・メディア論』（日本教育メディア学会編，ぎょうせい，2013年)
『博物館学III ― 博物館情報・メディア論』（大堀哲・水嶋英治編著，学文社，2012年）
『博物館展示論 第2版 学芸員の現場で役立つ基礎と実践 (KS理工学専門書)』（黒沢浩編著，講談社，2025年3月予定）

『博物館展示論(ＫＳ理工学専門書)』(黒沢浩編著，講談社，2014年)
『展示論－博物館の展示をつくる－』(日本展示学会編，雄山閣，2010年)
『文化とまちづくり叢書 改正博物館法詳説・Ｑ＆Ａ 地域に開かれたミュージアムをめざして』(博物館法令研究会編著，水曜社，2023年)
『博物館法－法律・施行令・施行規則 重要法令シリーズ083』(信山社編集部編，信山社，2023年)

【成績評価の方法と基準】
本科目では「平常点」と「レポート課題」で総合的に評価します。「平常点」は、各回の授業後に、授業内容をもとにリアクションペーパーを提出してもらい、授業での学習状況や参加度を評価します。レポート課題（到達目標に掲げた内容につながる課題を考えます）は期末に提示します。「レポート課題」は、与えられた課題に即した内容のレポートをまとめることができるかを評価します。「平常点40％（40点）」「レポート課題60％（60点）」の配分（合計100点）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
フィードバックの時間や振り返りの時間を設けることで、授業内容への理解が深まるようにします。本授業では、数多くの事例（情報）を紹介しますので、授業後に学生が復習しやすいように、学習支援システムを活用します。本授業に関する事項は、近年、活発に新たな動きを見せています。国からも新たな法制度や施策・指針が示されていることから、できるだけ新しい情報を提供するとともに、そうした今後のあり方に関して、学生と意見を交わしていけたらと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
本授業では、講義資料（パワーポイント等）・参考資料とともに、インターネットを介した個別の事例（取組）を紹介します。インターネットにアクセスできる情報機器（ノートＰＣやスマートフォン等）は準備できると望ましいです。また、各回の内容を復習できるように、講義資料・参考資料や、授業で紹介した事例（取組）のＵＲＬは学習支援システムに掲載します。リアクションペーパーやレポートの提出も学習支援システムを利用して行います。なお、計14回のうち、数回はオンライン（法政大学専用Zoom）を用いた授業を行う予定です。法政大学専用Zoomにつなげるように準備を行ってから、出席してください。

【その他の重要事項】
ミュージアムに関する国内唯一の専門シンクタンクである丹青研究所において、30年以上の実務経験を有しています。そのうち25年以上にわたって、情報部門の責任者を務めています。その間、各種ミュージアムに関する官公庁や民間からの委託事業を担当し、これからのミュージアムのあり方に関する調査研究事業にも従事しています。日々多くの情報を集め発信する立場を生かして、豊富な情報をもとに、これからの方向性を思考する授業を行います。

【Outline (in English)】
I will explain from various themes about the development, provision and utilization of information in museums, and also explain about the current situation and issues of museums based on each theme. In particular, since information and communication technologies are progressing rapidly, I will try to introduce new cases as much as possible, and also consider future possibilities and developments. Learn to understand new initiatives and think about what the museum should be like in the future. Students who aspire to work related to museums in the future will be able to acquire basic abilities regarding the provision and utilization of museum information, such as understanding the significance and utilization of information in museums and the challenges of disseminating information. In addition, students who wish to work outside the museum, including those related to culture and education, can improve museum literacy by understanding how to utilize information in the museum in order to become wise users and supporters of the museum. Please visit museums and art galleries so that you can imagine how information is being used in museums. Also, check the museum's homepage and information sites about the museum. In class, I try to introduce as many examples as possible. The examples introduced in each lesson will be compiled into materials and posted on the learning support system at a later date. The material will include a wealth of information that could not be introduced in class, so a review is necessary. Please carry out learning activities to understand the contents individually, such as checking the literature, the Internet, and in some cases on-site about the cases taken up in the class. Since this is a lecture about museums, you may not understand the contents unless you know what kind of facility the museum is and what kind of activities it is doing. Please try to understand the museum by actively engaging in learning activities outside the class. The standard preparation and review time for this class is 4 hours each. In this subject, a comprehensive evaluation will be made based on "normal points" and "report assignments". For "normal points", after each lesson, you will be asked to submit a Reaction-Paper based on the content of the lesson, and the learning situation and degree of participation in the lesson will be evaluated. Report assignments (think issues that lead to the content set in the goals) will be presented at the end of the term. "Report assignment" evaluates whether it is possible to put together a report with contents that match a given assignment. Evaluation is based on the distribution of "normal score 40%(40 points)" and "report assignment 60%(60 points)" (total 100 points).

法政大学
HOSEI University